

マルハナシガイ

Leucosphaera oyamai (Habe, 1962)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ツキガイ目 ツキガイ上科 ツキガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 現存産地が県内に2箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 原記載は波部 (1962: 124, pl. 56, fig. 14; app. 46, as *Leptaxinus oyamai*)。同書の初版 (波部, 1961a) では「*Leptaxinus rotundata* (Yokoyama [1926c: 386, no. 9, pl. 44, figs 9, 13, as *Thyasira rotundata*])」とされていたが、刊行後にその学名の種は「むしろユキヤナギガイ *Axinopsida subquadrata* (A. Adams [1862a: 227, no. 6, as *Cryptodon* (*Clausina*) *subquadratus*]) に近似の種であることを大山桂博士から注意されたので」、第2版で新種として記載された (Callomon & Petit, 2004: 50 を参照)。また本種は鉸歯が貧弱なことから長く *Thyasiridae* Dall, 1900 ハナシガイ科に属すとされてきたが、近年になって *Lucinidae* Fleming, 1828 ツキガイ科に新設された *Leucosphaera* Taylor & Glover, 2005: 331 に移された。殻長約 8.5 mm, 殻高約 7.5 mm, 亜円形でよく膨らみ、無色半透明で薄く壊れやすい。殻頂はほぼ中央に位置し、前方へ傾く。殻頂のすぐ前方で背縁が明瞭に窪み、小月面を形成する。後背縁はほぼ直線的で、後端はやや截断状。前端～腹縁は円弧状に彎曲する。殻表は弱い成長脈以外は平滑で、鈍い光沢がある。歯板は極めて狭く、主歯は不明瞭で、前背縁の前端附近に小さい瘤状の前側歯をもつ。内面は無色で、閉殻筋痕は前後とも中央が縊れて瓢箪形をなす。套線は彎入しない。腹縁は刻まれず平滑。軟体は未詳。

写真： 岡山市東区犬島西岸沖 水深 15 m 泥底 ドレッジ St. 1, 2014 年 1 月 27 日, OKCAB M28981, 福田撮影。殻長 3.5 mm, 殻高 3.1 mm。



分布 タイプ産地は「熊本県天草郡苓北町富岡沖 (水深 20–30 m)」で、同時に「相模湾—九州—能登七尾湾 (10–50 m, 細砂泥底)」に分布するとされた。のちの Kuroda & Habe (1981: 92, as *Leptaxinus oyamai*) も北限を相模湾としつつも、Yabe & Nomura (1925: 94, pl. 23, fig. 4a–b) が千葉県市原市市東の化石とともに「off the northeastern shore of the islet Kinkwasan, province of Rikuzen, 52 fathoms」(宮城県石巻市金華山北東沖, 52 尋) から報告した「*Thyasira trigonata* Yokoyama [1922: 158–159, no. 251, pl. 9, figs 11–12]」(ミツカドハナシガイ) は本種であるとしており、もしその同定が正しければ本種の最北の記録は宮城県沖ということになる。また根本・秋元 (1990: 14–15, no. 177, as *L. oyamai*) は福島県常磐沖から本種を報告している。日本海側は伊藤勝 (1989: 61, no. 302, pl. 22, fig. 9, as *L. oyamai*) が新潟県中・下越及び佐渡島沖の 5 地点で本種を得ている。国外は韓国 (済州島を含む; 関他, 2004: 419, fig. 1365-1, as *L. oyamai*; Noseworthy *et al.*, 2007: 96, as *Leptinaxis* [sic] *oyamai*) で記録されているが、関他 (2004) が図示した 2 個体のうち、内面を写した fig. 1365-2 は明瞭な 2 個の主歯があることから明らかに本種ではない (同属ですらない)。これ以外には国外の明確な文献記録を見出すに至っていないが、Hylleberg & Kilburn (2003: 174) はベトナムから「*Leptaxinus rotundata* (Yokoyama, 1926)」を記録しており、本種のことかもしれない。

生息状況 内湾・外洋を問わず潮下帯～漸深海底の砂泥底 (水深 5～150 m) に棲み、陸地に近接した湾奥の浅所にも産出するにもかかわらず、なぜか浜辺へ死殻が打ち上げられることは滅多にない。竹林・和田年 (2010: 20, no. 54, as *Leptaxinus oyamai*) は鳥取県岩美町羽尾で本種を打ち上げ採集で得たとしているが、これは数少ない例外である。ドレッジや採泥器などを用いない限り採集が容易でないため、産出報告は他種に比べて格段に少ない。岡山県でも文献記録は一切なく、畠田和一コレクションにも含まれていないが、2002 年に玉野市沖で実施されたドレッジによって波張崎南東沖や大入崎～岡山市東区犬島の間など 4 地点 (水深 10～22 m, 砂底または泥底) で半片死殻 3 個と破片 1 個が得られた (OKCAB M24102, M24220, M24325, M24472)。2013 年には倉敷市水島川崎通 1 丁目地先 (水深 9～9.5 m, わずかに砂を含むシルト底) で採泥器を用いて生貝 1 個体が得られ、これが本県初の確実な生貝の記録である。さらに 2014 年には犬島西岸沖 (水深 15 m, 泥底) 及び久々井沖 (6.9 m, 泥底) でのドレッジで生きた幼貝 2 個体が採集された (M28981; 写真)。以上が現在までの岡山県における本種の確認個体の全てであり、生貝はわずかに 3 産地から 3 個体、死殻・破片も計 4 個しか見出されておらず、稀産と呼んで差し支えない状況にある。倉敷市の現存産地は水島コンビナートのすぐ目の前であり、そのような場所に今なお本種が細々とながらも生き残っているのは注目に値する。

(福田 宏)

イセシラガイ

Pegophysema bialata (Pilsbry, 1895)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯目 ツキガイ目 ツキガイ上科 ツキガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Pilsbry (1895: 133–134, pl. 3, figs 13–14, as *Loripes bialata*) で、Higo *et al.* (2001: 160, fig. B612, as *Anodontia stearnsiana*) 及び Taylor & Glover (2005: 305–306, figs 11A, 12A, 22–23, as *A. (?Pegophysema) bialata*) がタイプ標本の写真を公表している。1930 年代ごろ属の所属が *Lucina Bruguière*, 1797 に変更され (e.g. 横山, 1931: 8, no. 237), その場合 *Lucina Bialata Bellardi*, 1854: 191, no. 36, pl. 2, fig. 7 の新参二次同名になるとして Oyama in Is. Taki & Oyama (1954: 40, 52, pl. 47, figs 1–2) が置換名 *Lucina stearnsiana* を与えた。しかしその後さらに *Anodontia* Link, 1807 へ所属が変更され、その時点で *A. bialata* (Pilsbry) は *L. bialata Bellardi* と同名でなくなるため本来なら Oyama の *L. stearnsiana* は無効名となったはずであった。にもかかわらず最近までもっぱら *A. stearnsiana* が誤って使用されてきた。近年の Taylor & Glover (2005) の再検討によって本種は *Pegophysema Stewart*, 1930 の一員とするのが適切とされ、その際に *L. stearnsiana* が無効であることが明瞭とされた。殻長約 80 mm, 殻高約 75 mm と大きく、亜円形で強く膨らみ、無色不透明で薄く軽い。殻頂は中央に位置し、わずかに前方へ傾く。背縁は前・後ともに直線的で、腹縁は円弧状に彎曲する。殻表は強弱の不揃いな成長脈以外は平滑で、光沢は弱く、淡褐色の殻皮で覆われるがこれは剥離しやすく、周縁だけに残っていることが多い。内面は無色で、鉸歯を一切欠く。靱帯は後位で内在し、比較的幅広い。閉殻筋痕は前が細長く、後は太短い。套線彎入はない。腹縁は平滑で薄く鋭い。木村昭・木村妙 (2013: 45, fig. 196a–b; 163–164, as *A. bialata*) が図示した生体写真によると足は細長くて先端が尖り、底泥から掘り出されると「盛んに動かす」という。写真： 児島郡 [現・岡山市南区郡] 甲浦村北浦, 畠田和一コレクション #1587, 福田撮影。殻長 67.2 mm, 殻高 60.8 mm。



分布 タイプ産地は「Inland Sea」(瀬戸内海)。奥谷・波部 (1975: 115, unnumbered figs; 177, as *Anodontia stearnsiana*) は「北海道以南」に分布するとしているが、北海道での具体的な記録がいつどこでなされたか定かでない。青森県陸奥湾では G. Yamamoto & Habe (1959: 90, no. 54, pl. 14, fig. 1, as *A. stearnsiana*) が湾内の広い範囲で「Very common」(ごく普通) と報告している。日本海側の最北の記録は山形県酒田・鼠ヶ関 (鈴木庄, 1979: 223, no. 397, pl. 13, fig. 188, as *A. stearnsiana*)。本州・四国・九州に分布し、国外は朝鮮半島 (関他, 2004: 419, fig. 1360-1–2, as *A. stearnsiana*)、中国山東省 (Qi, 2004: 256, pl. 142, fig. D; 张, 2008: 307, text-figs; both as *A. stearnsiana*)、フィリピン (Poppe & Tagaro, 2011: 136, pl. 1063, figs 4–5, as *A. stearnsiana*)、インド (アングマン海に面したボンベイ) (Taylor & Glover, 2005; Huber, 2015: 102, text-figs; 455–456) まで記録がある。

生息状況 内湾の潮間帯下部から潮下帯にかけて、砂泥底に深く埋もれて棲息するため、生貝 (特に大形の成熟個体) を目にする機会は少ない。それでも往時は死殻が各地で頻りに打ち上げられたり浚渫砂泥中に見られたりして、決して稀な種ではなかった。1970 年代以降全国的に死殻すらも見られなくなり、その時期に一気に激減したと考えられる。瀬戸内海は特に減少傾向が強く、近年生貝が見られる場所は広島県の一部 (濱村, 2004: 140, text-figs, as *A. stearnsiana*) が「現在も 3 cm 位までの双殻の死殻や 5 mm 位の生貝が確認できる」と述べた仁方町のほか、竹原市皆実町賀茂川河口干潟 (筆者採集, OKCAB M11188) などごく限られており、香川県でも瀬尾・Tanangonan (2014: 108, no. 48, pl. 3, fig. 15, as *A. stearnsiana*) は「新鮮な合弁死殻は採集されるが、生貝は確認できなかった」と述べている。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に登載され、また畠田和一コレクションに「児島湾 [玉野市] 八濱町地先 干拓地メ切内側泥揚場採集 1952.6.3.」(合弁 1 個体, #6847), 「児島郡 [現・岡山市南区郡] 甲浦村北浦」(合弁 1 個体, #1587; 写真), 「浅口市 寄島」(「1956.12.2.」, 半片 1 個, #1698), 「黒崎村 [現・倉敷市玉島黒崎] 沙美」(「昭 10 [= 1935].2.3.」, 半片 1 個と破片 1 個, #6002) の 4 ロットが現存し、特に甲浦村北浦の標本は殻皮も部分的に残されている。これらの産地のうち八濱は 1959 年に閉め切られた堤防の内側に位置し、現在は完全に淡水化している。また甲浦村は閉め切りの外側ではあるが干潟は全く見られず、本種が棲息可能な環境とはもはや思われぬ。畠田和一の歿後、岡山県で本種の生貝が確認されたとの信頼に足る情報はない。ただし死殻や破片は近年もごくわずかながら瀬戸内市牛窓町鹿忍の矢寄ヶ浜 (砂浜打ち上げ, M8657), 岡山市南区米崎沖 (水深 5.2 m, ドレッジ, 泥底, M24555), 玉野市沼の出崎海水浴場と同市番田 (ともに砂浜打ち上げ, M22072, M23558) などで得られており、特に矢寄ヶ浜の標本中には左右の殻が靱帯で繋がったまま殻頂部周辺だけ残された個体が 2 つ含まれ、これらはおそらくカラッパ類 (キンセンガニ等) に捕食されたものと推測され、今なおその附近に本種が棲息していることを示唆する。しかしもし個体群が現存するとしても、ごく狭い範囲に限られることは確実で、依然として危機的状況にある。

(福田 宏)

チビツクエガイ

Cucurbitula cymbium (Spengler, 1783)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ツクエガイ上科 ツクエガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Spengler (1783: 182, pl. "pag. 147", figs 12–17, as *Gastrochaena cymbium*) で、Knudsen & Hylleberg (2001: 545, fig. 3) が全文を英訳している。新参異名が 5 つある：*Fistulana lagenula* Lamarck in Bruguière, 1792: 144, pl. 167, fig. 23 (大半の文献が記載年を 1801 か 1818 としているが、1792 年の版に既に現れている); *G. pupina* Deshayes, 1855: 326, no. 39; *Chaena lagenula* Gould, 1861:



22; *G. aequabilis* Sluiter, 1890: 46–60, pl. 1, figs 1–9; *G. deshayesi* Sturany, 1901: 273–274, pl. 5, figs 1–7。殻長約 8 mm, 殻高約 3 mm, 前後に細長い矩形で薄く、やや膨らむ。殻頂は前端に偏り、後方へ向けて背側に鈍い角を走らせる。背縁はほぼ直線的で、腹縁は強く彎曲し、両殻間が大きく開く。殻表は白色で、彫刻は弱い成長脈のみ。靱帯は後位で外在、絞歯はない。内面の閉殻筋痕は前が小さく、後は比較的大きい。套線彎入は鋭角で深い。生貝は独特の短い棲管 (igloo) を形成してその中に棲む。棲管は長さ約 20 mm, 直径約 10 mm の石灰質で、ロールパン状に節を重ね、前方が幅広く後方が狭い。生貝は死珊瑚など石灰岩、他の貝類・フジツボ類・カシパン類などの死殻に穿孔した上で棲管を形成し、後方が管状に伸びて基質の外へ突き出し、その断面は中央が縊れて瓢箪形をなす (Carter, 1978: 63–66, figs 58–60, as *G. (C.) cymbium*; 濱村, 2004: 175, 210, text-figs; Van Gemert, 2007: 41–45, figs 1–5 などに詳述)。軟体は Valentich-Scott & Tongkerd (2008: 207, fig. 12A–G) に図示され、水管は殻と同等かそれ以上の長さを持ち、先端でわずかに分岐して、白地に赤褐色の斑点を散らす。写真： 備前児島湾, 1935 年 1 月 10 日, 畠田和一コレクション #4335, 福田撮影。殻長 8.8 mm, 殻高 3.5 mm。

分布 タイプ産地は「Tranquebar」 (= Tharangambadi; インド南東。原記載は産出状況を詳述しており、黒田他, 1971: 711 (和文), 468 (英文), pl. 102, fig. 19 が「記述なく不詳」としたのは誤読)。異名の *Fistulana lagenula* は産地表記なし、*Gastrochaena pupina* は「Moreton Bay」(豪州クイーンズランド州のモートン湾)、*Chaena lagenula* は「Hong Kong harbor, 10 fathoms, shelly sand」(香港港 10 尋, 貝殻混じり砂底)、*G. aequabilis* は「Krakatau」(インドネシアのクラカタウ島)、*G. deshayesi* は「Localität 37 (Ras Turfa)」(紅海南東岸, サウジアラビアのジーザン近郊) からそれぞれ記載された。国内では矢倉 (1932: 18, no. 227, as *Rocellaria tenera*) による兵庫県「攝津 淡路」が最初期の記録 (そこで和名新称) で、太平洋側は房総半島以南 (波部, 1977a: 287, pl. 60, figs 1–3, as *G. (Cucurbitula) cymbium*), 日本海側は鳥取県岩美町以南 (竹林・和田年, 2010: 22, no. 121, as *G. (Cucurbitulas [sic]) cymbium*) に知られる。国外は韓国 (濟州島にも; 関他, 2004: 477, fig. 1570–1–2, as *G. (C.) cymbium*; Noseworthy *et al.*, 2007: 99, as *Gastrochaenad [sic] (Cucurbitula [sic]) cymbium*), 中国の山東・広東・海南各省・広西壮族自治区・香港 (Valentich-Scott, 2003: 297, as *G. cymbium*; Xu, 2004: 320, pl. 174, as *G. cymbium*; 楊他, 2013: 238, 239, fig. 909, as *G. ovata* Sowerby), ベトナム (Hylleberg & Kilburn, 2003: 223, as *G. cymbium*), タイ (Lyngé, 1909: 281–282, as *G. cymbium*; Swennen *et al.*, 2001: 98, text-figs a–b; fig. 217), マレーシア (Van Gemert, 2007; Valentich-Scott & Tongkerd, 2008), シンガポール (Tan & Chou, 2000: 158, text-figs), フィリピン (Carter, 1978; Poppe, 2017: 316, pl. 1458, figs 6–7), 豪州ニューサウスウェールズ州~クイーンズランド州 (Lamprell & Healy, 1998: 196–198, fig. 576a–b), スリランカ (Lyngé, 1909), アラビア湾・オマーン湾 (Bosch *et al.*, 1995: 278, fig. 1259), 紅海 (Lamy, 1923: 394, as *G. cymbium*; Oliver, 1992: 198, fig. 1a–b; 200, pl. 45, fig. 6) など、インド-西太平洋の広範囲で多数の記録がある。しかもスエズ運河が人工的に造られて以降、地中海東端のイスラエル~トルコ沿岸に侵入し、定着したことが広く知られている (e.g. Freneix & Roman, 1979: 295–296, fig. 4A–F; 302, no. 3, pl. 3, fig. 2a–b; Albano, 2003: 135, figs 2, 7–8, 16; Delongueville & Scaillet, 2005: figs 1–3, 7–9, as *G. cymbium*)。

生息状況 内湾・外洋を問わず潮下帯砂底に産す。分布域の宏大さや地中海への進出から考えると分散能力が高いとみられる。棲管の形態の特異さが古今東西の貝人の興味を惹き続け、文献上での言及例は際立って多いが、かといって普通種と呼べるほど頻繁に見られるわけではない。近年の瀬戸内海では広島・香川・愛媛各県で産出が報告されている (濱村, 2004; 石川裕, 2012: 304, no. 558, as *Gastrochaena cymbium*; 瀬尾・Tanangonan, 2014: 113, no. 114, as *G. (Cucurbitula) cymbium [sic]*)。その一方で岡山県では文献記録はなく、畠田和一コレクションに含まれる「備前児島湾」(「昭和 10 [= 1935].1.10 採集 (黒田 [徳米] 氏同定 1951.1.31.)」, 合弁 1 個体, #4335; 写真) が唯一の産出の証拠である。この標本には棲管はないが乾燥した軟体が残っており、採集時に生貝であったことは明らかである。しかしその後は県内で死殻や棲管も一切見出されていない。畠田標本の産地である児島湾は戦後の閉め切り後に環境が激変したため、当時本種が見られた場所はもはや失われた。ただ、近隣他県 (特に対岸の香川県) で最近も生貝が確認されていることと、潜在的な分散能力の高さを考えると岡山県に新たに侵入して個体群が形成されたとしても不思議はない。香川県との県境附近の潮下帯に生存している可能性は残るので、今回は絶滅とはせずにおくが、少なくとも今のところは岡山県での本種の棲息に関する情報は皆無である。

(福田 宏)

コヅツガイ

Eufistulana grandis (Deshayes, 1855)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ツクエガイ上科 ツクエガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Deshayes (1855: 330, no. 58, as *Chaena grandis*) で、タイプ標本と目される Cuming 標本は Sowerby II (1876b: sp. 3, pl. 1, fig. 3a-c, as *Fistulana grandis*) に図示された。 *Chaena tessellata* Gray, 1858: 247–248, Mollusca pl. 39, fig. 5 及び *Vermetus ebaranus* Yokoyama, 1927a: 414, pl. 46, figs 15–17 (Is. Taki & Oyama, 1954: 9, pl. 43, figs 15–17, as “*V.*” *ebaranus* と Oyama, 1973: 117, pl. 20, figs 17–19 にも転載) は新参異名。一方、Dunker (1882: 171–172, pl. 14, figs 10–11), Y. Hirase (1907e: 19, no. 723), 岩川 (1916: app. 22–21, no. 666; 1919: 314) が記録した「*Gastrochaena grandis* Desh.」は本種でなく *G. cuneiformis* Spengler, 1783 ツクエガイである。殻長約 40 mm, 殻高約 10 mm, 前後に細長い矩形で薄い。殻頂は前方に寄って稜角をなし、その前方に放射条を数本走らせる。前端から腹縁にかけて大きく開き、腹縁前方は彎曲する。殻表は白色で、彫刻は弱い成長脈のみ。靱帯は後位で外在、鉸歯はない。内面の閉殻筋痕は小さく、套線彎入は鋭角で深い。生貝は著しく細長い棍棒状の棲管を形成してその中に棲む。棲管は長さ 100 mm, 直径 20 mm を超え、石灰質で表面に多数の砂粒や礫を付着させ、後方へ向けて狭まるため全体観ではフラスコ形を呈し、前端は丸く閉じ、中ほどの内部は隔壁を生じて楕円形に狭められ、後端は開口する。生時は垂直に底質へ埋れ、後端を真上に向けて水管の先端を覗かせる。軟体の解剖学的特徴は Fischer (1866: 321–335, pl. 12, figs 1–8; pl. 13, figs 1–5, as *Fistulana grandis*) に詳述され、水管が著しく長く棲管のほぼ半分の長さを占め、水管の基部には牽引筋が発達する。足は著しく退化的で前方に痕跡状に残るのみ。

写真： 備中〔浅口市〕寄島，1956年1月23日，畠田和一コレクション #4336，福田撮影。管長 24.2 mm，管径 9.1 mm。



分布 タイプ産地は「Philippines, Zebu」(フィリピンのセブ島)で、異名である *Chaena tessellata* も「Philippines」から記載された。*Vermetus ebaranus* は「Shinagawa」(東京都港区品川，後期更新世東京層)の化石で、記載者横山又次郎は棲管を Vermetidae ムカデガイ科(ヘビガイ類)の殻と見誤ってしまった。日本初の本種の詳細な報告は Iw. Taki (1943: 115–117, 118, figs 3–6, 8–14, as *Gastrochaena grandis*) が「Onomiti Channel」(広島県尾道水道)産個体について行い、同時に和歌山県田辺湾と沖縄島羽地内海にも産すると述べた。黒田他 (1971: 710 (和文), 467–468 (英文), pl. 102, figs 16–18) は北限を房総・能登半島とし、石川県珠洲市では化石の産出が知られている (Matsuura, 1977: 158, no. 447, pl. 10, figs 3–4)。国外は中国広東省～広西壮族自治区 (Xu, 2004: 319–320, pl. 174, fig. B; 杨他, 2013: 238, 239, fig. 907), 台湾 (Kuroda, 1941: 172, no. 1442-a, as *G. mumia*, 棲管の化石), ニューカレドニア (Fischer, 1866) から知られ、タイプ産地のフィリピンでは近年もレイテ島産個体が図示されている (Poppe, 2011: 178, pl. 1084, fig. 1)。

生息状況 波穏やかながらも海水の交換が適度にあつて、水質・底質ともに富栄養化・還元化せず清浄に保たれた内湾湾口や島嶼間の海峡周辺の潮下帯(水深約 60 m まで)砂泥底に棲息するが、現在の日本では沖縄島羽地内海などごく一部の場所を除き生貝は確認されていない(木村昭・久保, 2012: 153, text-figs a–f)。棲管とその破片は各地の浚渫砂泥中などに時折見かけるものの、多くは中に殻も残されておらず、有史以前の化石が多くを占めている可能性もある。瀬戸内海でも、Iw. Taki (1943) の発端の報告からして浚渫砂泥からの採集品に基づいていたため「All specimens, of course, are dead」(もちろん全個体が死殻)とあり、生貝を確認したとは文中のどこにも書かれていない。その後も生貝の報告は一切なされなかったため、稲葉 (1982: 66–67, no. 314) の時点で既に「extinct?」(絶滅か?)と疑われていた。近年の広島県芸南地方でも棲管の破片が得られているのみである(濱村, 2004: 216, text-figs)。最近では唯一、uni2 (2019) のブログが「2017.11」と「2018.1」に採集された兵庫県淡路島産の生貝の画像を公開しており、同島近海には個体群がまだ維持されているとみられるが、これはむしろ例外的で、全国的にみるとはや本種は絶滅寸前と考えられる。岡山県では畠田和一コレクションに「備中〔浅口市〕寄島」(1956.1.23. 黒田〔徳米〕氏同定)、棲管 1 個、#4336; 写真) が現存するのみで、この棲管も途中で破損して前半部分だけが残し、殻はない。つまり本県では畠田和一の存命中ですら生貝や新鮮な死殻が見出されなかったわけで、今世紀に入ってから棲管の破片も得られないまま現在に至る。本種はその棲息環境の条件から類推して恐らく水質汚濁に弱く、瀬戸内海では早い時期に衰退に向かったものと考えられる。現在の岡山県に個体群が残っている可能性は考えにくい。

(福田 宏)

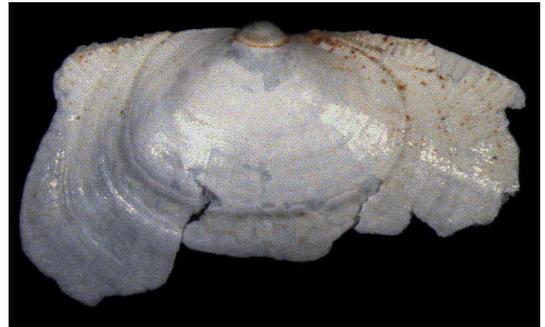
オウギウロコガイ

Galeommella utinomii Habe, 1958

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ウロコガイ上科 ウロコガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は波部 (1958e: 174-175, 178-179, no. 3, fig. 3) で、ホロタイプまたはパラタイプとみられる標本の写真を Higo *et al.* (2001: 161, fig. B659) が公表している。波部 (1961a: 126, pl. 57, fig. 11) は種小名を「*utinomii*」, Higo *et al.* (1999: 460, no. B659) は属名を「*Galeommella*」としているがそれらは誤綴。殻長約 7 mm, 殻高約 4.5 mm, 横長で前後がほぼ対称な楕円形, 極めて薄く, 無色半透明で鈍い光沢がある。殻頂はほぼ中央に位置する。殻頂から腹縁にかけての殻表に太い放射肋が 20~25 本前後走り, 前・後の背縁それぞれに鋸歯状に毛羽立つ細肋が約 15 本ずつある。腹縁は閉じる。鉸歯は弱く, 右殻の原殻の直下に瘤状の主歯を 1 個もち, 左殻では不明瞭。内靱帯は後位, 短い。軟体は無色半透明の外殻膜が伸長して殻全体を覆い, その前端と後端にそれぞれ 3~8 本ほど長い触手を生じるとともに, その中間の部位に多数の小さな乳頭状突起を散在し, それらの触手や突起全ての先端が鮮やかな朱色~橙色に染まる。外殻膜の腹側の辺縁も淡い橙色に縁取られ, その間から長い無色の足を出し, 活潑に動かして腹足類のごとく匍匐する。



写真：玉野市波張崎~岡山市東区犬島間 水深 14.3 m 砂底 ドレッジ St. 2, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24259, 福田撮影。殻長 3.0 mm, 殻高 1.5 mm。

分布 タイプ産地は「熊本県天草郡苓北町富岡」で, 同時に和歌山県田辺湾も産地として挙げられた。その後波部 (1961a) は分布域を「相模湾-九州西岸」としたが, 同書ののちの改版 (少なくとも 1979 年の第 16 冊以前) において「七尾湾」が加筆された。現在は東京湾, 小網代湾, 駿河湾, 浜名湖, 三河湾, 英虞湾, 田辺湾, 大阪湾, 淡路島由良湾, 広島県向島, 秋穂湾, 愛媛県伯方島, 熊本県天草など, 本州中部~九州の各内湾から産出が知られている (稲葉, 1982: 48, no. 136; 福田, 2001a: 34, 36, fig. 11; 三長孝・三長秀, 2006: 6-7, pl. 2, fig. 12; 2012: 24, pl. 2, fig. 4; 木村昭他, 2007: 24-26, figs 1-5; 多々良・福田, 2009: 12-16, figs 1A-B, 3A-D; 木村昭・福田, 2012: 159, text-figs; 川淵, 2012: [25], fig. Q-5; 岸他, 2013: 74, 76, 81, unnumbered fig.; 早瀬他, 2015: 117, fig. 6-5a-c; 2016a: 37, pl. 4, fig. 11; 大古場・柏尾, 2015: 154-156, fig. 1A-B)。国外からは知られておらず, 日本固有種の可能性が高い。

生息状況 内湾の干潟中・下部~潮下帯の砂泥底において, 深く埋もれた転石の下面から生貝が見出される。多くの場合還元環境に見られるがそうでない場合 (大古場・柏尾, 2015) も知られている。またアマモ場の周辺で確認された例が複数あるが, 必ずしも藻場が必須というわけではない。原記載以降 40 年以上生貝の確かな記録がなされず棲息状況は不明であったが, 福田 (2001a) が初めて生体写真を公表して以後, 各地から生貝発見の報告が相次いでいる。それ以前は棲息が可能となるための環境条件が把握できずに単に見過ごされていたとみられ, 著しく稀少な種とまでは言えない。特に注目すべきは大古場・柏尾 (2015) や柏尾他 (2016: 6, 9) による大阪府岸和田市阪南 2 区埋立地での産出例で, そこは「2004 年 2 月に完成した」人工干潟であるにもかかわらず, 2013 年 5 月に本種の生貝が確認されたという。この例は環境条件さえ整えばたとえ人工的に造成された環境であっても, 外部からの新規加入によって比較的短期間で個体群が形成されることを示しており, 本種の保全に大きな示唆を与えてくれる。一方で岡山県ではこれまで文献記録はなく, 畠田和一コレクションにも含まれていない。県内唯一の記録は 2002 年に玉野市波張崎~岡山市東区犬島の間 (水深 14.3 m, 砂底) で行われたドレッジによって得られた, 微小な幼貝の死殻半片 1 個 (OKCAB M24259; 写真) である。現時点では生貝はおろか成熟個体の死殻も得られていないため, 本県内に個体群が現存するとはいまだ確言できない。ただし児島湾湾口部周辺では, 現在もミヤコドリやニッポンマメアゲマキなど本種と随伴することの多い, 還元環境に特異的な貝類群集がわずかながら見られるため, これ以上環境条件が悪化しなければ将来的に本種の生貝が県内で見出される可能性は否定できない。

(福田 宏)

マツイガイ

Callomysia matsuii Habe, 1951

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 ウロコガイ上科 チリハギ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は波部 (1951d: 137, 139, figs 313–314) で、その図は稲葉 (1982: 47, no. 133, pl. 2, fig. 7) に転載され、また Higo *et al.* (2001: 164, fig. B726) がホロタイプの写真を公表している。*Callomysia* Habe, 1951 のタイプ種 (原指定)。Chavan (1969: N529, fig. E31(5)) はこの属を *Barrimysia* Iredale, 1929 の亜属としたが、Huber (2015: 536) が述べている通りその扱いを支持した後発の著者は存在しない。殻長約 8 mm, 殻高約 4.5 mm, 前後に長い卵楕円形でやや厚く、弱く膨らむ。殻頂は前方に偏り、わずかに隆起する。殻表は白色不透明で光沢はほとんどなく、成長輪肋に加えて、周縁部で分岐する強い放射肋を生じ、これは特に前後の背縁で顕著となる。内面は殻表の放射肋に対応して明瞭に刻まれる。閉殻筋痕は前後とも楕円形で、套線は彎入しない。絞歯は前後の側歯が明らか。生時の写真が uni2 (2017) のブログで公表されており、それによれば軟体は無色半透明であるのに対し、足の一部がタナバヤドリガイに似て不透明白色を呈し、匍匐の際に吸盤として用いるのかもしれない。

写真：玉野市波張崎～岡山市東区犬島間 水深 14.3 m 砂底 ドレッジ St. 2, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24256, 福田撮影。殻長 6.0 mm, 殻高 3.2 mm。



分布 タイプ産地は「本州英虞灣」で、同時に「田邊灣」の産地も挙げられた。のちの波部 (1977a: 148, pl. 27, figs 6–7) は分布域を「志摩～九州西岸」としている。しかし文献記録は驚くほど少なく、目につく限り列挙しても和歌山県 (Kuroda & Habe, 1981: 102), 瀬戸内海大阪湾・備後灘～燧灘・伊予灘 (大分県国東半島) (稲葉, 1982), 大阪府泉佐野市 (池辺・吉田, 2006: 120, no. 4098), 兵庫県淡路島 (上記の uni2, 2017 による生貝), 岡山県玉野市沖 (福田, 2010a: 374, 岡山県レッドデータブック前版), 岡山 10 m (北川, 2017: pl. 271, fig. 17, no. B726), 広島県三原市 (海砂) (濱村, 2004: 144, text-figs), 山口県柳井湾 (加藤真・福田, 1996: 67; 久保他, 2017: 1229, pl. 524, fig. 17) の図示個体もこの産地のもの: OKCAB M23433), 油谷湾 (杉村・阿部, 2004: 101, fig. 7-13), 大分県大分市 7 号埋立 (濱田保, 2008: 76, no. 1877, pl. 76, fig. B726) などわずかしかない。南西諸島以南や朝鮮半島～中国大陸沿岸からは情報が一切ないが、唯一の例外的な報告は、タイ湾 (Gulf of Thailand) 最奥部ペッチャブリ (Petchaburi) 県の沖 (水深約 2 m) から採集された死殻半片 1 個を本種に同定している Robba *et al.* (2002: 83–84, pl. 9, fig. 4a–b, as *Callomysia matsuii* [sic]) である。しかしこの個体は日本産の本種より前後に短くて輪廓が台形に近く、周縁を刻む放射肋の発達も限定的で、また前後側歯間の彎入がより強いことなどから Huber (2015) は未記載種と見なしている。同時に Huber は本種が日本以外から全く報告例がないことを強調しつつ、日本固有種であろうと結論づけた。

生息状況 大規模な内湾の奥部において潮下帯 (水深約 5–20 m) の砂泥底・泥底に死殻が見られるものの、なぜか浜辺へ打ち上げられることはほぼなく、ドレッジや採泥器などの道具を用いない限り目にするすら困難な種である。しかも従来採集されていたのはもっぱら死殻で、上記の uni2 (2017) 以前は生貝の産出例は知られていなかった。このため棲息状況の詳細はいまだにほとんどわかっていない。岡山県では畠田和一コレクションにも含まれておらず、2002 年に行われたドレッジ調査で初めて確認された。その時は岡山市南区米崎沖 (水深 5.2 m, 泥底, 1 個体, M24576), 玉野市波張崎南東沖 (22 m, 泥底, 3 個体と破片 2 個, M24128), 波張崎～岡山市東区犬島間 (14.3 m, 砂底, 19 個体と破片 1 個, M24256; 写真), 玉野市大入崎～犬島間 (10 m, 砂底, 3 個体と破片 3 個, M24352), 大入崎東沖 (17.4 m, 砂底, 破片 1 個, M24442) の 5 箇所から採集されたが、その全てが半片でしかも古く、生貝や新鮮な合弁死殻は得られなかった。2014 年には瀬戸内市牛窓町の黄島南西沖 (13 m, 砂礫底) でのドレッジで内面に光沢の残った死殻 1 個体が採れている (M28982) が、これもやはり半片である。このため今の岡山県内に健在な個体群が存在するかどうかは定かでない。生貝が容易に採集されない特別な理由があるのかもしれないが (例えばイソマイマイの項で述べた、他の動物の巣孔の奥で暮らしているなどの特殊な生態を示す可能性はある), いずれにしても内湾奥の浅海は多くの場合都市部の大きな港湾に近接しており、護岸や埋め立てなどで海岸線が盛んに改変される上に汚水流入の影響も直接被る場所であるため、それらの環境に見られる種群 (e.g. イリエツボ, カネコスズカゴ, キヌツヤイソコハク, ヌノメツボ, シグマクダタマ, マメクチベニなど) はことごとく絶滅の危機に瀕していると考えられ、本種もその典型例であろう。

(福田 宏)

タナベヤドリガイ

Nipponomysella subelliptica (Yokoyama, 1927)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 ウロコガイ上科 チリハギ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Yokoyama (1927a: 431, no. 65, pl. 48, figs 9–10, as *Kellia subelliptica*) で、その図は Oyama (1973: 98, pl. 41, figs 3a–b, 4a–b, as *Montacutona subelliptica*) に再録された。*Nipponomysella tanabensis* Habe, 1960b: 284–285, no. 6, figs 10–11 は形態的に区別できず同種と考えられるため、今ここで新異名とする。別名コバンコハクノツユ。殻長約 4 mm, 殻高約 2.5 mm, 横長の卵楕円形で薄く、やや膨らむ。殻頂は後方に寄って明瞭に突出する。前端から腹縁にかけて緩やかに彎曲し、後端は截断状となる。腹縁は閉じる。殻表は白色で弱い光沢をもち、彫刻は微細な成長脈のみ。鉸歯は小さく、前側歯と後側歯が八の字形をなし、左殻では明瞭であるが右殻では弱い。軟体は無色半透明で、足の先端は末広がり の筒形で、そこで吸盤のごとく用いて匍匐する。

写真： 幼貝，玉野市波張崎～岡山市東区犬島間 水深 14.3 m 砂底 ドレッジ St. 2, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24263, 福田撮影。殻長 3.1 mm, 殻高 2.5 mm。



分布 タイプ産地は「Dôkwanyama」(東京都台東区谷中道灌山, 後期更新世東京層化石)。今回新参異名とみなした *Nipponomysella tanabensis* は「Tanabe Bay, Wakayama Pref.」(和歌山県田辺湾)から記載され、その時同時に「Tomioka, Amakusa」(熊本県天草郡苓北町富岡), 「Ushimado, Okayama Pref.」(岡山県瀬戸内市牛窓町), 「Oura, near Asamushi, Aomori Pref.」(青森県青森市浅虫附近, 「Oura」は詳細不明)も産地として挙げられた。その後波部 (1977a: 147, as *N. tanabensis*) は「男鹿半島」を追加し、また稲葉 (1982: 47, no. 132, pl. 2, fig. 6, as *N. tanabensis*) は大分県の「Kunisaki Pen. 国東半島」からの産出を報告した。さらに福田 (2012: 161, text-figs, as *N. tanabensis*) は「山口県上関町祝島, 愛媛県松山市高浜町」を産地として挙げ、それら 2 産地はいずれも生貝の記録である。国内ではそれら以外に明確な文献記録がない。国外では Robba *et al.* (2007: 14–15, fig. 7c–d, as *N. tanabensis*) がタイ西部の Phanang Bay から死殻を得たと報じている。

生息状況 生貝の記録がごくわずかしかない稀少種である。Habe (1960b) の *Nipponomysella tanabensis* の原記載では棲息環境に関して何も言及されず、その後も「水深 10–20 m」(波部, 1977a) などと具体性に乏しい表現だけが公表されてきたが、福田 (2012) は本種が「潮流が早く潮通しの良い海峡部に近接した小規模な内湾の礫混じりの砂泥干潟において、転石下の砂泥中に形成された多毛類の棲管の中や、それらの棲管に接した転石下面に生貝が見出される」ことを明記した。これは山口県上関町祝島の港内に形成された干潟での観察 (福田, 2001b: 21, text-fig., as *Nipponomysella* sp. マルヘノジガイ属の一種) に基づいている。また同時に「愛媛県松山市高浜町 [興居島の対岸] では *Nipponolimopsis littoralis* Sasaki & Haga, 2007 ナギサシラスナガイや *Striarca symmetrica* (Reeve, 1844) ミミエガイと共に転石に付着していた」ことにも言及し、この時 (2011 年 3 月 21 日) は生貝 1 個体 (OKCAB M28983) が得られたのみであったが、その転石の下にはやはり多毛類の棲管が見られた。岡山県では原記載及びそれを引用した稲葉 (1982) による瀬戸内市牛窓町が文献上に現れた唯一の産地であったが、その後 2002 年 9 月に玉野市波張崎～岡山市東区犬島間の水深 14.3 m 砂底で実施されたドレッジによっても死殻半片 2 個 (M24263; 写真) が得られている。しかし生貝はいまだ一度も見出されたことがない。本種は極めて特異な棲息環境に限定される種であるため、その存続基盤は恐らく不安定かつ脆弱で、わずかな環境変化によっても個体群は消滅する恐れがあり、現在の県内に生存個体群が維持されているかどうかは確言できない。

(福田 宏)

ユキノアシタ

Cultellus attenuatus Dunker, 1862

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 無面目 マテガイ上科 ナタメガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Dunker (1862: 422, no. 16) で、のちの Dunker (1865 in 1858–1878: 72–73, no. 79, pl. 24, fig. 4) に図示され、Clessin (1888 in 1842–1888: 41–42, no. 7, pl. 11, fig. 1) がそれを転載した。殻長約 90 mm、殻高約 25 mm に達し、前後に引き伸ばされた長楕円形で、背縁は直線的だが老成すると多少反る。膨らみは弱い。殻頂は低く、前方に寄る。前縁は丸く、後方は庖丁の刃のごとく細まり、前後端とも狭く開く。殻表は平滑で光沢ある黄褐色～濃褐色の殻皮を被り、殻頂から後背縁に沿って幅広い淡色帯が放射状に広がる。鉸歯は鋭い牙状で、右殻に 2 個の主歯、左殻に 4 個の主歯をもち、歯丘は細長く、靱帯は外在する。内面は白く、套線は彎入する。

写真： [瀬戸内市] 牛窓, 1955 年 8 月 16 日, 畠田和一コレクション #2184, 福田撮影。殻長 78.6 mm, 殻高 22.6 mm。



分布 タイプ産地は「Ad Philippinas insulas」(フィリピン諸島)。多くの文献が房総半島以南に分布するとしている (e.g. 松隈, 2017: 1264, pl. 557, fig. 12) が、ほとんどの産出記録は太平洋側からのもので、筆者は佐賀県以北の日本海からは具体的な記録を見出すに至っておらず、最北の産地は長崎県である (堀川, 1964: 78, no. 1205, as *Phaxas attenuatus*, “有明, 千々石”; 波部, 1965b: 190, 193, 195, pl. 13, fig. 5, as *Cultellus (Cultrensis) attenuatus*, “長崎県茂木”)。南西諸島からも報告はない。一方で朝鮮半島、中国大陸～ベトナム沿岸からは古くから知られており (權他, 1993: 135, fig. 94-1; 383, as *Cultrensis attenuatus*; 関他, 2004: 439, fig. 1440-1-2; Huber, 2010: 271, text-fig.; 666; 張, 2008: 338, text-figs; 張他, 2012: 192, no. 177, text-figs; 楊他, 2013: 216, fig. 818), 特に中国では「very common」という (Li, 2004: 276, pl. 152, fig. H)。一方、波部 (1952a: 230, figs 591–593; 1977a: 229–231, pl. 48, figs 11–12; both as *Phaxas attenuatus*) は「Corean Archipelago」(朝鮮) から記載された *Solen albida* A. Adams & Reeve, 1850: 84, pl. 23, fig. 15 が本種の幼貝でないかと疑い、これを信じた Higo *et al.* (1999: 480, no. B896) は本種の有効名を *Siliqua albida* (Adams & Reeve, 1850) とした。しかしその学名は現在 *Siliqua minima* (Gmelin, 1791) (中国に広く分布する) の異名とされ、本種とは明確に異なる別種である。また Higo *et al.* (1999) が同時に本種の異名とした *Cultellus hanleyi* Dunker, 1862: 421, no. 14 (タイプ産地は「?」(不詳)) 及び *C. scalpellum* Sowerby II, 1874b: pl. 6, sp. 25 (タイプ産地は「Red Sea」(紅海)) のうち、*C. hanleyi* はモエギガイ (波部・小菅, 1966: 176, pl. 68, fig. 2, as *Phaxas (Cultrensis) hanleyi*) の和名で知られる別種で、フィリピン～オーストラリアに分布し日本には見られないものの、*C. scalpellum* は原記載の図を見る限り本種に酷似し、同種の可能性がある。もし *C. scalpellum* が同種であった場合、本種の分布域は紅海まで広がる。

生息状況 開放的な外洋の潮下帯 (水深およそ 10～100 m) の砂泥底に棲息する。江戸時代には既に存在を認知されていた種で、砂浜に死殻が打ちあげられる様子を見る機会もあったが、近年は全国的に減少傾向にあり、加藤真・福田 (1996: 71, as *Phaxas attenuatus*) は「清澄な渚が全国的に姿を消し、かつて生息が知られていた殆どの場所で最近の記録がない」と指摘した。瀬戸内海では淡路島近海での産出が明治時代以来知られていたが (e.g. 岩川, 1919: 313, as *Cultellus cultellus* (Linn.); 横山, 1931: 12, no. 403; 平瀬信・瀧庸, 1951: pl. 48, fig. 3, as *Phaxas attenuatus*), それ以外ではもともと少なく、稲葉 (1982: 53, no. 184, as *Phaxas attenuatus*) は大阪湾で「少ない」、中央部 (備讃瀬戸・水島灘・備後灘・燧灘周辺) では「稀」としている。近年は広島県芸南地方で底引によって生貝が得られており、特に呉市下蒲刈島では「生貝が多い」という (濱村, 2004: 160, text-fig.)。このため現在の瀬戸内海でも局所的には個体群が維持されているとみられるが、岡山県では明確な文献記録が一切なく、畠田和一コレクションに含まれる「[瀬戸内市] 牛窓」産の合弁 1 個体 (「採集年月日 1955.8.16 採集者松本幸男」, #2184; 写真) が唯一の産出の証拠である。この個体は右殻の後端が多少欠けているものの、光沢や色彩はよく保存されており、採集された時は生貝であった可能性が高い。これ以降本種は、岡山県では破片すらも見出されることがない。この状況はやはり畠田コレクションの中にしか標本が残されていないダンベイキサゴ、ズングリアゲマキ、ワスレガイなどと同様、1950 年代ごろまでの岡山県が外洋性の種群も棲息可能な場所であったことを示す貴重な証拠である。当時は近年ほど水質汚染や海底の浚渫による攪乱もなく、海水と底質が清浄な状態に保たれていたためにこれらの種群も近隣他県や太平洋から伝播してきて、県内で個体群を形成できていたと考えられる。しかし、その後の環境悪化によって岡山県から姿を消した重要な種群の一つがこれら外洋性種であり、その絶滅によって本県の貝類相は過去に比べて著しく単純・一様化した。今後の環境改善いかんでは全く新たな本種の個体群が外部から自然ともたらされる可能性もないとは言えないが、少なくとも現時点では本種が県内に棲息しているとは考えられず、もし将来生貝が見出されたとしても上記畠田標本とは直接の遺伝的な繋がりはなく、今回はカテゴリを一旦、絶滅とする。

(福田 宏)

アゲマキ

Sinonovacula constricta (Lamarck, 1818)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 無面目 マテガイ上科 ナタメガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Lamarck (1818: 455, no. 16, as *Solen constrictus*)。この名が *Sol. constrictus* Bruguière, 1792: 126, no. 3 の新参一次同名であることに気づいた Huber (2010: 274, text-fig.; 669, 670) は置換名 *Sinonovacula lamarcki* を提唱し、山下博 (2012: 172, text-figs a-c) もこれに追隨している。しかし、Bruguière (1792) の *Sol. constrictus* は現在 *Macoma constricta* または *Austromacoma constricta* (Tellinidae Blainville, 1814 ニッコウガイ科の一員) とされ、もはやアゲマキと同属と考えられていない (MolluscaBase, 2018)。この場合、国際動物命名規約第4版の条 23.9.5 に「自動的にその新参同名を置換してはならない」と定められているため、MolluscaBase (2018: *Sin. lamarckii*, Notes) は *Sin. lamarcki* を無効と見なし、従来通り *Sin. constricta* を有効名とした。ここではその扱いを支持する。*Sol. novaculina* Gray in Griffith & Pidgeon, 1833 in 1833-1834: 600, pl. 31, fig. 1 はもう一つの新参異名。殻長約 90 mm, 殻高約 30 mm, 前後に長い楕円形で、やや膨らむ。背縁・腹縁とも直線的、前後端はともに丸く、大きく開く。殻頂は低く、前方に寄る。殻表は厚い黄褐色～濃褐色の殻皮を被り、成長輪肋に伴って前後で皺状になる。鉸歯は小さいが鋭い牙状で、2ないし3個の主歯をもち、靱帯は外在して後位。内面は白く、套線は浅く彎入する。軟体部は黄褐色で、水管は入・出水管とも太くて長く、両者は癒合しない。足は大きく幅広い (佐藤慎, 2000: 166-167, fig. 7-13 に生体写真あり)。



写真： [岡山市南区] 甲浦村, 畠田和一コレクション #2186, 福田撮影。殻長 85.0 mm, 殻高 28.5 mm。

分布 タイプ産地は「les mers de la Chine ou du Japon」(中国と日本の海)。異名の *Sol. novaculina* は原記載に産地が記されていない。国内では三河湾, 児島湾, 有明海, 八代海からのみ知られる。国外は朝鮮半島, 中国 (黄海, 渤海, 東シナ海), 台湾, ベトナムまで記録がある (Kuroda, 1941: 171, no. 1429; Bernard *et al.*, 1993: 103; Hylleberg & Kilburn, 2003: 196; 関他, 2004: 439, fig. 1441-1-2; 徐・張, 2008: 213, fig. 664; 张他, 2012: 187, no. 172, text-figs)。

生息状況 大規模な内湾奥の軟泥干潟に特異的に産する。底泥に垂直に穴を掘って深く潜り、穴の長さは1mにも達する。食用として広く知られる。有明海沿岸では縄文時代の貝塚からも殻が多く産出し、中世以降の飢饉の際にも食糧難の救世主として「お助け貝」と重宝され、1900年代の佐賀県では天然物と養殖を併せて1万トンを超える水揚げがあった (吉本, 1995)。しかし日本ではもともと産地が局限され、三河湾では近年の生貝の記録は一切なく、古い死殻が稀に見られるのみである (木村昭, 2009: 461, text-fig.)。長く漁獲対象とされてきた有明海でも、1920年代には原因不明の大量死が相次ぎ (北原・宮田, 1917a-c), 戦後は急激な減少の一途を辿って、1992年以降の漁獲量は遂にほぼゼロとなった (佐藤慎, 2000: fig. 7-14; 佐々木克, 2005: 269)。一方、児島湾も多くの文献に有明海と並ぶ代表的な産地の一つとして挙げられてきた。桂 (1932: 41, fig. 41) 及び畠田 (1935: 233, no. 32) は1930年代の岡山県南部一帯で本種が「ホーネンガヒ, チンダエギヤ、チンボガヒ」などの方言で呼ばれていたと記録している。畠田和一コレクションにも当時採集されたと考えられる標本がわずかながら現存する：「甲浦村 [現・岡山市南区宮浦・鮑浦・北浦・郡・松尾]」(合弁1個体, #2186; 写真), 産地無記入 (合弁1個体, #4426)。この時代はアゲマキ漁で生計を立てる人も多く、盛んに漁獲対象とされてきた。しかし文献記録を繙くと、児島湾で知られていた個体群は在来でなく、明治時代中葉に有明海から人為的に移入されたものの可能性が浮上する。藤田経 (1913: 512-513, fig. 305) は「明治元 [1868] 年頃ヨリ佐賀県藤津郡ニテハ有明灣ニ之カ養殖ヲ企畫シテ成功セリ故ニ隣県皆之ニ倣ラヒ後岡山縣児島灣ニモ之ヲ移植シ今ヤ其蕃息ハ頗ル顯著ナルニ至レリ」と述べ、もともと児島湾に本種がいたとは書いていない。また北原・宮田 (1917a: 31) も「児島湾には明治二十五 [1892] 年及二十六年に有明海より移植して以来繁殖してゐる」といい、しかもその直後に「朝鮮の仁川附近には此貝の自然産のもの多し」との一節を置いていることから、少なくとも彼らは児島湾産を全て移植に由来するものと認識していたと考えられる。さらに、上記の通り有明海沿岸の縄文時代の貝塚からは本種の殻が見られるのに対し、児島湾周辺の貝塚ではハイガイは大量に産出するものの本種の明確な記録はない (山口雄治私信)。現時点で筆者は、江戸時代以前から児島湾に本種の在来個体群が存在していたことを積極的に支持する証拠を見出すに至っていない。しかし、移入か在来かは別としても1890～1950年代に本種が児島湾に高密度で多産し、そして1959年に湾が閉め切られて淡水化した際に完全に棲息環境が失われ、一挙に絶滅したことは事実である。現在、児島湖の湖底を浚渫すると本種の崩れかけた合弁死殻が時折見出され、往時の多産ぶりをかすかに伝えているが、もはや岡山県内に本種の棲息が可能な場所は残されていない。

(福田 宏)

ヒシガイ

Fragum carinatum (Lyngé, 1909)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ザルガイ上科 ザルガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Lyngé (1909: 261, pl. 5, fig. 20, as *Hemicardium (Fragum) fragum* L. var. *carinata*)。松隈 (2000: 951, pl. 473, fig. 10; 2017: 1237, pl. 532, fig. 5) は表記の学名を「*Cardium carinatum* Bronn, 1831 [sic; = 1832] あるいは *C. carinatum* Deshayes, 1838 の新参二次ホモニム」と見なし、*F. bannoi* (Otuka, 1937: 138–139, no. 58, fig. 54a–b, as *Corculum (F.) bannoi*) を有効名とした。これは恐らく Fischer-Piette (1977: 137–139, no. 149) による見解を踏まえたもので、近年のほとんどの著者も本種に対して *F. bannoi* を用いている。しかし実際には Lyngé の学名が *Cardium* に移された例はなく、また Bronn 及び Deshayes の *C. carinatum* が *Hemicardium* または *Fragum* とされた例もないので、Lyngé の学名はそれらとの同名関係になったことはない (Hylleberg, 2004: 397, 427–428 を参照)。Fischer-Piette (1977) の主張の力点はホモニムよりむしろ、Lyngé の学名が変種として簡素な記載しかなされず、タイプ標本もしっかり保存されていないという理由でその名を無視すべきという点にあるが、それらは Lyngé の学名を不適格または無効とするだけの根拠にはなりえない。このためここでは Lyngé の学名を最古参の有効名とし、この場合 Otuka の *C. (F.) bannoi* は新参異名となる。別名タイワンヒシガイ。殻長・殻高とも約 10 mm、亜方形、厚質堅固でよく膨らみ、後端は裁断状で、殻頂から後腹縁へ向けて斜めに鋭い稜角が走り、これが腹縁と顕著な角を形成する。殻表は白色または淡黄色で、20 本前後の太い放射肋をもち、それらの上に強い瘤状突起が規則正しく並ぶ。内面は白く、腹縁は強く刻まれる。鉸歯は強く、主歯及び強大な側歯をもつ。奄美大島以南に分布する *F. scruposum* (Deshayes, 1855) (= *F. loochooanum* Kira, 1959) オキナワヒシガイ (リュウキュウヒシガイ) は本種と同種とされる場合もある (e.g. MolluscaBase, 2019) が、放射肋が細くて 25 本以上ある点で明瞭に識別可能であり (Huber, 2010: 298, text-fig.; 久保, 2012: 118; 松隈, 2017: 1237, pl. 532, fig. 6), ここでは別種として扱う。

写真： 備前本荘村 [倉敷市児島塩生・通生・宇野津附近]、畠田和一コレクション #4322、福田撮影。殻長 7.4 mm、殻高 7.3 mm。



分布 タイプ産地はタイの「Koh Kahdat and at Koh Chang」。新参異名である *Corculum (Fragum) bannoi* は台湾の「澎湖島 (貝砂中)」から記載された。日本が分布の北限で、太平洋側は房総半島以南、日本海側は山口県萩市見島以南に点々と記録があり、九州までと南西諸島、中国大陸沿岸 (福建省廈門、広東省、海南島、広西チワン族自治区、台湾など)、タイ湾に分布する (Kuroda, 1941: 162, no. 1299; 黒田, 1960: 64, no. 1830; 池田美・多田武, 1963: 44, no. 979; 多田武, 1964: 168; Xu, 2004b: 262, pl. 144, fig. G; Huber, 2010: 297, text-fig.; 木村昭・山下博, 2012: 118, text-figs; 王他, 2016: 118, no. 333, text-figs)。沖縄県では近年も沖縄島中城湾や石垣島川平湾奥などで生貝が確認され、本種とオキナワヒシガイは底質で棲み分けている可能性があり、本種は主として非石灰岩性の砂底に出現する (久保, 未発表)。

生息状況 内湾湾口部など、外洋水の影響を受ける場所の砂干潟下部から潮下帯に棲息する。かつては死殻が砂浜に頻繁に打ち上げられていたが高度経済成長期以降に急速に減少し、1980 年初頭には既に和歌山県田辺湾で「かつては採集されたが現在は全く認められない」と記され (Kuroda & Habe, 1981: 8–9)、しかもその記述は現在全国的に極端に稀少化したヒメアカガイ及びイオウハマグリとともに挙げられている。木村昭・山下博 (2012) も瀬戸内海西部の大分県姫島や玄界灘の福岡県福岡町 (現・福津市) での本種の消滅に言及し、近年生貝が確認されているのは三重県英虞湾の狭い範囲に限定されると述べた。沖縄県での棲息環境も近年甚だしく攪乱され、本種は強い減少傾向にある。瀬戸内海では古くは広島県の「豊田・御調」(瀧巖, 1938: 32, no. 452)、山口県の「柳井附近」(河本・田邊, 1956: 73, no. 873) などで知られていたが、現もそれらの海域に棲息しているかどうかは不明である。香川県では瀬尾・Tanangonan (2014: 108, no. 52, pl. 3, fig. 16) によると「仁尾干拓跡干潟からは新鮮な死殻を採集している」とのことで、同県にはまだ生き残っている可能性はあるが、「他の産地では磨滅した死殻しか確認できなかった」という。岡山県では文献記録は存在せず、畠田和一コレクション中の「備前本荘村 [現在の倉敷市児島塩生・通生・宇野津附近]」産合弁 1 個体 (#4322; 写真) が唯一の産出の証拠である。本種は死亡すると容易に左右の殻が離れてしまうので、打ち上げ採集などで得られる死殻はほぼ全てが半片であるが、畠田標本は完全な合弁で、光沢も残っているため採集時は生貝であったと推測される。採集年月日はラベルに記されていないが、本荘村は 1948 年 4 月 1 日に他の 3 町と合併して児島市となり消滅したためそれ以前に採集されたものと考えられる。その周辺は高梁川河口の左岸に相当し、かつては遠浅の砂浜が広がっていたらしいが、戦後はコンビナートの立ち並ぶ工業地帯として大規模な埋め立てが行われるなど海岸線が徹底的に改変された。現在当地に赴いても往時の光景を想起させる手がかりはほとんど残されておらず、かつてそこに本種が棲息していたなど想像もできない。本種は潮間帯を含む浅所に棲息環境の中心をもつため、個体群が存続していれば少なくとも死殻が得られるはずであるが、岡山県では過去 50 年以上破片 1 個すらも見出されないことと、棲息可能な環境自体がことごとく破壊されて失われたことから判断して、本県から完全に絶滅したと結論づける。

(福田 宏・久保弘文)

マルクサビザラ

Cadella narutoensis Habe, 1960

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Habe (1960c: 292–293, no. 6, fig. 1) で、ホロタイプの写真は波部 (1961a: 136, pl. 61, fig. 25) 及び Higo *et al.* (2001: 170, fig. B952) に掲載されている。殻長約 15 mm, 殻高約 9 mm, 横長の卵楕円形でやや厚く不透明, 膨らみは弱く扁平。殻頂は後方に偏り, 前端は丸く張り出し, 後端は短く截断状。殻表は白色で, 細密だが明瞭な成長輪肋を規則的に並べる。内面は鈍い光沢があり, 套線彎入は著しく大きくて深く, 丸い彎曲の頂点は後閉殻筋痕の近くまで届く。鉸歯は 2 個の主歯の前後に長く明瞭な前後側歯が背縁に沿って走る。生体を高重 (2019: 295, text-figs) が図示しており, それによれば軟体は白色で足は大きく幅広い。本種は一時期, 同属の *C. crebrimaculata* (Sowerby II, 1868 in 1866b–1869: sp. 301, pl. 51, fig. 301, as *Tellina crebrimaculata*) ホシヤマミノコザラ (タイプ産地は「Fiji」。「沖縄島」から記載された *Arcopagia* (*C.*) *hoshiyamai* Kuroda, 1960: 68, no. 1959; 83 は異名) や *C. mauia* Dall, Bartsch & Rehder, 1938: 197–198, pl. 50, figs 1–4 (タイプ産地は「off Launiupoko, Maui, in 4–8 fathoms」=ハワイ諸島マウイ島のラウニウポコ沖, 4–8 尋) と同種とみなされたことがあった (波部, 1979: 216; Kuroda & Habe, 1981: 128; both as *C. hoshiyamai* [sic])。しかしそれら 2 種はいずれも本種とは明確に異なる別種である (Huber *et al.*, 2015: 252, text-figs; 653–654, 655–656, 683, 685)。

写真： 備前〔瀬戸内市〕牛窓, 畠田和一コレクション #2090, 福田撮影。殻長 12.9 mm, 殻高 8.9 mm。



分布 タイプ産地は「Naruto, between Tokushima Pref., Shikoku and Awaji Island, Hyogo Pref., Honshu」(徳島県と淡路島との鳴門海峡)。原記載では同時に分布域を「Kyushu, Shikoku and Wakayama Pref., Honshu」(本州和歌山県, 四国, 九州) としている。その後の文献記録によれば太平洋側は房総半島以南 (黒田他, 1971: 689 (和文), 451 (英文), pl. 99, fig. 18), 日本海側は兵庫県但馬海岸以南 (伊藤勝, 1967: 69, no. 842; 1999: 96, no. 2975), 九州まで知られる。沖縄県では恩納村, 久米島, 石垣島で採集されている (久保未発表)。国外は韓国済州島 (関他, 2004: 442, fig. 1455–1–2; 443, no. 1471; Noseworthy *et al.*, 2007: 97), 中国山東省青島市 (Wang, 2004: 287, pl. 157, fig. B, as *Cadella hoshiyamai* [sic]), ベトナム (Hylleberg & Kilburn, 2003: 198), フィリピン・ルソン島東岸のキャサブサパン湾 (Casapsapan Bay; Huber *et al.*, 2015) などから産出が報告されている。一方, Lamprell & Healy (1998: 248, 249, fig. 752, as *Tellina* (*Moerella*) *narutoensis*) はオーストラリア・クイーンズランド州のグレートバリアリーフに本種が産するとしたがこれは誤同定で, その種は *Nitidotellina willani* Huber, Langleit & Kreipl, 2015: 228, text-figs; 655–657 として新種記載された。マルクサビザラは今のところ南半球からの信頼できる記録はない。

生息状況 内湾・外洋を問わず潮下帯から漸深海底 (水深 10–100 m) にかけての砂底に棲息する。沖縄県では水深約 25–40 m からドレッジで少数の個体が見出され, 産出が確認された海域は例外なく清浄で砂の質が均一な砂底であることから, 泥質化すると棲息できなくなる種と考えられる。瀬戸内海ではほぼ全域で海底の砂中に死殻が多く見られるが, 生貝の報告例は少なく, 近年は瀬尾・Tanangonan (2014: 108–109, no. 56) が香川県において「備讃瀬戸沖のトゲモジガイ *Astropecten polyacanthus* [Müller & Troschel, 1842] の胃の中から新鮮な死殻を採集した」と述べている程度である。死殻が浜辺に打ち上げられることは稀で, 生貝を確実に採集するためにはドレッジや採泥器などを用いねば困難であることも産出記録が少ない原因の一つである。岡山県での文献記録は岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に搭載されたのみであるが, 畠田和一コレクション中には「備前〔瀬戸内市〕牛窓」産の合弁 1 個体 (「波部 [忠重] 氏同定 1952.2. *Cadella delta* (Yokoyama) クサビザラ」, #2090; 写真) が含まれている。この標本はマルクサビザラが正式に新種記載される以前に波部によって同定されており, 恐らくこの時点では波部自身も本種の存在を明確に認識できていなかったが故に, クサビザラとしてしまっている点が興味深い。しかもこの標本は合弁であり, 内面の光沢も強いので採集時は生貝であったと推測される。その後は 2002 年 9 月に玉野市の沖合で行われたドレッジ調査の際, 波張崎南東沖 (水深 22 m, 泥底), 波張崎～岡山市東区犬島間 (水深 14.3 m, 砂底), 大入崎～犬島間 (水深 10 m, 砂底) からそれぞれ半片 2 個 (OKCAB M24106), 幼貝の半片 1 個と破片 1 個 (M24226), 破片 3 個 (M24330) が得られている。しかしそのいずれもが古い死殻であり, 現在も県内に個体群が維持されていると考えるには不十分である。本種の稀少性や減少傾向はこれまで全くと言ってよいほど議論されたことがなかったが, 少なくとも瀬戸内海では滅多に生貝が見られないので, 既に絶滅の危機に陥っている可能性が否定できない。特に岡山県ではもはや生貝が存在するかどうかすら怪しい段階まで来ている。

(福田 宏・久保弘文)

クサビザラ

Cadella nucleolus (Deshayes, 1855)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全齒上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Deshayes (1855b: 355, no. 173, as *Tellina nucleolus*)。本種は従来ずっと *Tellina delta* Yokoyama, 1922: 141–142, no. 219, pl. 10, figs 8–10 (Is. Taki & Oyama, 1954: 47, pl. 30, figs 8–10 及び Oyama, 1973: 112, pl. 37, fig. 16a–d に転載) とされてきたが、Huber *et al.* (2015: 252, text-figs; 683–684) は *T. nucleolus* のタイプ標本を検討したところ *T. delta* と区別できないとしている。また *T. (Arcopagia?) Smithi* Lyngø, 1909: 194(98)–195(99), pl. 3, figs 38–39 も新参異名。和名をクサビザラとしていた文献が散見されるが (e.g. 河本・田邊, 1956: 80, no. 952; 波部他, 1986: 32; 伊藤勝, 1990: 124, no. 590, pl. 31, fig. 8, as *Cardella [sic] delta*; 1999: 95, no. 2974, as *Cadella diltta [sic]*)、その名をもつ全く別の種 (*Omala hyalina* (Gmelin, 1791)) が存在するので、「ク」の有無を疎かにしてはならない。殻長約 7.5 mm, 殻高約 6 mm, 前後に多少伸びた三角形, やや厚く堅牢で不透明, 多少膨らむ。殻頂は後方に傾く。前・後端とも丸く、腹縁は緩く彎曲する。殻表は白色で鈍い光沢を帯び、細密で明瞭な成長輪肋が規則的に並んで、後部で板状に立つ。内面は光沢があり、套線彎入は深く丸い。閉殻筋痕は前が縦長、後は太短い楕円形。鉸歯は 2 個の主歯の前後に長く明瞭な前後側歯が背縁に沿って走る。軟体は未詳。

写真： 玉野市大入崎～岡山市東区犬島間 水深 10 m 砂底 ドレッジ St. 3, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24329, 福田撮影。長さ 4.2 mm。



分布 原記載では産地は「—?」(不詳) とされているが、Huber *et al.* (2015: 683) は無効となった *Tellina (Arcopagia?) Smithi* のタイプ産地「West of Koh Kut, 30 fathoms, sand, mud」(タイ東部のクート島西部, 30 尋, 砂泥底) を *T. nucleolus* のタイプ産地とみなすべく提案している。*T. delta* は千葉県の後期更新世印旛層群の化石で「Otake (very common), Kioroshi, Kamenari, Tega (frequent)」(千葉県成田市大竹 (ごく普通), 同県印西市木下, 同市亀成, 柏市手賀 (頻出)) の個体をもとに記載された。最北の記録は北海道 (黒田・木下虎, 1951: 29, no. 480, as *A. (Cadella) delta* ?; 波部, 1952a: 212, 214, figs 522, 524, as *C. delta*, 根室) であるが、波部・伊藤潔 (1965: 146, note at no. 14, as *C. delta*) は同属の別種 *C. lubrica* (Gould, 1861) トバザクラの「幼貝であったかもしれない」と述べている。ただし青森県陸奥湾 (野村・畑井, 1932: 7, no. 60, as *T. delta*; G. Yamamoto & Habe, 1959: 101, no. 84, pl. 9, figs 15–16, as *C. delta*) でも複数回報告されており、北海道に産しても不自然ではない。一方で日本海側は北方での記録がなく、福井県若狭湾 (伊藤勝, 1990) が現時点で最北端である。西南日本に広く分布し、奄美大島や沖縄島の干潟からも報告されている (名和, 2008a: 30, no. 224, pl. 9, fig. 10, as *C. sp.*; 2009: 64, no. 494, pl. 13, fig. 3, as *C. sp. 1*)。国外は韓国 (済州島にも), 中国 (長江河口, 海南島), ベトナム, タイ, フィリピン, 北オーストラリアまで分布する (斯卡拉脱 (Scarlato), 1965: 65–66, pl. 10, fig. 5, as *C. smithi*; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 44, fig. 317, as *T. (C.) semen* Hanley, 1844 [Huber *et al.*, 2015 が誤同定と断定]; Bernard *et al.*, 1993: 91, 92, as *C. delta* and *C. smithi*; Hylleberg & Kilburn, 2003: 198, as *C. smithi*; 関他, 2004: 444, fig. 1456-1–2; 445, no. 1456, as *C. delta*; Z. Wang, 2004: 287, pl. 157, fig. A, as *C. smithi*; Noseworthy *et al.*, 2007: 97, as *C. delta*; 徐・張, 2008: 178, 179, fig. 546, as *C. delta delta*)。

生息状況 内湾の干潟低潮帯から外洋の漸深海底 (水深約 150 m) に至るまで幅広く見られ、細砂底に棲息する。多くの産地でマルクサビザラと同所的に産し、瀬戸内海でも稲葉 (1982: 54, no. 203, as *Cadella delta*) は全域に普通としているが、生貝を目にする機会が少ない点も後種と同様である。香川県では畠山・矢野 (1978: 2, as *C. delta*) が「荘内半島から坂出沖」の間で記録しているものの、近年の瀬尾・Tanangonan (2014) には言及されていない。岡山県では後種ともども岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に和名が挙げられているが、畠山和一コレクション中には含まれていない。最近 20 年間の本県で見出された唯一の標本は、2002 年 9 月の玉野市沖合でのドレッジにおいて大入崎～岡山市東区犬島間 (水深 10 m, 砂底) で得られた破片 1 個 (OKCAB M24329; 写真) にとどまる。これは左殻が大破して前半分だけが残され、殻頂も失われているが、膨らみの強さと成長輪肋の明瞭さから明らかに本種に同定できる。このわずかな破片以外には一切確認されておらず、マルクサビザラに輪をかけて情報が無い。したがって岡山・香川両県の海域ではもはや完全な死殻すら採集できないほど激減したことが明らかで、高度経済成長期に入って間もない時代に絶滅した可能性もある。

(福田 宏)

シラトリモドキ

Heteromacoma irus (Hanley, 1845)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Hanley (1845 in 1844–1845: 166, as *Tellina irus*) で、Hanley (1846a: 319, no. 190, pl. 60, fig. 145, as *T. irus*) に図示された。シタイプの写真が Salisbury (1934: 85, pl. 12, figs 7–8, as *Macoma irus*) 及び Higo *et al.* (2001: 171, fig. B984) に掲載されている (Coan & Kabat, 2012: 312 も併せて参照されたい)。 *Fragilia Yantaiensis* Crosse & Debeaux, 1863a: 78, no. 2 (Crosse & Debeaux, 1863b: 255–256, pl. 9, fig. 2 に図示され、シタイプの写真は MNHN, 2019: IM-2000-30804 で閲覧可能) は新参異名。一方、波部 (1965a: 289, no. 1096) 以来近年までの多くの文献で異名とされていた *Lucina corrugata* Dunker, 1882: 216–217, pl. 8, figs 9–11 は、現在はサビシラトリの異名と考えられている (Huber *et al.*, 2015: 739)。また同様に異名とされ続けてきた *Heteromacoma oyamai* Kira, 1954: 119, 164, pl. 59, fig. 21 マルシラトリモドキは Huber *et al.* (2015: 272, text-figs; 707–708, 710) が別種とみなし、松隈 (2017: 1258, pl. 552, fig. 15) は本種の亜種とするなど、少なくとも無効名とはしないのが最近のトレンドである。殻長約 40 mm, 殻高約 30 mm, 横長の三角形で膨らみは弱く、不透明で厚い。殻頂はほぼ中央にあり、前端は丸く、後端は嘴状に尖る。殻表は淡黄白色で光沢がほとんどなく、成長輪肋は粗くて強弱が均一でない。内面は白色で鈍い光沢があり、套線彎入は深く、閉殻筋痕は前後とも楕円形 (マルシラトリモドキでは套線彎入が本種より小さく、また前方の閉殻筋痕は前縁に沿って極端に細長く伸びる)。殻頂の前方にある小月面は明瞭で深く窪む。靱帯は後位で、楕面の間に埋もれる。鉸歯は右殻ではほぼ同形の主歯を 2 個並べ、左殻では前主歯が二分し、後主歯も明瞭。高重 (2019: 292, text-fig.; ただし p. 293 の殻はマルシラトリモドキ) が生体を図示しており、それによれば足は無色半透明で大きく幅広い。なお *Heteromacoma* Habe, 1952a: 218 と *Sinomacoma* Yamamoto & Habe, 1959: 103 のタイプ種はいずれも本種 (前者は *T. irus*, 後者は *F. Yantaiensis*) であり、したがって後者は無効名である。

写真： [倉敷市] 下津井, 畠田和一コレクション #2591, 福田撮影。殻長 20.9 mm, 殻高 16.7 mm。



分布 タイプ産地は「—?」(不詳)であるが、のちの Hanley (1846a) は「Guinea?」(ギニア?)と記し、Salisbury (1934) もこれをタイプ産地と認めているが誤りである。 *Fragilia Yantaiensis* は「in situ «Yan-tai» dicto, Chinae septentrionalis」(中国北部 [山東省] 烟台市の湾) から記載された。北海道南部以南の太平洋岸・日本海岸両方に産し、九州まで朝鮮半島、ロシア沿海州、中国 (遼寧・山東両省の黄海・渤海沿岸) に分布する (Schrenck, 1867: 559–560, no. 152, pl. 22, figs 6–7, as *Tellina Brugueri* Hanley (誤同定); Grabau & King, 1928: 91, 184, no. 44; 262, pl. 5, fig. 44, as *Macoma inquinata* Deshayes (誤同定); 野村・神保, 1934: 304, as *Gastrana yantaiensis*; 黒田・木下虎, 1951: 29, no. 481, as “*Gastana* [sic] *yantaiensis*”; 関他, 2004: 447, fig. 1469-1-2; Wang, 2004: 284, pl. 156, fig. O; 鄭他, 2013: 460, text-figs; Huber *et al.*, 2015: 272, text-figs; 705, 707–708)。なおシラトリモドキとマルシラトリモドキは秋田・山形両県では両者ともに産出し、分布域が重なっている (西村正・渡部景, 1943: 73, nos 244–245, as *G. yantaiensis*, *G. sp.*; 窪田, 1962: 165, nos 2336–2337; 鈴木庄, 1979: 240, nos 486–487)。このため両者を亜種とするのは無理があり、完全な別種か、さもなくば個体変異の幅が極端に大きい同種のいずれかであろう。

生息状況 湾口部で海水の入れ替わりが盛んな海岸の岩礁潮間帯において、岩盤間に堆積した礫混じりの砂泥中に潜り、軟らかい泥岩に穿孔することもある。同所的に *Gafrarium divaricatum* (Gmelin, 1791) ケマンガイが見られることが多く、特に日本海南西部では大半の場所で両種が随伴する。太平洋や日本海の沿岸では多くの地域で今も普通種である。瀬戸内海でもかつては少なからず見られ、稲葉 (1982: 56, no. 222) は全域で「普通」としている。広島県芸南地方では今世紀に入ってなお複数の場所で生貝が報告されている (濱村, 2004: 156, text-fig.)。対照的に備讃地方では近年めっきり少なくなり、瀬尾・Tanangonan (2014: 109, no. 67) は 2009–2013 年に香川県沿岸を調査した結果「著しく磨滅した死殻が少数確認されたのみであった」と嘆いた。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録中に和名が見え、また同時期の岡山県 (1979: 102) による第 2 回自然環境保全基礎調査の報告書にも玉野市大槌島北岸での産出が記録されている。さらに畠田和一コレクションには「[岡山市東区] 犬島」(#2144), 「[倉敷市] 下津井」(#2591; 写真), 「備中 [笠岡市] 白石島」(#2142), 「白石島」(「1954.8.20.」, #5834) の 4 ロット (各 1 個体) が現存し、その全てが合弁の完全な標本で、1950 年代当時は生貝の採集が困難でなかったことが窺われる。ところがその後は滅多に見出されなくなり、最近 20 年間では 2009 年に倉敷市大島の久須美鼻で合弁 1 個 (OKCAB M23615), 2011 年に玉野市沼の出崎海水浴場で合弁 1 個と半片 6 個 (M22082) が得られただけであり、それら全てが著しく磨滅するか、または内面全体までが藻類で覆われて紫色に変色した古い死殻で、最近まで生きていた個体とは到底思われぬ。本県ではケマンガイも同様に著しく稀少化し、本土沿岸では死殻すら見出されることがなく、笠岡諸島で辛うじて確認されている。したがって本種やケマンガイがかつて多産していた潮通しの良い場所の潮間帯礫底に特異的な棲息環境は、もはや県内の大半の場所で変質を極め、畠田和一の存命時に見られたはずの状態から甚だしく乖離していることは明らかである。

(福田 宏)

ユウシオガイ

Jitlada culter (Hanley, 1844)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギャルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 現存産地が県内に1箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 原記載は Hanley (1844 in 1844–1845: 69–70, as *Tellina Culter*) で、のちに Hanley (1846a: 279–280, no. 107, pl. 57, fig. 51) に図示された。この名は最近まで長らくトガリユウシオガイに用いられ、本種はもっぱら *T. rutila* Dunker, 1860: 236, no. 44 (図は Dunker, 1861: 27, no. 125, pl. 3, fig. 6. タイプ標本の写真を Janssen, 1993: 418, pl. 9, fig. 63 [本文と説明の“64”は誤記] が公表) とされてきた (e.g. スカラ脱, 1965: 82, 84, nos 1, 5, pl. 11, figs 1, 4; 波部, 1981a: 34, no. 2, fig. 2; 木村昭, 2007: 27–30, figs 1–7, 8–12; all as *Moerella culter*, *M. rutila*). しかし Huber *et al.* (2015: 212, text-figs; 624–625) の詳細な検討の結果、*T. culter*こそがユウシオガイであり、トガリユウシオガイは *T. juvenilis* Hanley, 1844 in 1844–1845: 140–141 (図は Hanley, 1846a: 288, no. 125, pl. 57, fig. 63) とすべきで、従来の文献はことごとく誤同定であったと明示された。*T. rutila* はユウシオガイであるが、*T. culter* の新参異名で無効となる。殻長約 18 mm, 殻高約 14 mm, 前方に引き伸ばされた三角形, 薄く, 若い個体では半透明であるが老成すると不透明, 多少膨らむ。殻頂は中央にあり, 傾かず真上に向けて鈍く盛り上がる。前縁～腹縁は丸く彎曲し, 後方は短い嘴状で先端は鈍く尖る。殻頂から後腹隅へ不明瞭な褶が走る。殻表は弱い光沢を帯び, 成長脈以外は平滑で, 濃橙色, 黄色, 白色と個体間で色彩に変異がある。内面の光沢も鈍く, 套線彎入はさほど発達せず腹側の半分より下方に止まり, 矩形をなす。筋痕は前後とも大きい楕円形。靱帯は後位で外在し狭い。鉸歯は殻頂直下に 2 個の小さい主歯をもち, 右殻には主歯の前後に低く短い側歯がある。軟体は半透明灰色で, 水管は細長く伸長し, 足は幅広く扁平。

写真： 備前市日生町鹿久居島現寺, 2018年3月6日, OKCAB M28984, 福田撮影。殻長 14.8 mm, 殻高 9.5 mm。



分布 原記載に記された産地は「Cagayan, province of Misamis, Mindanao; twenty-five fathoms, sandy mud」(フィリピン, ミンダナオ島ミサミス州のカガヤン, 25 尋, 砂泥底) であるが, Huber *et al.* (2015) はこれを誤りと断定し, 異名である *Tellina rutila* のタイプ産地「im Hafen von Decima in Japan」(長崎市出島) が正しいと主張している。日本(本州・四国・九州)と朝鮮半島南部の固有種で, 最北の産地は陸奥湾(野村・畑井, 1932: 6–7, no. 59, as *T. rutila*; G. Yamamoto & Habe, 1959: 106, no. 94, pl. 10, fig. 8, as *Moerella juvenilis*)。従来の文献には奄美大島, 沖縄, 台湾, 中国沿岸, ベトナム, フィリピンなどからも本種の記録があるが, それらは全てトガリユウシオガイか, または同属の別種 *Jitlada pumila* (Hanley, 1844 in 1844–1845: 69) (異名: *T. mallea* Römer, 1871 in 1841–1873: 135–136, no. 78, pl. 30, figs 4–6, as *T. mallea*; *T. (Tellinides) planissima* Anton, var. *peitaihoensis* Grabau & King, 1928: 89, 90, 180–181, no. 37, pl. 5, fig. 37) である。

生息状況 陸奥湾, 東京湾, 相模湾, 浜名湖, 三河湾, 伊勢湾, 瀬戸内海, 有明海など大規模な内湾の奥部に生じる砂泥干潟潮間帯中部に特異的で(木村昭, 2012: 126, text-figs, as *Moerella rutila*), そのため産地はもともと不連続的に存在し, 特に日本海側は同様の環境が少ないため七尾湾, 油谷湾, 博多湾などに限定される。湾奥の干潟は多くの場合都市に近接するため本種の棲息環境は人為的改変の影響を被りやすく, 東京湾や相模湾では絶滅寸前の状態に追い込まれている。瀬戸内海ではかつては全域で普通とされ(稲葉, 1982: 55, no. 210, as *M. rutila*), 現在も周防灘～伊予灘沿岸などには多産する場所が残っているが, 中央部では減少傾向が著しい。香川県での近年の調査(瀬尾・Tanangonan, 2014: 109, no. 60, pl. 4, fig. 3, as *M. rutila*)では, 「[三豊市] 父母ヶ浜の中潮帯では多くの生貝が採集されたが, [丸亀市] 土器川河口前浜では死殻が採集されたのみであった」と一部産地での個体群消滅を示唆する報告がなされている。しかし岡山県はそれ以上に悲惨な状況である。かつては大垣内(1968b: 71)が倉敷市沙美海岸で採集したと述べ, 岡大玉野臨海(1978: 161)の目録にも含まれ, さらに畠田和一コレクション中にも「備前 [瀬戸内市] 牛窓」(「波部 [忠重] 氏同定 1952.2.」, 合弁 5 個体, #4275), 「児島湾 [玉野市] 八濱町地先 干拓地 〆切内側泥揚場採集」(「1952.6.3.」, 合弁 1 個体, #6843), 「児島郡本荘村 [現・倉敷市] 塩生」(「黒田 [徳米] 氏同定品 1951.1.」, 合弁 4 個体, #4239) の各標本が現存する。これらの多くが光沢や色彩もよく保存されているため生貝を採集したものと推測され, 当時は県内の幅広い範囲にごく普通に見られたことが窺われる。ところがその後は目にする機会がめっきり減り, 今世紀に入ってしばらくは死殻も見出せないままであったが, 2018年3月の備前市日生町鹿久居島における調査でイチョウシラトリやテリザクラと同所的に少数の生貝が見出され(OKCAB M28984; 写真), まだ本県から絶滅していないことがようやく確認された。とはいえその他に健全な個体群は知られず, 畠田標本が示す往時の多産ぶりからかけ離れた状態で, 本来なら存在していた県内の産地の大半が 1960年代以降に消失したことは明らかである。また他の県では本種よりテリザクラの方が産地が少ないが, 岡山県では逆に, 後種は上記鹿久居島や高梁川河口など複数の場所に今も棲息が認められる。後種はより汽水域寄りの軟泥底にも見られるため, 本種よりは富栄養化に強い可能性があり, 本県では水質の激しい悪化によって本種の方が先に減っていったと考えられる。いうまでもなく, 埋め立て・干拓や護岸による干潟の消失も本種の個体群を消滅させた。畠田標本の産地である八浜や塩生に, 本種が戻ってくることははやないであろう。

(福田 宏)

サビシラトリ

Limecola contabulata (Deshayes, 1855)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内では著しく古い死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Deshayes (1855b: 356, no. 179, as *Tellina contabulata*) で、Sowerby II (1868 in 1866b–1869: sp. 311, pl. 52, fig. 311) に図示され、Salisbury (1934: 85, pl. 12, fig. 6, as *Macoma contabulata*) 及び Higo *et al.* (2001: 171, fig. B993, as *M. contabulata*) がタイプ標本の写真を公表している。本種は長くシラトリモドキと混同され (e.g. スカラ脱, 1965: 76, pl. 7, fig. 5, as *Gastrana contabulata*)、後種の異名とされていた *Lucina corrugata* Dunker, 1882: 216–217, pl. 8, figs 9–11 は実は本種である (Huber *et al.*, 2015: 290, text-figs; 708, 739, 743)。また北米産の別種 *M. inquinata* (Deshayes, 1855b: 357–358, no. 184, as *T. inquinata*) に同定されたこともあり (e.g. 大炊御門, 1934: 353–356, footnote 1, figs 4–5; pl. 8, fig. 18), それを誤りと見抜いた大山 (1950: 3) は本種を *M. (M.) anser* Oyama, 1950 として新種記載したが、この名は *T. contabulata* の新参異名で無効である。その後 Salisbury (1934) を読んだ黒田 (1953a: 6–7, text-fig., as *M. contabulata*) によってようやく現在の名に落ち着いた。さらに *M. sicca* Scarlato & Ivanova in Scarlato, 1981: 364–365, fig. 189 (原著未見; Kafanov & Lutaenko, 1996: 12–14 による) も本種の異名。Huber *et al.*, (2015) が *Limecola* Brown, 1844: 101 に所属を移した。殻長約 40 mm, 殻高約 33 mm, 丸みを帯びた三角形, やや厚く不透明, 多少膨らむ。殻頂は中央からわずかに前方へ寄り, 低く隆起する。前～腹縁は緩く彎曲して丸く, 後端は多少伸長して嘴状に鈍く尖る。殻表は灰白色で光沢を欠き, 石膏を固めたごとく粉っぽい。成長輪肋は細かい。濃いオリーブ色の殻皮で覆われるが剥離しやすく, 多くの場合周縁にのみ残存する。内面は白色で套線彎入は深く, 左右の殻で形が異なる。閉殻筋痕は前が縦長の楕円形, 後は太い菱形。靱帯は後位で外在し, 太く強靱で切れにくい。鉸歯は小さく鋭い主歯を 2 個もつが, 側歯はない。軟体は白く, 足は三角形で大きい。水管は橙色で長く伸長する (高重, 2019: 292, 293, text-figs に生体写真あり)。



写真： 岡山市南区小串, 2010 年 10 月 4 日, OKCAB M23628, 福田撮影。殻長 41.9 mm, 殻高 32.9 mm。

分布 タイプ産地は「Chinese Seas」(中国の海; 恐らく誤り)。異名である *Lucina corrugata* は「Mare Japoniae mediterraneum」(瀬戸内海), *Macoma (M.) anser* は「東京湾羽田」, *M. sicca* は「Sea of Japan, Peter the Great Bay, Ussuriysky Bay. Suhodol」(ロシア沿海州, ピョートル大帝湾のウスリー湾に面した Suhodol 村) からそれぞれ記載された。北方寄りに分布する種で, 南西諸島以南や中国沿岸には産しない。日本では九州以北, 北海道まで見られ, 国外は朝鮮半島 (日本海側) ~ロシア沿海州から知られる (大炊御門, 1934; スカラ脱, 1965; Kafanov & Lutaenko, 1996: 12–14, figs 1, 2 B, D; 関他, 2004: 448, fig. 1475-1–2; Lutaenko & Noseworthy, 2012: no. 218, text-fig. 27, pl. 47, figs E–H; all as *M. (M.) contabulata*; Huber *et al.*, 2015)。

生息状況 内湾奥の河口干潟砂泥底に深く埋もれて棲息し, 生貝は潮干狩りで得られる。本州中部以北ではいまま普通種で, 特に東北地方や北海道では多産する。高重 (2019) は多摩川河口産の生貝を図示しており, 東京湾奥部にも健在産地がある。瀬戸内海でもかつては全域に満遍なく産する普通種と認識されていた (稲葉, 1982: 56, no. 219, as *Macoma (M.) contabulata*)。しかしこれは過去の話で, 近年棲息が確認された例は少なく, 香川県では「安達川河口から著しく磨滅した死殻が 1 個体確認されたのみであった」と報告された (瀬尾・Tanangonan, 2014: 109, no. 63, pl. 4, fig. 4, as *M. contaculata* [sic])。岡山県では波部・増田 (1990: 112, no. 1846, as *Macoma contabulata*) が野口博コレクション中に「岡山」産標本 3 個体が含まれることを公表している。しかしそれ以外に文献記録はなく, 不思議なことに畠田和一コレクションにも県内産の標本は見当たらない。畠田 (1935: 232, no. 27) は 1930 年代当時の県内で, 「*Macoma* [spp.] シラトリガヒ類」がヨメノサラ・ヨメガヒ (ともに浅口郡黒崎村 [現・倉敷市玉島黒崎] 岩谷), ドベガー (浅口郡 [現・浅口市] 寄島町安倉) の方言で呼ばれていたと記録しており, その中に本種がゴイサギ, イチョウシラトリ及び *M. incongrua* (Martens, 1865) ヒメシラトリとともども含まれていた可能性があるが, 種の特定まで至らず本種の産出の証拠とはいえない。ようやく今世紀に入ってから, 2004 年に笠岡湾奥部の笠岡市西大島, 2010 年に児島湾湾口部の岡山市南区小串で, それぞれ半片死殻 1 個体ずつが見出された (OKCAB M9888, M23628; 写真)。それらはともに殻皮も靱帯も完全に失われ, 白化または変色して化石様と化した極端に古いものである。実際に有史以前の化石が地中から洗い出されたものかもしれないし, あるいは 1950 年代ごろまでに生きていた個体の遺骸の可能性も残るが, いずれにせよはや現在の岡山県ではそのような劣化のひどい死殻を得るのがやっとなであり, 香川県でも同様の状況であることを考え併せると, 備讃海域で本種は完全に絶滅し, 生貝を確認できる可能性はもはや失われたと判断せざるを得ない。戦前までの児島湾内には本種の典型的な棲息地が少なからず存在したと推測されるが, 1959 年の閉め切り淡水化を機に, ハイガイやアゲマキなどとともに一挙に絶滅したはずである。湾外に残っていた個体群もその後の干潟縮小・消失や水質悪化などの要因で, ことごとく死滅したと考えられる。

(福田 宏)

ゴイサギ

Macoma tokyoensis Makiyama, 1927

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全齒上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 本種に対する最古参名は *Tellina dissimilis* Martens, 1865: 430, no. 7 で、Lischke (1871b: 115–117, pl. 10, figs 15–17, as *T. nasuta* Conrad. Varietas: *dissimilis*) 及び Römer (1872 in 1841–1873: 232–233, no. 141, pl. 44, figs 12–14, as *T. dissimilis*) に図示されたが、この名は *T. dissimilis* Deshayes, 1855b: 370, no. 239 の新参一次同名で無効となり、Makiyama (1927: 50, footnote) が新名 *Macoma tokyoensis* を与えた。ところが Makiyama はその時同時に Yokoyama (1920: 116: pl. 7, figs 19–20) が図示した「*M. dissimilis* (Martens)」も引用し、それらの図は本種でなく *M. incongrua* (Martens, 1865) ヒメシラトリであるため、*M. tokyoensis* はあくまでも Martens の *T. dissimilis* に対する置換名であり Yokoyama の図示個体は除外して考えるべきである (Oyama, 1973: 112–113, pl. 52, fig. 8a–b)。また Brauns (1881: 39, pl. 4, fig. 18) や Tokunaga (1906: 45, no. 115, pl. 3, fig. 2a–b) が *M. nasuta* (Conrad, 1837: 258–259, no. 3, as *T. nasuta*) シラトリガイ (シリフリシラトリ) と同定した個体は本種である。殻長約 50 mm, 殻高約 36 mm, 前後に長い二等辺三角形状、やや厚く不透明、膨らみは弱く、後端は両殻とも右側へ曲がる。前・後端ともわずかに開く。殻頂はほぼ中央にあり、傾かず真上に向けて鈍く尖る。前・後背縁とも直線的。前縁～腹縁は丸く彎曲し、後端は截断状。殻表は弱い光沢を帯び、成長脈以外は平滑で無紋、淡黄白色。褐色の厚い殻皮で覆われるがこれは剥離しやすく、成貝では周縁附近だけに残存する個体が多い。内面も弱い光沢を帯び、套線彎入は殻の中央を超えて大きく丸く広がり、左殻の方が右殻より深く彎入する。筋痕は前後とも大きい楕円形。靱帯は後位で外在し、強靱で長い。絞歯は殻頂直下に 2 個の小さい主歯をもち、側歯を欠く。軟体は半透明灰色で、水管は細長く伸長し、足は幅広く扁平。



写真： [浅口市] 寄島, 1956年11月21日, 畠田和一コレクション #1770, 福田撮影。殻長 24.9 mm, 殻高 16.3 mm。

分布 無効となった *Tellina dissimilis* Martens のタイプ産地は「Yeddo Bay, Japan」(江戸湾)で、Lischke (1871b) と Römer (1872 in 1841–1873) もそれぞれ産地を「Bucht von Jedo」, 「Japan, (Bay von Yeddo)」としている。最北の記録は北海道函館市 (石山, 1970: 184–185) で、陸奥湾や三陸沿岸・山形県以南 (野村・畑井, 1932: 7, no. 61, as *Macoma dissimilis* しらとりがひ; 鳥羽, 1935: 119; Nomura & Hatai, 1935: 16, no. 63; 波部, 1955b: 248; G. Yamamoto & Habe, 1959: 104, no. 91, pl. 14, figs 9–11; 鈴木庄, 1979: 241, no. 491; 堀越他, 1979: 78; 戸羽, 2009: 89, 90, fig. 60), 九州まで多くの産地で頻繁に記録されている。国外は朝鮮半島 (大炊御門, 1934: 353–356, figs 2–3; pl. 8, figs 12–13; 関他, 2004: 447, fig. 1472-1–2) と中国 (遼寧・河北・山東各省の黄海・渤海沿岸; Wang, 2004: 284, pl. 155, fig. H; 徐・張, 2008: 186, 187, fig. 575) から知られる。

生息状況 函館湾から有明海に至るまで各地の内湾奥潮下帯砂泥底に多産する種で、瀬戸内海でも全域に普通とされてきた (稲葉, 1982: 56, no. 217)。そのため保全上の文脈で言及される例は従来ほとんどなかったが、近年になって名古屋市レッドリストで準絶滅危惧とされ (木村昭・川瀬, 2015: 458, text-fig.), 一部の海域で減少傾向に陥っている可能性が浮上している。香川県での近年の調査 (瀬尾・Tanangonan, 2014: 109, no. 64) でも死殻しか確認されておらず、気づかぬうちに複数の海域で個体群が縮小し、絶滅に向かいつつある恐れがある。岡山県では 1978 年度に環境庁委託で実施された第 2 回自然環境保全基礎調査の海域生物調査において、瀬戸内市市窓町鹿忍の通称病院下海岸で生貝複数個体が記録されている (岡山県, 1979: 20, 32, 76, 80)。またそれ以前の畠田和一コレクション中には「[浅口市] 寄島」(「昭和」31 [=1956].11.21), 合弁 1 個体, #1770; 写真) で採集された標本が現存する。近年も全く見出されなくなったわけではなく、上記の瀬戸内市鹿忍のほか、岡山市東区正義と南区小串相引で合弁死殻が得られ、その一部は光沢や殻皮も残存した比較的新しいものである (OKCAB M8671, M16160, M23544)。その一方で玉野市番田・沼の出崎海水浴場・築港長崎、及び岡山市南区米崎沖 (水深 5.2 m, 泥底) でのドレッジでは少数の古い半片や破片しか得られていない (M16383, M20096, M20138, M23561, M24560)。したがって瀬戸内市～岡山市南東部附近の潮下帯には今も個体群が維持されている可能性があるが、対照的に玉野市周辺ではかつて存在した個体群が壊滅して復活していないとも考えられる。いずれにせよ県内全体を見渡しても最近 20 年間で生貝は 1 個体も確認できておらず、死殻を目にする頻度も高くないため、完全な絶滅まで至っていないとしても少数の個体が局所的に棲息するのみであろう。それらは 1960 年代以降の海岸開発や汚染などによる危機的状況を乗り越えてわずかながら回復途上にあるのか、あるいは今なお減少し続けているのかは現時点の情報だけでは判断できないが、少なくとも健在でないことだけは確かなのが現状である。

(福田 宏)

カバザクラ

Nitidotellina valtonis (Hanley, 1844)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Hanley (1844 in 1844–1845: 143, as *Tellina Valtonis*) で、のちに Hanley (1846a: 283–284, no. 116, pl. 57, fig. 68) に図示された。本種はつい最近まで一貫して *T. iridella* Martens, 1865: 431, no. 9 に同定されてきたが、Huber *et al.* (2015: 228, text-figs; 649–652, 655, 670, 675) によればそれらは互いに異名で、*T. valtonis* が有効となる。殻長約 15 mm, 殻高約 9 mm, 前後に長い卵楕円形、極めて薄く半透明で、膨らみは弱く扁平に近い。殻頂は多少後方に寄り、わずかに隆起する。前縁は丸く、腹縁は緩く彎曲して、後端もほとんど尖らない。殻表は黄味を帯びた桃色または橙色で光沢が強く、角度によって淡い玉虫色の構造色が見える。成長脈は微弱で、右殻中央部ではさらに斜めの彫刻を刻むが、個体によっては不明瞭。殻頂から後腹隅附近にかけて明瞭な白帯を 2 本走らせる。内面の光沢も強く、套線彎入は丸くて深い前閉殻筋痕までは達しない。筋痕は前後とも大きい楕円形。靱帯は後位で外在し、狭く短いが強靱で分離しにくい。鉸歯は小さい主歯が殻頂直下に 2 個あり、右殻の後主歯と左殻の前主歯は明瞭に二叉する。右殻には主歯の前に低い側歯がある。軟体は半透明灰色で、水管は細長く伸長し、足は幅広く扁平（高重, 2019: 296, 297, text-figs に生体写真あり）。



写真： 備前〔倉敷市下津井〕釜島，畠田和一コレクション #4329，福田撮影。殻長 9.4 mm, 殻高 5.3 mm。

分布 タイプ産地は「—?」（不詳）であるが、無効名となった *Tellina iridella* は「Japan」から記載され、のちに Lischke (1871b: 114, pl. 10, figs 8–9) が「Nagasaki und Bucht von Jedo」（長崎及び江戸湾）産個体の見事な絵を示した。日本・韓国・中国（黄海～北部湾，台湾周辺）の固有種である（Kuroda, 1941: 170, no. 1410, as *T. (Fabulina) iridella*; 関他, 2004: 447, fig. 1468-1-2, as *Nitidotellina iridella*; Noseworthy *et al.*, 2007: 97, as *N. iridella*; 徐・張, 2008: 172, 173, fig. 525, as *Tellinides valtonis*）。北限は太平洋側が三陸海岸（Nomura & Hatai, 1935: 14, no. 58, as *Tellina iridella*; 戸羽, 2009: 87, 88, fig. 55, as *N. iridella*），日本海側が男鹿半島（西村正・渡部景, 1943: 73, no. 251, as *Tellina (F.) iridella*; 鈴木庄, 1979: 239, no. 480, as *N. iridella*）で、九州まで分布するが南西諸島には見られない。タイ，フィリピン，フィジー，北オーストラリア，アラビア湾，紅海などからも報告があるが（E.A. Smith, 1885: 102, as *Tellina (Angulus) valtonis*; Oliver, 1992: 146, fig. 69a–b; 156, pl. 35, fig. 7a–b, as *Tellina valtonis*; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 44, fig. 308; Bosch *et al.*, 1995: 252, fig. 1122, as *Tellina valtonis*; Robba *et al.*, 2002: 95–97, pl. 13, fig. 12a–b, as *Tellina (Moerella) valtonis*; Poppe & Langleit, 2011: 324, pl. 1157, fig. 10; both as *Tellina (Tellinides) valtonis*），それらは全て別種の誤同定である（Coan & Kabat, 2012: 316; Huber *et al.*, 2015）。

生息状況 主に外洋に面した海岸において、潮間帯下部～潮下帯（水深約 30 m まで）の清浄な細砂底に棲息する。特に日本海南西部ではサクラガイより多産し、冬季には夥しい数の死殻が砂浜へ打ち上げられることがある。その一方で内湾奥の軟泥底にはほぼ見られない。瀬戸内海では稲葉 (1982: 55, no. 214, as *Nitidotellina iridella*) が全域に普通としているものの、中央部では稀にしか出現しないのが実状であり、香川県では 1970 年代の畠山 (1977), 畠山・矢野 (1978, 1979) や近年の瀬尾・Tanangonan (2014) の報告のいずれもが本種に言及していない。岡山県での文献記録は岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に登載されているだけであるが、畠田和一コレクション中に「備前〔倉敷市下津井〕釜島」産の標本（「黒田〔徳米〕同定品」，合弁 1 個体，#4329；写真）が現存する。この個体は殻長 9.4 mm とまだ若く、多少不透明化しているため死後しばらく波間に洗われて浜辺へ打ち上げられた死殻とみられるが、光沢や靱帯はしっかり残っており周縁も破損せず完全である。これは当時、釜島周辺の水島諸島に本種が棲息していたことを示す、唯一の確実な証拠である。その附近は小さな島々が互いに近接し、本来ならば潮流が速く盛んに海水が入れ替わるため、瀬戸内海中央部としては珍しく外洋性の種群も棲息可能であったはずの場所であるから、本種の個体群がかつて存在したと考えても決して奇異ではない。しかしその後は現在に至るまで、本種は岡山県で一切見出されたことがない。近隣他県でも近年見出されていない本種が、本県に今なお生き残っている可能性は考えにくく、サギガイ，ウスベニマスオ，サツマアカガイなどと同様、1960 年代以降の水質汚染や浚渫による海底環境の悪化によって、完全に絶滅したと考えられる。

（福田 宏）

オオモモノハナ

Praetextellina praetexta (Martens, 1865)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯目 ギルガイ目 ニッコウガイ科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Martens (1865: 430, no. 6, as *Tellina praetexta*)。タイプ標本が図示されたことはないが、Lischke (1871b: 113, pl. 10, fig. 14, as *T. praetexta*) が「Nagasaki」(長崎)、Römer (1872 in 1841–1873: 239–240, no. 146, pl. 45, figs 8–10, as *T. praetexta*) が「Yokohama, Bucht von Jeddo」(江戸湾横浜) 産個体をそれぞれ図示し、特に Römer の図は原記載の記述によく一致すると Huber *et al.* (2015: 292, text-figs; 569, 726, 740–742) は評している。本種は長らく *Macoma* Leach, 1819 シラトリガイ属に属すとされてきたが、近年本種をタイプ種(原指定)として *Praetextellina* Huber, Langleit & Kreipl, 2015 が創設された。殻長約 30 mm, 殻高約 20 mm, 横長の卵形で薄質不透明、膨らみは弱い。殻頂は多少後方に寄り、後背縁は直線的で、後端は細まって鈍く尖る。腹縁は緩やかに彎曲する。殻表はフィルム状の薄く透明な殻皮で覆われ、鈍い光沢をもち、多少濁った桃色の個体が多く、稀に白色。色彩は全体が一様でなく、成長線に沿って色の濃淡にむらができる。内面は殻表より多少淡色。套線彎入は大きく、右殻より左殻で目立って深い。

写真： 岡山市南区米崎沖 水深 5.2 m 泥底 ドレッジ St. 6, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24559, 福田撮影。殻長 18.1 mm, 殻高 11.6 mm。



分布 タイプ産地は「Yokohama, Japan」(横浜)。北海道南部以南(馬渡他, 1985: 6)、九州までと、朝鮮半島、中国大陸沿岸(黄海, 渤海, 東シナ海)、台湾、ベトナム、オーストラリア北部から知られるが、なぜかその間のフィリピンからは報告されることがない(Kuroda, 1941: 169, no. 1404; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 49, fig. 359; Bernard *et al.*, 1993: 94; Hylleberg & Kilburn, 2003: 199; 関他, 2004: 447, fig. 1471-1-2; Wang, 2004: 283, pl. 155, fig. G; 郑他, 2013: 459, text-figs; Huber *et al.*, 2015; 王他, 2016: 129, no. 365, text-figs; 松隈, 2017: 1257, pl. 552, fig. 2)。中国沿岸には酷似した別種 *Praetextellina shanghaiensis* (Sowerby II, 1869) が本種とともに分布し、Grabau & King (1928: 181–182, pl. 5, fig. 39) が河北省北戴河から「*Tellina praetexta*」として図示した個体は本種ではなく *P. shanghaiensis* であるという(Huber *et al.*, 2015: 741)。

生息状況 外洋または内湾湾口部に面した海岸の潮下帯(水深 2~50 m)において細砂底に棲息する。潮流が速く貧栄養の砂浜が典型的なハビタットで、多産する場所ではニッコウガイ科の様々な種とともに浜辺に死殻が打ち上げられ、特に外房や遠洲灘、日本海沿岸各地など大規模な砂浜が続く場所に多い。近年は海岸開発や汚水流出によって富栄養化や泥質化が進んだことで本種も全体的に減少傾向にあり(加藤真・福田, 1996: 70; 木村昭, 2012: 123)、千葉・愛知・福岡・熊本各県のレッドリストに登載されている(野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2018)。瀬戸内海では稲葉(1982: 56, no. 216)が東部(大阪湾+播磨灘+淡路)と中央部(備讃瀬戸+備後灘・燧灘)、安芸灘に「少ない」としている通り、目にする機会はもともと少ない。中でも瀬戸内海の最も奥まった位置にある岡山県では文献記録は一度もなく、畠田和一コレクションにも標本は含まれていない。しかし 2002 年に岡山市南区の米崎沖(水深 5.2 m, 泥底)で行われたドレッジによって小ぶりの死殻半片 1 個(OKCAB M24559; 写真)が得られ、これが現時点で本県内唯一の産出記録である。当該個体は本種特有の桃色の色彩が辛うじてうっすら残っているものの新鮮とはいいがたく、最近まで生きていた個体ではなさそうに見える。本来本種が多産する場所で随伴する他の種(ヒナシタダミ、バイ、ヒメゴウナなど)がことごとく再発見されないことを考えると、本種もはや県内では絶滅している可能性がある。

(福田 宏)

ユウヒザクラ

Pristipagia ojiensis (Tokunaga, 1906)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Tokunaga (1906: 44, no. 111, pl. 2, fig. 34a, a', b, as *Tellina ojiensis*, *T. ojiana* in figure caption)。本種はつい最近までもっぱら、「Isle of Bohol; on the reefs, low water」(フィリピンのボホール、珊瑚礁上の浅海)から記載された *T. subtruncata* Hanley, 1844 in 1844–1845: 149 (Hanley, 1846a: 267–268, no. 83; 330, pl. 57, fig. 48 に図示され、タイプ標本の写真を Salisbury, 1934: 85, pl. 11, figs 2–3, as *Arcopagia subtruncata* 及び Higo *et al.*, 2001: 170, fig. B944, as *Merisca subtruncata* が公表) に同定され、*T. ojiensis* は新参異名で無効と見なされてきたが、*T. subtruncata* は本種より殻表の輪肋が繊細で、殻頂から腹縁まで桃色の派手な放射彩を走らせるなどの点で一見して区別できる別種であり、ボルネオ〜フィリピン周辺の熱帯域に固有である (Huber *et al.*, 2015: 183, text-figs; 853)。本種は殻長約 20 mm、殻高約 15 mm、前後に長い三角形でやや厚く不透明、多少膨らむ。殻頂は多少後方に寄って尖る。後背縁はわずかに丸みを帯びて短く、後端は截断状となって鈍く尖る。殻頂から後背縁に沿って、後腹隅まで低い畝が走る。前縁〜腹縁は緩やかに彎曲する。殻表は細いが明瞭な成長輪肋を等間隔に並べ、無紋で白色、淡黄色または淡紅色。内面は光沢があり、套線彎入は極端に大きく、前閉殻筋痕にほぼ近接する。筋痕は前が縦に細長く、後は円い。靱帯は後位で外在し大きく明瞭。鉸歯は殻頂直下に 2 個の強い主歯をもち、その前後に細長い側歯が伸びて、特に右殻で明瞭。軟体は未詳。



写真： 備中〔笠岡市〕白石島、畠田和一コレクション #2050、福田撮影。殻長 19.2 mm、殻高 14.3 mm。

分布 タイプ産地は「Ôji (rare)」(東京都北区王子(稀))で後期更新世の化石であるが、原記載には同時に「Living at Hakodate」(函館に現生する)と記されている。その後は北海道での明確な記録が見当たらないが、青森県陸奥湾(東津軽郡平内町浅所と上北郡野辺地町)では「Very common in this bay」(この湾ではごく普通)と報告された(野村・畑井, 1932: 6, no. 53; G. Yamamoto & Habe, 1959: 102, no. 87, pl. 14, fig. 13, as *Arcopagia (Merisca) subtruncata*)。日本海側は男鹿半島や山形県鼠ヶ関以南に知られ(鈴木庄, 1979: 238–239, no. 476, as *M. subtruncata*)、九州までのほぼ全域と沖縄(黒田, 1960: 68, no. 1969, as *A. (M.) subtruncata*)で記録がある。国外は韓国済州島(関他, 2004: 442, fig. 1454-1–2; Noseworthy *et al.*, 2007: 97; both as *M. (Pistris) subtruncata*)や台湾高雄(Kuroda, 1941: 169, no. 1399, as *A. (M.) subtruncata*; 村岡, 1972: 172, no. 3473, as *Quadrans (M.) subtruncata*)に産するとされるが、長く *T. subtruncata* と混同されてきたこともあって分布の南限はいまだ不明瞭である。

生息状況 内湾湾口部の潮下帯(水深約 10 m 以深)において細砂底に棲息し、浜辺に死殻が打ち上げられることは少ないが、浚渫砂泥や漁屑に時折含まれている。稲葉(1982: 54, no. 201, as *Merisca (Pistris) subtruncata*)は瀬戸内海の中央部では少ないものの、湾口部(紀伊水道と豊後水道それぞれの北端附近)では普通に見られるとした。しかし近年はそれほど普通とは言えず、濱村(2004: 152, text-fig., as *P. subtruncata*)は広島県大柿町で死殻のみを挙げた。香川県では瀬尾・Tanangonan(2014: 108, no. 55, pl. 4, fig. 1, as *P. capsoides* (Lamarck, 1818) [これはヌノメイチョウシラトリの学名であり、単純な転記ミスであろう])がわずかながら生貝を見出し、現在も同県に棲息していることが判明した。岡山県では文献記録はないが、畠田和一コレクション中に「備中〔笠岡市〕白石島」産の合弁 3 個体(うち 1 個体は微小な幼貝; 「*Merisca ojiensis* (Tokunaga) 黒田〔徳米〕氏同定品」, #2050; 写真)が現存する。これらの標本はいずれも摩滅や褪色が見られず、内面の光沢や靱帯も完全に保存されているため採集当時生貝もしくは死亡直後であったことは疑いが無い。しかしその後は棲息が確認されたためしがなく、かろうじて 2018 年 7 月の調査の際に、倉敷市高洲のアマモ場、及び笠岡市の漁港に挙げられた漁屑中から、それぞれ死殻半片 1 個ずつ(OKCAB M28985, M28986)が得られた。しかしその両方ともが甚だしく色落ちして光沢もなく、死後相当の年月を経たとみられる化石様の遺骸である。特に笠岡市産の個体は、やはり極端に摩滅したマクラガイやスダレガイなど、今の岡山県内での産出がほとんど期待できない種群の死殻とともに採集されたため、本種もそれらの種とともに 1960 年代以降の環境悪化を受けて滅び去ったと考えても全く不自然でない。対岸の香川県では近年も棲息が確認されていることから当面は絶滅とは断定せずにおくが、本県の潮下帯における環境の悪化ぶりを考えると、今後生貝が見出される可能性は相当に低いと言わざるを得ない。

(福田 宏)

アオサギ

Psammacoma fallax (Bertin, 1878)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Bertin (1878: 343, no. 29, pl. 8, fig. 4, 4a, as *Macoma fallax*)。従来、国内の文献の大半が本種を *Tellina praerupta* Salisbury, 1934: 90 と同定してきた。この名は *T. truncata* Jonas in Philippi, 1843 in 1842–1850: 71–72, no. 2, *Tellina* pl. 1, fig. 2 が *T. truncata* Linnaeus, 1767a: 1118, no. 60 の新参一次同名であるため与えられた置換名であるが、Huber *et al.* (2015: 284, text-figs; 723–724, 728–729) によれば *T. truncata* Jonas = *T. praerupta* は *T. gubernaculum* Hanley, 1844 in 1844–1845: 142 と同種であり本種ではない。一方、日本産個体に与えられた *Psammotreta* (*Pseudometis*) *papyracea keenae* Habe, 1964b: 202, pl. 62, fig. 15 は本種の異名である。殻長約 40 mm, 殻高約 27 mm, 前後に長い木の葉形で膨らみは弱く、薄質で壊れやすく、不透明な白色。左右の殻は非対称で、左殻が右殻より膨らみが強い。前・後端とも両殻間はわずかに開く。殻頂は後方に寄る。後背縁は短く直線的で、後端は截断状。殻頂から後腹縁へ向けて低く不明瞭な襞が走る。前背縁は長く、緩やかに彎曲して腹縁に至る。殻表は弱い成長脈の他は平滑で、殻皮は目立たない。套線彎入は大きく深い。閉殻筋痕は前が細長い楕円形で上部が細く伸長し、後は垂円形。靱帯は外在するが両殻間にやや沈み込み、後位で短く狭い。鉸歯は 2 個の小さな主歯をもつが、側歯はない。軟体は未詳。

写真： [浅口市] 寄島，1956 年 12 月 2 日，畠田和一コレクション #1696，福田撮影。殻長 47.4 mm，殻高 32.0 mm。



分布 Bertin (1878) の原記載に産地は記されていない。異名である *Psammotreta* (*Pseudometis*) *papyracea keenae* は「Tomioka, Amakusa, Kumamoto Pref., Kyushu (10–50 m, fine sandy bottom)」(熊本県天草郡苓北町富岡，10–50 m，細砂底) から記載された。太平洋側の北限は房総半島 (清水利, 2001: 128, no. 2612, as *Psamm. praerupta*)，日本海側は能登半島 (Matsuura, 1977: 157, no. 432, pl. 14, fig. 9, as *Pseud. praerupta keenae*) で、北日本には分布せず、G. Yamamoto & Habe (1959: 106, note at no. 93, pl. 10, figs 1–2, as *Macoma* (*Pseud.*) *praerupta*) は「common in bays, but has never been found in this bay [= Mutsu Bay]」(内湾に普通であるが、陸奥湾では見出されることがない) と述べている。他方、南西諸島からも記録はない。国外は中国、フィリピン、インドネシア、アンダマン海、インドを経てアフリカ東岸のタンザニアまで及ぶという (Huber *et al.*, 2015: 283–284, text-figs; 724, 728–730, 737)。

生息状況 大規模な内湾奥の潮下帯 (水深約 10–80 m) の泥底に特異的で、浜辺へ打ち上げられることは少なく、かつてはサンドポンプなどで海底からもたらされた砂の中や、底引網の漁屑中に時折混入していた。しかし近年はアワジチガイと同様に全国で極端に減少し、目にする機会がほとんどなくなってしまった種である。今世紀に入ってからの瀬戸内海では、例えば広島県芸南地方 (濱村, 2004: 156, text-fig., as *Psammotreta praerupta*) や香川県沿岸 (瀬尾・Tanangonan, 2014: 109, no. 68, as *Psamm. praerupta*) でも死殻しか報告されていない。岡山県では岡大牛窓臨海 (刊行年不詳: 52, as *Psamm. (Pseudometis) praerupta*) の目録に記載されており、畠田和一コレクションに「[浅口市] 寄島」(「[昭和] 31 [= 1956].11.21.」, 合弁 1 個体・半片 2 個, #1782, 1784; 「1956.12.2.」, 合弁 1 個体, #1696, 写真; 「波部 [忠重] 氏同定 1956.12.」, 合弁 1 個体, #4008) と同一産地で 1956 年初冬に集中的に採集された標本が含まれている。合弁個体の一部は光沢や靱帯もよく保存され、採集時は生貝もしくは死亡後まもない状態であったと考えられる。本種と同時に *Glossaulax reimana* (Dunker, 1877) ハナツメタ 27 個体 (#1777), ハナムシロ 21 個体 (#1773), モミジボラ 171 個体 (#1772) など潮下帯泥底に多産する様々な種が採集されていることから、恐らくはそれらの全体が、寄島漁港に水揚げされた漁屑に由来するのであろう。特にモミジボラの大半は生貝でありながら殻表が真っ黒に染まっていることから、棲息していた海底はかなり富栄養で還元的な環境であったと推測される。これら畠田標本以降、上記の牛窓臨海の日録を別にすれば、本種が県内で見出されたという確実な情報や証拠の標本は一切ない。同時に、この寄島産の標本一式には本種と同様、その個体を最後に県内で再発見されないままの種がいくつも含まれている (ナガニシ (#1768), アワジタケ (#1794), カクレイシマテ (#1792), ウスベニマスオ (#1765), アワジチガイ (#1764, 1783, 1788) など)。つまり 1956 年当時に寄島町沖の潮下帯で見られた貝類相はその後著しく多様性を低下させ、多くの種が消滅したことは明らかである。本種やアワジチガイはもともと、湾奥で自然に絶妙なバランスの上に形成される富栄養かつ還元的な泥底を好んで棲息していたと考えられるが、同様の場所は往往にして海岸に近い埋め立てなどで物理的に破壊されやすい上に、市街地や工場群から流入する汚排水の影響をもろに被り、赤潮や化学物質などの直撃を受けて短期間で壊滅した可能性が高い。今も岡山県のどこかに本種が生き残っていると考えるのは困難である。

(福田 宏)

トゲウネガイ

Quadrans spinosus (Hanley, 1844)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Hanley (1844 in 1844–1845: 148–149, as *Tellina spinosa*) で、のちに Hanley (1846a: 264–265, no. 77, pl. 57 [“lviii” in text], fig. 40) に図示された。タイプ標本の写真を Higo *et al.* (2001: 170, fig. B957, as *Quadrans spinosa* [sic]) が公表している。*T. [(Q.)] minor* Bertin, 1878: 267, no. 90, pl. 9, fig. 5a–c (*T. balthica* Var. 2. *minor* Jeffreys, 1864 in 1862–1869: 376 の新参一次同名) 及び *Q. parvitas* Iredale, 1931: 207, pl. 22, figs 10–12 (*T. minor* Bertin の置換名; ALA, 2019 にシタイプの写真あり) は新参異名。松隈 (2003: 73) は *T. spinosa* と *Q. parvitas* を別種と考え、前者に対してルソントゲウネガイと和名を新称し、日本産トゲウネガイは後者に相当するとした。その後 Huber *et al.* (2015: 184, text-figs; 595, as *Q. (Spinans) spinosus*) はインド-太平洋域の広範囲から標本を検査した上で上記2名を異名とした。ここでは Huber らの見解を支持し、トゲウネガイとルソントゲウネガイを従来通り同種とみなす。*Spinans* Huber *et al.*, 2015: 595 のタイプ種。*Quadrans* Bertin, 1878: 229, 265–266 の性は男性のため、種小名の語尾は *-us* とするのが正しい (属の記載者 Bertin 自身が誤っている)。殻長約 10 mm, 殻高約 8 mm, 前方に引き伸ばされた三角形、やや厚く不透明、膨らみは弱い。殻頂は後方に偏り、ほとんど傾かず真上に向けて尖る。前縁～腹縁は丸く彎曲し、後背縁は直線的で急勾配をなし、後端は短く截断状。殻頂から後背縁に沿って後腹隅まで 3 本の畝が走り、その上に鋭い棘状突起が等間隔に並ぶ。殻表は細密で明瞭な成長輪肋を等間隔に並べ、鈍い光沢を帯び、白色または淡い檸檬色で、透し彫り状の白斑を不規則に散らす個体もある。内面は光沢が強く、套線彎入は極端に大きくて前閉殻筋痕に癒合する (波部, 1952a: 216, figs 560–561, as *Arcopagia (Q.) spinosa*; 1977a: 201, pl. 40, figs 7–8, as *Q. spinosa* [sic] の套線の図は誤り)。筋痕は前後とも小さく、前は楕円形で後は円い。靱帯は後位で外在し短い。鉸歯は殻頂直下に 2 個の強い主歯をもち、その前後の背縁に沿って細長く明瞭な側歯が未広がり の籠状に伸びる。軟体は未詳。



写真： 備中〔笠岡市〕白石島、畠田和一コレクション #5613, 福田撮影。殻長 7.6 mm, 殻高 6.1 mm。

分布 タイプ産地は「Isle of Ticao, six fathoms」(フィリピンのティカオ島, 6 尋)。異名である *Tellina [(Quadrans)] minor* は「la Nouvelle-Calédonie」(ニューカレドニア), *Q. parvitas* は「Sydney」(オーストラリアのシドニー) からそれぞれ記載された。太平洋側は房総半島館山湾以南 (清水利, 2001: 126, no. 2585, as *Q. parvitas*), 日本海側は佐渡島以南 (伊藤勝, 1978: 212, no. 250; 1979: 48, no. 176, both as *Q. spinosa* [sic]) の西南日本に広く見られ、南西諸島 (久保, 1995: 191, fig. 8; 名和, 2009: 64, no. 496, pl. 13, fig. 4, as *Q. parvitas*), タイ, フィリピン, インドネシア, ニューカレドニア, 北オーストラリア, ミクロネシア～ポリネシア, さらにインド洋のマスカルリン諸島, マダガスカルまで分布する (Lyngø, 1909: 196, as *T. (Q.) minor*; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 48, fig. 353, as *T. (Q.) parvitas*; 松隈, 2003; 2017: 1254, pl. 550, fig. 8, as *Q. parvitas*; Huber *et al.*, 2015)。

生息状況 外洋もしくは内湾湾口部において潮間帯下部～水深約 100 m の砂底に棲息する熱帯太平洋系種で、沖縄県では「モート, アマモ場の細砂底。低潮線直下」(久保, 1995) や「低潮帯, 海草藻場, 粗砂泥底」(名和, 2009) に産するとされる。九州以北でも同様に、波穏やかながら潮流の入れ替わりが盛んで清浄な砂底のアマモ場周辺に見られ、多産する場所では砂浜に死殻が打ち上げられるとともに浚渫砂の中にも見出される。その一方で湾奥の富栄養な環境には産しない。稲葉 (1982: 54, no. 204, as *Q. spinosa* [sic]) は瀬戸内海全域に普通とした。しかし近年は沿岸各県で強い減少傾向が認められ、濱村 (2004: 153, text-fig., as *Q. parvitas*) は広島県倉橋島からタマガイ科の捕食痕が開いた死殻のみを挙げた。瀬尾・Tanangonan (2014: 109, no. 57, as *Q. parvitas*) による香川県での報告はさらに深刻で、「燧灘では死殻が確認されるが、備讃瀬戸では全く確認できない。[*Jactellina clathrata* (Deshayes, 1835)] シボリザクラヤサギガイと同所的に生息すると思われるが、両種と共に新鮮な死殻はほとんど採集されなかった」と警鐘を鳴らしている。岡山県では波部・増田 (1990: 111, no. 1816, as *Q. spinosa* [sic]) が野口博コレクション中に「〔笠岡市〕白石島」産の標本があることを公表し、また畠田和一コレクション中にもやはり「備中白石島」産 (「*Quadrans spinosa* (Deshayes) トゲウネガヒ 黒田〔徳米〕氏同定品」, #5613, 写真; 「1954.8.20」, 合弁 1 個体, #5832) の 2 ロット計 12 個体 (全て合弁) が現存する。その全個体が新鮮であることから 1950 年代までの白石島には浅海に高密度で多産し、砂浜に死殻が頻りに打ち上げられていたと推測される。しかしその後は現在に至るまで県内全域で一切確認されず、2018 年の白石島における調査でも破片すら見いだせなかった。香川県ではまだ死殻は見られるのに対し、岡山県ではもはやそれすら得られない状況にある。1960 年代以降の汚水流出による富栄養化や、度重なる海底浚渫による棲息環境の物理的な変質により、かつて存在した本種の個体群のほぼ全てが失われたことは明らかである。現時点で本種をレッドリストに挙げているのは千葉県 (同県環境生活部自然保護課, 2019: 30, no. 915, 「要保護生物」) のみであるが、今後は瀬戸内海での甚だしい減少ぶりを重視すべきである。

(福田 宏)

サギガイ

Rexithaerus sector (Oyama, 1950)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 本種に対する最古参名は *Tellina japonica* Deshayes, 1855b: 356 であるが、この名は *T. japonica* Thunberg, 1815: 147-148, pl. 5, fig. 2 の新参一次同名で無効となり、大山 (1950: 3-4) が新名 *Macoma (Rexithaerus) sector* を与えた。それ以前は長らく *T. secta* Conrad, 1837: 257-258 に同定されていたが、その種は「muddy marshes; Sta. Diego」(アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ、泥干潟) をタイプ産地とし、北米西岸ペーリング海に固有の別種で、キタノサギガイの和名で知られる (鹿間, 1964: 86-87, fig. 159-9; 波部, 1977a: 210; both as *M. (R.) secta*)。一方, Amano *et al.* (1999: 101-102, figs 3-4, 3-7, 4-1, 4-3, 4-5, as *M. (R.) sector*) によれば *M. hokiensis* Akutsu, 1964: 287-288, pl. 60, fig. 8 は本種の新参異名。殻長約 40 mm, 殻高約 35 mm, 横長で扁平な木の葉形で薄質不透明。左右の殻は非対称で、右殻が左殻より膨らみが強い。前・後端とも両殻間は狭く開く。殻頂は中央からわずかに後方に寄る。後背縁はやや截断状で後端は鈍く尖る。殻頂から後腹縁へ向けて低い稜角が走る。前背縁及び腹縁は緩やかに彎曲する。殻表は弱い成長脈の他は平滑で、薄く半透明な淡褐色の殻皮で覆われ、鈍い光沢をもつ雪白色で、内面も同色。套線彎入は大きく深い。閉殻筋痕は前が楕円形、後は上部が縊れて細まる。靱帯は外在し、後位で大きく厚い。鉸歯は 2 個の小さな主歯をもつが、側歯はない。軟体は無色半透明で、足は大きくて幅広く、水管はこの科の他種と同様に入水管と出水管が根元から分かれて、それぞれ細長く伸びる。

写真： 備前 [現・玉野市] 山田村、畠田和一コレクション #2172, 福田撮影。殻長 48.8 mm, 殻高 37.1 mm。



分布 無効となった *Tellina japonica* Deshayes のタイプ産地は「Japan」。大山 (1950) による *Macoma (Rexithaerus) sector* の原記載では「模式標本は相模灣 (江ノ島) 産である」とされたが、その際に新名の対象として引用された Yokoyama (1922: 143-144, no. 224, pl. 11, fig. 1, as *M. secta*) の検討標本を Amano *et al.* (1999) がレクトタイプ指定したため、その産地である「Otake」(千葉県成田市大竹, 更新世成田層化石) がタイプ産地となる (Deshayes の検討標本もロンドン自然史博物館に現存し、これはパラレクトタイプである: Callomon, 2000: 57-58, fig. 1, as *M. (R.) sector*; Higo *et al.*, 2001: 171, fig. B1002)。 *M. hokiensis* は「Along the Hōki River, Sekiya, Shiobara-machi, Shiyoa-gun, Tochigi Prefecture. Uppermost part of the Kanomatazawa formation. Miocene」(栃木県塩谷郡塩原町関谷, 箒川沿い。中新世鹿沢層最上部) から記載された化石である。現生個体の分布域の北限は最近の図鑑 (e.g. 木村昭・福田, 2012: 123, text-figs a-b, as *M. (R.) sector*; 松隈, 2017: 1258, pl. 552, fig. 11, as *M. sector*) でも「サハリン」とされているが誤りで、北海道以北に産するのは本種でなく *R. hokkaidoensis* (Amano & Lutaenko in Amano *et al.*, 1999: 96-97, figs 3-1-3, 5-6, 8, as *M. (R.) hokkaidoensis*) エゾサギガイ (タイプ産地は「Oshamanbe, Hokkaido, Recent」, 北海道山越郡長万部町, 現生) である。Amano *et al.* (1999: fig. 1) の分布地図によれば本種の北限は太平洋側が福島県常磐沖 (根本・秋元, 1990: 14-15, no. 197, pl. 11, fig. 7, as *M. sector*)、日本海側が男鹿半島 (西村正・渡部景, 1943: 73, no. 248, as *M. (R.) secta*) となるが、G. Yamamoto & Habe (1959: 106, no. 93, pl. 9, figs 1-2, as *M. (R.) sector*) は青森県陸奥湾から本種を報告しているため、実際には本州の北端からほぼ全域・四国・九州に分布するとみられる。国外は朝鮮半島 (関他, 2004: 449, fig. 1479-1-2)、中国 (Huber *et al.*, 2015: 292, text-figs; 739-740) から知られる。なお Poppe & Langleit (2011: 338, pl. 1164, figs 6-7, as *M. (R.) sector*) が本種として図示したフィリピンの「Mactan Island. Punta Engaño. 180 m」産個体は、本種とは似ても似つかない全くの別種で、誤同定である。

生息状況 外洋の比較的波穏やかな場所、もしくは潮通しの良い内湾の潮間帯下部～潮下帯 (水深約 30 m まで) において細砂底に棲息する。1970 年代前半ごろまでは各地の砂浜に新鮮な合弁死殻が多数打ち上げられ、ごく普通に見られる種であったが、近年は国内の分布域全体で減少傾向が著しい (木村昭・福田, 2012)。代表的な多産地の一つであった瀬戸内海でも、現在は干潟で生貝が確認できる場所は皆無となり、死殻を目にする頻度すらめっきり減った。瀬尾・Tanangonan (2014: 109, no. 66, pl. 4, fig. 5, as *M. sector*) による 2009～2013 年の香川県での調査では、少数の死殻が得られたのみと報告されている。岡山県では大垣内 (1968b: 71) が倉敷市玉島黒崎の沙美海岸で採集したと述べているほか、畠田和一コレクションに「備前 [現・玉野市] 山田村」(半片 1 個, #2172; 写真) が現存する。ところが驚くべきことに、この畠田標本の半片 1 個だけが、岡山県での本種の産出を確実に証拠立てる唯一の貴重な標本となってしまった。それ以降現在に至るまで、本県では破片 1 個たりとも確認されていないからである。本種は本来なら浅海に多産する種であり、個体群が健全に存続しているならば浜辺に多くの合弁死殻が打ち上げられるはずであるが、それが一切見られなくなったのはもはや県内から完全に滅び去ったことの反映と考えられる。シラオガイやハマグリなどと同様に清浄な細砂底に特異的な種であり、おそらく水質悪化 (汚水流入や赤潮の頻発など) に弱く、それらが長期にわたって発生し続けた 1960～80 年代に県内の個体群は一掃されたと推測される。また海岸の埋め立てや干拓、海底の砂の浚渫も本種に悪影響を与えたことは確実である。

(福田 宏)

イチョウシラトリ

Serratina diaphana (Deshayes, 1855)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 現存産地が県内に1箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 原記載は Deshayes (1855b: 364–365, no. 216, as *Tellina diaphana*) で、Sowerby II (1868 in 1866b–1869: sp. 302, pl. 51, fig. 302, as *T. diaphana*) 及び Römer (1871 in 1841–1873: 47–48, no. 27, pl. 13, figs 7–9, as *T. diaphana*) に図示され、タイプ標本の写真を Higo *et al.* (2001: 170, fig. B940s, as *Merisca diaphana*) と Ujino & Matsukuma (2013: 185–186, figs 4A–E, 6B, E) が公表している。*T. (M.) pristiformis* Pilsbry, 1901f: 400–401, pl. 19, fig. 8 は新参異名(そのシノタイプも Higo *et al.*, 2001 と ANSP, 2019: #71029 に写真あり)。かつて Boss (1969: 113, pl. 6, fig. 4; pl. 8, figs 5–6; pl. 14, fig. 3) は *T. pristis* Lamarck, 1818: 531, no. 41 トゲイチョウシラトリや *T. capsoides* Lamarck, 1818: 531–532, no. 44 スノメイチョウシラトリなどインド–太平洋域から記載された12もの種名を異名と見なして本種もその中に包含し、H. Yamashita *et al.* (1997: 101–115, figs 1–26, 29) などその後の著者もこれを踏襲してきたが、近年の Ujino & Matsukuma (2013) や Huber *et al.* (2015: 588) の再検討によって本種は独立種とされた。殻長約45 mm、殻高約30 mm、前後に長い亜三角形、やや厚く不透明、膨らみは弱くほぼ扁平。殻頂はほぼ中央にあり、前～腹縁は緩く彎曲して丸く、後背縁は直線的で後端は截断状。殻頂から後背縁に沿って後腹隅まで二重の太い稜が走り、これは右殻で強く左殻で弱い。殻表は白色無紋、光沢は弱く、顕著な成長輪肋が等間隔に並んで板状に立つが、放射状の彫刻はない。内面は白色で光沢があり、套線彎入は著しく大きく膨らみ、前閉殻筋痕にほぼ近接する。筋痕は前が細長い瓢箪形で、後は円い。靱帯は後位で外在し、大きく強靱。鉸歯は殻頂直下に2個の主歯をもち、その前後に低い側歯が細長く伸びる。足は白色で大きく、水管は収縮時は不透明な茶褐色であるが、長く伸長すると無色半透明に見える。



写真： 備前市鹿久居島現寺，2018年4月27日，OKCAB M28987，福田撮影。

分布 タイプ産地は「Japan」。異名の *Tellina (Merisca) pristiformis* は「Inland Sea of Japan」(瀬戸内海：恐らく岡山県)から記載された。*Serratina* Pallary, 1920: 95 に属す種の中で世界最北の分布域をもち、北海道 (Boss, 1969) から本州・四国・九州沿岸までと朝鮮半島 (関他, 2004: 442, fig. 1453-1-2, as *M. (Pistris) capsoides*)、中国南部 (廈門, 北海, 海南島, 香港) に産する (Ujino & Matsukuma, 2013)。南西諸島にはスノメイチョウシラトリなど同属の別種は見られるが、本種は産出しない。フィリピン、オーストラリア、メラネシア、インド洋、紅海などからの記録も全て近縁な別種の誤同定である。

生息状況 大規模な内湾奥に形成される軟泥干潟の潮間帯に特異的で、ハイガイなどに随伴する。かつては北海道から九州まで広範囲に見られたことを文献記録や博物館標本が伝えているが、戦後の干潟消失とともに大方の地方で絶滅または激減し、近年生貝が確認されているのは英虞湾、瀬戸内海の一部、今津湾、伊万里湾、有明海、八代海、天草、宮崎県などわずかしかなく、現存個体群は相互に孤立している (山下博・木村昭, 2012: 129)。ハイガイと並んで近代日本で最も減少し、極端な危機的状況に追い込まれた干潟棲貝類の一つである。岡山県では Y. Hirase (1907e: 44, no. 601, as *Tellina Diaphana*) が「Bichu」(備中)産個体を目録に挙げたのが記録の嚆矢で、以後も平瀬興 (1910: 44, no. 929, as *T. diaphana*; 備中)、岩川 (1915: app. 41, no. 350, as *T. diaphana*; Bicchū)、横山 (1931: 11, no. 366, as *T. diaphana*; 備中)、池邊 (1936: 203, 204, fig. 8a–b, as *Arcopagia (Merisca) diaphana*; Okayama Pref.)、平瀬信・瀧庸 (1951: pl. 44, fig. 2, as *M. diaphana*; Okayama-ken)、窪田 (1962: 163, no. 2315, as *A. (M.) diaphana*; 備中 [浅口市] 安倉・[倉敷市] 連島)、Boss (1969; Otoshima, Bitchu [倉敷市玉島乙島]) に言及され、貝類分類学関係文献に登場した回数は岡山県産貝類全種の中でもハイガイと双璧の多さを誇る。また桂 (1932: 35, text-fig.) が当時の岡山県の貝類方言をまとめた際、「浅口郡 [現・笠岡市] 大島村」で「オー」の名で呼ばれていた種として挙げた絵は、紛れもなく本種である。つまり戦前まで岡山県産の本種は、地元の人々から全国の貝類研究者・愛好家に至るまで遍くその存在を知られていたわけで、まさに本県の貝類相を代表する種であったと言える。畠田和一コレクション中にも「[岡山市東区] 犬島」(1個体, #4490)、「[同市南区] 阿津」(「S27 [=1952]」, 4個体, #6507)、「[同区] 甲浦村」(1個体, #6981)、「浅口郡安倉」(「昭和九 [=1934] 年三月廿日」, 8個体, #7332) 産の4ロット計14個体が現存し、全てが合弁で、大半が採集時に生貝であったとみられる。しかし1959年の児島湾閉め切りによって最大の個体群が一挙に消滅し、高梁川河口域や笠岡湾でも干拓・埋め立ての拡大に比例した干潟消失と水質汚染が本種の個体群を絶滅に至らしめた。その結果近年は古い死殻がごく稀に見られるのみとなったことから、本県レッドデータブック前版 (福田, 2010a: 384, as *T. capsoides*) では絶滅とした。ところが2018年3月、備前市鹿久居島での調査で、同島現寺の小規模な干潟の一角において本種の生貝 (OKCAB M28987; 写真) が複数見出され、県内から完全に滅び去ったわけではなかったと判明した。これは児島湾閉め切り以降初の本種の生存確認であり、瀬戸内海中央部に唯一残った個体群の発見でもある。同地は岸辺に護岸もほとんどなく、現在の岡山県では例外的に干潟本来の景観が保たれ、その場で本種は幼貝から老成個体まで様々な成長段階の生貝が見られるため個体群が維持されているのは確実である。戦後の本県で生じた貝類の大量絶滅を考えると、今ごろになって本種の棲息地が発見されたのは奇蹟的である。この貴重極まりない場所と個体群が損なわれないよう、最大限の配慮と注視が必要である。

(福田 宏)

アワジチガイ

Sylvanus lilium (Hanley, 1844)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ科 ニッコウガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Hanley (1844 in 1844-1845: 147, as *Tellina Lilium*)。新参異名が 4 つある：Deshayes (1855b: 355, 357, nos 172, 182) による *T. moretonensis* と *T. donaciformis* のほか、*T. Essingtonensis* Sowerby II, 1866b: sp. 73, pl. 15, fig. 73, 及び *Macoma awajiensis* Sowerby III, 1914: 38-39, pl. 2, fig. 11 である。このうち最も新しい *M. awajiensis* が日本で広く用いられてきたが、Huber *et al.* (2015: 286-287, text-figs; 569, 733) の検討の結果無効名となった。また波部 (1977a: 210) は *Psammotaea candida* Lamarck, 1818: 517-518, no. 6 を本種と「同種と思われる」と述べ、実際にこれを本種の有効名とした文献も散見される (e.g. Kuroda & Habe, 1981: 134; 石井, 1987: 14, 28, pl. 12, fig. 11a-b; both as *M. (Psammacoma) candida*; Bernard *et al.*, 1993: 94, as *M. candida*)。しかしこの名が指す種はアオサギに近縁で、本種とは明らかに異なる別種である。殻長約 30 mm, 殻高約 18 mm, 前後に長い楕円形, やや膨らみ, 不透明な白色で薄く壊れやすい。左右の殻は非対称で左殻が右殻よりわずかに膨らみが強い。後端のみ両殻間が開く。殻頂は後方に寄り, 後背縁は短く, 後端は尖る。前背縁は長くほぼ直線的で, 前縁は丸い。腹縁は後端付近で多少波打つ。殻表は弱い成長脈及び微細な放射状彫刻をほぼ全体に刻み, 殻皮は透明で目立たず, 鈍い光沢を帯びる。套線彎入は大きく深い。閉殻筋痕は前が小さく細長い楕円形, 後は大きな垂円形で, 前・後とも上部が尖る。靱帯は外在するが両殻間にやや沈み込み, 後位で短く狭い。絞歯は 2 個の小さな主歯をもつが, 側歯はない。軟体は未詳。

写真： [浅口市] 寄島, 1956 年 11 月 21 日, 畠田和一コレクション #1764, 福田撮影。殻長 26.0 mm, 殻径 14.8 mm。



分布 タイプ産地は「Isle of Burias, sandy mud, low water; and isle of Negros, coral sand, seven fathoms」(フィリピンのブリアス島, 低潮帯砂泥底; 及びネグロス島, 珊瑚砂底, 7 尋)。異名となった *Tellina moretonensis* は「Moreton Bay」(豪州北部, ブリスベンのモートン湾), *T. donaciformis* は「Torres Straits」(豪州最北端のトレス海峡), *T. essingtonensis* は「Port Essington」(豪州ノーザンテリトリー州のポート・エシントン), *Macoma awajiensis* は「Awaji」(兵庫県淡路島) からそれぞれ記載された。太平洋側は房総半島以南, 日本海側は能登半島以南, 九州まで分布し (波部, 1952a: 220, figs 544-545; 1977a: 210, pl. 42, figs 13-14; both as *M. (Psammacoma) awajiensis*; 清水利, 2001: 128, no. 2610, as *M. awajiensis*), 国外は中国沿岸, タイ, シンガポール, フィリピン, 豪州北部 (Lyng, 1909: 207-208, pl. 4, figs 1-2, as *T. (M.) lilium*; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 49, fig. 365, *Exotica* (*E. donaciformis*); Swennen *et al.*, 2001: 86, fig. 144, as *M. awajiensis*; Huber *et al.*, 2015; 王他, 2016: 129, no. 366, text-figs, as *E. awajiensis*) から知られる。なお Poppe & Langleit (2011: 338, pl. 1164, figs 8-9) がフィリピンから「*M. (P.) awajiensis*」として図示した個体は本種ではなく, 同属の別種 *Sylvanus anatinoides* (Sowerby III, 1915) である。

生息状況 アオサギと同様, 大規模な内湾奥の潮下帯 (水深約 2~100 m) の泥底に特異的で, かつてはこれら 2 種が同時に確認される機会が多かった。そして現在は両種ともに国内から姿を消しつつある。明治以降の日本の文献を回顧すると, *Macoma awajiensis* のタイプ産地である淡路島での記録は, 矢倉 (1932: 14, no. 182, as *M. [(Psammacoma)] awajiensis*) が和名を「アハヂチガヒ」と新称した以後も繰り返し現れるが (e.g. 平瀬信・瀧庸, 1951: pl. 45, fig. 6, as *M. awajiensis*; 窪田, 1962: 164, no. 2327, as *M. (P.) awajiensis*), 同島周辺以外の瀬戸内海沿岸では戦前の広島県 (瀧巖, 1938: 35, no. 514, as *M. (P.) awajiensis*) で「倉橋島」のみ, 戦後の山口県 (河本・田邊, 1956: 80, no. 959, as *M. (P.) awajiensis*) で「広島湾, 小野田」のみが産地として挙げられており, もともと産地が局限されていたらしい。最近 50 年間ではもはや滅多に目にすることのできない種と化し, 濱村 (2004: 155, text-fig., as *M. awajiensis*) は広島県仁方・下蒲刈・蒲刈各町において「死殻の半片ばかりで生貝を確認できない」と嘆いた。岡山県では文献記録はないものの, 畠田和一コレクションに「[浅口市] 寄島」(「1956.12.2.」, 半片 2 個, #1697; 「[昭和] 31 [= 1956].11.21.」合弁 8 個体・半片 4 個・破片 1 個, #1764, 1783, 1788; 写真) が現存し, これはアオサギの項で触れた, 寄島港揚がりの漁屑由来と推定される様々な種の標本と同じロット中に含まれている (それら以外に産地不詳だが恐らく岡山県産とみられる半片 1 個 (#6537) がある)。これらの標本が, かつて岡山県内に確かに本種が棲息していたことを証明する唯一の証拠である。これ以降はアオサギともども, 本種は一度たりとも県内で見出されることがない。1950 年代半ばまでは, 浅口市附近の岸辺からそう遠くない浅海底に両種の個体群が存続していたことは確実であるが, 高度経済成長期の開発と海底浚渫並びに水質汚染によって絶滅したと考えられる。本種とアオサギは環境省のレッドリストには未掲載であるが, 岡山県のみならず他の都道府県でも減少傾向が著しい (本種は千葉・愛知・熊本各県のレッドリストで絶滅危惧 I 類, 福岡県で絶滅危惧 II 類, アオサギは千葉県と大阪府で絶滅, 愛知・熊本両県で絶滅危惧 I 類, 福岡・長崎両県で情報不足とされている: 野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2018)。このため, 今回の岡山県での検討を足がかりに, 早急に全国レベルでの稀少性評価と保全対策が必要である。

(福田 宏)

キュウシュウナミノコ

Donax kiusiuensis Pilsbry, 1901

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 フジノハナガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Pilsbry (1901c: 207–208) で、同年 Pilsbry (1901g: 400, pl. 20, fig. 19) により図示された。シントタイプの写真は Higo *et al.* (2001: 174, fig. B1082) にも公表されている。*Donax paululus* Yokoyama, 1927b: 455–456, no. 20, pl. 52, fig. 6 (Oyama, 1973: 110, pl. 52, fig. 1a–b, as *D. (Tentidonax) kiusiuensis* にも再録) 及び *Tellina trigonoides* Grabau & King, 1928: 90–91; 183, no. 42, pl. 7, fig. 42 はともに新参異名。殻長約 8 mm, 殻高約 4.7 mm, 横長の三角形, やや厚く堅固で不透明, 膨らみは弱い。殻頂は多少後方に寄り, 前背縁・後背縁とも直線的で前者は長く後者は短い。前端・後端ともに鈍く尖る。腹縁は緩やかに彎曲する。殻表は光沢をもち, 成長輪肋以外は概ね平滑であるが, 後背部では背縁と平行に細かい放射状の彫刻が走って布目状を呈する。多くは白色で, 紫褐色または淡茶褐色の不明瞭で幅広い放射帯を殻頂から腹縁へ走らせる。腹縁内面は細かく刻まれるが前端では平滑となる。套線彎入はやや深い。靱帯は小さく, 後位で外在する。鉸歯は 2 個の強い主歯と前・後側歯からなり, 右殻には左殻の側歯を入れる窪みがある。軟体は無色半透明で, 水管は細く短い。外套膜縁は殻の腹縁内側に対応して細かい鋸歯状の突起を並べる (福田・久保, 2012: 131, text-figs, as *D. (Tentidonax) kiusiuensis* に生体写真あり)。

写真： 瀬戸内市牛窓町鹿忍 矢寄ヶ浜, 2002 年 7 月 28 日, OKCAB M28809, 福田撮影。殻長 7.4 mm, 殻径 4.5 mm。



分布 タイプ産地は「Hirado, Hizen」(長崎県平戸)。*Donax paululus* は「Matsudo」(千葉県松戸市, 更新世化石), *Tellina trigonoides* は「Peitaiho」(中国河北省秦皇島市北戴河) からそれぞれ記載された。太平洋側は北海道函館市以南, 日本海側は男鹿半島以南, 九州までと, 南西諸島, 朝鮮半島, 中国大陸沿岸 (渤海, 東シナ海), 台湾, 海南島から知られる (Kuroda, 1941: 167, no. 1378, as *D. (Chion) kiusiuensis*; 西村正・渡部景, 1943: 73, no. 240, as *D. (C.) kiusiuensis* [sic]; Habe, 1951b: 71–72, no. 2, pl. 12, figs 3–4, as *D. (C.) kiusiuensis*; 岡田他, 1959: 210, no. 1457, as *D. (C.) kiusiuensis*; 黒田, 1960: 67, no. 1931, as *D. (Tentidonax) kiusiuensis*; 堀越他, 1963: 131, as *D. (Tentidonax) kiusiuensis*; 波部・伊藤潔, 1965: 147, pl. 51, fig. 4, as *Tentidonax kiusiuensis*; 村岡, 1972: 170, no. 3431, as *D. (Tentidonax) [sic] kiusiuensis*; Wang, 2004: 289, pl. 157, fig. K)。Oyama (1973: 110, pl. 52, fig. 1a–b, as *D. (Tentidonax) kiusiuensis*) は本種の分布南限を台湾の高雄市としているが, 王他 (2016: 132, no. 375, text-figs) はそれよりさらに南に位置する海南島西岸の「東方市感城镇」産標本を図示している。

生息状況 主として外洋に面した長い砂浜に産するが, 内湾湾口部に見られることもある。清浄な細砂底の汀線附近から潮下帯上部において, 多くの場合同科同属の *Donax cuneatus* Linnaeus, 1758 ナミノコや *D. semigranosus* Dunker, 1877 フジノハナガイと随伴するが, 後 2 種より産地が格段に少なく, 本種だけが欠けている場所が多い (福田・久保, 2012)。瀬戸内海でも稲葉 (1982: 53–54) はナミノコとフジノハナガイは目録に含めているものの本種は記載しておらず, 近隣他県からの他の文献記録も最近まで見当たらなかったが, 唯一瀬尾・Tanangonan (2014: 109, no. 69, pl. 4, fig. 6, as *Latona kiusiuensis*) が香川県の湊渚砂から死殻を見出して図示している。岡山県でも文献上の記録は皆無で, 畠田和一コレクションにも標本はないが, 2002 年 7 月に瀬戸内市牛窓町鹿忍の矢寄ヶ浜において, 多数のサクラガイとともに打ち上げられていた本種の死殻半片 1 個 (OKCAB M28809; 写真) が得られた。この個体は光沢や色彩もよく保存され, 死後さほど時間は経過していなかったとみられ, 当地附近に個体群が存在する可能性がある。上記香川県での産出ともほぼ同時期であるため, これら 2 つの記録は密接に関係した一連の現象かもしれない。しかしその後追加個体は確認されておらず, もし棲息しているとしてもごく狭い範囲に少数が産するのみと推測される。瀬戸内海沿岸の他県でも従来滅多に記録されなかった本種が, よりによって海産貝類の多様性が沿岸全県中で最も低下した岡山県において, しかも最近になって初めて見出されたのは驚くべきことである。本県では戦後の環境悪化によって一旦海産貝類の多様性が甚だしく低下し, それ以前の時代には少数ながら見られた外洋や湾口に特異的な種群 (ダンベイキサゴやワスレガイなど) がことごとく絶滅した。しかし本種の産出は, 今もなおそれらの種の浮游幼生が太平洋から紀伊水道または豊後水道経由で伝播してきており, 環境条件が整った場所では定着に至る可能性がわずかながら残されていることを示唆する。もし今後本種が本県内で増加傾向に転じ, 継続して生貝が確認できるようになるとしたらその時は, 県内で一度絶滅してしまった他の種も新規に復活しているかもしれない。この意味で本種の今後の動向は注目に値する。

(福田 宏)

オチバ

Gari chinensis (Deshayes, 1855)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Deshayes (1855b: 348, no. 145, as *Capsa* (*Capsella*) *chinensis*) で、シントタイプの写真を Higo *et al.* (2001: 173, fig. B1064, as *Psammotaea chinensis*) が公表している。*Soletellina moesta* Lischke, 1872: 107 (Lischke, 1874: 99–100, pl. 8, figs 4–6 に「prope Jedo」(江戸附近) 産個体が図示されたが、Cosel, 1998: 28, 46 によればタイプ標本は再発見されていない) 及び *Sanguinolaria* (*P.*) *castanea* Scarlato, 1965: 53–54, pl. 5, fig. 4 (*Capsa* (*Capsella*) *chinensis* を *Solenotellina* [sic] *chinensis* Mörch, 1853 タイワンキヌタの新参同名と誤認したことによる不要な代替名) は新参異名。別名コムラサキガイ、ハマフジ。従来国内で刊行された文献の大半は本種を *P. virescens* (Deshayes, 1855b: 349, no. 149, as *Capsa* (*Capsella*) *virescens*) (タイプ産地は「—?」(不詳); Higo *et al.*, 2001: 173, fig. B1056, as *P. virescens* がシントタイプを図示) に同定してきたが、その種は本種より小形で前後に細長く、套線彎入が短くて幅広く丸い点で識別可能な別種であり、中国南部～フィリピンに分布が限られ日本には産しない (Huber, 2010: 329, text-figs; 695; Lutaenko & Noseworthy, 2018: 27–29)。また一時期本種の異名とされていた *Capsa* (*Capsella*) *tenuis* Deshayes, 1855b: 349, no. 147 (タイプ産地は「Philippines」) は *P. virescens* の異名である。殻長約 30 mm, 殻高約 16 mm, 横長の楕円形, 薄く不透明, 膨らみは弱い。殻頂はほぼ中央にあってさほど隆起しない。前端は丸く後端は截断状, 腹縁は直線的。両殻の間は開く。殻表はオリーブ色の光沢ある殻皮で覆われ, 弱い成長脈の他は平滑で, 地色は白く, 殻頂から前後に紫褐色の八の字形の模様をもつとともに同色の細かい斑点を全体に散らし, これらの彩色は内面でより明瞭に現れる。一方で, 同属の近似種 *G. crassula* (Deshayes, 1855) ハザクラに顕著な殻頂から腹縁まで届く放射帯は本種には生じない。套線彎入は深く細長く, 上下水平となる。靱帯は筒状で大きく, 後位で外在。鉸歯は 2 個の小さく鋭い主歯からなり, 側歯はなく, 横長の歯丘が発達する。軟体は半透明のベージュ色で, 水管は伸長すると殻長の 2 倍以上に達する (福田・木村昭, 2012: 134, text-figs, as *G. (Psammotaea)* *virescens* に生体写真あり)。

写真: [笠岡市] 北木島, 畠田和一コレクション #1427, 福田撮影。殻長 23.6 mm, 殻高 14.2 mm。



分布 タイプ産地は「Chinese Seas」(中国の海)。*Soletellina moesta* は「Bucht von Jedo, und zwar von Jokohama bis hinaus zur Insel Eno-Sima」(江戸湾, 厳密に言えば横浜から江ノ島外周までの間) から記載された。太平洋側は東京湾以南, 日本海側は若狭湾以南, 九州までと, 朝鮮半島, 中国 (広東省, 海南島, 台湾海峡), ベトナムまで分布する (波部, 1977a: 221, pl. 47, figs 5–6, as *Psammotaea virescens*; Hylleberg & Kilburn, 2003: 206, as *S. castanea* and *S. chinensis*; 関他, 2004: 451, fig. 1486-1–2, as *P. virescens*; Wang, 2004: 291, pl. 158, fig. H, as *S. castanea*; Huber, 2010; 王他, 2016: 134, no. 381, text-figs, as *S. castanea*; Lutaenko & Noseworthy, 2018: 27–29, fig. 16E–F)。南西諸島からは記録がない。また Willan *et al.* (2007: 402, 409, fig. 12) が「*Gari virescens*」として図示した台湾産個体はハザクラである。さらに Bernard *et al.* (1993: 99, as *S. castanea*) はフィリピンにも本種が産するとしているが, 具体的な記録に基づいている否かは疑わしい。一方, Lutaenko & Noseworthy (2018: 29) は関他 (2004) の図示個体を「*Gari (Psammotaea)* *elongata* (Lamarck 1818)」(マスオガイ) であると断じ, 自分たちの得た標本こそが韓国で最初のオチバの記録だと主張しているがそれは誤りで, 関らの公表した個体は紛れもなくオチバである。

生息状況 内湾奥の河口部汽水域流水中が主要なハビタットであるが, 瀬尾・Tanangonan (2014: 110, no. 71, pl. 4, fig. 8, as *Gari (Psammotaea)* *virescens*) は香川県での調査において「砂浜である[観音寺市]有明浜の中潮帯に多産するのを確認した。おそらく低塩分の砂浜地下水が豊富に湧出するため, この個体群が維持されていると思われる」と述べ, 河口のみならず前浜干潟にも産することがある。粗砂底または砂泥底に最大で 30 cm 程度潜り, 水管を長く伸ばして埋在する。河口の個体群は河川改修や水質汚濁などによって全国的に危機に晒されており, 既に東京湾・相模湾・大阪湾・博多湾で絶滅したとされる (福田・木村昭, 2012)。瀬戸内海では上記香川県のほか広島・山口両県で近年も健全個体群が確認されている ([福田], 2003: 3, fig. 2; 福田・木村路, 2008: 16; both as *S. virescens*)。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録中に登載され, また畠田和一コレクションにも「[笠岡市] 白石島」(#4268; 「1954.8.20」, #5833) と「[笠岡市] 北木島」(#1427, 写真; #4269) の計 4 ロット 4 個体 (全て合弁) が現存する。しかしその後は県内の海岸全域を通じて一切再発見されず, 本県では絶滅した可能性も考えられていた。ところが本稿執筆中の 2019 年 7 月 9 日付で, インターネット上の某標本通信販売サイトに, 「岡山県」産と称する本種の標本 (「3.3 cm」と「3.5 cm」の少なくとも 2 個体) が鮮やかな画像付きで掲載されて売りに出された (筆者は購入していない)。採集日や産地の詳細などは公表されていないため, 現在の岡山県内に本種が棲息している証拠に直ちに結びつくものではないが, 今なお県内のどこかに個体群が存在するならば, それは 1960 年代以降の環境攪乱によって大半の産地が失われた上でわずかに残されたものであるから, 今後改めて精査する必要がある。

(福田 宏)

アシガイ

Gari maculosa (Lamarck, 1818)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NP)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Lamarck (1818: 513, no. 5, as *Psammobia maculosa*)。新参異名が9つある：*P. tongana* Quoy & Gaimard, 1835 in 1832–1835: 539–540, pl. 83, figs 13–14 ののち、Deshayes (1855b: 322–324, nos 25–27, 30–32) が記載した *P. praestans*, *P. Layardi*, *P. ornata*, *P. rubicunda*, *P. corrugata*, *P. marmorea*, さらに *P. scabra* “Chemnitz” Martens, 1897: 248–250, no. 12 及び *P. obtusa* Preston, 1908: 208, pl. 16, fig. 41。これらの学名全てのタイプ標本の写真を Willan (1993: 26–29, figs 10, 94–112, 384) が公表している。

別名ヨシガイ、オキナワヨシガイ、ハブタエヨシガイ（後2名は各々 *P. corrugata* 及び *P. praestans* に対応する和名）。殻長約45 mm, 殻高約23 mm, 横長の楕円形, 薄く不透明, 多少膨らむ。殻頂は低く, ほぼ中央にある。前端は丸く後端は截断状で鈍く角張り, 腹縁は直線的。両殻間は狭く開く。殻表の光沢は弱く, 細く顕著な成長脈に加えて斜めの彫刻が規則的に現れる。地色は淡いクリーム色で, 赤紫色の放射状色帯と白い叢雲模様が入り乱れ, 斑紋は著しく変異に富む。靱帯は筒状で大きく, 後位で外在。歯丘は明瞭で, 主歯は右殻に2個, 左殻に1個あり, それぞれ深く2又する。側歯はない。閉殻筋痕は前が楕円形で後は円い。套線彎入は深くて丸く, 上下水平となる。軟体は白色で, 水管は太く長い（高重, 2019: 288, 289, text-figs に生体写真あり）。

写真： 備前〔倉敷市〕下津井, 畠田和一コレクション #1963, 福田撮影。殻長44.2 mm, 殻高26.0 mm。



分布 タイプ産地は「...」（不詳）。異名である *Psammobia tongana* は「l'île de Tonga-Tabou」（トンガタブ島）, *P. praestans* は「Moluccas」（インドネシアのモルッカ諸島）, *P. Layardi* は「Philippines」（フィリピン）, *P. ornata* と *P. rubicunda* はともに「Philippines, Ticao」（フィリピンのティカオ島）, *P. corrugata* は「Philippines, Zebu」（フィリピンのゼブ島）, *P. marmorea* は「Darnley Island」及び「Var. β.」の産地として「New Holland (Sydney); Moluccas」（オーストラリア北部のダーンリー (= エラブ) 島, 及び豪州シドニー [Willan, 1993 は誤りとしている]; モルッカ）, *P. scabra* は「Ostindische Gewässer」, 「Molukken und Neu-Holland」及び「Ticao und Cebu, Philippinen」（インド洋東部, モルッカ諸島と豪州, フィリピンのティカオとゼブ）, *P. obtusa* は「Andaman Islands」（アンダマン諸島）からそれぞれ記載された。国内の分布は太平洋岸が東京湾以南（Lischke, 1874: 97, as *P. ornata*）, 日本海側が山口県北長門海岸以南（池田美・多田武, 1963: 46, no. 1054）, 南西諸島, 朝鮮半島, 中国, 台湾, フィリピン, トンガ, オーストラリア北～西部, アンダマン諸島, インド, ペルシャ湾, オマーン湾, 紅海, モーリシャス, レユニオン島, マダガスカル, 南アフリカまで分布する（Oliver, 1992: 141, fig. 29; 162–163, pl. 36, fig. 11a–b; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 52, fig. 389; Willan, 1993; Bosch *et al.*, 1995: 260, fig. 1163; Willan *et al.*, 2007: 400, fig. 4; Willan & Tagaro, 2011: 354, pl. 1172, figs 1–7; 王他, 2016: 132, no. 376, text-figs）。

生息状況 Willan (1993: 29) は本種の棲息環境を詳述し, 「clean substrates in open locations」（開放的な海岸における清浄な底質）で「sand or comminuted coral」（砂または破碎された珊瑚片）を好み, 「intolerant of mud」（泥底を嫌う）と述べた。熱帯域では「most prolific on the steep seaward reef slopes of coral isles」（急峻な珊瑚礁の斜面に最も多産する）とされる一方, 日本では「海峡部近くの小規模な内湾に生じた砂干潟で生貝が見られることが多い。例えば広島県因島・細ノ洲, 山口県上関町長島, 熊本県天草等, 島嶼間で潮流の流れが速く海水の透明度も高い環境において, 潮間帯に礫干潟が形成されてゴマツボ等が見られるような場所に隣接する砂底に個体群が形成される」（福田, 2012: 132, text-fig.）。これらの条件を満たす場所は, 海岸の護岸や埋め立てなどの改変, 水質・底質の汚染によって減少の一途を辿っている。香川県では瀬尾・Tanangonan (2014: 109, no. 70, pl. 4, fig. 7) が2009～2013年に調査した結果, 「〔坂出市〕沙弥では生体が採集されたが, 他の地点では死殻の打ち上げも少なかった」と報告している。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録中に登載され, 畠田和一コレクションには「備前〔倉敷市〕下津井」（合弁1個体, #1963; 写真）, 「備前〔倉敷市下津井〕六口島」（黒田〔徳米〕氏同定品）, 合弁2個体, #3232）, 及び産地無記入であるが恐らく岡山市南区小串末浦産と推定される半片1個（#7369）が含まれている。これらの標本はいずれも砂浜に打ち上げられていた死殻とみられるが, 摩滅や褪色はさほど見られないため, 当時の県内には確かに個体群が存在していた証拠とみなしうる。さらに中野環 (2015: 38, no. 2) は三重県総合博物館所蔵の金丸但馬コレクション中に「備前下津井」産の2ロット7個体が現存することを示しており, 金丸と畠田は親交があったことからこれらの標本も畠田が採集して提供した可能性が高い。しかしこれらの記録以後は現在に至るまで, 破片一つすらも県内で採集されたことがない。ウスベニマスオと同様の理由で1960年代以降に激減したことは明らかで, 同種と同じく完全に絶滅した可能性も否定しきれないが, 本種の場合は対岸の香川県で最近もわずかながら生貝が確認されていることを考慮し, 今回は絶滅危惧Ⅰ類にとどめる。

(福田 宏)

ウスベニマスオ

Gari pallida (Deshayes, 1855)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザナミ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 国内で本種は、最近の松隈 (2017: 1260, pl. 554, fig. 5) までずっと *Gari anomala* (Deshayes, 1855b: 320, no. 15, as *Psammobia anomala*) (タイプ産地は「Philippine Islands, Zebu」) に同定されてきた。しかしそれは誤りで、*G. anomala* はフィリピン以北には分布しない別種である (Willan, 1993: 22–23, figs 7–8, 76–81; Willan *et al.*, 2007: 406; Huber, 2010: 324–325, text-figs)。本種に対する有効名は *P. pallida* Deshayes, 1855b: 323–324, no. 29 であり、新参異名が7つある：*P. suffusa*



Reeve, 1857 in 1856b–1857: sp. 54, pl. 7, fig. 54; *P. Weinkauffi* Crosse, 1864: 17–19, pl. 2, fig. 4; *P. [(Heteroglypta)] Reevei* Martens, 1897: 247–248, no. 11; *P. Bertini* Hidalgo, 1903: 86–87, 102, no. 168 (以上2つはともに “*P. pulchella* Lamarck” *sensu* Reeve, 1856 in 1856b–1857: sp. 23 への新名); *P. valdiviae* Jaeckel & Thiele in Thiele & Jaeckel, 1931: 239, pl. 9(4), fig. 115; *G. hosoyai* Habe, 1958f: 40–41, no. 213 ヒノデアシガイ; *G. tonkiniensis* Zorina, 1978: 201–202, figs 17–18。これら異名のタイプ標本の写真を Willan (1993: 19–22, figs 6–7, 57–75) が公表している (*G. tonkiniensis* を除く; *G. hosoyai* は Higo *et al.*, 2001: 173, fig. B10466 も図示)。ヒノデアシガイは国内の文献で一貫して本種とは別種とされてきたが、実際には識別できない。別名ベニマスオ (群品; アシガイを指すとの見解もある)、キヌタガイ (介志)、アサヒガイ (鳥羽 in 鳥羽・千葉蘭, 1938: 171, as *P. weinkauffi*)。殻長約 40 mm, 殻高約 20 mm, 横長の楕円形, 薄く不透明, 膨らみは弱い。殻頂は低く、ほぼ中央にある。前端は丸く後端は斜めに截断状、腹縁はごく緩く彎曲する。両殻間は狭く開く。殻表は光沢を帯び、成長脈に加えて斜めの細かい彫刻が規則的に現れる。地色は淡いクリーム色で、殻頂から桃色の鮮明な放射状色帯を多数走らせる。靱帯は筒状で大きく、後位で外在。歯丘は細長く、主歯は右殻に2個、左殻に1個あり、それぞれが深く2又する。側歯はない。閉殻筋痕は輪廓が不明瞭な楕円形。套線彎入は深い。軟体はベージュ色で、水管は長い。

写真： [浅口市] 寄島, 1956年11月21日, 畠田和一コレクション #1765, 福田撮影。殻長 21.0 mm, 殻高 11.4 mm。

分布 タイプ産地は「Red Sea」(紅海)。異名である *Psammobia suffusa* は「Malacca」(マレーシアのマラッカ), *P. Weinkauffi* は「Algeria」(アルジェリア; Willan, 1993: 22 は誤りと断じている), *P. [(H.) Reevei]* は「Flores」(インドネシアのフローレス島) 及び「Manila, Philippinen」(フィリピンのマニラ), *P. Bertini* は「Manila, en la isla de Luzón. Isla de Cebú. Dapitan, en la isla de Mindanao」(フィリピン・ルソン島マニラ, セブ島及びミンダナオ島ダピタン), *P. valdiviae* は「Daressalam, 50 m Tiefe」(タンザニアのダルエスサラーム, 水深 50 m), *Gari hosoyai* は「Sagami Bay」(相模湾; 同時に「Bôsô Peninsula, 287 m」(房総半島沖, 水深 287 m) も挙げられた), *G. tonkiniensis* はトンキン湾からそれぞれ記載された。分布北限は太平洋側が岩手県大槌湾 (堀越他, 1979: 77, as *G. (G.) anomala*; 土田・黒住, 1995: 29–30, pl. 5, fig. 9; 戸羽, 2009: 91, 92, fig. 68; both as *G. anomala*) と陸前高田市松原 (鳥羽・千葉蘭, 1938), 日本海側が新潟県中・下越地方 (伊藤勝, 1989: 64, no. 347, pl. 25, fig. 12, as *G. anomala*) で、九州までの沿岸各地で記録がある。国外は朝鮮半島, 中国, 台湾, ベトナム, フィリピン, ニューギニア, 北オーストラリア, インドネシア, シンガポール, アラビア湾, アデン湾, 紅海, ジブチ, ザンジバル, マダガスカル, 南アフリカまで分布する (Oliver, 1992: 141, fig. 28; 162–163, pl. 36, fig. 7a–b, as *G. weinkauffi*; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 53, fig. 394, as *G. (G.) weinkauffi*; Willan, 1993; Bosch *et al.*, 1995: 260, fig. 1164; Willan *et al.*, 2007: 400–401, fig. 5; Willan & Tagaro, 2011: 356, pl. 1173, figs 3–4; Lutaenko & Noseworthy, 2012: 76, no. 239)。また Willan (1993) は、本来は分布していない地中海へもやがてスエズ運河経由で侵入するであろうと予言していたところ、最近ついに Lubinevsky *et al.* (2018: 415–418, fig. 1A–C) がイスラエルでの産出を報告した (ただし当該個体は殻表に顕著で規則的な輪肋を刻んでおり、日本産個体とはかなり印象が異なる)。

生息状況 内湾・外洋を問わず潮下帯～漸深海底 (水深約 10–150 m で、30–60 m に最も多い) に産し、底質の嗜好は幅広く、粗砂底・細砂底・泥底のいずれでも見出される (Willan, 1993)。ただし内湾奥部では少なく、多少とも潮流の流れがあって海水が入れ替わる場所をより好むため、瀬戸内海では決して多産はしないものの、海底からの浚渫砂や漁屑・蛸壺などに時折混入し、近年も広島県の仁方・下蒲刈・蒲刈各町の底引網で確認されている (濱村, 2004, 158, text-fig., as *G. anomala*)。岡山県では文献記録はなく、畠田和一コレクションに「[浅口市] 寄島」(「[昭和] 31 [=1956].11.21.」, #1765; 写真) の半片1個が含まれ、これが今に至るまで本県唯一の確実な産出の証拠である。この個体は腹縁が欠け、色落ちも激しい古い死殻で、そのような傷んだ標本しか現存しないことを考えると 1950 年代当時であっても本種は県内では稀産で、採集は容易でなかったと推測される。そしてこの個体以降、本種は県内で一切確認されていない。上記個体は大量のハナツメタ, カゴメガイ, ハナムシロ, モミジボラとともに、やはり県内最後の記録となったアワジタケ, アオサギ, アワジチガイなどとともに採集されており、やや富栄養で還元的な潮下帯の泥底から水揚げされた漁屑に由来すると考えられる (アオサギ・アワジチガイの項を参照)。現在の県内でこのような種構成が見られる場所は知られておらず、本種もアオサギなどとともに水質悪化や海底浚渫による棲息環境の消失を受けて、1960 年代以降に県内から一旦絶滅したと見なさざるをえない。ただし本種は分布域が著しく広く、つまりそれだけ浮游幼生の分散能力も高いため、スエズ運河を経て地中海へ侵入を果たしたのと同様、いずれ太平洋から岡山県へ辿り着いて新たな個体群が形成されないとも言えない。ただその場合の個体群はかつて県内に存在したものと別物である。定着が可能となるには潮下帯の環境状態が十分に回復していることも必須であるが、それには今後長い時間を必要とするであろう。

(福田 宏)

ムラサキガイ

Hiatula adamsii (Reeve, 1857)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザナミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由 現存産地が県内に1箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 原記載は Reeve (1857a: sp. 5, pl. 2, fig. 5, as *Soletellina Adamsii* “Deshayes, MS.”)。同時に記載された *S. Cumingiana* “Deshayes, MS.” Reeve, 1857a: sp. 4, pl. 1, fig. 4 は異名。本種はつい最近まで一貫して *Solen diphos* Linnaeus, 1771: 544 に同定され、松隈 (2017: 1262, pl. 555, fig. 7, as *Soletellina diphos*) はいまだにその名を用いているが、それ以前に Honda *et al.* (2001: 23–32, figs 1–3, 7, 8, as *Solet. adamsii*) はそれが誤同定であることを指摘した。*S. diphos* は腹縁が強く彎曲し、後端が嘴状に鋭く尖る点で本種と大きく異なり、主にインド洋に分布する種で、日本からは見出されたことがない。本種は殻長約 100 mm、殻高約 50 mm に達する大形種で、前後に引き伸ばされた長楕円形、薄いが堅牢で不透明、弱く膨らむ。殻頂は低く、多少後方に寄る。前端は丸く、後端は截断状。腹縁はほぼ直線のかわずかに彎曲する。両殻間は前・後端とも大きく開く。殻表は弱い成長脈を除き平滑で濃紫色、強い光沢を帯び、藁色の殻皮に覆われるが剥離しやすい。殻頂から腹縁へ向けて2本の不明瞭な白色の放射状色帯が走る。靱帯は黒褐色の硬い筒状で大きく、後位で外在。主歯は2個あり、それぞれ深く2叉するが、左殻の後主歯は弱い。側歯はない。閉殻筋痕は大きく、前は楕円形で後は円い。套線彎入は深い。軟体は白色で、水管は著しく長く、伸長すると最大 300 mm に達する。足は幅広く扁平な三角形で先端が尖る (Honda *et al.*, 2001)。なお本種の属の所属は最近まで *Soletellina* Blainville, 1824: 350 とされてきたが、Matsubara (2013: 309–311) は *Soletellina* は *Hiatula* Modeer, 1793: 178–179 に先取されて無効との見解を発表した。この処置に対しては Willan (1993: 75) らが配慮してきた長年の慣用法に逆らうという趣旨の批判もなされている (Huber, 2015: 749) もの、Matsubara の主張は国際動物命名規約に違反しておらず覆すのは容易でないため、今回は本種及びアケボノキヌタ、フジナミの属名として *Hiatula* を用いる。



写真：岡山市松ヶ鼻 (児島湾)、畠田和一コレクション #1992, 福田撮影。殻長 109.8 mm、殻高 53.8 mm。

分布 タイプ産地は「Island of Negros, Philippines」(フィリピンのネグロス島)。異名である *Soletellina Cumingiana* も全く同じ産地から記載された。太平洋側の北限は大半の文献が房総半島としているが、戸羽 (2009: 91, fig. 70, as *Solet. diphos*) は岩手県宮古湾から本種を報告している。日本海側は兵庫県但馬沖以南 (伊藤勝, 1967: 68, no. 809, as *Solet. diphos*) に知られ、九州までと、中国浙江省以南、台湾、タイ、フィリピン、インドネシアなど東南アジアに分布する (Swennen *et al.*, 2001: 88, text-fig. 157, fig. 157, as *Solet. adamsii*; Willan *et al.*, 2007: 399–400, fig. 16, as *Solet. adamsii*; 张, 2008: 331, text-figs, as *Sang. diphos*; Huber, 2010: 329–330, text-figs; 695, as *Solet. adamsii*; Willan & Tagaro, 2011: 362, pl. 1176, figs 6–7, as *Solet. adamsii*; 杨他, 2013: 212, 213, fig. 802, *Sang. diphos*)。一方で、朝鮮半島と南西諸島では明確な記録がない。

生息状況 湾口部や島嶼間など潮の入れ替わりが盛んな内湾域の潮間帯下部～潮下帯に産し、細砂底または砂泥底に深さ 30–40 cm ほど潜って棲息する。入水管と出水管の間が 10–15 cm も離れ、表層に直径の異なる穴 (約 8 mm と 5 mm) を別々に開ける (フジナミも同様)。かつてはさほど珍しい種ではなく、山口県など一部の地域では伝統的に食用に供されているほどであるが、戦後の干潟の消失や環境悪化によって全国的に激減し、1990 年代後半には健在産地がほぼ見失われて絶滅寸前と見なされるに至った (加藤真・福田, 1996: 70, as *Hiatula diphos*)。その後山口・大分・宮崎各県で個体群が見出され、浜名湖・三河湾・伊勢湾などでも少数の生貝が確認されて、ここ数年は徐々に回復傾向にあるとみられる (Honda *et al.*, 2001; 三浦知他, 2005: 22–25, fig. 9h–i, as *Soletellina adamsii* [sic]; 木村昭・山下博, 2012: 134, text-fig., as *Solet. adamsii*; 北河・西浩, 2016: 15–16, fig. 1)。香川県では「死殻は比較的普通に見られるが生貝は稀」と報告されている (瀬尾・Tanangonan, 2014: 110, no. 73, pl. 4, fig. 10, as *Solet. adamsii*)。岡山県では畠田 (1935: 232, no. 29, as *Sanguinolaria* (Solet.) *adamsii* [sic]) が、当時の児島郡甲浦村 (現・岡山市南区) 飽浦 (児島湾の湾口に位置する) で本種が「ウミノカラスガヒ」という方言で呼ばれていたことを記録している。また畠田和一コレクションには「岡山市松ヶ鼻 (児島湾)」(合弁1個体, #1992; 写真) からの標本が現存し、松ヶ鼻は飽浦と同じ地域を指す地名である。これらの記録や標本から、戦前の児島湾湾口部では地元の人々が独自の方言で呼ぶほど普通に見られた種であったと推測される。しかしその後は他県と同様に記録が途絶え、20 世紀末まで消息不明であった。児島湾湾口部は 1959 年の閉め切りの影響によって環境が一変し、現在は本種が棲息可能な状態からかけ離れており、完全に絶滅したことは明らかである。ところが 2009 年ごろ倉敷市児島唐琴町高洲で小林秀司氏が生貝を採集し、いまだ本県で絶滅していなかったことが判明した (同氏私信, 残念がら写真のみで標本は現存しない)。また、2018 年 7 月の高洲における調査では生貝こそ確認できなかったものの、死亡後まもないとみられる幼貝の合弁死殻 (OKCAB M28988) が得られ、今も確かに同地に個体群が維持されているとみられる。しかし依然として著しく稀産であるため、個体群の規模が小さいことは明らかである上に、本県では高洲以外の場所からは死殻すら全く確認されていない。このため現時点では安泰と呼ぶにはほど遠く、現存する個体群がこれ以上縮小しないよう注視する必要がある。

(福田 宏)

アケボノキヌタ

Hiatula atrata (Reeve, 1857)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザナミ科 ●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録が存在するが、その後確認されず現状不明。絶滅した可能性もある。**形態** 原記載は Reeve (1857a: sp. 14, pl. 3, fig. 14, as *Soletellina atrata* “Deshayes, MS.”) で、Higo *et al.* (2001: 173, fig. B1062, as *S. atrata*) がシタイプの写真を公表している。*Hiatula jousseaumeana* Bertin, 1880: 92–93, no. 27, pl. 4, fig. 4a–b は新参異名。旧名アズマキヌタ (目八: 武藏, 1843: vol. 2, sp. 27)。殻長約 80 mm, 殻高約 53 mm, 楕円形, 薄く, 弱く膨らむ。殻頂は低く, ほぼ中央に位置し, 前後がほぼ対称となる。腹縁はほぼ直線的かわずかに彎曲する。両殻間は前・後端とも開く。殻表は弱い成長脈を除き平滑で濃紫色, 鈍い光沢を帯びた藁色の殻皮に覆われる。殻頂から腹縁へ向けて 2 本の明瞭な白色の放射状色帯が斜めに走る。靱帯や鉸歯, 内面や軟体の特徴はムラサキガイとほぼ同様。**分布** タイプ産地は「Catanauan, Island of Luzon, Philippines」(フィリピン, ルソン島南部のカタナワン)。異名である *Hiatula jousseaumeana* は「le Japon」(日本)産の個体をもとに記載された。太平洋側は房総半島以南(清水利, 2001: 129, no. 2637, as *Soletellina atrata*)に知られ, 日本海側は岩川(1916: app. 46–45, no. 639c, as *Soletellina violacea* Lam. Azumakinuta; 1919: 311, as *S. ? violacea* (Lam.) あずまきぬた)が「Akita」「羽後」産の標本を挙げたのが最北の記録である。九州までの沿岸各地に産するが, 南西諸島からは明確な報告がない。国外は朝鮮半島, 中国(遼寧省以南), 台湾, ベトナム, フィリピンに分布する(Hylleberg & Kilburn, 2003: 205, as *Sol. atrata*; 関他, 2004: 452, fig. 1488-1–2; 453, as *Sol. atrata*; Willan *et al.*, 2007: 403, fig. 18, as *Sol. atrata*; 徐・張, 2008: 202, 203, fig. 631, as *Sanguinolaria* [(*Psammotaea*)] *atrata*; Huber, 2010: 330, text-figs, as *Sol. atrata*; Lutaenko & Noseworthy, 2012: 78, no. 245, pl. 53, figs A–B, as *Sol. atrata*)。**生息状況** 主として外洋の潮下帯細砂底に産し, 太平洋や日本海南西部では今もさほど稀少な種ではないが, 内湾ではムラサキガイ同様に潮通しのよい湾口部や島嶼間に限定される。このため瀬戸内海ではもともと少なく, 稲葉(1982: 57, no. 230)は備讃瀬戸・水島灘及び備後灘・鏝灘にのみ産するとしている。近年の香川県では少数の死殻のみ確認されている(瀬尾・Tanangonan, 2014: 110, no. 74, as *Soletellina atrata*)。岡山県では岡大玉野臨海(1978: 161)の目録に登載されたのが唯一の記録で, 畠田和一コレクションには含まれておらず, それ以外の標本も見当たらない。むろん最近 20 年間でも一切見出されたことがない。したがって現時点では本種が岡山県で産出する(した)か否かを確言できない状況にあり, 現時点では情報不足のカテゴリに含めることとする。ただし岡大玉野臨海の目録は, 本種の前後にムラサキガイとフジナミも併せて挙げていることから, それら近似する同属の別種を本種と混同したわけでは少なくともなさそうである。1960 年代以前には少数ながら産出したもののその後の環境悪化によって絶滅した可能性が高いが, 今回は標本を実見していないため情報不足とした。

(福田 宏)

フジナミ

Hiatula boeddinghausi (Lischke, 1870)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 ザルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザナミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 現存産地が県内に1箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 原記載は Lischke (1870: 26–27, as *Soletellina Boeddinghausi*) で、のちの Lischke (1871b: 118–120, pl. 9, fig. 9) に図示された。近年公表されたシントタイプの写真 (Cosel, 1998: 27, 44, fig. 29; Higo *et al.*, 2001: 173, fig. B1063; both as *S. boeddinghausi*) を見ると、Lischke (1871b) の図の精緻さに驚かされる。殻長約 100 mm、殻高約 70 mm に達し、ムラサキガイと並び日本産 *Psammobiidae* Fleming, 1828 シオサザナミ科で最も大きい殻をもつ種の一つ。殻は楕円形、薄い割に堅牢で、弱く膨らむ。殻頂は低く、前方へ多少偏る。前端は丸く、後端は截断状で、腹縁は緩やかに彎曲する。両殻間は前・後端とも開く。殻表は弱い成長脈を除き平滑で、地色は濃紫色であるが淡色の部分が成長脈に沿って不規則に現れる。光沢は弱く、褐色の殻皮に覆われるが剥離しやすく、老成個体の多くは周縁にしか残っていない。殻頂から腹縁へ向けて 2 本の白色の放射状色帯が斜めに走るが、アケボノキヌタのそれと比べて不明瞭。靱帯や絞歯、内面や軟体の特徴はムラサキガイ・アケボノキヌタとほぼ同様。

写真： 倉敷市児島唐琴町高洲，2009年4月26日，OKCAB M24704，福田撮影。殻長 52.8 mm，殻高 31.0 mm。



分布 タイプ産地は「Nagasaki」(長崎)。日本と朝鮮半島南部の固有種で、最北の記録は太平洋側が岩手県三陸海岸(宮古湾: 戸羽, 2009: 91, 92, fig. 71, as *Soletellina boeddinghausi*; 陸前高田市広田町天王前: Nomura & Hatai, 1935: 17, no. 71, as *Sanguinolaria (Solet.) boeddinghausi*), 日本海側が秋田県男鹿半島(西村正・渡部景, 1943: 73, no. 242, as *Sang. (Solenotellina) boeddinghausi*) で、九州まで分布する。南西諸島からの報告はない。朝鮮半島では韓国釜山から知られる (Lutaenko & Noseworthy, 2012: 78, no. 246, as *Solet. Boeddinghausi*)。台湾からも文献記録はあるが (Willan *et al.*, 2007: 403–404, fig. 19, as *Solet. boeddinghausi*)、その図示個体は腹縁の彎曲が顕著で後端がより直線的なことから、同属の別種 *Hiatula chinensis* (Mörch, 1853: 9–10, no. 88, as *Solen. chinensis*) タイワンキヌタであり本種ではない。タイワンキヌタは中国では浙江省以南に広く分布し (徐・張, 2008: 202, 203, fig. 635, as *Sang. [(Psammotaea)] chinensis*), Bernard *et al.* (1993: 99) が「Zhejiang」(浙江) に本種が産するとしたのも後種の誤同定であろう。

生息状況 アケボノキヌタとともに外洋・内湾を問わず潮間帯下部～潮下帯の細砂底に棲息し、底質中に 30 cm 以上も深く潜る点はムラサキガイと同様である。日本海南西部ではムラサキガイはほとんど産出しないのに対し、本種とアケボノキヌタは例えば鳥取砂丘周辺のごとき波浪の激しい長い砂浜にも死殻が打ち上げられる。それら外洋の個体群は水質汚染の影響が比較的軽いためかさほど減少傾向にないかに思われるが、瀬戸内海など内湾の個体群は極端な危機的状況がつとに指摘されている (e.g. 加藤真・福田, 1996: 70; 木村昭・木村妙, 2013: 52, fig. 237; 174, as *Soletellina boeddinghausi*)。本種の国内での減少ぶりはムラサキガイとほぼ同程度に深刻とみられるが、山下博 (2012: 135, text-fig., as *Solet. boeddinghausi*) が指摘した通り本種はムラサキガイやアケボノキヌタと比較して世界的な分布域が格段に狭いため、その点での保全学的意義は 3 種中でも際立って高い。近年本種の健全な個体群が見られるのは「瀬戸内海中～西部 (香川・愛媛・広島・山口・大分各県)、徳島県、九州南部など」とされ (山下博, 2012)、特に山口県山口市の中道湾・秋穂湾・山口湾は最も健全な産地として著名で、そこではムラサキガイとアケボノキヌタも同所的に見られ、地元の人々がいまだに食用としている (Honda *et al.*, 2001)。また香川県でも「[三豊市詫間町] 大浜と仁尾干拓跡では生貝が複数採集され、新鮮な死殻も多く採集された。仁尾干拓跡干潟ではアケボノキヌタと共に「オイ」と呼ばれ、潮干狩りによって採集され食用とされている」と報告されている (瀬尾・Tanangonan, 2014: 110, no. 72, pl. 4, fig. 9, as *Solet. boeddinghausi*)。一方、上記の山下博 (2012) が挙げた現存産地のうち、中・四国の瀬戸内海沿岸各県から岡山県だけが除外されていることは重要である。本県では戦前にはムラサキガイ同様に独自の方言が根付き、邑久郡朝日村寶傳 (現・岡山市東区宝伝) で「ハゲロク」、児島郡 (現・倉敷市) 下津井町で「ウシガヒ」と呼ばれていたことを畠田 (1935: 232, no. 30, as *Sanguinolaria (Solet.) boeddinghausi*) が伝えている。畠田コレクションにも「[笠岡市] 白石島」産の堂々たる合弁 1 個体 (#1991) が含まれている。しかしそれ以降はムラサキガイと同様、本種が把握できない時代が長く続いた。2009年4月、倉敷市児島唐琴町高洲で生きた若い個体 1 個体がようやく見出され、さらに 2011年6月には成貝も得られた (ともに小林秀司採集, OKCAB M24704, M24705; 亨真)。このため高洲では現在もかろうじて生き延びていることが確実であるが、密度は著しく低く、健全と呼ぶにはほど遠い状態である。しかも高洲以外の場所 (かつて方言が存在した宝伝や下津井も含めて) では死殻すら全く見出されておらず、県内の大半の場所で個体群が消滅したことも歴然としている。

(福田 宏)

イソシジミ

Nuttallia japonica (Reeve, 1857)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 シオサザミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Reeve (1857a: sp. 16, pl. 4, fig. 16, as *Soletellina Japonica* “Deshayes, MS.”) で、Roth (1978: 223–225, no. 1, text-figs 1–4) 及び Higo *et al.* (2001: 173, fig. B1067) がレクトタイプの写真を公表している。別名ミロクガイ。本種は吉良 (1953: 149, 150, no. 2, text-figs 1a, 2a, as *Nuttallia olivacea*) が指摘するまで近似種 *N. obscurata* (Reeve, 1857a: sp. 21, pl. 4, fig. 21, as *S. obscurata* “Deshayes, MS”) ワスレイソシジミ (= *N. solida* Kira, 1953: 149–150, 151, no. 3, text-figs 1c, 2a アツイソシジミ) と混同され、学名は Jay (1857: 292, pl. 1, figs 8–9) が「Bay of Yedo」(江戸湾) から記載した *Psammobia olivacea* が広く用いられていた。しかし Roth (1978) によれば Jay が記載に用いた標本は異なる 2 種 (本種とワスレイソシジミの両方) を含んでいたことが記載文から読み取れるため、Roth は Jay の 2 つの図のうち確実にワスレイソシジミに同定可能な fig. 8 を *P. olivacea* のレクトタイプに指定した。したがって *P. olivacea* は *S. obscurata* の新参異名となり、本種ではなくワスレイソシジミに相当する。ややこしいことに上記の吉良 (1953) は本種を *N. olivacea*、ワスレイソシジミを *N. japonica* に対応付けており、後者は誤同定である。本種は殻長約 50 mm、殻高約 38 mm、卵形、薄いが堅牢で、膨らみは左右の殻で明らかな非対称をなし、左殻は弱く膨らむが右殻は扁平 (これに対してワスレイソシジミの右殻は左殻より多少膨らみが弱い程度で、扁平というほど平たかない)。両殻間は後端が狭く開く。殻表は強弱が不規則な成長脈を除き平滑、地色は莖色で、強い光沢を放つ茶褐色の厚い殻皮に覆われる。殻頂から腹縁へ向けて数本の不明瞭な白色放射状色帯が斜めに走る。靱帯は強大な筒状で、殻頂のすぐ後方に外在する。鉸歯は 2 個の主歯を持ち、右殻の後歯と左殻の前歯はそれぞれ深く 2 叉する。内面は薄紫色で、套線彎入は深くて殻の中央を超えて殻長の 2/3 程度に及ぶ (ワスレイソシジミはより浅く、彎入の頂点は殻の中央附近に位置する。松隈 (2017: 1262) がワスレイソシジミの套線彎入の深さを「殻長の 2/3」としたのは誤り)。軟体は白く、足は大きくて幅広く、扁平で輪廓が丸い。一对の水管は著しく長く、伸長すると 20 cm 以上に達する (高重, 2019: 290, 291, text-figs に生体写真あり)。



写真： [笠岡市] 北木島，畠田和一コレクション #2589，福田撮影。殻長 28.6 mm，殻高 22.9 mm。

分布 タイプ産地は「Japan」。サハリン以南、北海道・本州・四国・九州と、朝鮮半島、中国北部 (長江以北) に分布するとされる (徐・張, 2008: 207, fig. 643, as *Sanguinolaria* [(*Nuttallia* [sic])] *olivacea*; Huber, 2010: 331, text-figs; Lutaenko & Noseworthy, 2012: 77, no. 242; 郑他, 2013: 467, text-figs, as *Sang. olivacea*)。ただし本種とワスレイソシジミは同所的に産する場所も多く、今なお混同されやすいため、両種それぞれの分布範囲は明確でない。

生息状況 河口部汽水域下流部の流水中砂泥底に 10~30 cm ほど潜って棲息する。内湾奥に多いが、日本海など外洋に注ぐ河川であっても産出することがある。本州中部以南ではオチバや *Gari crassula* (Deshayes, 1855) ハザクラと同所的に産することが多いが、それら 2 種は全国的に減少傾向が顕著なため環境省や多くの都道府県のレッドリストに登載されている。これに対し本種は保全対象とされる機会が格段に少なく、千葉・愛媛両県が絶滅危惧Ⅱ類相当、大阪府が情報不足としている程度である (野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2018)。しかし注目されずにいる間に、瀬戸内海では本種も着実に絶滅へ傾斜しつつある。これを近年最も端的に表現したのが濱村 (2004: 158, text-fig) で、彼は広島県呉市における棲息状況を「1960 年頃は河口にいた」と過去形で記すとともに、芸南地方に絞った図鑑であるにもかかわらず飛び離れた「大竹市」を生貝の産地として挙げているのが苦渋の選択めいていて頗る印象的である。また香川県では畠山 (1977: 6, as *Soletellina* (*Nuttallia*) *olivacea*) が釜灘東部・備讃瀬戸西部から本種を記録しているものの、2009~13 年に同県で調査を実施した瀬尾・Tanangonan (2014) には言及がない。岡山県では減少ぶりがさらに明瞭である。戦前の本県では畠山 (1935: 232, no. 28, as *Sanguinolaria* (*N.*) *olivacea*) が当時の小田郡神島外村 (現・笠岡市神島) 外浦で、本種が同地の人々から「ホトケガヒ」なる方言 (この名は旧名のミロクガイと起源を同じくするのかもしれない) で呼ばれていたと記録している。また畠山自身のコレクションにも「備中 [笠岡市] 北木島 (合弁 1 個体, #1987; 合弁 2 個体, #2589; 写真), 「備中豊島 [詳細不明, 香川県土庄町豊島か] (合弁 2 個体, #2597), 及び産地無記入だが岡山県産の可能性が高い合弁 1 個体 (#4427) が含まれている。さらに三重県総合博物館所蔵の金丸但馬コレクション中にも「備中 [笠岡市] 白石島」産 2 個体が現存することが公表されており (中野環, 2015: 41, no. 16), その標本はアシガイの項で述べたのと同様に畠山が金丸に贈った可能性が高い。しかしその後は岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に登載された以外は一切の記録がなく、最近 20 年間では破片すらも見出されることがない。このため本種は岡山県 (及び対岸の香川県) では既に絶滅したか、またはそれに近い状態まで激減したことは明らかである。本種の主要な棲息環境である河口部汽水域は、本県では吉井川・旭川・高梁川とも 1960 年代以降に護岸などで一変したため、本種の個体群はそれら 3 河川全てで棲息地を奪われて消滅したと考えられる。ただし、他の都道府県では本種より危機的状況にあるオチバはまだ本県に棲息している可能性が残されているため、同種との整合性を考慮して絶滅と断じることは避ける。また畠山標本の産地である北木島には未調査の小規模な干潟が残されており、今後精査する必要がある。

(福田 宏)

ハマチドリ

Ervilia bisculpta Gould, 1861

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 アサジガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 現存産地が県内に1箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 原記載は Gould (1861: 28)。同時に同じページで記載され、今は異名と見なされている *Ervilia livida* Gould, 1861: 28 とともに、Johnson (1964: 47, 103, pl. 23, fig. 2; pl. 28, fig. 1) 及び Higo *et al.* (2001: 173, figs B1039, B1039s) がタイプ標本の写真を公表している。他に新参異名が3つある: *E. japonica* A. Adams, 1862a: 224–225; *E. australis* Angas, 1877: 175, pl. 26, fig. 21; *E. (Spondervilia) ambla* Dall, Bartsch & Rehder, 1938: 171, pl. 44, figs 5–8。また *E. scaliola* Issel, 1869: 53–54, no. 19, pl. 1, fig. 2 (Zenetos & Ovalis, 2014: 507–509, figs 1–2 がシンタイプを図示) も酷似し、同種の可能性がある。殻長約5mm、殻高約3.1mm、横長の三角形、やや厚く、膨らみの強さは個体ごとに変異がある。殻頂の位置も中央・前方寄り・後方寄りと一定しない。前端は丸く、後端は伸長して鈍く尖り、後背縁は少し窪む。殻表は前部と後部に細かい放射肋を密に走らせ、中央部は微細な成長脈を規則的に刻む。地色は白く、殻頂を中心として濃い赤紫ないし褐色に染まる個体が多いが、全体が無色の場合もある。外靱帯は後位で目立たず、前主歯と弱い後主歯の間に明瞭な弾帯及び弾帯受をもつ。側歯は後方のみで弱く不明瞭。内面は白く、套線彎入は深く丸い。閉殻筋痕は前後とも円い。周縁は刻まれない。軟体は白く、足と水管はよく発達する。腹縁内側には左右の殻をX字に結ぶ十字筋がある。十字筋の存在は Tellinoidea Blainville, 1814 ニッコウガイ上科が示す特徴であることから、本種を含む *Ervilia* Turton, 1822 ハマチドリ属の所属は Morton & Scott (1990: 299–303) によってそれまでの Mesodesmatidae Gray, 1840 チドリマスオ科から Semelidae Stoliczka, 1870 アサジガイ科に変更された。松隈 (2017: 1267, pl. 561, fig. 3, as *Spondervilia bisculpta*) がいまだに本種をチドリマスオ科の一員としている理由は不明である。写真：倉敷市児島唐琴町高洲, 2018年7月13日, OKCAB M28989, 福田撮影。殻長4.9mm, 殻高3.5mm。



分布 タイプ産地は「Kagosima, in sand, 5 fath.」(鹿児島, 砂底, 5尋)。異名である *E. livida* も「Kagosima Bay, in sand, 5 fathoms」(鹿児島湾, 砂底, 5尋), *E. japonica* は「Tsu-Sima; 17 fathoms」(長崎県対馬, 17尋), *E. australis* は「“Sow and Pigs” bank, Port Jackson」(豪州シドニー附近のポート・ジャクソン湾), *E. (Spondervilia) ambla* は「33–50 fathoms off Waikiki, Oahu」(ハワイ, オアフ島のワイキキ沖33–50尋; 同時に同島の「Maunaloa Bay」も挙げられた) からそれぞれ記載された。同種の可能性がある *E. scaliola* のタイプ産地は「Rada di Suez (!); assai abbondante nella rena a pochi metri di profondità」(スエズ港; 水深数mに極めて多産) で、Zenetos & Ovalis (2014) はトルコ南部の地中海沿岸にある「Taşucu Harbour」から報告している。国内の北限は大半の文献 (e.g. 松隈, 2017) が房総半島としているが、河合・木村昭 (2015: 56–57, fig. 12) は青森県下北半島北東端の下北郡東通村尻芳で蛸壺中の堆積砂泥から本種を得ている。この産地は津軽海峡経由で日本海から太平洋へ流入する対馬暖流の影響下で生じたと考えられるため、従来本種の日本海での北限記録は若狭湾とされてきた (伊藤勝, 1990: 123, no. 582, pl. 31, fig. 3, as *Spondervilia bisculpta*) もの、実際には東北から九州までほぼ全域に産出する可能性が高い。南西諸島でも知られ (池辺・吉田, 2006: 123, no. 4331, as *S. bisculpta*), 国外は中国 (北部湾), 台湾, ベトナム, タイ, フィリピン, ハワイ, 仏領ポリネシアのマルキーズ諸島, オーストラリア, セーシェルまで分布する (E.A. Smith, 1885: 80; Hedley, 1906: 479, pl. 36, fig. 8; Lyngé, 1909: 219, pl. 4, figs 14–16; Lamy, 1914: 72–73; Laseron, 1953: 52, fig. 44, 44a–b, as *S. australis*; Rooij-Schuilting, 1974: 238–240, fig. 4; Kay, 1979: 558, fig. 181 “C–D” [E–F], as *E. (S.) bisculpta*; 徐, 1997: 148, as *S. bisculpta*; Hylleberg & Kilburn, 2003: 189; Huber, 2010: 345, text-figs; 702; Poppe, 2011: 386, pl. 1188, figs 1–3)。もし *E. scaliola* が本種と同種ならば、分布域はバルシヤ湾, アラビア湾, オマーン湾, 紅海, 地中海東部まで広がる (Rooij-Schuilting, 1974: 238, fig. 3; Oliver, 1992: 139, fig. 8; 168, pl. 31, fig. 4a–b; Bosch *et al.*, 1995: 262, fig. 1175; Zenetos & Ovalis, 2014)。

生息状況 内湾湾口部で潮流の速い場所の潮下帯砂底・砂泥底に棲息し、湾奥にはほとんど見られないため従来はもっぱら太平洋・日本海岸から知られ、瀬戸内海では福田 (1992: 90, pl. 50, fig. 519, as *Spondervilia bisculpta*) が山口県光市室積で記録するまで報告は皆無であった。保全対象と目される機会の少ない種であるが、加藤真・福田 (1996: 69, as *S. bisculpta*) は「サンドポンプによる大規模な浚渫が深刻な影響をもたらしている (鹿児島県 [現・指宿市] 山川港など)」と指摘した。この「山川港」は1970年代半ばから埋め立て造成のために大規模な海底浚渫が続けられ、そこに棲息していた本種数億個体以上が一挙に斃死した現場を筆者が実際に目撃したものであり、同様に海砂採取は本種に対する脅威となりうる。岡山県ではこれまで一切の記録がなかったが、2018年7月の倉敷市児島唐琴町高洲における調査で久保弘文氏によってアマモ場の砂底から生貝1個体が発見された (OKCAB M28989; 写真)。キュウシュウナミノコの項で述べたのと同様、近隣他県でも記録のなかった本種が今頃になって岡山県で初めて見出されるのは驚くべきで、かつて県内に棲息していた外洋性の種がごとごとく滅び去った現在でも、新たにそれらの種が太平洋から伝播してきて定着する微かな可能性を告げる記録として重要である。ただたった1個体が確認されたのみで、県内ではいまだ著しく稀産であり、今後本種が増加するか否かを見極める必要がある。

(福田 宏)

フルイガイ

Semele cordiformis (Holten, 1802)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 アサジガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Holten (1802: 10, no. 29, as *Tellina cordiformis*) で、これは二語名法適用外の Chemnitz (1795: 208, pl. 199, figs 1941–1942) の図示個体に対して命名された。新参異名は4つ：*Amphidesma radiata* (Ruppell [sic; = Rüppell], MSS.) Reeve, 1853a: pl. 2, sp. 12; *A. Sinensis* Reeve, 1853a: pl. 5, sp. 28; *Semele aphrodite* Angas, 1879: 859–860, pl. 54, fig. 2; *S. Shoplandi* Melville, 1898: 205, pl. 12, fig. 14。殻長約40 mm、殻高約35 mm、亜円形、厚く、膨らみは弱い。殻頂はほぼ中央に位置し、前端は丸く後端はやや截断状。殻表は成長脈と細密な放射脈が交わって布目状を呈する。地色は白く、殻頂付近は薄紅色に染まり、腹縁へ向けて同色の放射状色帯を走らせる個体が多い。外靱帯は後位で筒状。細長い弾帯が主歯の後方へ斜めに埋在する。前後の側歯は低いが明瞭で尖る。内面は淡黄色で、套線彎入は深くて丸い。閉殻筋痕は前後とも円い。周縁は刻まれない。軟体は白く、足と水管はよく発達する。

写真： 備前〔倉敷市下津井〕六口島，畠田和一コレクション #1983，福田撮影。殻長38.3 mm，殻高35.7 mm。



分布 原記載には産地の表記がない。異名である *Amphidesma radiata* は「Red Sea (in coral sand)」(紅海(珊瑚砂中))、*A. Sinensis* は「China」(中国)、*Semele aphrodite* は「China seas?」(中国の海?)、*S. Shoplandi* は「Aden」(イエメンのアデン)からそれぞれ記載された。太平洋側は房総半島以南(清水利, 2001: 128, no. 2614)、日本海側は能登半島以南(Yokoyama, 1928b: 125, no. 51, pl. 20, fig. 3, as *S. sinensis*; Matsuura, 1977: 156, no. 408, pl. 11, fig. 1)、九州まで分布し、国外は中国(浙江省以南)、ベトナム、オーストラリア北部、アラビア湾、オマーン湾、紅海から知られる(Oliver, 1992: 138, fig. 4a–b; 167, pl. 30, fig. 4a–b, as *S. sinensis*; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 56, fig. 424, as *S. sinensis*; Bosch *et al.*, 1995: 261, fig. 1171, as *S. sinensis*; Hylleberg & Kilburn, 2003: 203; Wang, 2004: 294, pl. 160, fig. F; 徐・張, 2008: 194, 195, fig. 606; Huber, 2010: 335, text-figs; 698; Lutaenko & Volvenko, 2013: 102, pl. 10, figs Q–R; 王他, 2016: 130, no. 368, text-figs)。その一方で、南西諸島と朝鮮半島では明確な記録が見当たらない。

生息状況 内湾湾口で外洋水が流入する場所や潮流の速い島嶼間の海岸において、砂泥底に大小の岩礫が混在する干潟から潮下帯にかけて産する。棲息が可能となるための条件が厳密なため環境変化に敏感で、近年は全国的に減少傾向が強く、健全な個体群が認められるのは佐賀県唐津湾・伊万里湾などわずかで、山口～大分両県の瀬戸内海周防灘や三重県英虞湾では死殻が稀に見られる程度まで激減している(木村昭・山下博, 2012: 136, text-fig.)。香川県では畠山・矢野(1978: 2)は荘内半島～坂出沖で死殻を得たと記録しているが、近年の瀬尾・Tanangonan(2014)には言及がない。岡山県では池辺・吉田(2006: 125, no. 4318)が「1975.6.8」採集の本県産個体を挙げたのが唯一の文献記録であるが、畠田和一コレクションには「備前〔倉敷市下津井〕六口島」(合弁4個体、うち1個体は「黒田〔徳米〕氏同定」、#1982, 1983; 写真)産の見事な標本が含まれ、これらは色彩や靱帯などの保存状態の良好さから、すべて採集時は生貝もしくは死亡後まもない死殻であったと見なされる。したがって畠田和一が主に活躍した1950年代以前には、水島諸島などに本種の棲息に適した環境が存在したと推測される。しかし近年は、2010・2011年に玉野市沼の出崎海水浴場で古い半片が計2個得られたのみで(OKCAB M20140, M22084)、生貝はおろか合弁死殻すら全く見出されていない。このため本県のみならず対岸の香川県も含めて本種はもはや絶滅したか、それに近い状態まで激減してしまった可能性が高い。離島の海岸にはまだわずかに生き残っている可能性があるため今回は絶滅と断定するのは避けるが、今後県内で生貝を見いだすのは相当に困難な課題である。

(福田 宏)

アサジガイ

Semele zebuensis (Hanley, 1843)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 アサジガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Hanley (1843 in 1842–1856: 342, pl. 12, fig. 7, as *Amphidesma Zebuense* [sic]) で、タイプ標本の写真を Higo *et al.* (2001: 171, fig. B1007) が公表している。新参異名は3つ: *Semele gratiosa* [A. Adams, MS.] Reeve, 1853a: pl. 4, sp. 25 [*A. Zebuensis* の異名として]; *S. duplicata* Gould, 1861: 27; *S. Gouldi* Tryon, 1869: App. 120, no. 26 [*S. duplicata* Gould が *A. duplicata* [Sowerby I, MS.] Reeve, 1853a: sp. 14, pl. 3, fig. 14 の新参二次同名となったがゆえの置換名]。このうち *S. duplicata* Gould (= *S. Gouldi*) のシンタイプも Higo *et al.* (2001: 171, fig. B1007s) が図示している。殻長約 45 mm, 殻高約 38 mm, やや前後に引き伸ばされた卵円形, 厚く, 膨らみは弱い。殻頂はやや後方に寄り, 前・後端とも丸い。殻表は細い成長輪肋が板状に立ち, 狭い間隔で規則的に並ぶ。地色は白いが殻頂附近は淡黄色で, 殻頂から腹縁へ向けて薄紅色の放射状色帯を走らせる個体もある。外韌帯は後位で筒状。細長い弾帯が強い主歯の後方へ斜めに埋在する。前後の側歯は低く不明瞭。歯板は紅色に染まる。内面は白く, 套線彎入は深く丸い。閉殻筋痕は前後とも丸い。周縁は刻まれない。軟体は白く, 足と水管はよく発達する。



写真： 備前〔倉敷市〕下津井, 畠田和一コレクション #1978, 福田撮影。殻長 39.0 mm, 殻高 32.9 mm。

分布 タイプ産地は「Philippines」(フィリピン; *Semele gratiosa* も同じ)。異名である *S. duplicata* (= *S. Gouldi*) は「Kagosima Bay, in 6 fathoms, sandy bottom」(鹿児島湾, 6 尋, 砂底) から記載された。太平洋側は福島県常磐沖以南 (根本・秋元, 1990: 14–15, no. 200), 日本海側は島根県隠岐以南 (島根大隠岐臨海, 2011: 18), 九州までと, 国外は台湾, ベトナム, フィリピンから知られる (徐, 1997: 173; Hylleberg & Kilburn, 2003: 203; Huber, 2010: 339, text-figs; 699; Poppe, 2011: 364, pl. 1177, figs 5–8)。南西諸島, 朝鮮半島や中国本土沿岸からは信頼できる報告が見当たらず, 近似する別種が複数存在することから同定が混乱している可能性がある。例えば Lamprell & Whitehead (1992: pl. 56, fig. 419) が本種として図示したオーストラリア北部のグレートバリアリーフ産個体は明らかに誤同定で, 同属の *S. exarata* (A. Adams & Reeve, 1850: 81, no. 1, pl. 24, fig. 9, as *Amphidesma exarata*) と思われる (*S. exarata* を本種の異名とする文献もある (Kuroda & Habe, 1981: 135; Bernard *et al.*, 1993: 96, as *S. zebuense* [sic]; Higo *et al.*, 1999: 490, no. B1007, as *S. zebuense* [sic]) が, 実際は日本に分布しない別種である)。

生息状況 内湾・外洋を問わず潮下帯 (水深約 10–50 m) の細砂底または砂泥底に棲む。かつての瀬戸内海では時折死殻が砂浜に打ち上げられたり, 海底からの浚渫砂に混入しているのが見られた。香川県では近年も死殻のみながら産出が報告されている (瀬尾・Tanangonan, 2014: 110, no. 75)。岡山県では窪田 (1962: 163, no. 2309) が「備前〔國〕」産個体に言及し, その標本は福井市自然史博物館に現存する (FKC6298)。また岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録にも掲載されている。畠田和一コレクションには「備前〔倉敷市〕下津井」(合弁1個体, #1978; 写真) 及び「備中〔笠岡市〕白石島沖」(合弁1個体, #1979) が含まれ, 特に下津井産標本は摩滅や褪色の見られない完全品で, 採集時は生貝もしくは死後まもない状態であったとみられる。しかし近年は 2004 年に玉野市渋川海岸で破片 2 個が得られたのみで (OKCAB M8549), しかも渋川の砂浜にはその時点で既に人為的に海砂が搬入され, 明らかに瀬戸内海産でない貝類の殻 (種構成からみて恐らく日本海南西部: 現在も海砂採取が規制されていない長崎県壱岐・対馬周辺沖の可能性が高い) が多数見られたため, 本種の破片も現地産か県外由来かを特定できない。確実に本県在来である生貝や合弁死殻は近年全く確認されていないため, もはや絶滅かそれに近い状況にあることは明らかである。香川県との境周辺において深場を精査すれば生貝が見出される可能性も残るが, 少なくとも浅海には個体群は残っていないと考えられる。

(福田 宏)

ズングリアゲマキ

Azorinus abbreviatus (Gould, 1861)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 ギルガイ目 ニッコウガイ上科 キヌタアゲマキ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Gould (1861: 26, as *Solecrtus abbreviatus*)。タイプ標本は所在不明 (波部, 1960a: 31, no. 27; Johnson, 1964: 35) で図示された例もないが、記述及び Sowerby II (1874c: sp. 6, pl. 2, fig. 6a-b) の図 (マレーシアの「Malacca」産) とそれを転載した Clessin (1888 in 1842-1888: 93-94, no. 14, pl. 22, fig. 3) をもとに同定されてきたと思われる。*Azor solidus* Dunker, 1862: 425, no. 31 は新参異名。Bernard *et al.* (1993: 102) は本種の有効名を *Azorinus coarctatus* (Gmelin, 1791) とすると同時に、*Solecrtus abbreviatus* を含めて 7 つの学名を異名とした。この扱いを多少改変した Higo *et al.* (1999: 496, no. B1077) は、最古参の *Azorinus chamasolen* (da Costa, 1778) を有効名に据え、やはり 8 つの学名を異名とした結果、本種の分布域はインド-西太平洋のほぼ全域という広大な範囲と解釈されるに至った。しかしそれらの「異名」のうち、*Solen Chama-Solen* da Costa, 1778 はイギリス産の別種、*Solen coarctatus* Gmelin, 1791 及び *Solen emarginatus* Spengler, 1794 は正体不明の疑問名 (*nomen dubium*)、*Solen constrictus* Bruguière, 1792 はニッコウガイ科に属す種、*Solen constrictus* Lamarck, 1818 はアゲマキ、*Azor oblongus* Dunker, 1862 は沖縄以南に分布する別種 *Azorinus scheepmakeri* (Dunker, 1852) オオズングリアゲマキの異名、*Novaculina andamanensis* Preston, 1908 はさらに異なる種 (*Solen coarctatus* と同種とも言われる) とされ (Huber, 2010; MolluscaBase, 2018), 確かに本種の異名と呼べるのは *Azor solidus* のみである。本種は殻長約 40 mm, 殻高約 20 mm, 横長の円筒形、背縁と腹縁とも直線的でほぼ平行、薄質不透明、膨らみは弱い。前端・後端とも大きく開く。殻頂は多少前方に寄り、前後端とも丸みを帯びる。殻頂から腹縁中央に向けて斜めに浅い溝状の窪みが走り、腹縁に達してわずかな彎入を形成する。殻表は光沢のない白色で、成長輪肋の他は目立った彫刻を欠き、オリーブ色の殻皮で覆われるがこれは剥離しやすく、成貝では多くの場合前後端と腹縁だけに残存している。内面は白色で套線彎入は著しく深い。靱帯は筒状で大きい。主歯は左右とも 2 個あり、特に前主歯は強く鋭い牙状。吉良 (1959: 152, pl. 58, fig. 20, as *Azorinus minutus* (Dunker)) が本種に似て非なる種として並置したホソズングリアゲマキは、波部 (1981b: 72, 73, fig. 8) は本種の幼貝とみなしている。また吉良がホソズングリアゲマキの学名とした *Azorinus minutus* (Dunker, 1862) は、Huber (2010: 350) によればフィリピンからオーストラリアに分布する別種である。

写真： 備中黒崎村 [現・倉敷市玉島黒崎]、畠田和一コレクション #4281, 福田撮影。殻長 29.5 mm, 殻高 12.8 mm。



分布 タイプ産地は「Hong Kong」(香港)。異名である *Azor solidus* は「In insulis Philippinis」(フィリピン) から記載された。国内の分布範囲は近年の図鑑でも「房総半島以南」としている例が多い (e.g. 松隈, 2017: 1263, pl. 556, fig. 11) が、実際には岩手県大槌湾で複数回記録されており (土田・黒住, 1995: 31, pl. 6, fig. 4; 戸羽, 2009: 91, fig. 76) そこが太平洋側の目下の北限である。日本海側は男鹿半島以南 (鈴木庄, 1979: 238, no. 474) に知られ、九州までと朝鮮半島、中国大陸南部沿岸 (特に Beibu Gulf) ~台湾, フィリピン, インド洋はパキスタンまで分布する (Swennen *et al.*, 2001: 88, fig. 159, as *Azorinus coarctatus*; 関他, 2004: 454, fig. 1495-1-2; 455, no. 1495, as *Azorinus chamasolen*; Wang, 2004: 295-296, pl. 161, fig. A, as *Azorinus coarctata* [sic]; Huber, 2010: 350, text-figs; 705; 楊他, 2013: 212-214, fig. 808, as *Azorinus coarctata* [sic])。

生息状況 潮下帯 (水深およそ 10~50 m) の砂泥底に棲息する。主に太平洋など開放的な外洋に見られる種で、瀬戸内海ではもともと少産であり生貝を目にする機会は滅多にない。濱村 (2004: 159, text-fig.) も広島県芸南地方では「底引」で死殻のみが得られる (ただし「殻皮つきの両殻がよく採れる」と述べている。岡山県での文献記録は皆無であるが、畠田和一コレクションの中に「備中黒崎村 [現・倉敷市玉島黒崎]」産の、採集時は生貝であったと推測される合弁 1 個体 (#4281; 写真) が含まれており、かつては確かに本県にも棲息していたことがわかる。この個体はやはり畠田標本の中にしか残されていないダンバイキサゴ、ユキノアシタ、ワスレガイなどと同様に、1950 年代ごろまでの岡山県が外洋性の種群も棲息可能な場所であったことを示す貴重な証拠である。それら外洋性種群は高度経済成長期の海岸改変と汚染、海底浚渫などによって 1990 年代ごろまでにはほぼ完全に県内から消滅したと考えられる。今後環境状態の改善が見込めれば、新たな個体群が生じる可能性も皆無とまでは言えないものの、その場合もかつて県内にみられた個体群との繋がりはないはずであり、ユキノアシタの項で述べたのと同様の理由により、今回はカテゴリを絶滅とする。

(福田 宏)

クチベニ

Corbula erythrodon Lamarck, 1818

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 オオノガイ目 オオノガイ上科 シコロクチベニ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Lamarck (1818: 496, no. 3)。タイプ標本が図示された例はないが、Reeve (1843 in 1843d-1844a: sp. 4, pl. 1, fig. 4) がシーボルト採集の日本産個体を図示し、以後これをもとに同定されてきたと思われる。殻長約 25 mm, 殻高約 17 mm, 前後に引き伸ばされた三角形, 著しく厚く堅固な陶器質で強く膨らむ。左右不等殻で、右殻が一回り小さい左殻を抱くが、腹縁は伸長しない。殻頂は中央にあつて幅広く隆起する。前端は丸く、後端は突出して鈍く尖り、左殻は水管板を形成する。殻表は象牙色で鈍い光沢をもち、太く低い成長輪肋をほぼ等間隔に刻むが、太さが不揃いとなる個体も多い。周縁は茶褐色の殻皮に覆われる。内面は白く、辺縁の全体が鮮やかな桃色に太く縁取られる(和名「口紅」の由来)。前後の筋痕は大きく、前は勾玉形で後は円い。套線彎入は後方でごくわずかに生じるか不明瞭。右殻の鉸歯は強い牙状で、その後方に弾帯窩があり、左殻には幅広い弾帯受があつて、これら弾帯窩と弾帯受はともに上下2段に分かたれる。軟体は白色で足は比較的小さい。水管は短くて幅広く、先端に細かい触手列を冠する(奥谷, 2000: 1023, pl. 509, fig. 1, as *Solidicorbula erythrodon*; 高重, 2019: 300, 301, text-figs に生体写真あり)。

写真： [瀬戸内市] 牛窓町筵江浜, 畠田和一コレクション #2182, 福田撮影。殻長 24.9 mm, 殻高 16.6 mm。



分布 原記載には「..... On la dit des mers de la Chine et du Japon」(不明だが、中国と日本の海のものと言われる)と産地が表記されている。太平洋側は房総半島以南(清水利, 2001: 135, no. 2760, as *Solidicorbula erythrodon*), 日本海側は男鹿半島以南(西村正・渡部景, 1943: 73, no. 258, as *Aloidis erythrodon*), それぞれ九州まで分布し、国外は朝鮮半島, 中国(福建省以南), 台湾, ベトナム, タイから知られる(Lynge, 1909: 267, as *Corbula (Aloidis) erythrodon*; Swennen *et al.*, 2001: 91, fig. 211; Hylleberg & Kilburn, 2003: 222; Li, 2004: 318, pl. 173, fig. G, as *S. erythrodon*; 徐・張, 2008: 260, 261, fig. 823, as *S. erythrodon*; Huber, 2010: 469, text-fig.; 768, as *C. (S.) erythrodon*; Kim, 2017: 211, no. 220)。

生息状況 内湾湾口の潮間帯下部～潮下帯の清浄な細砂底に棲み、特に河川が流入する入り江の砂浜を好むが、かといって汽水域に見られるわけではない。特に日本海南西部では普通に見られ、多産する場所では死殻のみならず生貝も浜辺に打ち上げられることがある。一方で大規模な内湾奥の軟泥底は棲息に適さず、瀬戸内海中央部ではもともと棲息可能な場所自体が少ないため普通種と呼びがたく、近年の香川県では少数の死殻しか確認されていない(瀬尾・Tanangonan, 2014: 114, no. 132, as *Solidicorbula erythrodon*)。岡山県では岡大玉野臨海(1978: 162)及び同牛窓臨海(刊行年不詳: 54, as *S. erythrodon* [sic])の目録に登載されており、畠田和一コレクションには「[岡山市東区]犬島」(合弁1個体と半片1個, #2179), 「[瀬戸内市]牛窓町筵江浜」(「S[昭和]8 [=1933].6.28.」, 合弁1個体, #2182; 写真), 産地表記はないものの岡山県産と推定される合弁2個体(子息の自由研究課題とみられる標本箱中, #4454)の計3ロット5個体が現存する。これらのうち合弁個体はいずれも光沢・色彩・靱帯がよく保存され、採集時は生貝であったと思われる。瀬戸内市牛窓～岡山市東部の周辺は本県沿岸の中でも島嶼が多く潮流も速いため、かつては内海にありながら外洋性種が多く見られた場所であり、本種の記録や標本の産地が牛窓附近に集中しているのは自然で理解しやすい。しかし最近20年間では本種の生貝や合弁死殻は一切見出されていない。半片は牛窓町鹿忍の矢寄ヶ浜, 岡山市東区正義の飯盛岩周辺, 同市南区小串相引, 玉野市沼の出崎海水浴場などで得られている(OKCAB M8680, M16164, M20097, M20149, M22100, M23555)が、いずれも内面の光沢や色彩が失われた古いものであり、最近まで生きていた個体とは思われない。このため現在も県内に個体群が維持されているか否かは確言できず、少なくとも1950年代以前と比較して著しく減少したことは疑いがない。高度経済成長期以降になされた護岸や埋め立てによる海岸線の単調化や、水質・底質の汚染など複合的な要因により、県内から外洋性種がごとく絶滅したのと同時に本種も急減したことは確実である。

(福田 宏)

イナカクチベニ

Corbula nipponica (Habe, 1961)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 オノガイ目 オノガイ上科 シコロクチベニ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は波部 (1961a: 139, pl. 63, fig. 5; app. 40, as *Anisocorbula nipponica*) で、タイプ標本は Higo *et al.* (2001: 180, fig. B1295, as *A. nipponica*) にも図示されている。殻長約 10 mm, 殻高約 7 mm, 前後に引き伸ばされた三角形, 著しく厚く堅固で, 同属の近似種 *Corbula venusta* Gould, 1861: 25 クチベニデに似るが, 後種より膨らみが強い。左右不等殻で, 右殻が一回り小さい左殻を抱き, 腹縁はさほど伸長しない。殻頂はやや前方に寄り, 低く隆起する。前端は丸く, 後端は細まってクチベニデよりも鋭く尖る。殻頂から後腹隅へ向けて太い畝状の稜角が走る。殻表は飴色で光沢は弱く, 粗い成長輪肋を不規則に並べて段差状をなすが, 周縁以外では不明瞭となって平滑に近い個体もある (クチベニデの成長輪肋はより細かくて規則的)。内面は白色または濃褐色。前後の筋痕は大きく楕円形。套線はほとんど彎入しない。右殻の鉸歯は強大な鈎状で, その後方に弾帯窩があり, 左殻の弾帯受は三角形をなす。軟体は未詳。

写真： [岡山市東区] 犬島, 畠田和一コレクション #4527, 福田撮影。殻長 8.7 mm, 殻高 5.9 mm。



分布 タイプ産地は「熊本県天草郡富岡沖 (深度 30~40 m, 細砂底)」で, 原記載には同時に「相模湾—九州西岸 (30~100 m, 細砂泥底)」に分布し, 「棲息深度も 30~100 m に及んで, 大陸棚上に普通である」とも記されている。その後の文献記録は決して多くないが, 太平洋側は房総半島犬吠埼以南 (清水利, 2001: 135, no. 2755, as *Anisocorbula nipponica*), 日本海側は佐渡島真野湾以南 (伊藤勝, 1978: 212, no. 261; 1979: 49, no. 191; both as *A. nipponica*), 九州まで点々と記録があり, 特に相模湾では多数の地点から採集されている (黒田他, 1971: 707-708 (和文), 465-466 (英文), pl. 102, fig. 14, as *A. nipponica*)。国外は台湾とベトナムからのみ知られている (Hylleberg & Kilburn, 2003: 222, as *A. nipponica*; Huber, 2010: 466, text-fig., as *Corbula (A.) nipponica*)。

生息状況 内湾・外洋を問わず水深 10~300 m の砂底に棲むとされるが, 報告例が少なく棲息実態に関する知見はいまだ乏しい。濱村 (2004: 173, text-fig., as *Anisocorbula nipponica*) は広島県倉橋・下蒲刈両町で「潮間帯下部 砂礫地に棲む」と述べており, 従来考えられていたよりは浅所にも産するらしい。瀬戸内海では比較的広範囲から知られるものの (稲葉, 1982: 66, no. 306, as *A. nipponica*), 棲息密度は低く, クチベニデに比べると目にする機会が格段に少ない。香川県では近年の調査で少数の死殻のみ確認されている (瀬尾・Tanangonan, 2014: 114, no. 134, as *A. nipponica*)。岡山県では文献記録はなかったが, 畠田和一コレクション中に「[岡山市東区] 犬島」(合弁 1 個体, #4527; 写真) 産の標本が含まれる。この個体はクチベニ (#2179) と同じ袋に入れられていたもので, 両種が同時に採集されたものと考えられる。しかしこの個体以外には県内で一切確認されておらず, 瀬戸内・岡山・玉野各市でのドレッジや採泥器等による調査でも死殻すら採集されていない。このため本県では少なくとも著しく稀産であり, 犬島で同時に採集されているクチベニも近年棲息が確認できていないことを考え合わせると, 後種の項で述べたのと同様の理由で既に絶滅した可能性も否定できない。

(福田 宏)

コダキガイ

Corbula rotalis Hinds, 1843

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯目 オノガイ目 オノガイ上科 シコロチベ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Hinds (1843: 56–57) で、同時代の Reeve (1844 in 1843d–1844a: sp. 34, pl. 5, fig. 34) に図示された。*Corbula bifrons* A. Adams, 1860a: 412 は新参異名で、そのタイプ標本は波部 (1961b: 193, no. 8, pl. 1, fig. 5; pl. 4, fig. 17, as *Varicorbula bifrons*), Lamprell & Healy (1998: 196, fig. 569a–b, as *C. (V.) rotalis*) 及び Higo *et al.* (2001: 180, fig. B1298s, as *V. bifrons*) に図示されている。*C. substriata* Yokoyama, 1922: 125–126, no. 190, pl. 7, fig. 3 も異名 (Oyama, 1973: 115–116, pl. 55, figs 7a–c, as *V. bifrons* に転載)。別名スジコダキガイ (大山, 1943a: 43, no. 580; *C. substriata* に対応する)。殻長・殻高とも約 5 mm, 歪んだ亜三角形で薄質, 象牙色ないし淡い角色。左右の殻は大きさも形も著しく異なり, 右殻の腹縁は伸長して小さな左殻を抱く。殻頂は前方に傾き, 幅広く隆起する。前端は丸く, 後端は截断状。右殻は強く膨らみ, 殻表は鈍い光沢を帯び, 明瞭な成長輪肋を規則的に並べるのに対し, 左殻は扁平で辺縁が反り返り, 明瞭な放射状彫刻を腹縁に向けて広い間隔で走らせる。前後の筋痕は大きく楕円形。套線はほとんど彎入しない。右殻の鉸歯は強く牙状で, その後方に弾帯窩があり, 左殻の弾帯受は広い。軟体は未詳。



写真：玉野市大入崎～岡山市東区犬島間 水深 10 m 砂底 ドレッジ St. 3, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24360, 福田撮影。殻長 3.2 mm, 殻高 2.6 mm。

分布 タイプ産地は「Calapan, Mindora [sic; = Mindoro], Philippine Islands; from fifteen fathoms, coarse sand」(フィリピン, ミンドロ島のカラバン, 15 尋, 粗砂底)。異名である *Corbula bifrons* は「Straits of Korea, 63 fathoms; off Mino-Sima」(朝鮮海峡 63 尋, 山口県萩市見島沖) から記載され, のちに A. Adams (1868b: 365, no. 5) は「Seto-Uchi; Gotto」(瀬戸内海; 長崎県五島列島) から *C. bifrons* を報告している。*C. substriata* は「Shito」(千葉県市原市市東, いわゆる瀬又貝化石層=後期更新世印旛層と市原層) から記載された。太平洋側は千葉県銚子以南 (渡辺富, 1988: 91, as *Varicorbula rotalis*), 日本海側は新潟県中越地方以南 (伊藤勝, 1989: 66, no. 371, pl. 27, fig. 10, as *V. rotalis*), 小笠原諸島父島沖と嫁島 (西村和, 1999: 118, no. 395; Okutani & Saito, 2011: 93, fig. 4-30; both as *V. rotalis*), 沖縄 (Habe, 1949: 2, no. 2, pl. 1, figs 3–4, as *V. bifrons*) から知られ, 国外は韓国济州島, 海南島, 台湾, ベトナム, フィリピン, オーストラリア北部まで分布する (Lamprell & Healy, 1998; Huber, 2010: 468, text-fig.; both as *C. (V.) rotalis*; Hylleberg & Kilburn, 2003: 222; 関他, 2004: 475, fig. 1566-1-2; Noseworthy *et al.*, 2007: 99; 徐・張, 2008: 261, fig. 826; all as *V. rotalis*; Poppe, 2011: 390, pl. 1190, figs 1–2)。

生息状況 水深 20～450 m の砂底に棲息し, 大陸棚上に普通に産する (波部, 1961a)。浚渫砂泥の中に含まれているのを時折目にするものの, 砂浜に打ち上げられることは滅多にない。このためドレッジなどの方法を用いない限り生貝を得るのは難しいが, 瀬戸内海では広範囲に少なからず見られるとされる (稲葉, 1982: 66, no. 308, as *Varicorbula rotalis*)。岡山県では文献記録はなく, 畠田和一コレクションにも含まれていないが, 2002 年に玉野市沖で実施されたドレッジでは 3 地点で確認された: 波張崎南東沖 (水深 22 m, 泥底, 半片 20 個と破片 1 個, OKCAB M24133), 波張崎～岡山市東区犬島間 (14.3 m, 砂底, 半片 7 個と破片 1 個, M24268), 大入崎～犬島間 (10 m, 砂底, 半片 2 個, M24360; 写真)。しかしその全てが古い半片死殻であり, 生貝や合弁死殻はいまだ見出されていない。おそらく本種はかつて岡山県沿岸の潮下帯に多産していたものの, 1960 年代以降の海岸開発や海底浚渫, 汚水・汚泥の流入などによって死滅し, 現在採集される死殻はそのころまで生きていた個体の遺骸が大半と推測される。外洋の漸深海底という比較的安定した環境で多産する種であることから, 戦後の岡山県で生じた環境変化には適応できなかったと考えられる。現在の県内にいまだ個体群が残存しているか否かは不明であるが, 古い半片ばかり多数採集されることから判断して, 本来の状態と比べて激減したことは明らかである。

(福田 宏)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 オオノガイ目 オオノガイ上科 シコクチベニ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 Hinds (1843: 56) がコダキガイと同じ記事中で記載し、やはり Reeve (1844 in 1843d-1844a: sp. 24, pl. 3, fig. 24) に図示された。シタイプの写真は Higo *et al.* (2001: 180, fig. B1293, as *Anisocorbula scaphoides*) が公表している。殻長約 20 mm, 殻高約 12 mm, 前後に長い三角形でやや薄い。右殻は左殻よりわずかに大きい。殻頂は前方に多少傾く。前端は丸く、後端は斜めに截断状で、殻頂から後腹隅へ龍骨状の鋭い稜角が走り、腹縁との交点は尖る。殻表は両殻とも太く明瞭な成長輪肋を規則的に並べ、淡黄白色。前後の筋痕は大きく円い。套線は彎入しない。右殻の鉸歯は牙状で、その後方の弾帯窩は大きく、左殻の弾帯受は小さくて幅の広い三角形。軟体は未詳。

写真： 幼貝，備中〔笠岡市〕北木島，畠田和一コレクション #4331，福田撮影。殻長 4.9 mm，殻高 3.0 mm。



分布 タイプ産地は「Singapore; from seven fathoms, sandy mud. Bais, island of Negros, Philippines」(シンガポール, 7 尋, 砂泥底, 及びフィリピン, ネグロス島のバイス)。太平洋側は房総半島以南 (Nomura, 1940: 99, no. 92, as *Aloidis* (s. s.) *scaphoides*), 日本海側は新潟県佐渡島以南 (伊藤勝, 1989: 65, no. 369, pl. 27, fig. 8, as *Anisocorbula scaphoides*), 九州までと、伊豆諸島八丈島・神津島 (西村和, 1999: 118, no. 391, as *An. scaphoides*), 奄美大島沖 (Okutani, 2005: 131, no. 108, as *An. scaphoides*) から知られる。国外は中国 (広東省以南), 台湾, ベトナム, タイ, フィリピン, インドネシア, インドまで分布する (Kuroda, 1941: 172, no. 1440, as *Al. scaphoides*; Hylleberg & Kilburn, 2002: 68; 2003: 222, as *An. scaphoides*; Dharma, 2005: 270, pl. 110, fig. 23, as *Corbula* (*Serracorbula*) *scaphoides*; 徐・張, 2008: 258, 259, fig. 818, as *An. scaphoides*; Huber, 2010: 466, text-figs; 768, as *C. (An.) scaphoides*; Poppe, 2011: 390, pl. 1190, fig. 3; 2017: 222, pl. 1411, figs 5-7)。朝鮮半島からは明確な記録がない。

生息状況 潮下帯から漸深海底 (水深 3~250 m) の砂底に棲息するが、主として外洋に見られる種で内湾環境には少なく、稲葉 (1982: 65, no. 304, as *Anisocorbula scaphoides*) は瀬戸内海での産地として大阪湾北西部・香川県・愛媛県伯方島・広島県厳島の 4ヶ所のみを挙げている。このうち香川県の記録は畠山・矢野 (1979: 11, as *An. scaphoides*) によるが、近年の瀬尾・Tanangonan (2014) による同県での調査では本種は見出されていない。岡山県でも文献記録はないが、畠田和一コレクションに「備中〔笠岡市〕北木島」(「クチベニデ (幼) 矢倉〔和三郎〕氏同定」, 合弁 2 個体, #4331; 写真) の標本が含まれている。2 個体ともクチベニデの幼貝にしては薄すぎ、また後腹隅が明瞭に尖っているため本種に同定される。浜辺に打ち上げられていた個体と推測されるが、摩滅はほとんど見られず新鮮である。その後は長らく情報がないうままであったが、2011 年に玉野市沼の出崎海水浴場へ打ち上げられていた半片 1 個が採集された (OKCAB M22099)。この標本は現時点で今世紀唯一の県内における本種の産出例であるが、殻表だけでなく内面も付着物が覆っており、一見して相当古い死殻である。イナカクチベニなどと同様、1950 年代以前には県内に少数ながら棲息していたものの、その後大半が死滅して、かつての遺骸がまだ残っているだけかもしれない。

(福田 宏)

クモリクチベニ

Corbula tosana Yokoyama, 1929

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 オオノガイ目 オオノガイ上科 シコロクチベニ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 本種はツマベニと同種とされる場合が多いが (e.g. 波部, 1977a: 281, pl. 59, fig. 7, as *Anisocorbula scaphoides*; Huber, 2010: 466, text-figs; 768, as *Corbula* (*A.*) *scaphoides*), ここでは「小型で前後に短く、輪肋は粗くない」点を重視して別種とした奥谷 (2017: 1269, pl. 562, fig. 10, as *A. tosana*) の見解を支持する。原記載は Yokoyama (1929: 15, no. 28, pl. 8, fig. 1)。殻長約 12 mm, 殻高約 9 mm, ツマベニとの他の相違点は殻長に比して殻高が高く、殻頂がやや突出することと、後腹隅に生じる角がさほど鋭く尖らないこと、さらに内面が飴色に染まることである。軟体は未詳。

写真：玉野市波張崎～岡山市東区犬島間 水深 14.3 m 砂底ドレッジ St. 2, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24267, 福田撮影。殻長 7.4 mm, 殻高 4.8 mm。



分布 タイプ産地は「Tōnohama near the town of Yasuda, Aki County, Tosa Province」「土佐國安藝郡安田町唐ノ濱」で、鮮新世の化石である。ツマベニとは異なる種としてなされた報告が少ないため、分布域の全貌は明らかでない。具体的な産出記録は和歌山県有田市辰ヶ浜 (Habe, 1949: 3, no. 6, pl. 1, figs 10–11; 竹之内, 2007: 24), 同県東牟婁郡串本町潮岬 (池辺・吉田, 2006: 131, no. 4536), 高知県沖島・柏島・足摺岬沖周辺 (東, 1960: 91, no. 1526), 長崎県雲仙市千々石町 (堀川, 1964: 79, no. 1217) で、波部 (1961a: 139, pl. 63, fig. 2) と奥谷 (2017) は分布範囲をそれぞれ「和歌山県-九州西岸」「紀伊半島～九州西岸」としており上記各記録と合致する (以上、竹之内 (学名なし) を除く全文献が *Anisocorbula tosana* としている)。

生息状況 ツマベニと同様に潮下帯～漸深海底の砂底に棲息すると推測されるが、情報に乏しいため詳細は不明である。香川県でツマベニを記録した畠山・矢野 (1979: 11, as *An. scaphoides*) は本種を明確に新参異名として扱っており、同県では両種が産するのか、あるいはどちらか片方だけなのか判然としない。岡山県でも文献記録はなく、畠田和一コレクションにも含まれていないが、2002 年に実施した沖でのドレッジ調査の際、3 地点で死殻が採集された：波張崎～犬島間 (水深 14.3 m, 砂底, 半片 9 個と破片 1 個, OKCAB M24267; 写真), 大入崎東沖 (17.4 m, 砂底, 破片 1 個, M24445), 波張崎南東沖 (21.9 m, 砂底, 半片 1 個, M24482)。これら各個体はツマベニとは形態的特徴が連続せず互いに識別が可能のため、当面は両者を別種と見なすことにするが、得られた標本全てが状態の悪い古い死殻である点は県内産のツマベニと同様で、本種もまた生貝はおろか、新鮮な合弁死殻すら一切確認されていない。かつては両種とも類似したハビタットに個体群が存在していたものの、戦後の環境悪化のために揃って絶滅したか、もしくはその寸前の状態に陥っていると考えられる。

(福田 宏)

マメクチベニ

Corbula yokoyamai (Habe, 1949)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 オオノガイ目 オオノガイ上科 シロクチベニ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 現存産地が県内に1箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 本種に対する最古参名は *Corbula pygmaea* Yokoyama, 1922: 125, no. 189, pl. 7, figs 4-5 (原記載の図は Oyama, 1973: 116, pl. 55, figs 3a-c, 4a-b, as *Varicorbula yokoyamai* に再録) であるが、この名は *C. pygmaea* Hanley, 1856 in 1842-1856: 344-345, pl. 12, fig. 34 及び *C. pygmaea* H. Adams, 1873: 208, pl. 23, fig. 13 の新参一次同名で無効であるため、置換名として

Varicorbula yokoyamai Habe, 1949: 2, no. 3, pl. 1, fig. 5 が与えられた。殻長約4mm、殻高約3.3mm、卵楕円形で厚く不透明、よく膨らむ。左右不等殻で、右殻が一回り小さい左殻を抱き、右殻の腹縁から後端にかけては多少伸展する。前端は丸く、後端は截断状。右殻の殻表は白色で鈍い光沢をもち、太く明瞭な成長輪肋をほぼ等間隔に刻む。左殻は黄褐色の殻皮で覆われ、輪肋を欠き、弱い成長脈のみを刻む。内面は白く、前後の筋痕は大きく顕著で、套線はわずかに彎入する。左殻の殻頂の直下にやや広い弾帯受がある。軟体は白色で足は長く、水管は短い(川淵, 2012: [36], no. AK-6 に生体写真あり)。写真：倉敷市児島唐琴町 壱場島南西沖 味野湾 潮下帯砂泥底, 2012年1月, OKCAB M24687, 福田撮影。殻長3.0mm, 殻高2.3mm。



分布 Yokoyama (1922) が挙げた産地は「Otake (rather frequent), Kioroshi, Tega」(千葉県印旛郡八生村 [現・成田市] 大竹 (かなり多産), 同郡木下町 [現・印西市], 東葛飾郡沼南町 [現・柏市] 手賀; いずれも後期更新世印旛層群化石) であるが、Habe (1949) が置換名 *Varicorbula yokoyamai* を提唱した際にはタイプ産地は「Otake, Chiba Pref., Kanto District, Honshu」とされ、同時に「Nakanose, Tokyo Bay」(東京湾中ノ瀬) 産の死殻が図示された。この時点では「This species has never been found in the living state」(本種は一度も生貝が見出されたことがない) とされていた。現生個体の最初の記録は波部 (1952a: 235, as *V. yokoyamai*) 及び河本・田邊 (1956: 82, no. 981, as *V. yokoyamai*) による日本海側の「[山口県] 長門 [市]」である。その後稲葉 (1963: 104, pl. 1, fig. 10, as *V. yokoyamai*) が瀬戸内海、堀川 (1964: 80, no. 1223, as *V. yokoyamai*) が長崎県有明海、多田武 (1964: 171, as *V. yokoyamai*) が山口県萩市見島、高橋・岡本 (1969: 85, no. 966, as *Corbula (V.) yokoyamai*) が福岡県玄界灘(イタヤガイ漁網) から現生個体を報告した。最近刊行された奥谷 (2017: 1269, pl. 562, fig. 12, as *V. yokoyamai*) は本種の分布域があたかも瀬戸内海に限られるかのごとき表記をしているが、実際には上記の通り東京湾以西の各地で点々と記録があり、中でも Oyama (1973: 116, pl. 55, figs 3a-c, 4a-b, as *V. yokoyamai*) は「The southern limit is shifted to western Okinawa Islands (P 25) by new information」(新知見として分布の南限は沖縄諸島西部(北緯25度)まで下る)と明記している。Okutani (2005: 131, no. 10, as *V. yokoyamai*) も種子島南東沖及び屋久島の約350km西の東シナ海から報告した。関他 (2004: 475, fig. 1567-1-2, as *V. yokoyamai*) は朝鮮半島産の標本を図示し、さらに Huber (2010: 468, text-fig., as *C. (V.) yokoyamai*) は本種がボルネオから日本にかけて分布するとしており、従来考えられていたより分布域ははるかに広いと見るべきであろう。

生息状況 内湾及び外洋の大陸棚上の潮下帯(水深約5~100m)の砂泥底に棲息する。砂浜での打ち上げ採集で得られる機会がほとんどない種であるため全国的に産出記録は少ないが、瀬戸内海ではほぼ全域で海底の砂中に死殻が多く含まれ(e.g. 濱村, 2004: 173, text-fig., as *Varicorbula yokoyamai*)、ハツカネズミの項で述べたのと同様、1970~80年代に海砂採取が盛んであった時代にはコンクリート工事用の砂中から半片が頻繁に見出されていた。しかし生貝の産出記録は極端に少なく、例外的に川淵 (2012) が兵庫県淡路島の属島成ヶ島の北端に相当する「新川口北部」の「4~5[m] 砂泥底」からドレッジで得た生貝を図示し、また瀬尾・Tanangonan (2014: 114, no. 135, pl. 5, fig. 8, as *V. yokoyamai*) が「生体は備讃瀬戸沖で採集されたトゲモミジガイの胃の中から確認した」と述べている程度である。岡山県での従来唯一の文献記録も、倉敷市児島塩生の沖合から水島工業地帯造成のためにサンドポンプで運ばれた砂中から得られた死殻であった(大垣内, 1968a: 45)。2002年に県内で実施されたドレッジでは、玉野市波張崎南東沖(22m 泥底)、波張崎~岡山市東区犬島間(14.3m 砂底)、玉野市大入崎~犬島間(10m 砂底)、大入崎東沖(17.4m 砂底)、岡山市南区米崎沖(5.2m 泥底)で古い半片死殻や破片が採集されたが、各地点で1~4個ずつ程度にとどまり、生貝や合弁死殻は全く見出されなかった(OKCAB M24134, M24269, M24361, M24446, M24582)。ところが2012年1月、倉敷市児島唐琴町の壱場島南西沖(味野湾)の潮下帯砂泥底において生貝1個体(M24687; 写真)が採集され、現在も本県内に確かに棲息していることが明らかとなった。しかしそれ以外には依然として全く生貝が確認されておらず、生存個体数は著しく少ないものと推測される。海砂採取が本種の棲息環境それ自体を消失させたことは明らかであり、今もなお回復にはほど遠い状態にある。

(福田 宏)

カキゴロモ

Aspidopholas aff. *yoshimurai* Kuroda & Teramachi, 1930

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 オオノガイ目 ニオガイ上科 ニオガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 未記載種。瀧巖・波部 (1945: 111, no. 13, as *Martesia* (*Aspidopholas*) *yoshimurai*) 以来、最近まで本種は *Aspidopholas yoshimurai* Kuroda & Teramachi, 1930: 39–42, figs 1–5 イシゴロモに同定されてきた (e.g. 芳賀, 2010: 1, 4, 5, fig. 13)。しかし山下博・芳賀 in 山下博 (2012: 165, text-figs, as *A. sp.*) は本種を「イシゴロモに近似するが、より小型で、軟体部の特徴も異なり、DNA の検討でも別種と判断される」としてイシゴロモから分離し、カキゴロモの和名を新称した。それ以前に「児島湾産イシゴロモ」とされていたもの (岡山県レッドデータブック前版 (福田, 2010a: 395) も含む) は全て本種を指している。殻長約 15 mm, 殻高約 8.5 mm, 前後に細長い砲弾形で薄く、よく膨らむ。前端は細まって尖り、後端は丸い。殻表は淡黄色の薄い殻皮に覆われ、光沢を欠き、前方腹側に細かく不明瞭な放射肋を持つ。殻体の中区と後区の分化は不明瞭。弾帯受を欠く。イシゴロモに似るがより小形で細長く、また次の 3 点で識別される (芳賀, 2017: 1270, pl. 563, fig. 8, as *A. sp.*): 1) 稜線彎入が明瞭な溝をなさない, 2) 前背外転隆起が小さい, 3) 棒状突起は前方を向く。軟体の情報はまだ公表されていない。

写真： 備前児島湾, 古川田溝コレクション, 福井市自然史博物館所蔵 FK5575, 福田撮影。殻長 15 mm, 殻高 8.5 mm。



分布 イシゴロモとは異なる種として認識されてからまだ時間が経っていないため、分布に関する情報は乏しく、現時点で児島湾以外には東京湾 (絶滅), 福岡県筑後川河口沖など有明海, 熊本県宇城市大野川河口沖など八代海, 朝鮮半島南部, 中国大陸沿岸に産するとされる (山下博, 2012; 芳賀, 2017)。イシゴロモはタイプ産地の石川県七尾湾 (絶滅), 長崎県諫早湾と千々和湾などから見出されているが、本種はそれらの産地では知られていない。

生息状況 イシゴロモも本種も大規模な内湾奥の潮間帯下部～潮下帯に見られる点で共通するが、イシゴロモが泥岩の岩盤中に穿孔して石灰質の棲管を形成するのに対し、本種はもっぱらスミノエガキまたはマガキの殻 (生貝か死殻かを問わない) に穿孔する点が大きく異なる。児島湾の個体群を最初に発見したのは畠田和一で、そのコレクション中には「児島湾産 イシゴロモ (黒田 [徳米] 氏同定)」とラベルされた合弁 2 個体 (#4017) のほか、ラベルのない多数の個体 (未登録) が含まれている。また古川田溝コレクションに現存する「備前児島湾」産標本 (FK5575, 写真; 窪田, 1962: 147, no. 2129, as *Aspidopholas yoshimurai*) も畠田和一の採集品である。1950 年代までの児島湾には本種はさほど稀ではなかったと推測されるが、1959 年に湾が閉め切られて淡水化した際に確実に大きな個体群が失われたため、既に岡山県では絶滅したと考えられていた (福田, 2010a; 芳賀, 2010)。しかし最近筆者は、1994 年 12 月に浅口市寄島町の沖合にて小型底引網にかかったとされる、殻高 20 cm を超える巨大なマガキ (ナガガキ型, おそらく現生ではない) の死殻の提供を受け、そのうちの 1 枚に本種 4 個体が穿孔していた (OKCABM28627)。本種はいずれも新鮮な殻で、海底からカキ殻が引き上げられた時は生きていた可能性がある。その産地は児島湾の閉め切りとは直接の関係がない海域であり、しかも比較的最近採集されたものであるから、現在も浅口市付近の潮下帯にまとまった数のカキ殻が存在するならそこで本種の個体群が存続しているかもしれない。ただ、現時点では追加個体は得られておらず棲息も確認できていない。そもそも大きなナガガキの半片死殻自体、現在の岡山県では滅多に目にする機会がないので、もし本種が今も生きながらえているとしても限られた範囲に少数が残るのみと推測される。

(福田 宏)

ヒラカモジガイ

Lutraria sieboldii Reeve, 1854

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 バカガイ上科 バカガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 本種は Deshayes (1855a: 71, no. 43, as *Lutraria Sieboldii*) が記載したとされることが多いが (e.g. 松隈, 2017: 1266, pl. 560, fig. 1), より早く刊行された Reeve (1854 in 1854b–1855a: sp. 15, pl. 4, fig. 15) が真の原記載である。Reeve は種小名を「*Sieboldii*」としているものの、この名は明らかにシーボルト (Siebold) であって Sieboldt ではない) への献名であるため、ヒメイガイの項で述べたのと同様に国際動物命名規約第 4 版の条 32.5 と条 33.2.3.1 が適用可能で、原記載に逆らって *sieboldii* とするのが適切である (*sieboldi* は誤綴)。*L. radiata* Yokoyama, 1920: 110–111, no. 133, pl. 7, fig. 11a–b は新参異名 (Oyama, 1973: 109, pl. 51, figs 4a–b, 7, 8, as *L. sieboldii* [sic] が原記載の図を転載)。また *L. ovalis* Tokunaga, 1906: 41, no. 104, pl. 2, fig. 28a–c は近年ほぼ忘れられているが、Yokoyama (1927a: 429, no. 60, pl. 49, figs 8–9, as *L. sieboldii* [sic]) が示した通り本種のもう一つの異名である。一方、波部 (1952a: 198, as *L. sieboldii* [sic]) 以来本種の異名とされることの多かった *L. lucida* Gould, 1861: 29 (Johnson, 1964: 104, pl. 28, fig. 7 及び Higo et al., 2001: 168, fig. B871s がレクトタイプの写真を公表) は、現在は *L. rhynchaena* Jonas, 1844 カモジガイの異名の一つと考えられている (MolluscaBase, 2019)。殻長約 100 mm、殻高約 46 mm に達する大形種で、前後に引き伸ばされた楕円形、薄質で壊れやすく、膨らみは弱い。殻頂は前方に偏って低く隆起する。前背縁は短くて緩く彎曲し、前～腹縁及び後縁は丸い。後背縁は長く、わずかに反り返るがカモジガイほどではない。後端は大きく開き、生時はその間に水管が収まる。殻表は光沢がほとんどなく、彫刻は細かい成長脈のみで、無紋で白色、淡褐色の厚い殻皮に覆われるがこれは剥離しやすく、成貝では多くの場合周縁附近にのみ残る。内面は白くて光沢を帯び、閉殻筋痕は大きく、前が楕円形、後は円い。套線彎入は丸くて大きく、殻頂の下あたりまで及ぶ。殻頂の直下に著しく大きな弾帯受が三角形に張り出し、その前方への字形の強い主歯をもつ。本種とカモジガイは一見して区別が容易でない個体も現れるが、石川裕 (2011: 8, figs 1–3) が指摘した通り本種の鉸板は前後ともカモジガイより太く顕著に発達し、特に後方では後閉殻筋痕附近まで伸長する。また左殻を殻頂側から見下ろすと、主歯がカモジガイでは二叉して見えるのに対し、本種は 1 個の塊にしか見えない点で識別できる。軟体は水管が著しく太く、黒く厚いキチン質の外皮に覆われる。足は大きく扁平で白色。

写真： 備前朝日村切石 [現・岡山市東区正儀]、畠田和一コレクション #2783, 福田撮影。殻長 11.7 mm, 殻高 6.5 mm。



分布 Reeve (1854 in 1854b–1855a) はタイプ産地を「Vancouver's Island」(カナダのバンクーバー) としているがもちろん誤りで、本来原記載となるはずだった Deshayes (1855a) は「Japan」としておりこちらが正しい。異名である *Lutraria ovalis* は「Shinagawa」(東京都品川、後期更新世東京層の化石) から記載され、同時に「Living: Ajiro (Izu), Hyōgo (Settsu) and Kōchi (Tosa)」(現生個体は伊豆網代、播津兵庫、土佐高知産) とされた。*L. radiata* も化石で、「Naganuma Zone (Naganuma)」(横浜市戸塚区長沼、前期更新世長沼層) 産である。太平洋側は房総半島銚子以南 (清水利, 2001: 125, no. 2551), 日本海側は山形県鼠ヶ関以南 (鈴木庄, 1979: 236, no. 465, as *L. (Psammophila) sieboldii* [sic]), 九州まで分布する。国外は中国 (北部湾、台湾) からのみ知られている (Z. Qi, 2004: 271, pl. 149, fig. G; 徐・張, 2008: 162, 163, fig. 490, as *L. sieboldii* [sic]; Huber, 2010: 451, text-fig.)。

生息状況 潮間帯下部～漸深海底 (水深 5～100 m) の砂泥底に棲息し、漁屑や蛸壺中にも見られる。どちらかといえば外洋に産する種で、瀬戸内海では稲葉 (1982: 51, no. 165) によれば淡路島、備讃瀬戸西部～水島灘、備後灘～燧灘や西部 (安芸灘・伊予灘・周防灘) といった湾口附近、または島嶼が多く存在して潮流が速い海域を中心に記録されているが、最近の報告例は少なく、香川県では畠田・矢野 (1978: 2, as *L. (Psammophila) sieboldii* [sic]) が記録しているものの瀬尾・Tananganon (2014) の目録には含まれていない。岡山県では文献記録はなく、畠田和一コレクション中に含まれる「備前朝日村切石 [現・岡山市東区正儀]」(*Lutraria* (カモジガイ類) 幼) 黒田 [徳米] 氏同定品, 合弁 1 個体, #2783; 写真) が 1960 年代以前の唯一の標本である。この個体は殻長約 12 mm の幼貝であるが、小さくとも殻の輪廓や鉸歯の形態は確かに本種であることを示し、光沢と透明感から採集時は生貝もしくは死亡後まもない状態であったと考えられる。しかし近年は 2010・2011 年に、玉野市沼の出崎海水浴場に打ち上げられていた半片 2 個と破片 1 個が見出されたのみで (OKCAB M20136, M22140), その全てが著しく摩滅・褪色した化石状であり、最近まで生存していたとは到底考えられない。香川県でも近年確認されていないことを考えると、瀬戸内海中央部に現在も本種の個体群が維持されているかは疑わしく、少なくとも岡山県では既に絶滅したものと思われる。

(福田 宏)

ワカミルガイ

Macrotoma angulifera (Reeve, 1854)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 バカガイ上科 バカガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由 現存産地が県内に 1 箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 本種の原記載は Deshayes (1855a: 70, no. 37, as *Mactra angulifera*) とされることがあるが (e.g. 松隈, 2017: 1266, pl. 558, fig. 12), Reeve (1854a: sp. 83, pl. 16, fig. 83, as *Mactra angulifera* “Deshayes”) の方が早く刊行され、後者が実際の原記載である。シタイプの写真は Higo *et al.* (2001: 168, fig. B863, as *Micromacra angulifera*) が公開している。*Mactra silicula* Deshayes, 1855a: 69, no. 33 は新参異名で、かつ *Mactra silicula* Reeve, 1854a: sp. 108, pl. 19, fig. 108 (大西洋産の別種) の新参同名で無効。黒田徳米が記載を準備していた *Mactra kawamotoi* は結局正式に記載されず、不適格名のままである (瀧巖, 1938: 34, no. 488, as *Mactra* (*Micromacra*) *kawamotoi*; 河本・田邊, 1956: 77, no. 927, pl. 25, fig. 227, footnote 51, as *Mactra* (*Macrotoma*) *angulifera*)。本種及び後掲のヒナミルガイには形態的に酷似した複数の種が太平洋・大西洋ともに存在し、19 世紀から同定が激しく混乱してきた。幸い日本に産する種に関しては、黒田 (1956a: (4)158, as *Mactra* (*Micromacra*) *angulifera*) 及び佐藤勝・岡本 (1978: 27–31, text-fig. 1, pl. 6, fig. 3a–b; pl. 7, fig. 3a–c, as *Micromacra angulifera*) が、本種とヒナミルクイ (佐藤勝・岡本ではそれらにミルクイの幼貝及び学名未詳種ナガヒナミルクイを加えた 4 種) の識別点を明快に述べている。殻長約 40 mm, 殻高約 28 mm, 前後に長い亜三角形, 薄質, 膨らみは弱い。前・後端ともわずかに開く。殻頂はほぼ中央にあって前傾し、やや秀でる。前背縁は多少内曲して反り返り、前縁～腹縁は丸い。後背縁は直線的で、後端は截断状。殻頂から後背縁に沿って鋭く角張る 1 本の稜が後腹隅まで走り、その末端は角をなす。殻表は鈍い光沢をもち、無紋で乳白色であるが、生貝では淡褐色ないし灰色の殻皮に覆われ、後方の稜の上だけ剥離するか毛羽立っていることが多い。殻頂附近には細い皺状の同心輪肋が現れるが、他は弱い成長脈があるのみ。内面は白くて光沢が強く平滑。閉殻筋痕は前後とも円い。套線彎入は明瞭だがさほど大きくはなく、殻の中央までは達しない。殻頂の直下にミルクイと同様に大きな弾帯受があるが、後種のそれは大きく張り出すのに対し、本種はほとんど突出しない。右殻の前・後側歯は細長い溝の中で庇状を呈し、左殻の前側歯は 4 個に分かれた凹窩からなる。軟体は未詳。



写真： 玉野市波張崎～岡山市東区犬島間 水深 14.3 m 砂底 ドレッジ St. 2, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24237, 福田撮影。殻長 20.1 mm, 殻高 14.3 mm。

分布 タイプ産地は「Island of Ticao, Philippines」(フィリピンのティカオ島)。異名の *Mactra silicula* Deshayes は「Luzon, Philippines」(フィリピンのルボン島) 産である。国内の多くの文献が「房総半島以南」としているが千葉県での具体的な記録は不明で (清水利, 2001: 125, no. 2546, as *Micromacra angulifera* も二次引用のみ), 産出が確実なのは相模湾以南 (e.g. 村岡, 1972: 169, no. 3412, as *Mactra* (*Macrotoma*) *angulifera*)。小笠原諸島からも報告がある (西村和, 1999: 114, no. 293, as *Micromacra angulifera*)。日本海側最北の記録は兵庫県但馬海岸である (伊藤勝, 1967: 69, no. 856, as *Mactra* (*Micromacra*) *angulifera*)。国外は中国 (広東省以南), タイ, シンガポール, フィリピン, 北オーストラリアのポート・カーティス, ミャンマーのメルギー諸島, ペルシャ湾から知られる (Martens, 1874: 104, as *Mactra angulifera*; 1887: 217, no. 390, as *Mactra* (*Macrimula*) *angulifera*; E.A. Smith, 1884: 101, no. 30, as *Macrimula angulifera*; Hidalgo, 1903: 56–57, no. 115, as *Macrimula angulifera*; Lynge, 1909: 222(126), as *Mactra* (*Macrimula*) *angulifera*; Swennen *et al.*, 2001: 82, fig. 108, as *Macrimula angulifera*; Z. Qi, 2004: 271, pl. 149, fig. C, as *Micromacra angulifera*; Huber, 2010: 445, text-fig., 756; Poppe, 2011: 384, pl. 1187, fig. 1a–b)。

生息状況 内湾湾口部など潮通しのよい海岸の潮間帯下部～潮下帯にかけて、清浄な細砂底に棲息する。もともと低密度で産出し、個体数は少ない。山下博 (2012: 142, text-figs a–c) は「垂直分布が広いので、絶滅リスクはやや低く見積もられる」としているが、同時に棲息深度は最深で「50 m」とも述べており、これだと必ずしも「垂直分布が広い」とは言い難い。日本海南西部などでは近年も棲息が認められる場所が点在するものの、汚水の流出などに起因する富栄養化に弱いとみられ、他の大方の内湾では強い減少傾向にある。瀬尾・Tanangonan (2014: 111, no. 84) は近年の香川県において「新鮮な死殻は採集されるが、生体は確認できなかった」と述べており、同県で危機的状況にあることを仄めかしている。岡山県では 20 世紀中の文献記録がなく、意外なことに畠田和一コレクションにも含まれていないが、近年になって瀬戸内市牛窓町鹿忍の矢寄ヶ浜 (2004 年, OKCAB M8667) と玉野市沼の出崎海水浴場 (2011 年, M22080) で半片死殻各 1 個ずつが打ち上げで得られ、またドレッジによっても玉野市波張崎～岡山市東区犬島間 (水深 14.3 m, 砂底) と大入崎東沖 (17.4 m, 砂底) で半片 1 個と破片 3 個 (M24237, 写真; M24432) が採集された。さらに 2010 年 11 月には、倉敷市水島港 (高梁川河口左岸) の上水島北東附近で潮下帯から生貝 1 個体が見出され (岡山県環境保全事業団, 2011: 24, 27, 53, fig. 7-3-6, as *Micromacra angulifera*)、今なお県内に棲息していると確認された。しかしこれが現時点で唯一の生貝発見例であり、死殻も稀にしか見出されないため、局所的にごく少数が産するのみなのは明らかである。本種と同様に湾口部に特異的な貝類の種の多くが絶滅または絶滅寸前に追い込まれた本県では、今もって本種が生き残っていることがむしろ驚きである。生貝が見出された水島港は工業地帯のすぐ目の前であり、今後さらに埋め立てが拡張されたり、汚水が流出するなどしたら直ちに絶滅に至る恐れがある。

(福田 宏)

ヒナミルガイ

Macrotoma depressa (Spengler, 1802)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 パカガイ上科 パカガイ科 ●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録が存在するが、その後確認されず現状不明。絶滅した可能性もある。

形態 原記載は Spengler (1802: 118, no. 23, as *Mactra depressa*) で、シントタイプを Lyngge (1909: 222(126), pl. 4, figs 20–23, as *Mactra (Mactrinula) depressa*) が図示している。新参異名は 4 つ: *Mactra ovalina* Lamarck, 1818: 477, no. 21; *Mactra crista* Jousseau, 1894: 105, no. 28; *Mactra alfredensis* Bartsch, 1915: 209–210, pl. 44, figs 6–7; *Mactra kraussi* W.H. Turton, 1932: 255, pl. 69, fig. 1809。これらのうち *M. ovalina* と *M. crista* のシントタイプの写真は MNHN (2019: IM-2000-20963, IM-2000-34185) で閲覧できる。別名ミルクイモドキ、ヒナミルクイ。本種と前掲のワカミルガイは頻繁に混同され、1970 年代以前の文献では両者の和名が入れ替わっている例も多く、どちらを指すのかにわかには読み取れない場合すらある。本種とワカミルガイの形態的識別点を把握するには黒田 (1956a: (4)158, as *Mactra (Macrotoma) depressa*) 及び佐藤勝・岡本 (1978: 27–31, pl. 6, fig. 2a–b; pl. 7, fig. 2a–b) によるまとめが有用である。後者が指摘している通り、奥谷・波部 (1975b: 133, unnumbered figs; 252, as *Mactra (Macrotoma) depressa*) が本種として図示した個体は、学名未詳の別種ナガヒナミルクイであり本種ではない。また黒田他 (1971: 669–670 (和文), 437 (英文), pl. 95, figs 5–6, as *Macrotoma depressum* [sic]) の 2 つの図のうち本種は fig. 5 のみで、fig. 6 はワカミルガイである。本種は殻長約 40 mm、殻高約 27 mm、ワカミルガイに似るが卵楕円形で多少厚いのに加え、以下の点が異なる：前背縁はほとんど内曲も反り返りもせず、後背縁はなだらかに彎曲する。殻頂から後背縁に沿って後腹隅まで走る稜は弱く、その末端も角張らない。殻表の彫刻は弱い成長脈のみで、殻頂附近に皺状の同心輪肋は現れない。右殻の前・後側歯の底状の構造はワカミルガイほど顕著でない。

分布 タイプ産地は「Guinea」(アフリカ西岸のギニア)であるが、Lyngge (1909: 222) は誤りと断定し、それを踏まえた Huber (2010: 444, text-fig., 756) も「タイ西部に訂正する」とした。異名である *Mactra ovalina* は「l'Océan Indien?」(インド洋?)、*M. crista* は「Aden」(イエメンのアデン)、*M. alfredensis* 及び *M. kraussi* はともに「Port Alfred」(南アフリカのポートアルフレッド)からそれぞれ記載された。国内の太平洋側は房総半島の小湊・館山湾以南(清水利, 2001: 125, no. 2545)、日本海側は男鹿半島以南(鈴木庄, 1979: 235, no. 460, as *Macrotoma depressum* [sic])に記録が点在する。国外は台湾、タイ、ニューカレドニア、オーストラリア南東部のポート・ジャクソン及びポート・フィリップとタスマニア、スリランカ、オマーン、ジブチ、タンザニアのザンジバル島、モザンビーク、南アフリカ(稀産で、ダーバン周辺から稀に死殻が得られるのみという)などから知られ、インド-西太平洋に広く分布する(E.A. Smith, 1885: 57, as *Mactra (Mactrinula) depressa*; 1904: 25, as *Mactra ovalina*; Sowerby III, 1897: 22, as *Mactrinula ovalina*; Tate & May, 1901: 423, as *Mactra [(Mactrilla)] ovalina*; Lamy, 1917: 253–256, pl. 6, fig. 1, as *Mactra (Macrotoma) depressa*; Kuroda, 1941: 167, no. 1372, as *Mactra (Macrotoma) depressa* ミルクヒモドキ; Kilburn & Rippey, 1982: 179, fig. 161, pl. 41, fig. 3, as *Macrotoma ovalina*; Bosch et al., 1995: 247, fig. 1097, as *Mactra ovalina*; Steyn & Lussi, 1998: 224, 225, fig. 908, as *Mactra ovalina*)。関他 (2004: 437, fig. 1428-1-2) が韓国から本種として図示した個体はミルクイの幼貝であり、朝鮮半島に本種が産するか否かはいまだ定かでない。

生息状況 ワカミルガイとほぼ同様に内湾湾口部の潮下帯細砂底に見られ、両種が同所的に産することもある。密度が低く寡産である点も共通している。山下博 (2012: 142, text-figs) が指摘する通り最近の記録は全国的に見ても少なく、ワカミルガイと同等かそれ以上に減少傾向にあることは疑いが無い。瀬戸内海では戦前に広島県豊田郡と尾道市御調町で記録があるが(瀧巖, 1938: 34, no. 489, as *Mactra (Macrotoma) depressa*)、その後の明確な記録はほとんどなく、稲葉 (1982: 51, no. 161) は備後灘・安芸灘・伊予灘(別府湾)を産地として挙げつつも「少ない」とした。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録(稲葉明彦が同定に関与した)に登載されているのが唯一の記録で、記録としての信憑性は高いと考えられる。しかし島田和一コレクションには含まれておらず、それ以外にも標本は一切見出されていない。この点は近年生貝が発見され、死殻も少ないながら皆無ではないワカミルガイと対照的である。今回は実物が確認できていないのでとりあえず情報不足としておくが、もともと県内で稀産であった上に 1960 年代以降の環境悪化によって、既に絶滅してしまった可能性も考えられる。

(福田 宏)

チリメンユキガイ

Meropesta sinojaponica Zhuang, 1983

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 バカガイ上科 バカガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出していた証拠の文献記録や標本が存在するが、その後棲息環境が失われたため絶滅した。

形態 Zhuang (1983: 88–89, fig. 1) は、波部 (1961a: 134, pl. 60, fig. 11) が「*Standella capillacea* (Reeve [1854a: sp. 117, pl. 20, fig. 117])」として図示した個体とその種 (Higo *et al.*, 2001: 168, fig. B876, as *Meropesta capillacea* にシタイプの写真あり) でないことを指摘しつつ本種を新種として記載した。殻長約 60 mm, 殻高約 40 mm, 前後に引き伸ばされた卵楕円形、極めて薄質で壊れやすく、よく膨らむ。殻頂は中央からやや前方に寄り、ほとんど傾かず低く隆起する。前背縁から前縁を経て腹縁までは緩やかに彎曲し、後方は細まって後端は斜めに截断状、後背縁は直線的。前端は狭く隙間状に開き、後端は大きく開く。殻表は光沢を欠き、弱い成長脈に加え、末端で分枝して縮縮状をなす細かい放射脈を多数刻む。殻皮は濃いオリーブ色で薄いが剥落しにくく、殻表の全体を覆い、後方で不規則な皺を形成する。内面は白くて光沢を帯び、閉殻筋痕は大きく、前が楕円形、後は円い。套線彎入は丸くて大きく、殻頂の下あたりまで及ぶ。弾帯受は殻頂の直下にあって大きくて円く、その前方に逆 V 字形の主歯をもつ。後側歯は強大で長く、前側歯も短い明瞭。軟体は未詳。本種と他の近縁種との関係は激しく混乱しており、例えば高橋・岡本 (1969: 81, no. 895, pl. 21, fig. 4) が「*S. (Mer.) nicobarica* (Gmelin [1791: 3261, no. 24, as *Maetra nicobarica*]) ユキガイ (シロマスオ)」とした個体はユキガイでなく本種である一方、同書 no. 896, pl. 21, fig. 5 の「*S. capillacea* チリメンユキガイ」は輪廓が前後に短い小判形を呈し、本種より厚みがあることから恐らく和名ハブタエユキガイに相当する。ハブタエユキガイは波部・小菅 (1966: 166, pl. 65, fig. 9) が「*S. (S.) pellucida* (Gmelin, 1791 [3260–3261, no. 21, as *Maetra pellucida*])」として図示しているが、その学名の種はより前後に長く殻表の放射脈は直線的で分枝せず、日本に分布しない別種 (福田, 2012: 143, text-fig. に図示) である。高橋・岡本の「チリメンユキガイ」と波部・小菅のハブタエユキガイはともに、Huber (2010: 452, text-fig.) の「*Mer. capillacea*」(明らかに誤同定である) や福田・川内野 (2017: 10–11, text-fig.) の「*Mer. cf. sinojaponica* チリメンユキガイ近似種」と同種とみられ、この種に該当する学名は現時点で見当たらない。

写真： 児島湾，1935 年ごろ，畠田和一コレクション #1920，福田撮影。殻長 49.6 mm，殻高 34.7 mm。



分布 タイプ産地は中国の「山东省青島市 (滄口区)」(山東省青島市滄口区) で、同時に遼寧省興城と大連市長興島、河北省何家南堡、山東省丁字湾・萊州市掖県・青島、福建省福清・竜海、広東省汕頭市南澳島の各産地が挙げられた (徐・張, 2008: 164, 165, fig. 496 も同様に記している)。台湾からも記録があるが (Kuroda, 1941: 167, no. 1374; 村岡, 1972: 170, no. 3421; both as *Standella (S.) capillacea*), それらは別種の可能性がある。日本での現生個体は児島湾と有明海でのみ知られるが (福田, 2012), 横浜市・愛知県高浜市・大阪市などの更新世 (洪積世)・完新世 (沖積世) の地層から化石が産出し、横浜では約 6000–5500 年前の短期間、大阪では約 6700–2300 年前に棲息していたとされる (糸魚川・中山, 1968: 66, no. 50; 68, 69, 74; 梶山・市原, 1972: 107; 松島, 1978: 37, 38, fig. 6; 1981: 30–33, fig. 2; 1984: 90, 92, 97; 松島・両角, 1983: 3–7, 9 (pl. 2), fig. 3a–b; all as *Standella capillacea*; 石井, 1987: 12, 27, pl. 11, fig. 2a–b, as *Meropesta capillacea*)。

生息状況 アツカガミと並び、現在の日本で生貝を見出すのが最も困難 (事実上不可能) となった海産二枚貝類の一つである。福田 (2012) に述べた通り、筆者は有明海の熊本県宇土市長部田で、湾奥に広がった砂泥干潟 (ハマグリが多産する) の下部に複数の合弁死殻が生時の姿勢のまま埋もれているのを 2002 年に確認しており、同様の環境に棲息していたらしいがそれ以上の情報は無い。本種の日本最後の確実な生貝産出例は、畠田和一コレクション中に現存する「児島湾産 (昭和 10 [= 1935] 年頃入手) (1952.6.25. 黒田 [徳米] 氏同定 No. 206)」, 「*Standella capillacea* (Reeve) var. チリメンユキガイ (児島湾産)」のラベル 2 枚の付いた合弁 1 個体 (#1920; 写真) で、この個体は畠田自身 (1953) が『夢蛤』に「非常に美しい殻ハダをした生貝ですが、フチが小破損したもの僅か 1 個」と述べ、採集時に生きていたと明言している (標本の左殻腹縁が破損している点も記述に合致する)。これ以降、本種は日本全体を見渡しても生貝が報告されたことは一度たりともない。しかしその後、宮地他 (1953: 146) は「*Standella pellucida* ハブタエガイ [sic]」が児島湾に産するとし、同時に「*Standella papyracea* [capillacea の誤綴であろう] チリメンユキガイ」は「大阪 (化石), 同種が南方に現存」とのみ記した。これは畠田が得た個体をハブタエユキガイと取り違えたものと想像される。さらに肥後 (1973: 366, no. 1127, as *S. pellucida*) も恐らくは宮地らに引きずられたらしくハブタエユキガイの分布域を「瀬戸内海 (児島湾以南)」とし、稲葉 (1982: 51, no. 169, as *Meropesta pellucida*) などの後発文献も同様にハブタエユキガイが児島湾に産したごとく記しているが、それらは全て上記の畠田による本種の記録を誤認したものと考えられる。岡山県レッドデータブック前版 (福田, 2010a: 379, as *M. sinojaponica*) に掲載した「ハブタエユキガイ」も本種のことである。これらの混乱が生じたのは、本種の実物を目にした経験をもつ人が本種自体の消滅とともにいなくなったことも一因であろう。本種は上記の通り約 2300 年前までは関東以南の太平洋岸各地に棲息していたものの、その後自然に衰退し (この点はハイガイ等に似ている)、戦前の時点で既に児島湾と有明海などわずかな内湾に個体群が局限されていたと推測される。しかし児島湾の干潟は 1959 年の閉め切りによって大半が一挙に失われ、それを機に本種は県内で確実に絶滅した。有明海でも生貝が再発見されないままの現状では、もはや本種は国内から滅び去った可能性もある。畠田和一が戦前の日本で唯一人本種の生貝の採集に成功し、今や再入手できないその標本を現在まで伝えたことは、彼が貝類学上に成しえた最大の功績の一つである。

(福田 宏)

ホクロガイ

Oxyperas bernardi (Pilsbry, 1904)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 バカガイ上科 バカガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Pilsbry (1904b: 550–551, pl. 39, figs 4–6, as *Spisula* (*Oxyperas*) *bernardi*) で、ホロタイプの写真を Higo *et al.* (2001: 168, fig. B867) が公表している。殻長約 60 mm, 殻高約 32 mm, 前後に長い二等辺三角形形状, 厚く不透明, やや膨らむ。殻頂は多少前方に寄って傾く。前背縁は直線的, 後背縁は緩く彎曲し, 前・後端とも単純で丸い。殻表は光沢がほとんどなく, 太く明瞭な成長輪肋を等間隔に並べ, 淡黄色の地に濃黒褐色の斑点を不規則に散らす。殻皮は黄褐色で厚い。内面は白く, 閉殻筋痕は前後とも円く大きい。套線彎入は丸く明瞭で殻の中央近くに及ぶ。殻頂の直下に大きな弾帯受が張り出し, その前方への字形の主歯をもつ。前側歯は短く, 対照的に後側歯は細長い。軟体は未詳。

写真： 備中〔浅口市寄島町〕安倉, 畠田和一コレクション #1958, 福田撮影。殻長 49.9 mm, 殻高 27.9 mm。



分布 タイプ産地は「Fukura, Awaji」(兵庫県淡路島南あわじ市福良)。太平洋側は茨城県沖以南(村岡, 1972: 169, no. 3417), 日本海側は男鹿半島以南(鈴木庄, 1979: 235, no. 463)に知られ, 九州まで多くの記録があるが, 国外は韓国, 中国(福建省東山), 台湾からのみ報告され(Kuroda, 1941: 166, no. 1366, as *Maetra* (*Oxyperas*) *bernardi*; 関他, 2004: 437, fig. 1431-1–2; Z. Qi, 2004: 271, pl. 149, fig. D; 徐・張, 2008: 160, 161, fig. 485; Huber, 2010: 449, text-fig.), 日本(北海道と南西諸島を除く)・朝鮮半島・中国沿岸に固有な種と考えられる。

生息状況 内湾・外洋とも潮下帯～漸深海底(水深 5～100 m)の貝殻混じりの砂泥底に棲息する。浜辺に打ち上げられることは少ないが, 浚渫砂や漁屑には頻繁に見られる。瀬戸内海でも稲葉(1982: 51, no. 163)は全域に「普通」とし, 近年も広島県倉橋島での「底引」で得られる漁獲物中には「多い」とされ(濱村, 2004: 149, text-fig.), 香川県でも「浚渫砂から磨滅した死殻が少数得られた。備讃瀬戸沖からは生体が採集された」との報告がある(瀬尾・Tanangonan, 2014: 111, no. 84)。他の都府県では特段の減少傾向は認められておらず, レッドリストに掲載された例もない。しかし岡山県では明らかに危機的である。本県では岡大玉野臨海(1978: 161)の目録に登載され, 畠田和一コレクションにも「〔倉敷市〕下津井沖(合弁 2 個体, #1959), 「備前〔倉敷市下津井〕六口島(半片 2 個, #1961), 「備中〔浅口市寄島町〕安倉(合弁 1 個体, #1958; 写真)の 3 ロットが現存する。そのうち下津井周辺産の合弁の標本はいずれも採集時は生貝であったと推測され, 1950 年代以前には入手がさほど困難でなかったことが窺い知れる。ところが近年は全く見出されず, 最近 20 年間では玉野市渋川海岸に打ち上げられた半片 1 個(OKCAB M8548)が得られたにすぎない, しかもこの標本は殻皮も殻色も完全に失われている上, 他県から人為的に搬入された浚渫砂に由来する可能性も否定できないため, 現在の岡山県に本種が棲息することを十分に証拠立てるものではない。潮下帯に棲む多くの貝類の種が絶滅またはそれ同然に陥っている本県では, 本種も同様の状況にあるとみる方が自然である。

(福田 宏)

ヤチヨノハナガイ

Raeta pellicula (Reeve, 1854)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 パカガイ上科 パカガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 現存産地が県内に 1 箇所しかなく、棲息環境も限定的で、危機的状況にあると考えられる。

形態 本種の実記載は Deshayes (1855a: 68–69, no. 30, as *Maetra pellicula*) とされることがあるが、Reeve (1854a: sp. 124, pl. 21, fig. 124, as *M. pellicula* “Deshayes”) の方が早く刊行された。そのシタイプの写真は Higo *et al.* (2001: 168, fig. B878, as *Raetina pellicula*) が公開している。新参異名は 7 つ: *Maetra Anatinoides* Reeve, 1854a: sp. 123, pl. 21, fig. 123; *Raeta grayi* H. Adams, 1872: 13, pl. 3, fig. 23; *Raeta Abercrombiei* Melvill, 1893: 64, pl. 1, fig. 25; *Raëta* [(*Raëtina*)] *indica* Dall, 1898: 882–883, footnote (Dall, 1925: 2; pl. 20, fig. 2, as *Anatina* (*Raetina*) *indica* Dall 及び Harry, 1969: 15–16, figs 14–15, as *Raeta* (*Raetina*) *pellicula* がタイプ標本を図示); *Raeta jickelii* Sturany, 1905: 133–134, text-figs a–c; *Raeta magnifica* Yokoyama, 1922: 132, no. 202, pl. 8, figs 12–13 (Oyama, 1973: 108–109, pl. 50, figs 1a–b, 2, 3a–b, as *Raeta* (*Raetina*) *pellicula* に転載); *Raeta fragilis* Grabau & King, 1928: 76 (as *Raëta*), 190–192, no. 54; 266, pl. 7, fig. 54 (Coan *et al.*, 2015: 202, fig. 18A–D がシタイプの写真公表)。殻長約 43 mm, 殻高約 28 mm, 前後に長い卵形, 紙のごとく薄くて壊れやすく, よく膨らみ, 白色, 若い個体では半透明だが老成すると不透明。殻頂はやや前方寄りわずかに後傾する。前縁–腹縁は丸く彎曲し, 後方は嘴状に伸び, 後背縁は直線的, 後端は短く截断状。殻表は鈍い光沢を帯び, 明瞭な成長輪肋が概ね規則的に並ぶ。内面は白く, 殻表の成長輪肋に応じて凹凸がある。閉殻筋痕は前が細長く, 後は円い。套線彎入は深くて多くは殻の中央附近に達するが, 個体変異が大きい。殻頂の直下に弾帯受があり, その前方に小さい主歯があるが, 前後の歯板は単純で後側歯は発達しない。靱帯は後位で外在する。軟体は白色半透明で, 足は平坦で先端が尖る。水管は太くて幅広く, 厚いオリーブ色の外皮で覆われて蛇腹状となる (福田, 2012: 143, text-figs に生体写真あり)。



写真: 瀬戸内市黄島西沖水深 13 m ドレッジ, 2014 年 1 月 27 日, OKCAB M28990, 福田撮影。殻長 46.4 mm, 殻高 36.3 mm。

分布 タイプ産地は「Japan」。異名である *Maetra Anatinoides* は「?」(不詳), *Raeta grayi* は「Borneo」(ボルネオ), *R. Abercrombiei* は「Bombay」(インドのムンバイ), *R. jickelii* は「Massaua」(=Massawa, 紅海南西岸エリトリアのマッサワ), *R. magnifica* は「Tega (Kizaki)」(千葉県柏市手賀・木崎, 後期更新世印旛層化石), *R. fragilis* は「Peitaiho」(中国河北省秦皇島市北戴河区) からそれぞれ記載された。太平洋側で最北の記録は福島県常磐沖 (根本・秋元, 1990: 14–15, no. 191, as *Raeta* [sic] *pellicula*) で, 九州まで記録が点在する一方, 日本海側は本州沿岸の明確な記録が見当たらず, 福岡県宗像郡福間町 (現・福津市; 魚住, 1998: 145, no. 409, fig. 112-1) などで知られる程度である。国外は朝鮮半島, 中国の遼寧・河北・山東・江蘇・広東各省, インドネシア, オーストラリアのクイーンズランド州, インド, オマーン湾, アデン湾, 紅海, 南アフリカのダーバンまで, インド-西太平洋に広く分布する (Sowerby III, 1897: 22; Harry, 1969; Oliver, 1992: 129, fig. 3; 133, pl. 28, fig. 4a–b; Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 40, fig. 278; Bosch *et al.*, 1995: 249, fig. 1103; 関他, 2004: 437, fig. 1434-1–2; Z. Qi, 2004: 273, pl. 150, fig. D; 徐・張, 2008: 165, 166, fig. 498; Huber, 2010: 761)。

生息状況 大規模な内湾の砂質干潟低潮帯から潮下帯 (水深約 30 m まで) に棲み, 死殻は時折浜辺へ打ち上げられる (衍汀子, 1929: 199, as *Anatina magnifica* は三重県河藝郡豊津村 [現・津市河芸町] 別保の濱で暴風後に本種が漂着した様子を活写している) が, 生貝を目にする機会はごく少ない稀産種である。最近 20 年間で全国唯一の生貝確認例は 2001 年の山口県山口市秋穂二島で, アマモ場に接した清浄な細砂底から潮干狩りで 2 個体が掘り出された (福田, 2012)。瀬戸内海では稲葉 (1982: 52, no. 171) が全域に少産とし, もともと低密度で出現していたとみられるが, 1990 年代にはほとんど確認されなくなっていた (加藤真・福田, 1996: 69)。ただし近年も死殻はそこそこ報告されており, 濱村 (2004: 216, text-fig.) は広島県の仁方・蒲刈両町から記録し, 香川県でも瀬尾・Tanangonan (2014: 111, no. 88, pl. 4, fig. 12) が「生貝は採集されなかった」と断りながらも「[綾歌郡宇多津町] 浜干潟では新鮮な死殻を定期的に確認している」と今後の生貝発見に期待を滲ませている。岡山県では畠田と一コレクションに「児島湾 ([岡山市南区] 小串村漁網ニテ)」「昭和 14 [= 1939].1.13. 採集」, 3 個, #1903) 及び「[浅口市] 寄島」(「波部 [忠重] 氏同定」, 1 個, #1902) の 2 ロットが含まれるが, いずれも状態のよくない半片死殻で, 1950 年代以前においても生貝や完全品の採集は困難であったらしい。半片死殻または破片は近年も瀬戸内市牛窓町鹿忍の矢寄ヶ浜 (2004 年, 7 個, OKCAB M8669), 同市黄島西沖 (ドレッジ, 水深 13 m, 貝殻混じり砂礫底) (2014 年, 2 個, M28990; 写真), 玉野市沼の出崎海水浴場 (2011 年, 1 個, M22081), 同市波張崎~岡山市東区犬島間 (ドレッジ, 水深 14.3 m, 砂底) (2002 年, 殻頂部のみ 2 個, M24239) から採集され, 特に黄島西沖の死殻は新鮮であったため, 今なお県内に個体群が維持されている可能性を考えていたところ, 2018 年 3 月, 笠岡市五番町の漁港へ廃棄されたばかりの生々しい漁屑中から若い生貝 1 個体 (M28991) が遂に見出され, いまだ県内に棲息していることが事実となった。岡山県では, 内湾潮下帯の砂底や砂泥底に棲む貝類の種の多くが 1960 年代以降に絶滅または極端に減少したのに対し, 他の地方で稀少化した本種が今も滅びず生残しているのは特筆に値する。ただし生貝の確認例はまだその 1 個体のみであり, 死殻も頻繁に見られるとは言えない。したがって個体群が現存するとしても局所的に少数個体で構成されているのは明らかで, 絶滅の危機にある可能性が否定できないため, 今後も引き続き精査し, より正確に現状を把握する必要がある。

(福田 宏)

アツシオガマ

Felaniella tsuchii (G. Yamamoto & Habe, 1959) n. comb.

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 フタバシラガイ上科 フタバシラガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は G. Yamamoto & Habe (1959: 88, note at no. 49, pl. 13, figs 7–8, as *Jouannisiella* [sic] *tsuchii*) で、タイプ標本の写真は波部 (1961a: 124, pl. 56, fig. 8, as *Joannisiella tsuchii*) 及び Higo *et al.* (2001: 161, fig. B647, as *Cycladicama tsuchii*) に公表されている。殻長・殻高とも約 10 mm, 丸みを帯びた三角形, やや厚く, 不透明。殻頂はほぼ中央に位置してやや前傾する。前縁～腹縁は緩やかに彎曲し, 後縁は截断状で直線的。殻表は淡黄色の無紋, 鈍い光沢がありほぼ平滑。内面は白く, 閉殻筋痕は前後とも上下に細長い楕円形で, 套線は彎入しない。歯板は明瞭で幅広く, その前後も肥厚して背縁の内側に沿った縁取り状をなす。鉸歯は 2 個の強い主歯をもち, 後主歯は二叉する。靱帯は後位で外在し, 短い明瞭。軟体は未詳。別名アツマンガツシオガマ。本種は近年までほぼ一貫して *Cycladicama Valenciennes* in Rousseau, 1854 または *Joannisiella* Dall, 1895 の一員とされてきたが, Huber (2015: 328, text-figs; 815, as “*Ungulina*” *tsuchii*) が指摘した通りそれらの属には属さない。ただし Huber の図示個体は本種には似ても似つかない別種で, 本種の所属に関する彼の議論は信頼できない。上記の殻の特徴が本種に最も近似するのは *Felaniella* Dall, 1899 の諸種であるため, 今ここで *Felaniella* に所属を変更する (新組み合わせ)。

写真： 瀬戸内市牛窓町黄島沖 水深 13 m ドレッジ St. 5, 2014 年 1 月 27 日, OKCAB M28992, 福田撮影。殻長 9.0 mm, 殻高 8.7 mm。



分布 青森県陸奥湾の貝類相に関する論文の中でついでのごとく新種記載されたため, タイプ産地も陸奥湾だと早合点した文献があるが (黒田他, 1971: 606 (和文), 389 (英文), pl. 118, fig. 5; 肥後, 1973: 334, no. 628; both as *Cycladicama tsuchii*), 正しいタイプ産地は「Yura Bay, Wakayama Prefecture, Honshu」(和歌山県日高郡由良湾) である。原記載では本種が陸奥湾に産するとは明記されていないが, のちの波部 (1977a: 135, pl. 25, figs 10–11, as *C. tsuchii*) は「陸奥湾～九州西岸」に分布するとした。これにつく最北の記録は太平洋側が宮城県女川町 (池辺・吉田, 2006: 119, no. 4052, as *C. tsuchii*), 日本海側が新潟県中・下越及び佐渡島 (伊藤勝, 1989: 61, no. 305, pl. 22, fig. 12, as *C. tsuchii*) で, 九州まで記録が点在する。国外は中国の「长江口以北的渤, 黄海」(長江河口以北の渤海・黄海) から知られ (徐・張, 2008: 120, 121, fig. 359, as *Cycladicama tsuchi* [sic]), また Valentich-Scott (2003: 277, pl. 6, fig. D) が香港から「*Diplodonta sowerbyi* (Kuroda and Habe 1952)」(ウメノハナガイモドキ) として図示した個体は明らかに本種であり, 少なくとも中国南部までは分布するとみられる。

生息状況 内湾の潮下帯 (水深約 50 m まで) の砂泥底に棲むが, 死殻が浜辺に打ち上げられることは少なく, 浚渫砂泥や蛸壺などから見出されることが多い。形態が地味なことも手伝ってか全国的に記録は少ないが, ドレッジや採泥器を用いると少なくとも死殻は頻りに得られ, 瀬戸内海では中央部及び伊予灘で「普通」とされている (稲葉, 1982: 45, no. 107, as *Cycladicama tsuchii*)。ただしどここの産地でも生貝が見られることは少ない。岡山県では文献記録はなく畠田和一コレクションにも含まれていないが, 2014 年に瀬戸内市牛窓町黄島沖で実施されたドレッジ (水深 13 m, 貝殻混じり砂礫底) によって本種の死殻半片 1 個が採集された (OKCAB M28992; 写真)。この個体は光沢が完全に失われて灰色に変色し, 殻頂も失われた著しく古い化石様の殻であり, 生貝や合弁死殻は未確認である。岡山県では本種と同様, 湾奥潮下帯に特異的な種の多くが近年棲息を確認できないままであり, それらの個体群が今も健在か否か定かでないが, 本種もその一例とみてよい。既に県内で絶滅したか, それに近い状態にまで追い込まれている可能性がある。また本種は岡山県だけでなく全国の各内湾で同様に強い減少傾向にあるかもしれない。これまで一度もレッドリストに取り上げられたことがない種であるが, 今後は保全対象とすべく検討する必要がある。

(福田 宏)

シオガマ

Joannisiella coreensis (A. Adams & Reeve, 1850)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 フタバシラガイ上科 フタバシラガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は A. Adams & Reeve (1850: 80, no. 2, pl. 24, fig. 14, as *Cyrenoida Coreensis*) で、この名は従来本種と同属の別種オウバイに相当するとされてきたが、Bernard *et al.* (1993: 58, as *Cycladicama cumingii*) や最近の Huber (2015: 342, text-figs; 828, 830–832) が断定した通り、本種とオウバイは同種である。他方、これまでずっと本種に同定されてきた *Cyrenoida Cumingii* Hanley, 1846 in 1842–1856: 353, pl. 15, fig. 5 (タイプ産地は「Philippines」) はフィリピン～シンガポール周辺の熱帯域に分布に限られる別種で、日本には産しない。また Yokoyama (1920: 131, no. 163, pl. 10, figs 2–3; 1922: 160, no. 254, pl. 14, fig. 2) が「*Diplodonta semiaspera* Philippi [1836: 225–226, no. 2, pl. 7, fig. 2; タイプ産地は「in India Occidentali ad Havanam」(キューバのハバナ)]」として報告した個体には本種と *Zemysina semiasperoides* (Nomura, 1932) マルシオガマ (同種の項を参照) とが混在し、そのうち本種に相当する Yokoyama (1922) の図示個体に対して Habe (1960c: 290, no. 2) が新名 *Joannisiella nomurai* (ノムラシオガマ) を与えた。したがって *J. nomurai* は本種の新参異名である。さらに、大山 (1943a: 36, no. 457) は駿河湾産の「*J. semiasperoides*」に対して和名ヒラシホガマを新称したが、後年 Oyama (1973: 94) 自身がその個体は *J. semiasperoides* ではなく本種だったと述べているので、ヒラシオガマは本種の異名である。殻長約 20 mm, 殻高約 18 mm, 亜円形 (幼貝では殻長に比して殻高が小さいため前後に長いが、成長に伴って両者の差は縮まってゆく)、薄く不透明、強く膨らむ。殻頂はほぼ中央に位置して前傾する。前縁～腹縁は丸く彎曲し、前端がやや突出する個体もある。殻表は成長脈がやや粗く、淡黄色ないし白色で、若い個体では殻皮は薄く半透明であるが、老成すると厚い濃褐色となる。内面は白く、閉殻筋痕は前後とも狭くて上下に細長く伸びる。套線は太く明瞭で彎入しない。歯板は狭く薄い。2 個の強い主歯をもち、後主歯は二叉する。靱帯は後位で外在し短い。軟体は未詳。



写真： 備中 [笠岡市] 白石島, 畠田和一コレクション #3990, 福田撮影。殻長 16.0 mm, 殻高 14.1 mm。

分布 タイプ産地は「Corean Archipelago」(朝鮮の島々)。Yokoyama (1922) の「*Diplodonta semiaspera*」(つまり *Joannisiella nomurai* ノムラシオガマ) は「Shisui」(千葉県印旛郡酒々井町) の更新世印旛層群から産出した化石である。また Habe (1960c) は *J. nomurai* を記載した際に「Tomioka, Amakusa, Kumamoto Pref.」(熊本県天草富岡) をタイプ産地とし、同時に「Issiki [sic], Aichi Pref.」(愛知県幡豆郡三河一色) も挙げた。ただし Habe のいう本種にもマルシオガマなど他種が混入している可能性がある。最近の多くの文献 (e.g. 松隈, 2017: 1221, pl. 518, fig. 13, as *Cycladicama cumingii*) は本種の分布域を「房総半島以南」としているが、実際の最北の産出記録は青森県陸奥湾 (G. Yamamoto & Habe, 1959: 88, no. 48, pl. 6, figs 14–15, as *Joannisiella* [sic] *cumingii*) で、岩手県三陸海岸でも複数回記録されている (鳥羽・千葉蘭, 1938: 171; 石山, 1973: 519, table 1; both as *J. cumingi* [sic]; 戸羽, 2009: 79, 80, fig. 7, as *C. cumingii*)。日本海側は男鹿半島船越 (西村正・渡部景, 1943: 72, no. 213, as *J. cumingii*; 鈴木庄, 1979: 222–223, no. 393, pl. 13, fig. 186, as *C. cumingii*) 以南に知られ、太平洋・日本海両岸とも九州まで記録が点在する。国外は朝鮮半島, 中国, ベトナムまで分布する (Hylleberg & Kilburn, 2003: 174, as *C. cumingi* [sic]; 関他, 2004: 420, fig. 1367-1–2, as *C. cumingii*; Anonymous in Qi (Ed.), 2004: 257–258, pl. 142, fig. I, , as *C. cumingi* [sic]; 徐・張, 2008: 120, 121, fig. 357, as *C. cumingii*)。

生息状況 潮下帯～漸深海底 (水深約 150 m まで) の砂泥底に棲み、死殻は浜辺へ時折打ち上げられ、浚渫砂泥・漁屑などの中からも見出されるが、生貝を目にする機会のごく少なく、棲息の実態は不明瞭である。瀬戸内海では全域に「普通」とされているものの (稲葉, 1982: 45, no. 103, as *Cycladicama cumingii*)、実際は薄く広く産出する程度とみられ、香川県での近年の調査でもわずかな数の死殻が確認されているのみである (瀬尾・Tanangonan, 2014: 111, no. 91, as *Cycladicame* [sic] *cumingii*)。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に「オウバイ」が含まれ、これは本種のことと考えられる。また畠田和一コレクションに含まれる「備中 [笠岡市] 白石島」産の半片 1 個 (「矢倉 [和三郎] 氏同定」, ソガイロシオガマ (後掲) 半片 1 個が混在, #3990; 写真) が現存する唯一の本県産標本である。この個体は打ち上げ採集で得られたものと推測され、殻皮は周縁に残されているものの腹縁の一部が破損している。畠田和一が活躍した 1960 年代以前の時代にあってもこのような不完全な標本を得るのが精一杯で、生貝は容易に採集できない程度に稀産であったと思われる。その後、正確に本種に同定可能な個体は死殻や破片すらも県内で一度として見出されていない。潮下帯の環境が水質悪化や浚渫などで変質したことで本種の個体群も一掃され、ソガイロシオガマなどととも絶滅したと考えられる。

(福田 宏)

ソガイロシオガマ (新称)

Joannisiella aff. *abbreviatus* (Gould, 1861)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 フタバシラガイ上科 フタバシラガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 学名未確定種で、未記載種の可能性がある。殻長約 12 mm, 殻高約 10 mm, 亜円形, 薄くて壊れやすく, 不透明, 著しく強く膨らむ。殻頂は強く前傾する。前縁～腹縁は丸く彎曲し, 前端はわずかに突出する。殻表は弱い成長脈を巡らし, 鈍い光沢を帯びた淡黄色で, 殻皮は薄く半透明。内面も殻表と同色で, 閉殻筋痕や套線はシオガマとほぼ同様。歯板は狭く薄い。主歯は 2 個あって小さいが明瞭で, 右殻の後主歯と左殻の前主歯は深く二叉する。靱帯は後位で外在し, 細い。軟体は未詳。かつて瀬戸内海で「*Cycladicama abbreviata* (Gould, 1861) ヒメシオガマ」と同定されていた種(波部, 1977a: 135; 稲葉, 1982: 45, no. 104) は本種であろう。また石川裕 (2014a: 18–19, text-fig.) のいう「ヒメシオガマ類 2」も同種とみられる。*C. abbreviata* は「Hong Kong harbor」(香港) から Gould (1861: 32–33, as *Mysia abbreviata*) が記載し, タイプ標本は Johnson (1964: 35, pl. 26, fig. 5) 及び Higo et al. (2001: 161, fig. B644, as *C. abbreviata*) が写真を公表している。それを見る限り当該種は後端が截断状で直線的となり, また殻頂から後腹隅にかけて鈍いが明瞭な稜角が走る点で本種とは異なる。また和名ヒメシオガマは台湾澎湖島産個体に対して大塚 (1937a: 132, no. 49, figs. 51a–b, as *Joannisiella* sp.) が与え, その際に図示された個体はより膨らみが強く, 殻頂がより顕著に前傾していることから *M. abbreviata* とは同種ではなさそうに見えるが, いずれにせよ瀬戸内海産個体とは明らかに別種である。この類は他にも未詳種が複数存在し, 山下博・久保 (2012: 145, text-figs a–d, as *C. spp.* ヒメシオガマ類) は奄美大島, 台湾高雄, 沖縄県名護市, 佐賀県唐津湾からそれぞれ異なる種とみられる個体を図示した。それらのうち fig. d の唐津湾産個体は本種に最も近似し, 同種の可能性がある。松隈 (2017: 1221, pl. 519, fig. 2, as *C. abbreviata*) がヒメシオガマとして図示した個体も本種に似るが, どこで採れたものかは明記されていない。ヒメシオガマという名は各地の博物館所蔵標本目録に散見されるものの (e.g. 村岡, 1972: 159, no. 3184, 台湾・高雄市; 竹之内, 2007: 12, 天草富岡; 高田, 2014: 23, pl. 1, fig. 8, 長崎県対馬及び黄海; 高田・渡部哲, 2016: 44, 熊本県苓北町富岡及び千葉県市原市瀬又の化石; all as *C. abbreviata*), それらがどんな種を指しているかは実物を検討しない限りなんとも言えない。例えば, 黒田徳米コレクション(西宮市貝類館に所蔵) 中でヒメシオガマとラベルに記された奄美大島産標本(NCKB00762; 大谷他, 2005: 22; 山下博・久保, 2012: text-fig. a) を久保が検討したところ, 殻は厚く, 殻頂部が著しく突出する点で本種とは明らかに異なっていた。少なくともここで扱う岡山県産の種は *M. abbreviata* にも, 大塚や黒田のいうヒメシオガマのいずれにも一致しないため, とりあえず和名のみ新称する。ソガイロは「承和色」で, 菊花に代表されるややくすんだ黄色を意味し, 本種独特の殻色に寄せた。

写真: 備前[倉敷市下津井]六口島, 畠田和一コレクション #3231, 福田撮影。殻長 11.0 mm, 殻高 10.0 mm。



分布・棲息状況 畠田和一コレクション中に以下の 3 ロット・計 4 個体が含まれる:「備前[瀬戸内市]牛窓」(「*Joannisiella cumingii* (Hanley) シホガマ 波部 [忠重] 氏同定 1952.2.」), 合弁 1 個体, #3989), 「備前[倉敷市下津井]六口島」(合弁 2 個体, #3231; 写真), 「備中[笠岡市]白石島」(「矢倉 [和三郎] 氏同定」, 半片 1 個, シオガマ半片 1 個と混在, #3990 (part))。これら以外には上記山下博・久保 (2012) が図示した佐賀県唐津湾産個体及び, その個体と「同種」として福岡市での産出(「博多湾の 1940 年代の標本に含まれ, 近年は [福岡市西区] 今宿で多くの打ち上げがみられる」という)に言及した松隈他 (2014: 240, as *Cycladicama* sp. ヒメシオガマ近似種), さらに「天草, 佐賀, 福岡, 大分県中津, 愛媛県宇和海のものを確認している」「内湾泥底の種」という石川裕 (2014a) の他に具体的な情報が公表されておらず, 分布範囲の詳細は不明である。畠田標本のうち合弁の 3 個体はいずれも光沢や色彩がよく保存され, うち 1 個体は閉殻筋の一部が残存しているため採集時は生貝であったと考えられる。白石島産の半片は浜辺に打ち上げられていたものであろう。これらの標本以外には岡山県内での本種に関する情報は一切存在せず, 最近 20 年間では半片死殻や破片すらも全く見出されていない。このため, かつて本種がどのように棲息していたのかは想像するほかないが, 上記各標本の産地である牛窓・六口島・白石島で畠田和一が得ている種は, 外洋や湾口にあって潮通しがよく, 水質・底質ともに清浄で比較的貧栄養な環境に特異的な種が多くを占めていることから, 本種も同様の環境に棲息していたと推測可能である。それらの種の大半が 1960 年代以降の環境悪化によって県内から消え去った事実から, 本種ももはや絶滅したと考えられる。ただし瀬戸内海に面した近隣他県のどこかに生き残っている可能性は残るので, 今後の精査が必要である。また山下博・久保 (2012) が指摘している通り, この種群はどの海域においても局所的にしか産出せず, 棲息環境の嗜好が厳密であるらしいことは情報に乏しい現時点においても明白であるので, その多くが必然的に環境変化に敏感もしくは脆弱なはずであり, したがって危機的状況に陥っている可能性が高い。その稀少性を明確に把握するためにも, 国内外の各地に産するヒメシオガマ類の諸種に対して分類の包括的な再検討が強く求められる。

(福田 宏・久保弘文)

マンゲツシオガマ

Zemysina lunaris (Yokoyama, 1927)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 フタバシラガイ上科 フタバシラガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Yokoyama (1927a: 433, no. 72, pl. 50, figs 5–6, as *Diplodonta lunaris*) で、その図は Is. Taki & Oyama (1954: 39, pl. 47, figs 5–6, as *Joannisiella lunaris*) 及び Oyama (1973: 95, pl. 39, figs 2a–b, 5 a–b, as *Cycladicama lunaris*) に転載された。殻長約 7 mm, 殻高約 6.5 mm, 垂円形で薄く半透明、よく膨らむ。殻頂はほぼ中央に位置してわずかに隆起する。周縁全体が緩やかに彎曲し、輪廓は和名にいう満月のごとく円形に近い。

殻表は無色無紋、光沢を帯び、微細な成長脈以外は平滑。内面も無色で、閉殻筋痕は前後とも上下に細長い楕円形で、套線は彎入しない。歯板は狭いが明瞭で、その前後も肥厚して背縁の内側に沿った縁取り状をなす。鉸歯は 2 個の強い主歯をもち、右殻の後主歯と左殻の前主歯は二叉する。靱帯は後位で外在し、短い明瞭。軟体は未詳。本種もアツシオガマと同様、従来は *Cycladicama* または *Joannisiella* に属すとされてきたが、Huber (2015: 820–821) が *Zemysina* Finlay, 1926 に移した。ただその措置は暫定的で、正確な所属の決定にはさらに検討を要する。なお松隈 (2000: 935, pl. 465, fig. 2; 2017: 1221, pl. 518, fig. 15; both as *C. lunaris*) が本種として図示した個体は膨らみが弱く、前・後縁がともに鈍く角張り、殻表の成長脈も粗いことから全く異なる別種で、恐らく同属ですらない。

写真： 玉野市大入崎～岡山市東区犬島間 水深 10 m 砂底 ドレッジ St. 3, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24340, 福田撮影。殻長 5.7 mm, 殻高 5.4 mm。



分布 タイプ産地は「Kuruma-chô and Shinagawa」(東京都港区高輪芝車町及び品川、ともに後期更新世東京層の化石)。近年の松隈 (2000, 2017) は「房総半島から九州」に分布するとしているが、実際には G. Yamamoto & Habe (1959: 88, no. 49, as *Jouannisiella* [sic] *lunaris*) が青森県陸奥湾から報告しており、岩手県山田湾でも記録がある (石山, 1972: Table 1, as *Joannisiella lunaris*)。日本海側の最北の記録は新潟県佐渡 (黒田, 1957: 29, no. 411, as *J. lunaris*)。太平洋側・日本海側ともに九州まで点々と記録がある。国外では Bernard *et al.* (1993: 58, as *Cycladicama lunaris*) が「Yellow Sea, Korea」(黄海, 韓国) に産するとしているが、具体的な出典は不明で信憑性に乏しい。また、関他 (2004: 421, fig. 1369-1–2, as *C. lunaris*) が韓国から本種として図示した個体は本種ではない。したがって現時点で、本種の国外からの確実な産出記録はない。

生息状況 内湾の潮下帯 (水深約 10 m 以深; 波部, 1961a: 124, pl. 56, fig. 12, as *Joannisiella lunaris* は最深で「500 m」まで産すると記し、のちの多くの文献もこれに追随しているが、そこまでの深海底に実際に棲息するかは疑わしい) の砂泥底に棲み、死殻はアツシオガマと同様に浚渫砂泥やドレッジなどでのサンプル中に頻繁に見られるが、本種は後種以上に死殻が浜辺に打ち上げられることが少なく、必然的に人目に触れる機会も減多にない。千葉県環境生活部自然保護課, 2019: 29, no. 807) では最重要保護生物とされており、これは東京湾で近年生貝が確認できない状況を受けてのこととみられる。瀬戸内海では稲葉 (1982: 45, no. 107, as *Cycladicama lunaris*) は全域に産するものの「少ない」としている。岡山県でも文献記録はなく畠田和一コレクションにも含まれていないが、2002 年に玉野市～岡山市東区の沖合で実施されたドレッジ調査において、4 地点で死殻が採集された: 波張崎南東沖 (水深 22 m, 泥底, 幼貝半片 1 個, OKCAB M24117), 波張崎～犬島間 (14.3 m, 砂底, 半片 2 個, M24243), 大入崎～犬島間 (10 m, 砂底, 半片 2 個, M24340; 写真), 大入崎東沖 (17.4 m, 砂底, 半片 1 個と破片 1 個, M24435)。しかしその全てが半片であり、生貝はおろか新鮮な合弁死殻もいまだに見出されておらず、今も県内に棲息していると断定できるだけの証拠は揃っていない。したがって東京湾と同様に、あるいはアツシオガマともども絶滅またはそれに近い危機的状況に陥っている可能性が高い。

(福田 宏)

マルシオガマ

Zemysina semiasperoides (Nomura, 1932)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 フタバシラガイ上科 フタバシラガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 シオガマの項で触れた通り Yokoyama (1920, 1922) が「*Diplodonta semiaspera* Philippi [1836]」とした種は誤同定であったため、Nomura (1932: 78, no. 76, footnote 1) がそれらに対する新名 *Diplodonta semiasperoides* を与えた。ところが Yokoyama の報告は異なる 2 種（本種とシオガマ）を含んでおり、Nomura はそれに触れていない。のちに Habe (1960c) が Yokoyama (1922) の図示個体を *Joannisiella nomurai* Habe, 1960 ノムラシオガマと命名し（シオガマの項を参照）、さらに Oyama (1973: 94, pl. 39, figs 3a–b, 6, as *Cycladicama semiasperoides*) が Yokoyama (1920: 131, no. 163, pl. 10, figs 2–3) の fig. 2 の個体を *D. semiasperoides* のレクトタイプに指定して Yokoyama (1922) の種（ノムラシオガマ=シオガマ）と峻別した。*J. nomurai* ノムラシオガマは本種の新参異名とされることがあるが（e.g. 黒田他, 1971: 605 (和文), 388 (英文), pl. 87, fig. 14, as *C. semiasperoides*; Huber, 2015: 334, text-figs; 820, 830–831), 実際はシオガマの異名であって本種ではない。また松隈 (2000: 935–937, pl. 465, fig. 6) は本種の学名を「*D. asperoides* Nomura, 1932」とし、清水利 (2001: 121, no. 2457), 濱村 (2004: 141, text-figs), 高田 (2014: 23), 高田・渡部哲 (2016: 45, pl. 3, fig. 23) もこれに追随しているが、そのような学名は実在しない。さらに、本種の和名は大半の文献がヒラシオガマとしているが、これもシオガマの項で述べた通り大山 (1943a: 36, no. 457) が命名したヒラシホガマはシオガマのことであり、本種に対しては使用できない。Oyama (1973) は本種をマルシオガマと改称したため、和名はこれを用いるべきである。本種のもう一つの別名であるタマフタバシラガイは複数の広く知られた文献（e.g. 波部, 1961a: 124, pl. 56, fig. 10; 1977: 136; 波部・伊藤潔, 1965: 129, pl. 43, fig. 14; all as *D. semiasperoides*）で使用されているが、石川裕 (2013: 9, as *D. sp.*) が指摘する通りそれらの図示個体は恐らく本種とは別種（種名未詳）であるため、タマフタバシラガイの名を用いるのは避ける。殻長約 20 mm, 殻高約 17 mm, 殻形はシオガマに似るがはるかに膨らみが弱い。また同じ殻長の個体同士で比べると本種の方が殻長と殻高の値がより近く、つまりより垂円形となり、これは若い個体であるほど顕著。殻頂はシオガマよりも小さく突出する。殻表の成長脈はシオガマのそれより弱い。殻色も白く、殻皮は無色で薄い。内面は白く、閉殻筋痕はシオガマより多少太く短い。歯板はシオガマより幅広く、前・後縁に沿って伸び、主歯も大きい。軟体は未詳。

写真： 備前 [岡山市東区] 犬島, 島田和一コレクション #4251, 福田撮影。殻長 9.8 mm, 殻高 8.7 mm。



分布 レクトタイプ指定された Yokoyama (1920: pl. 10, fig. 2) の産地は「Shisui」（千葉県印旛郡酒々井町, 更新世印旛層群の化石）であり、これがタイプ産地である。Nomura (1932) の原記載には関東地方 4 箇所の化石産地が挙げられているが、それらは本種とシオガマが混在している可能性がある。本種もシオガマ同様近年の文献（e.g. 松隈, 2017: 1221, pl. 519, fig. 1, as *Cycladicama nomurai*）では「房総半島以南」と暖流系の種であるかのごとく留保なく扱われているが、波部 (1961a) は「東北地方太平洋岸–北海道」、波部・伊藤潔 (1965) は「本州東北–北海道」とするなど、一時期は北方系種と認識されていたことを忘れてはならない。ただしそれら東北以北から知られている種はタマフタバシラガイと呼ばれ、上記の通り実際は本種とは別種と考えられ、それを踏まえた上で今一度分布域を把握し直すことが必要である。国外はロシア沿海州、朝鮮半島、中国黄海南部から知られる（関他, 2004: 420, fig. 1368-1-2; 徐・張, 2008: 122, 123, fig. 361; both as *C. semiasperoides*; Huber, 2015）。高田・渡部哲 (2016) が本種として図示した「香港大鵬湾」産個体は、殻頂がさほど前傾せず膨らみも弱いことから明らかに本種ではない。

生息状況 シオガマと同様に潮下帯～漸深海底（水深約 100 m まで）の砂泥底に棲むとされ、打ち上げ死殻が時折得られるものの、生貝がなかなか見られないことも共通している。ただし本種は潮間帯下部の岩礁間で見出されることもあり（長崎県佐世保市九十九島, 川内野善治氏私信）、外洋の開放的な砂浜にも殻が打ち上がることから、棲息可能な環境の幅はシオガマより広いかもしれない。瀬戸内海ではシオガマともども全域に「普通」とされ、産出状況は後種とほぼ同様とみられるが（稲葉, 1982: 45, no. 109, as *Diplodonta semiasperoides*）、近年の香川県では記録されていない（瀬尾・Tanangonan, 2014）。一方で広島県では倉橋・川尻両町の「潮間帯下部 砂地」で生貝が採集されている（濱村, 2004）。岡山県では文献記録はないが、島田和一コレクションに「備前 [岡山市東区] 犬島」（「矢倉 [和二郎] 氏同定」、合弁 1 個体, *Kellia japonica* Pilsbry, 1895 ドブシジミモドキ合弁 1 個体が混在, #4251）、「[倉敷市下津井] 六口島」（「波部 [忠重] 氏同定 1959.」, 合弁 1 個体, #4252）、「[笠岡市] 白石島」（合弁 1 個体と半片 7 個, #2079）産の標本群が含まれる。犬島産は内面の光沢と靱帯が完全に残されており、同じ管瓶に整理されていたドブシジミモドキとともに採集時は生貝であった可能性が高い。六口島の個体は殻頂直下にタマガイ科の種による円い捕食痕がある。白石島産は砂浜へ打ち上げられていたものと推測されるが、ほとんどが新鮮で一部は靱帯も残っている。これらの標本から 1950 年代以前の県内では決して稀産でなかったことがわかる。しかしその後は全く見出されておらず、本種も他の多くの種と同様に高度経済成長期以降に激減または絶滅したことが確実視される。ただ本種はシオガマと比較して棲息環境の幅が広く、例えば笠岡諸島など離島の岩礁域にまだ生き残っている可能性もあること、また広島県で近年も棲息が認められることを考慮して今回は絶滅とはせずにおく。

（福田 宏）

シロウスハマグリ

Aphrodora noguchii (Habe, 1958)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Habe (1958f: 34–35, no. 184, as *Pitar (Agriopoma) noguchii*) で、ホロタイプの写真が波部 (1961a: 129, pl. 58, fig. 6, as *P. (A.) noguchii*) 及び Higo *et al.* (2001: 177, fig. 1172, as *P. noguchii*) に示されている。殻長約 22 mm, 殻高約 18 mm, 横長の亜三角形で薄く不透明, よく膨らむ。殻頂はほぼ中央にあって盛り上がり前傾する。前端は丸く, 後端は多少截断状。殻表は細かい成長輪肋を密に刻み, 針で突いたとき小孔が散在する。淡いクリーム色で, 不規則に灰色の斑紋を成長輪肋に沿って生じ, これは内面からも透けて見える。褐色の薄く剥離しやすい殻皮を被り, 生時は殻表全体に砂を付着させる。内面は白色で鈍い光沢があり, 套線はやや深く彎入する。歯板は狭く, 鉸歯は強い 3 個の主歯と前側歯からなる。小月面は深い溝で区切られ, 引き伸ばされたハート形。楕面は不明瞭。軟体は未詳。本種は Huber (2010: 396, text-fig.; 729) が指摘している通り *Aphrodora nipponica* (Kuroda & Habe in 黒田他, 1971: 643 (和文), 415–416 (英文), pl. 90, fig. 15, as *Pitar (Pitarina) nipponicum*) スナカムリハマグリ (タイプ産地は「相模湾」) と酷似し, 両種のホロタイプ同士 (後種は Higo *et al.* (2001: 177, fig. 1174, as *Pitar nipponicum*) にも図示) を比較しても識別が困難で, 本当に両者が別種として成立するか否かは再検討が必要である。

写真: [浅口市] 寄島, 1956 年 12 月 2 日, 畠田和一コレクション #1695, 福田撮影。殻長 22.8 mm, 殻高 19.2 mm。



分布 タイプ産地は「Off Hamamatsu, Shizuoka Pref., Honshu」(静岡県浜松市沖)。原記載では同時に「St. 468 (off Tsushima, 112 m) and St. 483 (off Shimane Pref., 130 m)」(長崎県対馬沖, 水深 112 m 及び島根県沖, 水深 130 m) の産地が併記され, 分布域は「Kyushu; Shikoku and Honshu (north to Sagami Bay)」(九州, 四国, 本州 (北限は相模湾)) とされた。その後の文献記録のうち太平洋側の最北の産地は福島県常磐沖 (根本・秋元, 1990: 16–17, as *Pitarina noguchii*) である。報告例の少ない種で, 具体的な産地は駿河湾 (波部他, 1986: 34, as *Pitar (Pitarina) noguchii*), 愛知県一色町 (池辺・吉田, 2006: 129, no. 4454, as *Pitar noguchii*), 三重県尾鷲沖水深 100–200 m (松本幸, 1979: 105, no. 1769, as *Pitar noguchii*), 和歌山県 (Kuroda & Habe, 1981: 158, as *Pitar (Pitarina) noguchii*), 兵庫県淡路島 (堀越他, 1963: 126, as *Pitar (Agriopoma) noguchii*), 広島県倉橋島及び呉市仁方町 (ともに底引, 死殻; 濱村, 2004: 164, text-fig., as *Pitar noguchii*), 高知県沖ノ島・柏島・足摺岬沖 (東, 1960: 84, no. 1421a, as *Pitar (A.) noguchii*), 福岡県玄界灘 (高橋・岡本, 1969: 75, no. 794, as *Pitar (A.) noguchii*), 長崎県雲仙市千々石町 (堀川, 1964: 71, no. 1101, as *Pitar noguchii*), 熊本県天草郡苓北町富岡 (村岡, 1972: 164, no. 3287, as *Pitar (A.) noguchii*), 小笠原諸島 (西村和, 1999: 117, no. 361, as *Pitar (Pitarina) noguchii*) など数えるほどしかなく, これらの記録が正しく同じ種を指しているかも不明確である。国外では Huber (2010) が台湾にも産するとしている。また, もしスナカムリハマグリが本種と同種であるとすれば, 後種は新潟県 (伊藤勝, 1989: 65, pl. 26, fig. 13, *Pitar (Pitarina) nipponicum*) や福井県若狭湾 (伊藤勝, 1990: 127, no. 624, as *Pitar (Pitarina) nipponicum*) からも報告されており, 日本海側の北限が新潟県まで達することになる。

生息状況 潮下帯から大陸棚上の漸深海底 (水深約 10–200 m) にかけての砂泥底に棲息するが, *Aphrodora kurodai* (Matsubara, 2007) ウスハマグリやスナカムリハマグリなどとの識別が簡単でない点も手伝ってか文献記録は少なく, ましてや生貝の産出例はわずかしかない。瀬戸内海でも稲葉 (1982) の目録には登載されておらず, 上記の濱村 (2004) が近年唯一の記録である。岡山県でも明確な記録は公表されていなかったが, 畠田和一コレクション中に含まれている「[浅口市] 寄島採集品 1956.12.2」(半片 2 個, #1695; 写真) 及び「[昭和] 31 [= 1956].11.21. 寄島採集品」(半片 3 個・破片 3 個, #1790) は本種に同定可能である。これらの一部はアオサギ, アワジチガイなどと同時に採集されたものであり, 恐らく寄島漁港に挙げられていた潮下帯からの漁屑に由来するものであろう。しかしそれらすべてがかなり古い死殻半片であり, 畠田和一が健在であった 1950 年代においても生貝とみなしうる標本は採集されていない。その後も全く確認されないまま今日に至っており, この点は同時に採集されたアオサギやアワジチガイと同様で, これらの種が構成していた貝類群集自体が完全に失われたとみられる。岡山県での本種は, もともと限定された範囲に低密度で少数が棲息しているのみであったと推測され, その後の水質汚濁や海底浚渫などの影響を被り, 絶滅したと考えられる。

(福田 宏)

シラオガイ

Circe undatina (Lamarck, 1818)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Lamarck (1818: 575, no. 56, as *Cytherea undatina*)。本種の学名は近年まで *Circe scripta* (Linnaeus, 1758: 689, as *Venus scripta*) (タイプ産地は「Indiis」とされることが多かったが、その名は別種タイワンシラオガイに相当する (久保・山下博, 2012: 146, text-figs; Huber, 2015: 761–762; 久保, 2017: 481–482)。また波部 (1951d: 160, figs 347–348, as *Cir. (Cir.) stutzeri*) や Kuroda & Habe (1981: 156, as *Cir. scripta*) など一部の著者が本種の異名とみなしてきた *Cir. personata* Deshayes, 1854: 6, no. 24 も本種ではなくタイワンシラオガイである。一方, *Venus Stutzeri* Donovan, 1824 (1 May) in 1823–1827: pl. 78, fig. 1 は日本産であり, 本種の新参異名である。殻長約 40 mm, 殻高約 37 mm, 丸みを帯びた三角形, 膨らみは弱くほぼ扁平で, 厚く堅牢。殻頂はほぼ中央に位置し, わずかに前傾する。殻表は明瞭な輪肋を等間隔に刻み, 淡黄褐色の地に赤茶褐色の不規則な放射帯やジグザグ模様など変異に富んだ斑紋をもつ。後背縁附近に弱い斜めの肋が分岐する。内面は光沢を帯び, 辺縁部は白いが中央は褐色に染まる。周縁は刻まれることなく平滑で, 套線はごくわずかしき彎入しない。靱帯は外在し後位で細く短い。前後の筋痕は縦長の楕円形。鉸歯は中主歯とその前後の歯ともに強く, 前側歯は左殻で発達し, 右殻にはそれが嵌る窪みが形成されるが, 後側歯は欠く。軟体は白色で足は幅広い三角形。水管は短い。

写真： [倉敷市] 下津井, 畠田和一コレクション #1891, 福田撮影。殻長 37.1 mm, 殻高 36.2 mm。



分布 タイプ産地は「l'Océan des grandes Indes」(インド洋)。異名である *Venus Stutzeri* は「Japan」から記載された。太平洋側は房総半島以南 (清水利, 2001: 131–132, no. 2692, as *Circe (C.) scripta*), 日本海側は山下博・木村昭 (2012: 146, text-figs a–d) は北限を男鹿半島としているが, そこでの具体的な出典は見当たらない。佐渡島には記録がある (黒田, 1957: 30, no. 432, as *C. scripta undatina*)。太平洋・日本海両岸とも九州まで分布し, 特に日本海南西部には産地が多い。南西諸島には同属のタイワンシラオガイが産し, 本種は出現しない。国外は中国沿岸 (浙江省南甌島以南) からシンガポールまで分布し, 東・南シナ海では本種とタイワンシラオガイの分布が重なっている (Qi, 2004: 305, pl. 165, fig. K, as *C. stutzeri*; 徐・張, 2008: 228, 229, fig. 719, as *C. scripta*; Huber, 2010: 385, 723, text-figs; 王他, 2016: 144, no. 411, text-figs, as *C. scripta*)。

生息状況 潮通しがよく, 水質が良好な内湾の広く平坦な砂干潟中部から潮下帯において, 還元的でない細砂底や礫混じりの砂泥底, アマモ場などに棲息する。カバザクラなどニッコウガイ科, あるいはムラサキガイなどシオサザミ科の種と同所的に産することが多く, それらと同様に水質や底質の富栄養化に弱い。このため戦後の水質悪化や海岸変化に伴う干潟の縮小によって全国的に急減した。かつての瀬戸内海では稲葉 (1982: 59, no. 249, as *Circe (C.) scripta*) が全域に「多産」としている通りごく普通に見られたが, 1970 年代以降にほとんど見られなくなり, 濱村 (2004: 166, text-fig., as *Circe (C.) scripta*) は広島県芸南地方において「数は少ないが, アマモ場の泥上に殻を横にしてころがっていたが, 現在は生貝が確認できない」と述べた。また香川県でも畠田 (1977: 5, as *C. scripta*) は「多い」としたのに対し, 近年の瀬尾・Tanangonan (2014: 111, no. 96, pl. 5, fig. 1) は「生貝および新鮮な死殻は採集されなかった」と報じた。岡山県では 1930 年代, 「小田郡北木島村 [現・笠岡市] 飛島」に暮らす人々が本種を「スルメ」, 「児島郡 [現・倉敷市] 下津井町」では「シラカヒ」または「ウキガヒ」という方言で呼んでいたと畠田 (1935: 232, no. 20, as *C. scripta stutzeri*) が記録しており, 頻繁に目にする普通種であったことが読み取れる。畠田和一コレクションには「[瀬戸内市] 牛窓前島」(合弁 1 個体, #1564), 「下津井」(合弁 2 個体, #1891; 写真), 「児島郡 [現・岡山市南区] 小串村」(合弁 3 個体, #1893) の各標本が現存し, それら全てが採集時は生貝であったとみられる。しかしその後は岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に登載されただけで, 生貝を目にする機会は完全に失われた。近年は, 著しく摩滅して光沢が消え, チョーク状に白化した化石様の半片がごく稀に見られるのみであり, 現在の岡山県内に本種の個体群が維持されていそうな場所を想定するのは困難である。高度経済成長期の水質悪化や, 埋め立てや干拓による干潟や浅海の藻場の消失などにより, もはや本種は岡山県から絶滅したと考えられる。

(福田 宏)

アツカガミ

Dosinia biscocta (Reeve, 1850)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレイガイ目 マルスダレイガイ上科 マルスダレイガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Reeve (1850a: sp. 55, pl. 9, fig. 55, as *Artemis biscocta*) で、Higo *et al.* (2001: 177, fig. B1198) がシタイプを图示している。本種の和名は宮崎県の個体に対し、河本 in 黒田 (1935: 67, no. 515, as *Dosinia (Phacosoma) biscocta*) が新称したが、宮崎県は本種が棲息可能な干潟環境に乏しく、別種が混同されていた可能性が高い。恐らく河本卓介は本来、地元山口県周防灘の個体をアツカガミと呼んでいたところ、その名を黒田徳米が宮崎県産の別種に誤って適用したらしい。実際に黒田他 (1971: 650 (和文), 421 (英文), pl. 90, fig. 7, as *Dosinorbis (P.) biscoctus*) は、かつてアツカガミとされていた瀬戸内海産個体 (=現在の用法でのアツカガミ) は *Dosinia (Asa) malecocta* Fischer-Piette & Delmas, 1967: 42 に相当し、*D. biscocta* (和名新称時の宮崎県産「アツカガミ」) とは別種であると指摘している。*D. malecocta* は、Römer (1862: 59, pl. 16, fig. 3, 3a, 3b) が图示した *D. biscocta* に対して与えられた新名であり、Römer の図を見る限りでは確かにアツカガミと近似する。しかしながらこの種のタイプ産地は不明であること (Huber, 2010: 411, text-fig.; 737) に加え、Fischer-Piette & Delmas は Römer の图示標本の詳細な検討を行っていないため、*D. malecocta* が本種と同種であるかは断言できない。また後の Kuroda & Habe (1981: 161) は *D. malecocta* を *D. Roemeri* Dunker, 1863 in 1858–1878: 43–44, pl. 13, figs 7–9 (タイプ産地は「ad Guineam?」) の新変異名としたが、*D. roemeri* は前後に引き伸ばされ、小月面が褐色となる点で本種とは異なる。さらに Huber (2010: 737) は *D. roemeri* を *Artemis Cumingii* Reeve, 1850a: sp. 30, pl. 5, fig. 30 フジイロカガミの異名とみなしたが、この種も殻表に赤褐色の放射彩が入ることによって本種と明確に区別できる別種である。このため、本種を *D. malecocta* や *D. roemeri* に同定するのは適切でないと考えられ、ここでは暫定的に和名が新称された際に用いられた *D. biscocta* を用いる。ただし *D. biscocta* もアツカガミと比較して殻が前後に長く、殻頂の突出と傾きが弱いため黒田他 (1971) が指摘した通り別種の可能性があり、今後の再検討が必要である。別名ビスケットカガミ。殻長約 36 mm, 殻高約 36 mm, わずかに縦に長い類円形、厚く、よく膨らむ。殻頂はやや前方に位置し、強く前に傾く。前端は丸みが強く後端は多少角ばる。前背縁は短く強く下降し、後背縁はわずかに彎曲して緩やかに下降する。腹縁は彎曲するが後端附近ではやや直線状となる。殻表は灰白色で鈍い光沢があり、細かい輪肋が等間隔で密に並び、前・後縁に近づくにつれて立ち上がる。内面は白色で、前・後閉殻筋痕はともに馬蹄形。套線彎入は深く、その頂点は細まって尖る。小月面は黄土色で深くくぼみ、盾面は明瞭で彩色されず、内側にくぼむ。靱帯は比較的明瞭で盾面の長さの半分を超えることはない。鉸歯は右殻の後主歯と左殻の中主歯がそれぞれ二分する。軟体部は未詳。



写真： 備中〔笠岡市〕飛島，1944年1月1日，畠田和一コレクション #1830，福田撮影。殻長・殻高とも 36.5 mm。

分布 タイプ産地は「Japan」(日本)。瀬戸内海と有明海に面する和歌山・兵庫・香川・山口・福岡・大分・熊本各県から記録がある (河本・田邊, 1956: 75, no. 898, footnote 49, pl. 24, figs 222–223, as *Dosinia (Phacosoma) biscocta*; 窪田, 1962: 156, no. 2223; 高橋・岡本, 1969: 76, no. 809, pl. 20, fig. 10; both as *Dosinia (Dosinorbis) biscocta*; 畠山・矢野, 1979: 10, as *Phacosoma melecoctum* [sic]; Kuroda & Habe, 1981; 熊本県希少野生動物植物検討委員会, 2009: 429; 濱田保, 2008: 83, no. 2042, pl. 83, fig. B1208, as *P. roemeri*)。神奈川県 (相模湾) と宮崎県からも文献記録があるが (黒田, 1935; 黒田他, 1971), 前述の通りこれらの記録は別種の可能性があり、今後の検討を要する。国外では朝鮮半島, 中国大陸沿岸 (黄海～南シナ海) に分布する (閔他, 2004: 465, fig. 1529-1-3, as *P. abyssicolum*; 庄, 2001: 141–143, nos 45–46, figs 86–87; 徐・張, 2008: 237, figs 748–749)。中国では近年まで北部に *Dosinia biscocta* が、南部に近似種の *Dosinia fibula* (Reeve, 1850: sp. 26, pl. 5, fig. 26, as *Artemis fibula*) が分布するとされていたが (庄, 2001: 141–143; 徐・張, 2008: 236, 237, fig. 749), 両地点から採集された個体に大きな遺伝的変異はなく、現在では同種とされている (Chen *et al.*, 2011)。またベトナムやタイからの記録 (Robba *et al.*, 2002: 115, 117, pl. 19, figs 8–9, as *Dosinia tumida*; Thach, 2007: 217, no. 1191, pl. 71, fig. 1198) は本種であるか疑わしく、本種がベトナム以南にも分布するか現時点で明らかでない。

棲息状況 大規模な内湾の干潟中・下部～潮下帯において砂泥底に棲むとされ、朝鮮半島では現在も棲息が確認されているが (山下博, 2012: 148, text-figs a–e), 日本ではもう 60 年以上、生貝の確実な記録がない。河本・田邊 (1956) は山口県山陽小野田市附近の周防灘にかつて見られた本種に関し、「以前に生貝が採れたが、近時殆ど滅亡した。おそらく彼のハイガイと同様な運命を辿るものと考へられる」と述べ、1950 年代既に絶滅同然であったことがわかる。近年は瀬戸内海や有明海などで著しく古い死殻が散見されるのみのため、日本全体から消滅した可能性が高い。岡山県では文献記録はないが、畠田和一コレクションに「備中〔笠岡市〕飛島」(「s[昭和]19 [=1944].1.1.採集」, 合弁 1 個体, #1830; 写真) 及び「児島湾〔岡山市南区〕松ヶ鼻」(合弁 1 個体, #4530) の標本が含まれ、これら 2 個体とも光沢や靱帯がよく保存され、採集時は生貝もしくは死亡直後であったとみられる。しかも採集年月日が明記されている日本産の本種の標本は少なく、飛島産標本は日本最後の確実な生貝の記録に相当するかもしれない。加えて、「備中〔倉敷市玉島〕黒崎村」産の「アツカガミ (未成殻?) 黒田〔徳米〕氏同定品」とラベルされた微小な幼貝 (合弁 2 個体, #2112) も現存し、1950 年代以前の岡山県ではまだ本種の再生産が続いていた証拠と見なされる。しかしそれ以降は消息が完全に途絶え、岡山県で絶滅したことは確実である。本種は戦後の大規模な海岸開発や水質汚染などがなされる以前に衰退傾向を示していたため、人為的な環境攪乱だけが絶滅に至った要因ではなかろう。ただし、干潟の消失や水質悪化などが減少に拍車をかけ、絶滅を早めたとも考えられる。

(瀬尾友樹・福田 宏)

ウラカガミ

Dosinia corrugata (Reeve, 1850)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Reeve (1850a: sp. 24, pl. 4, fig. 24, as *Artemis Corrugata*) で, Fischer-Piette & Delmas (1967: 74–75, text-fig. 7, pl. 13, figs 1–3) 及び Higo *et al.* (2001: 178, fig. B1215, as *Phacosoma corrugata*) がシントタイプを図示している。平瀬信 (1934: 18, pl. 32, fig. 2) は本種の学名に *Dosinia angulosa* (Philippi, 1847 in 1842–1850: 229, pl. 5, fig. 1, as *Cytherea* (*A.*) *angulosa*) を用い、波部 (1951d: 168, fig. 350; 1961a: 132, pl. 59, fig. 18) もこれを踏襲した。しかし後に波部 (1961a) の第2刷以降 (Dec. 1962; as *D.* (*Dosinella*) *penicilla* [sic] or *penicillata*: Callomon & Petit, 2004: 52 を参照) は本種の大きさや輪廓、輪脈の形状が *D. angulosa* と異なることから、*D. penicillata* (Reeve, 1850a: sp. 32, pl. 6, figs 32, 36, as *A. penicillata*) に同定し直し、*D. angulosa* は台湾以南に分布するタイワンウラカガミとして区別した。また Kafanov & Lutaenko (1997: 150–151, figs 1, 2D–F) も *D. penicillata* のシントタイプ画像を公表するとともに、ロシア沿海州と岡山県産個体を検討し、両者を *D. penicillata* と結論付けている。一方、Fischer-Piette & Delmas (1967) は *D. corrugata* のシントタイプを検討し、殻が顕著に角張って正方形に近付くという本種の形態とよく一致する特徴を挙げた上で、日本の個体を *D. corrugata* に同定した。Kuroda & Habe (1981: 161–162, as *Dosinella corrugata*) も *D. penicillata* を *D. corrugata* の新参異名とし、さらに岩川 (1916: app. 16, no. 530, as *Dosinia* (= *Artemis*) *traillii*) によって本種とされていた *D. traillii* A. Adams, 1856a: 223–224, no. 12 をも異名に含めた。その後は本種の有効名を *D. corrugata* とする著者 (Higo *et al.*, 1999: 508, no. B1215; 木村昭, 2012: 149, text-fig.), *D. angulosa* とする著者 (松隈, 2017: 1246, pl. 541, fig. 9), *D. penicillata* とする著者 (Lutaenko, 2014: 64–65, no. 34) が存在し、混乱が生じているが、ここでは *D. corrugata* とする意見を採用する。また *D. penicillata* 及び *D. traillii* についても、暫定的に双方を独立種とみなす見解 (MolluscaBase, 2019) に従う。別名スガタミ。殻長・殻高とも約 50 mm、殻は角張った亜円形で、本属としては薄く、膨らみは弱い。殻頂はやや前方に寄り、前背縁は短く、下方に強く伸び、後背縁は長くてわずかに彎曲し、ほとんど下降せずほぼ直線状となる。腹縁は彎曲するが後端が裁断状となるためやや角張る。殻表は淡褐色で光沢があり、細かい輪肋を等間隔で密に並べ、中央部では平滑だが前・後縁に近付くにつれ立ち上がる。輪脈と交叉するように不規則な細かい放射状の彫刻が入り、特に殻中央部では明瞭に見える。強い光沢のある茶褐色の薄い殻皮を被るが、ほとんど剥落している場合も多い。内面は白色で、前閉殻筋痕は矢尻形、後閉殻筋痕は馬蹄形となる。套線罅入は大きくて深く、先端部は丸みを帯びる。小月面のくぼみは浅く、引き伸ばされた心形となり、盾面は不明瞭。鉸歯は3個の主歯を持ち、右殻の前・中主歯はほぼ等大、後主歯は強い。軟体はベージュ色で、入・出水管は長く、大部分は癒合するが先端はわずかに分離する。水管口は黒色 (木村昭, 2012 に生体写真あり)。

写真： 備中〔浅口市寄島町〕安倉，古川田溝コレクション，福井市自然史博物館 FKC6004，福田撮影。殻長 52.4 mm，殻高 49.4 mm。



分布 タイプ産地は「—?」(不詳)である。陸奥湾を北限として本州・四国・九州に分布し、日本海側では能登半島以西の七尾湾・舞鶴湾など内湾域から報告されている (岩川, 1916; 宮地・増井, 1942: 12; G. Yamamoto & Habe, 1959: 95–96, no. 69, pl. 7, fig. 17; both as *Dosinia angulosa*; 佐々木猛・上野, 2005: 72, as *Dosinella angulosa*; 松隈, 2017)。沖縄本島からも産出が知られるが (名和, 2011: 106, as *Dosinella angulosa*)、これは浚渫砂から採集されたもので、これまで現生個体は確認されていない (黒田, 1960; 名和, 2009)。国外ではビョートル大帝湾を北限として韓国、中国まで分布する (Golikov & Scarlato, 1967: 108, pl. 11, fig. 3, as *Dosinia angulosa*; 関他, 2004: 465, fig. 1530–1–3; 徐・張, 2008: 239, fig. 756)。黄海以南に分布するとされることもあるが (庄, 2001: 153–156; 徐・張, 2008: 239; Huber, 2010: 414, text-fig.)、最近中国大陸沿岸の個体を対象に行われた分子系統解析では、北部 (黄海) には *Dosinia corrugata* が、南部 (海南島) には *Dosinia angulosa* のみが分布することが示唆されており (Chen *et al.*, 2011)、本種の分布域は日本から黄海周辺に限定される可能性がある。ただし木村昭 (2014: 238) は韓国の個体が日本の個体よりも小型で薄質であることを指摘し、両者が同種であるか疑問を示しており、本種には改めて詳細な分類学的な検討が必要である。

生息状況 大規模な内湾奥の軟泥干潟下部から潮下帯に棲息する。かつては東京湾、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、八代海など各地に見られたが、近年急速な衰退傾向に転じ、1990年代末まで多産していた天草諸島でも短期間でことごとく消滅した。21世紀に入ってから生貝の確認例は、2008年の名古屋港沖の1例しかない (木村昭, 2012)。岡山県は本来本種の多産地の一つで、1930年代に県内の貝類方言をまとめた桂 (1932: 28, fig. 28) が当時「小田郡笠岡町」(現・笠岡市) で「シラカイ」と呼ばれていた種として描いた絵は、紛れもなく本種である。また古川田溝と山本愛三がそれぞれ蒐集したコレクションには「備中〔浅口市寄島町〕安倉」、「寄島町」産の標本が含まれる (窪田, 1962: 156, no. 2219, as *Dosinia* (*Dosinella*) *angulosa*, 写真; 高田, 2014: 44, as *Dosinella angulosa*)。畠田和一コレクションにも「備中〔笠岡市〕金浦村」(1個体, #4528), 「〔岡山市東区〕犬島」(1個体, #4529), 「児島湾〔玉野市〕八濱町地先 干拓地べ切内側泥揚場採集」(「1952.6.3.」, 化石1個体, #6845) が現存し、これら全てが合弁で、1950年代ごろまでは特に稀少ではなかったと推測される。しかしその後は、ドレッジ等を用いても著しく古い半片や破片がわずかに得られるのみで、生貝はおろか合弁死殻すら一切見出されていない。児島湾・笠岡湾の干拓や水質汚染などに起因する干潟の消失と環境悪化によって、1960年代以降の早い時期に絶滅したと考えられる。

(瀬尾友樹・福田 宏)

タマカガミ

Dosinia subalata E.A. Smith, 1916

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は E.A. Smith (1916: 17, pl. 1, figs 11–13)。平瀬信 (1934: 117, pl. 31, fig. 6, as *Dosinia (Dosiniscia) subalata*) は国内で初めて本種を図示したが、その際の和名はヒノデカガミであった。他方、和名タマカガミは瀧巖 (1938: 33, no. 468) が広島県の個体を *Dosinia (Dosiniscia) orbiculata* Dunker, 1877: 69, no. 9 (Dunker, 1882: 204–205, pl. 8, figs 12–14 に図示) に同定し、新称したものである (ただし瀧が命名する以前に、岩川 (1916: app. 16, no. 533) が *Dosinia orbiculata* に対して和名ヒメカガミを使用している)。その後波部 (1951b: 169) は *D. subalata* を *D. orbiculata* の異名としたが、大山 (1961a: 290–292, figs 5–8) は波部の見解を否定し、*D. subalata* と *D. orbiculata* を形態的にも生態的にも区別できる別種とみなした。また大山は *D. subalata* をヒノデカガミと呼ばず、当時本種を指す名称として広く使われていたタマカガミを用い、*D. orbiculata* にはオトヒメカガミを新称した (ヒメカガミを使用しなかった理由は不明)。大山の見解に従えば黒田他 (1971: 650–651 (和文), 421 (英文), pl. 120, figs 17–18, as *Dosinella subalata*) の図示個体は *Dosinia* sp. カガミガイ近似種の誤同定であり、奥谷他 (1989: 153, no. 133, text-fig.) と松隈 (2000: 1011, pl. 503, fig. 41; 2017: 1246, pl. 541, fig. 7) の図示個体はともにオトヒメカガミである可能性が高い。一方、目八譜 (武藏, 1843: vol. 3, no. 79, 中・下段) を和名の出典とするヒメカガミは、その図を見る限り本種と近似する。しかし、平瀬信 (1934: 117, pl. 31, fig. 7) と黒田 (1954a: 12) はヒメカガミとして明らかに本種と異なる種を挙げ、その際に用いられた学名の *D. pubescens* (Philippi, 1847 in 1842–1850: Bd. 3, 24, no. 3, *Cytherea* pl. 8, fig. 3, as *Cytherea (Artemis) pubescens*) も *D. japonica* (Reeve, 1850) カガミガイに似た別種である。加えて、和名ヒメカガミを初期に用いた岩川 (1916) も *D. orbiculata* を用いていることから、本種とは異なる種を指していた可能性がある。このため和名ヒメカガミを本種に対して用いることは避ける。また *D. amphidesmoides* (Reeve, 1850a: sp. 48, pl. 8, fig. 48a–b, as *Artemis Amphidesmoides*) ウスカガミは *D. subalata* に酷似するが、両者はそれぞれ独立種とみなされているため (Fischer-Piette & Delmas, 1967: 80; Huber, 2010: 416, text-figs), ここではその意見に従う。さらに Huber (2010: CD) は波部 (1961a: 131, pl. 59, fig. 9) の *D. amphidesmoides* を本種の異名としていることから、本州～九州でウスカガミとされてきた種には本種が混同されていた可能性が高い。この通り本種は分類が甚だしく混乱しており、今後の詳細な検討が必要である。殻長約 21 mm, 殻高約 20 mm, わずかに横に長い類円形, 薄く、やや膨らむ。殻頂はほぼ中央に位置し、弱く前に傾く。前端は丸みが強く、後端はやや角張るものの顕著ではない。前背縁は短く、ほぼ水平で、後背縁はわずかに彎曲して緩やかに下降する。腹縁は強く彎曲する。殻表は非常に細かい輪肋を密に等間隔で並べ、前・後背縁でもほとんど立ち上がらない。鈍い光沢があり、白色から淡い黄色、殻頂部は橙色から桃色に彩られ、個体によっては殻頂部に黄色の放射彩が入るが、全く模様を欠く個体も存在する。内面は殻頂部の模様が明瞭に見え、前閉殻筋痕は引き伸ばされて矢尻形、後閉殻筋痕は半月形となる。套線彎入は深く、頂点は殻長の 2/3 近くに達し、その先端部は丸みが強い。小月面は浅くくぼみ、心形。盾面は不明瞭で、弱く翼状に立ち上がる。歯板は前・中主歯側が広く、やや張り出す。鉸歯は 3 主歯あり、右殻の後主歯は明瞭に二分される。軟体は白色で、水管は長く、大部分は癒着するが先端部はやや分離する。

写真： 備中 [笠岡市] 白石島, 畠田和一コレクション #1655, 福田撮影。殻長 24.0 mm, 殻高 22.8 mm。



分布 タイプ産地は「Port Galera, a small bay almost completely landlocked, on the north coast of Mindoro, opposite the town of Batangas, on the island of Luzon」(フィリピン・ミンドロ島北岸, バタンガス対岸プエルトガレラのほぼ陸封された小さな湾)。房総半島を北限として本州, 四国, 九州から記録がある (河本・田邊, 1956: 75, no. 899; 東, 1960: 84, no. 1428; 波部・菊池泰, 1960: 22, no. 173; 池田美・多田武, 1963: 45, no. 1004; 高橋・岡本, 1969: 76, no. 810; all as *Dosinia (Dosiniscia) orbiculata*; 村岡, 1972: 165, no. 3325; 松本幸, 1979: 106, no. 1786, as *D. (Dosinella) subalata*; Kuroda & Habe, 1981: 162; 清水利, 2001: 132–133, no. 2715; 池辺・吉田, 2006: 129, no. 4474; 竹之内, 2007: 21, all as *Dosinella subalata*)。瀬戸内海では前述の瀧巖 (1938) による広島県に加え、香川県でも記録がある (畠山, 1977: 5)。琉球列島からの明確な報告はないが、「沖縄島国頭佐手沖」産の未同定種として図示された個体 (名和, 2010: 108, pl. 7, fig. 60, as *Dosinia* sp. 6) は本種に近似する。国外は韓国から知られ (関他, 2004: 465, fig. 1532-1-2, as *Pardosinia amphidesmoides*)、タイプ産地であるフィリピンでは近年も確認されている (Poppe, 2011: 304, pl. 1147, figs 3–4, as *Dosinia cretacea*)。

生息状況 産出記録自体が少なく棲息実態は不明瞭であるが、主として外洋水の影響が強く、潮通しのよい内湾湾口部潮下帯の砂泥底または砂底に棲むとみられる。稀に死殻が砂浜に打ち上げられたり、浚渫砂泥中に含まれているが、分類上の位置づけや棲息状況が今なおほとんど把握されないままの種であり、絶滅すると様々な観点で取り返しがつかない。岡山県では畠田和一コレクション中の「備中 [笠岡市] 白石島」(半片 3 個, #1655, 写真; 「ヒノデカガミ 黒田 [徳米] 氏同定」, 合弁 1 個体, #7073), 「備前 [瀬戸内市] 牛窓」(「ヒメカガミ 波部 [忠重] 氏同定 1952.2.」, 合弁 1 個体, #3993), 「[倉敷市] 下津井」(半片 1 個, #5969) の各標本が本種に同定可能である。また窪田 (1962: 156, no. 2222, as *Dosinia (Dosinella) pubescens*) は「備中 [浅口市寄島町] 安倉」産の「ヒメカガミ」を記録しており、これも恐らく畠田が採集・提供した本種と推測される。畠田標本はいずれも砂浜への打ち上げまたは漁屑中から得られた死殻とみられるが、近年の岡山県では破片すら一切確認されておらず、もはや絶滅したと考えられる。畠田が牛窓や白石島での打ち上げ採集や下津井や寄島での漁屑採集で得ている種の多くは、1960 年代以降の水質悪化や海底浚渫などによって県内から姿を消し、本種はその代表例である。

(瀬尾友樹・福田 宏)

ヤタノカガミ

Dosinia troscheli Lischke, 1873

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全齒上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科 マルスダレガイ科 ● 岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ● 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Lischke (1873: 24–25 as *Dosinia Troscheli*) で、後に Lischke (1874: 89, pl. 8, figs 1–3) によって図示された。ホロタイプの写真を Cosel (1998: 29, 47, fig. 32a–b) 及び Higo *et al.* (2001: 178, fig. B1201, as *Phacosoma troscheli*) が公表している。本種は従来、近似種マルヒナガイと混同され、学名 *D. troscheli* はマルヒナガイに用いられてきた。波部 (1977a: 260) は本種とマルヒナガイを別種とみなし、マルヒナガイにそのまま *D. troscheli* を適用して、ヤタノカガミには原稿 (MS) 名 *Phacosoma nipponicum* Habe, MS. を提唱したが、この時は記載文を伴っていないため不適格の裸名 (*nomen nudum*) である。その後、この原稿名が正式に記載されて *P. nipponicum* Okutani & Habe in 奥谷他, 1989: 155, text-fig. が適格名となった。現在もこれらの学名の取り扱いは広く受け入れられているが (e.g. 松隈, 2017: 1246, pl.



541, figs 5–6; MolluscaBase, 2019), その一方で繰り返し指摘されている通り (e.g. 大山, 1990: 164; 土田・黒住, 1996: 5; 福田, 2012: 148, text-figs; 2014: 406), *D. troscheli* のホロタイプはマルヒナガイでなく本種に相当すると考えられ、その名をマルヒナガイに用いるのは誤りである。さらに最近の分子系統解析によると、両者はそれぞれ別の単系統群をなすことから互いに独立種とみなされる (瀬尾, 準備中)。このため *P. nipponicum* は *D. troscheli* の新参異名となると同時に、マルヒナガイはいまだ学名をもたず未記載種のままである可能性が高い。本種は殻長約 67 mm, 殻高約 65 mm, やや横に長い亜円形, 本属としては薄質で、よく膨らむ。殻頂はわずかに前方に位置し、強く前に傾く。前端は多少角張って後端は尖る。腹縁は彎曲して丸い。殻表は鈍い光沢があり、極めて細かい輪肋を密に等間隔で並べ、前・後縁に近づくにつれ立ち上がり、盾面付近で棘状となる。淡黄褐色または淡赤褐色の地に淡褐色の放射帯を数本持つが、全く欠く個体もある。内面は白色で、前閉殻筋痕は傘形、後閉殻筋痕は馬蹄形。套線彎入は深くて殻の中央まで達し、その頂点は細まって尖る。小月面は灰色で深くくぼみ、盾面は彩色されず、明瞭に突出する。鉸歯は右殻の後主歯と左殻の中主歯がそれぞれ二分する。本種はやや横長となること、輪肋がより細かいこと、小月面が彩色されない (マルヒナガイでは褐色となる) ことでマルヒナガイと区別が可能である。軟体はベージュ色で、水管口は黒色。入・出水管は長く、癒合して先端はほとんど分離しない。

写真： 玉野市沼 出崎海水浴場, 2011年5月18日, OKCAB M22091, 福田撮影。殻長 35.3 mm, 殻高 32.0 mm。

分布 タイプ産地は「von einem nicht näher bezeichneten Küstenpunkte des südlichen Japan」(南日本沿岸の不特定な一地点)。新参異名である *Phacosoma nipponicum* は「渥美外海」から記載された。本州 (千葉県以南) から九州に分布する (清水利, 2001: 132, no. 2707, as *P. troscheli*; 福田, 2014; 松隈, 2017)。韓国濟州島からの記録 (関他, 2004: 465, fig. 1528-1–3; Le *et al.*, 2010: 44; both as *P. troscheli*) はいずれもマルヒナガイの誤同定であり、本種が実際に韓国に分布しているかは不明である。中国から本種として報告されている種 (庄, 2001: 140–141, fig. 85; 徐・張, 2008: 236, 237, fig. 747) は、日本産の個体と比較して成長脈が粗く、横長にならないことから別種の可能性があり、検討が必要である。福田 (2014) で指摘されている通り、本種は近似種マルヒナガイと現在でも混同されることが多く、分布域の詳細はいまだ明確でない。

生息状況 上記の通り正確な同定に基づく記録が少ないため棲息状況も不明な点が多いが、わずかな採集例に基づいて言えば、本種は内湾砂泥底の潮間帯下部から潮下帯にかけて産し、特にアモ場周辺で複数回確認されている。死殻は時折砂浜に打ち上げられる。瀬戸内海では福田 (2010a: 391, text-fig.; 2012, 2014) が岡山県玉野市と山口県山口市秋穂町尻川での産出を公表した。岡山県ではそれら以外に、畠田和コレクションに含まれる以下の2ロットが本種に同定可能である：「備前 [倉敷市] 下津井」(合弁1個体, #1832), 「備中辻島沖 [詳細不明, 誤記か?]」(合弁1個体, #1801)。しかし近年の県内で目にするのはほとんどが古い半片死殻で、生貝もいまだ確認されていない。ただし、玉野市沼では左右の殻の殻頂部だけが靱帯で繋がって残った破片が打ち上げ採集で得られた (2011年, OKCAB M22091, ここには同時に採集されたやや古い半片死殻を図示する)。これは恐らくカラッパ類に捕食された残骸とみられ、大破している割には摩滅や光沢の消失は見られないため、直前までその付近で生きていた可能性が高い。しかし県内での本種の棲息を期待させる材料は、現時点でこの破片1個だけである。マルヒナガイは現在も時折真新しい合弁死殻が砂浜に打ち上げられているのと対照的で、本種は後種よりも環境攪乱に弱いか、もともと棲息環境の嗜好が限定される可能性がある。もしその通りなら、現在の岡山県周辺のどこかに本種の個体群が現存するとしても、狭い範囲にごく少数個体のみで構成されていると推測される。近隣他県での状況も不明で、周防灘を除く瀬戸内海全域で強い衰退傾向にあるのかもしれない。

(瀬尾友樹・福田 宏)

チヂミガイ

Lajonkairia divaricata (Lischke, 1872)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録が存在するが、その後確認されず現状不明。絶滅した可能性もある。

形態 原記載は Lischke (1872: 108–109, as *Lucinopsis divaricata*) で、のちに Lischke (1874: 90–91, pl. 7, figs 12–14) に図示された。Cosel (1998: 27, 45) によればタイプ標本は再発見されていない。殻長約 20 mm, 殻高約 17 mm, 類円形, 薄質, 無色無紋で半透明, よく膨らむ。殻頂はほぼ中央にあつて前傾する。前・後端ともに丸くて単純, 腹縁は直線的か緩く彎曲する。殻表は成長脈のほか, 細かく分岐する放射状彫刻を密に刻み, 生時は砂粒を疎らに付着させる。内面は白色で鈍い光沢があり, 套線彎入は大きく, 三角形をなす。閉殻筋痕は前後とも楕円形。歯板は狭く, 鉸歯は右殻に 2 個, 左殻に 3 個の小さい主歯からなり, 側歯はない。軟体は未詳。本種は最近まで *Petricolidae* d'Orbigny, 1840 イワホリガイ科に属すとされてきたが, この科は近年の分子系統解析や解剖学的形質の再検討がなされた結果, *Veneridae* Rafinesque, 1815 マルスダレガイ科の亜科とするのが妥当とされ (Mikkelsen *et al.*, 2006; Bieler *et al.*, 2010: 130; 2014), 今回もそれに倣った。

分布 タイプ産地は「Bucht von Jedo, und zwar von Jokohama bis hinaus zur Insel Eno-Sima」(江戸湾, より厳密に言えば横浜から江ノ島外周までの間)。東京湾は現時点で本種の太平洋側の分布北限である。千葉県市原市市東では更新世の瀬又層から化石の産出が報告されている (Yokoyama, 1922: 145, no. 228, pl. 10, fig. 7, as *Lucinopsis divaricata*)。日本海側の最北の記録は新潟県佐渡 (黒田, 1957: 31, no. 454)。既知の代表的な産地を挙げると, 相模湾 (堀越他, 1963: 130), 神奈川県横須賀市笠島 (黒田他, 1971: 664 (和文), 432 (英文), pl. 120, fig. 20), 駿河湾 (波部他, 1986: 35), 和歌山市水軒 (Habe, 1951b: 95, no. 1, pl. 15, figs 1–3; 村岡, 1972: 168, no. 3396; 波部・増田, 1990: 108, no. 1770), 同県田辺 (竹之内, 2007: 24), 同県串本町橋杭 (池辺・吉田, 2006: 130, no. 4524), 兵庫県淡路島福良 (岩川, 1915: app. 74, no. 403; 1919: 285; both *Luc. divaricata*), 岡山県笠岡市六島と愛媛県今治市伯方島 (稲葉, 1982: 64, no. 297), 広島県呉市阿賀南 (濱村, 2004: 162, text-figs), 山口県柳井湾 (河本・田邊, 1956: 77, no. 922), 同県萩市菊ヶ浜・下関市豊北町阿川・同市彦島西山 (筆者採集, OKCAB M14213, M12536, M12188), 高知県沖ノ島・柏島・足摺岬沖周辺 (東, 1960: 87, no. 1464a), 福岡県玄界灘 (高橋・岡本, 1969: 78, no. 838), 大分県佐伯市蒲江元猿 (濱田, 2008: 84, no. 2069, pl. 84, fig. B1271), 長崎県西海市大瀬戸町 (堀川, 1964: 73, no. 1118), 熊本県天草 (Oyama, 1973: 106, pl. 39, figs 12a–c), 鹿児島県奄美大島笠利湾手花部 (名和, 2008a: 35, no. 275, pl. 13, fig. 11), 沖縄島那覇市大嶺干潟 (名和, 2009: 71, no. 568, pl. 16, fig. 7; 現時点の南限) など。国外から報告されたことはなく, 今のところ日本固有種と呼ぶことが可能である。

生息状況 イワホリガイ亜科の大半の属は泥岩などに穿孔するが, 本種を含む *Lajonkairia* Deshayes, 1854 の種は砂底や砂泥底に棲息する。本種は内湾湾口部で海水の入れ替わりが盛んな場所の潮下帯 (水深 5–30 m) において清浄な砂底に見られ, 砂浜に時折死殻が打ち上げられる。これまでさほど注目されてこなかったが (都道府県のレッドリストでは本県の前版のほか, 千葉県環境生活部自然保護課 (2019) が「最重要保護生物」としているのみ), 近年の産出記録はごく少なく, 全国的に危機的状況に陥っている可能性が高く, 今後は保全対象とみなすべきである。棲息地の環境条件を考えると恐らく水質・底質の悪化 (富栄養化・還元化など) に弱く, 汚水の流入や海岸線的人為的変更に起因する潮流の停滞などによって個体群は容易に崩壊すると思われる。海底の大規模な浚渫が本種へ悪影響を与えるであろうことはいままでもない。岡山県では上記稲葉 (1982) による「Mushima 笠岡市六島」が唯一の文献記録である。稲葉は同書中でムラクモハマグリも六島から記録しており, それら 2 種の記録は同時に採集された標本に基づいていた可能性がある。六島を含む笠岡諸島南端周辺は瀬戸内海中央部としては例外的に潮の流れが速く, 外洋的な環境が存在するため, 確かに本種やムラクモハマグリは産出しそうな場所である。しかしムラクモハマグリは近年瀬戸内市で死殻が見出されたものの (同種の項を参照), 本種はいまだに再発見されない。1950 年代以前の岡山県には湾口部の潮通しのよい場所に特異的な種や純然たる外洋性種が豊富に産出し, それらの多くが高度経済成長期以後に減んだことが島田和一コレクションを構成する種の顔ぶれから明らかであるため, 本種も同様に当時の笠岡諸島など県内の一部の海域に棲息し, そして絶滅してしまった可能性がある。現時点では岡山県産の実物を確認していないため今回は情報不足とするが, 改めて県内各地での精査が必要である。

(福田 宏)

オキアサリ

Macridiscus multifarius Kong, Matsukuma & Lutaenko in Kong, Matsukuma, Hayashi, Takada & Li, 2012

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されたのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 和名オキアサリは目八譜（武蔵, 1843: vol. 1, sp. 24）が出典で、ナミアソビというさらに古い名もあり（大和本草；貝原, 1709: vol. 14），江戸時代には既に認知されていた種にもかかわらず，Kong *et al.* (2012: 4–6, fig. 1A–I) によってようやく新種記載された。それ以前は長らく *Donax veneriformis* Lamarck, 1818: 548, no. 10 に同定されてきたが，この種は波部 (1979: 216) が指摘した通り *Donacidae* Fleming, 1828 フジノハナガイ科に属し，マダガスカル産で日本には分布しない。また本種と一見類似する *Macridiscus aequilatera* (Sowerby I, 1825: 12, no. 228, as *Donax aequilatera*) (Kong *et al.* が有効名とした *Gomphina Melanaeigis* Römer, 1860: 157–158 は無効) コタマガイと同種と見なされたり (e.g. Kuroda & Habe, 1981: 165, as *G. (M.) aequilatera*)，後種との間で雑種が生じる可能性まで指摘されたが (田中, 1979: 61–65, figs 2D–I, 3B, as *G. veneriformis*)，Kong *et al.* によれば両者は殻 (特に套線彎入) の形態でも分子系統解析によっても明確に異なる種として識別できる。さらに中国南部以南で本種に同定されてきたものは別種 *M. donacinus* (Megerle von Mühlfeld, 1811: 56, as *Trigona Donacina*) (Kong *et al.* が用いた *Venus semicancellata* Koch in Philippi, 1843 in 1842–1850: 40, no. 2, pl. 1, figs 2–3 は無効) である (Lutaenko, 2001: この論文は本種群に関する歴代の異名の各原記載に付せられた図を忠実に再現して一堂に並べておりわかりやすい。本種への言及部分は 469–471, text-figs 1A, 4, 5; pl. 2, figs 1–4, 7; pl. 3, figs 5–8; pl. 4, figs 1–4, as *G. (M.) sp.* (“*aequilatera*” auct.)). なお Huber (2015: 763–764) は Kong *et al.* (2012) のコタマガイ及び *M. donacinus* の学名の扱いに誤りや古参名の見落としがあると指摘し，上記 3 種に対するより適切な同定を提示しているののでここではその見解を支持する。殻長約 33 mm，殻高約 25 mm，三角形で厚く不透明，膨らみは弱い。殻頂はほぼ中央にあり，前・後背縁とも直線的，前端は丸く，後端はやや尖り，腹縁はゆるく彎曲する。殻表は成長脈のほかは平滑で，鈍い光沢がある。白色の地に濃褐色の放射帯を 3 本走らせる個体が典型的であるが，斑紋や色彩は著しく変異に富み，ジグザグ模様や多数の斑点をもつ個体もある。内面は白または淡黄色で光沢があり，套線は明瞭に彎入するがその頂点は殻の中央まで達しない (*M. donacinus* は彎入がより深く，頂点が中央を超える。コタマガイは本種よりさらに彎入が浅い)。閉殻筋痕は前後ともほぼ同大で雫形。腹縁は刻まれない。小月面と楕面はそれぞれ細長い。靱帯は外在し，後位で明瞭。歯板は三角形で広く，両殻とも 3 個ずつ強い主歯をもち，右殻の中・後主歯と左殻の前・中主歯は明瞭に二又する。側歯はない。軟体は白色，水管は太い管状で長く伸長し，先端に淡褐色の微細な触手列を冠する。

写真：岡山市東区古新田干拓地地先 水門湾湾口部 ドレッジ St. 7, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24616, 福田撮影。殻長 6.4 mm，殻高 4.2 mm。



分布 タイプ産地は「Daxinjia, Haiyang, Yantai, Shandong Province, China」(中国山東省煙台市の海陽市大辛家)。原記載では「Niigata and southward in Sea of Japan; Boso Peninsula and southward to Kyushu along Pacific coast of Japan; Peter the Great Bay in Russia; Korean Peninsula; Liaoning to Jiangsu on north coast of China」(日本海側は新潟以南，太平洋側は房総半島以南，ロシアのピョートル大帝湾，朝鮮半島，中国北部の遼東～江蘇省) に分布するとされた。文献上には北海道からの記録もあるが (「石狩望来」：八田・佐々木望, 1910: 97, no. 85, as *Gomphina melanaeigis*; 「余市」：窪田, 1962: 157, no. 2238, as *G. (Macridiscus) veneriformis*; 「後志支庁白老町」：村岡・内藤, 1991: 161, no. 1507, as *G. (M.) aequilatera*)，コタマガイと混同されている可能性もあり標本の再検討が必要である。また台湾からの記録 (横山, 1931: 10, no. 323, as *G. aequilatera*; Kuroda, 1941: 165, no. 1345, as *G. (M.) aequilatera*; 村岡, 1972: 166–167, no. 3356, as *G. (M.) veneriformis*) は全て *M. donacinus* であろう。

生息状況 外洋に面し，透明度の高い海水が穏やかに寄せ返す清浄な細砂の浜で潮間帯中部～潮下帯 (水深約 50 m まで) に棲息する。特に日本海南西部では多く，潮干狩りで採集して食用に供する地域もある。その一方で千葉県では近年になって激減し，「最重要保護生物」の一つとされている (千葉県環境生活部自然保護課, 2019; 29)。その棲息環境から判断して汚水流出が引き起こす富栄養化や還元化に弱いと推測され，護岸・埋め立て・干拓など海岸線の人工的改変も本種の棲息地を直接的に奪うため，千葉県での危機的状況は決して特殊例ではない。大きな内湾である瀬戸内海ではもともと稀産で，稲葉 (1982: 63, no. 285, as *Gomphina (Macridiscus) veneriformis*) は淡路島と伊予灘のみを産地として挙げている。岡山県でも文献記録は存在せず畠田と一コレクションにも含まれていないが，2002 年に岡山市東区の古新田干拓地地先 (水門湾湾口部) で実施されたドレッジによって，水深 1.8 m の泥底から本種の幼貝の半片死殻 1 個 (OKCAB M24616; 写真) が採集された。この個体は光沢が完全に失われて灰色に変色し，腹縁も大きく破損した劣化著しい化石様であるが，本種に特徴的な殻表の褐色の斑点がかるうじて残っている。これまで近隣他県も含めて確認されていなかった本種が，近年になって岡山県で見出されるのは驚くべきで，キュウシュウナミノコやハマチドリが発見 (両種の項を参照) と同等の意義があると思われる。現時点では生貝や真新しい合弁死殻は見出されておらず，もし県内に棲息しているとしてもごく少数が狭い範囲に局限されていると推測されるが，今なお外洋性の種が県外から自然に加入してくる可能性の一端を示すものとして重要であり，県内での産出状況をさらに精査する必要がある。

(福田 宏)

ハマグリ

Meretrix lusoria (Röding, 1798)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Röding (1798: 180, no. 278, as *Venus Lusoria*) で、この名は二語名法適用外の Chemnitz (1782: 337–340, pl. 32, fig. 340) が「*Venus lusoria Japonica* ...」として図示した日本産個体（のちに [Küster], 1841 in 1841–1843: 13–15, no. 5, pl. 1, fig. 6 が同じ図を転載した際は中国産とされた）に対して与えられた。Lamarck (1818: 561, 562, nos 1, 7) が記載した *Cytherea lusoria* と *C. graphica*、及び *Cytheraea* [sic] *formosa* Sowerby II, 1851b: 620, no. 28, pl. 129, fig. 47 は新参異名。1950年代までは大半の文献が *Meretrix meretrix* (Linnaeus, 1758: 686, no. 102, as *Venus Meretrix*) を本種に用いていたが、この名は別種タイワンハマグリに相当する。殻長約 80 mm, 殻高約 65 mm, 丸みを帯びた亜三角形でよく膨らみ、厚く堅牢だが軽く、不透明。殻頂はほぼ中央またはやや前方に寄り、鈍く隆起して前傾する。後背縁は直線的で、後端はやや尖り、腹縁は彎曲する。殻表は象牙質で、成長脈のほかは平滑で光沢が強く、フィルム状の透明な殻皮に覆われる。クリーム色、灰色または茶色の地に紫褐色の放射帯を走らせ、幅の広い八の字模様を呈する個体が典型的であるが、斑紋や色彩は著しく変異に富み、稲妻模様や不規則な斑点をもつ場合もある。内面は白色で光沢があり、部分的に紫に染まることもある。套線彎入は小さくて浅い。閉殻筋痕は前後ともほぼ同大で零形。腹縁は刻まれない。小月面と楕面は不明瞭。靱帯は外在し、後位で大きい。鉸歯は 3 個の強い主歯をもち、後主歯は後方へ伸長する。前側歯は長く明瞭。軟体はパージュ色、水管は長く伸長し、先端に淡褐色の触手列を冠する。足は幅広い三角形で大きい。

写真： [備前市] 和気片上, 畠田和一コレクション #1637, 福田撮影。殻長 59.2 mm, 殻高 48.2 mm。



分布 Röding (1798) の原記載には産地は記されていないが、タイプ標本である Chemnitz (1782) の図示個体は「Japon」産とされている。異名の *Cytherea lusoria* は「les mers du Japon et de la Chine」（日本と中国の海）、*C. graphica* は「l'Océan indien」（インド洋；Huber, 2010: 725 によれば誤り）から記載され、*Cytheraea formosa* は「Locality unknown」（産地不詳）とされた。北海道西南部（函館）が北限で（八田・佐々木望, 1910: 97, no. 77, as *Meretrix meretrix*; 黒田・木下虎, 1951: 27, no. 448, as *M. m. lusoria*; 波部・伊藤潔, 1965: 137, pl. 46, fig. 1）、太平洋・日本海側とも九州まで分布する。沖縄からも記録はあるが（黒田, 1960: 65, no. 1866, as *M. meretrix*）、沖縄島と八重山諸島にはそれぞれ未記載の別種キルンとトゥドゥマリハマグリが産し（久保, 2017: 425–426, 482, as *M. spp. A–B*）、それらを指すとみられる。国外は朝鮮半島、中国、ベトナムから知られる（權他, 1993: 121, fig. 86-7-1–2; 368, no. 86-7; 関他, 2004: 470, fig. 1549-1–2; 471, no. 1549; Qi, 2004: 306, pl. 166, fig. A; 徐・張, 2008: 250, 251, fig. 793; 張, 2008: 354, text-figs; Huber, 2010: 390, text-fig.; 725; 山下博, 2012: 150, text-figs a–e）。中国では Chen *et al.* (2009: 233–238) が本種のほか *M. petechialis* (Lamarck, 1818) シナハマグリ、タイワンハマグリなどを対象に、ミトコンドリア DNA の COI 遺伝子を用いて系統解析を行った結果、それら全てが同種である可能性に言及しているが、著者らは検討に用いた個体を誤同定していた疑いが濃厚で、Huber (2015: 762–763) は Chen らの論文を酷評している。

生息状況 内湾において河川からの淡水流入がある砂泥干潟中・下部～潮下帯上部に産する。日本の食用貝類の代表例として人口に膾炙した種であるとともに、近年激減して干潟環境の変質と悪化を象徴する存在となつて既に久しい。特に本種の棲息環境は市街地に隣接して存在することが多いため開発や汚染の直撃を受けやすく、1990年代以降には全国各地で個体群の縮小または消滅が次々に伝えられた。例えば相模湾では 1974 年を最後に生貝が確認されず、東京湾では一旦絶滅し、人為的に移入された個体が見られるのみである（池田等他, 2001: 84, text-figs 111–113, pl. 2, fig. 2; 黒住, 2011: 431）。また大陸からの移入種シナハマグリとの交雑による遺伝子攪乱も指摘されている（Torii *et al.*, 2010: 231–240）。瀬戸内海でもかつてはごく普通に見られたが、現在個体群が比較的健全な状態で維持されているのは西部の周防灘などわずかな範囲にとどまる。香川県での近年の調査結果（瀬尾・Tanangonan, 2014: 112, no. 11, pl. 5, fig. 3）によると、「燧灘では死殻が普通に採集され生体も比較的普通に採集されるが、備讃瀬戸では新鮮な死殻及び生体が採集されることはほとんどなかった」とされる。岡山県では桂 (1932: 36, fig. 36) が当時の「浅口郡大島村」（現・笠岡市西大島）で「ヨメノサラ」と呼ばれていた種として、明らかに本種とわかる絵を示している。岡大玉野臨海 (1978: 161) や牛窓臨海（刊行年不詳: 52）の目録にも登載され、戦後しばらくは多産していたと推測される。大垣内 (1968a: 45) も倉敷市塩生のサンドポンプで本種を記録している。畠田和一コレクションには「[備前市] 和気片上」（合弁 1 個体, #1637; 写真）、「[備中高橋] [sic; 梁] 川尻」（合弁 1 個体, #1638）、「[倉敷市] 辻島 [恐らく連島の誤記]」（合弁 1 個体, #1639）、「[笠岡市] 白石島」（「1954.8.20.」, 半片 1 個, #5830）の各標本が含まれる。このうち白石島産以外は全て合弁で光沢もよく保存されており、生貝を採集したものと推測される。しかし 21 世紀に入ってからの 20 年で、岡山県では生貝どころか合弁死殻も一度も見出されておらず、光沢が完全に失われた化石様の半片や破片がわずかに見られるだけである。本種がかつて棲んでいたはずの湾奥部や河口周辺はことごとく埋め立てや護岸あるいは浚渫がなされて干潟が消え、さらに水質の悪化が席捲してハビタットが失われた。本県も東京湾や相模湾などと並び、もはや本種は絶滅したと考えざるを得ない。

(福田 宏)

ミジンシラオガイ

Microcirce dilecta (Gould, 1861)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由 県内では死殻が見出されるのみで棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Gould (1861: 32, as *Gouldia dilecta*)。タイプ標本の写真を Johnson (1964: 68, pl. 29, fig. 4, as *G. dilecta*) と Higo *et al.* (2001: 176, fig. B1154) が公表している。新参異名である *Meretrix gordonis* Yokoyama, 1927a: 429–430, no. 62, pl. 48, figs 13–14 の原記載の 2 つの図のうち fig. 14 は本種であるが, fig. 13 は *Eolepton crassa* (Yokoyama, 1927) コデマリガイ (アツエリキスガイ) である (Nomura & Hatai, 1935: 13, no. 53, as *Lioconcha gordonis*; Is. Taki & Oyama, 1954: 42, pl. 45, fig. 14; Oyama, 1973: 101, pl. 45, fig. 7a–b; both as *Microcirce gordonis*)。殻長約 4 mm, 殻高約 3.5 mm, 丸みを帯びた三角形でやや厚く, 無色で不透明, 多少膨らむ。殻頂はほぼ中央にあつて前傾する。殻表は鈍い光沢を帯び, 低い成長輪肋をほぼ等間隔に並べ, 前・後部に弱い放射肋をもつ個体もある。小月面は長くて大きい。内面は白色で, 套線はほとんど彎入しないものの後方で直線的となる。閉殻筋痕は前後とも大きく楕円形。腹縁内側は刻まれない。鉸歯は右・左殻とも 3 個の明瞭な主歯が殻頂の直下に並び, それらの前方へ前側歯が細長く伸びてその中央は溝状に窪む。主歯の後の背縁内側も肥厚する。軟体は未詳。*Meretrix gordonis* は *Microcirce* Habe, 1951d: 160, figs 358–360 のタイプ種 (原指定; Oliver & Zuschin, 2001: 219–224, figs 15a–d, 16a–c を参照)。

写真: 岡山市南区米崎沖 水深 5.2 m 泥底 ドレッジ St. 6, 2002 年 9 月 18 日, OKCAB M24569, 福田撮影。左: 殻長 2.8 mm, 殻高 3.1 mm。右: 殻長 2.3 mm, 殻高 2.3 mm。



分布 タイプ産地は「Kagosima」(鹿児島)。異名である *Meretrix gordonis* の産地は原記載では「Kuruma-chô and Shinagawa」とされたが前者はコデマリガイで, 本種に相当するのは後者の東京都品川 (後期更新世東京層の化石) である。分布の北限は北海道函館 (黒田・木下虎, 1951: 27, no. 451; 石山, 1970: 167, 182–183; both as *Microcirce gordonis*) で, 太平洋・日本海両側とも東北 (岩手・新潟両県) から九州まで点々と記録がある。国外では長らく知られていなかったが, 近年エジプトの Safaga 湾など紅海で相次いで産出が報告されたことから, インド-太平洋に広く分布する可能性が示唆されている (Dekker & Orlin, 2000: 15, no. 31; Oliver & Zuschin, 2001; Edelman-Furstenberg & Faershtein, 2010: 11, 40, 42, pl. 11, fig. 84a–b)。

生息状況 潮下帯から漸深海底 (水深 10–300 m; 黒田他, 1971: 641 (和文), 414 (英文), pl. 120, figs 13–14) の砂泥底に産するが, 浜辺に死殻が打ち上げられることは滅多になく, 浚渫された砂に混在しているのをたまに見る程度で, さもなくばドレッジや採泥器などを用いない限り採集は困難である。しかし実際には内湾の浅海底に多産し, 三河湾では湾口部に特に多く見られるという (延原他, 1991: 19, 20, 29–32; 1992: 97, 112; 恩田他, 2008: 28–44, fig. 7-22a–b)。瀬戸内海でも稲葉 (1982: 59–60, no. 250) は全域に「普通」とした。岡山県では文献記録はなく, 畠田和一コレクションにも含まれていないが, 2002・2014 年に玉野市・岡山市・瀬戸内市牛窓町沖合の潮下帯 (水深 5.2–21.6 m, 底質は泥底・砂底・貝殻混じり礫底とさまざま) で実施されたドレッジによって多数の死殻が得られている (OKCAB M24244, M24341, M24569; 写真)。しかしそれらはことごとく古い半片で, 生貝や合弁死殻は全く見出されていない。本種は微小でしかも採集が容易でないためかこれまであまり注目されることがなく, 2019 年時点でレッドリストに取り上げているのは千葉県環境生活部自然保護課 (2019: 29, no. 831) のみである。しかし少なくとも内湾の個体群は, 近年の環境悪化によって全国的に危機的状況に瀕している可能性が高く, 岡山県でもかつて存在した個体群の大半が既に消滅したと考えられる。

(福田 宏)

サツマアカガイ

Paphia amabilis (Philippi, 1847)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ● 岡山県：絶滅 ● 環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Philippi (1847: 90–91, no. 26, as *Venus amabilis*) で、翌年 Philippi (1848 in 1842–1850: 75–76, no. 2, *Venus* pl. 7, fig. 2) に図示された。殻長約 80 mm, 殻高約 50 mm, 横長の卵楕円形で厚く堅固、やや膨らみ、殻頂はほぼ中央にあってわずかに前傾する。前後端ともに丸く、腹縁は緩やかに彎曲する。殻表は細く明瞭に角張った輪肋を規則的かつ密にそなえ、その肋間は狭く深い溝となり、明るい赤褐色の地に黒色の破線状放射帯を殻頂から腹縁へ数本走らせるとともに、不規則なジグザグの紋様も現れる。内面は白く、套線は浅く彎入する。絞歯は右殻の中・後主歯と左殻の前・中主歯がそれぞれ二分する。小月面は狭く長い。軟体は赤味を帯び、特に足は鮮やかな朱色。入水管・出水管ともに太くて長く、多数の白斑を散らす(松隈, 2017: 1247, pl. 543, fig. 2; 高重, 2019: 314, 315, text-figs に生体写真あり)。



写真：「深砥小学校」, 1957年9月, 畠田和一コレクション #7413, 福田撮影。殻長 90.2 mm, 殻高 52.6 mm。

分布 タイプ産地は「Patriam...」(産地不詳)。太平洋側は房総半島以南、日本海側は男鹿半島以南、沖縄、朝鮮半島、中国福建省・広東省・海南島・台湾、ミャンマーのメルギー諸島、オーストラリアまで分布するとされる (Römer, 1870 in 1864–1872: 25–26, no. 6; 115, pl. 7, fig. 1, 1a–b; pl. 38, fig. 3; Martens, 1887: 213, no. 362; Kuroda, 1941: 165, no. 1351; 鈴木庄, 1979: 231, no. 438; Bernard *et al.*, 1993: 83; 関他, 2004: 466, fig. 1539-1–2; 467, no. 1539; Qi, 2004: 313–314, pl. 170, fig. E; 松隈, 2017)。ただし中国南部から本種として図示された個体 (e.g. 楊他, 2013: 228, 229, fig. 865; 王他, 2016: 154, no. 438, text-figs) には明らかに異なる種が混ざっている。Fischer-Piette & Métivier (1971: 44–45, no. 33, pl. 9, fig. 13) は日本周辺以外に本種が分布しているとの断定を回避し、Huber (2010: 421, text-fig.) も分布域に日本のみを挙げているため、国外のどこまで本種の分布域が広がっているかはなおも検討の余地がある。

生息状況 太平洋や日本海といった外洋に面した海岸の潮間帯下部から潮下帯の砂底に棲息し、九州西岸の長崎県平戸島などでは潮干狩りで生貝が採れる(福田・川内野, 未発表) 一方で、相模湾では水深 75 m から生貝が得られた記録がある(黒田他, 1971: 653 (和文), 424 (英文), pl. 92, fig. 1)。内湾で見られることはほとんどなく、瀬戸内海産軟体動物の全種を目録にまとめた稲葉 (1982) にも本種は掲載されていない。岡山県でも文献記録はなかったが、畠田和一コレクションには「1957.9」に「深砥小学校」から譲り受けたとされる県内産の半片 1 個 (#7413; 写真) が含まれている。岡山県での本種の産出は意外であるが、1950年代までの本県ではダンバイキサゴ、ズングリアゲマキ、ヒシガイ、ユキノアシタ、ワスレガイなど、外洋水の影響の強い海域でなければ産出しがたい種群も採集されていたことが畠田標本から明らかであり、これらの種の顔ぶれと併せて考えれば本種が県内で産したとしても不思議はない。しかし上記の各種はいずれも現在の岡山県では棲息を確認できず、畠田和一が 1965 年に歿したのちに到来した高度経済成長期の埋め立て・干拓・護岸・海底浚渫など開発と水質悪化によって、全て絶滅したと考えられる。本種もそれらの諸種と同様、岡山県ではもともと少数で構成されていた個体群が、1960年代以降の人為的環境改変によって消滅したのであろう。

(福田 宏)

スダレガイ

Paphia euglypta (Philippi, 1847)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Philippi (1847: 89, no. 24, as *Venus euglypta*) で、翌年 Philippi (1848 in 1842–1850: 76, no. 3, *Venus* pl. 7, fig. 3) に図示された。また Römer (1870 in 1864–1872: 26–27, no. 7, pl. 8, fig. 1, 1a–b, as *Venus* (*Tapes*: sectio *Textrix*) *euglypta*) や Lischke (1874: 80–82, pl. 6, figs 8–11, as *Tapes euglyptus*) も「Nagasaki」(長崎)産の見事な図を披露している。一方、Fischer-Piette & Métivier (1971: 43–44, no. 32) は Philippi の図と Römer, Lischke による図とが大きさや前後端の彎曲の度合いなどにおいて一致しないと考え (Oyama, 1973: 105–106, pl. 48, figs 6a–b も同様の疑義を呈している)、Lischke の長崎産個体を新種 *Paphia lischkei* として記載し、区別した。その後は本種の有効名を *P. euglypta* とする著者 (e.g. Huber, 2010: 422, text-fig.) と、*P. lischkei* とする著者 (e.g. 松隈, 2017: 1247, pl. 542, fig. 10) がともに存在するが、ここでは前者の見解を採用した。また Oyama (1973) は、横浜市栄区長沼の前期更新世長沼層から産出した化石 (Yokoyama, 1920: 126, no. 156, pl. 9, fig. 7a–b, as *Tapes amabilis*) をもとに記載された *Paphia naganumana* Otuka, 1937b: 1008, footnote 25 を、本種の亜種と位置付けるべきものかもしれないとしている。殻長約 90 mm, 殻高約 55 mm, 前種サツマアカガイに似るがさらに厚く、膨らみは弱い。殻頂はやや突出し、腹縁前端の彎曲は前種より顕著。殻表の輪肋はより太くてレール状を呈し、肋間は肋の 1/3～半分程度で、細かい網代模様で彩られる。光沢が強く、前種より多少暗い海老茶色の地に、濃褐色の太い破線状放射帯を殻頂から腹縁へ数本走らせる。套線、鉸歯、軟体は前種とほぼ同様。

写真： [浅口市] 寄島, 畠田和一コレクション #1864, 福田撮影。殻長 72.8 mm, 殻高 44.6 mm。



分布 タイプ産地は「Patriam ignoro」(産地不詳)。*Paphia lischkei* は上記の通り Lischke の図示個体に対して与えられた名なので、タイプ産地はその個体の産地である「Nagasaki」となる。北海道北西部以南、九州までと朝鮮半島、中国浙江・福建・広東の各省と海南島及び南沙群島、ベトナムまで産出が知られている (波部・伊藤潔, 1965: 135, pl. 45, fig. 7; 權他, 1993: 119, fig. 86-4-1–2; 367; Thach, 2002: 50; 関他, 2004: 467, fig. 1537-1–2; Qi, 2004: 313, pl. 170, fig. B; Huber, 2010; 楊他, 2013: 228, fig. 866; 松隈, 2017)。

生息状況 最近 50 年間に刊行された本種に関する文献の大半が、一様に本種は「水深 10～40 m」の砂底に棲むとしており、これは黒田他 (1971: 652 (和文), 423 (英文), pl. 92, fig. 2) での記述に倣ったものとみられる。しかし黒田らは同時に相模湾の「甘鯛場観音塚出し北 (水深 75 m)」から「生貝」を記録しており、実際には少なくとも 75 m 前後までは棲息するらしい。サツマアカガイが外洋に産するのに対し本種は外洋と内湾にまたがって見られ、瀬戸内海においても稲葉 (1982: 63, no. 281) は「普通」(ただし中央部の備讃瀬戸や備後灘・燧灘周辺では「少ない」としている。1980 年代前半頃までは周防灘に面した山口県周南市徳山や宇部市などで、鮮魚店の店頭で次種オオスダレとともに頻りに生貝が並び、食用として売られていた (福田, 1992: 92, no. 563, pl. 37, fig. 563)。広島県芸南地方では近年も本種とオオスダレの生貝が底引きで得られているなど (濱村, 2004: 167, text-fig., as *Paphia lischkei*)、他県では特段の減少傾向が指摘されたことはない。ただし香川県では瀬尾・Tanangonan (2014: 112, no. 103) が 2009–2013 年の調査において「ほとんど見られない」とし、「主に浚渫砂から採集された。潮下帯での生息状況は不明である」とも述べている。実のところ岡山県では香川県よりはるかに稀少化しており、今世紀に入ってから極端に褪色・摩滅した半片死殻が笠岡港の漁屑から数個得られたのみで (この状況はミクリガイ、マクラガイなどと同様である)、現在の本県内に個体群が維持されていると判断できる状態にない。本種はサツマアカガイのようにもともと岡山県に少なかったわけではなく、それどころか畠田 (1935: 232, no. 22) は本種が「小田郡 [現・笠岡市] 北木島村飛島」で地元住民に「アカガヒ」という方言で呼ばれていたことを記録しており、当時は少なくとも笠岡諸島周辺では方言が定着する程度には人目につく普通種であったと考えられる。畠田和一コレクションにも「[浅口市] 寄島」産 (「1956.12.2」採集, 1 個体, #1694; 「昭和 35 [= 1960].12.4」採集, 3 個体, #2562; 採集日不詳, 1 個体, #1864; 写真), 「[笠岡市] 白石島」産 (1 個体, #1865), 及び詳細産地無記入ながら県内産であることは明らかな 1 個体 (#4438) が現存し、それらすべてが殻表の光沢や靱帯も残された合弁であり、採集時は生貝であったことは疑いがなく。さらに岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録にも本種は含まれている。したがって 1960 年代頃までは瀬戸内海に面する他の県と同様、岡山県でも本種が普通に見られたのは明らかであるが、その後の埋め立て・干拓・護岸・海底浚渫・水質悪化などによって短期間で急減し、もはや県内の海域に生き残っているかどうか危ぶまれる状態である。それらの要因のうちでも特に砂を採取する目的でなされた海底浚渫が潮下帯の環境状態を一変させ、本種とオオスダレの個体群存続を妨げた可能性が高い。現在の本県で、本種と同じ *Paphia Röding*, 1798 スダレガイ属に属す種で生貝が確認されるのは *P. vernicosa* (Gould, 1861) アケガイ 1 種のみである。

(福田 宏)

オオスダレ

Paphia schnelliana (Dunker, 1865)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 原記載は Dunker (1865 in 1858–1878: 75, no. 82, pl. 25, figs 7–9, as *Tapes Schnellianus*)。最近 50 年間では記載年を「1866」としている文献が圧倒的多数で、さもなくば「1862」としているが、正しくは 1865 年刊行である (Coan & Kabat, 2018: 31–32)。殻長約 100 mm、殻高約 65 mm、前種スダレガイに似るがより大きく、膨らみが強く、多少薄い。殻頂は突出し、腹縁前端的の彎曲はスダレガイよりさらに顕著で、後背縁の傾斜はより急となる。殻表の輪肋は細くて低く、肋間は狭い。前種より淡色で、濃褐色の太い破線状放射帯に加え、ジグザグの模様を示す個体もある。套線彎入はスダレガイやサツマアカガイに似るが、やや斜め上方へ傾く。鉸歯、軟体は前 2 種とほぼ同様。

写真： 備中〔浅口市寄島町〕安倉，畠田和一コレクション #1861，福田撮影。殻長 109.1 mm，殻高 66.0 mm。



分布 タイプ産地は「Nangasaki」(長崎)。太平洋側の最北の記録は岩手県大槌湾 (土田・黒住, 1996: 7, 及び戸羽, 2009: 95, fig. 95 が「*Paphia lischkei* スダレガイ」として図示した 3 個体のうち左上の個体が本種。スダレガイは中央の個体のみで、右下はアケガイ), 日本海側は山形県 (鈴木庄, 1979: 230–231, no. 437, pl. 14, fig. 199) で、同県では「きわめて普通」という。南は九州までと朝鮮半島 (関他, 2004: 467, fig. 1538-1–2; ただしこれに先立って権他, 1993: 120, fig. 86-5-1–3; 367 が本種として図示した個体はアケガイの誤同定) に分布する。さらに南方では、「l'île Pratas」(プラタス諸島=東沙諸島) 産の標本が存在するとの報告がある (Fischer-Piette & Métivier, 1971: 38, no. 26) もの、近年本種としてフィリピン産個体を図示した Springsteen & Leobrera (1986: 298, pl. 85, fig. 3) や、福建・広東・広西各省と台湾・海南島・フィリピン・オーストラリアまで本種が分布するとした張 (2008: 349, text-figs) と楊他 (2013: 228, fig. 866)、さらに浙江省の南麂島以南と南沙諸島に本種が産するとした鄭他 (2013: 494, text-figs) の図示個体は、いずれも殻長 59–75 mm と本種より小ぶりの割に厚く、輪肋もより明瞭で、色彩も藁色に近い淡色であることから明らかに本種とは異なる種である (中国産の一部は *Paphia kreipli* Huber, 2010: 422, text-figs であろう)。したがって中国南部より南方に本種が分布するかどうかはいまだ不明瞭で、日本本土～朝鮮半島周辺固有種の可能性もある。

生息状況 スダレガイとともに外洋と内湾を問わず潮下帯以深の砂底に棲息し、多くの文献は水深 100 m まで見られるとしている。確かに鈴木庄 (1979) は山形県鼠ヶ関沖の「150 m」でも採集したと記しているが、それが生貝か死殻かは明記されていない。瀬戸内海においてはスダレガイよりも少ないとされ (稲葉, 1982: 63, no. 282)、これは 1980 年代頃の山口県周防灘沿岸でも同様で、本種はスダレガイの中に時折混ざっているのを目にする程度であった。広島県芸南地方での近年の産出状況は、スダレガイと比して特に差異があるようには記されていない (濱村, 2004: 167, text-fig.)、他県では特段の減少傾向が指摘されたことはない。ただし香川県では瀬尾・Tanangonan (2014) による 2009–2013 年の調査において記録されおらず、スダレガイより減少傾向が激しい可能性がある。岡山県ではそもそも過去の文献記録がなく、畠田和一コレクションに含まれる「備中〔浅口市寄島町〕安倉」産の合弁 1 個体 (#1861; 写真) が唯一の産出の証拠である。この個体は殻表の光沢や韌帯がよく保存された完全品であり採集時は生貝であったと考えられるので、その時代には県内に棲息していたことが確実である。しかしそれ以降は死殻すらも全く見出されず、スダレガイと同様の人為的な要因によって、前種に先んじて完全に県内から絶滅したか、そうでなくとも容易に目に触れないほど甚だしく稀少化していることは疑いを容れる余地がない。

(福田 宏)

ムラクモハマグリ

Pitar inflatus (Sowerby II, 1851)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 本種に対する最古参名は *Cytherea modesta* Philippi, 1845 in 1842–1850: 198, no. 3, pl. 3 [“Tab. II” on plate], fig. 3 であるが、この名は *C. modesta* Broderip & Sowerby I, 1835: 47 の新参一次同名で無効。次に古い *Cytheraea* [sic] *inflata* Sowerby II, 1851b: 637, no. 89, pl. 133, figs 127–128 が有効となる。*Dione Philippii* Deshayes, 1853 in 1853–1854: 72, no. 55 及び *Pitar* (*Pitarina*) *variegatum* [sic] Kuroda & Habe in 黒田他, 1971: 643–644 (和文), 416 (英文), pl. 90, figs 13–14 (後者は Higo *et al.*, 2001: 176, fig. B1168s がホロタイプを再図示している) は新参異名。本種は国内の大半の著者が *Pitar affinis* (Gmelin, 1791: 3278, as *Venus affinis*) (タイプ産地は「insula S. Mauritii」=モーリシヤス) に同定してきたが、その種はインド洋南西部に固有で、殻が著しく膨らむ別種である (Huber, 2010: 401, text-figs)。殻長約 40 mm, 殻高約 35 mm, 前後に長い卵楕円形であるが成長に従って殻長に対する殻高の割合が大きくなり、老成個体では類円形に近づく。やや薄く不透明、よく膨らむ。殻頂は前傾して盛り上がる。殻表は鈍い光沢を帯び、弱い成長脈と不規則な刻点以外は平滑で、淡黄色の地に明るい赤褐色の不連続な放射色帯を並べる。生時は殻表に石灰を沈着させる。内面は白色で、套線彎入は深く、丸味のある三角形。歯板は明らかで、鉸歯は強い 3 個の主歯と前側歯からなる。小月面は広く明瞭で、細い溝で縁取られる。軟体は未詳。

写真： 瀬戸内市牛窓町黄島南西沖 水深 13 m ドレッジ St. 5, 2014 年 1 月 27 日, OKCAB M28993, 福田撮影。殻長 21.6 mm, 殻高 16.3 mm。



分布 無効となった *Cytherea modesta* 及び *Dione Philippii* のタイプ産地はいずれも「Insulae Philippinae」(フィリピン)で、有効名である *Cytheraea inflata* は「Moluccas; also St. Nicholas, Island of Zebu, Philippines」(インドネシアのモルッカ諸島、及びフィリピン・セブ島のサン・ニコラス) から記載された。*Pitar* (*Pitarina*) *variegatum* のタイプ産地は「相模湾」。太平洋側は岩手県三陸海岸以南 (石山, 1973: 519, table 1, as *Pitar affinis*; 戸羽, 2009: 93, fig. 87, as *Pitar* (*Pitarina*) *variegatus*)、日本海側は男鹿半島以南 (鈴木庄, 1979: 228–229, no. 426, as *Pitar* (*Pitarina*) *affine* [sic])、九州までと南西諸島 (黒田, 1960: 65, no. 1872, as *Pitar affine* [sic]) に知られ、国外は朝鮮半島、中国海南島、台湾、フィリピン、インドネシア、オーストラリア北部まで分布する (Lamprell & Whitehead, 1992: pl. 67, fig. 514, as *Pitar* (*Pitarina*) *affinis*; 関他, 2004: 461–463, fig. 1520-1–2, as *Pitar* (*Pitarina*) *affine* [sic]; 徐・張, 2008: 230, 231, fig. 731, as *pitar* [sic] *affine* [sic]; Huber, 2010: 399, text-figs; 731; Poppe, 2011: 288, pl. 1139, figs 9–11, as *Pitar affinis*; 290, pl. 1140, figs 7–8, as *Pitar variegatum* [sic])。

生息状況 主に外洋の潮下帯～漸深海底 (水深約 20～300 m) の礫・貝殻混じりの砂底に棲む種で、内湾においては湾口部や島嶼間などに限られる。このため瀬戸内海では稀で、豊後水道北端 (大分県姫島、山口県上関町～柳井市周辺など) での記録が散見される程度であるが (稲葉, 1982: 61, no. 262, as *Pitar* (*Pitarina*) *affine* [sic]; 保阪, 1994: 2, pl. 1, fig. 9, as *Pitar* (*Pitarina*) [sic] *japonicus*; Fukuda *et al.*, 2000: 149, 191, no. 177, figs 171, 20g, as *Callocardia guttata* A. Adams, 1864 オフクハマグリ [誤同定]), 上記の稲葉 (1982) は「Mushima 笠岡市六島」もチヂミガイとともに産地に挙げており、これが今日に至るまで岡山県での唯一の文献記録である。畠田和一コレクションにも含まれていないが、2014 年 1 月、瀬戸内市牛窓町黄島南西沖 (水深 13 m, 貝殻混じり砂礫底) で実施されたドレッジによって半片 1 個 (OKCAB M28993; 写真) が得られ、少なくとも過去には確かに岡山県内に棲息していたと判明した。しかしこの個体は著しく古く、最近まで生きていたとは到底思われないため、現在もその周辺に個体群が維持されていることへの直接的な証拠にはならない。かつて存在した個体群は高度経済成長期以後の水質悪化や海底浚渫などによって死滅し、その時代までの死殻が今もわずかに海底に残っていて、それが採集された可能性がある。今後改めて調査を重ねた上で、なおも生貝が見出されないようであれば絶滅カテゴリに移さざるをえなくなるであろう。

(福田 宏)

イワウハマグリ

Pitar sulfureus Pilsbry, 1904

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Pilsbry (1904b: 553–554, pl. 39, figs 7–9, as *Pitar sulfurea* [sic]) で、シタイプの写真が Higo *et al.* (2001: 177, fig. 1169) に示されている。これまで本種の種小名は *sulfurea*, *sulfureum* など様々な語尾で記されてきたが、*Pitar* Römer, 1857 の性は男性であり (MolluscaBase, 2019), *sulfureus* とするのが正しい。また *sulfrea*, *sulfreum*, *sulfreus* はいずれも誤綴。殻長約 30 mm, 殻高約 23 mm, 亜三角形で厚く不透明、よく膨らむ。殻頂は前傾する。生時は殻表全体に砂を付着させる。殻表は細かい成長輪肋を密に刻み、若い個体では鮮やかな檸檬色または淡橙色だが老成するとくすんで灰白色に近づく。内面も殻表と同様檸檬色で、套線はやや深く彎入し、丸い。歯板が広く、鉸歯は強い 3 個の主歯と前側歯からなる。小月面は溝で区切られ、ハート形で広い。軟体はベージュ色で、入水管・出水管ともに長さは中庸で細く、表面に黒斑を散在する (木村昭, 2012: 152, text-figs; 木村昭・木村妙, 2013: 56, fig. 250a–b; 179 に生体写真あり)。

写真： 備前 [瀬戸内市] 長島, 畠田和一コレクション #1630, 福田撮影, 殻長 22.7 mm, 殻高 20.4 mm。



分布 タイプ産地は「Fukura, Awaji」(兵庫県淡路島南あわじ市福良)。太平洋側は房総半島以南、日本海側は男鹿半島以南、南西諸島、台湾、中国南部まで分布するとされる (Kuroda, 1941: 163, no. 1318, as *Pitaria (Pitarina) sulfurea*; 黒田, 1960: 65, no. 1873, as *Pitar sulfureum*; 波部, 1977a: 257, as *Pitar (Pitarina) sulfreum*; 鈴木庄, 1979: 229, no. 427, as *Pitar (Pitarina) sulfureum*; 久保, 1995: 201, fig. 3, as *Pitar sulfreum*; Qi, 2004: 299, pl. 163, fig. B, as *Pitar sulfureum*; 楊他, 2013: 230, 231, fig. 881, as *Pitar sulfureum*; 王他, 2016: 147, no. 419, text-figs, as *Pitar sulfureum*)。朝鮮半島でも記録はあるが、関他 (2004: 463, fig. 1521-1-3, as *Pitar (Pitarina) sulfureum*) が本種として図示した個体は *Pelecypora* Dall, 1902 カガミハマグリ属の種であり本種ではない。また Huber (2010: 400, text-fig.) や松隈 (2017: 1244, pl. 540, fig. 1) は本種がオーストラリアまで分布するとしているが、Lamprell & Whitehead (1992: pl. 68, fig. 532, as *Pitar (Pitarina) sulfureum*) が「New South Wales to central Queensland」産の本種として図示した個体は日本産よりもはるかに膨らみが弱く、同種であるか疑わしい。

生息状況 暖流の影響を強く受ける海域の内湾奥部において、砂礫混じりの泥干潟潮間帯に棲息し、*Cerithium corallium* Kiener, 1841 コゲツノブエ, *Anomalodiscus squamosus* (Linnaeus, 1758) シオヤガイ, ケマンガイなどと随伴することが多い。同様の貝類群集はもともと西日本～南西諸島に限られていた上に、戦後の干潟の消失とともに急速に産地が狭められ、一部の内湾に不連続的に残存するのみとなった。本種もその代表例で、木村昭 (2012) によれば現在の生存個体群の東限は三重県英虞湾であり、そこより東ではもはや生貝は見られない。瀬戸内海ではタイプ産地の淡路島福良が記載当初から代表的な産地として広く知られ、矢倉 (1932: 12, no. 144, as *Pitar [(Pitarina)] sulfurea* イワウハマグリ) は兵庫県の「攝津 播磨 淡路」、瀧巖 (1938: 32, no. 456, as *Pitaria (Pitarina) sulfurea* イワウハマグリ) は広島県の「備後灘」、河本・田邊 (1956: 74, no. 885, as *Pitar (Pitarina) sulfureum*) は山口県の「瀬戸内海」沿岸からそれぞれ記録しているが、近年の瀬戸内海での産出記録は皆無で、ことごとく絶滅したものと考えられる。愛媛県でも 1951 年に御荘湾で採集された生貝を最後に死殻しか見られなくなり、もはや絶滅したと結論づけられている (石川裕, 2014, as *Pitar sulfureum*)。岡山県では高田 (2014: 46–47, as *Pitar sulfreum*) が西宮市貝類館所蔵山本愛三コレクションに「岡山市長岡」産 (この地名は現在の同市中区長岡を指すとすればそこは海に面しておらず、表記が正しいか検討が必要) の 2 個体が含まれることを示し、これが現時点で唯一の文献記録であるが、畠田和一コレクションにも「備前 [瀬戸内市] 長島」産の合弁 6 個体 (「黒田 [徳米] 氏同定」, #1630; 写真) が含まれ、それらは殻色も韌帯もよく保存されていることから採集時は生貝であった可能性が高い。長島周辺の島嶼部は海岸線が複雑で小規模な入り江が多数存在し、その一部は砂泥干潟も形成されているため、畠田和一が活躍していた当時は同様の場所に本種の個体群があったものと推測されるが、現在は古い半片や破片すらも全く見出されず、恐らくは高度経済成長期の水質汚染によって一掃されたものとみられる。本種はシラオガイなどと同様潮間帯に産するため比較的目につきやすい種であり、もし今も棲息していたら見出されているはずで、全く確認されないのはもはや完全に絶滅してしまったからと考えられる。

(福田 宏)

ワスレガイ

Sunetta menstrualis (Menke, 1843)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Menke (1843: 43, no. 246, *Cytherea vaginalis* Menke, 1843 の備考中, as *C. menstrualis*)。これより早く記載された *C. excavata* Hanley, 1843 (Jan.): 123 (のちに Hanley, 1844 in 1842–1856: pl. 15, fig. 19 に図示) も本種であるが、この名は *C. excavata* S.G. Morton, 1834: 67, pl. 5, fig. 1 の新参一次同名で無効。*Meroë magnifica* Reeve, 1864: sp. 2, pl. 1, fig. 2a–b は新参異名。別名イイビツガイ。殻長・殻高とも約 70 mm に達し、世界の *Sunetta* Link, 1807 ワスレガイ属の中でも最大級の大きさをもつ。殻は亜円形で厚く堅牢、不透明、膨らみは弱く扁平に近い。殻頂はほぼ中央にあつて多少突出する。背縁の楕面が長く、両殻間に深い裂け目状に窪み、その中に靱帯が位置する。殻表は鈍い光沢があり、微細な成長脈以外は平滑で、赤みがあった紫褐色～白色の地に不明瞭な放射帯を走らせ、それらが成長脈で切られて不連続な紋様となる。内面は白色で、套線は小さく彎入し、前後の筋痕とその周囲は紫色に彩られる。腹縁内側は細かく刻まれる。鉸歯は主歯と長い前側歯からなり、そのうち左殻の後主歯は長くて薄く、右殻の主歯の上に溝がある。軟体はベージュ色で、入水管・出水管ともに長さは中庸 (高重, 2019: 312, 313, text-figs に生体写真あり)。

写真： 備前〔瀬戸内市〕牛窓，畠田和一コレクション #1917，福田撮影。殻長 43.4 mm，殻高 36.4 mm。



分布 タイプ産地は明記されていないが、同時に記載された *Cytherea vaginalis* が「Novae Hollandiae」の「ad litus occidentale」(オーストラリア西方の海岸)産であることから、本種がオーストラリアまで分布するという誤解をもたらしてしまった。Huber (2010: 395, text-fig.; 727, as *Sunetta* (*Sunemeroe*) *menstrualis*) が指摘している通り本種ほど大形となる *Sunetta* の種は日本周辺以外から知られておらず、南半球の産地は単なる誤りで、Huber は *C. menstrualis* のタイプ産地を改めて「Honshu, Ibaraki Pref.」(茨城県)と指定しなおした。*C. excavata* は「—?」(不詳)、*Meroë magnifica* は「Japan」からそれぞれ記載された。Lamprell & Whitehead (1992: pl. 66, fig. 511) は「*Meroe* [sic] *excavata*」を西オーストラリア州南部・タスマニア・ヴィクトリア州に分布する *Sunetta vaginalis* (Menke, 1843) の異名としているが、これも誤りである。また本種の分布域は Abbott & Dance (波部・奥谷, 監修・訳, 1985: 358, text-fig., as *Cyclosunetta menstrualis*) が「常磐以南」として以来、近年の松隈 (2017: 1249, pl. 544, fig. 8, as *Cyclosunetta menstrualis*) まで同様の表記が踏襲されているが、それ以前に Schrenck (1867: 538–539, no. 142, as *Venus* (*Sunetta*) *vaginalis*) が「aus der Bai von Hakodate」(北海道函館湾)から本種を記録し、波部・伊藤潔 (1965: 134, pl. 45, fig. 2, as *Cyclosunetta menstrualis*) に至るまで多数の著者が北海道での産出記録を引用してきた歴史が完全に忘れ去られている。一方、日本海側では Oyama (1973: 102, pl. 44, figs 1a–b, 2a–b, 3a–b, as *Sunetta* (*Cyclosunetta*) *menstrualis*) によれば河本・田邊 (1956: 74, no. 890, as *Sunetta* (*Cyclosunetta*) *menstrualis*) による「〔山口県長門市〕青海島」が最北の記録である (ただしその証拠標本は山口県立山口博物館の河本卓介コレクション中には現存しない)。南西諸島からの記録はない。国外では朝鮮半島 (權他, 1993: 125, fig. 86-18-1-2; 371, no. 86-18; 閔他, 2004: 468, fig. 1548-1-2; 469, no. 1548; both as *Cyclosunetta menstrualis*) と中国山東省日照市 (Rizhao, Shandong Province; Qi, 2004: 303, pl. 165, fig. H, as *Cyclosunetta menstrualis*) から知られる。結局本種は日本 (北海道南部・本州・四国・九州の太平洋岸と東シナ海沿岸) から韓国・中国山東省までの固有種であり、分布域全体の面積は決して広くない。

生息状況 外洋に面した長距離に渡る砂浜の潮間帯下部～潮下帯にダンベイキサゴや *Meretrix lamarckii* Deshayes, 1853 チョウセンハマグリなどとともに見られることが多く、常磐～外房地方や遠州灘沿岸などでは現在も多産するが、日本海側では極めて稀である。また上記の通り古くから産出が知られていた北海道南部からは近年全く記録がなく、分布域全体としては縮小傾向にあるかもしれない。瀬戸内海でももともと少なく、特に中央部では稲葉 (1982: 60, no. 252, as *Cyclosunetta menstrualis*) も「稀」としており、近年の確実な産出例は知られていない。岡山県では岡大玉野臨海 (1978: 161) の目録に和名が登載されているのが唯一の文献記録であるが、畠田和一コレクション中にも「備前〔瀬戸内市〕牛窓」産の合弁1個体 (#1917; 写真) が含まれている。この個体は光沢や色彩、靱帯もよく保存された完品で、採集時は生貝であった可能性が高いことから、1960年代以前には岡山県内にも本種の個体群が確かに存在していたものと推測される。しかし現在の岡山県の海岸環境を見る限り、当時の県内のどこにどのように本種が棲息していたのか、もはや想像することすら困難である。高度経済成長期の環境悪化によって県内の貝類群集の多様性が損なわれた際に、ダンベイキサゴ、ズングリアゲマキ、ユキノアシタ、サツマアカガイなど主に太平洋岸に産する外洋性種ともども、本種も岡山県から完全に絶滅したものと考えられる。

(福田 宏)

ベニワスレ

Sunetta sp.

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全齒上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 本州・四国・九州に産する殻長 20~25 mm 程度のワスレガイ類にはシマワスレとベニワスレの 2 種があり、前者は殻の膨らみが弱くて楕面の窪みが浅いのに対し、後者は膨らみが強く楕面は深く窪む点で識別できる (吉良, 1950: (6)69–(7)70; 波部, 1952c: 24(106)–26(108); 黒田, 1956b: 7(99)–10(102))。吉良 (1959: 146–147, pl. 57, figs 14–15) はシマワスレを *Sunetta concinna* Dunker, 1865 in 1858–1878: 74, no. 81, pl. 25, figs 4–6, as *S. (Meroë) concinna*, ベニワスレを *S. solanderii* (Gray, 1825: 137, as *Cytherea Solanderii*) とそれぞれ同定し、のちの版では後種の学名を *S. subquadrata* (Sowerby II, 1851a: 610–611, no. 6, pl. 126, fig. 9) に改めた。その後の波部 (1977a: 272, pl. 56, fig. 5) や Kuroda & Habe (1981: 167) はシマワスレを *Cyclosunetta concinna*, ベニワスレを *Sunettina solanderii* とし、この扱いは近年の松隈 (2017: 1249, pl. 544, fig. 9; pl. 545, fig. 1) まで続いている。ところが Huber (2010: 394–395, text-figs; 727–728) は、吉良のいうシマワスレは *S. concinna* ではないとして新名 *S. (Sunemeroe) kirai* Huber, 2010 を与え、同時に *S. solanderii* と *S. subquadrata* を図示した。Huber の見解に従えば確かに *S. concinna* (インドネシア~フィリピンに分布する) は日本に産するどの種とも大きく異なり、そればかりか *S. solanderii* (パキスタン~インドにかけてのインド洋産) と *S. subquadrata* (北西オーストラリア産) もシマワスレとベニワスレのいずれにも合致しない。このためシマワスレは *S. kirai* と呼びうるとしても、ベニワスレは現時点で適切な学名をもたないことになる。岡山県で見出されている個体は全てベニワスレに相当するので以下の形態記載は同種について記すが (鹿児島県薩摩川内市下甕島手打産シマワスレを比較に用いた)、本種は未記載種の可能性もあり今後さらに検討を進める必要がある。殻長約 24 mm, 殻高約 19 mm, 卵円形で厚く堅牢, 不透明, 強く膨らむ。殻頂はほぼ中央に位置して前傾し、ほとんど突出せず鈍い (シマワスレは尖って小さく突出する)。前背縁はやや窪む (シマワスレは窪まず直線的)。後背縁の楕面は長く、両殻間で深く幅広い溝状に窪み (シマワスレではごく浅い)、その中に短い靱帯が位置する。殻表は淡黄褐色の殻皮で覆われ、鈍い光沢があり、微細な成長脈以外は平滑で、白地に赤紫色の放射状色帯を多数走らせるが、ジグザグ模様を呈する個体もある。内面は白色で、套線は小さく彎入する。腹縁内側は細かく刻まれる。鉸歯は強い主歯と長く低い前側歯からなり、左殻の後主歯は長く低い。軟体は未詳。

写真: 備前 [倉敷市] 下津井, 畠田和一コレクション #1911, 福田撮影。殻長 21.9 mm, 殻高 18.0 mm。

分布 波部 (1952c) はシマワスレ (*Sunetta (Cyclosunetta?) concinna*) が「本州, 九州, 種子島, アンボイナ」に、ベニワスレ (*S. (Sunettina) solanderii* [sic]) は「瀬戸内海, 九州, 種子島, 支那」に分布するとした。黒田 (1956b) は前種 (*S. concinna*) が「屋久島・種子島, 印度洋, Moluccas」, 後種 (*S. subquadrata*) が「瀬戸内海, 北九州?」に産するとしている。一方で稲葉 (1982: 60, nos 253–254, as *C. concinna*, *Sunettina solanderii*) は両種ともに瀬戸内海に産するとしたが、シマワスレは畠山・矢野 (1979: 10) の記録を引用したのみで「稀」とした。ベニワスレは広島県下蒲刈町と三原市, 山口県柳井市でも記録がある (河本・田邊, 1956: 72, no. 889, as *S. (Cyclosunetta) subquadrata*; 濱村, 2004: 166, text-fig., as *C. solanderii*)。ただし近年の瀬尾・Tanangonan (2014: 112, no. 110, as *C. concinna*) は香川県沖の浚渫砂からシマワスレのみを報告しており、瀬戸内海での両種の産出状況は再検討を要する。中国の文献にもベニワスレ・シマワスレに一致する (もしくは近似する) 個体が図示されている (Qi, 2004: 303–304, pl. 165, figs E–F; 徐・張, 2008: 248, 249, fig. 788; both as *Cyclosunetta concinna*, *Sunettina solanderii*)。なおベニワスレ・シマワスレという和名はいずれも Kuroda (1941: 163, nos 1323–1324, as *S. (Sunettina) solandri* [sic], *S. truncata*) によって台湾産個体を対象に命名されたが、現在日本でそれらの和名で呼ばれている種が台湾にも産するか否かは現時点で定かでない。

生息状況 ワスレガイ類は総じて外洋または湾口の清浄な砂底に産し、瀬戸内海においても同様に島嶼間など潮流の比較的速い場所の潮下帯に棲息していたものと推測されるが、現時点では情報が少なすぎるため実際の状況は詳らかでない。岡山県では文献記録は皆無ながら、畠田和一コレクション中に「備前 [倉敷市] 下津井」産の 2 ロット (すべて合弁で 3 個体と 1 個体, #1911, #3995; 写真) が現存し、ともに「吉良哲明氏同定品 1950。」とラベルにある。その全個体が殻皮, 光沢, 色彩, 靱帯とも良好な状態に保存されているため採集時は生貝であったと考えられ、恐らくは下津井漁港の漁屑から得られたものであろう。しかしこれ以降、岡山県では半片死殻や破片の 1 個たりとも見出されたことはなく、1950 年代以前に上記の標本が得られていたこと自体が大きな驚きである。ワスレガイなどと同様、県内のどこにどのように本種が棲息していたのか、今となっては想像することすら難しい。高度経済成長期の水質汚染, 海底浚渫などによって本種は完全に絶滅したと考えられる。

(福田 宏)

カノコアサリ

Timoclea marica (Linnaeus, 1758)

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 マルスダレガイ上科 マルスダレガイ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由 過去に県内で産出したことを示す標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅またはそれに近い状態にあると考えられる。

形態 Linnaeus (1758: 685, no. 92, as *Venus Marica*) の原記載は「*testa subcordata decussatim striata, pube lamellosa*」(殻はハート形に近く彫刻は布目状、辺縁は襞状)とわずか6語のみで、先行文献の図への引用もなくタイプ標本も現存しないが、ほぼ同時代の Chemnitz (1782: 292–294, pl. 27, figs 282–286, 二語名法適用外) や、のちの Sowerby II (1853: 719, no. 47, pl. 157, figs 107–110, as *V. marica*), Reeve (1863 in 1863–1864: sp. 104, pl. 22, fig. 104a–c, as *V. Marica*) の図をもとに今日まで同定されてきた。しかし Dodge (1952: 88–89, as *V. marica*) はそれらの図と Linnaeus が記載時に用いた個体が本当に同種か疑義を呈しており、この問題は今も未解決のままである。もし *V. marica* がカノコアサリでないなら本種の有効名は近年もっぱら新参異名とされてきた *Leucoma* [sic] *japonica* Kira, 1954: 115, 163 (as *Leukoma japonica* [sic]), pl. 57, fig. 17 (シタイプは大阪市立自然史博物館に現存: 竹之内, 2007: 21, as *Glycydonta marica*) となるが、当面はとりあえず慣用法に従う。別名カノコガイ、ニシキアサリ、チヂミニシキアサリ、チヂミカノコアサリ、チリメンカノコアサリ (誤用)。殻長約 20 mm, 殻高約 16 mm, 三角形で厚く不透明, 多少膨らむ。殻頂はほぼ中央にあり, 前・後背縁とも直線的, 腹縁はゆるく彎曲する。殻表は板状に立つ成長輪肋と放射肋とが交叉して顕著な布目状をなす。殻頂から後背縁に沿って後腹隅まで強い鱗状突起を並べた肋が走る。地色はクリーム色で, 濃褐色の不規則な斑紋を散在する個体が典型的であるが, 斑紋は変異に富み, 規則的なジグザグ模様や放射状色帯をもつ個体, あるいは一部が薔薇色に染まるものもある。小月面は明瞭。内面は白色で, 套線は小さく彎入し三角形。閉殻筋痕は前後とも大きく楕円形。腹縁内側は殻表の放射肋に即して強く刻まれる。絞歯は3個の主歯をもち, そのうち右殻の中・後主歯及び左殻の前・中主歯は特に強い。軟体は白色, 水管は短く, 先端に褐色の微細な触手列を冠する (松隈, 2000: 1005, pl. 500, fig. 10, as *G. marica*; 高重, 2019: 306, 307, text-figs に生体写真あり)。

写真: 備中〔笠岡市〕白石島, 畠田和一コレクション #1905, 福田撮影。殻長 17.6 mm, 殻径 13.1 mm。



分布 タイプ産地は「O. Americae」(アメリカの海)であるが, *Venus Marica* が本種であるならばその表記は確実に誤りである。Sowerby II (1853) と Reeve (1863) はともにフィリピン産とした。太平洋側は房総半島以南 (清水利, 2001: 131, no. 2682, as *Glycydonta marica*), 日本海側は山形県鼠ヶ関以南 (鈴木庄, 1979: 233, no. 450, as *G. marica*; 肥後・後藤, 1993: 650, no. 1253, as *G. marica* は「男鹿半島以南」としているが具体的な出典は未確認), 九州までと南西諸島 (黒田, 1928: 14, no. 155, as *Chione* [(*Timoclea*)] *marica*; 黒田, 1960: 66, no. 1908, as *T. (G.) marica*; 久保, 1995: 200, fig. 1) に分布する。国外は済州島, 海南島, 台湾, 西沙群島, ベトナム, フィリピン, インドネシア東部のメラネシア, ニューカレドニアなどから知られる (Hylleberg & Kilburn, 2003: 220; 関他, 2004: 458, fig. 1512-1-2; 459, no. 1512, as *T. (Glycydonta* [sic] *marica*; Dharma, 2005: 268, pl. 109, fig. 27, as *T. (G.) marica*; Noseworthy *et al.*, 2007: 98, as *T. (G.) marica*; 徐・張, 2008: 224, 225, fig. 710; Poppe, 2011: 276, pl. 1133, figs 1–7; Huber, 2015: 759; 王他, 2016: 142, no. 404, text-figs)。Huber (2010: 370, text-fig.) は本種が紅海まで分布するとしたが, その根拠としていた Oliver (1992: 177, fig. 36a–b; 193, pl. 38, fig. 9a–b, as *T. (G.) marica*) の図示個体は別種 *T. djiboutiensis* (Jousseaume, 1894) であり, 本種はインド洋西部には産しない (Huber, 2015)。

生息状況 南西諸島以南の亜熱帯・熱帯域では「モート〔珊瑚礁のリーフの内側〕の細砂～砂底。低潮線～2 m」(久保, 1995) に多産するとされ, 九州以北では外洋に面しながらも波穏やかな海岸や, 内湾湾口部または島嶼間で潮流の速い場所において, 潮間帯下部から潮下帯 (水深約 30 m まで) の細砂底に棲息する。瀬戸内海沿岸のいわゆる白砂青松の浜辺 (花崗岩が破碎されて生じた砂からなる, 比較的貧栄養で清浄な環境) を好み, 往時は砂浜に多くの死殻が打ち上げられていた。波部 (1951d: 174, figs 393–399, as *Leucoma* [sic] *marica*) の図示個体は「備後」産であり, また稲葉 (1982: 64, no. 291, as *Glycydonta marica*) は瀬戸内海全域に「普通」としている。しかしそれはもはや昔の話で, 高度経済成長期以降の環境悪化 (水質・底質の汚染, 護岸・埋め立て・干拓に伴う海岸線の変形と単調化, 浚渫による海底環境の破壊など) によって激減し, 近年は目にする機会がほぼなくなった。瀬尾・Tanangonan (2014: 111, no. 93, as *Glycydonata* [sic] *marica*) は香川県での 2009～2011 年の調査で少数の死殻が「燧灘のみで採集され備讃瀬戸では採集されなかった」と報告した。岡山県では文献記録はないものの, 畠田和一コレクション中に「備中〔笠岡市〕白石島」産 (合弁 5 個体, #1905, 写真; 半片 98 個, #1906; 合弁 12 個体, #4267) 及び産地無記入ながら本県産と推定される半片 2 個 (#4453) が含まれている。白石島の海岸は典型的な白砂の浜が広がり, いかにも本種が好みそうな景観であるが, 畠田標本に含まれている本種の個体数の多さこそは, 往時の当地でまさにごく普通に見られたことを証拠立てている。特に合弁個体は色彩も鮮やかなままで, 採集時は生貝または死亡後まもない状態であったことは確実である。しかし今世紀に入ってからの 20 年間で, 県内での本種の棲息を明示する情報は一切ない。唯一の記録は, 笠岡市北木島大浦の港に積み上げられた浚渫砂に半片死殻が混ざっていたことに触れた福田 (2010d: 81–82, as *Timoclea (G.) marica*) で, この時芳賀拓真氏が持ち帰った数個の殻は著しく褪色した古いものであった。現時点で県内に個体群が存続している可能性は限りなく低く, ごく控えめに見積もって絶滅寸前である。

(福田 宏)

マシジミ

Corbicula fluminea (O.F. Müller, 1774)

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 シジミ上科 シジミ科 ●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU; マシジミ)

選定理由 人為的移入個体群との関係が不明瞭で、稀少性評価を行うには情報が不足している。

形態 原記載は Müller (1774: 206, no. 391, as *Tellina fluminea*). Araujo *et al.* (1993: 43, fig. 3C) によってレクトタイプの写真が公表されている。過去には Prime (1864: 68, no. 12, fig. 14, as *Corbicula Leana*) が記載し、後に波部 (1977c: 151, pl. 15) や Morton (1986: 116–120, pls 1–2) がホロタイプの写真を公表 (Smithsonian Nat. Mus. Nat. Hist., 2019 でも閲覧可能) した *C. leana* に加え、国内から *C. straminea* Reinhardt, 1877a: 70, *C. awajiensis* Pilsbry, 1901f: 407, *C. orthodonta* Pilsbry, 1907: 156–157, pl. 7, figs 1–2 の3タクサが記載された。その後、黒田 (1938a: 27–28, 35, no. 6, fig. 9), 波部 (1977a: 241) は *C. straminea*, *C. awajiensis*, *C. orthodonta* を全て *C. leana* の異名とみなしたため、国内の文献において本種を *C. leana* とする扱いが定着し、*C. fluminea* は国外に分布する別種タイワンシジミとされてきた (e.g. 増田・内山, 2004: 202–208, text-figs; 紀平他, 2009: 118–121, text-figs; 内野・岸野, 2012: 66–72, figs 2–36)。一方 Morton (1986) は *C. fluminea* と *C. leana* の形態的・生物学的特徴が一致することを指摘し、これら2種は同種であると主張した。Huber (2015: 299, 301, text-figs; 769–778, 781) も Morton が指摘した特徴の一致に加え、近年の遺伝解析で両種の遺伝的な区別は困難との見解が示された点を踏まえて、*C. leana* を *C. fluminea* の新参異名とみなした。ただし淡水生シジミ類は特殊な遺伝様式を持つことが知られ、Huber (2015) が根拠のひとつとした従来の遺伝解析手法では、本種群の正確な系統関係の推定は困難な場合がある (Hedtke *et al.*, 2008; Pigneur *et al.*, 2014)。実際に次世代シーケンサーを用いた最新の系統解析では既往研究の結果に反し、南北アメリカに移入された4系統の殻形態と系統関係が一致することが報告されている (Haponski & Ó Foighil, 2019)。その解析では日本から移入したと推測されている系統と、アジア (中国・韓国・ベトナム) 起源とされる系統がそれぞれ単系統群を形成しており (Haponski & Ó Foighil, 2019: 9, fig. 3), *C. leana* と *C. fluminea* がそれぞれ独立種であることを示す可能性がある。しかしながら本種群の分類は依然として不明な部分が多く、現時点で一致した見解は得られていない。そのためここでは Huber (2015) に従い、*C. leana* を *C. fluminea* の新参異名とする。別名アワジシジミ、オクラシジミ、ナリヒラシジミ。殻長約 23 mm, 殻高約 20 mm, 三角形で厚く不透明。殻頂はほぼ中央にあり、前・後背縁とも直線的、前端は丸く、後端はやや尖る。殻表はやや不規則な成長脈があり、鈍い光沢がある。茶褐色の殻皮に覆われる個体が典型的であるが、黒色の雲状模様を散らす個体もある。内面は殻頂附近が淡紫色で、輪状に紫色の部分が見えて辺縁では濃紫色となる。鉸歯は明瞭な3個の主歯が八の字形に並び、さらに細かい刻みのある前後側歯を持つ。軟体は白色で、入・出水管はともに淡い橙色。入・出水管基部の外套膜との境界周辺は淡い灰色となる。入水管口の乳頭状突起は細長い紡錘形で、一般的に枝分かかれせず、各突起には一对の黒色斑点を有する (Harada & Nishino, 1995: 394, fig. 4-1, 4-5–6)。また本種には在来個体群と形態的に異なる国外の個体群、すなわちタイワンシジミ (濃色型・カネツケシジミ型) の移入・定着が全国的に確認されているが (増田・内山, 2004), タイワンシジミ濃色型は内面が一様に濃紫色となること、カネツケシジミ型では表面が黄褐色、内面は白色で、前後側歯周辺が紫色に彩られることによってマシジミと区別される。このほか、殻表に明瞭な放射彩を持つことにより本種とは明確に区別できる別「種」も報告されている (増田・内山, 2004: 209, text-figs; 福田他, 2010: 43, fig. 4Z; both as *C. sp.*)。



写真：岡山市築港緑町2丁目 児島湖，2005年10月28日，OKCAB M15928，福田撮影。殻長 14.0 mm, 殻高 13.3 mm。

分布 タイプ産地は「In arena fluviali Chinae」(中国の川)。新参異名である *C. leana* のタイプ産地は「Japonica」(日本) で、*C. straminea* も同じく「Japan」である。*C. awajiensis* は種小名が示すように「Noda, Awaji」(兵庫県南あわじ市賀集野田) から記載された。Pilsbry (1907) は *C. orthodonta* のタイプ産地を「Owari」としか記さなかったが、岩川 (1915: app. 29–40, no. 295) によればより詳細な産地は「Hirashimamura, Kaitogori of Owari」(恐らく愛知県一宮市平島) である。岩川 (1915: app. 29, no. 294, as *C. leana*) は宮城県以南の本州、四国、九州から多くの産地を挙げ、南西諸島では奄美大島・沖縄本島からも記録があるが (Pilsbry, 1895: 183, as *Corbicula sp.*; 杉谷, 1927: 47, as *C. orthodonta*; 重田・波部, 1987: 112, as *C. leana*), 奄美大島の個体群は移入であるとされる (増田・内山, 2004: 202)。国外では韓国から記録があり、マシジミと形態的によく一致するもの (関他, 2004: 457, fig. 1504-1–2, as *C. (C.) leana*), 黒田 (1938a: 30, 33, 35, no. 9, fig. 4) は朝鮮半島にマシジミと酷似する *C. producta* Martens, 1905 チョウセンマシジミが分布するとしており、関らが図示した個体はこの種に相当する可能性がある。一方、中国から報告されたマシジミは明らかにカネツケシジミ型である (He & Zhuang, 2013: 148, fig. 351, as *C. leana*)。本種群の系統関係はいまだ明らかでなく、国外でも広範囲で人為的移入が起こっているのは確実であることから、本種本来の分布域は現時点で不明である。

生息状況 河川や溝渠、池沼など陸水域の幅広い環境に見られ、日本の淡水産貝類の中でも最も広く知られた種の一つである。特に緩やかな流水中の砂礫底～砂泥底に多い。岡山県でもほぼ全域に普通に見られるが、倉敷市連島は1980年代以降の日本でタイワンシジミが増殖し始めた最初期に報告がなされた場所であり (増田・波部, 1988: 39–40, figs 1–2, as *Corbicula insularis* カネツケシジミ), その後タイワンシジミに同定可能な個体が県南部を短期間で席捲した。戦前から日本で見られたマシジミには少なくともカネツケシジミ型の個体は知られていなかったため、その限りにおいては両者の見分けがつかないもの、今や大半の産地で古来のマシジミに似た個体と、カネツケシジミ型などタイワンシジミらしき個体とが入り混じって明確な線引きができない状態にある。上記の通り以前は両者が互いに別種と認識されていたが、そもそもそれらが同種ならば識別できないのも当然で、何を保全対象とすべきかを考え直さねばならない段階にある。よって本種は、語の最も根源的な意味での「情報不足」に相当する。

(瀬尾友樹・福田 宏・近藤高貴)

ヤマトシジミ

Corbicula japonica Prime, 1864

二枚貝綱 異歯亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 シジミ上科 シジミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由 棲息環境の悪化により強い減少傾向に陥り、現存産地はわずかしかない。

形態 原記載は Prime (1864: 68–69, no. 13, fig. 15, as *Corbicula Japonica*)。タイプ標本の写真を波部 (1977c: 151, pl. 15), Morton (1986: 117, pl. 3) と Glaubrecht *et al.* (2007: 252–253, fig. 2K) が公表している。過去には本種に加え、以下の9つのタクサが国内から創設された。Cyrena *Yokohamensis* Sowerby II, 1876 in 1876c–1877: sp. 55, pl. 12, fig. 55, *Cyr.* (*Corb.*) *transversa* Martens, 1877: 120, no. 81, *Corb. fuscata* var. *atrata* Reinhard[t], 1878: 191, no. 4, pl. 5, fig. 4, *Corb. Martensii* Clessin, 1878 in 1874–1879: 196, no. 107, pl. 38, figs 17–18, *Corb. Reiniana* Clessin, 1878 in 1874–1879: 196–197, no. 108, pl. 39, figs 8–9, *Corb. Doenitziana* Clessin, 1878 in 1874–1879: 197–198, no. 109, pl. 39, fig. 4, *Corb. sadoensis* Pilsbry, 1901g: 406–407, *Corb. nipponensis* Pilsbry, 1907: 159–160, pl. 7, figs 3–4, *Corb. nipponensis delicata* Pilsbry, 1907: 160, pl. 7, figs 11–12。黒田 (1938a: 25–27, 34, nos 1–4, figs 1–2, 14–15) はこのうち4つを有効名として認めたものの、のちに波部 (1977a: 239, pl. 49, fig. 11) はこれら9名を全て *Corb. japonica* の異名とみなした。最近行われた分子系統解析では、日本の集団間で大きな遺伝学的差異は認められず同一種となることが示唆され (Yamada *et al.*, 2014: 173, fig. 2), 波部の見解を支持する結果が得られている。Yamada *et al.* (2014) では朝鮮半島東・南部の集団も日本と同種とされていることから、韓国の南東端 (蔚山) をタイプ産地とする *Corb. papyracea* var. *colorata* Martens, 1905: 67, 69, pl. 2, fig. 10 も本種の異名となる可能性が高く、再検討が必要であろう。また、*Corb. biformis* Reinhardt, 1877a: 70 は長らく本種の異名とされてきたが、Glaubrecht *et al.* (2007: 248, 250) によれば正確なタイプ産地は「Nikko-Gebirge」(栃木県日光の山間部) であるため、この見解に従えば *Corb. biformis* は本種ではなく *Corb. fluminea* (= *Corb. leana*) マシジミ (タイワンシジミ) の異名である。なお Morton (1986: 116–120) は本種を *Corb. fluminalis* (O.F. Müller, 1774) の異名とみなしたが、Huber (2015: 776) が指摘している通りこれは誤りである。別名サツマシジミ、ニホンシジミ、ヒメニホンシジミ、チクゴシジミ、サドシジミ。殻長約 25 mm, 殻高約 21 mm, 三角形で厚く不透明。殻頂はほぼ中央にあり、前・後背縁とも直線的、前端は丸く、後端は弱く尖り、腹縁は彎曲する。殻表は細かい成長脈を密に巡らし、光沢がある。黒色の殻皮に覆われる個体が典型的であるが、黄褐色の地に茶褐色の放射彩をもつ個体もある。内面は淡い紫色から白色。前閉殻筋痕は長楕円形、後閉殻筋痕は円形で、彎入はない。鉸歯は明瞭な3個の主歯が八の字形に並び、さらに細かい刻みのある前後側歯をもつ。軟体は白色で、入・出水管基部の外套膜との境界周辺は黒色となる。入水管口の乳頭状突起は単純な細長い紡錘形で、突起列には幅の狭い1本の黒色帯を有する (Harada & Nishino, 1995: 394, fig. 4-2, 4-7)。

写真： 岡山市中区東中島町 旭川中洲, 2012年11月27日, OKCAB M23594, 福田撮影。殻長 22.9 mm, 殻高 19.6 mm。



分布 タイプ産地は「Japonia」(日本)。異名の *Cyrena Yokohamensis*, *Cyr.* (*Corbicula*) *transversa*, *Corb. fuscata* var. *atrata*, *Corb. Martensii*, *Corb. Reiniana*, *Corb. Doenitziana* はいずれも「Yokohama」(横浜) から記載された。*Corb. sadoensis* のタイプ産地は種小名が示す通り「Sado, Japan」(日本の佐渡)。*Corb. nipponensis* は「Kogawaranuma, Mutsu」(陸奥國小川原湖)。*Corb. nipponensis delicata* は「Imaegata, Kaga」(加賀國の今江瀨) がタイプ産地である。アジアに広く分布する汽水性シジミ類のうち最も北方まで分布する種であり、北海道以南の本州、四国、九州から知られ、南西諸島には分布しない (黒田, 1938a: 34; 福田・木村昭, 2012: 138, text-fig.; Yamada *et al.*, 2014: 170, fig. 1)。国外ではアムール川河口、ロシア沿海州、サハリン島から産出記録がある (Vinarski & Kantor, 2016: 82–83, no. 67)。朝鮮半島東岸では本種のみが分布するのに対し、分布の境界となる南岸では本種と形態的に異なる別種が同所的に産する (関他, 2004: 455–457, fig. 1501-1–3, as *Corb.* (*Corb.*) *japonica*; Yamada *et al.*, 2014)。

生息状況 マシジミが淡水域に産するのに対して本種は河口下流の汽水域に見られ、緩やかな流水中の砂礫底～砂泥底に多産する。食用として漁獲対象とされ、特に北海道網走湖、青森県十三湖、茨城県涸沼、島根県宍道湖などはブランド化した産地として名高く、現在も盛んに市場へ流通している。全国的には依然として多産する場所も多い一方で、瀬戸内海中央部では恐らく汚水流入による水質悪化のために最近50年間で激減し、生貝を目にする機会は少なくなった (福田・木村昭, 2012)。香川県において近年確認された個体 (瀬尾・Tanangonan, 2014: 110, no. 81) は食用に供された後に投棄されたものである (つまり現地産ではないかもしれない) 可能性が否定できない。仮に他産地由来の個体であった場合、香川県における近年の確実な産出記録は皆無となり、同県では絶滅した可能性が高い。岡山県もこれに近く、倉敷市の高梁川河口では古い半片死殻が稀に見られるだけで、生貝は21世紀に入って一度も確認されていない。岡山市の旭川・吉井川河口では少数ながら生貝が見出されているが、小ぶりの個体が散発的に出現する程度で、かつてのごとく一網打尽に漁獲できるほどの個体数や密度にはほど遠い状況である。人工的な放流も繰り返し試みられているものの、ことごとく成功に至っていないことから、各河口の環境状態自体が回復されない限り、本種が元通りに高密度で饒産する光景は戻ってこないと考えられる。

(瀬尾友樹・福田 宏・近藤高貴)

ハナグモリ

Glaucanome angulata Reeve, 1844

二枚貝綱 異齒亜綱 不完全歯上目 マルスダレガイ目 シジミ上科 ハナグモリ科 ●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由 過去に県内で産出したことを示す文献記録や標本が存在するが、その後棲息が確認されず、絶滅したと考えられる。

形態 原記載は Reeve (1844a: pl. 1, sp. 5)。 *Glaucanome Primeana* Crosse & Debeaux, 1863c: 177 は新参異名。従来は日本の文献の圧倒的多数が本種を *Glaucanome Chinensis* Gray, 1828: 6-7 (Reeve, 1844a: pl. 1, sp. 1 に図示され, Higo *et al.*, 2001: 179, fig. B1272 がホロタイプの写真を公表している) に同定してきたが, この種は Huber (2010: 435, text-fig.; 753) が指摘している通り殻長が 40 mm 以上に達し, より前後に引き伸ばされる別種である。別名アオアサリ。殻長約 25 mm, 殻高約 15 mm, 横長の卵楕円形で多少膨らむ。殻頂はわずかに前方に寄る。殻表は青みがかった黄褐色の殻皮をかぶり, 成長輪肋は細かいが粗雑。内面は白色で光沢があり, 套線は深く彎入する。鉸歯は主歯が 3 個あり, 側歯を欠く。韧带は筒状で, 外在し後位。水管は入水管と出水管がともに長く, 互いに離れる。

写真： 岡山市 [北区] 青江, 畠田和一コレクション #1834, 福田撮影。殻長 25.1 mm, 殻高 13.8 mm。



分布 タイプ産地は「Mouth of a river at Jinigaran [sic; = Hinigaran], island of Negros, Philippines (found in sandy mud at low water)」(フィリピン・ネグロス島のヒニガラン, 低潮帯砂泥底)。 *Glaucanome Primeana* は「in flumine dicto «Rivière du cap Chan-Tong,» Chino septentrionalis」(中国北部の du cap Chan-Tong 川) から記載された。日本では大規模な内湾の奥部に不連続に見られ, 東京湾, 相模湾, 三河湾, 伊勢湾, 瀬戸内海, 吉野川河口, 浦戸湾, 有明海・八代海, 南西諸島, 朝鮮半島, 東シナ海・南シナ海沿岸, フィリピンまで分布する (関他, 2004: 473, fig. 1558-1-2, as *G. chinensis*; 张, 2008: 357, text-figs; as *G. primeana*; Huber, 2010; 松隈, 2017: 1251; pl. 546, fig. 7, as *G. chinensis*)。長らく本種に誤同定されてきた *G. Chinensis* のタイプ産地は「China」で, 中国の一部では本種と分布が重なっているとみられるが, 少なくとも後種は日本には分布しない。また南西諸島での本種の記録は山下博 (2012: 139, text-figs a-d) が言及している通り同属の別種 *G. radiata* and *G. straminea*, both Reeve, 1844 が混在している可能性もあり, 今後の再検討が必要である。

生息状況 大規模な内湾の奥部において, 淡水が流入する泥干潟の潮間帯上～中部に棲息し, 干潮時は水がなくなる部分にも多産する。東京湾では江戸川放水路や小櫃川河口などから近年も棲息が確認されている (木村昭・木村妙, 2013: 47, fig. 205; 166, no. 205) が, 相模湾・三河湾・伊勢湾などでは見出されず, 絶滅またはそれに近い状態にあるといわれる (山下, 2012)。瀬戸内海では西端の周防灘西部に今なお多いが (福田, 1992: 93, pl. 36, fig. 571, as *G. chinensis*) , それ以外では少ない。兵庫県高砂市の加古川河口右岸では 2009 年に少数の生貝が確認されており, 少なくとも 10 年前の時点では兵庫県には個体群が存在した (OKCAB M23745)。岡山県では畠田 (1935: 232, no. 26, as *G. corrugata*) が「御津郡 [正しくは児島郡; 現・倉敷市] 福田村」において, 附近の住民が本種を「スナガヒ」という方言で呼んでいたと記録しており, 当時はごく普通種であったと推測される。また窪田 (1962: 166, no. 2353) も「備前 [岡山市南区] 福浜」産の標本に言及している。福浜は旭川の河口に相当し, 1950 年代頃まではそこでタケノコカワニナが多数採集されていた。上記の加古川でもタケノコカワニナが産出しているので, この 2 種はかつての瀬戸内海では完全に同所的に産するとまでは言えないまでも, 多くの場合同じ川の汽水域で随伴していたと言えよう。畠田和一コレクションにも「岡山市 [北区] 青江」産 (合弁 1 個体, #1834), 「備中 [岡山市東区] 水門」(「昭 10 [=1935].2.9」, 合弁 1 個体, #2059), さらに産地無記入であるが県内産の可能性が高い合弁 1 個体 (#7366) の 3 ロットが現存する。しかしその後は古い死殻すらも全く確認できないまま今日に至っている。本種は河口部汽水域においても水面から離れた潮間帯の上部にまで産するため, もし個体群が維持されているならば比較的容易に見出されるはずである。もう 50 年以上にわたって一切採集されないのは, 岡山県では完全に絶滅したからと考えられる (これはタケノコカワニナも同様)。本種の減少要因は何より埋め立て・干拓・護岸による干潟の消失であり, 本県においても旭川や吉井川の河口において川岸の一樣化と単純化がなされた結果, 棲息可能な場所を失って姿を消した。今後県内の河口部泥干潟の環境状態が改善するならば, 兵庫県など近隣他県から新たに加入してくる可能性も否定はできないが, 現時点ではまだその兆しは見られないため, 今回は一旦, 絶滅とする。

(福田 宏)

主な参考文献

- Abbott, R.T. 1948 (Apr.). Handbook of medically important mollusks of the Orient and the western Pacific. *Bulletin of the Museum of Comparative Zoölogy at Harvard College*, **100**: 245–328, pls 1–5.
- Abbott, R.T. 1968 (30 Aug.). The helmet shells of the world (Cassidae), Part 1. *Indo-Pacific Mollusca*, **2**(9): 1–202.
- Abbott, R.T. & Dance, S.P. 1982. *Compendium of seashells. A color guide to more than 4,200 of the world's marine shells*. E.P. Dutton, New York.
- Abbott, R.T. & Dance, S.P. (波部忠重・奥谷喬司, 監修・訳) 1985 (8 Mar.). *世界海産貝類大図鑑*. 平凡社, 東京.
- 阿部武雄・荒井哲夫・泉 治夫・内島宏和・瀬川哲示・高橋征五郎・若林政之 1978 (25 Jan.). 中部日本海沿岸産後鰐類の分布. 高岡生物研究会, 高岡.
- 阿部 司・福田 宏 2010 (Dec.). 絶滅危惧種カワネジガイ (腹足綱: 有肺目: ヒラマキガイ科) の岡山県における新産地. *Molluscan Diversity*, **2**: 37–41.
- Academy of Natural Sciences of Philadelphia 2019. ANSP Malacology Collection:
ANSP 49531. *Euconulus longissimus* Pilsbry & Hirase 1909. *Kaliella longissima* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=49531>
ANSP 70704. *Nassarius fuscolineatus* E.A. Smith 1875. *Nassa varicifera* var. *fraterminor* (Lectotype). [Accessed on 20 Nov. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=70704>
ANSP 71029. *Tellina diaphana* Deshayes 1855. *Tellina pristiformis* Pilsbry (syntypes). [Accessed on 8 Oct. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=71029>
ANSP 78760. *Euhadra idzumonis* Pilsbry & Gulick. *Eulota luhuana idzumonis* (lectotype). [Accessed on 30 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=78760>
ANSP 78767. *Cassidula labrella japonica* Pilsbry & Hirase 1905 (syntypes). [Accessed on 18 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=78767>
ANSP 78775. *Trishoplita mesogonia* Pilsbry 1900. *Trishoplita tozana* var. *rufa* (holotype). [Accessed on 28 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=78775>
ANSP 78802. *Trishoplita mesogonia* Pilsbry 1900. *Eulota? mesogonia* (lectotype). [Accessed on 28 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=78802>
ANSP 78808. *Bekkochlams micrograpta* Pilsbry 1900. *Macrochlams micrograpta* (lectotype). [Accessed on 3 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=78808>
ANSP 78830. *Mirus reiniana* Kobelt. *Buliminus extorris* var. *omiensis* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=78830>
ANSP 79105. *Parakaliella pagoduloides* Gude 1900. *Kaliella symmetrica* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=79105>
ANSP 79106. *Trochochlams fraterna* Pilsbry 1900. *Kaliella fraterna* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=79106>
ANSP 79410. *Mirus reiniana* Kobelt. *Buliminus reinianus* var. *hokkaidonis* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=79410>
ANSP 80538. *Engina menkeana submenkeana* Pilsbry 1901. *Tritonidea submenkeana* (syntypes). [Accessed on 6 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=80538>
ANSP 80973. *Euconulus ruidus* Pilsbry 1901. *Kaliella ruida* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=80973>
ANSP 81003. *Diplommatina (Sinica) cassa* Pilsbry 1901. *Diplommatina cassa* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=81003>
ANSP 81231. *Parakaliella subcrenulata* Pilsbry 1901. *Kaliella subcrenulata* (holotype). [Accessed on 3 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=81231>
ANSP 81235. *Trishoplita awajiensis* Pilsbry 1901. *Trishoplita dacostae awajiensis* (lectotype). [Accessed on 29 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=81235>
ANSP 81896. *Diplommatina (Sinica) kyushuensis* Pilsbry & Hirase 1904. *Diplommatina kyushuensis* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=81896>
ANSP 82303. *Trishoplita mesogonia* Pilsbry 1900. *Trishoplita hilgendorfi* var. *chikubashimae* (lectotype). [Accessed on 28 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=82303>
ANSP 82309. *Trochochlams praealta* Pilsbry 1902. *Kaliella praealta* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=82309>
ANSP 82970. *Kaliella hizenensis* Pilsbry 1902 (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=82970>
ANSP 83239. *Megalophaedusa (Mundiphaedusa) ducalis* Kobelt 1876. *Clausilia ducalis* var. *decapitata* (lectotype). [Accessed on 3 Nov. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=83239>
ANSP 83896. *Mirus andersoniana echigoensis* Pilsbry & Hirase 1903. *Buliminus andersonianus* var. *echigoensis* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=83896>
ANSP 84415. *Nipponochloritis tosanus* Pilsbry & Hirase. *Chloritis tosanus* Pilsbry & Hirase (holotype). [Accessed on 1 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=84415>
ANSP 84439. *Yamatochlamys vaga* Pilsbry & Hirase 1904. *Microcystina vaga* (lectotype). [Accessed on 3 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=84439>
ANSP 84713. *Trishoplita mesogonia* Pilsbry 1900. *Trishoplita mesogonia* var. *minima* (lectotype). [Accessed on 29 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=84713>
ANSP 84762. *Trochochlams praealta* Pilsbry 1902. *Kaliella xenica* (holotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=84762>
ANSP 84899. *Nipponochlamys hakusanus* Pilsbry & Hirase 1907. *Macrochlams hakusanus* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=84899>
ANSP 84961. *Trochochlams praealta izushichitoensis* Pilsbry & Hirase 1903. *Kaliella praealta* var. *izushichitoensis* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=84961>
ANSP 85999. *Nassarius fraterculus* Dunker 1860. *Nassa semiplicata hiradoensis* (lectotype). [Accessed on 5 Nov. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=85999>
ANSP 87340. *Aegista kobensis* Schmacker & Boettger 1890. *Eulota kobensis* var. *pertenuis* (lectotype). [Accessed on 27 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=87340>
ANSP 87528. *Plectotropis aemula* Gude 1900. *Eulota aemula* (syntype). [Accessed on 25 Dec. 2019]
<http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=87528>

- ANSP 87530. *Sitalina insignis* Pilsbry & Hirase 1904. *Sitala insignis* (lectotype). [Accessed on 2 Jan. 2020] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=87530>
- ANSP 88300. *Pecten awajiensis* Pilsbry (syntype). [Accessed on 6 Sept. 2019] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=88300>
- ANSP 94686. *Mirus reiniana* Kobelt. *Ena reiniana vasta* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=94686>
- ANSP 94738. *Mirus reiniana* Kobelt. *Ena reiniana ugoensis* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=94738>
- ANSP 95670. *Diplommatina (Sinica) hirasei* Pilsbry 1909. *Diplommatina hirasei* (lectotype). [Accessed on 1 Jan. 2020] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=95670>
- ANSP 96176. *Parakaliella subrenulata* Pilsbry 1901. *Kaliella subrenulata satsumana* (lectotype). [Accessed on 3 Jan. 2020] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=96176>
- ANSP 97974. *Sigatica bathyraphe* Pilsbry & Hirase 1911. *Polinices bathyraphe* (syntypes). [Accessed on 9 Nov. 2019] <http://clade.ansp.org/malacology/collections/details.php?mode=details&catalognumber=97974>
- Adams, A. 1850a (12 Nov.). An arrangement of Stomatellidae, including the characters of a new genus, and of several new species. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 18 (for 1850): 29–40.
- Adams, A. 1850b (12 Nov.). Monographs of *Cyclostrema*, Marryat, and *Separatista*, Gray; two genera of gasteropodous mollusks. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 18 (for 1850): 41–45, pl. 8.
- Adams, A. 1852–1853 (94–112 on 7 Dec. 1852; 113–114 on 29 Apr. 1853). Catalogue of the species of *Nassa*, a genus of gasteropodous Mollusca belonging to the family Buccinidae, in the collection of Hugh Cuming, Esq., with the description of some new species. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 94–114.
- Adams, A. 1853a (150–176 on 29 Jun.; 177–192 on Jan. 28). Contributions towards a monograph of the Trochidae, a family of gasteropodous Mollusca. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 150–192.
- Adams, A. 1853b (30 Jun.). A monograph of the genus *Monopygma* of Lea. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 222–224.
- Adams, A. 1853c (224 on Jun. 30; 225 on 26 Jul.). Descriptions of new shells, from the Cumingian collection; with a note on the genus *Nematura*. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 224–225.
- Adams, A. 1853d (26 Jul.). A monograph of the Recent species of *Rimula*, a genus of Mollusca, belonging to the family Fissurellidae. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 226–227.
- Adams, A. 1853e (7 Dec.). Descriptions of sixteen new species of *Rissoina*, a genus of marine gasteropodous mollusks, from the Cumingian Collection. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 264–267.
- Adams, A. 1853f (7 Dec.). Descriptions of several new species of *Murex*, *Rissoina*, *Planaxis*, and *Eulima*, from the Cumingian Collection. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 19 (for 1851): 267–272.
- Adams, A. 1854a (23 May). Descriptions of a new genus, and of several new species, of Mollusca, from the Cumingian collection. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 20 (for 1852): 92–95.
- Adams, A. 1854b. Monographs of the genera *Eulima*, *Niso*, *Leiostraca*, *Obeliscus*, *Pyramidella*, and *Monopygma*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, 2(15): 793–825, pls 169–172. G.B. Sowerby, London.
- Adams, A. 1854c. Monograph of Stomatellinae, a sub-family of Trochidae. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, 2(15): 827–846, pls 173–175. G.B. Sowerby, London.
- Adams, A. 1855a (10 Jan.). Monographs of *Actaeon* and *Solidula*, two genera of gasteropodous Mollusca with descriptions of several new species from the Cumingian Collection. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 22 (for 1854): 58–62.
- Adams, A. 1855b (11 Apr.). A monograph of *Cerithidea*, a genus of Mollusca, with descriptions of several new species, from the collection of Hugh Cuming, Esq.: to which are added, descriptions of two new species of *Colina*, and one of *Donax*. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 22 (for 1854): 83–87.
- Adams, A. 1855c (119–120 on 13 Aug.; 121–124 on 1 Dec.). Descriptions of two new genera and several new species of Mollusca, from the collection of Hugh Cuming, Esq. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 23 (for 1855): 119–124.
- Adams, A. 1856a (5 Feb.). Descriptions of twenty-five new species of shells from the Collection of Hugh Cuming, Esq. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 23 (for 1855): 221–226.
- Adams, A. 1856b (47–48 on 16 Jun.; 49–53 on 30 Jul.). Descriptions of thirty-four new species of bivalve Mollusca (*Leda*, *Nucula*, and *Pythina*) from the Cumingian Collection. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 24 (for 1856): 47–53.
- Adams, A. 1860a. On some new genera and species of Mollusca from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, 5: 299–303; 405–413.
- Adams, A. 1860b. Notes on the animals of certain genera of Mollusca. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, 6: 109–118.
- Adams, A. 1860c. On some new genera and species of Mollusca from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, 6: 331–337.
- Adams, A. 1860d. On a new genus and some new species of Mollusca from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, 6: 414–422.
- Adams, A. 1861a. On a new genus and some new species of Pyramidellidae from the north of China. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, 7: 295–299.
- Adams, A. 1861b. On some new species of Mollusca from the North of China and Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, 8: 135–142.

軟体動物

- Adams, A. 1861c. On some new genera and species of Mollusca from the North of China and Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **8**: 239–246.
- Adams, A. 1861d. On some new genera and species of Mollusca from the North of China and Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **8**: 299–309.
- Adams, A. 1862a. On some new species of acephalous Mollusca from the Sea of Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **9**: 223–230.
- Adams, A. 1862b. On some new species of Mollusca from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **9**: 295–298.
- Adams, A. 1862c. On some new species of Scissurellidae from the Seas of China and Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **10**: 346–348.
- Adams, A. 1862d. On the animal and affinities of *Scaliola*, a genus of Mollusca from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **10**: 420–421.
- Adams, A. 1863a (Apr.). Descriptions of some new species of *Limopsis* from the Cumingian Collection. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1862: 229–231.
- Adams, A. 1863b (Apr.). On the species of Obeliscinae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1862: 231–238.
- Adams, A. 1863c (Apr.). On the species of Muricinae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1862: 370–376.
- Adams, A. 1863d (4 May). On the species of Pyramidellinae found in Japan. *Journal of the Proceedings of the Linnean Society of London*, **7** (for 1864): 1–6.
- Adams, A. 1863e (May). On the genera and species of Liotinae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1863: 71–76.
- Adams, A. 1863f (Oct.). On the genera and species of Fossaridae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1863: 110–113.
- Adams, A. 1863g. On the Japanese species of *Siphonalia*, a proposed new genus of gasteropodous Mollusca. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **11**: 202–206.
- Adams, A. 1863h. On some new genera and species of Umboniidae from the Seas of Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **11**: 264–268.
- Adams, A. 1863i. On *Microstelma* and *Onoba*, two forms of rissoid gasteropods; with notices of new species of the latter from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **11**: 347–349.
- Adams, A. 1863j. On the genera and species of Lacunidae found in Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **11**: 350–351.
- Adams, A. 1864a. On the animal and affinities of *Fenella*, with a list of the species found in the seas of Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **13**: 39–41.
- Adams, A. 1864b. Notes on some molluscous animals from the Seas of China and Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **13**: 140–144.
- Adams, A. 1864c. On the species of Fusidae which inhabit the Seas of Japan. *Journal of the Proceedings of the Linnean Society, Zoology*, **7**: 105–108.
- Adams, A. 1864d. On some new genera and species of Mollusca from the seas of China and Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Third Series, **13**: 307–310.
- Adams, A. 1864e. Monographs of the genera *Cyclostrema*, *Adeorbis*, and *Teinostoma*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **3**(23): 249–261, pls 255–256. G.B. Sowerby, London.
- Adams, A. 1868a. Note sur quelques nouveaux genres de Mollusques du Japon. *Journal de Conchyliologie*, **16**: 40–56, pl. 4.
- Adams, A. 1868b. On the species of Caecidae, Corbulidae, Volutidae, Cancellariidae, and Patellidae found in Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Fourth Series, **2**: 363–369.
- Adams, A. 1870a. On some species of probosciferous gasteropods which inhabit the Seas of Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Fourth Series, **5**: 418–430.
- Adams, A. 1870b. *Travels of a naturalist in Japan and Manchuria*. Hurst & Blackett, London.
- Adams, A. & Angas, G.F. 1864 (Jul.). Descriptions of new species of shells, chiefly from Australia, in the collection of Mr. Angas. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1864: 35–40.
- Adams, A. & Reeve, L.A. 1850. Mollusca. In Adams, A. (Ed.), *The zoology of the voyage of H.M.S. Samarang; under the Command of Captain Sir Edward Belcher, C.B., F.R.A.S., F.G.S., during the years 1843–1846*, i–x, 1–87, pls 1–24. Reeve & Benham, London.
- Adams, A. & Sowerby, G.B. II 1863. Monograph of the genera *Cemoria*, *Cranopsis*, *Zeidora*, *Rimula*, *Emarginula*, *Scutus*, & *Tugalia*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **3**(22): 207–226, pls 245(10)–249(14). G.B. Sowerby, London.
- Adams, H. 1860 (between May and Aug.). Description of a new genus and species of mollusk. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 28 (for 1860), 241–242.
- Adams, H. 1866 (Sept.). Description of fifteen new species of land and freshwater shells from Formosa, collected by Robert Swinhoe, Esq., consul at Taiwan in that island. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1866. 316–319, pl. 33.
- Adams, H. 1871 (Apr.). Descriptions of twenty-six new species of shells collected by Robert M'Andrew, Esq., in the Red Sea. *Proceedings of the Zoological Society of London*,

for 1870: 788–793, pl. 48.

Adams, H. 1872 (Jun.). Descriptions of fourteen new species of land and marine shells. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1872: 12–15, pl. 3.

Adams, H. 1873 (Jun.). Descriptions of seventeen new species of land and marine shells. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1873: 205–209, pl. 23.

Adams, H. & Adams, A. 1853–1858. *The genera of Recent Mollusca; arranged according to their organization*. Vol. 1 (texts in 1852–1854), 2 (texts in 1854–1858), 3 (all pls in 1858). van Voorst, London.

Afonso, C.M.L. 2011 (22 Jul.). Non-indigenous Japanese oyster drill *Pteropurpura (Ocinebrellus) inornata* (Récluz, 1851) (Gastropoda: Muricidae) on the South-west coast of Portugal. *Aquatic Invasions*, 6(Supplement 1): S85–S88.

愛知県環境部 (編) 2015 (Jan.). 第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015. 愛知県環境部, 名古屋.
<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/>

明石英幹・山賀賢一・内海範子・吉松定昭 2011 (21 Mar.). イタボガキをめぐる7つの疑問. まいご, (18): 10–14.

Akutsu, J. 1964 (20 Mar.). The geology and paleontology of Shiobara and its vicinity, Tochigi Prefecture. *Science Reports of the Tohoku University, Second Series (Geology)*, 35: 211–293, pls 57–66.

ALA → Atlas of Living Australia

Albano, P.G. 2003 (Apr.) [for 2002]. Mediterranean Gastrochaenidae (Mollusca: Bivalvia). *Bollettino Malacologico*, 38: 135–138.

Alf, A., Kreipl, K. & Thach, N.N. 2002 (1 Nov.). The Melongeninae of Viet Nam (Gastropoda, Buccinidae). *Spixiana*, 25: 199–208.

AlShuaibi, A. & Mahmoud, H. 2018 (online 25 Jul.). Morphology of the shell and encrusting microbiota of particles on *Scaliola* cf. *glareosa* from the Arabian Gulf. *Molluscan Research*, 39: 53–63.

Altena, C.O. van R. & Gittenberger, E. 1981. The genus *Babylonia* (Prosobranchia, Buccinidae). *Zoologische Verhandelingen uitgegeven door het Rijksmuseum van Natuurlijke Historie te Leiden*, (188): 1–57, pls 1–11.

Amano, K. 2019 (1 Apr.). Two new gastropods from the late Pliocene Omma-Manganji fauna in the Japan Sea borderland of Honshu, Japan. *Paleontological Research*, 23: 85–94.

天野和孝・葉室麻吹・葉室俊和・佐藤時幸・荻原理央 2012 (15 Dec.). 日本海中部沿岸域における鮮新世末期の寒冷化の底生動物群への影響: 富山県高岡市の頭川層産軟体動物群. *地質学雑誌*, 118: 810–822.

Amano, K., Lutaenko, K.A. & Matsubara, T. 1999 (30 Jun.). Taxonomy and distribution of *Macoma (Rexithaerus)* (Bivalvia: Tellinidae) in the north-western Pacific. *Palaeontological Research*, 3: 95–105.

Amemiya, I. 1928 (Mar.). Ecological studies of Japanese oysters, with specific reference to the salinity of their habitats. *Journal of the College of Agriculture, Imperial University of Tokyo*, 9: 333–382.

網尾 勝 1963 (Mar.). 海産腹足類の比較発生学ならびに生態学的研究. *水産大学校研究報告*, 12: 229–358.

Angas, G.F. 1867a (May). Descriptions of thirty-two new species of marine shells from the coast of New South Wales. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1867: 110–117, pl. 13.

Angas, G.F. 1867b (May). A list of species of marine Mollusca found in Port Jackson Harbour, New South Wales, and on the adjacent coasts, with notes on their habits, &c. Part I. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1867: 185–233.

Angas, G.F. 1871 (Jun.). A list of additional species of marine Mollusca to be included in the fauna of Port Jackson and the adjacent coast of New South Wales. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1871: 87–101.

Angas, G.F. 1877 (Aug.). Descriptions of one genus and twenty-five species of marine shells from New South Wales. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1877: 171–177, pl. 26.

Angas, G.F. 1879 (Apr.). Descriptions of six species of bivalve shells in the collection of Mr. Sylvanus Hanley, F.L.S., and of a *Helix* from the Solomon Islands. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1878: 859–861, pl. 54.

Annandale, N. 1916 (18 Dec.). Zoological results of a tour in the Far East. The Mollusca of Lake Biwa, Japan. *Memoirs of the Asiatic Society of Bengal*, 6: 39–74, pl. 3.

Annandale, N. & Prashad, B. 1919. Note on the taxonomic position of the genus *Camptoceras*, Benson and of *Lithotis japonica*, Preston (Mollusca Pulmonata). *Journal and Proceedings of the Asiatic Society of Bengal*, new ser., 14: 457–462, pl. 12.

[Anonymous] 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.

ANSP → Academy of Natural Sciences of Philadelphia

青柳 克 2011 (31 Oct.). 沖縄県の島嶼地域におけるヒラマキガイ類の分布状況. *ちりぼたん*, 41: 108–116.

Arakawa, K.Y. 1964 (15 Mar.). A study on the radulae of the Japanese Muricidae (2) — The genera *Vexilla*, *Nassa*, *Rapana*, *Murex*, *Chicoreus* and *Homalocantha* —. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, 22: 355–364, pl. 21.

Araujo, R., Moreno, D. & Ramos, M.A. 1993 (Feb.). The Asiatic clam *Corbicula fluminea* (Müller, 1774) (Bivalvia: Corbiculidae) in Europe. *American Malacological Bulletin*, 10: 39–49.

浅見崇比呂 2010 (Jul.). *Molluscan Research* 30 巻1号 (2010年3月刊行) 掲載論文の抄録. キセルガイのラセミ現象と異性交配. *Molluscan Diversity*, 2: 28–30.

Atlas of Living Australia 2019. *Quadrans parvitas* Iredale, 1931. [Accessed on 5 Oct. 2019]
<https://bie.ala.org.au/species/urn:lsid:biodiversity.org.au:afd:taxon:52970bb0-c62a-4637-b0f0-379cafadefac>

軟体動物

- Aubry, U. & Gargiulo, R. 2019. *The living Terebras of Japan (study and revision)*. Mostra Mondiale Malacologia, Ancona.
- 栗倉輝彦 1969. カワシンジュガイの年令組成とサケ科魚類の資源変動との相関性について. 北海道立水産孵化場報告, (24): 55–88.
- 東 正雄 1960 (20 Mar.). 高知県沖島・柏島・足摺岬沖産貝類目録. 土佐湾貝類文献刊行会, 西宮.
- 東 正雄 1961 (31 Jan.). 日本産タマガイ科 Naticidae の歯舌の研究 (1). 貝類学雑誌ヴキナス, 21: 196–204, pls 12–15.
- 東 正雄 1965 (31 Jul.). ミノムシガイ科の歯舌について. 貝類学雑誌, 24: 53–57, pl. 5.
- 東 正雄 1969 (Jan.). 摩耶山産オトメマイマイ (*Trishoplita*) の一新種. 兵庫生物, 6: 19–22.
- 東 正雄 1982a (1 Jul.), 1995 (31 Aug.). 原色日本陸産貝類図鑑 (1982), 増補改訂版 (1995). 保育社, 大阪.
- 東 正雄 1982b (31 Jul.). 日本産ピロウドマイマイ属 2 新種. 貝類学雑誌, 41: 102–108.
- Baba, K. 1933 (10 Jun.). Preliminary note on the nudibranchia collected in the vicinity of the Amakusa Marine Biological Laboratory. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 14: 165–179.
- Baba, K. 1935 (Aug.). Report of the biological survey of Mutsu Bay (27) Nudibranchia of Mutsu Bay. *Science Reports of the Tohoku Imperial University, Fourth Series, Biology*, 10: 331–360, pls 5–7.
- Baba, K. 1937 (15 Jul.). A new noteworthy species of the sacoglossan genus *Alderia*, from Amakusa, Japan. *Zoological Magazine*, 49: 249–251.
- Baba, K. 1940 (Mar.). Some additions to the nudibranch fauna of the northern part of Japan. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 10: 103–111.
- 馬場菊太郎 1949 (25 Sept.). 相模湾産後鰓類図譜. 岩波書店, 東京.
- 馬場菊太郎 1955 (29 Apr.). 相模湾産後鰓類図譜補遺. 岩波書店, 東京.
- Baba, K. 1960 (30 May). The genera *Gymnodoris* and *Nembrotha* from Japan (Nudibranchia–Polyceridae). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 8: 71–74, pl. 5.
- Baba, K. 1961 (30 May). On the identification and the affinity of *Tamanovalva limax*, a bivalved sacoglossan mollusc in Japan. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 9: 37–62, pls 1–4.
- 馬場菊太郎 1964 (Jan.). 志摩半島の様相と後鰓類の分布とについて. 南紀生物, 6: 10–12.
- Baba, K. 1968 (1 Jan.). A revised description of *Alderia nigra* Baba, 1937, type species of *Alderopsis*, n. g., from Japan (Opisthobranchia–Sacoglossa). *Bijdragen tot de Dierkunde*, 38: 5–11, pls 1–2.
- Baker, H.B. 1963 (22 Nov.). Type land snails in the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, Part II. Land Pulmonata, exclusive of North America, North Mexico. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 115: 191–259.
- Baker, H.B. 1964 (20 Oct.). Type land snails in the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, Part III. Linnophile and thalassophile Pulmonata. Part IV. Land and fresh-water Prosobranchia. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 116: 149–193.
- Bandel, K. & El-Nakhal, H.A. 1993 (Dec.). The history and relationship of *Scaliola*, a gastropod that cements particles to its shell. *Mitteilungen der Geologisch-Paläontologische Institut, Universität Hamburg*, 75: 171–191.
- Barco, A., Claremont, M., Reid, D.G., Houart, R., Bouchet, P., Williams, S.T., Cruaud, C., Coulloux, A. & Oliverio, M. 2010 (Sept.). A molecular phylogenetic framework for the Muricidae, a diverse family of carnivorous gastropods. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 56: 1025–1039.
- Barco, A., Herbert, G., Houart, R., Fassio, G. & Oliverio, M. 2017. A molecular phylogenetic framework for the subfamily Ocenebrinae (Gastropoda, Muricidae). *Zoologica Scripta*, 46: 322–335.
- Bargues, M.D., Artigas, P., Khoubbane, M., Flores, R., Glöer, P., Rojas-García, R., Ashrafi, K., Falkner, G. & Mas-Coma, S. 2011 (29 Sept.). *Lymnaea schirazensis*, an overlooked snail distorting Fascioliasis data: genotype, phenotype, ecology, worldwide spread, susceptibility, applicability. *Plos ONE*, 6(9): e24567. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0024567>
- Barnard, K.H. 1964 (Mar.). Contributions to the knowledge of South African marine Mollusca. Part V. Lamellibranchiata. *Annals of the South African Museum*, 47: 361–593.
- Bartsch, P. 1915 (28 Jul.). Report on the Turton Collection of South African marine mollusks, with additional notes on other South African shells contained in the United States National Museum. *United States National Museum, Bulletin*, 91: i–xii, 1–305, pls 1–54.
- Bartsch, P. 1941 (26 Feb.). The nomenclatural status of certain northern turritid mollusks. *Proceedings of the Biological Society of Washington*, 54: 1–13, pl. 1.
- Basch, P.F. 1963 (8 Jul.). A review of the Recent freshwater limpet snails of North America (Mollusca: Pulmonata). *Bulletin of the Museum of Comparative Zoology at Harvard College*, 129: 399–461.
- Bavay, A. 1904 (25 Oct.). Descriptions de quelques nouvelles espèces du genre *Pecten* et rectifications. *Journal de Conchyliologie*, 52: 197–206, pl. 6.
- Bayer, C. 1935. Catalogue of the Cassididae in the Rijksmuseum van Natuurlijke Historie. *Zoologische Mededelingen*, 18: 93–120.
- Bayle, E. 1880. Liste rectificative de quelques noms de genres et d'espèces. *Journal de Conchyliologie*, 28: 240–251.
- Behrens Yamada, S. & Sankurathri, C.S. 1977 (1 Oct.). Direct development in the intertidal gastropod *Batillaria zonalis* (Bruguière, 1792). *The Veliger*, 20: 179.
- Benson, W.H. 1836 (Nov.). Descriptive catalogue of a collection of land and fresh-water shells, chiefly contained in the Museum of the Asiatic Society. Part 2. — Fluvial shells. *The Journal of the Asiatic Society of Bengal*, 5: 741–750.

- Benson, W.H. 1842. 5. Mollusca. In Cantor, T., General features of Chusan, with remarks on the flora and fauna of that island (part 3). *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, First Series, **9**: 486–490.
- Benson, W.H. 1850. Characters of nine new or imperfectly described species of *Planorbis* inhabiting India and China. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Second Series, **5**: 348–352.
- Bentham Jutting, W.S.S. van 1958. Non-marine Mollusca of the island of Misool. *Nova Guinea, new ser.*, **9**: 293–338.
- Bentham Jutting, W.S.S. van 1963. Non-marine Mollusca of west New Guinea. Part 1, Mollusca from fresh and brackish waters. *Nova Guinea, Zoology*, **20**: 409–521.
- Bernard, F.R. 1983. *Catalogue of the living Bivalvia of the Eastern Pacific Ocean: Bering Strait to Cape Horn*. Canadian Special Publication of Fisheries and Aquatic Sciences 61. Department of Fisheries and Oceans, Government of Canada, Ottawa.
- Bernard, F.R. Cai, Y.-Y. & Morton, B. 1993. *A catalogue of the living marine bivalve molluscs of China*. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Bertin, V. 1878. Révision des tellinidés du Muséum d'Histoire Naturelle. *Nouvelles Archives du Muséum d'Histoire Naturelle*, Deuxième série, **1**: 201–361, pls 8–9.
- Bertin, V. 1880. Révision des garidées du Muséum d'Histoire Naturelle. *Nouvelles Archives du Muséum d'Histoire Naturelle*, Deuxième série, **3**: 57–129, pls 4–5.
- Bespalaya, Y.V., Bolotov, I.N., AksenoVA, O.V., Gofarov, M.Y., Kondakov, A.V., Vikhrev, I.V. & Vinarski, M.V. 2017 (online 6 Dec.; printed Mar. 2018). DNA barcoding reveals invasion of two cryptic *Sinanodonta* mussel species (Bivalvia: Unionidae) into the largest Siberian river. *Limnologica*, **69**: 94–102.
- Beu, A.G. 1998 (9 Oct.). Indo-West Pacific Ranellidae, Bursidae and Personidae (Mollusca: Gastropoda). A monograph of the New Caledonian fauna and revisions of related taxa. *Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle*, **178**: 1–255.
- Beu, A.G. 1999 (21 Aug.). Ranellidae, Bursidae and Personidae (Gastropoda: Tonnoidea) of Yamaguchi Prefecture, western Honshū, Japan. *The Yuriyagai*, **7**: 1–91.
- Beu, A.G. 2004 (Jun.). Marine Mollusca of oxygen isotope stages of the last 2 million years in New Zealand. Part 1: Revised generic positions and recognition of warm-water and cool-water migrants. *Journal of the Royal Society of New Zealand*, **34**: 111–265.
- Bichain, J.-M., Gaubert, P., Samadi, S. & Boisselier-Dubayle, M.-C. 2007 (Dec.). A gleam in the dark: Phylogenetic species delimitation in the confusing spring-snail genus *Bythinella* Moquin-Tandon, 1856 (Gastropoda: Rissooidea: Amnicolidae). *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **45**: 927–941.
- Bieler, R. 1992 (27 Feb.). *Tenagodus* or *Siliquaria*? Unraveling taxonomic confusion in marine “worm-snails” (Cerithioidea: Siliquariidae). *The Nautilus*, **106**: 15–20.
- Bieler, R. 1993 (15 Dec.). Architectonicidae of the Indo-Pacific (Mollusca, Gastropoda). *Abhandlungen des Naturwissenschaftlichen Vereins in Hamburg*, **30**: 1–376.
- Bieler, R. 1995 (29 Dec.). Mathildidae from New Caledonia and the Loyalty Islands (Gastropoda: Heterobranchia). In Bouchet, P. (Ed.), Résultats des Campagnes MUSORSTOM, Volume 14. *Mémoires du Muséum National d'Histoire naturelle, Série A, Zoologie*, **167**: 595–641.
- Bieler, R. 1996 (Dec.). Mörch's worm-snail taxa (Caenogastropoda: Vermetidae, Siliquariidae, Turritellidae). *American Malacological Bulletin*, **13**: 23–35.
- Bieler, R., Carter, J.G. & Coan, E.V. 2010 (7 May). Classification of bivalve families. *Malacologia*, **52**: 113–184.
- Bieler, R., Mikkelsen, P.M., Collins, T.M., Glover, E.A., González, V.L., Graf, D.L., Harper, E.M., Healy, J., Kawachi, G.Y., Sharma, P.P., Staubach, S., Strong, E.E., Taylor, J.D., Tëmkin, I., Zardus, J.D., Clark, S., Guzmán, A., McIntyre, E., Sharp, P. & Giribet, G. 2014 (20 Mar.). Investigating the bivalve tree of life – an exemplar-based approach combining molecular and novel morphological characters. *Invertebrate Systematics*, **28**: 32–115.
- Bieler, R. & Petit, R.E. 2011 (8 Jul.). Catalogue of Recent and fossil “worm-snail” taxa of the families Vermetidae, Siliquariidae, and Turritellidae (Mollusca: Caenogastropoda). *Zootaxa*, **2948**: 1–103.
- Blainville, H.M.D. de 1824. Mollusques. In Cuvier, F. (Ed.), *Dictionnaire des sciences naturelles, dans lequel on traite méthodiquement des différens êtres de la nature, considérés soit en eux-mêmes, d'après l'état actuel de nos connoissances, soit relativement à l'utilité qu'en peuvent retirer la médecine, l'agriculture, le commerce et les artes. Suivi d'une biographie des plus célèbres naturalistes*, Tome 32. F.G. Levrault, Paris.
- Blanford, W.T. 1867 (17 Aug.). Contributions to Indian malacology, No. VIII. List of estuary shells collected in the delta of Irawady, in Pegu, with descriptions of the new species. *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, **36**(2): 51–72, pls 12(1)–14(3).
- Boettger, O. 1877. Clausilienstudien. *Palaeontographica Supplement*, **3**(6): 1–122, pls 1–4.
- Boettger, O. 1878. Neue recente Clausilien. I. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **5**: 33–61, 97–107, pls 2–4.
- Boettger, O. 1893 (Jul.). Die marinen Mollusken der Philippinen, nach den Sammlungen des Herrn José Florencio Quadras in Manila. I. Die Rissoiden, II. Assimineiden. *Nachrichtsblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **25**: 97–115.
- Boettger, O. 1902. Zur Kenntnis der Fauna der mittelmiozänen Schichten von Koste im Krassó-Szörényer Komitat. *Verhandlungen und Mitteilungen des Siebenbürgischen vereins für Naturwissenschaften zu Hermannstadt*, **51**: 1–200.
- Bogan, A.E. & Do, V.T. 2011 (1 Sept.). Clarification of the authorship and date of publication of three Asian species of Unionidae (Bivalvia): *The Nautilus*, **125**: 171–172.
- Bogatov, V.V., Prozorova, L.A. & Starobogatov, Y.I. 2003. The family Margaritiferidae (Mollusca: Bivalvia) in Russia. *Ruthenica*, **13**: 41–52.
- Bolotov, I.N., Bespalaya, Y.V., Gofarov, M.Y., Kondakov, A.V., Konopleva, E.S. & Vikhrev, I.V. 2016 (online 2 Jun.; printed Aug.). Spreading of the Chinese pond mussel, *Sinanodonta woodiana*, across Wallacea: One or more lineages invade tropical islands and Europe. *Biochemical Systematics and Ecology*, **67**: 58–64.
- Bolotov, I.N., Bespalaya, Y.V., Vikhrev, I.V., AksenoVA, O.V., Aspholm, P.E., Gofarov, M.Y., Klishko, O.K., Kolosova, Y.V., Kondakov, A.V., Lyubas, A.A., Paltser, I.S., Konopleva, I.S., Tumpeesuwan, S., Bolotov, N.I. & Voroshilova, I.S. 2015 (26 May). Taxonomy and distribution of freshwater pearl mussels (Unionoida: Margaritiferidae) of the Russian Far East. *PLoS ONE*, **10**: e0122408. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0122408>
- Born, I.E. von 1778. *Ignatii a Born ... Index rerum naturalium Musei Caesarei Vindobonensis. Pars I^{ma}. Testacea. Verzeichniß der natürlichen Seltenheiten des K.K. naturalien Cabinets zu Wien, Erster Theil, Schalthiere*. Ex Officina Krausiana, Vindobonae.

軟体動物

- Bosch, D. & Bosch, E. 1982. *Seashells of Oman*. Longman Group Limited, London & New York.
- Bosch, D.T., Dance, S.P., Moolenbeek, R.G. & Oliver, P.G. 1995. *Seashells of Eastern Arabia*. Motivate Publishing, Dubai.
- Boss, K.J. 1969 (31 Oct.). The subfamily Tellininae in South African waters (Bivalvia, Mollusca). *Bulletin of the Museum of Comparative Zoology*, **138**: 81–162.
- Bouchet, P., Kantor, Y.I., Syssoev, A. & Puillandre, N. 2011 (1 Aug.). A new operational classification of the Conoidea (Gastropoda). *Journal of Molluscan Studies*, **77**: 273–308.
- Bouchet, P., Rocroi, J.-P., Hausdorf, B., Kaim, A., Kano, Y., Nützel, A., Parkhaev, P., Schrödl, M. & Strong, E.E. 2017. Revised classification, nomenclator and typification of gastropod and monoplacophoran families. *Malacologia*, **61**: 1–526.
- Bouchet, P. & Strong, E. 2008 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Bouge, L.J. & Dautzenberg, P. 1914 (31 Jan.). Les Pleurotomidés de la Nouvelle Calédonie et de ses dépendances. *Journal de Conchyliologie*, **61**: 123–214.
- Bourguignat, J.R. 1861. Catalogue des mollusques de la famille des paludines recueillis jusqu'à ce jour, en Sibérie et sur la territoire de l'Amour. *Revue et Magasin de Zoologie Pure et Appliquée*, 2e Série, **12** (for Dec. 1860): 531–537, pls 23–24.
- Bourguignat, J.B. [sic] 1862. Descriptions des Paludines de l'Algérie, des *Vivipara* d'Europe et de deux espèces nouvelles de la famille des Paludines. *Revue et Magasin de Zoologie Pure et Appliquée*, 2e Série, **14**: 93–118, pl. 5.
- Brancsik, K. 1891. Descriptio Conchyliorum novorum. *Jahresheft des Naturwissenschaftlichen Vereines des Trencsiner Comitatus*, for 1890–1891: 80–81, pl. 7. [Not seen]
- Bratcher, T. & Cernohorsky, W.O. 1987. *Living terebras of the world. A monograph of the Recent Terebridae of the world*. American Malacologists Inc., Melbourne.
- Brauns, D. 1881. Geology of the Environs of Tokio. *Memoirs of the Science Department, Tokio Daigaku (University of Tokio)*, (4): i–vii, 1–82, pls 1–8.
- Brazier, J. 1876. A list of the Pleurotomidae collected during the Chevert Expedition, with the description of the new species. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, **1**: 151–162.
- Brazier, J. 1878. Continuation of the Mollusca of the Chevert Expedition. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, **2**: 1–6.
- Breure, A.S.H., Audibert, C. & Ablett, J.D. 2018. *Pierre Marie Arthur Morelet (1809–1892) and his contributions to malacology*. Nederlandse Malacologische Vereniging, Leiden.
- Broderip, W.J. 1833 (14 Jan.). Characters of new species of Mollusca and Conchifera, collected by Mr. Cuming. *Proceedings of the Committee of Science and Correspondence of the Zoological Society of London*, part 2 (for 1832): 173–179.
- Broderip, W.J. 1835. Descriptions of some new species of Calyptraeidae. *Transactions of the Zoological Society of London*, **1**: 195–206, pls 27–29.
- Broderip, W.J. & Sowerby, G.B. I 1835 (1 Jun.). Characters of new genera and species of Mollusca and Conchifera, collected by Mr. Cuming. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 3: 41–48.
- Brot, A. 1862–1872. *Matériaux pour servir à l'étude de la famille des mélaniens. Catalogue systématique des espèces qui composent la famille des mélaniens*. Vols 1–3. Imprimerie de J.-G. Fick, Genève.
- Brot, A. 1874–1879. Die Melaniaceen (Melanidae). In *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Ersten (1) Bandes, Vierundzwanzigste (24) Abtheilung*, pp. 1–488 and pls 1–49. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–32 and pls 1–6 in 1874; pp. 33–128 and pls 7–18 in 1875; pp. 129–192 and pls 19–24 in 1876; pp. 193–352 and pls 25–36 in 1877; pp. 353–488 and pls 37–49 in 1879; according to Coan & Kabat, 2015: 24).
- Brown, L. 2008 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Brown, L.G. & Neville, B.D. 2015 (15 Jan.). Catalog of the Recent taxa of the families Epitoniidae and Nystiellidae (Mollusca: Gastropoda) with a bibliography of the descriptive and systematic literature. *Zootaxa*, **3907**: 1–188.
- Bruguière, J.G. 1789–1792. *Encyclopédie méthodique, ou par ordre des matières. Histoire naturelle des vers*, Tome 1 [i–xviii, 1–344 in Jan. 1789; 345–585 in 13 Feb. 1792]. Chez Panckoucke, Paris.
- Bruguière, M. [J.G.] 1791, 1792, 1797. *Tableau encyclopédique et méthodique des trois règnes de la nature. Contenant l'helminthologie, ou les vers infusoires, les vers intestins, les vers mollusques, &c.* Vols 1, 2. Panckoucke, Paris. [pp. i–viii, 1–83 and pls 1–95 on 30 Jul. 1791; pp. 85–132 and pls 96–189, 107a–c in May 1792; pls 190–286 on 8 Jul. 1797; according to Coan & Kabat, 2018: 9–10]
- Buonanni, F. 1684. *Recreatio mentis et oculi in observatione animalium testaceorum. Curiositas naturae inspectoribus. Italico fermone primum proposita a P. Philippo Bonanno. Nunc denuò ab eodem Latine oblata, centum additis testaceorum iconibus, circa quae varia problemata proponuntur*. Ex typographia Varesii, Romae.
- Burch, J.B. 1964 (17 Jun.). A new species of freshwater limpet, genus *Gundlachia*, from Japan. *Occasional Papers of the Museum of Zoology, University of Michigan*, (637): 1–7.
- Burch, J.B. 1965 (25 Feb.). Cytotaxonomic studies of freshwater limpets (Gastropoda: Basommatophora) III. Japanese *Ferrissia* and *Gundlachia*. *Malacologia*, **2**: 253–258.
- Burn, R. 1960a (9 Apr.). A bivalve gastropod. *Nature*, **186**(4719): 179.
- Burn, R. 1960b (2 Jul.). Australian bivalve gastropods. *Nature*, **187**(4731): 44–46.
- Burn, R. 1960c (19 Nov.). Occurrence of bivalve gastropods along the coast-line of New South Wales. *Nature*, **188**(4751): 680–681.
- Burn, R. 1965 (1 May). Rediscovery and taxonomy of *Edentellina typica* Gatliff & Gabriel. *Nature*, **206**(4985): 735–736.
- Callomon, P. 2000 (31 Mar.). On *Macoma (Rexithaerus) sector* Oyama, 1950. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **59**: 57–58.
- Callomon, P. & Petit, R.E. 2004 (31 Oct.). Tadashige Habe's 'Coloured illustrations of the shells of Japan (II)' and 'Shells of the western Pacific in color Vol. 2': Comparison of printings and treatments of included taxa. *Venus*, **Supplement 3**: 1–59.

- Callomon, P. & Snyder, M.A. 2004 (30 Jun.). Some *Fusinus* (Gastropoda: Fasciolaridae) from Japan, with type selections. *Venus*, **63**: 13–27.
- Callomon, P. & Snyder, M.A. 2019 (31 Jan.). The genus *Fusinus* in the northwestern Pacific. *Special Publication of the Malacological Society of Japan*, (4): 1–122.
- Carter, J.G. 1978 (Dec.). Ecology and evolution of the Gastrochaenacea (Mollusca, Bivalvia) with notes on the evolution of the endolithic habitat. *Bulletin, Peabody Museum of Natural History, Yale University*, (41): 1–92.
- Cecalupo, A. & Perugia, I. 2017 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Cernohorsky, W.O. 1971 (17 Dec.). Indo-Pacific Pisaniinae (Mollusca: Gastropoda) and related buccinid genera. *Records of the Auckland Institute and Museum*, **8**: 137–167.
- Cernohorsky, W.O. 1972. *Marine shells of the Pacific, Vol. II*. Pacific Publications, Sydney.
- Cernohorsky, W.O. 1974 (31 Aug.). Remarks on the taxonomy of Japanese Nassariidae. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **33**: 51–64.
- Cernohorsky, W.O. 1976 (28 Sept.). The Mitridae of the world. Part I. The subfamily Mitrinae. *Indo-Pacific Mollusca*, **3**(17): 273–528.
- Cernohorsky, W.O. 1978. *Tropical Pacific marine shells*. Pacific Publications, Sydney.
- Cernohorsky, W.O. 1984 (12 Jul.). Systematics of the family Nassariidae (Mollusca: Gastropoda). *Bulletin of the Auckland Institute and Museum*, (14): i–iv, 1–356.
- Chaban, E.M. & Chernyshev, A.V. 2016 (print Jul.; online 3 Sept.). The first finding of *Smaragdina sieboldi* A. Adams, 1864 (Opisthobranchia: Haminoecidae) in the South China Sea with description of the anatomy of the species. *Russian Journal of Marine Biology*, **42**: 362–367.
- 张镇国 1995 (Oct.). 台湾绿岛小贝中塔螺的分类研究. *海洋科学集刊*, (36): 273–296, pls 1–5.
- Chang, C.-K. 2001. *Small turrids of Taiwan*. A CD-book at *Internet Hawaiian Shell News*, Hawaii. <https://www.conchology.be/?t=5002&year=Turrids&volume=0&hsn=10844>
- Chang, C.-K. 2002 (May). Small mollusks from Lutaotai, Taiwan. Chapter III, Part 2, Opisthobranchia (excluding Pyramideliidae [sic]). *Internet Hawaiian Shell News*, (5): 2–14. <https://www.conchology.be/?t=5002&year=2002&volume=5&hsn=10617>
- Chavan, A. 1969 → Moore, R.C. 1969
- Chavan, A.L. 1938. Essai critique de classification des Lucines. *Journal de Conchyliologie*, **82**: 215–243.
- Chemnitz, J.H. 1780, 1782, 1786, 1788, 1795. *Neues systematisches Conchylien-Cabinet*, Bd. 4, 6, 9, 10, 11. Bey Gabriel Nikolaus Raspe, Nürnberg.
- Chen, A.H., Li, Z.X. & Feng, G.N. 2009 (Jun.). Phylogenetic relationships of the genus *Meretrix* (Mollusca: Veneridae) based on mitochondrial COI gene sequences. *Zoological Research*, **30**: 233–239.
- Chen, J., Li, Q., Kong, L. & Yu, H. 2011 (16 Jun.). How DNA barcodes complement taxonomy and explore species diversity: The case study of a poorly understood marine fauna. *PLoS ONE*, **6**: e21326. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0021326>
- 千葉 昇 2014. タガイ. In 愛媛県レッドデータブック改訂委員会 (編), *愛媛県レッドデータブック 2014*. 愛媛県, 松山. [2019年9月15日閲覧] https://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/07_07_013720_3.html
- 千葉県環境生活部自然保護課 2019 (Mar.). 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編 2019年改訂版. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉. <http://www.bdechiba.jp/endangered/2019/redlist2019.pdf>
- 茅根士郎 1979 (20 Dec.). 家畜の双口吸虫. *日本獣医師会雑誌*, **32**: 661–670.
- 茅根士郎・渡辺喜八郎・大高 崇・板垣 匡・板垣 博 1985 (20 Nov.). 福島県の自然感染員から得られた双口吸虫. *日本獣医師会雑誌*, **38**: 733–737.
- Chiu, Y., Chen, H., Lee, S. & Chen, C.A. 2002 (5 Jun.). Morphometric analysis of shell and operculum variations in the viviparid snail, *Cipangopaludina chinensis* (Mollusca: Gastropoda), in Taiwan. *Zoological Studies*, **41**: 321–331.
- 邱郁文・顔易君 2013. 102年度金門湿地動植物資源調査(1/3)成果報告. 金門國家公園管理處委託辦理報告. 金門國家公園管理處, 金門. http://www.kmnp.gov.tw/natural_study/conservation_work_report_info/168
- Choe, B.L., Je, J.-G. & Lee, T.H. 1997 (Jun.). Classification and description of Conoidea (Gastropoda: Neogastropoda) from Korean waters. *The Korean Journal of Systematic Zoology*, **13**: 103–140. (in Korean with English title and abstract)
- Christiaens, J. 1980. The limpets of Hong Kong with descriptions of seven new species and subspecies. In Morton, B. (Ed.), *The malacofauna of Hong Kong and southern China: Proceedings of the 1st International Workshop 23 March – 8 April 1977, Hong Kong*, 61–84. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- 中国四国農政局 児島湖沿岸農地防災事業所 2006 (Mar.). 平成17年度 児島湖沿岸地区農地防災事業 事業効果取りまとめ委託業務(生態系編) 報告書. 社団法人農村環境整備センター, 岡山.
- 中国新聞社 1989 (3 Apr.). 30歳児島湖 湖岸を歩く①. 浄化センターから県運転免許試験場へ. *中国新聞*, 1989年4月3日.
- Clessin, S. 1840–1890. Die Familie der Mytilidae. In *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. Mollusca Elatobranchia. Mytiloidea. Miesmuscheln. *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Achter (8) Bandes, Dritte (3) Abtheilung*, 1–170, pls 1–36. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (1840–1841 by Küster, 1886–1890 by Clessin; pp. 1–8 and pls 1, 3–5 in 1840; pp. 9–12 and pls 2, 6 in 1841; pp. 13–28 and pls 7–12 in 1886; pp. 29–124 and pls 13–32 in 1887; pp. 125–132 and pls 33–34 in 1888; pp. 133–156 and pls 35–36 in 1889; pp. 157–170 in 1890; according to Coan & Kabat, 2015: 49).
- Clessin, S. 1842–1888, Die Familie der Solenaceen. In *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Elften (11) Bandes, Dritte (3) Abtheilung*, 1–106, pls 1–25. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pls 3, 5 in 1842 (by Küster), pp. 1–16 and pls 1–2, 4, 6–7 in 1887, pp. 17–96 and pls 8–25 in 1888, pp. 97–106 in 1889).
- Clessin, S. 1874–1879. Die Familie der Cycladeen. *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Neunten (9) Bandes, Dritte (3) Abtheilung*, 1–283, pls 1–46. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg (pp. 1–40 and pls 1–6 in 1874, pp. 41–48 in 1875,

軟体動物

- pp. 49–56 in 1876, pp. 57–160 and pls 7–30 in 1877, pp. 161–200 and pls 31–42 in 1878, pp. 201–283 and pls 43–46 in 1879; according to Coan & Kabat, 2015: 53).
- Climo, F.M. 1980 (18 Jul.). Smeagolida, a new order of gymnomorph mollusc from New Zealand based on a new genus and species. *New Zealand Journal of Zoology*, **7**: 513–522.
- Coan, E.V. & Kabat, A.R. 2012 (28 Dec.). The malacological works and taxa of Sylvanus Hanley (1819–1899). *Malacologia*, **55**: 285–359.
- Coan, E.V. & Kabat, A.R. 2015 (30 Dec.). Annex 2: Collation of the Systematisches Conchylien-Cabinet (1837–1920). *2,400 years of malacology*. The American Malacological Society. <https://ams.wildapricot.org/2400-Years-of-Malacology>
[https://ams.wildapricot.org/resources/Documents/2400collations\(Kuster\).pdf](https://ams.wildapricot.org/resources/Documents/2400collations(Kuster).pdf)
- Coan, E.V. & Kabat, A.R. 2018 (11 Sept.). Annex 1: Collations of books of malacological significance. *2,400 years of malacology*. The American Malacological Society. <https://ams.wildapricot.org/2400-Years-of-Malacology>
<https://ams.wildapricot.org/resources/Documents/2400collations.pdf>
- Coan, E.V., Lutaenko, K.A., Zhang, J. & Sun, Q. 2015 (30 Apr.). The molluscan taxa of A.W. Grabau & S.G. King (1928) and their types. *Malacologia*, **58**: 179–224.
- Colonna, F. 1616. *De purpura ab Animalis testaceo fusa, de hoc ipso Animalis, aliisque rarioribus testaceis quibusdam*. Apud Jacobum Mascardum, Romae.
- Conrad, T.A. 1837. Descriptions of new marine shells, from Upper California. Collected by Thomas Nuttall, Esq. *Journal of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **7**: 227–268, pls 17–20.
- Cooke, A.H. 1885. Report on the testaceous Mollusca obtained during a dredging-excursion in the Gulf of Suez in the months of February and March 1869. By Robert MacAndrew. — Republished, with additions and corrections. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Fifth Series, **16**: 32–50.
- Cooke, A.H. 1886. Report on the testaceous Mollusca obtained during a dredging-excursion in the Gulf of Suez in the months of February and March 1869. By Robert MacAndrew. — Republished, with additions and corrections. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Fifth Series, **17**: 128–142.
- Cooke, S., Hanson, D., Hirano, Y., Ornelas-Gatdula, E., Gosliner, T.M., Chernyshev, A.V. & Valdés, Á. 2014 (online 29 May; printed Jul.). Cryptic diversity of *Melanochlamys* sea slugs (Gastropoda, Aglajidae) in the North Pacific. *Zoologica Scripta*, **43**: 351–369.
- Cosel, R. von 1998 (30 Nov.). Mayor Lischke and the Japanese marine shells. A bio-bibliography of Carl Emil Lischke and a brief history of marine malacology in Japan with bibliography. *The Yuriyagai*, **6**: 7–50.
- Cox, L.R. & Rees, W.J. 1960 (12 Mar.). A bivalve gastropod. *Nature*, **185**(4715): 749–750.
- Crosse, H. 1861. Etude sur le genre Cancellaire, suivie du catalogue des espèces vivantes et fossiles actuellement connues. *Journal de Conchyliologie*, **9**: 220–256.
- Crosse, H. 1862. Description d'espèces marines recueillies par M.G. Cuming dans le nord de la Chine. *Journal de Conchyliologie*, **10**: 51–57, pl. 1.
- Crosse, H. 1864. Note sur les psammobies des côtes d'Algérie et description d'une espèce nouvelle. *Journal de Conchyliologie*, **12**: 16–19, pl. 2.
- Crosse, H. 1878. Description d'une nouvelle espèce de Mitre, provenant du Japon. *Journal de Conchyliologie*, **26**: 57–59, pl. 1.
- Crosse, H. & Debeaux, O. 1863a (1 Jan.). Diagnoses d'espèces nouvelles du nord de la Chine. *Journal de Conchyliologie*, **11**: 77–79.
- Crosse, H. & Debeaux, O. 1863b (1 Jul.). Note sur quelques espèces nouvelles ou peu connues du littoral de l'empire chinois. *Journal de Conchyliologie*, **11**: 253–265, pls 9–10.
- Crosse, H. & Debeaux, O. 1863c. Diagnose d'un *Glauconome* nouveau, du nord de la Chine. *Journal de Conchyliologie*, **11**: 177.
- Dall, W.H. 1898 (Apr.). Contributions to the Tertiary fauna of Florida with especial reference to the silex beds of Tampa and the Pliocene beds of the Caloosahatchee River including in many cases a complete revision of the generic groups treated of and their American Tertiary species. Part IV. I. Prionodesmacea: *Nucula* to *Julia*. II. Teleodesmacea: *Teredo* to *Ervilia*. *Transactions of the Wagner Free Institute of Science of Philadelphia*, **3**(4): vii–viii, 571–947, pls 23–35.
- Dall, W.H. 1925 (22 Sept.). Illustrations of unfigured types of shells in the collection of the United States National Museum. *Proceedings of the United States National Museum*, **66**(2554): 1–41, pls 1–36.
- Dall, W.H. & Bartsch, P. 1906 (9 May). Notes on Japanese, Indopacific and American Pyramidellidae. *Proceedings of the United States National Museum*, **30**: 321–369, pls 17–26.
- Dall, W.H., Bartsch, P. & Rehder, H.A. 1938 (25 Jul.). A manual of the Recent and fossil, marine pelecypod mollusks of the Hawaiian Islands. *Bernice P. Bishop Museum Bulletin*, **153**: i–iv, 1–233, pls 1–58.
- d'Argenville, A.-J. D. 1742. *L'histoire naturelle éclaircie dans deux de ses parties principales, la lithologie et la conchyliologie, dont l'une traite des pierres et l'autre des coquillages, ouvrage dans lequel on trouve une nouvelle méthode & une notice critique des principaux auteurs qui ont écrit sur ces matières. Enrichi de figures dessinées d'après nature*. Chez de Bure l'Ainé, Paris.
- Dautzenberg, P. 1929. Mollusques testacés marins de Madagascar. *Faune des colonies françaises*, III (fasc. 4), 321–636, pls 4–7. Société d'Éditions, Géographiques, Maritimes et Coloniales, Paris.
- Davis, G.M. 1967 (31 Dec.). The systematic relationship of *Pomatiopsis lapidaria* and *Oncomelania hupensis formosana* (Prosobranchia: Hydrobiidae). *Malacologia*, **6**: 1–143.
- Davis, G.M. 1979. The origin and evolution of the gastropod family Pomatiopsidae, with emphasis on the Mekong River Triculinae. *Academy of Natural Sciences of Philadelphia Monograph*, **20**: 1–120.
- Davis, G.M., Guo, Y.H., Hoagland, K.E., Zheng, L.C., Yang, H.M. & Zhou, Y.F. 1986. Anatomy of *Stenothyra divalis* from the People's Republic of China and description of a new species of *Stenothyra* (Prosobranchia: Rissoacea: Stenothyridae). *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **138**: 318–349.
- Dayrat, B., Conrad, M., Balayan, S., White, T.R., Albrecht, C., Golding, R., Gomes, S.R., Harasewych, M.G. & Martins, A.M. de F. 2011 (online 23 Feb.; print May). Phylogenetic relationships and evolution of pulmonate gastropods (Mollusca): New insights from increased taxon sampling. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **59**: 425–437.
- Dayrat, B., Goulding, T.C. & White, T.R. 2014 (14 Mar.). Diversity of Indo-West Pacific *Siphonaria* (Mollusca: Gastropoda: Euthyneura). *Zootaxa*, **3779**: 246–276.

- de Boury, E. 1913. Description de Scalidae nouveaux ou peu connus (suite). *Journal de Conchyliologie*, **60**: 169–196, pl. 8.
- De Elera, C. 1896. *Catálogo Sistemático de toda la Fauna de Filipinas conocida hasta el presente, y a la vez el de la colección zoológica del Museo de PP. Dominicós del Colegio-Universidad de Sto. Tomás de Manila, escrito con motivo de la exposición regional Filipina, Volumen III. Moluscos y Radiados*. Imprenta del colegio de Santo Tomás, Manila.
- Dekker, H. & Orlin, Z. 2000. Check-list of Red Sea Mollusca. *Spirula*, **47**(Supplement): 3–46.
- Delongueville, C. & Scaillet, R. 2005 (10 Dec.). Illustration de *Gastrochaena cymbium* Spengler, 1783 en Méditerranée orientale sur *Hexaplex pecchiolianus* (d'Ancona, 1871). *Novapex, Trimestriel de la Société Belge de Malacologie*, **6**: 129–131.
- Deshayes, G.P. 1824–1837. *Description des coquilles fossiles des environs de Paris*. L'auteur, chez Bechet jeune [etc.], Paris. Vol 1 (Bivalvia): 1–80, pls 1–11 (1824), 81–170, pls 12–29 (1825), 171–238, pls 30–36 (1829), 239–322, pls 37–46 (1830), 323–392 (1832); vol. 2: 1–80, pls 1–8 (1824), 81–146, pls 9–17 (1825), 147–290, pls 18–40 (1832), 291–426, pls 41–61 (1833), 427–498, pls 62–78 (1834), 499–780, pls 79–106 (1835), 781–814 (1837).
- Deshayes, G.P. 1830, 1832. *Encyclopédie méthodique, ou par ordre des matières. Histoire naturelle des vers*, Tome 2(1, 2), 3 [2(1): i–vii, 1–256 in 1 Feb. 1830; 2(2): 1–144 in 1 Feb. 1830, 145–594 in 29 Sept. 1832; 3: 595–1152 in 29 Sept. 1832]. Chez Panckoucke, Paris.
- Deshayes, G.P. 1836, 1838, 1844, 1845. *Histoire naturelle des animaux sans vertèbres, présentant les caractères généraux et particuliers de ces animaux, leur distribution, leurs classes, leurs familles, leurs genres, et la citation des principales espèces qui s'y rapportent; précédée d'une introduction offrant la détermination des caractères essentiels de l'animal, sa distinction du végétal et des autres corps naturels, enfin, l'exposition des principes fondamentaux de la zoologie*. Deuxième édition, revue et augmentée de notes présentant les faits nouveaux dont la science s'est enrichie jusqu'à ce jour; par MM. G.P. Deshayes et H. Milne Edwards, Tome septième (7; 1836), huitième (8; 1838), dixième (10; 1844), onzième (9; 1845), *Histoire des Mollusques*. J.B. Baillière, Londres.
- Deshayes, M. 1853–1854. *Catalogue of the Conchifera or bivalve shells in the collection of the British Museum. Part I. Veneridae, Cyprinidae and Glauconomidae* (1853). *Part II. Petricoladae* [sic] (concluded); *Corbiculadae* [sic] (1854). Printed by order of the Trustees, London.
- Deshayes, M.G.P. 1854 (27 Jun.). Descriptions of new species of shells in the collection of Mr. Cuming. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 21 (for 1853): 1–11, pls 18–19.
- Deshayes, M.G.P. 1855a (62–64 on 10 Jan.; 65–72 on 10 Feb.). Descriptions of new species of shells, from the collection of Hugh Cuming, Esq. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 22 (for 1854): 62–72.
- Deshayes, M.G.P. 1855b (317–320 on 8 May; 321–371 on 16 May). Descriptions of new shells from the collection of Hugh Cuming, Esq. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 22 (for 1854): 317–371.
- Debeaux, O. 1863 (1 Jul.). Notice sur la malacologie de quelques points du littoral de l'empire chinois. *Journal de Conchyliologie*, **11**: 239–252.
- Dharma, B. 2005. *Recent & fossil Indonesian shells*. ConchBooks, Hackenheim.
- Dijkstra, H.H. 1997. Results of the Rumphius Biohistorical Expedition to Ambon. Part 6. Mollusca, Bivalvia, Pectinidae. *Zoologische Mededelingen*, **71**: 313–343.
- Dijkstra, H.H. 1999 (Apr.). Type specimens of Pectinidae (Mollusca: Bivalvia) described by Linnaeus (1758–1771). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **125**: 383–443.
- Dijkstra, H.H. 2013 (6 Apr.). Pectinoidea (Bivalvia: Propeamussiidae and Pectinidae) from the Panglao region, Philippine Islands. *Vita Malacologica*, **10**: 1–108.
- Dijkstra, H.H. & Kilburn, R.N. 2001 (Dec.). The family Pectinidae in South Africa and Mozambique (Mollusca: Bivalvia: Pectinoidea). *African Invertebrates*, **42**: 263–321.
- Dijkstra, H.H. & Knudsen, J. 1998 (19 Nov.). Some Pectinoidea (Mollusca: Bivalvia: Propeamussiidae, Pectinidae) of the Red Sea. *Molluscan Research*, **19**: 43–103.
- Dillwyn, L.W. 1817. *A descriptive catalogue of Recent shells, arranged according to the Linnæan method; with particular attention to the synonymy*, Vols 1, 2. John and Arthur Arch, London.
- Do, V.T., Tuan, L.Q. & Bogan, A.E. 2018 (Apr.). Freshwater mussels (Bivalvia: Unionida) of Vietnam: diversity, distribution, and conservation status. *Freshwater Mollusk Biology and Conservation*, **21**: 1–18.
- Dodge, H. 1952 (19 Dec.). A historical review of the mollusks of Linnaeus. Part 1. The classes Loricata and Pelecypoda. *Bulletin of the American Museum of Natural History*, **100**: 1–263.
- Dodge, H. 1958 (1 Dec.). A historical review of the mollusks of Linnaeus. Part 6. The genus *Trochus* of the class Gastropoda. *Bulletin of the American Museum of Natural History*, **116**: 153–224.
- Dong, Z. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- Donovan, E. 1823–1827. *The naturalist's repository; or, monthly miscellany of exotic natural history: consisting of elegantly coloured plates with appropriate scientific and general descriptions of the most curious, scarce, and beautiful productions of nature that have been recently discovered in various parts of the world, and more especially such novelties as from their extreme rarity remain entirely undescribed, or which have not been duly noticed by any preceding naturalists*, Vols 1 (1822–1823), 2 (1823–1824), 3 (1824–1825), 4 (1825), 5 (1826). Printed for the author and W. Simpkin & R. Marshall, London. [See Coan & Kabat, 2018: 24–28]
- Doûmet, E. 1839. Nouvelle espèce de Pleurotoma. *Revue Zoologique, par la Société Cuvierienne*, for 1839: 324–325.
- Doûmet, E. 1840. G[enus]. Pleurotome. *Pleurotoma*. Lamarck. *Magasin de zoologie, d'anatomie comparée et de palaeontologie*, Deuxième (2) Série, Troisième Année, Mollusques Pls 10–11.
- Driscoll, A.L. 1972 (1 Apr.). Structure and function of the alimentary tract of *Batillaria zonalis* and *Cerithidea californica*, style-bearing mesogastropods. *The Veliger*, **14**: 375–386.
- Duclos, P.L. 1835. *Histoire naturelle générale et particulière de tous les genres de coquilles univalves marines, à l'état vivant et fossile, publiée par monographies; ou, description et classification méthodique de toutes les espèces connues jusqu'à ce jour, représentées en couleur avec la figure et l'anatomie d'un assez grand nombre de mollusques nouvellement découverts*. Genre Olive. Typographie de Firmin Didot frères, Paris.

軟体動物

- Ducros de St-Germain, A.M.P. 1857. *Revue critique du genre Oliva de Bruguières*. Thibaud, Clermont. [also published in *Annales Scientifiques, Littéraires et Industrielles de l'Auvergne*, **30**: 289–402, pls 1–3.]
- Dunker, G. 1846a (Feb.). Diagnoses molluscorum novorum, quae ex itinere ad aras Africae occidentalis reportavit cl. G. Tams, Med. Dr. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **3**: 24–28.
- Dunker, G. 1846b (Jul.). Diagnoses molluscorum novorum. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **3**: 108–112.
- Dunker, G. 1848 (14 Nov.). Diagnoses specierum novarum generis *Planorbis* collectionis Cumingianae. *Proceedings of the Zoological Society of London*, Part 16: 40–43.
- Dunker, W. 1855 (11 Nov.). *Commentatio de Septiferis genere Mytilaceorum et de Dreissenis*. Bayrhofferi Academicis, Marburg.
- Dunker, G. 1857 (8 May). Mytilacea nova collectionis Cumingianae, descripta a Guil. Dunker. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 24 (for 1856): 358–366.
- Dunker, W. 1858–1878. *Novitates conchologicae, Mollusca marina. Beschreibung und Abbildung neuer oder wenig gekannter Meeres-Conchylien*. Fischer, Cassel. (pp. 1–32 and pls 1–9 in 1858; pp. 33–42 and pls 10–12 in 1862; pp. 43–58 and pls 13–18 in 1863; pp. 59–66 and pls 19–21 in 1864; pp. 67–82 and pls 22–27 in 1865; pp. 83–90 and pls 28–30 in 1866; pp. 91–106 and pls 31–36 in 1867; pp. 107–120 and pls 37–39 in 1868; pp. 121–126 and pls 40–42 in 1869; pp. 127–134 and pls 43–45 in 1871; pp. 135–144, title page in 1870; according to Coan & Kabat, 2018: 31–32).
- Dunker, W. 1860 (Jan.). Neue japanische Mollusken. *Malakozoologische Blätter*, **6**: 221–240.
- Dunker, W. 1861. *Mollusca Japonica descripta et tabulis tribus iconum illustrata a Guilielmo Dunker*. Typis et sumtibus E. Schweizerbart, Stuttgartiae.
- Dunker, W. 1862 (Apr.). Solenacea nova collectionis Cumingianae descripta a Guilielmo Dunker. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1861: 418–427.
- Dunker, W. 1877. Mollusca nonnulla nova maris Japonici. *Malakozoologische Blätter*, **24** (for 1877): 67–75.
- Dunker, W. 1882. *Index molluscorum maris Japonici, conscriptus et tabulis iconum xvi illustratus a Guilielmo Dunker*. Sumptibus Theodori Fischer, Cassellis Cattorum [Kassel].
- Eames, F.E. & Cox, L.R. 1956 (31 Aug.). Some Tertiary Pectinacea from East Africa, Persia, and the Mediterranean region. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **32**: 1–68, pls 1–20.
- Edelman-Furstenberg, Y. & Faershtein, G. 2010 (May). *Molluscan fauna of the Gulf of Elat: indicators of ecological change*. Geological Survey of Israel, Jerusalem.
- Edmunds, M. 1962 (28 Jul.). Bivalved gastropod from Jamaica. *Nature*, **195**(4839): 402.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会 (編) 2014. *愛媛県レッドデータブック 2014 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物*. 愛媛県, 松山.
<https://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/first.html>
- 江川和文 1989 (31 Aug.). 広島県産 *Conradia doliaris* A. Adams ナギサシタダミ (新称) とその変異状況. ちりぼたん, **20**: 9–11.
- 江川和文・野田圭典 2014 (10 Dec.). 和歌山市産ウネボラの知見 (軟体動物門, 腹足綱, フジツガイ科). *南紀生物*, **56**: 113–116.
- Eliot, C. 1913 (18 Jul.). Japanese nudibranchs. *Journal of the college of science, Imperial University of Tokyo*, **35**(1): 1–47, pl. 2.
- 江村重雄 1970 (Mar.). 新潟県産貝類の再調. *新潟青陵女子短期大学研究報告*, (1): 43–57.
- 園谷昂史・鈴木明彦 2015 (Dec.). 西南海道上ノ国町におけるカズラガイ (腹足綱: トウカムリ科) の発見. *Molluscan Diversity*, **4**: 1–4.
- Euthyme, Le F. 1885 (Dec.). Description de quelques mollusques exotiques nouveaux. *Bulletins de la Société Malacologique de France*, **2**: 237–260.
- Evseev, G.A. & Lutaenko, K.A. 1998. Bivalves of the subfamily Anadarinae (Arcidae) from Vietnam. *Malacological Review*, **Supplement 7**: 1–37.
- Faustino, L.A. 1932 (24 Dec.). Recent and fossil shells from the Philippine Islands, I. *The Philippine Journal of Science*, **49**: 543–549, pls 1–2.
- Fedosov, A., Puillandre, N., Herrmann, M., Kantor, Y., Oliverio, M., Dgebuadze, P., Modica, M.V. & Bouchet, P. 2018 (online 13 Feb.; print June). The collapse of Mitra: molecular systematics and morphology of the Mitridae (Gastropoda: Neogastropoda). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **183**: 253–337.
- Fenaux, A. 1943 (15 Feb.). Descriptions de Scalidae nouveaux. Observations sur la classification de cette famille. Descriptions de Conidae nouveaux. *Bulletin de l'Institut Océanographique* (Monaco), (834): 1–4.
- Fischer, P. 1866 (1 Oct.). Anatomie des Fistulanes. *Journal de Conchyliologie*, **14**: 321–335, pls 12–13.
- Fischer, P. 1867 (1 Jul.). Description d'une espèce nouvelle des îles Chusan. *Journal de Conchyliologie*, **15**: 304–305, pl. 9.
- Fischer-Piette, É. 1977. Révision des Cardidae (mollusques lamellibranches). *Mémoires du Muséum national d'histoire naturelle, Nouvelle Série, Série A Zoologie*, **101**: 1–212, pls 1–12.
- Fischer-Piette, É. & Delmas, D. 1967. Révision des mollusques lamellibranches du genre *Dosinia* Scopoli. *Mémoires Du Muséum National d'Histoire Naturelle, Nouvelle Série, Série A, Zoologie*, **47**: 1–91, pls 1–16.
- Fischer-Piette, É. & Métivier, B. 1971. Révision des Tapetinae (Mollusques bivalves). *Mémoires Du Muséum National d'Histoire Naturelle, Nouvelle Série, Série A, Zoologie*, **71**: 1–106, unpaginated figs 1–2, pls 1–16.
- Frauenfeld, G.R. von 1865. Zoologische Miscellen. V. *Verhandlungen der Kaiserlich-Königlichen Zoologisch-Botanischen Gesellschaft in Wien*, **15**: 525–536, pls 8–11, 22.
- Freneix, S. & Roman, J. 1979 (Dec.). Gastrochaenidae endobiotés d'Échinides cénozoïques (*Clypeaster* et autres). Nouvelle classification de ces Bivalves. *Bulletin du Muséum National d'Histoire Naturelle, Section C, Sciences de la Terre, Paléontologie, Géologie, Minéralogie*, 4e Série, **1**: 287–313.
- 藤野勇馬・金尾滋史 2012. 中池い湿地で確認された福井県初記録の淡水貝類 4 種. *福井市自然史博物館研究報告*, (59): 47–50.
- 藤岡義三 1986 → 奥谷喬司 (編) 1986 (1 Jul.).

- 藤田 正 1929 (25 Feb.). 館山灣底棲貝類調査 (1). *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **1**: 58–65.
- 藤田経信 1913 (28 May). *日本水産動物學 下巻*. 裳華房, 東京.
- 藤原広治 1972 (10 Jul.). 山口県のおキギセル. *山口県其自然*, (27): 19.
- 福田 宏 1989 (31 Aug.). チョウセンキサゴ山口県見島に産す. *ちりぼたん*, **20**: 31–32.
- 福田 宏 1992 (24 Jul.). 瀬戸内海産海生, 汽水生貝類; 山口県に産する代表的な貝類. In 三時輝久 (編), *概説 山口県の貝類*, 3–14; 44–99, pls 1–50. 山口県立山口博物館, 山口.
- Fukuda, H. 1993. Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands. Part 1: Archaeogastropoda and Neotaenioglossa. *Ogasawara Research*, (19): 1–86.
- Fukuda, H. 1994. Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands. Part 2: Neogastropoda, Heterobranchia and fossil species, with faunal accounts. *Ogasawara Research*, (20): 1–126.
- Fukuda, H. 1995. Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands. Part 3: Additional records. *Ogasawara Research*, (21): 1–142.
- 福田 宏 1996 (20 Dec.). 腹足綱. In 花輪伸一・佐久間浩子 (編), 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japan Science Report*, **3**: 11–63.
- 福田 宏 2000 (10 Dec.). 巻貝類 I—総論. In 佐藤正典 (編), *有明海の生きものたち*, 100–137. 海遊舎, 東京.
- 福田 宏 2001a (15 Jul.). 内湾の貝類「最後の楽園」周防灘—そして私たちがなすべきこと. *日本ベントス学会誌*, **56**: 33–41.
- 福田 宏 2001b (30 Oct.). 上関町長島と祝島の海産軟体動物相・腕足動物相—1999年8月～2001年5月の調査結果のあらまし. *日本生態学会中国四国地区会報*, (59): 14–21.
- 福田 宏 2002 (20 Mar.). 徳地町の貝類について. In 野村勝一 (編), *徳地の自然*, 60–67. 徳地町文化協会, 徳地.
- [福田 宏] 2003 (10 Jul.). 秋季例会報告. *山口貝類研究談話会ニュースレター*, (2): 2–4.
- 福田 宏 2004 (20 Jul.). 2004年春季例会報告. *山口貝類研究談話会ニュースレター*, (4): 5–8.
- 福田 宏 2007 (Mar.). 軟体動物門 腹足綱. In 飯島明子 (編), *第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査) 報告書*, 153–161. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 福田 宏 2010a (Mar.). 貝類・腕足類. In 岡山県野生動物植物調査検討会 (編), *岡山県版レッドデータブック 2009 絶滅のおそれのある野生生物 動物編*, 253–255, 257–258, 278–404. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 福田 宏 2010b (17 Jul.). 昆虫類以外の無脊椎動物. In 倉敷市立自然史博物館 (編), *岡山県のレッドデータ生物*, 39–44. 倉敷市立自然史博物館, 倉敷.
- 福田 宏 2010c (Dec.). 山形県に移入されたコベソマイマイ (有肺目: ナンバンマイマイ科). *Molluscan Diversity*, **2**: 55–59.
- 福田 宏 2010d (Dec.). 2010年度軟体動物多様性学会夏季例会 (岡山) 報告. *Molluscan Diversity*, **2**: 80–87.
- 福田 宏 2010e (Jul., Dec.). 表紙イラスト: *Gabbia kiusiuensis* (S. Hirase, 1927) ヒメマルマメタニシ 長崎県佐世保市産. *Molluscan Diversity*, **2**: 表紙.
- 福田 宏 2012 → 日本ベントス学会 (編) (20 Jul.).
- 福田 宏 2014a (1 Sept.). 吉備中央町美原の陸産貝類. *しぜんしくらしき*, (90): 16–17.
- 福田 宏 2014b → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- 福田 宏 2017a → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- 福田 宏 2017b (3 Oct.). ヒメヒラマキミズマイマイ; ナガゴマフホラダマシ (ゴマフホラダマシ); エソキセウタ, ヤミヨキセウタ. In 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), *環境省レッドリスト 2017 補遺資料*, 39, 42, 43, 44. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/107163.pdf>
- 福田 宏 2018 (22 May). オガイ. In 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), *環境省レッドリスト 2018 補遺資料*, 41. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/109199.pdf>
- Fukuda, H., Asami, T., Yamashita, H., Satô, M., Hori, S. & Nakamura, Y. 2000 (28 Jan.). Marine molluscan and brachiopod fauna of Tanoura, Nagashima Island, Kaminoseki-chô, Yamaguchi Prefecture, Japan. *The Yuriyagai*, **7**: 115–196.
- 福田 宏・藤野睦子・江田伸司 2014 (25 Mar.). 岡山県倉敷市高洲で生貝が見出されたウミヒメカノコ (腹足綱: アマオブネ科), ならびに同種とキンランカノコ・レモンカノコを巡る同定の混乱. *倉敷市立自然史博物館研究報告*, (29): 29–38.
- 福田 宏・福田敏一 1995 (25 Mar.). 山口市・阿知須町で得られた注目すべき淡水生貝類. *山口県其自然*, (55): 21–26.
- 福田 宏・石川 旬・村上 亘 2010 (Mar.). 岡山県児島湖の現生淡水産貝類相. *Molluscan Diversity*, **1**: 37–47.
- 福田 宏・亀田勇一 2015 (1 Apr., 1 Jul.). 「晴れの国おかやま」を象徴するかたつむり: 新種アキラマイマイとその同胞種シメクチマイマイ (前編, 後編). *岡山県自然保護センターだより*, **24**(2)(通号 170): 2–5; **24**(3)(通号 171): 2–5.
- 福田 宏・川内野善治 2012 (Mar.). ヒメマルマメタニシ, ウネムシロ. In 長崎県レッドデータブック編集委員会・長崎県環境部自然環境課 (編), *長崎県レッドデータブック 2011 ながさきの希少な野生動物植物【普及版】*, 124, 126–127. 長崎県, 長崎.
- 福田 宏・川内野善治 2017 (7 Aug.). チリメンユキガイ近似種. In 長崎県自然環境課 (編), *長崎県レッドリストの中間見直しについて*, 10–11. 長崎県自然環境課, 長崎. <https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2017/08/1502073757.pdf>

軟体動物

- 福田 宏・木村路子 2008 (11 Nov.). 2004 年度秋季例会 (広島) 報告. *山口貝類研究談話会ニュースレター*, (6-12): 14-16.
- 福田 宏・木村昭一 2012 → 日本ベントス学会 (編) (20 Jul.).
- 福田 宏・久保弘文 2012 → 日本ベントス学会 (編) (20 Jul.).
- 福田 宏・久保弘文 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- Fukuda, H. & Mitoki, T. 1995 (Mar.). A revision of the family Assimineidae (Mollusca: Gastropoda: Neotaenioglossa) stored in the Yamaguchi Museum, Part 1: subfamily Omphalotropidinae. *Bulletin of the Yamaguchi Museum*, (21): 1-20.
- 福田 宏・森 生枝 2016. 岡山県自然保護センター敷地内の田尻大池で21年ぶりに確認された絶滅危惧種カワネジガイ (腹足綱: 汎有肺類: ヒラマキガイ科), ならびに同種の棲息環境と水陸両棲生活に関する考察. *岡山県自然保護センター研究報告*, (23): 1-12.
- Fukuda, H. & Ponder, W. F. 2003. Australian freshwater assimineids, with a synopsis of the Recent genus-group taxa of the Assimineidae (Mollusca: Caenogastropoda: Rissooidea). *Journal of Natural History*, 37: 1977-2032.
- 福田 宏・瀬尾友樹 2014 (15 Jun.). ヒメエガイの在来個体群が瀬戸内海に残存している可能性. *まいご*, (21): 25-28.
- 福田 宏・鈴木田亘平 2001 (31 Dec.). 人工湿原に定着しえた絶滅危惧貝類. *岡山県自然保護センター研究報告*, (9): 63-70.
- 福田 宏・多々良有紀 2010 (Jul.). 徳島県伊島から新たに確認された非海産貝類—特にタナゴジマスメアゴル (新称; 腹足綱: 有肺目: スメアゴル科) の発見. *Molluscan Diversity*, 2: 11-24.
- 福田 宏・多々良有紀・芳賀拓真・多留聖典・亀田勇一・太齋彰浩・川瀬 撰・稲葉 修 2013 (31 Jan.). 被災者としての貝類—東日本大震災直前の岩手・宮城・福島各県沿岸域で確認された種とその後の消息—. *Venus*, 71: 125-126.
- 福田 宏・土田英治・堀 成夫・鹿野康裕・三時輝久 1990 (Mar.). 山口県産貝類の研究—1. 河本コレクションにおける注目すべき貝類の再検討 (1) 腹足類. *山口県立山口博物館研究報告*, (16): 1-46.
- 福田敏一 1990 (18 Aug.). 徳地町島地におけるヒメマルマメタニシの生息状況. *ユリヤガイ*, 1: 10.
- 福本一彦・谷岡 浩 2012 (Mar.). ニセマツカサガイ. In 鳥取県生物学会 (編), *レッドデータブックとつとり 改訂版—鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物*, 157. 鳥取県生活環境部公園自然課, 鳥取. <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/704255/7-2.pdf>
- Fulton, H.C. 1936 (14 Mar.). Descriptions of five new species and varieties. *Proceedings of the Malacological Society of London*, 22: 9-10, pl. 2.
- Furota, T., Sunobe, T. & Arita, S. 2002 (30 Jun.). Contrasting population status between the planktonic and direct-developing batillariid snails *Batillaria multiformis* (Lischke) and *B. cumingi* (Crosse) on an isolated tidal flat in Tokyo Bay. *Venus*, 61: 15-23.
- Galil, B. 2007 (Dec.). Seeing Red: Alien species along the Mediterranean coast of Israel. *Aquatic Invasions*, 2: 281-312.
- Garrard, T.A. 1975 (7 Nov.). A revision of Australian Cancellariidae (Gastropoda: Mollusca). *Records of the Australian Museum*, 30: 1-62.
- Garrard, T.A. 1978 (31 Oct.; "30 Sept. 1977" on cover). A revision of Australian Architectonicidae (Gastropoda: Mollusca). *Records of the Australian Museum*, 31: 506-585.
- Garrett, A. 1873 (209-231: 29 Apr.; 233-237: 3 Jun.). Descriptions of new species of marine shells inhabiting the South Sea Islands. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 25: 209-231, 233-237, pls 2-3.
- Geiger, D.L. 2012 (30 Oct.). Monograph of the little slit shells. Volume 1: Introduction, Scissurellidae; Volume 2: Anatomidae, Larocheidae, Depressizonidae, Sutilizonidae, Temnocinlidae. *Santa Barbara Museum of Natural History Monographs*, (7): 1-728 (vol. 1), 729-1291 (vol. 2).
- Glaubrecht, M., Fehér, Z. & Köhler, F. 2007 (27 Jul.). Inventorizing an invader: Annotated type catalogue of Corbiculidae Gray, 1847 (Bivalvia, Heterodonta, Veneroidea), including Old World limnic *Corbicula* in the Natural History Museum Berlin. *Malacologia*, 49: 243-272.
- Glover, E.A. & Taylor, J.D. 2001 (12 Dec.). Systematic revision of Australian and Indo-Pacific Lucinidae (Mollusca: Bivalvia): *Pillucina*, *Wallucina* and descriptions of two new genera and four new species. *Records of the Australian Museum*, 53: 263-292.
- Gmelin, J.F. 1791. *Caroli a Linné. Systema naturae per regna tria naturae, secundum classes, ordines, genera, species, cum characteribus, differentiis, synonymis, locis. Editio decima tertia, aucta, reformata. Cura Jo. Frid. Gmelin.* Tome 1(6), pp. 3021-3910. Impensis Georg. Emanuel. Beer, Lipsiae.
- Golding, R. E. 2014 (online 13 May; print Nov.). Molecular phylogeny and systematics of Australian 'Iravadiidae' (Caenogastropoda: Truncatelloidea). *Molluscan Research*, 34: 222-257.
- Golikov, A.N. & Kussakin, O.G. 1978. Rakovinnye briukhonogie molliuski litorati morei SSSR [Shell-bearing gastropods of the intertidal zone of the seas of the USSR]. *Opredeliteli po faune SSSR, izdavyemye Zoologicheskim institutom Akademii nauk SSSR*, 116: 1-256, figs 8-155 on unpaginated pls. (in Russian)
- Голиков [= Golikov], A.N. & СКАРЛАТО [= Scarlato], O.A. 1967. Моллюски залива Посыет (Японское море) и их экология. *Труды Зоологического института АН СССР*, 42: 5-154. [Molluscs of the Possjet Bay (the Sea of Japan) and their ecology. Molluscs and their role in biocenoses and formation of faunas] [Not seen; *vide* Kafanov & Lutaenko, 1997]
- Golikov, A.N. & Sirenko, B.I. 1988. The naticid gastropods in the boreal waters of the western Pacific and Arctic Oceans. *Malacological Review*, 21: 1-41.
- Gould, A.A. 1859, 1860, 1861. Descriptions of new shells collected by the United States North Pacific Exploring Expedition under Captains Ringgold and Rodgers. *Proceedings of the Boston Society of Natural History*, 7: 40-45, 161-166 (1859), 323-340 (1860), 382-384 (1860), 385-389 (1861); 8: 14-40 (1861).
- Grabau, A.W. 1904. Phylogeny of *Fusus* and its allies. *Smithsonian Miscellaneous Collections*, 44(Article 4; 1417): 1-160, pls 1-18.
- Grabau, A.W. & King, S.G. 1928. *Shells of Peitaiho, second edition.* The Peking Laboratory of Natural History, Peking.
- Graf, D.L. & Cummings, K.S. 2019 (updated 8 Oct.). *The freshwater mussels (Unionoida) of the World (and other less consequential bivalves)*. MUSSEL Project Web Site. [accessed on 20 Oct. 2019]. <http://mussel-project.uwsp.edu/index.html>

- Graf, D.L. & Cummings, K.S. 2019 (updated 8 Oct.). *MUSSEL Project Web Site*. [accessed on 20 Oct. 2019].
SMF 3440. *Unio brandtii* Kobelt, 1879 (Holotype). http://musssel-project.uwsp.edu/fmuotwaolcb/nomsp_4024.html
SMF 3626. *Ptychorhynchus laevis* Haas, 1910 (Holotype). http://musssel-project.uwsp.edu/fmuotwaolcb/nomsp_19.html
- Gray, J.E. 1825. A list and description of some species of shells not taken notice of by Lamarck. *The Annals of Philosophy, new series*, **9**: 134–140.
- Gray, J.E. 1828. *Spicilegium zoologica; Original figures and short systematic descriptions of new and unfigured animals*. Treüttel, Würtz and Co. and W. Wood, London.
- Gray, J.E. 1858 (12 Jan.). Observations on the genus *Furcella*, Oken, a conchifer without concha or normal valves, and on the genera *Teredo* and *Chaena*. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 25 (for 1857): 243–248, Mollusca pl. 39.
- Grædler, V. 1881. Zur Conchylien-Fauna von China. III. Stück. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **8**: 110–132, pl. 6.
- Griffith, E. & Pidgeon, E. 1833–1834. The Mollusca and Radiata arranged by the Baron Cuvier, with supplementary additions to each other. In Pigeon, E. (ed.), *The animal kingdom arranged in conformity with its organization, by the Baron Cuvier, member of the Institute of France, &c. &c. with additional descriptions of all the species hitherto named, and of many not before noticed*, vol. 12. Whittaker and Co., London. [pp. 1–192, Mollusca pls 1–39, Zoophytes pls 1–20, in Dec. 1833; pp. 193–384 in Mar. 1834; pp. i–viii, 385–601 in June 1834; Mollusca corrected pls 28*, 36*, 37* and pls 40, 41 in Mar. or June 1834 (according to Petit & Coan, 2018: 41)].
- Gualtieri, N. 1742. *Index testarum conchyliorum quae adservantur in museo Nicolai Gualtieri philosophi et medici collegiate florentini regiae botanices florentinae academiae socii in pisano athenaeo medicinae professoris emeriti et methodice distributae exhibentur tabulis CX*. Typographia Caictani Albizzini, Florentinae.
- Gude, G.K. 1900a (1 Aug.). Further notes on helicoid land shells from Japan, the Loo-Choo, and Bonin Islands, with descriptions of seven new species. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **4**: 70–80, pl. 8.
- Gude, G.K. 1900b. Descriptions of new species of Japanese land-shells. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Seventh Series, **6**: 453–456.
- Gude, G.K. 1902 (mailed on 6 Feb.; presented on 11 Feb.). Descriptions of new helicoid land shells from Japan. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 617.
- Haas, F. 1910. New Unionidae from East Asia. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Eighth Series, **6**: 496–499.
- Haas, F. 1910–1920. Die Unioniden. Neubearbeitung und Fortsetzung der Küsterschen und Clessinschen Monographien von *Unio* und *Anodonta*. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Neunten (9) Bandes, Zweite (2) Abtheilung (2)*, 1–344, pls 1–73, 12a. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–40 and pls 1–12 in 1910; pp. 41–112 and pls 12a, 13–29 in 1911; pp. 113–136 and pls 30–35 in 1912; pp. 137–184 and pls 42–47 in 1913; pp. 185–256 and pls 48–59 in 1914; pp. 257–288 and pls 60–63 in 1919; pp. 289–344 and pls 64–73 in 1920; according to Coan & Kabat, 2015: 53).
- Haas, F. 1911 (Jan.). Neue ostasiatische Najaden. *Nachrichtsblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **43**: 43–47.
- Habe, T. 1942 (30 Jul.). On the recent [sic] specimen of *Paludinella* (*Cavernacella* new subgen.) kuzuensis, with a list of known species of the Japanese cavernicolous molluscs. *Venus, Organ of the Malacological Society of Japan*, **12**: 28–32.
- 波部忠重 1943 (30 Dec.). 日本産海産腹足類の歯舌に就いて (1). *貝類學雜誌*, **13**: 68–76, pls 3–4
- 波部忠重 1944a (30 Aug.). 日本産ウノアシ科 Lottiidae (= Acmaeidae) に就いて. *貝類學雜誌*, **13**: 171–187.
- 波部忠重 1944b (30 Aug.). 日本産海産腹足類の卵及び幼生の研究 (1). *貝類學雜誌*, **13**: 187–194.
- 波部忠重 1944c (30 Aug.). 海産貝類の卵囊に就いて (日本産海産腹足類の卵及び幼生の研究 2). *貝類學雜誌*, **13**: 194–201.
- 波部忠重 1945a (30 Oct.). 日本産海産腹足類の歯舌に就いて (2). *貝類學雜誌*, **14**: 1–9.
- 波部忠重 1945b (30 Oct.). 日本産ベツカフマイマイ科の再検討 (2). *貝類學雜誌*, **14**: 22–29.
- 波部忠重 1946a (30 Dec.). 日本産海産腹足類の歯舌に就いて (3). *貝類學雜誌*, **14**: 190–199.
- 波部忠重 1946b (30 Dec.). 日本産ベツカフマイマイ科の再検討 (3). *貝類學雜誌*, **14**: 200–217.
- 波部忠重 1948 (5 Apr.). 日本産有殻後鰓類目録 (5). *貝類研究夢蛤*, (25): 11–14.
- Habe, T. 1949 (15 Nov.). Erodonidae in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(1): 1–6.
- 波部忠重 1951a (28 Feb.). 日本産貝類概説 斧足綱 (二枚貝類), 第1冊. 貝類文献刊行会, 京都.
- Habe, T. 1951b (25 Apr.). Donacidae and Myidae in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(12): 71–76.
- Habe, T. 1951c (10 Sept.). Petricolidae, Cardiliidae and Anatinellidae in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(15): 95–100.
- 波部忠重 1951d (15 Oct. ["September" on title page]). 日本産貝類概説 斧足綱 (二枚貝類), 第2冊. 貝類文献刊行会, 京都.
- 波部忠重 1952a (30 May). 日本産貝類概説 斧足綱 (二枚貝類), 第3冊. 貝類文献刊行会, 京都.
- Habe, T. 1952b (20 Jun.). Pholadomyidae, Clavagellidae, Pandoridae, Juliidae and Condylorcardiidae in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(18): 121–128.
- 波部忠重 1952c (5 Aug.). 和すれがひ類. *ゆ免蛤*, (67): 24(106)–26(108).
- Habe, T. 1952d (30 Nov.). Atyidae in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(20): 137–151.
- Habe, T. 1953a (15 Dec.). Limopsidae and Arcidae (1) in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(25): 201–213.

軟体動物

- 波部忠重 1953b (25 May). 日本産貝類 12 新種の記載. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **17**: 130–144.
- 波部忠重 1953c (15 Nov.). 日本産コウダカタマキビガイ科の種類. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **17**: 207–212.
- 波部忠重 1955a (30 Jun.). カワアイとフトヘナタリの産卵. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **18**: 204–205.
- 波部忠重 1955b (20 Dec.). 岩手県大船渡湾の貝類遺骸の堆積. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **18**: 244–251.
- 波部忠重 1958a (28 Feb.). 日本産陸産貝類の解剖学的研究 (8) ツシマケマイマイとカタマメマイマイ. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **19**: 165–168.
- Habe, T. 1958b (20 Jun.). Report on the Mollusca chiefly collected by the S. S. Sōyō-Marū of the Imperial Fisheries Experimental Station on the continental shelf bordering Japan during the years 1922–1930. Part 3. Lamellibranchia (1). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **6**: 241–280, pls 11–13.
- 波部忠重 1958c (30 Jul.). 巻貝類 10 新種. *Venus, Japanese Journal of Malacology*, **20**: 32–42.
- 波部忠重 1958d (30 Jul.). 日本産海産腹足類の歯舌に就いて (4). *Venus, Japanese Journal of Malacology*, **20**: 43–60, pls 2–3.
- 波部忠重 1958e (13 Oct.). 日本産二枚貝類 5 新種. *Venus, Japanese Journal of Malacology*, **20**: 173–180.
- Habe, T. 1958f (20 Dec.). Report on the Mollusca chiefly collected [sic] by the S.S. Sōyō-marū of the Imperial Fisheries Experimental Station on the continental shelf bordering Japan during the years 1922–1930. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **7**: 19–52, pls 1–2.
- 波部忠重 1960a (25 Jul.). A.A. Gould の記載した日本産の貝類. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **21**: 10–31.
- Habe, T. 1960b (20 Dec.). Eleven new bivalves from Tanabe Bay, Wakayama Pref., Japan. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **8**: 281–288.
- Habe, T. 1960c (20 Dec.). New species of molluscs from the Amakusa Marine Biological Laboratory, Reihoku-cho, Amakusa, Kumamoto Pref., Japan. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **8**: 289–298.
- 波部忠重 1961a (10 May). *続原色日本貝類図鑑*. 保育社, 大阪.
- 波部忠重 1961b (Jul.). A. Adams の記載した British Museum (Natural History) 所蔵の日本産の貝類 (第 1 報). In 横山次郎教授退官記念事業会 (松下進代表, 編), *横山次郎教授記念論文集*, 191–205, pls 1–4. 横山次郎教授退官記念事業会, 京都.
- 波部忠重 1961c (31 Dec.). 日本産コロモガイ科の 4 新種, 附: 日本産コロモガイ科目録. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **21**: 431–441, pls 23–24.
- 波部忠重 1962 (Dec.). *続原色日本貝類図鑑*, 2 冊. 保育社, 大阪.
- 波部忠重 1963 (10 Jul.). 北朝鮮産陸産貝類の新種モトノオトメマイマイ (新称). *貝類学雑誌*, **22**: 237–240.
- 波部忠重 1964a (30 May). 陸産貝類 2 新種. *貝類学雑誌*, **23**: 39–42.
- Habe, T. 1964b. *Shells of the western Pacific in color*, Vol. 2. Hoikusha, Osaka.
- 波部忠重 1965a (25 Jan.). はなづとがい (p. 77); おりいねばら (139); たくみにな (151); ちょうじがい (157) しらとりもどきがい (289). In 岡田 要・内田清之助・内田 亨 (編), *新日本動物図鑑 [中]*. 北隆館, 東京.
- 波部忠重 1965b (31 Jan.). 日本及び近接海域のマテガイ科. *貝類学雑誌*, **23**: 188–197, pl. 13.
- Habe, T. 1965c (27 Feb.). The arcid subfamily Anadarinae in Japan and its adjacent areas (Mollusca). *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo*, **8**: 71–85, pls 1–3.
- Habe, T. 1965d (30 Jun.). Notes on the ivory shell genus *Babylonia* Schlüter (Mollusca). *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo*, **8**: 115–124, pl. 1.
- 波部忠重 1970a (31 Jan.). 東正雄氏の陸貝 2 論文. *貝類学雑誌*, **28**: 185.
- 波部忠重 1970b (30 Jun.). 日本産ケンカニモリガイ科の 2 新種. *貝類学雑誌*, **29**: 55–57.
- 波部忠重 1973a (30 Oct.). イケチョウガイの模式標本. *ちりぼたん*, **7**: pl. 14.
- 波部忠重 1973b (25 Nov.). 軟体動物. In 上野益三 (編), *川村日本淡水生物学 増補改訂版*, 309–341. 北隆館, 東京.
- 波部忠重 1976a (30 Aug.). 貝の知理可悟 (5・6) ヤマトニシとマルタニシの模式標本. *ちりぼたん*, **9**: 46, pl. 6.
- 波部忠重 1976b (30 Nov.). 貝の知理可悟 (7) タケノコカワニナとカワニナの学名. *ちりぼたん*, **9**: 81–82, pl. 8.
- Habe, T. 1976c. New land and freshwater snails (Mollusca) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Ser. A (Zoology)*, **2**: 225–228.
- 波部忠重 1977a (15 Mar.). 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/掘足綱. 図鑑の北隆館, 東京.
- 波部忠重 1977b (31 May). 陸・淡水産新貝類. *ちりぼたん*, **9**: pl. 11.
- 波部忠重 1977c (30 Sept.). 貝の知理可悟 (9) ヤマトシジミとマシジミの模式標本. *ちりぼたん*, **9**: 151, pl. 15.
- 波部忠重 (稲葉 亨・大山 桂, 編) 1977d (31 Dec.). 選暦記念出版 波部忠重記載の貝類目録 (1939–1975). おきなえびすの会, 東京・柏.
- Habe, T. 1977e (31 Dec.). Six species of Japanese shells described by A. Adams. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **36**: 157–159.
- 波部忠重 1978a (28 Feb.). 日本産トリデニナ属の種について. *貝類学雑誌*, **36**: 163–167.
- 波部忠重 1978b (31 Oct.). バリ自然科学博物館所蔵の日本産貝類 4 種の模式標本の解説. *貝類学雑誌*, **37**: 124–126.
- 波部忠重 1979 (31 Dec.). 学名変更 所属移動. *ちりぼたん*, **10**: 216.

- 波部忠重 1981a (31 Jul.). 沖縄貝報 (2). ちりぼたん, **12**: 34–35.
- 波部忠重 1981b (31 Oct.). キヌタアゲマキガイ科の種類. ちりぼたん, **12**: 72–73.
- 波部忠重 1984 (31 Dec.). スウェーデンの Vega 号の探検で採集された日本産陸淡水産貝類. 貝類学雑誌, **43**: 305–313.
- 波部忠重 1985a (31 Mar.). 新種イナバマメタニシの記載. 貝類学雑誌, **44**: 1–2.
- Habe, T. 1985b. Illustrations of type specimens of the Japanese molluscan species described by A. Adams and house in the British Museum (Natural History). *Special Publication of the Mukaishima Marine Biological Station*, for 1985: 7–15.
- 波部忠重 1985c (31 Jul.). 貝類研究採集者列伝 (60) 畠田和一 Waichi Hatakeda (1897–1965). ちりぼたん, **16**: 64–65.
- 波部忠重 1990. 日本産非海産水棲貝類目録 (その2). ひたちおび, (55): 3–9.
- 波部忠重 1991a. 日本産非海産水棲貝類目録 (その3). ひたちおび, (56): 3–7.
- 波部忠重 1991b (5 Feb.). 野村洋太郎氏寄贈貝類標本目録中に見られる新学名の記載. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (5): 169–173, pls 1–2.
- 波部忠重 1994. ハイガイ. In 水産庁 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料*, 1, 46–48. 水産庁研究部漁場保全課・日本水産資源保護協会, 東京.
- 波部忠重・安藤保二 1985 (10 Jun.). 日本産有殻後鰓類セキヒツクダタマガイ属の一新種. 貝類学雑誌, **44**: 79–80.
- 波部忠重・安藤保二 1987 (31 Dec.). 新属ヌノメツボ属と新種ホソヌノメツボの記載. 貝類学雑誌, **46**: 179–181.
- 波部忠重・伊藤 潔 1965 (1 Jun.). 原色世界貝類図鑑 [I] 《北太平洋編》. 保育社, 大阪.
- 波部忠重・菊池泰二 1960 (Mar.). 天草臨海実験所近海の生物相 第1輯 軟体動物. 九州大学理学部天草臨海実験所, 苓北.
- 波部忠重・小菅貞男 1966 (15 Jan.). 原色世界貝類図鑑 [II] 《熱帯太平洋編》. 保育社, 大阪.
- 波部忠重・小菅貞男 1967 (10 Aug.). 標準原色図鑑全集 第3巻 貝. 保育社, 大阪.
- 波部忠重・久保田正・川上 東・増田 修 1986 (18 Nov.). 駿河湾産有殻軟体動物目録. 東海大学自然史博物館研究報告, (1): 1–44.
- 波部忠重・増田 修 1990 (Mar.). 野口 博氏寄贈貝類標本目録. 東海大学自然史博物館研究報告, (4): 1–152, pls 1–4.
- 波部忠重・田中彌太郎 1959 (Mar.). 有明海の貝類相 —I. 有明海研究報告, (5): 9–18.
- 波田善夫・西本 孝・光本信治 1995 (Dec.). 岡山県自然保護センター湿生植物園 1. 基盤地形の造成と植生移植の方法. 岡山県自然保護センター研究報告, (3): 41–56.
- 芳賀拓真 2010 (Jul.). イシゴロモ (二枚貝綱: オオノガイ目: ニオガイ科) の分布の現状. *Molluscan Diversity*, **2**: 1–6.
- 芳賀拓真 2016 (Mar.). ヤセキセルモドキ (p. 283); ヒメヒラマキミズマイマイ (300); ハクサンベッコウ (301); エゾヒメベッコウ (302). In 茨城における絶滅のおそれのある野生生物種の見直し検討委員会 (編), *茨城における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016 年改訂版 (茨城県版レッドデータブック)*. 茨城県生活環境部環境政策課, 水戸. <https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shizen/choiyuhogo/documents/rdbkakuron7-3.pdf>
- 芳賀拓真 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 濱田 保 2008 (Dec.). おおいたの貝 大分県産貝類目録・図譜. 著者自刊, 大分.
- 浜田善利 1993 (31 Oct.). *Semisulcospira dunkeri* Heimburg [sic] とその産地. ちりぼたん, **23**: 48–51.
- 濱村陽一 2004 (20 Mar.). 雲南の海産貝類図鑑. 蘭島文化振興財団, 呉.
- 濱谷 巖 1974 (10 Mar.). 大阪附近のウミウシ (5) -のう舌類-. *Nature Study*, **20**(3): 11–12.
- 濱谷 巖 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 濱谷 巖・入江千栄子 1984 (31 Mar.). 1950年代の大阪湾南東部沿岸における潮間帯動物の生態と分類に関する研究. *自然史研究*, **1**(17): 159–177.
- Hanley, S. 1842–1856. *An illustrated and descriptive catalogue of Recent bivalve shells, with 960 figures by Wood and Sowerby, forming an appendix to the Index Testaceologicus*. Williams and Norgate, London. (pp. 1–32 in 1842; pp. 33–272 and pls 9–13 in 1843; pls 14–16 in 1844; pls 17–19 in 1846; pp. 273–392 and pls 20–24 in 1856; according to Higo *et al.*, 1999: 577)
- Hanley, [S]. 1843 (Jan.). Descriptions of four new species of bivalve shells. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 10 (for 1842): 122–123.
- Hanley, S. 1844–1845. Descriptions of new species of the genus *Tellina*, chiefly collected by H. Cuming, Esq. in the Philippine Islands and Central America. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 12 (for 1844): 59–64, 68–72 (Sept. 1844); 140–144, 146–149 (Dec. 1844); 164–166 (Feb. 1845).
- Hanley, S. 1846a (3 Jan.). Monograph of the genus *Tellina*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **1**(6): 221–336, pls 56–66. G.B. Sowerby, London.
- Hanley, S. 1846b (Feb.). A description of new species of *Ostrea*, in the collection of H. Cuming, Esq. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 13 (for 1845): 105–107.
- Hanley, S. 1855. *Ipsa Linnaei conchylii. The shells of Linnaeus, determined from his manuscripts and collection. Also, an exact reprint of the Vermes Testacea of 'Systema Naturae' and 'Mantissa'*. Williams & Norgate, London.
- Hanley, S. 1860. Monograph of the family *Nuculidae*, forming the Lamarckian genus *Nucula*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of*

軟体動物

shells, 3(20): 105–168, pls 226–230. G.B. Sowerby, London.

Hanley, S. Between Aug. 1860 and Mar. 1861. Descriptions of new univalve shells from the collections of H. Cuming and Sylvanus Hanley. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 27 (for 1859): 429–431.

Hanna, G.D. 1966 (16 Feb.). Introduced mollusks of western North America. Hanna, G.D. 1966 (16 Feb.). Introduced mollusks of western North America. *Occasional Papers of the California Academy of Sciences*, (48): 1–108, pls 1–4.

阪神貝類談話会 黒田徳米博士業績編集委員会 1986 (6 Jul.). 白寿記念出版 黒田徳米博士業績集. 阪神貝類談話会, 西宮.

Haponski, A.E. & Foighil, D.Ó. 2019 (22 Aug.). Phylogenomic analyses confirm a novel invasive North American *Corbicula* (Bivalvia: Cyrenidae) lineage. *Peer J*, 7: e7484. <https://doi.org/10.7717/peerj.7484>

Harada, E. & Nishino, M. 1995 (31 Jul.). Differences in inhalant siphonal papillae among the Japanese species of *Corbicula* (Mollusca: Bivalvia). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 36: 389–408.

Harasewych, M.G. 1980 (30 Oct.). On the identity of the gastropod, *Murex heros* Fulton, 1936. *The Nautilus*, 94: 141–142.

Harry, H.W. 1969 (1 Jul.). Anatomical notes on the mastrid bivalve, *Raeta plicatella* Lamarck, 1818, with a review of the genus *Raeta* and related genera. *The Veliger*, 12: 1–23.

Hartman, W.D. 1897 (Aug.). *Melania yokohamensis*, n. sp. *The Nautilus*, 11: 41–42.

長谷川和範 1993. 鳥屋野潟とその周辺部の淡水産貝類相-その後. *しぶきつば*, (14): 43–47.

長谷川和範 1995 (31 Mar.). 日本産チャイロタマキビガイ属の再検討 (新生腹足目: タマキビガイ科). *貝類学雑誌*, 54: 91–92.

Hasegawa, K. 1998. A review of Recent Japanese species previously assigned to *Eufenella* and *Crathrofenella* [sic] (Mollusca: Gastropoda: Cerithioidea). *Memoirs of the National Science Museum*, Tokyo, (31): 165–186.

長谷川和範 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).

長谷川和範 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

長谷川和範・福田 宏 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

長谷川和範・奥谷喬司 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

長谷川和範・奥谷喬司・土田英治 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

畠田和一 1935 (23 Aug.). 岡山縣貝類方言. *貝類研究雑誌 ヴキナス*, 5: 229–236.

畠田和一 1951a (25 Jan.). 岡山通信 (二). *ゆ免蛤*, (58): 21(347)–22(348).

畠田和一 1951b (15 Sept.). 岡山縣英田郡後山陸産貝類目録. 畠田和一, [岡山].

畠田和一 1953 (31 Mar.). チリメンユキガヒ 児島湾に産す. *ゆ免蛤*, (70): 25(243).

畠田和一 1956 (15 Sept.). 岡山県産陸産貝類目録. 畠田和一, [岡山].

畠山祥一郎 1977 (Apr.). 香川県海産生物目録 (その1. 燧灘東部, 備讃瀬戸西部). *香川生物*, (6): 1–10.

畠山祥一郎・矢野重文 1978 (Feb.). 香川県海産生物目録 (その2. 燧灘東部, 備讃瀬戸西部). *香川生物*, (7): 1–8.

畠山祥一郎・矢野重文 1979 (Feb.). 香川県海産生物目録 (その3. 燧灘東部, 備讃瀬戸西部). *香川生物*, (8): 9–14.

八田三郎・佐々木望 1910. 北海道に産する腹足類及瓣鳃類の目録. *札幌博物學會會報*, 3: 93–98.

速水 格 1985 (31 Mar.). 日本産ヤマノニシキ類の分類と進化 (予察). *貝類学雑誌*, 44: 3–14.

速水 格 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).

速水 格 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

早瀬善正 2008 (1 Apr.). 愛知県瀬戸市定光寺周辺における陸産貝類相調査. *かきつばた*, (33): 29–39.

早瀬善正 2009 (1 Apr.). ハクサンベッコウ属の白化個体. *かきつばた*, (34): 25–26.

早瀬善正 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).

早瀬善正 2018 (1 Apr.). 東海地方で確認されたウラウズタカキビ. *かきつばた*, (43): 35–37.

早瀬善正・波部忠重 1993 (30 Nov.). シメクチャマイマイの生殖器の地方変異. *ちりばたん*, 24: 36–38.

早瀬善正・木村昭一 2014 (1 Apr.). 三重県初記録のハクサンベッコウ. *かきつばた*, (39): 37–40.

早瀬善正・木村昭一・岩田明久・河辺訓受・矢橋 真・西 浩孝・守谷茂樹・福田 宏 2019 (1 May). 岐阜県揖斐郡揖斐川町と本巣市の陸・淡水産貝類相. *かきつばた*, (44): 44–60.

早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男 2016a (1 Apr.). 梶島 (三河湾) の潮間帯貝類相. *かきつばた*, (41): 27–39.

早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・西 浩孝・川瀬基弘・石井健一郎・岩田明久・仲田彰男・藤原隆則・永尾和彦 2016b (1 Apr.). 三岳山の陸産貝類相.

かきつばた, (41): 1–16.

早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久 2018 (1 Apr.). 冠山山頂部周辺 (岐阜県側) の陸産貝類相. *かきつばた*, (43): 1–27.

早瀬善正・木村昭一・川瀬基弘 2012 (1 Apr.). 面ノ木原生林のベッコウマイマイ科 3 種. *かきつばた*, (37): 28–35.

早瀬善正・中島 匠・種倉俊之・吉川 尚・松永育之 2016c (15 Jan.). 三河湾に生息するモロハタマキビの形態的特徴と初期生活史. *ちりぼたん*, **45**: 214–226.

早瀬善正・大貫貴清・吉川 尚・松永育之・社家間太郎 2015 (29 May). 前島 (三河湾) の転石地潮間帯の貝類相—特徴的な 16 種の記録. *ちりぼたん*, **45**: 105–122.

早瀬善正・社家間太郎 2004. 富士市産ベッコウマイマイ科の一種. *かきつばた*, (29): 4–5.

早瀬善正・多田 昭・河辺訓受・矢橋 真 2006 (30 Dec.). 岐阜県産ピロウドマイマイ属の一種. *かきつばた*, (32): 15–17.

早瀬善正・種倉俊之・社家間太郎・松永育之・吉川 尚・松浦弘行・石川智士 2011 (Mar.). 愛知県幡豆町の干潟および岩礁域潮間帯の貝類相. *東海大学海洋研究所研究報告*, (32): 11–33.

早瀬善正・上野信平・松永育之・社家間太郎 2009 (10 Dec.). 駿河湾久連地先におけるオサガニヤドリガイの分布記録. *ちりぼたん*, **40**: 15–19.

林 成多・片岡大輔・中原ゆうじ 2016 (Mar.). 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における貝類生息調査 (2014 年). *ホンザキグリーン財団研究報告*, (19): 241–252.

He, J. & Zhuang, Z. 2013. *The freshwater bivalves of China*. ConchBooks, Harxheim.

Hedley, C. 1899 (6 Mar.). The Mollusca of Funafuti. Part I. — Gasteropoda. *The Australian Museum Memoir*, **3**: 395–488.

Hedley, C. 1906 (19 Nov.). The Mollusca of Mast Head Reef, Capricorn Group, Queensland. Part I. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, **31**: 453–479, pls 36–38.

Hedley, C. 1907 (25 Oct.). The Mollusca of Mast Head Reef, Capricorn Group, Queensland. Part II. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, **32**: 476–513, pls 16–21.

Hedley, C. 1913 (5 Nov.). Studies on Australian Mollusca. Part XI. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, **38**: 258–339, pls 16–19.

Hedley, C. 1922 (30 Sept.). A revision of the Australian Turridae. *Records of the Australian Museum*, **13**: 213–359, pls 42–56.

Hedtke, S.M., Stanger-Hall, K., Baker, R.J. & Hillis, D.M. 2008 (8 Feb.). All-male asexuality: origin and maintenance of androgenesis in the Asian clam *Corbicula*. *Evolution*, **62**: 1119–1136.

Heimburg, H. v. 1884 (Jun.–Jul.). Diagnosen neuer Arten. *Nachrichtsblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **16**: 92–95.

Heimburg, H. v. 1887. Abbildung und Beschreibung neuer Arten. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **14**: 1–4, pl. 1.

Hemmen, J. 2007. *Recent Cancellariidae. Annotated and illustrated catalogue of Recent Cancellariidae*. Privately published, Wiesbaden.

邊見由美・伊谷 行 2014 (Dec.). コモンヤツシハゼに付着するスミゾメキヌハダウミウシの奄美大島における記録. *南紀生物*, **56**: 137–138.

Herbert, D.G. 1986 (Dec.). A revision of the southern African Scissurellidae (Mollusca: Gastropoda: Prosobranchia). *Annals of the Natal Museum*, **27**: 601–632.

Herbert, D.G. 1990 (Nov.). A note on *Calliostoma multiliratum auctt.* (non Sowerby, 1875) in South Africa. (Mollusca: Gastropoda: Trochidae). *Annals of the Natal Museum*, **31**: 201–205.

Herbert, D.G. 2015 (30 Nov.). An annotated catalogue and bibliography of the taxonomy, synonymy and distribution of the Recent Vetigastropoda of South Africa (Mollusca). *Zootaxa*, **4049**: 1–98.

Hertlein, L.G. 1936 (Jul.; Oct.). Three new sections and rectifications of some specific names in the Pectinidae. *The Nautilus*, **50**: 24–27, 54–58.

Hertlein, L.G. & Grant, U.S. IV 1972 (21 Jul.). The geology and paleontology of the marine Pliocene of San Diego, California (Paleontology: Pelecypoda). *Memoirs of the San Diego Society of Natural History*, (2): 134–411, pls 27–57.

Hickman, C.S. & McLean, J.H. 1990 (26 Nov.). Systematic revision and suprageneric classification of trochacean gastropods. *Natural History Museum of Los Angeles County, Science Series*, (35): i–vi, 1–169.

Hidaka, H. & Kano, Y. 2014 (1 Sept.). Morphological and genetic variation between the Japanese populations of the amphidromous snail *Stenomelania crenulata* (Cerithioidea: Thiaridae). *Zoological Science*, **31**: 593–602.

Hidalgo, J.G. 1871. Description d'un *Cassis* nouveau. *Journal de Conchyliologie*, **19**: 226.

Hidalgo, J.G. 1872. Descriptions d'espèces nouvelles. *Journal de Conchyliologie*, **20**: 142–144, pl. 7.

Hidalgo, J.G. 1903. *Obras malacológicas. Parte I, Estudios preliminares sobre la Fauna Malacológica de las Islas Filipinas. Tomo II. Memorias de la Real Academia de Ciencias Exactas, Físicas y Naturales de Madrid*. Imprenta de Don Luis Aguado, Madrid.

Hidalgo, J.G. 1905. Catálogo de los moluscos testáceos de las islas Filipinas, Joló y Marianas (1). *Revista de la Real Academia de Ciencias Exactas, Físicas y Naturales de Madrid*, **3**: 9–64.

肥後俊一 1973 (Apr.). 日本列島周辺海産貝類総目録. 長崎県生物学会, 長崎.

Higo, S., Callomon, P. & Goto, Y. 1999. *Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan*. Elle Scientific Publications, Yao.

Higo, S., Callomon, P. & Goto, Y. 2001. *Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan, type figures*. Elle Scientific Publications, Yao.

軟体動物

肥後俊一・後藤芳央 1993 (1 Feb.). 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局, 八尾.

Hinds, R.B. 1843 (Nov.). Descriptions of new species of Shells collected during the voyage of Sir Edward Belcher, C.B., and by H. Cuming, Esq., in his late visit to the Philippine Islands. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 11 (for 1843): 55–59.

Hinton, A. 1972. *Shells of New Guinea and the central Indo-Pacific*. Robert Brown & Associates, Port Moresby and Jacaranda Press, Milton.

Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S. 2013 (online 4 Oct.; printed Jan. 2014). Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **70**: 171–181.

Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S. 2015a (15 Jan.). Divergence in the shell morphology of the land snail genus *Aegista* (Pulmonata: Bradybaenidae) under phylogenetic constraints. *Biological Journal of the Linnean Society*, **114**: 229–241.

平野尚浩・久保弘文 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).

Hirano, T., Saito, T. & Chiba, S. 2015b (4 Jun.). Phylogeny of freshwater viviparid snails in Japan. *Journal of Molluscan Studies*, **81**: 435–441.

Hirano, T., Saito, T., Tsunamoto, Y., Koseki, J., Ye, B., Do, V.T., Miura, O., Suyama, Y. & Chiba, S. 2019a (17 Apr.). Enigmatic incongruence between mtDNA and nDNA revealed by multi-locus phylogenomic analyses in freshwater snails. *Scientific Reports*, **9**: 6223. <https://doi.org/10.1038/s41598-019-42682-0>

Hirano, T., Saito, T., Tsunamoto, Y., Koseki, J., Prozorova, L., Do, V.T., Matsuoka, K., Nakai, K., Suyama, Y. & Chiba, S. 2019b (16 Oct.). Role of ancient lakes in genetic and phenotypic diversification of freshwater snails. *Molecular Ecology*, **28**: 5032–5051.

平瀬信太郎 1922 (15 Mar.). 日本産新キヤムプトセラスの解剖と其分類上の位置. *動物学雑誌*, **34**: 391–402, pl. 12.

平瀬信太郎 1927. 軟体動物 腹足類. In *日本動物圖鑑*, 1337–1498. 北隆館, 東京.

Hirase, S. 1930 (30 Mar.). On the classification of Japanese oysters. *Japanese Journal of Zoology, Transactions and Abstracts (Nihon Dōbutsugaku Shūhō)*, **3**: 1–65.

平瀬信太郎 1934 (10 May). 天然色寫真版 日本貝類圖譜. 松邑三松堂, 東京.

平瀬信太郎・黒田徳米 1947 (8 Nov.: 初版), 1949 (15 Sept.: 再版). かはこざら (みづちんがさ). In 内田清之助 (編), *改訂増補 日本動物圖鑑*, 1060. 北隆館, 東京.

平瀬信太郎・瀧 庸 1951 (9 Sept.). 天然色寫真版 日本貝類圖鑑 日本列島及其附近産. 文教閣, 東京.

[平瀬與一郎] 1907a (20 May). 本邦海産介類圖説 (第五). *介類雑誌*, **1**: 166–175 (Japanese), pls 7–8.

[平瀬與一郎] 1907b (20 Jun.). 本邦海産介類圖説 (第六). *介類雑誌*, **1**: 204–208, pls 9–10.

[平瀬與一郎] 1907c (20 Nov.). 本邦海産介類圖説 (十一). *介類雑誌*, **1**: 352–362 (Japanese), 4 (English), pls 19–20.

平瀬與一郎 1907d (20 Dec.). 日本陸産貝類圖説 (七). *介類雑誌*, **1**: 395–401 (Japanese), 7–8 (English), pl. 12.

Hirase, Y. 1907e. *Catalogue of marine shells of Japan, to be had of Y. Hirase*. Y. Hirase, Kyoto.

[平瀬與一郎] 1908a (20 Jan.). 本邦海産介類圖説 (十三). *介類雑誌*, **2**: 1–11 (Japanese), 2–4 (English), pls 23–24.

[平瀬與一郎] 1908b (20 May). 本邦海産介類圖説 (十七). *介類雑誌*, **2**: 143–152 (Japanese), 21–23 (English), pls 28–29.

[平瀬與一郎] 1908c (20 Jun.). 本邦海産介類圖説 (十八). *介類雑誌*, **2**: 177–184 (Japanese), 29–30 (English), pls 29–30.

[平瀬與一郎] 1908d (20 Jul.). 日本陸産貝類圖説 (十三). *介類雑誌*, **2**: 221–226 (Japanese), 37–38 (English), pl. 18.

[平瀬與一郎] 1908e (20 Dec.). 本邦海産介類圖説追加 (二). *介類雑誌*, **2**: 387–402 (Japanese), 69–73 (English), pls 41–43.

[平瀬與一郎] 1908f (20 Dec.). 日本陸産貝類圖説追加 (一). *介類雑誌*, **2**: 403–406 (Japanese), 75 (English), pl. 22.

平瀬與一郎 1910 (5 May). *日本千貝目録*. 平瀬介館, 京都.

平瀬與一郎 1917 (1 Apr.). *日本産筍貝類圖説*. 平瀬介館, 京都.

蒜山教育事務組合教育委員会 2004 (Mar.). 蒜山文化財調査報告 2 カワシンジュガイ生息地生息実態調査報告書 -旭川最上流域における調査報告-. 蒜山教育事務組合教育委員会, 八束.

Holten, H.S. 1802. *Enumeratio systematica conchyliorum beat J.H. Chemnitzii quondam ecclesiae Zebaothi Havniae pastoris, plurim societum sodialis p. p. quae publica auctione venduntur die 7me Decembris ano pres. K.H. Scidelini*, Copenhagen.

Hombron, J.B. & Jacquinot, J.H. 1848. Atlas d'Histoire Naturelle. Zoologie par MM. Hombron et Jacquinot, chirurgiens de l'expédition. In Dumont d'Urville, J. & Jacquinot, C.H. (Eds), *Voyage au Pole Sud et dans l'Océanie sur les corvettes l'Astrolabe et la Zélée, exécuté par ordre du roi pendant les années 1837–1838–1839–1840, sous le commandement de M.J. Dumont d'Urville, capitaine de vaisseau publié sous les auspices du département de la marine et sous la direction supérieure de M. Jacquinot, capitaine de vaisseau, commandant de la Zélée*. 26ème livraison, pls 17, 21, 23–25. Gide, Paris. [Not seen]

Hombron, J.B. & Jacquinot, J.H. 1854. In Rousseau, L. Description des mollusques coquilles et zoophytes. In d'Urville, J. & Jacquinot, C.H. (Eds), *Voyage au Pole Sud et dans l'Océanie sur les corvettes l'Astrolabe et la Zélée, exécuté par ordre du roi pendant les années 1837–1838–1839–1840, sous le commandement de M.J. Dumont d'Urville, capitaine de vaisseau, publié par ordonnance de Sa Majesté sous la direction supérieure de M. Jacquinot, capitaine de vaisseau, commandant de la Zélée*. Zoology. Tome Cinquième (V). Gide, Paris.

Honda, J., Willan, R.C., Suzukida, K., Mizoguchi, K. & Fukuda, H. 2001 (28 Dec.). Discovery of healthy populations of the endangered bivalve *Soletellina adamsii* Reeve, 1857 (Tellinoidea: Psammobiidae) on the Suō-nada Sea (western Seto Inland Sea) coast of Yamaguchi Prefecture, western Japan, with taxonomic remarks. *The Yuriyagai*, **8**: 23–32.

- Hong, J.-S., Choi, J.-W. & Tsutsumi, H. 2010 (Dec.). Concluding remarks on the joint survey of macrobenthic fauna on Suncheon Tidal Flats by the participants of "Korea and Japan Joint Symposium on Biology of Tidal Flats 2009". *Plankton & Benthos Research*, **5** (suppl.): 255–263.
- 堀 成夫 1996 (Oct.). 萩市郷土博物館所蔵の山口県北部地方産トウガタガイ科貝類 (軟体動物門: 腹足綱: 異旋目) の再検討. *The Yuriyagai*, **4**: 139–162.
- 堀 成夫 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).
- 堀 成夫 2002 (30 Sept.). 和歌川河口干潟のトウガタガイ類. *うみうし通信*, (36): 10–11.
- 堀 成夫 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- Hori, S., Fukuda, T., Hosaka, K., Mashino, K. & Koda, I. 1997 (24 Dec.). On the populations of *Hippeutis cantori* (Benson, 1850), a vulnerable freshwater snail (Branchiopulmonata: Planorbidae) in Yamaguchi Prefecture, Japan. *The Yuriyagai*, **5**: 61–68.
- Hori, S. & Iizumi, H. 1997 (Mar.). Pyramidellid fauna of intertidal zone to shallow depths of Oshoro Bay, Japan Sea coast on middle Hokkaido, Japan (Mollusca: Gastropoda: Pyramidellidae). *Bulletin of the Hokkaido National Fisheries Research Institute*, (61): 27–53.
- Hori, S., Kuroda, R. & Okamura, S. 2002 (30 Jun.). Re-description of *Odostomia oyasivo* Nomura, 1939 with a comparison with *Odostomia desimana* Dall & Bartsch, 1906 (Heterobranchia: Pyramidellidae). *Venus*, **61**: 1–14.
- Hori, S. & Tsuchida, E. 1995 (31 Dec.). A revision of systematic position of genus *Leucotina* (Gastropoda: Heterostropha). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **54**: 279–293.
- 堀口敏宏 1998 (Jul.). 有機スズ化合物と海産巻貝類の生殖器異常. *科学*, **68**: 546–551.
- 堀口敏宏 2000 (1 Oct.). 貝類. In 川合真一郎・小山次朗 (編), *水産環境における内分泌攪乱物質*, 54–72. 恒星社厚生閣, 東京.
- 堀口敏宏 2007 (1 Oct.). 腹足類の内分泌系とインボセックスの発症機構. *Biomedical Research on Trace Elements*, **18**: 231–240.
- Horiguchi, T., Kojima, M., Hamada, F., Kajikawa, A., Shiraishi, H., Morita, M. & Shimizu, M. 2005 (online 21 Oct.; print Apr. 2006). Impact of tributyltin and triphenyltin on ivory shell (*Babylonia japonica*) populations. *Environmental Health Perspectives*, **114** (Suppl. 1):13–19.
- 堀口敏宏・清水 誠 1992 (15 Oct.). 貝類及び他の水生生物. In 里見至弘・清水 誠 (編), *有機スズ汚染と水生生物影響*, 99–135. 恒星社厚生閣, 東京.
- 堀川安市 1964 (20 Mar.). *長崎県産貝類目録*. 長崎生物研究会, 長崎.
- 堀越増興・野村洋太郎・斎藤 孝・小菅貞男 1963 (15 Mar.). 横須賀市博物館所蔵細谷角次郎氏蒐集貝類標本目録. *横須賀市博物館研究報告 (自然科学)*, (9): 1–143, unnumbered pl.
- 堀越増興・土田英治・今島 実・武田正倫・蒲生重男・太田 秀 1979. 大槌湾およびその周辺三陸沿岸の底生無脊椎動物 — 第 1 次・動物目録. *東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告*, (5): 37–85.
- Horsáková, V., Nekola, J.C. & Horsák, M. 2019 (Mar.). When a "cryptic" not a cryptic species: A consideration from the Holarctic micro-landsnail genus *Euconulus* (Gastropoda: Stylommatophora). *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **132**: 307–320.
- Horst, R. & Schepman, M.M. 1908. *Catalogue systématique des mollusques (Gastropodes prosobranches et polyplacophores)*. *Muséum d'Histoire Naturelle des Pays-Bas, Tome 13*. E.J. Brill, Leiden.
- 保阪健市 1994 (Jul.). 山口県上関町周辺で採集された注目すべき海産貝類. *ユリヤガイ*, **3**: 1–4.
- Hosaka, K. & Fukuda, H. 1996 (Oct.). Discovery of a population of an endangered brackish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda: Neotaenioglossa: Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguchi Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. *The Yuriyagai*, **4**: 65–96.
- Houart, R. 1992 (20 Oct.). The genus *Chicoreus* and related genera (Gastropoda: Muricidae) in the Indo-West Pacific. *Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle, Série A, Zoologie*, **154**: 1–188.
- Houart, R. 2008 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Houart, R. & Sirenko, B.I. 2003. Review of the Recent species of *Ocenebra* Gray, 1847 and *Ocenebrellus* Jousseaume, 1880 in the Northwestern Pacific. *Ruthenica*, **13**: 53–74.
- Houbrick, R.S. 1985. Genus *Clypeomorus* Jousseaume (Cerithiidae: Prosobranchia). *Smithsonian Contributions to Zoology*, (403): 1–131.
- 衍汀子 1929 (20 Nov.). 暴風後の伊勢海所見. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **1**: 198–202.
- Hubendick, B. 1946. Systematic monograph of the Patelliformia. *Kungliga Svenska Vetenskapsakademiens Handlingar*, Tredje (3) Serien., **23**(5): 1–93, pls 1–6.
- Hubendick, B. 1967. On the genus *Camptoceras*. *Arkiv för Zoologi*, **20**: 165–173.
- Huber, M. 2010. *Compendium of bivalves. A full-color guide to 3,300 of the world's marine bivalves. A status on Bivalvia after 250 years of research*. ConchBooks, Hackenheim.
- Huber, M. 2015. Lucinidae (pp. 67–106, 410–460); Galeommatidae (107–166, 460–558); Ungulinidae (326–343, 812–833); Veneridae (758–767). In Huber, M. (Ed.), *Compendium of bivalves 2*. ConchBooks, Harxheim.
- Huber, M., Langleit, A. & Kreipl, K. 2015 (May). Tellinidae. In Huber, M. (Ed.), *Compendium of bivalves 2*, 167–297, 564–746. ConchBooks, Harxheim.
- Hylleberg, J. 2000. Molluscs collected by the TMMP in Vietnam and Cambodia. *Phuket Marine Biological Center Special Publication*, **21**: 519–537.
- Hylleberg, J. 2004. Lexical approach to Cardiacae. Parts 2 and 3. Records of taxa. Illustrated and annotated records of living and fossil shells, with emphasis on the families Cardiidae and Lymnocardiiidae (Mollusca: Bivalvia). *Phuket Marine Biological Center Special Publication*, **30**: 353–940.
- Hylleberg, J. & Kilburn, R.N. 2002. Annotated inventory of molluscs from the Gulf of Mannar and vicinity. *Phuket Marine Biological Center Special Publication*, **26**: 19–79.

軟体動物

- Hylleberg, J. & Kilburn, R.N. 2003. Marine molluscs of Vietnam. Annotations, voucher material, and species in need of verification. *Phuket Marine Biological Center Special Publication*, **28**: 5–300.
- 市川純也・上島 励 2019 (18–19 May). ベッコウマイマイ類の分子系統地理. In 日本貝類学会 令和元年度大会研究発表要旨集, 24. 日本貝類学会, 東京.
- Ihering, H. von 1893. Die Süßwasser-Bivalven Japans. *Abhandlungen der Senckenbergischen Naturforschenden Gesellschaft*, **18**: 145–166.
- 飯島國昭 2018 (10 Aug.). 長野県陸産・淡水産貝類誌. 著者自刊, 下條.
- 池邊展生 1936 (28 Dec.). 千葉縣豊成の貝化石層 (關東南部新生代化石群 其の4). 附 *Odostomia* の2新種及び *Arcopagia serricostata* の記載. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **6**: 189–205.
- 池邊展生 1941 (25 Nov.). 日本産エビスガヒ属の目録. *日本貝類學會機關雜誌ヴェキナス*, **11**: 54–63.
- Ikebe, N. 1942 (Dec.). Trochid Mollusca *Calliostoma* of Japan, fossil and Recent. *Japanese Journal of Geology and Geography, Transactions and Abstracts*, **18**: 249–282, pls 26–28.
- 池辺進一 2008 (31 Mar.). 和歌山県の貝類. 池辺進一, 和歌山.
- 池辺進一・吉田 誠 2006 (31 Mar.). 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 池田 等・倉持卓司・渡辺政美 2001 (Mar.). 相模湾レッドデータ —貝類—. 葉山しおさい博物館, 葉山.
- 池田美成・多田武一 1963 (28 Oct.). 山口県北部地方貝類目録. 萩市郷土博物館, 萩.
- 稲葉明彦 1963 (Oct.). 瀬戸内海の生物相. 広島大学理学部附属向島臨海実験所, 向島.
- 稲葉明彦 1967 (10 Sept.). オニサザエ (イワボラ) の成長について. *貝類学雑誌*, **26**: 5–7.
- 稲葉明彦 1976 (30 Jun.). 本邦産タマガイ科の歯舌について. *貝類学雑誌*, **35**: 87–90.
- 稲葉明彦 1982 (27 Dec.). 瀬戸内海の貝類. 広島貝類談話会, 向島.
- 稲葉明彦 1988 (31 Mar.). 帝釈峡とその周辺の貝類. In 帝釈峡の自然刊行会 (編), *帝釈峡の自然 帝釈峡総合学術調査報告*, 473–486. 帝釈峡の自然刊行会, 東城.
- 稲葉明彦・鳥越兼治 2004 (Mar.). 世界のカキ (2) 各論. *西宮市貝類館研究報告*, (3): 1–63, pls 1–13, index 1–9.
- 稲臣成一 1953 (31 Jan.). 岡山縣下吸虫類中間宿主の研究 (5) 児島湾沿岸に於ける「マメタニシ」の分布について. *岡山醫學會雑誌*, **65**(1): 45–49.
- 稲臣成一・木村道也 1955 (30 Apr.). 岡山県下に於ける「マメタニシ」の分布及び犬猫の肝吸虫寄生状況. *岡山醫學會雑誌*, **67**(3–4): 651–653.
- Iredale, T. 1924 (24 Oct.). Results from Roy Bell's molluscan collections. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, **49**: 179–278, pls 33–36.
- Iredale, T. 1929 (29 Jun.). Queensland molluscan notes, No. 1. *Memoirs of the Queensland Museum*, **9**: 261–297, pls 30–31.
- Iredale, T. 1931 (21 Jun.). Australian molluscan notes. No. 1. *Records of the Australian Museum*, **18**: 201–235, pls 22–25.
- Iredale, T. 1939 (31 Dec.). Mollusca, Part I. *Scientific Reports of the Great Barrier Reef Expedition 1928–1929*, **5**(6): 209–425, pls 1–7.
- Iredale, T. 1943 (30 Apr.). A basic list of the fresh water Mollusca of Australia. *The Australian Zoologist*, **10**: 188–230.
- 石井久夫 1987 (28 Feb.). 大阪地下の二枚貝化石. *大阪市立自然史博物館収蔵資料目録*, (19): i–ii, 1–36, pls 1–20.
- 石井久夫 1993 (31 Mar.). 大阪地下の巻貝化石. *大阪市立自然史博物館収蔵資料目録*, (25): i–ii, 1–36, pls 1–16.
- 石川 裕 2011 (21 Mar.). カモジガイとヒラカモジガイの区別点. *まいご*, (18): 8.
- 石川 裕 2012 (Mar.). 松山市産海産貝類目録. In まつやま自然環境調査会 (編), *松山市野生動物植物目録2012*, 295–306. 松山市環境部, 松山. https://www.city.matsuyama.chime.jp/shisei/hozen/reddata.files/0901_Polyplacophola.pdf
- 石川 裕 2013 (25 May). ヒラシオガマ類について. *まいご*, (20): 6–10.
- 石川 裕 2014a (15 Jun.). シオガマガイ類 (*Diplodonta* 属) の貝について. *まいご*, (21): 17–20.
- 石川 裕 2014b. イオウハマグリ. 愛媛県レッドデータブック改訂委員会 (編), *愛媛県レッドデータブック2014*. 愛媛県, 松山. [2019年8月2日閲覧] https://www.pref.chime.jp/reddatabook2014/detail/07_01_003810_0.html
- 石川政治 1953 (14 Jul.). 函館近海の貝類. *市立函館博物館自然科学叢書 第1輯*. 市立函館博物館, 函館.
- 石山尚珍 1970. 浅虫・函館・恵山岬周辺における貝類の生息環境の比較についての研究. *地質調査所月報*, **21**: 165–186.
- 石山尚珍 1972. 宮古湾と山田湾における貝類の生息環境の比較について. *地質調査所月報*, **23**: 365–370, unpaginated table.
- 石山尚珍 1973. 岩手県の海に生息する貝類とその環境について. *地質調査所月報*, **24**: 519–528, unpaginated table.
- 石坂 元 1978. 鳥取周辺地域の陸産貝類. *鳥取県博物館協会会報*, (17): 3–6.
- Issel, A. 1869. *Malacologia del Mar rosso, ricerche zoologiche e paleontologiche*. Biblioteca Malacologia, Pisa.
- Itagaki, H. 1965 (30 Dec.). Anatomy of *Parafossarulus manchouricus* Bourguignat (Bithyniidae). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **24**: 169–180, pls 17–19.
- 板垣 博・今井源四郎 1960 (31 Aug.). 北海道におけるモノアラガイの種類と分布. *ちりぼたん*, **1**: 41–42.

- 伊谷 行 2007 (Mar.). 瀬戸内海中央部. In 飯島明子 (編), 第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査) 報告書, 90-91. 環境省自然環境局 生物多様性センター, 富士吉田.
- 伊藤勝千代 1967 (Aug.). 兵庫県北部 (但馬) 海岸およびその沖合に産する貝類. *日本海区水産研究所研究報告*, (18): 39-91.
- 伊藤勝千代 1978 (Mar.). 佐渡真野湾付近における貝類遺骸の出現分布. *日本海区水産研究所研究報告*, (29): 201-227.
- 伊藤勝千代 1979 (Mar.). 佐渡真野湾付近における貝類遺骸の出現分布 (追補). *日本海区水産研究所研究報告*, (30): 41-66.
- 伊藤勝千代 1989 (Feb.). 新潟県中・下越及び佐渡島沿岸の貝類分布. *日本海区水産研究所研究報告*, (39): 37-133.
- 伊藤勝千代 1990 (Mar.). 若狭湾における貝類の出現分布. *日本海区水産研究所研究報告*, (40): 79-211.
- 伊藤勝千代 1999 (18 Jul.). 伊藤勝千代氏寄贈コレクション 海産貝類総目録. 両津市郷土博物館, 両津.
- 伊藤良吉 1967 (Jul.). ホラアナゴマオカチグサの分布について. *秋吉台科学博物館報告*, (4): 83-87.
- 伊藤寿茂・上杉翔太・柿野 亘 2016 (17 Nov.). 実験飼育下で判明したカラスガイ幼生の宿主魚類. *Venus*, **74**: 79-88.
- 糸魚川淳二 1953 (15 Nov.). 宮崎層群産の *Siphonalia* 属 1 新種について. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **17**: 213-218.
- 糸魚川淳二・中山 清 1968 (31 Oct.). 愛知県高浜町碧海層産の第四紀貝化石群. *貝類学雑誌*, **27**: 62-75.
- 岩川友太郎 1909 (16 Jun.). 日本産貝類標本目録 東京帝室博物館天産科 第壹篇 (海産腹足類及掘足類). 東京帝室博物館, 東京.
- 岩川友太郎 1915. 日本産蛤類目録 (6, 9, 10, 12). *動物学雑誌*, **27**: app. 17-22 (15 Feb.), 35-40 (15 May), 41-46 (11 Aug.), 69-74 (15 Dec.).
- 岩川友太郎 1916. 日本産蛤類目録 (14, 15, 16, 17). *動物学雑誌*, **28**: app. 11-20 (21 Feb.), 21-36 (17 Mar.), 37-42 (22 Apr.), 43-52 (28 May).
- 岩川友太郎 1919 (30 Dec.). 日本産貝類標本目録 東京帝室博物館天産課. 東京帝室博物館, 東京.
- Jacobi, A. 1898 (27 Jun.). Japanische beschalte Pulmonaten. Anatomische Untersuchung des in Zoologischen Museum der Kaiserlichen Universität in Tokyo enthaltenen Materiales. I. Pulmonaten. *The Journal of the College of Science, Imperial University of Tôkyô, Japan*, **12**: 1-102, pls 1-9.
- Janssen, R. 1993 (28 Feb.). Die Typen und Typoide des Natur-Museums Senckenberg, 81. Die Typen der von Dunker 1860/1861 beschriebenen japanischen Meeresmollusken. *Archiv für Molluskenkunde*, **122**: 403-435.
- Jay, J.C. 1857. Report on the shells collected by the Japan Expedition, under the command of Commodore M.C. Perry, U.S.N., together with a list of Japan shells. In Perry, M.C. (ed.), *Narrative of the expedition of an American squadron to the China Seas and Japan, performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of Commodore M.C. Perry, United States Navy, by order of the Government of the United States, Volume II*, pp. 289-297, pls 1-5. Beverley Tucker, senate printer, Washington.
- Jeffreys, J.G. 1862-1869. *British conchology, or an account of the Mollusca which now inhabit the British Isles and the surrounding seas*, Vols 1, *Land and freshwater shells* (1862); 2, *Marine shells, comprising the Brachiopoda, and Conchifera from the family of Anomiidae to that of Mactridae* (1864 "1863"); 3, *Marine shells, comprising the remaining Conchifera, the Solenoconchia, and Gastropoda as far as Littorina* (1865); 4, *Marine shells, in continuation of the Gastropoda as far as the Bulla family* (1867); 5, *Marine shells and naked Mollusca to the end of the Gastropoda, the Pteropoda, and Cephalopoda; with a supplement and other matter, concluding the work* (1869). van Voorst, London.
- Jickeli, C.F. 1875 ["1874"]. Fauna der Land- und Süßwasser-Mollusken Nord-Ost-Afrika's. *Nova Acta Academiae Caesareae Leopoldino-Carolinae Germanicae Naturae Curiosorum*, **37**(1): 1-352, pls 1-11.
- Johnson, R.I. 1964. The Recent Mollusca of Augustus Addison Gould. Illustrations of the types described by Gould, with a bibliography and catalog of his species. *Smithsonian Institution, United States National Museum, Bulletin*, **239**: 1-182, pls 1-45.
- Jousseume, F. 1888. Description des mollusques recueillies par M. le Dr. Faurot dans la Mer Rouge et le Golfe d'Aden. *Mémoires de la Société Zoologique de France*, **1**: 165-223.
- Jousseume, F. 1891. Diagnoses de mollusques nouveaux. *Le Naturaliste*, **13** [= ser. 2, 5]: 222.
- Jousseume, [F.P.] 1894. Diagnoses des coquilles de nouveaux mollusques. *Bulletin de la Société Philomathique de Paris*, Huitième (8) Série, **6**: 98-105.
- Kafanov, A.I. & Lutaenko, K.A. 1996. New data on the bivalve mollusc fauna of the North Pacific Ocean. 2. On the status and taxonomic position of some Tellinidae. *Ruthenica*, **6**: 11-21. (In Russian with English title and abstract)
- Kafanov, A.I. & Lutaenko, K.A. 1997. New data on the bivalve mollusc fauna of the North Pacific Ocean. 3. On some species of the subfamily Dosiniinae (Veneridae). *Ruthenica*, **7**: 149-153. (In Russian with English title and abstract)
- 貝原篤信 (益軒) 1709. *大和本草*. 永田調兵衛, 福岡.
- Kaicher, S.D. 1978a (2 Mar.). *Card catalogue of world-wide shells. Pack #16, Muricidae, Part III*. Cards [i-ii], 1540[bis]-1541, 1543-1646. S.D. Kaicher, St. Petersburg, Florida.
- Kaicher, S.D. 1978b (6 Dec.). *Card Catalogue of World-wide Shells. Pack #19, Cancellariidae*. Cards [i-ii], 1859-1964. S.D. Kaicher, St. Petersburg, Florida.
- Kaicher, S.D. 1980 (15 Dec.). *Card catalogue of world-wide shells. Pack #25, Muricidae, Part V*. Cards [i-ii], 2498-2603. S.D. Kaicher, St. Petersburg, Florida.
- Kaicher, S.D. 1985 (22 Jan.). *Card catalogue of world-wide shells. Pack #40, Coralliophilidae Part I*. Cards [i-ii], 3988-4093. S.D. Kaicher, St. Petersburg, Florida.
- 梶山彦太郎・市原 実 1972 (Dec.). 大阪平野の発達史 —¹⁴C年代データからみた—. *地質学論集*, (7): 101-112.
- 亀田勇一 2017 (19 Aug.). アキラマイマイとシメクチマイマイ -カタツムリの分布にみる 1000年前の海岸線-. 平成29年度自然史学会連合講演会 瀬戸内海の自然史 要旨集, 3.

軟体動物

- Kameda, Y. & Fukuda, H. 2015 (15 Jan.). Redefinition of *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900) (Camaenidae), with description of a new cryptic species endemic to the coasts and islands of the central Seto Inland Sea, western Japan. *Venus*, **73**:15–40.
- 亀田勇一・川北 篤・加藤 真 2008 (31 Aug.). 「ホリアナゴマオカチグサ」は洞窟ごとに別種である. *Venus*, **67**: 99.
- 金谷 弦・柚原 剛・青木美鈴・森 敬介・鈴木孝男 2018 (30 Mar.). 松島湾櫃ヶ浦干潟(宮城県利府町)の大型底生動物相 -2017年10月の定性調査. *みちのくペンタス*, (2): 43–48.
- 神田正人 1992 (Mar.). 大分県陸産貝類誌. 神田正人, 佐伯.
- 金子寿衛男 1959 (31 Aug.). トウガタガイ科貝類の二三について. *Venus, Japanese Journal of Malacology*, **20**: 305.
- 金安健一 2014 (23 Mar.). 新潟県内初のカタハガイの生息を確認. *しぶきつば*, (34-35): 37–38.
- 金安健一 2017 (20 Mar.). ニセマツカサガイを長岡市で確認. *しぶきつば*, (38): 13–14.
- 環境庁 1988 (17 Oct.). 第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書—動物分布把握に向けての第1回報告— 陸産及び淡水産貝類. 環境庁, 東京.
- 環境庁自然保護局 1993 (Mar.). 第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 別冊・分布図(陸産及び淡水産貝類). 環境庁自然保護局, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)2014 (Sept.). レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—6 貝類. ぎょうせい, 東京.
- 福田 宏. ヤタノカガミ (p. 406).
- 木村昭一. ウラカガミ (238).
- 近藤高貴. イケチョウガイ (219), ヒメマルマメタニシ (290), カタハガイ (390).
- 久保弘文. ヒナギンチャク (216).
- 増田 修. ミズコハクガイ (310).
- 湊 宏. イトウムシオイ (24), ヤセキセルガイモドキ (109).
- 中井克樹. カワネジガイ (83), クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ) (310).
- 上島 励. オオカサネシタラ (新称) (163).
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)2019 (24 Jan.). 環境省レッドリスト2019. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.
<https://www.env.go.jp/press/106383.html>
- 狩野泰則・後藤好正 1992 (Nov.). 座間市谷戸山の陸産淡水産貝類. *神奈川県自然保全研究会報告書*, (11): 11–15.
- 狩野泰則・後藤好正 1996 (Feb.). 横浜市の陸産貝類. *神奈川県自然保全研究会報告書*, (14): 43–106.
- Kantor, Y.I. & Sysoev, A.V. 2006. *Marine and brackish water Gastropoda of Russia and adjacent countries: an illustrated catalogue*. KMK Scientific Press, Moscow.
- Karasawa, H., Nishimoto, H., Okumura, Y. & Tanaka, T. 1994 (Dec.). The status of *Ostrea pestigris* Hanley, 1846 and *Ostrea rivularis* Gould, 1861 (Bivalvia: Ostreidae). *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum*, (21): 63–70, pls 16–18.
- 柏尾 翔・福井翔太郎 2012 (Mar.). 函館市の貝類. In 福井翔太郎・柏尾 翔(編). 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター白尻水産実験所付近の貝類 改訂版, 54–74. 北方圏貝類研究会, 函館.
- 柏尾 翔・花崎勝司・児島 格・山田浩二・大島麻里・大古場正・松岡 悠・大谷道夫 2016. 岸和田市阪南2区人工干潟における魚類および貝類, 甲殻類相について (2009年度–2014年度の調査記録). *ましわだ自然資料館研究報告*, (4): 1–13.
- 片山 久 2001 (Mar.). 岡山県に生息する陸水貝類とその分布. *倉敷市立自然史博物館研究報告*, (16): 1–53.
- 加藤 真・福田 宏 1996 (20 Dec.). 二枚貝綱. In 花輪伸一・佐久間浩子(編), 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japan Science Report*, **3**: 65–73.
- 加藤昌一 2010 (20 Jun.). *ネイチャーウォッチングガイドブック ウミウシ 生きている海の妖精*. 誠文堂新光社, 東京.
- 加藤 徹 2004. ミズコハクガイ. In 静岡県自然環境調査委員会(編), まもりたい静岡県の野生生物—県版レッドデータブック—(動物編), 304. 羽衣出版, 静岡.
- 加藤 徹 2005 (31 Mar.). 陸・淡水産貝類. In 静岡県自然環境調査委員会(編), 静岡県野生生物目録, 195–198. 静岡県環境森林部自然保護室, 静岡.
<https://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-070/wild/documents/01kensenamokuroku.pdf>
<https://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-070/wild/documents/09kairui.pdf>
- 桂又三郎 1932 (5 Jun.). *岡山貝類方言圖譜*. 中國民俗學會, 岡山.
- 河辺訓受 2002. 石巻山周辺淡水貝類観察調査会報告—愛知県でミズコハクガイを初記録—. *かきつばた*, (29): 4–5.
- 川瀨千尋 2011 (30 Dec.). 由良湾・成ヶ島周辺の貝類. In 兵庫県生物学会(編), ゆたかな兵庫の自然力 生物の多様性と人々の営み, 142–147. 兵庫県生物学会, 神戸.
- 川瀨千尋 2012 (1 Nov.). 由良湾・成ヶ島周辺の貝類 (干潟の絶滅危惧動物図鑑に掲載されている種ほか). 著者自刊, 発行地不詳.
- 川口貞雄 1985 (31 Jul.). イナバマメタニシの新産地. *ちりぼたん*, **16**: 65.
- Kawaguti, S. 1959 (Dec.). Formation of the bivalve shell in a gastropod, *Tamanovalva limax*. *Proceedings of the Japan Academy*, **35**: 607–611.
- Kawaguti, S. & Baba, K. 1959 (30 Sept.). A preliminary note on a two-valved sacoglossan gastropod, *Tamanovalva limax*, n. gen., n. sp., from Tamano, Japan. *Biological Journal of Okayama University*, **5**: 177–184.
- 川口四郎・弥益輝文 1959 (15 Dec.). 二枚の殻をもつた囊舌目のウミウシ: タマノミドリガイ. *動物学雑誌*, **68**(12): 442–446.
- 川口洋治 2016 (Mar.). ナミコギセル. In 秋田県生活環境部自然保護課(編), 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物—秋田県版レッドデータブック2016—動物I (鳥類・爬虫類・両生類・淡水魚類・陸産貝類), 121, pl. 19, fig. 秋田県生活環境部自然保護課, 秋田. <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/10620>

- 川原逸朗・山口忠則・大隈 齊・伊藤史郎 2003 (Jul.). 有明海湾奥部におけるクマサルボウの種苗生産に関する研究 —I 採卵と発生. *佐賀県有明水産振興センター研究報告*, (21): 23–28.
- 河本秀高・木村昭一 2015 (1 Apr.). 下北半島尻尻の蛸壺から得られた微小貝. *かきつばた*, (40): 56–57.
- 河本卓介 1929 (15 Aug.). 貝類雑俎 (2). *貝類研究雑誌* *グキナス*, 1: 129–132.
- 河本卓介 1934 (7 Jul.). 貝類雑俎 (5). *貝類研究雑誌* *グキナス*, 4: 307–311.
- 河本卓介 1961 (25 Dec.). “カラスノマクラ” 問題について. *ちりぼたん*, 1: 223.
- 河本卓介 1966 (23 Dec.). 大島瀬戸の貝類. *山口県其自然*, (16): 38–44.
- 河本卓介・田邊澄生 1956 (25 Mar.). *山口県産貝類目録*. 山口県立山口博物館, 山口.
- 川名美佐男 2007 (12 Mar.). *かたつむりの世界 [マイマイ属]*. 近未来社, 名古屋.
- 河瀬正利 2006 (Jun.). *吉備の縄文貝塚*. 吉備人出版, 岡山.
- 川瀬基弘 2016. 東海丘陵湧水湿地群に生息する貝類. *矢作川研究*, (20):13–16.
- 川瀬基弘 2018. 名古屋市内から絶滅したモノアラガイ *Radix auricularia japonica* Jay, 1857. *なごやの生物多様性*, 5: 27–31.
- 川瀬基弘・市原 俊・河合秀高 2015 (19 Mar.). 中部更新統渥美層群の軟体動物化石. *瑞浪市化石博物館研究報告*, (41): 51–131.
- 川瀬基弘・市原 俊・寺本匡寛・鶴飼 普 2018. 名古屋市の淡水産貝類. *なごやの生物多様性*, 5: 33–45.
- 川瀬基弘・松原美恵子・森山昭彦 2016. 愛知県西三河地域から採集されたヒラマキガイ属 3 種: 形態と遺伝子情報による解析. *陸の水*, 74: 43–48.
- 川瀬基弘・村瀬文好・早瀬善正・市原 俊・森山昭彦・家山博史 2012. 岐阜市に生息する淡水産貝類. *陸の水*, 54: 33–42.
- 川瀬基弘・西尾和久・松原美恵子・森山昭彦・市原 俊 2016 (15 Dec.). キセルガイモドキ属の特徴と COI 遺伝子からみた分子系統関係. *瀬木学術紀要*, (10): 24–32.
- Kay, E.A. 1962 (7 Jul.). A bivalved gastropod from the Hawaiian Islands. *Nature*, 195(4836): 96–97.
- Kay, E.A. 1965 (Dec.). Marine molluscs in the Cuming Collection, British Museum (Natural History) described by William Harper Pease. *Bulletin of the British Museum (Natural History)*, *Zoology*, **Supplement 1**: 1–96, pls 1–14.
- Kay, E.A. 1979. *Hawaiian marine shells. Reef and shore fauna of Hawaii. Section 4: Mollusca. Bernice P. Bishop Museum Special Publications*. Bishop Museum Press, Honolulu.
- Kay, E.A. & Johnson, S. 1987. Chapter 14. Mollusca of Enewetak Atoll. In Devaney, D.M., Reese, E.S., Burch, B.L. & Helfrich, P. (Eds), *The natural history of Enewetak Atoll, Volume II Biogeography and systematics*, 105–146. United States Department of Energy, Office of Energy Research, Office of Health and Environmental Research, Ecological Research Division, Oak Ridge.
- Keen, A.M. 1960 (30 Apr.). A bivalve gastropod. *Nature*, 186(4722): 406–407.
- Keen, A.M. & Smith, A.G. 1961 (20 Mar.). West American species of the bivalved gastropod genus *Berthelinia*. *Proceedings of the California Academy of Science*, Fourth Series, 30: 47–66, pl. 1.
- Kiener, L.C. 1835–1838. Genre Pourpre. (*Purpura*, Lam.). In Kiener, L.-C. (Ed.), *Spécies général et iconographie des coquilles vivantes, comprenant la collection du Muséum d'histoire naturelle de Paris, la collection Lamarck, celle du Prince Masséna (appartenant maintenant a M. B. Delessert) et les découvertes récentes des voyageurs*, 8: 1–151, pls 1–46. J.-B. Baillièrre et Fils, Paris. [pls 1–3 on 21 Dec. 1835; pp. 1–32 and pls 4–21 on 31 Dec. 1835; pp. 33–48 and pls 22–37 in [1836]; pp. 49–64 and pls 28–33 on 5 Dec. 1836; pp. 65–80 and pls 34–39 on 19 Dec. 1836; pp. 81–96 and pls 40–45 on 20 Feb. 1837; pp. 97–112 and pl. 46 on 20 Mar. 1837; pp. 113–128 on 8 May 1837; pp. 129–144 on 28 Aug. 1837; pp. 145–151 on 12 Mar. 1838; according to Coan & Kabat, 2018: 47]
- Kiener, L.C. 1838. Genre Roulette (*Rotella*, Lam.). In Kiener, L.-C. (Ed.), *Spécies général et iconographie des coquilles vivantes, comprenant la collection du Muséum d'histoire naturelle de Paris, la collection Lamarck, celle du Prince Masséna (appartenant maintenant a M. B. Delessert) et les découvertes récentes des voyageurs*, vol. 10, 1–10, pls 1–3. J.-B. Baillièrre et Fils, Paris.
- Kiener, L.-C. 1841–1842. Genre Cérite (*Cerithium*, Adanson). In Kiener, L.-C. (Ed.), *Spécies général et iconographie des coquilles vivantes, comprenant la collection du Muséum d'histoire naturelle de Paris, la collection Lamarck, celle du Prince Masséna (appartenant maintenant a M. B. Delessert) et les découvertes récentes des voyageurs*, 5: 1–104, pls 1–32. J.-B. Baillièrre et Fils, Paris. [pp. 1–32 and pls 1–32 in 1841; pp. 33–104 in 1842; according to Coan & Kabat, 2018: 48]
- 紀平 肇・河合典彦 1998 (30 Nov.). 淀川の河川敷でクルマヒラマキガイみつかる. *ちりぼたん*, 29: 12.
- 紀平 肇・松田征也・内山りゅう 2009 (30 Oct.). *日本産淡水貝類図鑑 ①琵琶湖・淀川産の淡水貝類*, 改訂版. ビーシーズ, 横浜.
- 菊池典男・大原健司・大谷洋子・鹿取秀雄 1996. *西宮市所蔵黒田徳米博士記載貝類模式標本目録*. 西宮市, 西宮.
- Kilburn, R.N. 1971 (Feb.). On some species of the families Tonnidae, Hipponicidae, Buccinidae, Columbariidae, Fasciolaridae, Psammobiidae and Mactridae (Mollusca) in South African waters. *Annals of the Natal Museum*, 20: 483–497.
- Kilburn, R.N. 1972 (Dec.). Taxonomic notes on South African marine Mollusca (2), with the description of new species and subspecies of *Conus*, *Nassarius*, *Vexillum* and *Demoulia*. *Annals of the Natal Museum*, 21: 391–437.
- Kilburn, R.N. 1983 (Oct.). The Recent Arcidae (Mollusca: Bivalvia) of southern Africa and Mozambique. *Annals of the Natal Museum*, 25: 511–548.
- Kilburn, R.N. 1985 (Dec.). The family Epitoniidae (Mollusca: Gastropoda) in southern Africa and Mozambique. *Annals of the Natal Museum*, 27: 239–337.
- Kilburn, R.N. 1988 (Oct.). Description of a new species of *Eunaticina* (*Gennaosimum*), with notes on some other members of the subgenus (Mollusca: Gastropoda: Naticidae).

軟体動物

Annals of the Natal Museum, **29**: 523–527.

Kilburn, R. & Rippey, E. 1982. *Sea shells of southern Africa*. Macmillan South Africa, Johannesburg.

Kilias, R. 1962 (Mar.). Gastropoda / Prosobranchia, Tonniidae. *Das Tierreich, Eine Zusammenstellung und Kennzeichnung der rezenten Tierformen*, **77**: 1–63.

Kim, S.J. (Ed.) 2017 (31 Dec.). *National list of marine species 2017. I. Marine animals, II. Marine protists, III. Marine plants, IV. Marine fungi, V. Marine bacteria*. National Marine Biodiversity Institute of Korea, Seocheon. (in Korean with English title).

木村昭一 1994. 東海地方の淡水貝類相. *全国高等学校水産教育研究会研究彙報*, (33): 14–34.

木村昭一 2007 (31 Aug.). 日本本土に分布するトガリユウシオガイ. *ちりぼたん*, **38**: 27–31.

木村昭一 2009 (Mar.). アゲマキ (p. 461), タクミナ (483), カラスガイ (602). In 愛知県環境調査センター (編), *愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009 –動物編–*. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/rdb/kai/animals_461.pdf
http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/rdb/kai/animals_483.pdf
https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/rdb/kai/animals_602.pdf

木村昭一 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).

木村昭一 2014 → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).

木村昭一 2017 (1 Apr.). 伊良湖漁港内で採集された貝類. *かきつばた*, (42): 6–12.

木村昭一・福田 宏 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).

木村昭一・河辺訓受・矢橋 真 2007 (31 Aug.). 浜名湖で採集されたオウギウロコガイ. *ちりぼたん*, **38**: 24–26.

木村昭一・川瀬基弘 2015 (Apr.). ゴイサギガイ. In 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課 (編), *名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2015 –動物編–*, 458. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-5-22-2-3-3-0-0-0-0.html>

木村昭一・木村妙子 1999 (25 Aug.). 三河湾および伊勢湾河口域におけるアン原湿地の腹足類相. *日本ベントス学会誌*, **54**: 44–56.

木村昭一・木村妙子 2013 (Mar.). 軟体動物. In 日本国際湿地保全連合 (編), *干潟ベントスフィールド図鑑*, 7–59, 118–184. 日本国際湿地保全連合, 東京.

木村昭一・久保弘文 2012 → 2012 (20 Jul.).

木村昭一・山下博由 2012 → 2012 (20 Jul.).

木下虎一郎 1937 (30 Jun.). 北海道水産試験場所蔵 北海道産貝類目録 (第2報). *北海道水産試験場水産調査報告*, (41): 1–31, pls 1–15.

木下虎一郎・諫早隆夫 1934. 北海道水産試験場所蔵 北海道産貝類目録 (第1報). *北海道水産試験場水産調査報告*, (33): 1–19, pls 1–15.

木下虎一郎・木下清一郎 1931 (28 Feb.). 牡蠣の害敵としての骨貝類 (豫報). *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **2**: 190–198.

吉良哲明 1941 (25 Nov.). 本邦産 *Camptoceras* 2種の模式産地に就て. *日本貝類学会機関雑誌ヴェキナス*, **11**: 97–98.

吉良哲明 1945. *日本列島海産現棲貝類総覧*. 著者自刊, 四条吸.

吉良哲明 1950 (10 Jun.). 貝類異型の研究 (35). *ゆめ蛤*, (51): (6)69–(8)71.

吉良哲明 1953 (25 May). 日本産イソシジミ属に就いて. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **17**: 144–151.

吉良哲明 1954 (5 Sept.). *原色日本貝類図鑑*. 保育社, 大阪.

吉良哲明 1957 (23 Mar.). 貝類異型の研究 (71). *ゆめ蛤*, (90): (16)250–(20)254.

吉良哲明 1959 (10 Mar.). *原色日本貝類図鑑 増補改訂版*. 保育社, 大阪.

吉良哲明 1960 (31 Oct.). 貝千種 (一). *ちりぼたん*, **1**: 81–84.

岸 由二・小倉雅實・江良弘光・柳瀬博一 2013 (30 Sept.). 小網代干潟における無脊椎動物の多様性・RD種に関する予報. *慶應義塾大学日吉紀要 自然科学*, (54): 71–84.

きしわだ自然資料館 (編) 2017 (Mar.). *ちきりアイランド人工干潟における環境保全活動実践業務平成 28 年度報告書*. 大阪府都市整備推進センター, 大阪. <http://www.toshiseibi.org/cms/wp-content/uploads/2014/06/f88b56f405de24505b12b1c671f20823.pdf>

北河紗衣・西 浩孝 2016 (Mar.). 三河湾で絶滅危惧種の二枚貝ムラサキガイ (シオサザナミ科) の生息を確認. *豊橋市自然史博物館研究報告*, (26): 15–16.

北川隆春 2017 (15 Dec.). *写真集 日本列島を取り巻く海の貝殻図鑑*. ヨクラトル タナペンシス, 田辺.

北野 忠・渡辺健太・崎原 健・北條芳隆・河野裕美 2015. 西表島におけるマルタニシの利用と西部のミナビス地区で確認された個体群の由来. *東海大学沖縄地域研究センター所報 西表島研究*, for 2014: 44–49.

北原多作・宮田彌次郎 1917a-c (1 Jan.; 15 Feb.; 15 Mar.). 蟹被害原因調査に就て (一, 二, 完). *水産界*, (412): 31–33, 1 map; (413): 21–24; (414): 35–40.

Kleemann, K. 2010 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.

Kletou, D., Romani, L. & Crocetta, F. 2019 (Oct.). *Amathina tricarinata* (Linnaeus, 1767) reaches Cyprus (eastern Mediterranean Sea). *Spixiana*, **42**: 6.

Klishko, O.K., Lopes-Lima, M., Froufe, E. & Bogan, A.E. 2014 (online 1 Sept.). Are *Cristaria herculea* (Middendorff, 1847) and *Cristaria plicata* (Leach, 1815) (Bivalvia, Unionidae) separate species? *ZooKeys*, **438**: 1–15.

- Klishko, O.K., Lopes-Lima, M., Froufe, E., Bogan, A. & Abakumova, V.Y. 2016 (online 12 Apr.). Systematics and distribution of *Cristaria plicata* (Bivalvia, Unionidae) from the Russian Far East. *ZooKeys*, **580**: 13–27.
- Klößen, K.F. 1834. *Die Versteinerungen der Mark Brandenburg, insonderheit diejenigen, welche sich in den Rollsteinen und Blöcken der südbaltischen Ebene finden*. C.G. Lüderitz, Berlin.
- Knudsen, J. 2000. Observations on egg capsules and protoconchs of some marine prosobranch Gastropoda from Hong Kong. In Morton, B. (Ed.), *The marine flora and fauna of Hong Kong and southern China V. Proceedings of the Tenth International Marine Biological Workshop: The Marine Flora and Fauna of Hong Kong and Southern China*, Hong Kong, 6–26 April 1998, 183–202. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Knudsen, J. & Hylleberg, J. 2001. Translations into English of Lorenz Spengler's papers on bivalves (1783–1798). Part 2. — 1783: a new genus, which may be called *Gastrochaena*. *Phuket Marine Biological Center Special Publication*, **25**: 539–546.
- 小林 収・近藤高貴 2007 (28 Feb.). 日本産カワシンジュガイ 2 種のグロキディウム幼生と稚貝の形態比較. *Venus*, **65**: 355–363.
- 小林照幸 1998 (20 Jul.). *死の貝*. 文藝春秋, 東京.
- Kobelt, W. 1841–1891. Die Gattung *Arca* L. In *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Achten (8) Bandes, Zweite (2) Abtheilung*, 1–238, pls 1–49. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pls 1–4 in 1841 (by Küster?), pp. 1–56 and pls 5–16 in 1888, pp. 57–136 and pls 17–34 in 1889, pp. 137–160 and pls 35–40 in 1890, pp. 161–238 and pls 41–49 in 1891; according to Coan & Kabat, 2015).
- Kobelt, W. 1844–1880. Die Gattungen *Pyrula* und *Fusus* nebst *Ficula*, *Bulbus*, *Tudicla*, *Busycon*, *Neptunea* und *Euthria*. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Dritten (3) Bandes, Dritte (3) Abtheilung B*, 1–247, pls 1–68, 14a. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pls 16, 19 in 1844, pls 15, 20–22, 24, 27–28, 30–32 in 1845, pls 29, 33 in 1846 (all by Küster?); pp. 1–32 and pls 1–6 in 1874, pp. 33–88 and pls 7–14, 14a, 23, 25–26 in 1875, pp. 89–120 and pls 34–39 in 1878, pp. 121–136 and pls 40–44, 46 in 1879, pp. 137–247 and pls 45, 47–68 in 1880 (all by Kobelt); according to Coan & Kabat, 2015).
- Kobelt, W. 1875a. Diagnosen neuer Landconchylien aus Japan. *Nachrichtsblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **7**: 55–56.
- Kobelt, W. 1875b. Conchologische Miscellen. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **2**: 326–334, pl. 12.
- Kobelt, W. 1876. Conchologische Miscellen. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **3**: 30–37, pl. 1.
- Kobelt, W. 1879. Fauna japonica extramarina. Nach den von Professor Rein gemachten Sammlungen. *Abhandlungen der Senckenbergischen Naturforschenden Gesellschaft*, **11**: 285–455, pls 1–23.
- Kobelt, W. 1899–1902. Die Familie Buliminidae. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Ersten (1) Bandes, Dreizehnte (13) Abtheilung, Zweiter (2) Theil*, 397–1051, pls 71–133. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg (pp. 397–620 and pls 71–94 in 1899, pp. 621–684 and pls 95–103 in 1900, pp. 685–836 and pls 104–123 in 1901, pp. 837–1051 and pls 124–133 in 1902, according to Coan & Kabat, 2018: 15).
- Kobelt, W. & Löbbecke, T. 1881–1887. Das Genus *Cancellaria* von Th. Löbbecke nebst Anhang *Admete* von W. Kobelt. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Vierten (4) Bandes, Vierte (4) Abtheilung*, 1–110, pls 1–24. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg (pp. 1–16 and pls 1–5 in 1881, pp. 17–32 and pls 6–10 in 1885, pp. 33–80 and pls 11–20 in 1886, pp. 81–110 and pls 21–24 in 1887; according to Coan & Kabat, 2015: 40).
- Kojima, S., Kamimura, S., Iijima, A., Kimura, T., Mori, K., Hayashi, I. & Furota, T. 2005 (28 Jul.). Phylogeography of the endangered tideland snail *Batillaria zonalis* in the Japanese and Ryukyu Islands. *Ecological Research*, **20**: 686–694.
- Kojima, S., Kamimura, S., Kimura, T., Hayashi, I., Iijima, A. & Furota, T. 2003 (1 Nov.). Phylogenetic relationships between the tideland snails *Batillaria flectosiphonata* in the Ryukyu Islands and *B. multiformis* in the Japanese Islands. *Zoological Science*, **20**: 1423–1433.
- 国土交通省四国地方整備局 2017 (20 Dec.). 吉野川水系河川整備計画 —吉野川の河川整備(国管理区間)—【変更】. 国土交通省四国地方整備局, 徳島. <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/henkou/h291220/h291220.htm>
- Komatsu, S. 1986. Taxonomic revision of the neritid gastropods. *Special Publication of the Mukaishima Marine Biological Station*, for 1986: 1–69.
- Kondo, T. 1982 (31 Oct.). Taxonomic revision of *Inversidens* (Bivalvia: Unionidae). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **41**: 181–198.
- 近藤高貴 1995 (Mar.). カワシンジュガイは水期遺存種? *ちりぼたん*, **25**: 59–63.
- Kondo, T. 2008 (30 Sept.). *Monograph of Unionoida in Japan (Mollusca: Bivalvia)*. *Special Publication of the Malacological Society Japan*, No. 3. Malacological Society Japan, Tokyo.
- 近藤高貴 2014 → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- 近藤高貴 2015 (Oct.). 近藤高貴コレクション 日本産イシガイ目標本目録. 大阪教育大学, 柏原.
- Kondo, T., Yang, H. & Choi, S. 2007 (31 Jul.). Two new species of unionid mussels (Bivalvia: Unionidae) from Korea. *Venus*, **66**: 69–73.
- Kong, L., Matsukuma, A., Hayashi, I., Takada, Y. & Li, Q. 2012 (Feb.). Taxonomy of *Macridiscus* species (Bivalvia: Veneridae) from the western Pacific: Insight based on molecular evidence, with description of a new species. *Journal of Molluscan Studies*, **78**: 1–11.
- Kosuge, S. 1969 (24 May). Anatomical study of Japanese Rissoidea [sic] (Gastropoda, Prosobranchia). II. On the family Stenothyridae. *Bulletin of the National Science Museum*, Tokyo, **12**: 217–239.
- Kosuge, S. & Suzuki, M. 1985. *Illustrated catalogue of Latiaxis and its related groups family Coralliophilidae*. Institute of Malacology of Tokyo, Tanashi.
- 小菅文治・興石裕一・大坂幸男 1998 (31 May). 有明海奥部におけるウネハナムシロガイの生息. *南紀生物*, **40**: 68–70.
- Kotaka, T. 1953 (31 Jul.). Variation of Japanese *Anadara granosa*. *Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan, New Series*, (10): 31–36, pl. 4.
- 小山千万樹 1974 (20 Feb.). コシダカヒメモノアラガイの山岳地帯における棲息. *ちりぼたん*, **8**: 24.

軟体動物

- 小山安生 2010 (1 Jun.). 和歌山県の異旋目 (トウガタガイ上科を除く) 貝類目録 (1). *南紀生物*, **52**: 39–46.
- Kreipl, K. 2008 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- 久保弘文 1995 (10 Aug.). 海ノ貝・川ノ貝. In 久保弘文・黒住耐二 (編), *生態/検索図鑑 沖縄の海ノ貝・陸ノ貝*, 15–210. 沖縄出版, 浦添.
- 久保弘文 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- 久保弘文 2014a (31 Mar.). 恩納村の貝類. In 恩納村誌編さん委員会 (編), *恩納村誌 第1巻 自然編*, 245–340. 沖縄県恩納村役場, 恩納.
- 久保弘文 2014b → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- 久保弘文 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- 久保弘文・福田 宏 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- 久保弘文・福田 宏 2017 → 2017 (Mar.).
- 久保弘文・福田 宏・早瀬善正・亀田勇一・小澤宏之・上島 励 2017 (Mar.). *沖縄県レッドデータブック—レッドデータおきなわ— 第2回改訂に伴う稀少貝類棲息実態調査報告-1. 与那国島. *Molluscan Diversity*, **5**: 1–14.*
- 久保弘文・福田 宏・松隈明彦 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 久保弘文・山下博由 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- 窪田彦左衛門 1962 (15 Apr.). *福井市立郷土博物館所蔵貝類標本目録*. 福井市立郷土博物館, 福井.
- [Küster, H.C.] 1841–1843. Mollusca Elatobranchia. Veneracea. Venusmuscheln. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Elften (11) Bandes, Erste (1) Abtheilung*, [1], 1–16, pls 1–3, 5–15. (pp. 1–16 and pls 1–3, 5–10 in 1841; pp. ?17–32 and pls 12–15 in 1842; pl. 11 in 1843; according to Coan & Kabat, 2015: 57).
- Küster, H.C. 1857. Die Gattungen *Cassia*, *Cassidaria*, *Oniscia*, *Dolium*, *Eburna* und *Harpa*. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Dritten (3) Bandes, Erste (1) Abtheilung, Zweiter (2) Theil*, 1–104, pls 36–70. Bauer & Raspe, Nürnberg. (pls 38–42 in 1846, pls 37, 43 in 1847, pp. 1–104 and pls 36, 44–70 in 1857, according to Coan & Kabat, 2015: 33).
- Küster, H.C. 1862–1863. Die Gattungen *Limnaeus*, *Amphipeplea*, *Chilina*, *Isidora* und *Physopsis*. In *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Ersten (1) Bandes, Siebenzehnte (17) Abtheilung, b*, 1–77, pls 1–12. Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–48 and pls 1–11 in 1862, pp. 49–77 and pl. 12 in 1863, according to Coan & Kabat, 2015: 19).
- Küster, H.C. & Clessin, S. 1838–1876. Die Gattung *Anodonta* nebst den übrigen Najaden mit unvollkommenem Schloss. In *Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen*. Mollusca Elatobranchia: Najadea, Najaden. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Neunten (9) Bandes, Erste (1) Abtheilung*, 1–288, pls A, 1–87, 2[a], 3[a], 4[a], 11*. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–16 and pls A, 1–5 in 1838, pp. 17–40 and pls 6–8 in 1839, pls 4[a] in 1840, pls 2[a] in 1841, pp. 41–64 and pls 12, 25, 27 in 1842, pls 10–11, 11*, 14, 16, 18 in 1853 (all by Küster), pp. 65–112 and pls 17, 19, 22–24, 26, 28–33 in 1873, pp. 113–176 and pls 34–57 in 1874, pp. 177–216 and pls 58–69 in 1875, pp. 241–288 and pls 70–87 in 1876 (by Clessin); pls 3[a], 9, 13, 15, 20, 21 publication year unknown; according to Coan & Kabat, 2015: 51).
- Küster, H.C. & Weinkauff, H.C. 1840–1878. Die Gattung *Oliva*. Mollusca Gasteropoda. Involuta. Rollschnecken. *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Fünften (5) Bandes, Erste (1) Abtheilung*, 1–172, pls A–C, 1–39. (1840 by Küster, 1872–1878 by Weinkauff; pp. 1–16 and pls 1–6 in 1840; pl. 13 in 1872; pp. 17–64 and pls A–C, 7–12, 14–15 in 1876; pp. 65–120 and pls 16–33 in 1877; pp. 121–172 and pls 34–39 in 1878; according to Coan & Kabat, 2015: 40)
- 熊本県希少野生動物植物検討委員会 2009 (Mar.; revised in Sept.). 改訂・熊本県の保護上重要な野生動物植物 レッドデータブックくまもと 2009. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本. http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=709&sub_id=1&flid=21&dan_id=1
https://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=709&sub_id=1&flid=20&dan_id=1
- 黒田徳米 1928 (7 Jun.). *奄美大島産貝類目録*. 鹿児島県教育調査会, 鹿児島.
- Kuroda, T. 1929a (31 May). Notes and descriptions of some new and noteworthy species from Tateyama Bay in the report of Mr. T. Fujita. In 藤田 正. 館山灣底棲貝類調査 (2). *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **1**: 88–97, pl. 3.
- 黒田徳米 1929b (20 Nov.). 日本産カハニナ類について. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **1**: 179–193, pls 4–5.
- 黒田徳米 1930. 日本産有殻軟体動物總目録 [3, 5, 6]. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **1**: app. 17–26 (25 Feb.); **2**(2): app. 35–44 (10 Aug.); **2**(3): app. 45–54 (10 Dec.).
- 黒田徳米 1931a. 日本産有殻軟体動物總目録 [7, 8]. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **2**(3): app. 55–68 (20 May); **2**(6): app. 69–76 (4 Aug.).
- Kuroda, T. 1931b (30 Nov.). Three new forms of *Euhadra*. *The Venus*, **3**: 49–53.
- 黒田徳米 1932 (29 Feb.). 日本産有殻軟体動物總目録 [10, 13]. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **3**(2): app. 87–102; **3**(5): app. 123–134 (8 Dec.).
- 黒田徳米 1933a. 福井縣産貝類目録. In 福井縣博物學會 (編), *福井縣生物目録*, 169–205. 福井縣博物學會, 福井.
- 黒田徳米 1933b (30 Dec.). 福井縣産貝類. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **4**: 171–181.
- 黒田徳米 1935. 宮崎縣産貝類目録. *宮崎縣天覽成績品目録 其2 (博物之部) 別冊*. [宮崎県], [宮崎].
- 黒田徳米 1938a (31 Mar.). 日本産蜆類の研究. *日本貝類學會機關雜誌ヴェキナス*, **8**: 21–36.
- 黒田徳米 1938b (25 Dec.). *Photinula quaesita* A. Adams の正體. *日本貝類學會機關雜誌ヴェキナス*, **8**: 188–189.
- Kuroda, T. 1941 (Feb.). A catalogue of molluscan shells from Taiwan (Formosa), with descriptions of new species. *Memoirs of the Faculty of Science and Agriculture, Taihoku Imperial University*, **22**(4) (= Geology 17): 65–216, pls 8(1)–14(7).

- 黒田徳米 1942 (30 Jul.). 學名を失ひたる本邦産骨貝類 2 種. *日本貝類學會機關雜誌ヴェキナス*, **12**: 80–81.
- 黒田徳米 1943 (30 Dec.). 中國地方の新陸産貝類 (1) ムシオヒガヒの新亞屬新種. *貝類學雜誌*, **13**: 7–11.
- 黒田徳米 1945 (30 Oct.). キセルモドキ屬に就いて. *貝類學雜誌*, **14**: 43–62, pl. 3.
- 黒田徳米 1948a–c (5 Apr.; 5 May; 5 Jul.). ミクリガヒ考 (1–3). *貝類研究夢蛤*, (25): 2–7; (26): (9)37–(15)43; (28): (4)117–(11)124.
- 黒田徳米 1949 (5 May). 喜壽翁神田耕一郎先生を頌ふ. *Yumehamaguri*, (38): (13)39–(15)41.
- 黒田徳米 1950a (10 May). “糸掛ナミギセル”. *ゆめ蛤*, (50): (12)40.
- 黒田徳米 1950b (10 Jun.). 新貝速報. *夢蛤*, (51): 1(64)–3(66).
- 黒田徳米 1950c (20 Sept.). 喜壽翁神田耕一郎先生を頌え海産巻貝 2 新種に獻名す. *貝類學雜誌ヴェキナス*, **16**: 49–52.
- 黒田徳米 1953a (1 May). サビシラトリガイの學名. *ゆめ蛤*, (71): 6–7.
- 黒田徳米 1953b (5 Jul.). 淋しい暗示 —ウラシマは雌であった—. *ゆめ蛤*, (72): (18)52–19(53).
- 黒田徳米 1954a (31 May). カガミガイ〜ヒメカガミ〜トゲカガミ. *ゆめ蛤*, (76): 11–12.
- 黒田徳米 1954b (30 Nov.). 九州産珍しい新陸貝. *ゆめ蛤*, (78): 7(85)–8(86).
- [黒田徳米] 1955 (20 Dec.). [抄録] キセルガイ類の模式, 並に副模式類標本図録 (2 篇). *貝類學雜誌ヴェキナス*, **18**: 304–310.
- 黒田徳米 1956a (1 Jan.). 貝類小品集 (二). *ゆめ蛤*, (83): (4)158–(6)160.
- 黒田徳米 1956b (30 Sept.). ワスレガイ類の検討. *ゆめ蛤*, (87): 7(99)–10(102).
- 黒田徳米 1957 (May). 佐渡産貝類 (有殻軟体動物) 目録. *佐渡博物学会誌*, **1**: 13–32.
- Kuroda, T. 1958 (30 Jul.). Descriptions of five new species of Japanese marine gastropods. *Venus, Japanese Journal of Malacology*, **20**: 22–30.
- 黒田徳米 1960 (Oct.). *沖縄群島産貝類目録 (頭足類を除く)*. 琉球大学教務部普及課, 那覇.
- 黒田徳米 1961a (30 Apr.). 乱麻の渦中にあるカラスノマクラ—快刀を待つ—. *ちりぼたん*, **1**: 155–158.
- 黒田徳米 1961b (25 Dec.). 百万遍だより. *ちりぼたん*, **1**: 218–222.
- Kuroda, T. 1962a (25 Aug.). Notes on the Stenothyridae (aquatic Gastropoda) from Japan and adjacent regions. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **22**: 59–69, pl. 4.
- 黒田徳米 1962b (25 Aug.). 琵琶湖の貝類. *貝類學雜誌*, **22**: 86–91.
- 黒田徳米 1962c (25 Aug.). 最近の同定結果. *貝類學雜誌*, **22**: 107.
- 黒田徳米 1963 (31 Oct.). *日本非海産貝類目録*. 日本貝類学会, 東京.
- 黒田徳米・阿部近一 1980 (31 Mar.). 徳島県陸産並びに淡水産貝類の分布について —16 新種の記載—. *徳島県博物館紀要*, (11): 3–45, pls 1–4.
- 黒田徳米・東 正雄 1982 (31 Oct.). 岡山県産陸貝 (キセルガイ科) 一新亜種. *貝類學雜誌*, **41**: 175–176.
- 黒田徳米・波部忠重 1949 (1 Sept.). *貝類研究叢書 第1輯 かたつむり Helicacea*. 三明社, 東京.
- Kuroda, T. & Habe, T. 1950 (15 Jan.). Nomenclatural notes. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(2): 16.
- 黒田徳米・波部忠重 1951 (31 May). 中國地方産オホベソマイマイ屬の 2 新種並に 2 新亞種. *貝類學雜誌ヴェキナス*, **16**: 78–82.
- Kuroda, T. & Habe, T. 1952 (4 Apr.). *Check list and bibliography of the Recent marine Mollusca of Japan*. Leo W. Stach, Tokyo.
- 黒田徳米・波部忠重 1954 (25 Nov.). 日本産海産腹足類の新属. *貝類學雜誌ヴェキナス*, **18**: 84–97.
- 黒田徳米・波部忠重 1965 (25 Jan.). りゅうぐうぼたるがい (131), まきぎぬがい (158), きくのはながい (188). In 岡田 要・内田清之助・内田 亨 (編), *新日本動物図鑑 [中]*. 北隆館, 東京.
- Kuroda, T. & Habe, T. 1981 (31 Aug.). *A catalogue of molluscs of Wakayama Prefecture, the Province of Kii. I Bivalvia, Scaphopoda and Cephalopoda*. Publishing Association of a Catalogue of Molluscs of Wakayama Prefecture, Wakayama.
- 黒田徳米・波部忠重・大山 桂 1971 (27 Sept.). *相模湾産貝類*. 丸善, 東京.
- 黒田徳米・木下虎一郎 1951 (31 Aug.). 北海道海産動物園譜 貝類篇 第1輯 北海道海産貝類目録. *北海道區水産研究所研究報告*, (2): unpaginated index 1–2; 1–40.
- 黒田徳米・宮永宗男 1943 (30 Mar.). 朝鮮多島海巨文島産陸産貝類. *日本貝類學會機關雜誌ヴェキナス*, **12**: 119–129.
- 黒田徳米・瀧 巖 1944 (30 Aug.). 中國地方の新陸産貝類 (2): キセルガイ類. *貝類學雜誌*, **13**: 228–236, pl. 6.
- Kuroda, T. & Teramachi, A. 1930 (10 Aug.). *Aspidopholas yoshimurai*, a new sheathed bivalve from Japan. *The Venus*, **2**: 39–42.
- 黒住耐二 1996 (Mar.). ミズゴマツボ. In 日本水産資源保護協会 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (III) 1. 軟体動物*, 22–28, 83–84. 日本水産資源保護協会, 東京.

軟体動物

黒住耐二 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).

黒住耐二 2010 (Mar.). 10. 貝類. In 東京都環境局自然環境部 (編), 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) ~東京都レッドリスト~ 2010 年版, 104–107. 東京都環境局自然環境部, 東京. http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/animals_plants/red_data_book/redlist2010.files/RL2010TokyoMR2.pdf

黒住耐二 2011 (Mar.). イボウミニナ (p. 425), ハマグリ (431), ウミニナ (433), シマモツボ(434), タクミニナ (440), ミズコハクガイ (443), コオキナガイ (457). In 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 千葉県の保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 動物編 2011 年改訂版. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉. http://www.bdcchiba.jp/endangered/rdb-a/rdb_index2-j2011.html
<http://www.bdcchiba.jp/endangered/rdb-a/rdb-2011re/rdb-201116full.pdf>

黒住耐二 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

黒住耐二・一澤 圭・川上 靖 2011 (30 Mar.). 鳥取県立博物館に寄贈された石坂元貝類コレクション —非海産腹足類—. 鳥取県立博物館研究報告, **48**: 119–143.

草野作巳・星野直樹・熊本日向 2018 (Mar.). 日本産ドブガイ族の種分化とその種の同定法. 平成 30 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, 198. 日本水産学会, 東京.

権伍吉・朴甲萬・李俊相 1993 (25 May). 原色韓國貝類圖鑑. Academy Publishing, Seoul.

Ladd, H.S. 1972. Cenozoic fossil mollusks from western Pacific islands; gastropods (Turritellidae through Strombidae). *Geological Survey Professional Paper*, (532): 1–79, pls 1–20.

Lam, K. & Morton, B. 2003. Mitochondrial DNA and morphological identification of a new species of *Crassostrea* (Bivalvia: Ostreidae) cultured for centuries in the Pearl River Delta, Hong Kong, China. *Aquaculture*, **228**: 1–13.

Lam, K. & Morton, B. 2004. The oysters of Hong Kong (Bivalvia: Ostreidae and Gryphaeidae). *The Raffles Bulletin of Zoology*, **52**: 11–28.

Lamarck, [J.B.P.A.de] M. 1811. Suite de la détermination des espèces de mollusques testacés. *Annales du Muséum National d'Histoire Naturelle*, **16**: 300–328.

Lamarck, J.B.P.A. de M. de 1816 (14 Dec.). *Tableau encyclopédique et méthodique des trois règnes de la nature. Mollusques testacés*. Chez Henri Aggase, Paris.

Lamarck, J.B.P.A. de M. de 1818, 1819, 1822. *Histoire naturelle des animaux sans vertèbres, présentant les caractères généraux et particuliers de ces animaux, leur distribution, leurs classes, leurs familles, leurs genres, et la citation des principales espèces qui s'y rapportent; précédée d'une Introduction offrant la détermination des caractères essentiels de l'animal, sa distinction du végétal et des autres corps naturels, enfin, l'exposition des principes fondamentaux de la zoologie*, Tome 5 (1818); Tome 6, partie 1 (1819), partie 2 (1822); Tome 7 (1822). Verdrière, Paris. Tome 5: <https://www.biodiversitylibrary.org/item/46337#page/7/mode/1up>
Tome 6: <https://www.biodiversitylibrary.org/item/47441#page/9/mode/1up>
Tome 7: <https://www.biodiversitylibrary.org/item/47433#page/9/mode/1up>

Lamprell, K. 2003. Review of the type material of Indo-West Pacific genus *Crassatina* (Mollusca: Bivalvia: Crassatellidae) with a description of two new species. *Molluscan Research*, **23**: 209–222.

Lamprell, K. & Healy, J. 1998. *Bivalves of Australia, Volume 2*. Backhuys Publishers, Leiden.

Lamprell, K. & Whitehead, T. 1992. *Bivalves of Australia, Volume 1*. Crawford House Press, Bathurst.

Lamy, E. 1907. Révision des *Arca* vivants du Muséum d'Histoire Naturelle de Paris. *Journal de Conchyliologie*, **55**: 1–118, 199–307, pls 1, 3.

Lamy, E. 1914. Révision des Mesodesmatidae vivants du Muséum d'Histoire Naturelle de Paris. *Journal de Conchyliologie*, **62**: 1–74, pl. 1.

Lamy, E. 1917. Révision des Mactridae vivants du Muséum d'Histoire Naturelle de Paris. *Journal de Conchyliologie*, **63**: 173–275, pls 6–7.

Lamy, E. 1919. Les Moules et les Modioles de la mer Rouge (d'après les matériaux recueillis par M. le Dr Jousseau) (Fin). *Bulletin du Muséum National d'Histoire Naturelle*, **15**: 173–178.

Lamy, E. 1923. Les Gastrochènes de la Mer Rouge (d'après les matériaux recueillis par le Dr Jousseau). *Bulletin du Muséum National d'Histoire Naturelle*, **29**: 391–395.

Lamy, E. 1929–1930. Révision des *Ostrea* vivants du Muséum d'Histoire Naturelle de Paris. *Journal de Conchyliologie*, **73**: 1–46 (30 Apr. 1929), 71–108 (20 Jul. 1929), 133–168 (30 Oct. 1929), 233–275 (28 Feb. 1930), pl. 1.

Lamy, E. 1937. Révision des Mytilidae vivants du Muséum national d'Histoire naturelle de Paris (Suite). *Journal de Conchyliologie*, **81**: 5–71.

Laseron, C.F. 1953 (17 Apr.). Minute bivalves from New South Wales. *Records of the Australian Museum*, **23**: 33–54.

Laseron, C. 1955. The identity of *Phasianella virgo*. *Proceedings of the Royal Zoological Society of New South Wales*, 74th (for 1953–1954): 77–78.

Laseron, C.F. 1956. The families Rissoidae and Rissoidae (Mollusca) from the Solanderian and Dampierian Zoogeographical Provinces. *Australian Journal of Marine and Freshwater Research*, **7**: 384–484.

Le, C.T., Noseworthy, R.G. & Choi, K.S. 2010 (6 Dec.). Biodiversity of commercially valuable marine bivalve fauna of Jeju island, Republic Korea. In Dautova, T.N. & Lutaenko, K.A. (Eds), *Proceedings of the International Conference Marine Biodiversity of East Asian Seas: Status, Challenges and Sustainable Development*, 40–45. Institute of Oceanography, Vietnam Academy of Science and Technology, Nha Trang.

Lea, H.C. 1841 (Jan.). Description of some new species of fossil shells, from the Eocene, at Claiborne, Alabama. *The American Journal of Science and Arts*, **40**(1): 92–103, pl. 1.

Lea, I. 1852 (30 Mar.). Description of a new species of symphynote *Unio*. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **6**: 54–55.

Leach, W.E. 1814, 1815, 1817. *The zoological miscellany; being descriptions of new, or interesting animals*. vols 1 (1814), 2 (1815), 3 (1817). B. McMillan for E. Nodder & Son, London.

Lee, J.H. 2017 (Jun.). *Systematic study of Korean unionids (Bivalvia: Unionidae) based on morphological and molecular data*. PhD Dissertation. Kyungpook National University, Daegu, Korea. [In Korean] http://dcollection.knu.ac.kr/public_resource/pdf/000000076052_20190828015105.pdf

Lesson, R.P. 1831–1835. *Illustrations de zoologie, ou, recueil de figures d'animaux peintes d'après nature*. Arthus Bertrand, Paris.

- Li, C., Wang, H. & Guo, X. 2017 (1 Aug.). Classification and taxonomic revision of two oyster species from Peru: *Ostrea megodon* (Hanley, 1846) and *Crassostrea talonata* (Li & Qi, 1994). *Journal of Shellfish Research*, **36**: 359–364.
- Li, F. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- Li, X. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- Li, X. & Ma, X. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- 李孝绪·齐钟彦 1994 (Oct.). 中国牡蛎的比较解剖学及系统分类和演化的研究. *海洋科学集刊*, **35**: 143–173, pls 1–10. [Li, X. & Qi, Z. 1994. Studies on the comparative anatomy, systematic classification and evolution of Chinese oysters. *Studia Marina Sinica*, (35): 143–173, pls 1–10. (in Chinese with English title and summary)]
- Li, Y. & Xu, R. 2013 (Online 24 Jun.; Printed 24 Jul.). Brackish water snails from Qi'ao-Dan'gan Island in the Pearl River estuary, China. *Turkish Journal of Zoology*, **37**: 449–457.
- Libassi, P.I. 1859. Memoria sopra alcune conchiglie fossili dei dintorni di Palermo. *Atti dell'Accademia di Scienze e Lettere di Palermo*, Nuova Serie, 3, 1–47, 1 unpaginated pl.
- [Lightfoot, J.] 1786. *A catalogue of the Portland Museum: lately the property of the Duchess Dowager of Portland deceased which will be sold by auction, by Mr. Skinner and Co. on Monday the 24th of April, 1786, and the thirty-seven following days, at twelve o'clock, Sundays, and the 5th of June, (the Day his Majesty's Birth-Day is kept) excepted: at her late Dwelling-House, in Privy-Garden, Whitehall.* London.
- 林光宇 1997. 中国动物志 软体动物门 腹足纲 后鳃亚纲 头楯目. 科学出版社, 北京.
- Lin, G. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- Lindholm, W.A. 1929. Einige neue Mollusken (Pelecypoda und Gastropoda) aus den Gewässern Sudost-Siberians. *Doklady Akademii Nauk SSSR*, (12): 302–306.
- Link, H.F. 1807. *Beschreibung der Naturalien-Sammlung der Universität zu Rostock*. Parts 1–3. Gedruckt bey Adlers Erben, Rostock.
- Linnaeus, C. von 1758. *Systema naturae per regna tria naturae, secundum classes, ordines, genera, species, cum characteribus, differentiis, synonymis, locis. Tomus I. Editio decima, reformata*. Impensis Direct. Laurentii Salvii, Holmiae. [Mollusca pp. 652–666; Testacea pp. 667–788]
- Linnaeus, C. von 1767a. *Systema naturae per regna tria naturae: secundum classes, ordines, genera, species, cum characteribus, differentiis, synonymis, locis. Editio decima tertia, ad editionem duodecimam reformatam Holmiensem. Tomus 1, Regnum Animale. Pars 1 & 2. Laurentii Salvii, Holmiae* [Stockholm]. Pp. 1–532 [1766], pp. 533–1327 [1767].
- Linnaeus, C. von 1767b, 1771. *Car. a Linné Mantissa plantarum altera generum editionis VI. & specierum editionis II*. Impensis Direct. Laurentii Salvii, Holmiae [Stockholm].
- Lischke, C.E. 1868. Diagnosen neuer Meeres-Konchylien von Japan. *Malakozoologische Blätter*, **15**: 218–222.
- Lischke, C.E. 1869a. Diagnosen neuer Meeres-Konchylien von Japan. *Malakozoologische Blätter*, **16**: 105–109.
- Lischke, C.E. 1869b, 1871b, 1874. *Japanische Meeres-Conchylien. Ein Beitrag zur Kenntniss der Mollusken Japan's, mit besonderer Rücksicht auf die geographische Verbreitung derselben*. Theil 1 (1869), 2 (1871), 3 (1874). Verlag von Theodor Fischer, Cassel.
- Lischke, C.E. 1870. Diagnosen neuer Meeres-Conchylien von Japan. *Malakozoologische Blätter*, **17**: 23–29.
- Lischke, C.E. 1871a. Diagnosen neuer Meeres-Conchylien von Japan. *Malakozoologische Blätter*, **18**: 39–45.
- Lischke, C.E. 1872. Diagnosen neuer Meeres-Conchylien von Japan. *Malakozoologische Blätter*, **19**: 100–109.
- Lischke, C.E. 1873. Diagnosen neuer Meeres-Conchylien aus Japan. *Malakozoologische Blätter*, **21**: 19–25.
- Lister, M., Lister, S. & Lister, A. (Reprinted by Huddesford, W.) 1770. *Historiae sive synopsis methodicae conchyliorum et tabularum anatomicarum*. E typographeo Clarendoniano, Oxonii.
- Löbbecke, T. & Kobelt, W. 1881, 1886. Die Gattung *Crassatella* Lam. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Zehnten (10) Bandes, Erste (1) Abtheilung a*, 1–41, pls 1–9. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–16 and pls 1–6 in 1881 by Löbbecke & Kobelt, pp. 17–41 and pls 7–9 in 1886 by Kobelt; according to Coan & Kabat, 2015: 54).
- Lopes-Lima, M., Froufe, E., Do, V.T., Ghamizi, M., Mock, K.E., Kebapçı, Ü., Klishko, O., Kovitvadhi, S., Kovitvadhi, U., Paulo, O.S., Pfeiffer, J.M. III, Raley, M., Riccardi, N., Şereflişan, H., Sousa, R., Teixeira, A., Varandas, S., Wu, X., Zanatta, D.T., Zieritz, A. & Bogan, A.E. 2016 (online 9 Sept.; printed Jan. 2017). Phylogeny of the most species-rich freshwater bivalve family (Bivalvia: Unionida: Unionidae): Defining modern subfamilies and tribes. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **106**: 174–191.
- Lopes-Lima, M., Hattori, A., Kondo, T., Lee, J.H., Kim, S.K., Shirai, A., Hayashi, H., Usui, T., Sakuma, K., Toriya, T., Sunamura, Y., Ishikawa, H., Hoshinari, N., Hiruma, H., Tanaka, A., Sao, K., Ueda, T., Sano, I., Miyazaki, J., Gonçalves, D.V., Klishko, O.K., Konopleva, E.S., Vikhrev, I.V., Kondakov, A.V., Gofarov, M.Y., Bolotov, I.N., Sayenko, E.M., Soroka, M., Zieritz, A., Bogan, A.E. & Froufe, E. 2020 (Online 3 Feb.). Freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) from the rising sun (Far East Asia): phylogeny, systematics and distribution. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **146**: 106755. <https://doi.org/10.1016/j.ympev.2020.106755>
- Lozouet, P. 2008 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Lozouet, P. & Plaziat, J.-C. 2008. *Mangrove environments and molluscs. Abatan River, Bohol and Panglao Islands, central Philippines*. ConchBooks, Hackenheim.
- Lu, H.F., Du, L.N., Li, Z.Q., Chen, X.Y. & Yang, J.X. 2014 (18 Nov.). Morphological analysis of the Chinese *Cipangopaludina* species (Gastropoda; Caenogastropoda; Viviparidae). *Zoological Research*, **35**: 510–527.
- Lubinevsky, H., Galil, B.S. & Bogi, C. 2018 (19 Oct.). First record of *Gari pallida* (Deshayes, 1855) (Mollusca: Bivalvia: Psammobiidae) in the Mediterranean Sea. *BioInvasions Records*, **7**: 415–419.
- Lü, D. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.

軟体動物

- Lützen, J., Faasse, M., Gittenberger, A., Glenner, H. & Hoffmann, E. 2011 (Online: 12 Aug.; printed Jun. 2012). The Japanese oyster drill *Ocenebrellus inornatus* (Récluz, 1851) (Mollusca, Gastropoda, Muricidae), introduced to the Limfjord, Denmark. *Aquatic Invasions*, 7: 181–191.
- Lutaenko, K.A. 2001. Taxonomic review of the species of *Gomphina* (*Macridiscus*) (Bivalvia: Veneridae) from the Western Pacific Ocean. *Phuket Marine Biological Center Special Publication*, 25: 465–486.
- Lutaenko, K.A. 2014 (31 Mar.). Bivalve mollusks in Ulsan Bay (Korea). *The Korean Journal of Malacology*, 30: 57–77.
- Lutaenko, K.A., Je, J.-G. & Shin, S.-H. 2003 (Jun.). Bivalve mollusks in Yeongil Bay, Korea, 1. Introductory part and annotated list of species. *Ocean and Polar Research*, 25: 155–182.
- Lutaenko, K.A. & Noseworthy, R.G. 2012. *Catalogue of the living Bivalvia of the continental coast of the Sea of Japan (East Sea)*. Dalnauka, Vladivostok.
- Lutaenko, K.A. & Noseworthy, R.G. 2018 (online 7 Aug.; printed 1 Mar. 2019). Contribution to the knowledge of the marine bivalve mollusk fauna of Gangwon Province, Korea. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, 12: 14–44.
- Lutaenko, K.A. & Volvenko, I.E. 2013. On the fauna of bivalve mollusks of Hong Kong (South China Sea). *The Bulletin of the Russian Far East Malacological Society*, 17: 79–141. (in Russian with English title and abstract)
- Lynge, H. 1909. The Danish Expedition to Siam 1899–1900. IV. Marine Lamellibranchiata. *Det Kongelige Danske Videnskaberne Selskabs Skrifter. Naturvidenskabelig og Matematisk Afdeling, Syvende Raekke [Mémoires de l'Académie Royale des Sciences et des Lettres de Danemark, Copenhague, Ser. 7]*, 5: 97–299, pls 1–5, 1 map.
- Ma, X. 2004. → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- Mabile, J. 1887. Sur quelques mollusques du Tonkin. *Bulletins de la Société Malacologique de France*, 4: 73–164, pls 1–4.
- 前田和俊・太田 秀・鹿野康裕・上島 励 1987 (31 Mar.). 横須賀市自然博物館所蔵平瀬貝類標本目録 (II) 陸産貝類 (2) 前鰐亜綱, 有肺亜綱 (オナジマイマイ科を除く)。横須賀市博物館資料集, (11): 1–71.
- Makiyama, J. 1927 (30 Mar.). Molluscan fauna of the lower part of the Kakegawa Series in the Province of Tôtômi, Japan. *Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University, Series B*, 3(1): 1–147, pls 1–6.
- Makiyama, J. 1958 (30 Jun.). Matajiro Yokoyama's Tertiary fossils from various localities in Japan. Part II. *Palaeontological Society of Japan, Special Papers*, (4): 1–6, pls 25–57.
- M'Andrew, R. 1870 (Dec.). Report on the testaceous Mollusca obtained during a dredging-excursion in the Gulf of Suez in the months of February and March 1869. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology, Fourth Series*, 6: 429–450.
- Marrat, F.P. 1870–1871. *Oliva*, Bruguière. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchylorum, or, monographs of genera of shells*, 4(29–30): 1–46 (1871), pls 328^{bis}–341 (1870), 342–351 (1871). G.B. Sowerby, London.
- Marshall, B.A. 1978 (Mar.). Cerithiopsidae (Mollusca: Gastropoda) of New Zealand, and a provisional classification of the family. *New Zealand Journal of Zoology*, 5: 47–120.
- Martens, E. von 1861. Die Japanischen Binnenschnecken im Leidner Museum. *Malakozoologische Blätter*, 7: 32–61.
- Martens, E. von 1863–1879. Die Gattung *Neritina*. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Zweiten (2) Bandes, Zehnte (10) Abtheilung*, 1–303, pls A, 1–23. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pls 2–4 in 1863, pp. 1–64 and pls 5–9 in 1875, pl. 1 in 1875?, pp. 65–144 and pls 10–14 in 1877, pp. 145–208 and pls 15–19 in 1878, pp. 209–303 and pls 20–23, A in 1879, according to Coan & Kabat, 2015: 30).
- Martens, E. von 1865. Descriptions of new species of shells. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology, Third Series*, 16: 428–432.
- Martens, E. von 1866. Über neue Landschnecken aus Ost-Indien und über zwei Seesterne von Costa Rica. *Monatsberichte der Königlich Preussische Akademie der Wissenschaften zu Berlin*, aus dem Jahre 1865: 51–59.
- Martens, E. von 1874. *Ueber Vorderasiatische Conchylien nach den Sammlungen des Prof. Hausknecht* [sic]. *Novitates Conchologicae. Abbildung und Beschreibung neuer Conchylien, Supplement V*. T. Fischer, Cassel.
- Martens, [E.] von 1877. Uebersicht über die von den Herren Dr. Fr. Hilgendorf und Dr. W. Dönitz in Japan gesammelten Binnenmollusken. *Sitzungs-berichte der Gesellschaft Naturforschender Freunde zu Berlin*, for 1877: 97–127.
- Martens, E. von 1879. [Descriptions of non-marine Mollusca]. In Pfeiffer, L. (Ed.), *Novitates conchologicae, Series Prima. Mollusca extramarina. Beschreibung und Abbildung neuer oder kritischer Land- und Süßwasser-Mollusken*, 5: 175–197, pls 149–159. T. Fischer, Cassel.
- Martens, E. von 1885. Binnenmollusken aus Mittel- und Ost-Asien. *Conchologische Mittheilungen als Fortsetzung der Novitates conchologicae*, 2: 179–185, pl. 33.
- Martens, E. von 1887 (31 Dec.). List of the shells of Mergui and its Archipelago, collected for the trustees of the Indian Museum, Calcutta, by Dr. John Anderson, F.R.S., F.L.S., superintendent of the Museum. *The Journal of the Linnean Society of London*, 21: 155–219, pls 14–16.
- Martens, E. von 1897. Süß- und brackwasser-mollusken des Indischen Archipels. *Zoologische Ergebnisse Einer Reise in Niederländisch Ost-Indien*, 4: 1–331, pls 1–12.
- Martens, E. von 1905. Koreanische Süßwasser-Mollusken. *Zoologische Jahrbücher, Supplement 8*: 23–70, pls 1–3.
- Martin, K. 1889. Die Fauna der Kreideformation von Martapoera. *Sammlungen des Geologischen Reichs-museums in Leiden, Neue Folge*, 4: 126–197, pls 15–21.
- Martin, K. 1891–1906. Die Fossilien von Java auf grund einer Sammlung von Dr. R.D.M. Verbeek und von anderen. *Sammlungen des Geologischen Reichs-Museums in Leiden, Neue Folge*, 1: 133–221. [“Die Foraminiferen führenden Gesteine, diesem Bande als Anhang zugefügt” in 1891; Gastropoda, *Bulla-Murex*: pp. 1–132, pls 1–20 in 1895; *Ocenebra-Telescopium*: pp. 133–220, pls 21–33 in 1899; *Modulus-Delphinula*: pp. 221–281, pls 34–41 in 1905; Nachtrag zu den Gastropoden: pp. 282–325, pls 42–45 in 1906].
- Martini, F.H.W. 1773. *Neues systematisches Conchylien-Cabinet*, Bd. 2. Bey Gabriel Nikolaus Raspe, Nürnberg.
- Martini, F.H.W. 1777. *Neues systematisches Conchylien-Cabinet*, Bd. 3. Bey Gabriel Nikolaus Raspe, Nürnberg.

- Martins, A.M. de F. 1998. The anatomy of *Cassidula Férussac*, 1821 and a case for the revival of the Cassidulinae Odhner, 1925. In Morton, B. (Ed.), *The marine biology of the South China Sea. Proceedings of the Third International Conference on the Marine Biology of the South China Sea, Hong Kong, 28 October – 1 November 1996*, 25–42. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Martins, A.M. de F. & Cunha, R.M.T.P.T. da 1992. The Ellobiidae (Gastropoda: Pulmonata) communities from a boulder shore and a salt meadow in the Sai Kung Peninsula, Hong Kong. In Morton, B. (Ed.), *The marine flora and fauna of Hong Kong and southern China III, Proceedings of the Fourth International Marine Biological Workshop: The Marine Flora and Fauna of Hong Kong and Southern China, Hong Kong, 11–29 April 1989*, vol. 1, 417–429. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Marui, H. 2002 (10 Aug.). A new locality of the endangered freshwater snail *Camptoceras hirasei* (Gastropoda: Pulmonata: Planorbidae) in Wakayama Prefecture, Japan. *The Yuruyagai*, **8**: 83–85.
- 増野和幸 1992 (24 Jul.). 陸生、淡水生貝類. In 三時輝久 (編) *概説 山口県の貝類*, 31–43. 山口県立山口博物館, 山口.
- 増野和幸・川野敬介 2017 (Mar.). 下関市豊田町の陸産・淡水産貝類. *豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書*, (9): 7–49.
- 増野和幸・川野敬介 2018 (Mar.). 下関市豊北町の陸産・淡水産貝類. *豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書*, (10): 51–84.
- 増田 修 1994. 兵庫県下のカワネジガイの記録と飼育下での繁殖. *かいなかま*, **28**: 9–11.
- 増田 修 1995. 兵庫県産陸水性貝類 IV オカミミガイ科・サカマキガイ科・モノアラガイ科・ヒラマキガイ科・カワコザラガイ科. *兵庫陸生生物*, (46): 36–45.
- 増田 修 1996 (Mar.). クルマヒラマキガイ. In 日本水産資源保護協会 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (III) 1. 軟体動物*, 37–41, 85. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 増田 修 1997a. 兵庫県産陸水性貝類 V. *兵庫陸生生物*, (48): 6–25.
- 増田 修 1997b. イナバメタニシ. In 日本水産資源保護協会 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV) 軟体動物*, 8–11. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 増田 修 2014a (Mar.). ミヤマムシオイ (多田, 仮称), ヒメコウロマイマイ (仮称). In 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課 (編), *兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2014 (貝類・その他無脊椎動物)*, 23, 64. ひょうご環境創造協会, 神戸.
<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2014/3-6-1.html>
https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2014/list1/18_miyamamushioi.pdf
https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2014/list1/100_himekoromaimai.pdf
- 増田 修 2014b → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- 増田 修・波部忠重 1988 (30 Jun.). 岡山県倉敷市にすみついたカネツケシジミ. *ちりばたん*, **19**: 39–40.
- 増田 修・内山りゅう 2004 (Oct.). 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. *ピーシーズ*, 横浜.
- 増田泰久 2019 (Apr.). 和歌山市加太湾産ウミウシ目録について. *がんがら*, (14): 1–23.
- Matsubara, T. 2013 (31 Dec.). Validity of *Hiatula Modeer*, 1793 (Bivalvia: Psammobiidae). *Malacologia*, **56**: 309–313.
- 松田征也 1995 (Mar.). カワネジガイ. In 日本水産資源保護協会 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 II*, 31–35, pl. 6. 日本水産資源保護協会, 東京.
- Matsukuma, A. 1979 (30 Sept.). Glycymeridid bivalves from Japan and adjacent areas — I. Alphabetical list of the species allocated to the family Glycymerididae. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **38**: 95–128.
- 松隈明彦 1986 → 奥谷喬司 (編) 1986 (1 Jul.).
- 松隈明彦 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).
- 松隈明彦 2003 (30 Jun.). インド-西太平洋産トゲウネガイ属 (ニッコウガイ科) [日本貝類学会平成 15 年度大会 (豊橋) 研究発表要旨]. *Venus*, **62**: 73.
- 松隈明彦 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 松隈明彦・石橋 猛・川岸 寛・山下博由 2014 (Aug.). 貝類. In 福岡県環境部自然環境課 (編), *福岡県の希少な野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 — 爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等—*, 173–241. 福岡県環境部自然環境課, 福岡.
<http://www.fibes.pref.fukuoka.jp/~kankyouseibutsu/rdb/rdb2014/10kairui.pdf>
- 松隈明彦・奥谷喬司 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).
- 松隈明彦・奥谷喬司 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 松本幸雄 1977 (28 Feb.). 伊勢湾答志島のキヌ網の貝類. *ちりばたん*, **9**: 91–92, pl. 10.
- 松本幸雄 1979 (1 Mar.). *三重の貝類 (三重県産貝類目録)*. 鳥羽水族館, 鳥羽.
- 松岡敬二 1982 (31 May). 宇治川人工入江から得られたイケチョウガイ. *ちりばたん*, **13**: 12–13.
- 松島義章 1978. 縄文海進に伴う相模湾周辺にみられる内湾の貝化石群. *海洋科学*, **10**(1): 32–39.
- 松島義章 1981. 最近南関東から失われた貝類. *動物と自然*, **11**(11): 29–33.
- 松島義章 1984 (25 Mar.). 日本列島における後氷期の浅海性貝類群集—特に環境変遷に伴うその時間・空間的変遷—. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (15): 37–109.
- 松島義章・両角芳郎 1983 (25 Mar.). 大阪河内平野の海成沖積層から産出した貝殻の ^{14}C 年代とそれに関連する問題. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (14): 1–9.

軟体動物

- Matsuura, N. 1977 (Jun.). Molluscan fossils from the late Pleistocene marine terrace deposits of Hokuriku Region, Japan Sea side of central Japan. *The Science Reports of Kanazawa University*, **22**: 117–162, pls 1–20.
- 松浦信臣 1996 (1 Aug.). 金沢地域の大量層産大型無脊椎動物化石リスト —貝類・ウニ類・腕足類・フジツボ類—. *北陸地質研究所報告*, (5): 41–53.
- 馬渡峻輔・小西光一・千川 裕・石丸信一・桑原康裕・佐藤友美 1985. 木古内臨海実験所附近の海産無脊椎動物相 1. 多殻板綱, 腹足綱, 二枚貝綱 (軟体動物) および端脚目, 十脚目 (節足動物・甲殻綱). *生物教材* (北海道教育大学 生物教育 尻岸内臨海実験所), (19–20): 1–10.
- Megerle von Mühlfeld, J.K. 1811. Entwurf eines neuen System's der Schalthiergehäuse. Erste Antheilung. Die Muscheln. *Der Gesellschaft Naturforschender Freunde zu Berlin Magazin für die Neuesten Entdeckungen in der Gesammten Naturkunde*, **5**(1): 38–72, pl. 3.
- Mermod, G. & Binder, E. 1963 (Apr.). Les types de la collection Lamarck au Muséum de Genève. Mollusques vivants. V. *Revue Suisse de Zoologie*, **70**: 127–172.
- Melville, J.C. 1888 (Jul.). Two new *Siphonaliae* from Japan. *Journal of Conchology*, **5**: 348–349.
- Melville, J.C. 1891. Descriptions of eleven new species belonging to the genera *Columbarium*, *Pisania*, *Minolia*, *Liotia*, and *Solarium*. *Journal of Conchology*, **6**: 405–411, pl. 2.
- Melville, J.C. 1893. Descriptions of twenty-five new species of marine shells from Bombay. Collected by Alexander Abercrombie, Esq. *Memoirs and Proceedings of the Manchester Literary & Philosophical Society*, Fourth Series, **7**: 52–66, pl. 1.
- Melville, J.C. 1898. A brief bibliographical résumé of the erythraean molluscan fauna, with descriptions of sixteen species from Aden. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Seventh Series, **1**: 194–206, pl. 12.
- Melville, J.C. 1906 (29 Jun.). Descriptions of thirty-one Gastropoda and one scaphopod from the Persian Gulf and Gulf of Oman, dredged by Mr. F.W. Townsend, 1902–1904. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **7**: 69–80, pls 7–8.
- Melville, J.C. 1910 (Jul.). Descriptions of twenty-nine species of marine Mollusca from the Persian Gulf, Gulf of Oman, and North Arabian Sea, mostly collected by Mr. F.W. Townsend, of the Indo-European Telegraph Service. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Eighth Series, **6**: 1–17, pls 1–2.
- Melville, J.C. 1912 (30 Oct.). Descriptions of thirty-three new species of Gastropoda from the Persian Gulf, Gulf of Oman, and North Arabian Sea. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **10**: 240–254, pls 11–12.
- Melville, J.C. 1913 (25 Jun.). Note on the identity of *Torinia densegranosa*, Pilsbry, and *T. Enoshimensis*, Melville. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **10**: 317.
- Melville, J.C. 1917 (8 May). A revision of the Turridae (Pleurotomidae) occurring in the Persian Gulf, Gulf of Oman, and North Arabian Sea, as evidenced mostly through the results of dredgings carried out by Mr. F.W. Townsend, 1893–1914. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **12**: 140–201, pls 8–10.
- Melville, J.C. 1918 (Feb.). Descriptions of thirty-four species of marine Mollusca from the Persian Gulf, Gulf of Oman, and Arabian Sea, collected by Mr. F.W. Townsend. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Ninth Series, **1**: 137–158, pls 4–5.
- Melville, J.C. & Standen, R. 1897 (1 Apr.). Notes on a collection of shells from Lifu and Uvea, Loyalty Islands, formed by the Rev. James and Mrs. Hadfield, with list of species. Part II. *Journal of Conchology*, **8**: 273–315, pls 9–10.
- Melville, J.C. & Standen, R. 1898 (30–33 on 1 Jan.; 34–48 on 1 Apr.; 75–85 on 1 Jul.). The marine Mollusca of Madras and the immediate neighbourhood. *Journal of Conchology*, **9**: 30–48, 75–85.
- Melville, J.C. & Standen, R. 1899 (1 Jul.). Report on the marine Mollusca obtained during the first expedition of Prof. A.C. Haddon to the Torres Straits, in 1888–89. *The Journal of the Linnean Society of London, Zoology*, **27**: 150–206, pls 10–11.
- Melville, J.C. & Standen, R. 1901 (Oct.). The Mollusca of the Persian Gulf, Gulf of Oman, and Arabian Sea, as evidenced mainly through the collections of Mr. F.W. Townsend, 1893–1900; with descriptions of new species. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1901, vol. 2: 327–460, pls 21–24.
- Melville, J.C. & Standen, R. 1903. Descriptions of sixty-eight new Gastropoda from the Persian Gulf, Gulf of Oman, and North Arabian Sea, dredged by Mr. F.W. Townsend, of the Indo-European Telegraph Service, 1901–1903. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Seventh Series, **12**: 289–324, pls 20–23.
- Melville, J.C. & Standen, R. 1917 (15 Aug.). A revision of the species of *Terebra* occurring in the Persian Gulf, Gulf of Oman, and Arabian Sea, as evidenced in the collection formed by Mr. F.W. Townsend, 1893–1914. *Journal of Conchology*, **15**: 204–216.
- Menke, K.T. 1843. *Molluscorum Novae Hollandiae specimen, quod ad celebrandum diem jubileum vicesimum sextum mensis Februarii anni MDCCCXLIII, quo per viginti quinque annos professoris Muneri in illustri Gymnasio Acedemico Hamburgensi, praefuit vir Doctissimus, Clarissimus Joannes Georgius Christianus Lehmann, scripsit Carolus Theodorus Menke*. In *Libraria Aulica Hahniana, Hannoverae*.
- Meyer, O. & Aldrich, T.H. 1886 (Jun.). The Tertiary fauna of Newton and Wautubbee, Miss. *The Journal of the Cincinnati Society of Natural History*, **9**(2): 40–50, pl. 2.
- Middendorff, A.T. v. 1847 (7 Nov.). Sur un envoi adressé à l'Académie par M. Sensinov de Nertchinsk et sur une nouvelle espèce d'*Anodonte*. *Bulletin de la Classe Physico-Mathématique de l'Académie Impériale des Sciences de St.-Petersbourg*, **6**: 302–304.
- Middendorff, A.T. v. 1848 (15 Dec.). Vorläufige Anzeige einiger neuer Konchylien Russland's, aus den Geschlechtern: *Scalaria*, *Crepidula*, *Velutina*, *Trichotropis*, *Purpura* und *Pleurotoma*. *Bulletin de la Classe Physico-mathématique de l'Académie Impériale des Sciences de St.-Petersbourg*, **8**: 17–19.
- 三上和代 2018 (31 Mar.). 芦崎干潟の底生動物. In むつ市教育委員会 (編), *芦崎の自然調査概要 (26・27 年次中間報告)*. むつ市文化財調査報告第 47 集, 88–95. むつ市教育委員会, むつ. <http://www.city.mutsu.lg.jp/index.cfm/36,67306,67,679.html>
- Mikkelsen, P.M., Bieler, R., Kappner, I. & Rawlings, T.A. 2006 (24 Nov.). Phylogeny of Veneroidea (Mollusca: Bivalvia) based on morphology and molecules. *Zoological Journal of the Linnean Society*, **148**: 439–521.
- 三本健二 2018 (Oct.). クルマヒラマキガイ, タガイ; ヒメマルマメタニシ. In 高知県レッドデータブック (動物編) 改訂事業改訂委員会 (編), *高知県レッドデータブック 2018 動物編*, 264; 267. 高知県林業振興・環境部環境共生課, 高知. https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/files/2018092700119/file_201810103153657_1.pdf
- 三本健二・中尾賢一 2010 (31 Mar.). 高知県の鮮新-更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類 (5). *徳島県立博物館研究報告*, (20): 1–15.

- 関徳基・李俊相・高東範・諸宗吉 2004 (1 Apr.). 韓國貝類圖鑑 (新原色韓國貝類圖鑑 改訂増補版). 関貝類研究所, Seoul.
- 三長孝輔・三長秀男 2006 (30 Dec.). 和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類. *かきつばた*, (32): 1-14.
- 三長孝輔・三長秀男 2012 (1 Apr.). 和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類 II. *かきつばた*, (37): 22-27.
- 三長秀男・三長孝輔・三長敬昌 2004 (1 Jun.). 和歌山市名草ノ浜で採集されたマキモノガイ生個体. *南紀生物*, **46**: 73-74.
- 湊 宏 1974 (30 Oct.). オキギセルとモリヤギセル. *山口県の自然*, (31): 8-11.
- 湊 宏 1976 (31 Dec.). 与那国島の陸産貝類相. *貝類学雑誌*, **35**: 163-183.
- 湊 宏 1978. コソボソギセルと近縁の小豆島産の1新亜種. *貝類学雑誌*, **37**: 16-21.
- 湊 宏 1979 (30 Sept.). 日本産陸棲貝類の生殖器の研究—XIII. キセルガイ科 (2). トノサマギセル属 (1). *貝類学雑誌*, **38**: 141-147.
- 湊 宏 1983a. コベソマイマイとその近縁種について. *南紀生物*, **25**: 28-33.
- 湊 宏 1983b (31 Dec.). 日本産陸棲貝類の生殖器の研究—XXI. キセルガイ科 (7): マルクチコギセル属. *貝類学雑誌*, **42**: 331-343.
- 湊 宏 1986 → 奥谷喬司 (編) 1986 (1 Jul.).
- 湊 宏 1988 (8 Aug.). *日本陸産貝類総目録*. 日本陸産貝類総目録刊行会, 白浜.
- 湊 宏 1989a (30 Jun.). 四国に分布するシコクビロウドマイマイ (新種). *貝類学雑誌*, **48**: 79-84.
- 湊 宏 1989b (31 Dec.). 山口県で採集されたカワリダネビロウドマイマイ (新種). *貝類学雑誌*, **48**: 259-262.
- 湊 宏 1993 (Nov.). 文献にみるカワネジガイの記録. *南紀生物*, **35**: 154-156.
- 湊 宏 1994 (25 Dec.). 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *貝類学雑誌 Venus, supplement 2*: 1-212, unpaginated tables 1-6, pls 1-74.
- 湊 宏 1999 (31 Dec.). 日本のキセルガイモドキ科貝類の概説. *ちりぼたん*, **30**: 49-58.
- Minato, H. 2003 (31 Jan.). *Aegista stenophala* n.sp. (Pulmonata: Bradybaenidae) from Mt. Gokenzan, Kagawa Prefecture, Shikoku, Japan. *Venus*, **62**: 135-140.
- 湊 宏 2004 (30 Oct.). 秋田県北部で採集された“ハクサンケマイマイの類似種”. *ちりぼたん*, **35**: 90-93.
- 湊 宏 2014 → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- Minato, H. 2015 (15 Jan.). *Diplommatina (Sinica) nakashimai*, a new species of the family Diplommatinidae (Gastropoda: Cyclophoroidea) from the Chugoku region, Honshu, Japan. *Venus*, **73**: 75-78.
- 湊 宏 2018 (31 Mar.). 西日本におけるクロツノナメクジ *Deroceras* sp. (真有肺目: 柄眼亜目: ノコウラナメクジ科) の新分布記録と生殖器形態. *ちりぼたん*, **48**: 37-43.
- 湊 宏 2019. *ダイセンニシキマイマイ*. In 山口県希少野生動物植物保護対策検討委員会 (編), *レッドデータブックやまぐち 2019. 山口県の絶滅のおそれのある野生生物*. 山口県自然保護課, 山口. [2019年12月31日閲覧]
<https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/rdb/site/detail.php?category=LandAndFreshwaterSnails&code=1000402401900>
- 湊 宏・上馬康生 1996. 白山とその周辺の陸産貝類. *石川県白山自然保護センター研究報告*, (23): 39-50.
- 湊 宏・鈴木章司・矢野重文 1994 (30 Jun.). 西中国山地のイトムシオイガイ. *ちりぼたん*, **24**: 93-95.
- 湊 宏・多田 昭 2000 (30 Apr.). 四国のシメクチマイマイ種群の生殖器の形態とその分布. *ちりぼたん*, **31**: 3-10.
- 湊 宏・矢野重文 1988 (15 Apr.). 中国地方産イトムシオイガイ亜属の新亜種. *貝類学雑誌*, **47**: 33-36.
- 三浦一輝 2015 (Mar.). 埼玉県川島町の農業水路において採集された国内外来二枚貝カタハガイ *Obovalis omiensis*. *埼玉県立川の博物館紀要*, (15): 21-24.
- 三浦一輝・藤岡正博 2015 (19 Nov.). 埼玉県の農業水路における外来種トンガリササノハガイの分布と生息環境. *Venus*, **73**: 137-150.
- 三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵 2012 (Feb.). 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. *宮崎大学農学部研究報告*, **58**: 51-68.
- 三浦知之・大園隆仁・村川知嘉子・矢野香織・森 和也・高木正博 2005 (Mar.). 宮崎港一ツ葉入り江に出現する底生生物と鳥類. *宮崎大学農学部研究報告*, **51**: 17-33.
- 宮地伝三郎・黒田徳米・波部忠重 1954 (Mar.; “1953”). 日本近海の生物地理区について. *生物科学*, **5**: 145-148.
- 宮地傳三郎・増井哲夫 1943. 七尾灣の底棲群衆の研究. *日本海洋学会誌*, **2**: 1-21.
- 宮城県環境生活部自然保護課 (編) 2016 (Mar.). *宮城県の絶滅のおそれのある野生動物植物. Red data book Miyagi*. 宮城県環境生活部自然保護課, 仙台.
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red-book2016.html>
- 宮入慶之助・鈴木 稔 1913. 日本住血吸蟲の發育に関する追加. *東京醫事新誌*, (1836): 1961-1965.
- 宮入慶之助記念館 2020. ミヤイリガイとは. 宮入慶之助記念館, 長野. <https://miyaiirikenkan.com> [2020年1月4日閲覧]
- 宮本 望・布村 昇 1999 (25 Mar.). 富山県高岡市雨晴産海産貝類. *富山市科学文化センター研究報告*, (22): 39-53.

軟体動物

宮本 康・福本一彦・畠山恵介・森 明寛・前田晃宏・近藤高貴 2015 (30 May). 鳥取県における特定希少野生動物カラスガイ *Cristaria plicata* 個体群の現状: 幼生と宿主魚類の関係に着目して. *保全生態学研究*, **20**: 59–69.

MNHN → Muséum national d'Histoire naturelle

Moeder, A. 1793. Inledning til kunskapen om Mak-Kräken i allmänhet; 5 Classen. Musslor, Cochleata. *Kongliga Vetenskaps Akademiens nya Handlingar*, [Ser. 2], **14**: 163–183.

Möllendorff, O.F. von 1882. On a collection of Japanese Clausiliae made by Brigade Surgeon R. Hungerford in 1881. *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, **51**(Part II: Natural History, &c.): 1–10, 13, pl. 1.

Möllendorff, O.F. von 1885a. Materialien zur Fauna von China. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **12**: 349–356, pl. 9.

Möllendorff, O.F. von 1885b. Notes on Japanese land and freshwater molluscs. *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, **54**(Part II: Natural History, &c.): 59–68.

Möllendorff, O.F. von 1887. Die Landschnecken von Korea. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **14**: 9–22.

Möllendorff, O. von 1901 (Mar.–Apr.). Neue und kritische Landschnecken von Japan und den Liukiu-Inseln. *Nachrichtsblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **33**: 33–45.

Mörch, O.A.L. 1852. *Catalogus conchyliorum quae reliquit D. Alphonso d'Aguirra & Gadea comes de Yoldi, regisdaniae cubiculariorum princeps, ordinis dannebrogici in prima classe & ordinis caroli tertii eques*. Fasciculus primus, *Cephalophora*. Ludovici Kleini, Hafniae.

Mörch, O.A.L. 1853. *Catalogus conchyliorum quae reliquit D. Alphonso d'Aguirra & Gadea comes de Yoldi, regisdaniae cubiculariorum princeps, ordinis dannebrogici in prima classe & ordinis caroli tertii eques*. Fasciculus secundus, *Acephala*. *Annulata Cirripedia*. Echinodermata. Ludovici Kleini, Hafniae.

Mörch, O.A.L. 1861 (between Aug. 1860 and Mar. 1861). Review of the genus *Tenagodus*, Guettard. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 28 (for 1860): 400–415.

MolluscaBase 2019, 2020. *MolluscaBase*. <http://www.molluscabase.org>

Monsecour, K. & Köhler, F. 2006 (25 Aug.). Annotated list of columbellid types held in the malacological collection of the Museum für Naturkunde, Berlin (Mollusca, Caenogastropoda, Columbelloidea). *Mitteilungen aus dem Museum für Naturkunde in Berlin, Zoologische Reihe*, **82**: 282–306.

モーレンベーク, R.G.・バンデービジル, A.N. 1992 (31 Aug.). *Helix conospira* Pfeiffer, 1851 の模式標本について (アムステルダム動物学博物館の貝類コレクションの歴史-1). *ちりぼたん*, **23**: 4–6.

Moore, R.C. (Ed.) 1969. *Treatise on Invertebrate Paleontology, Part N, Mollusca 6, vols 1 & 2, Bivalvia*. The Geological Society of America and The University of Kansas Press, Lawrence.

Morelet, A. 1872 (Dec.). Voyage de M.rs Antinori, Beccari et Issel dans la Mer Rouge et le pays des Bogos. Mollusques. III. Notice sur les coquilles terrestres et d'eau douce recueillies sur les Côtes de l'Abyssinie. *Annali del Museo Civico di Storia Naturale di Genova*, **3**: 181–208, pl. 9.

森 千恵・鈴木田亘平・田牧 愛・福田 宏 2003 (30 Jun.). 岡山県瀬戸内海沿岸における注目すべき海産貝類 (予報). *Venus*, **62**: 88–89.

森 生枝 1994 (Dec.). 岡山県下にかワネジガイ *Camptoceras hirasei* Walker を確認. *岡山県自然保護センター研究報告*, (2): 25–26.

Mori, S. 1938a. Classification of the Japanese Planorbidae. *Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University, Series B*, **14**: 279–300, pls 12–18.

Mori, S. 1938b. Molluscan fauna of the limestone caves in Miyako-zima of the Ryukyu Islands. II. Description of two new molluscs, *Cochliopopsis basiangulata* n.g., n.sp. and *Pisidium (Neopisidium) cavernicum* n.sp. *Biogeographica, Transactions of the Biogeographical Society of Japan*, **3**: 110–114.

森井悠太 2012 (Dec.). 北海道中頓別町で採集されたクリイロキセルガイモドキ (有肺類: キセルガイモドキ科). *Molluscan Diversity*, **3**: 80–82.

守谷茂樹・河辺訓受 2013 (1 Apr.). 三重県, 愛知県で確認されたミズコハクガイ. *かきつばた*, (38): 50–51.

Morton, B. 1986 (Jun.). *Corbicula* in Asia - an updated synthesis. *American Malacological Bulletin, Special Edition*, (2): 113–124.

Morton, B. & Scott, P.H. 1990 (2 Jul.). Relocation of *Ervillea* Turton, 1822 (Bivalvia) from the Mesodesmatidae (Mesodesmatoidea) to the Semelidae (Tellinoidea). *The Veliger*, **33**: 299–304.

Morton, S.G. 1834. *Synopsis of the organic remains of the Cretaceous group of the United States. Illustrated by nineteen plates. To which is added an appendix, containing a tabular view of the Tertiary fossils hitherto discovered in North America*. Key & Biddle, Philadelphia.

Motochin, R., Wang, M. & Ueshima, R. 2017 (online 17 Jul.; print Dec.). Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **181**: 795–845.

Müller, O.F. 1774. *Vermium terrestrium et fluviatilium, seu animalium infusoriorum, helminthicorum et testaceorum, non marinorum, succincta historia. Volumen Alterum*. Heineck et Faber, Hafniae et Lipsiae.

村岡健作 1972 (31 Mar.). 貝類標本総合目録. *神奈川県立博物館自然部門資料目録*, (3): 13–222, pls 1–8.

村岡健作・内藤武彦 1991 (5 Feb.). 野村洋太郎氏寄贈貝類標本目録. *神奈川県立博物館自然部門資料目録*, (5): 1–167, pls 1–5.

武蔵石壽 1843. *貝類譜*. 水谷助六 寫, 江戸.

Muséum national d'Histoire naturelle 2019. Paris (France). Collection: Molluscs (IM):

Specimen MNHN-IM-2000-2108 [*Cancellaria bocageana* Crosse & Debeaux, 1863; accessed on 26 Nov. 2019]

<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-2108>

Set of 4 specimens MNHN-IM-2000-30804 [*Fragilia yantaiensis* Crosse & Debeaux, 1863; accessed on 22 Aug. 2019]

<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-30804>

Set of 5 specimens MNHN-IM-2000-34500 [*Mytilus ustulatus* Lamarck, 1819; accessed on 28 Aug. 2019].

<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-34500>

- Set of 3 specimens MNHN-IM-2000-32521. [*Modiola sirahensis* Jousseaume, 1891; accessed on 31 Aug. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-32521>
- Specimen MNHN-IM-2000-24318 [*Chlamys hirasei* Bavay, 1904, syntypes; accessed on 5 Sept. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-24318>
- Specimen MNHN-IM-2000-24320 [*Chlamys hirasei ecostata* Bavay, 1904, syntypes; accessed on 5 Sept. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-24320>
- Set of 3 specimens MNHN-IM-2000-24299 [*Chlamys ambigua* Bavay, 1904, syntypes; accessed on 5 Sept. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-24299>
- Specimen MNHN-IM-2000-20963 [*Mactra ovalina* Lamarck, 1818, syntypes; accessed on 13 Oct. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-20963>
- Set of 4 specimens MNHN-IM-2000-34185 [*Mactra crista* Jousseaume, 1894, syntypes; accessed on 13 Oct. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-34185>
- Set of 3 specimens MNHN-IM-2000-25690 [*Cerithidea tonkiniana* Mabilie, 1887, syntypes; accessed on 10 Nov. 2019]
<http://coldb.mnhn.fr/catalognumber/mnhn/im/2000-25690>
- Museums Victoria 2019. Specimen F 31514. *Velutina pusio* Adams, 1860. *Museums Victoria Collections*. [Accessed 8 Aug. 2019]
<https://collections.museumvictoria.com.au/specimens/604496>
- 武藤昌知 1919. 肝臓ズストマ *Clonorchis sinensis* の第一中間宿主に就て (第2回報告). *中央醫學會雜誌*, **26**(3): 1–28.
- 長花 操・初鹿 了・清水泉太・川上 茂 1978 (Jun.). 岡山県における肝吸虫症の疫学的研究 (1) マメタニシの分布状況. *寄生虫学雑誌*, **27**: 165–170.
- 長野寛治 1927 (31 Jan.). 岡山縣下ニ於ケル肝臓「ズストマ」第一中間宿主「マメタニシ」ノ分布ニ就テ. *岡山醫學會雜誌*, **39**(444): 124–132.
- 長崎県自然環境課 2017 (7 Aug.). *長崎県レッドリスト (2011) 中間見直し*. 長崎県自然環境課, 長崎.
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunru/kurashi-kankyo/shizenkankyo-doshokubutsu/rarespecies/reddata/298016.html>
<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2017/06/1498554051.pdf>
- 内藤順一 2018. 岡山県天谷川水系のカワシンジュガイ. *比婆科学*, (262): 9–18, pls 1–6.
- 中井克樹 2014 → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- 中村正人・松井 魁・網尾 勝 1963 (Nov.). イケチョウガイ *Hyriopsis schlegeli* [sic] の解剖. *水産大学校研究報告*, **13**: 61–74, pls 1–12.
- 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文 2012 (30 Jun.). 和歌山市加太周辺の貝類相 III. *南紀生物*, **54**: 61–66.
- 中野 環 2015 (31 Mar.). 三重県総合博物館所蔵 貝類コレクション —シオサザナミ科・キヌタアゲマキ科—. *三重県総合博物館研究紀要*, (1): 37–49.
- 中野理枝 2019a (24 May). *フィールド図鑑 日本のウミウシ*. 文一総合出版, 東京.
- 中野理枝 2019b (29 Aug.). *ネイチャーガイド 日本のウミウシ 第二版*. 文一総合出版, 東京.
- 中野理枝・今川 郁・今本 淳 2015 (Mar.). 南西諸島で記録された囊舌類の報告. *Kuroshio Biosphere*, **11**: 41–60, pls 1–5.
- Nakano, To. & Ozawa, T. 2005 (1 Nov.). Systematic revision of *Patelloida pygmaea* (Dunker, 1860) (Gastropoda: Lottiidae), with a description a new species. *Journal of Molluscan Studies*, **71**: 357–370.
- National Institute of Biological Resources 2012. *Red data book of endangered mollusks in Korea*. National Institute of Biological Resources, Incheon. (in Korean with English title) <http://www.nationalredlist.org/files/2016/04/6.-Red-Data-Book-of-Endangered-Mollusks-in-Korea-Korean.pdf>
- Natural History Museum 2017. Dataset: Collection specimens. Resource: Specimens. *Natural History Museum Data Portal* (data.nhm.ac.uk). <https://doi.org/10.5519/0037274>
- 名和 純 2008a (Mar.). 琉球列島の干潟貝類相 (1) 奄美諸島. *西宮市貝類館研究報告*, (5): 1–42, pls 1–16, unpaginated figs 1–19, tables 1–6.
- 名和 純 2008b (31 Oct.). 泡瀬干潟の貝類相. *The Yuriyagai*, **10**: 7–47.
- 名和 純 2009 (Mar.). 琉球列島の干潟貝類相 (2) 沖縄および宮古・八重山諸島. *西宮市貝類館研究報告*, (6): 1–81, pls 1–20, unpaginated figs 1–33, tables 1–3.
- 名和 純 2011 (31 Mar.). 琉球大学資料館 (風樹館) 多板綱・腹足綱・掘足綱・頭足綱標本目録. *琉球大学資料館 (風樹館) 収蔵資料目録*, (6): 1–254.
- 根本修行・秋元義正 1990. 福島県常磐沖の現生貝類. *平地学同好会会報*, (18): 3–50.
- Neumayr, M. 1898. Süßwasser-Mollusken. In Széchenyi, B. (Ed.), *Wissenschaftliche Ergebnisse der Reise des Grafen Béla Széchenyi in Ostasien 1877–1880*, Zweiter Band, 637–662, pls 1–4. In Commission von E. Hölzel, Wien.
- Neumayr, M. 1899. Süßwasser-Mollusken. In Széchenyi, B. (Ed.), *Die wissenschaftlichen Ergebnisse der Reise des Grafen Béla Széchenyi in Ostasien 1877–1880*. 3. Bd. *Die bearbeitung des gesammelten materials*, 638–662, pls 1–3. In Commission von E. Hölzel, Wien.
- Nevill, G. 1878, 1885 (“1884”). *Hand list of Mollusca in the Indian Museum, Calcutta. Part I* (1878), *II* (1885). *Gastropoda. Pulmonata and Prosobranchia-Neurobranchia* (Part 1); *Prosobranchia-Neurobranchia (cont'd)* (Part 2). Indian Museum, Calcutta.
- Nevill, G. & Nevill, H. 1871. Descriptions of new Mollusca from the eastern regions. *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, **40**(part 2, Natural History, &c): 1–10, pl. 1.
- 二瓶直子 2012 (30 Dec.). 日本のマイリガイを中心に—その分布と GIS による監視—. *衛生動物*, **63**: 249–256.
- 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.). *干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック*. 東海大学出版会, 秦野.
- 福田 宏. *スカシエビス* (p. 16); *セムシマドアキガイ* (17); *カヤノミカニモリ*, *サナギモツボ* (28); *ゴマツボモドキ* (37); *ウチノミツボ*, *イリエツボ* (39); *ウズツボ*, *アラウズマキ* (41); *ウミコハクガイ* (43); *ミズゴマツボ* (45); *ハツカネズミ* (56); *ヤミヨキセワタ* (82); *ヌノメホソクチケレ*, *マキモノガイ*, *ササクレマキモノガイ* (86); *キタギシマゴクリ* (和名改称), *タナゴジマゴクリ* (和名改称), *ヒエンハマゴクリ* (和名新称) (102–103); *ハンレイヒバリ* (*カラスノマクラ*) (108); *ハブタエユキガイ*, *チリメンユキガイ*, *ヤチヨノハナガイ* (143); *ヤタノカガミ* (148); *タナベヤドリガイ* (161); *オビクイ* (169).
- 福田 宏・木村昭一. *ツボミ* (16); *ヒロクチカノコ* (20); *ミヤコドリ* (26); *クロヘナタリ* (28); *シマヘナタリ*, *ヘナタリ* (29); *タケノコカワニナ* (*レベックカワニナ*) (33); *サキグロタマツメタ* (58); *ウネナシトカケ* (61); *オニサザエ* (65); *ウネハナムシロ* (71); *テングニシ* (72); *イソチドリ* (83); *ヒメゴウナ* (87); *シ*

軟体動物

- イノミミミガイ (94), オチバ (コムラサキガイ) (134).
福田 宏・久保弘文. イソマイマイ (42); オリレシラタマ (60); スカルミクチキレ (88); キュウシュウナミノコ (131).
木村昭一. ヒナユキスズメ (27); マクラガイ (73); キヌカツギハマシノミ (99); アサヒキヌタレガイ, キヌタレガイ (106); オオモモノハナ (123); ユウシオガイ (126); ウラカガミ (149); イオウハマグリ (152); コオキナガイ (168); オキナガイ属の一種 (169).
木村昭一・福田 宏. カワアイ (30); ウミニナ, イボウミニナ (31); ウネムシロ (67); オリレボラ (74); サギガイ (123); オウギウロコガイ (159).
木村昭一・久保弘文. コツツガイ (153).
木村昭一・山下博由. イボキサゴ (17); ヒシガイ (118); ムラサキガイ (134); フレイガイ (136).
久保弘文. ムチカワニナ (32); オキナワスカルミクチキレ (和名新称) (89); サザナミマクラ (107); ヒナケンチャク (115); オキナワヒシガイ (118).
久保弘文・福田 宏. ガタチンナン (和名新称) (43).
久保弘文・山下博由. タイワンシラオガイ (146).
山下博由. イトカケゴウナ (83); クマサルボオ (109); ササゲミエガイ (110); ハイガイ (110); スミノエガキ (112); イタボガキ, ネコノアシガキ (113); ヤミノシキ (アワジチヒロ) (116); フジナミガイ (135); ハナグモリ (139); ワカミルガイ, ヒナミルクイ (ヒナミルガイ) (142); アツカガミ (148); ハマグリ (150); イシゴロモ, カキゴロモ (和名新称) (165); アゲマキ (172).
山下博由・木村昭一. オガイ (65); ヤマホトトギス (106); イチョウシラトリ (129); シラオガイ (146).
山下博由・久保弘文. ウミヒメカノコ (24); ヒメシオガマ類 (145).
山下博由・栗原康裕. ハナツトガイ (57).
- 日本貝類學會 1934 (15 Dec.). 會員欄. *貝類研究雑誌* ヴキナス, 4: 表紙 3 面.
- 西 浩孝・井澤伸恵・松岡敬二 2012 (28 Mar.). 高桑弘氏寄贈貝類目録 2. 腹足綱 (第 10 分冊) アクキガイ科 II — フデヒタチオビガイ科. *豊橋市自然史博物館資料集*, (24): 1-140.
- 西 浩孝・曾田貞滋 2005 (31 Mar.). ミトコンドリア DNA 分析に基づく中国地方のマイマイ属の系統地理学的研究. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (8): 185-196.
- 西 邦雄 2011 (Mar.). カタハガイ. In 宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会 (編), *宮崎県の保護上重要な野生生物 改訂・宮崎県版レッドデータブック 2010 年度版*, 270. 宮崎県環境森林部自然環境課, 宮崎.
- 西 邦雄 2019 (30 Jun.). 宮崎県初記録の海産貝 8 種. *九州の貝*, (92): 9-11.
- 西 邦雄・西 浩孝 2018 (1 Jun.). *宮崎県のカタツムリ*. 著者自刊, 宮崎.
- 西 邦雄・潮崎正浩 2017. ツシマナガキビの新産地 (熊本県). *九州の貝*, (89): 21.
- 西本博行 1958. 私たちの理科環境. 第 1 集. *水島灘の貝類*. [未見; 稲葉 (1982: 25) より引用]
- 西村和久 1999 (Mar.). 伊豆・小笠原諸島海域における貝類分布. *東京都水産試験場調査研究報告*, (211): 1-124.
- 西村 正 1967 (28 Feb.). 貝類. In 菊池光一 (編), *秋田県郷土教育資料 生物編 研究 No. 50*, 43-52. 秋田県教育研究所, 秋田.
- 西村 正・渡部景一 1943 (Oct.). 男鹿半島貝類目録. *資源科学研究所彙報*, (3): 63-74.
- 延原尊美・窪田祐亨・糸魚川淳二・松岡敬二 1991 (15 Mar.). 三河湾の貝類遺骸群集 第一部 二枚貝類遺骸群集. *豊橋市自然史博物館研究報告*, (1): 13-32.
- 延原尊美・窪田祐亨・糸魚川淳二・松岡敬二 1992 (31 Jul.). 三河湾の貝類遺骸群集 第 2 部 巻貝類・角貝類. *貝類学雑誌*, 51: 95-113.
- Noda, H. 1966 (10 Oct.). The Cenozoic Arcidae of Japan. *Science Reports of the Tohoku University, 2nd Series, Geology*, 38: 1-163, pls 1-14.
- Nomura, S. 1932. Mollusca from the raised beach deposits of the Kwantô Region. *Science Reports of the Tohoku Imperial University, 2nd Ser. (Geology)*, 15: 65-141, pl. 10.
- Nomura, S. 1936a. Pyramidellidae from Siogama Bay, northeast Honsyû, Japan. *Saito Ho-on kai Museum Research Bulletin*, (10): 1-108, pls 1-12.
- Nomura, S. 1936b (28 Dec.). A new species of the genus *Septifer* from Japan (*S. keeni*). *The Venus*, 6: 205-208.
- Nomura, S. 1937. Additional Pyramidellidae from Siogama Bay, with remarks on the molluscan fauna, especially Pyramidellidae from Sagami Bay; being a comparative study. *Saito Ho-on kai Museum Research Bulletin*, (13): 11-107, pls 4-14.
- Nomura, S. 1938. The third report on Pyramidellidae based upon the specimens preserved in the collection of the Saitô Hô-on Kai Museum. *Saito Ho-on kai Museum Research Bulletin*, (16): 1-88, pls 1-15.
- Nomura, S. 1939 (30 Jun.). Summary of the fossil and Recent Japanese Pyramidellidae, with the description of several new species. In Yabe Kyôju Kanreki Kinen Kai (Ed.), *Jubilee Publications in the commemoration of professor H. Yabe, M.I.A. sixtieth birthday, vol. 1*, 119-156, pl. 9. Yabe Kyôju Kanreki Kinen Kai, Sendai.
- Nomura, S. 1940. Mollusca dredged by the Husa-Maru from the Pacific coast of Tiba Prefecture, Japan. *Records of the Oceanographic Works of Japan*, 12: 81-116, pl. 1 [2].
- 野村七平・畑井小虎 1932 (Jan.). 陸奥灣有殼軟体動物概報. *齋藤報恩會博物館時報*, 特輯號: 2-13.
- Nomura, S. & Hatai, K. 1935 (Mar.). Catalogue of the shell-bearing Mollusca collected from the Kesen and Motoyoshi Districts, Northeast Honsyû, Japan, immediately after the Sanriku Tsunami, March 3, 1933, with the descriptions of five new species. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletin*, 5: 1-47, pls 1-2.
- 野村七平・神保 恵 1934 (7 Jul.). 満洲遼東半島産海棲貝類に就いて. *貝類研究雑誌* ヴキナス, 4: 302-307.
- Noseworthy, R.G., Lim, N.-R. & Choi, K.-S. 2007 (30 Jun.). A catalogue of the mollusks of Jeju Island, South Korea. *Korean Journal of Malacology*, 23: 65-104.
- Nyst, H.-P. 1848. Tableau synoptique et synonymique des espèces vivantes et fossiles de la famille des Arcacées, avec l'indication des dépôts dans lesquels elles ont été recueillies; première partie. — Genre *Arca*. *Mémoires de l'Académie Royale des Sciences, des Lettres et des Beaux-Arts de Belgique*, 22(2): 1-79.
- Odhner, N.H.J. 1917 (19 Sept.). Results of Dr. E. Mjöberg's Swedish Scientific Expeditions to Australia 1910-1913. XVII. Mollusca. *Kungliga Svenska Vetenskapsakademiens Handlingar*, 52(16): 1-115, pls 1-3.
- 大垣内 宏 1968a (20 Jul.). 岡山県採集地案内 (その 1). *ちりばたん*, 5: 45-46.

大垣内 宏 1968b (30 Sept.). 岡山県の採集地案内 (その2). *ちりぼたん*, **5**: 71–72.

大原健司 2014 (Mar.). モリヤギセル. In 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課 (編), *兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2014* (貝類・その他無脊椎動物), 56. ひょうご環境創造協会, 神戸. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2014/3-6-1.html>
https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2014/list1/84_moriyagiseru.pdf

大原健司・大谷洋子 2002 (Jan.). 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録 (1) 非海産腹足類. *西宮市貝類館研究報告*, (1): i-iv, 1–140.

Ohari, Y., Hayashi, K., Mohanta, U.K., Oshida, T. & Itagaki, T. 2020 (Online 23 Jan.). Phylogenetic relationships between Lymnaeidae in relation to infection with *Fasciola* sp. in Hokkaido, Japan. *Molluscan Research*, in press. <https://doi.org/10.1080/13235818.2020.1716497>

大炊御門経輝 1934 (15 Dec.). 白鳥貝類 (*Macoma*) の彎入に就て. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **4**: 353–356, pl. 8.

大炊御門経輝・池邊展生 1934 (1 Sept.). 上總東金町及び大網町附近の貝化石層 (關東南部新生代化石群 其の一). *地球*, **22**: 178–184, pl. 6.

岡部浩洋 1961. 日本住血吸虫及び日本住血吸症 [sic] の生物学及び疫学. In 森下 薫・小宮義孝・松林久吉 (編), *日本における寄生虫学の研究 第1巻*, 55–80. 目黒寄生虫館, 東京.

岡田彌一郎・坂口総一郎・知念盛俊 1959 (30 Jun.). 軟体動物. In 岡田彌一郎 (編), *沖縄産動物目録*, 125–222. 沖縄生物教育研究会, 那覇.

岡本正豊 1977 (31 Jul.). *福岡県産貝類目録訂補資料* (未定稿). 著者自刊, 柏.

岡本正豊 1986 (31 Dec.). 黒田先生と貝の“源氏名”. *ちりぼたん*, **17**: 66–70.

岡本正豊 1995 (“Mar.” [Aug.]). クロヘナタリガイ, シマヘナタリガイ. In 日本水産資源保護協会 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (II) 軟体動物*, 79–87, 124–127. 日本水産資源保護協会, 東京.

岡山大学理学部付属玉野臨海実験所 1978. 備讃瀬戸海域の生物相と主要実験動物の研究. In 国立大学臨海臨湖実験所長会議 (編), *臨海・臨湖実験所周辺の生物相および主要実験生物に関する研究 (昭和50–52年度文部省科学研究費補助金総合研究A研究成果報告)*, 158–170. 国立大学臨海臨湖実験所長会議, 福岡.

岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所 刊行年不詳. *無脊椎動物実習手引 第3版*. 岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所, 牛窓.

岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所 2019. 牛窓近海の動物相. [2019年11月26日閲覧] <http://www.science.okayama-u.ac.jp/~rinkai/Fauna.htm>

岡山県 1979 (31 Mar.). *環境省委託 第2回自然環境保全基礎調査 海域生物調査報告書*. 岡山県, 岡山.

岡山県環境保全事業団 2011 (May). *平成22年度 公共関与臨海部新処分場整備事業に係る環境管理報告書*. 岡山県環境保全事業団, 岡山.

岡山県教育委員会文化財課 2018 (6 Mar.). 県指定文化財一覧 (その6) 史跡, 名勝, 天然記念物. かわしんじゅ貝生息地. *岡山県ホームページ*. [2019年12月13日閲覧] <http://www.pref.okayama.jp/page/detail-50795.html>
<http://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/263717.pdf>

岡山県水産試験場 1904 (Mar.). *岡山県水産試験場事業報告 明治三十五年*. 岡山県水産試験場, 岡山.

沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.). *改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 (動物編) —レッドデータおきなわ—*. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇. https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/documents/12_kairui.pdf

福田 宏. 本書で採用した貝類の分類体系 (pp. 669–673).

福田 宏・久保弘文. ウミヒメカノコ (484–485), ゴマツボモドキ (43, 493–494).

早瀬善正. ヒメカサキビ (605–606).

平野尚浩・久保弘文. マルタニシ (36, 427–428).

久保弘文. キルン (36, 425–426), ムチカワニナ (タケノコカワニナ) (430–431), コオキナガイ (477), タイワンシラオガイ (481–482), トウドウマリハマグリ (42, 482).

久保弘文・福田 宏. ヒナキンチャク (476).

齊藤 匠. カワコザラ (39, 447).

齊藤 匠・福田 宏. ヒメヒラマキミズマイマイ (52, 655–656).

上島 励. オオカサネシタラ (41, 461), ヨナグニシロベッコウ (新称) (47, 526–527).

上島 励・久保弘文. ウラウズタカキビ (新称) (46, 523–524).

大古場正・柏尾 翔 2015 (29 May). 大阪府から産出したオウギウロコガイ. *ちりぼたん*, **45**: 154–156.

大越健嗣 2004 (28 Jul.). 輸入アサリに混入して移入する生物—食害生物サキグロタマツメタと非意図的移入種. *日本ベントス学会誌*, **59**: 74–82.

大越健嗣・大越和加 (編) 2011 (15 Feb.). *海のブラックバス サキグロタマツメタ. 外来生物の生物学と水産学*. 恒星社厚生閣, 東京.

奥村 清・末永葉子・木下鐵雄・川名ひろみ・林 義人・田口公則 2009 (Mar.). 上部更新統横須賀層の貝化石標本. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (37): 11–19.

奥谷喬司 1986 (1 Jul.). *決定版 生物大図鑑 貝類*. 世界文化社, 東京.

藤岡義三. アクキガイ科 (pp. 122–137).

奥谷喬司. ウミナナ科, モツボ科 (80–81); アミメケンカニモリガイ科, ミジンウキツボ科, オノツノガイ科 (82–85); クチキレウキガイ科, ゴウクラゲ科, ハダカソウクラゲ科, ベッコウタマガイ科, タマガイ科 (96–101); タモトガイ科 (フトコロガイ科) (140–143); イトマキボラ科 (160–163).

松隈明彦. シコロエガイ科, スノメアカガイ科, タマキガイ科, シラスナガイ科 (282–283); イガイ科 (284–287).

湊 宏. ヤマトニシ科, アズキガイ科, ムシオイガイ科 (66–67).

竹之内孝一. ウミコハクガイ科, ヒメカタベガイ科 (40–41); ニシキウズガイ科 (42–53).

竹之内孝一・中村 宏. アマオブネガイ科 (60–63).

奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.). *日本近海産貝類図鑑*. 東海大学出版会, 東京.

長谷川和範. ワタゾコシタダミ科 (82–87, including pls 41–43); タマキビ科. In 奥谷喬司 (136–143, including pls 68–71); カワグチツボ科 (162–165, including pls 81–82); イソコハクガイ科 (172–179, including pls 86–89); クリイロケンカニモリ科 (298–301, including pls 148–149); コロモガイ科 (580–585, including pls 289–291).

速水 格. イタヤガイ科 (896–911, including pls 446–453).

堀 成夫. トウガタガイ科 (702–731, including pls 350–364).

黒住耐二. イガイ科 (862–877, including pls 429–436).

軟体動物

松隈明彦. フタバシラガイ科 (934-937, including pl. 465), ザルガイ科 (948-957, including pls 472-476), マルスダレガイ科 (1002-1019, including pls 499-507).
松隈明彦・奥谷喬司. フネガイ科 (844-855, including pls 420-425).
奥谷喬司. トウカムリ科 (272-279, including pls 135-138); クチベニガイ科 (1022-1023, including pl. 509).
奥谷喬司・土屋光太郎. イトマキボラ科 (504-517, including pls 251-257).
齋藤 寛. タマガイ科 (250-267, including pls 125-132).
土田英治. マクラガイ科 (522-531, including pls 260-264), タケノコガイ科 (668-685, including pls 333-341).
土屋光太郎. アッキガイ科 (364-421, including pls 181-209), フトコロガイ科 (424-437, including pls 211-217), ムシロガイ科 (438-451, including pls 218-224).

Okutani, T. 2005 (Mar.). Insular shelf, slope, and bathyal bivalve and scaphopod fauna around the Nansei Islands, southwestern Japan. *National Science Museum Monographs*, (29): 115-135.

奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.) *日本近海産貝類図鑑【第二版】*. 東海大学出版部, 平塚.

芳賀拓真. ニオガイ科 (607-608 (pls 563-564), 1270-1271).

濱谷 巖. キヌハダウミウシ科 (417-418 (pls 373-374), 1077-1078); オオミノウミウシ科 (425-427 (pls 381-383), 1084-1085).

長谷川和範. ツキヨシタダミ科 (79 (pl. 35), 764-765); クチキレエビス科 (84-86 (pls 40-42), 770-772); オニツノガイ科 (100-105 (pls 56-61), 788-793); ウミノナ科 (105 (pl. 61), 793-794); チャツボ科 (124 (pl. 80), 811); イソコハクガイ科 (135-138 (pls 91-94), 818-820); シロネズミガイ科 (138-140 (pls 94-96), 820-822); クリイロケシカニモリ科 (213-214 (pls 169-170), 879-880); ヌノメシヤジク科 (352-355 (pls 308-311), 1014-1017); コロモガイ科 (386-389 (pls 342-345), 1052-1055).

長谷川和範・福田 宏. ワカウラツボ科 (124-126 (pls 80-82), 811-812); ミズゴマツボ科 (133 (pl. 89), 817).

長谷川和範・奥谷喬司. フデシヤジク科 (362-367 (pls 318-323), 1024-1030).

長谷川和範・奥谷喬司・土田英治. マンジガイ科 (356-361 (pls 312-317), 1018-1023).

速水 格. イタバガキ科 (527-528 (pls 483-484), 1182-1185); ミノガイ科 (531-534 (pls 487-490), 1187-1190); イタヤガイ科 (534-541 (pls 490-497), 1190-1197).

堀 成夫. クダタマガイ科 (428-429 (pls 384-385), 1085-1087); トウガタガイ科 (452-466 (pls 408-422), 1105-1123); イソチドリ科 (467 (pl. 423), 1123-1124).

久保弘文・福田 宏・松隈明彦. プンブクヤドリガイ科 (567-569 (pls 523-525), 1227-1229).

黒住耐二. イガイ科 (516-523 (pls 472-479), 1172-1179).

松隈明彦. シコロエガイ科 (513 (pl. 469), 1169), サンカクサルボウ科 (513 (pl. 469), 1169), タマキガイ科 (513-515 (pls 469-471), 1169-1171), シラスナガイ科 (515 (pl. 471), 1171-1172), ツキガイ科 (559-561 (pls 515-517), 1217-1219), フタバシラガイ科 (562-563 (pls 518-519), 1221-1222), ザルガイ科 (575-579 (pls 531-535), 1235-1240), マルスダレガイ科 (581-589 (pls 537-545), 1241-1250), ハナグモリ科 (590 (pl. 546), 1251), ニッコウガイ科 (591-597 (pls 547-553), 1251-1258), シオサザナミ科 (598-600 (pls 554-556), 1260-1263), キヌタアゲマキ科 (600 (pl. 556), 1263), ユキノアシタ科 (601 (pl. 557), 1264), バカガイ科 (602-604 (pls 558-560), 1265-1267), チドリマスオ科 (604-605 (pls 560-561), 1267).

松隈明彦・奥谷喬司. フネガイ科 (509-512 (pls 465-468), 1165-1168).

奥谷喬司. トウカムリ科 (199-202 (pls 155-158), 868-871), エゾバイ科 (250-272 (pls 206-228), 917-939), テングニシ科 (カンムリボラ科) (274 (pl. 230), 940), キヌタレガイ科 (503-504 (pls 459-460), 1159), サザナミガイ科 (550 (pl. 506), 1207-1208), クチベニガイ科 (605-606 (pls 561-562), 1268-1269).

奥谷喬司・長谷川和範・土田英治. クダマキガイ科 (374-377 (pls 330-333), 1038-1041).

齋藤 寛. タマガイ科 (189-197 (pls 145-153), 858-866).

佐々木猛智. ユキノカサガイ科 (57-60 (pls 13-16), 740-743), ニシキウズ科 (63-70 (pls 19-26), 747-754).

土田英治. ホタルガイ科 (332-333 (pls 288-289), 995-997).

土田英治・長谷川和範. イトカケガイ科 (223-234 (pls 179-190), 889-901).

土田英治・久保弘文. タケノコガイ科 (378-384 (pls 334-340), 1042-1050).

土屋光太郎. アマオブネガイ科 (94-97 (pls 50-53), 781-785), ユキスズメガイ科 (98 (pl. 54), 785-786), アッキガイ科 (282-310 (pls 238-266), 946-972), ミノムシガイ科 (322-329 (pls 278-285), 983-993).

奥谷喬司・波部忠重 1975a. *学研中高生図鑑7 貝I 巻貝*. 学習研究社, 東京.

奥谷喬司・波部忠重 1975b (27 Jun.). *学研中高生図鑑8 貝II 二枚貝 陸貝 イカ タコ ほか*. 学習研究社, 東京.

奥谷喬司・長谷川和範・土田英治 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

Okutani, T. & Saito, H. 2011 (15 Apr.). A glimpse of shelf bivalve fauna of the Ogasawara Islands based on dredged samples by the R/Vs *Koyo* and *Tansei Maru* in the years 2008 through 2010. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, **47**: 83-96.

奥谷喬司・田川 勝・堀川博史 1989 (Mar.). *日本陸棚周辺の貝類: 大陸棚斜面未利用資源精密調査 二枚貝編*. 日本水産資源保護協会, 東京.

奥谷喬司・土屋光太郎 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).

Oliver, P.G. 1981. The functional morphology and evolution of Recent Limopsidae (Bivalvia, Arcoidea). *Malacologia*, **21**: 61-93.

Oliver, P.G. 1987 (May). *Estellacar* Iredale, *Rectangularca* Eames and the systematic position of *Barbatia pectunculiformis* Dunker (Bivalvia, Arcoidea, Noetiidae). *Journal of Conchology*, **32**: 279-288.

Oliver, P.G. 1992. *Bivalved seashells of the Red Sea*. Christa Hemmen, Wiesbaden.

Oliver, P.G. & Zuschin, M. 2001 (Jan.). Minute Veneridae and Kelliellidae from the Red and Arabian Seas with a redescription of *Kellia miliacea* Issel, 1869. *Journal of Conchology*, **37**: 213-230.

Oliverio, M. 2008 (2 Dec.). Coralliophilinae (Neogastropoda: Muricidae) from the southwest Pacific. In Héros, V., Cowie, R.H. & Bouchet, P. (Eds), *Tropical deep-sea benthos volume 25. Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle*, **196**: 481-585.

大牟田市環境部環境保全課 (編) 2006 (Mar.). *大牟田市生活排水対策推進計画 ~「自然豊かで、きれいな川」をめざして~*. 大牟田市, 大牟田.
https://www.city.omuta.lg.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=866&sub_id=1&flid=2&dan_id=1

恩田大学・延原尊美・柴 正博・山下 真 2008. 静岡県牧ノ原台地の更新統古谷層の貝化石群集と堆積環境. *東海大学博物館研究報告 海・人・自然*, **9**: 19-44.

大阪府 2014 (Mar.). *大阪府レッドリスト2014*. 大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課, 大阪.
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/zentai.pdf>

大隅 大・赤益輝文 2000 (25 Jul.). ハゼ科魚類の鱗に見つかる裸鰓類スミゾメキヌハダウミウシの摂餌行動と初期発生. *日本ベントス学会誌*, **55**: 9-14.

大谷ジャーメンウィリアム・石田未基・上島 勲・中原ゆうじ・金尾滋史 2016 (15 Jan.). カタママイマイを滋賀県米原市と甲良町にて確認. *ちりぼたん*, **45**: 242-246.

大谷道夫・宮本奈保・花岡皆子・山西良平 2004 (31 Mar.). 大阪湾における人工護岸の潮下帯付着生物相について (予報). *自然史研究*, **3**(3): 37-47.

- 大谷洋子・大原健司・高田良二 2005 (Mar.). 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録 (2) 二枚貝綱. *西宮市貝類館収蔵標本目録*, (1): ii-v, 1-48, pls 1-3.
- Otuka, Y. 1930 (20 Jan.). A new variety of fossil *Umbonium*. *Journal of the Geological Society of Tokyo*, **37**(436): 25-26.
- Otuka, T. 1936. Pliocene Mollusca from Manganzi in Kotomo-mura, Akita Pref., Japan. *Journal of the Geological Society of Japan*, **43**: 726-736, pls 41-42.
- 大塚彌之助 1937a (30 Jul.). 臺灣南部の貝類 (3). *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **7**: 128-143.
- 大塚彌之助 1937b. 關東地方南部の地質構造 [横濱—藤澤間]. *東京帝國大學地質研究所彙報*, **15**: 974-1040, pls 67-70, with unpaginated English summary.
- Owada, M. 2006 (21 Jul.; print Feb. 2007). Functional morphology and phylogeny of the rock-boring bivalves *Leiosolenus* and *Lithophaga* (Bivalvia: Mytilidae): a third functional clade. *Marine Biology*, **150**: 853-860.
- Owada, M. 2008 (31 Aug.). The first record of *Leiosolenus simplex* (Iredale, 1939) (Bivalvia: Mytilidae) boring into *Plesiastraea versipora* from Minamata Bay in Japan. *Venus*, **67**: 81-84.
- 大和田正人 2008 (30 Jun.). 神奈川県真鶴に生息するクロフジツボの死殻に穿孔するイシマテガイ *Leiosolenus curtus* (Bivalvia: Mytilidae) の殻形態. *Science Journal of Kanagawa University*, **19**: 71-74.
- 大八木昭 2010. カワネジガイ, ミズコハクガイ. In 青森県レッドデータブック改訂検討会・青森県環境生活部自然保護課 (編), *青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック (2010年改訂版)*—, 312. 青森県, 青森. <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2010-0326-1216.pdf>
- 大山 桂 1943a (Apr.). 駿河灣産軟体動物目録. *資源科学研究所彙報*, (2): 3-47.
- 大山 桂 1943b (20 Nov.). ミノガヒ科 其1. 新生代及現生. 東亞産現生化石貝類の研究, 第1輯 第1篇. *資源科学研究所地質礦物学部業績第18號*. 椋谷書院, 東京.
- 大山 桂 1950. 變更された化石貝類の學名について (其1. 斧足類). *鉱物と地質*, **3**(6): 1-4.
- 大山 桂 1961a (15 Aug.). 邦産貝類名の再検討 (4). *貝類学雑誌ヴェキナス*, **21**: 288-292.
- Oyama, K. 1961b (25 Dec.). *Brevimyrella* / *Myurella*. In Oyama, K. & Takemura, Y. (Eds), *The molluscan shells*, Part 5. Resources Exploitation Institute, Tokyo.
- 大山 桂 1961c (31 Dec.). 邦産タケノコガイ科の分布について. *貝類学雑誌ヴェキナス*, **21**: 442-462.
- Oyama, K. 1963 (31 Aug.). *Trigonaphera* (1)-(2)/*Trigonostoma*/*Nipponaphera*. In Oyama, K. & Takemura, Y. (Eds), *The molluscan shells*, Part 6. Resources Exploitation Institute, Tokyo.
- 大山 桂 1966 (30 Jun.). 本邦産現生クダボラ科 (1). *貝類学雑誌*, **25**: 1-20.
- 大山 桂 1969 (10 Jul.). ツヤガラスについて. *ちりぼたん*, **5**: 153-154.
- Oyama, K. 1973 (30 Nov.). Revision of Matajiro Yokoyama's type Mollusca from the Tertiary and Quaternary of the Kanto Area. *Palaeontological Society of Japan Special Papers*, (17): 1-148, pls 1-57.
- 大山 桂 1990 (31 Aug.). 貝類名称変更 2~3 について. *貝類学雑誌*, **49**: 164.
- Oyama, K., Nishimoto, H. & Okumura, Y. 1993 (25 Dec.). Systematic review of some Cenozoic Naticidae of southwest Japan. *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum*, (20): 109-132, pls 25-26.
- Oyama, K. & Sakurai, K. 1959 (24 Sept.). *Modiolus* (1)-(3) / *Limnoperna* / *Hormomya*. In Oyama, K. & Takemura, Y. (Eds), *The molluscan shells*, Part 3. Science & Photography Club, Tokyo.
- Ozawa, T., Köhler, F., Reid, D.G. & Glaubrecht, M. 2009 (11 Aug.). Tethyan relicts on continental coastlines of the northwestern Pacific Ocean and Australasia: molecular phylogeny and fossil record of batillariid gastropods (Caenogastropoda, Cerithioidea). *Zoologica Scripta*, **38**: 503-525.
- Pace, G.L. 1973. The freshwater snails of Taiwan (Formosa). *Malacological Review*, **Supplement 1**: 1-118.
- Pallary, P. 1920. *Exploration scientifique du Maroc organisée par la Société de Géographie de Paris et continuée par la Société des Sciences Naturelles du Maroc. Deuxième fascicule. Malacologie (1912)*. Larose, Rabat et Paris.
- Pease, W.H. between Aug. 1860 and Mar. 1861. Descriptions of forty-seven new species of shells from the Sandwich Islands, in the collection of Hugh Cuming. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 28 (for 1860): 431-438.
- Pelsener, P. 1911. *Les Lamellibranches de l'Expédition du Siboga. Partie Anatomique. Siboga-Expeditie, 53a*. E.J. Brill, Leiden.
- Perry, G. 1811. *Conchology, or the natural history of shells: containing a new arrangement of the genera and species, illustrated by coloured engravings executed from the natural specimens, and including the latest discoveries*. W. Miller, London.
- Petit, R.E. 1974 (20 Nov.). Note on Japanese Cancellariidae. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **33**: 109-115.
- Petit, R.E. 2008 (1 Jul.). ICZN Article 9.1 – Why? *Conchologia Ingrata*, (1), 1-4.
- Pfeiffer, L. 1851. Beschreibung neuer Landschnecken. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **6**: 10-16.
- [Pfeiffer, L.] 1852-1860. Die Schnirkelschnecken nebst den zunächst verwandten Gattungen. Dritter Theil. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Ersten (1) Bandes, Zwölfte (12) Abtheilung, Dritter (3) Theil*, 291-524, pls 125-161. Bauer & Raspe, Nürnberg (pls 125-144 in 1852, pp. 291-362 and pls 145-156 in 1853, pp. 363-514 and pls 137, 138, 157-161 in 1854, pp. 515-524 in 1860, according to Coan & Kabat, 2015: 10).
- Pfeiffer, L. 1854 (Dec.). Drei neue Auriculaceen. *Malakozoologische Blätter*, **2** (for 1855): 7-8.

軟体動物

- Pfeiffer, L. 1854–1860. *Novitates conchologicae, Series prima. Mollusca extramarina. Beschreibung und Abbildung neuer oder kritischer Land- und Süßwasser-Mollusken*. Ernst Bandes (pp. 1–24 in 1854; 25–48 in 1855; 49–90 in 1856; 91–98 in 1857; 99–108 in 1858; 109–120 in 1859; 121–138 in 1860). T. Fischer, Cassel.
- Pfenninger, M., Cordellier, M. & Streit, B. 2006 (23 Nov.). Comparing the efficacy of morphologic and DNA-based taxonomy in the freshwater gastropod genus *Radix* (Basommatophora, Pulmonata). *BMC Evolutionary Biology*, **6**: 100.
- Pfenninger, M., Hrabáková, M., Steinke, D. & Dépraz, A. 2005 (4 Nov.). Why do snails have hairs? A Bayesian inference of character evolution. *BMC Evolutionary Biology*, **5**: 59.
- Philippi, R.A. 1836. Beschreibung einiger neuen Conchylien - Arten und Bemerkungen über die Gattung *Lacuna* von Turton. *Archiv für Naturgeschichte*, **2**: 224–235, pls 7–8.
- Philippi, R.A. 1842–1850. *Abbildungen und Beschreibungen neuer oder wenig gekannter Conchylien unter Mithilfe mehrerer deutscher Conchyliologen*. Band 1: 1–20 (Aug. 1842), 21–46 (Mar. 1843), 76–102 (Jan. 1844), 103–129 (Jan. 1844), 130–150 (Jul. 1844), 151–178 (Nov. 1844), 179–204 (Jan. 1845); Band 2: 1–32 (Sept. 1845), 33–63 (Oct. 1845), 65–87 (Feb. 1846), 89–121 (Aug. 1846), 123–152 (Oct. 1846), 153–182 (Feb. 1847), 183–212 (Mar. 1847), 213–231 (Apr. 1847); Band 3: 1–29 (Sept. 1847), 31–50 (Nov. 1847), 51–81 (Feb. 1848), 1–28 (Jan. 1849), 29–61 (Apr. 1849), 63–88 (Oct. 1849), 89–114 (Apr. 1850), 115–138 (Nov. 1850). Theodor Fischer, Cassel.
- Philippi, R.A. 1844. Descriptiones testaceorum quorundam novorum, maxime chinensium. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **1**: 161–167.
- Philippi, R.A. 1846 (Jul.). Diagnoses testaceorum quorundam novorum. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **3**: 97–106.
- Philippi, R.A. 1846–1855. Die Kreiselschnecken oder Trochoideen (Gattungen *Turbo*, *Trochus*, *Solarium*, *Rotella*, *Delphinula*, *Phasianella*.) in Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Zweiten (2) Bandes, Dritte (3) Abtheilung*, 1–372, pls 1–49. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–24 and pls 1–6 in 1846, pp. 25–32 and pls 7–18 in 1847, pp. 33–72 and pls 19–24 in 1848, pp. 73–120 and pls 25–32, 34–39 in 1849, pp. 121–136 and pls 40–45 in 1850, pp. 137–232 and pls 33, 46–49 in 1851, pp. 232–248 in 1852, pp. 249–372 in 1855, according to Coan & Kabat, 2015: 27).
- Philippi, A.R. [sic; R.A.] 1847. Testaceorum novorum centuria (Continuatio). *Zeitschrift für Malakozoologie*, **4**: 84–96.
- Philippi, R.A. 1848. Testaceorum novorum centuria (Continuatio). *Zeitschrift für Malakozoologie*, **5**: 17–27.
- Philippi, R.A. 1849a (Jan.). Beschreibung einiger neuen Conchylien. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **5** (for 1848): 97–98.
- Philippi, R.A. 1849b (Jul.). Centuria tertia testaceorum novorum (Contin.). *Zeitschrift für Malakozoologie*, **6**: 33–35.
- Philippi, R.A. 1849–1853. Die Gattungen *Natica* und *Amaura*, in Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Zweiten (2) Bandes, Erste (1) Abtheilung*, 1–164, pls A, 1–19. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg. (pp. 1–18 and pls 1–6 in 1849, pp. 19–26 and pls 7–12 in 1850, pls A, 13–18 in 1851, pp. 27–120 and pl. 19 in 1852, pp. 121–164 in 1853, according to Coan & Kabat, 2015: 26).
- Philippi, R.A. 1850 (Mar.). Diagnosen mehrerer neuer *Trochus*-Arten. *Zeitschrift für Malakozoologie*, **6** (for 1849): 168–172.
- Philippi, R.A. 1851. Centuria quinta testaceorum novorum (Contin.). *Zeitschrift für Malakozoologie*, **8**: 29–80 (Jul.), 81–96 (Aug.), 123–126 (no date).
- Philippi, R.A. 1852 (pls 1–3, 5)–1853 (pp. 1–57 and pls 4, 6–8). Die Gattungen *Delphinula*, *Scissurella* und *Globulus*. In Abbildungen nach der Natur mit Beschreibungen. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Zweiten (2) Bandes, Vierte (4) Abtheilung*, 1–57, pls 1–8. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg.
- Pigneur, L.M., Etoundi, E., Aldridge, D.C., Marescaux, J., Yasuda, N. & Van Doninck, K. 2014 (10 Sept.). Genetic uniformity and long-distance clonal dispersal in the invasive androgenetic *Corbicula* clams. *Molecular Ecology*, **23**: 5102–5116.
- Pilsbry, H.A. 1888–1889 (161–208, iii and pls 40–45 on 1 Oct. 1888; 209–323 and pls 39a, 46–69 on 3 Jan. 1889). Monographs of the Turbinidae and Trochidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, **10**: 161–323, pls 40–69.
- Pilsbry, H.A. 1889–1890 (1–64 and pls 1–14 on 17 Apr. 1889; 65–128 and pls 15–32 on 5 Jul. 1889; 129–208 and pls 33–50 on 30 Sept. 1889; 209–519 and pls 51–67 on 7 May 1890). Trochidae, Stomatidae, Pleurotomariidae, Haliotidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, **11**: 1–519, pls 1–67.
- Pilsbry, H.A. 1890–1891 (1–64 and pls 1–15 on 27 May 1890; 65–128 and pls 16–30 on 12 Aug. 1890; 129–192 and pls 31–45 on 16 Dec. 1890; 193–323 and pls 46–65 on 1 May 1891). Stomatellidae, Scissurellidae, Pleurotomariidae, Haliotidae, Scutellidae, Addisoniidae, Cocculinidae, Fissurellidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, **12**: 1–323, pls 1–65.
- Pilsbry, H.A. 1894a (May). Notices of new Japanese mollusks, II. *The Nautilus*, **8**: 9–10.
- Pilsbry, H.A. 1894b (Jun.). Notices of new Japanese mollusks, III. *The Nautilus*, **8**: 16.
- Pilsbry, H.A. 1894–1895 (133–180 and pls 18–42 on 27 July 1894; 181–436 and pls 43–50, 59–61 on 2 Feb. 1895). Order Opisthobranchiata. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, **15**: 134–436, pls 18–61.
- Pilsbry, H.A. 1895. *Catalogue of the marine mollusks of Japan, with descriptions of new species and notes on others collected by Frederick Stearns*. Frederick Stearns, Detroit.
- Pilsbry, H.A. 1896 (25 Feb.). Descriptions of new species of mollusks. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **48**: 21–24.
- Pilsbry, H.A. 1897 (23 Nov.). New Australian mollusks. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **49**: 360–364, pl. 9.
- Pilsbry, H.A. 1900a (May). Notices of some new Japanese mollusks. *The Nautilus*, **14**: 11–12.
- Pilsbry, H.A. 1900b (mailed on 12 Feb., presented on 13 Feb.). Additions to the Japanese land snail fauna. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **51**: 525–530, pl. 21.
- Pilsbry, H.A. 1900c (Jul.). Notices of some new Japanese mollusks. *The Nautilus*, **14**: 32–33.
- Pilsbry, H.A. 1900d (mailed on 9 Aug.; presented on 14 Aug.). Notices of new Japanese land snails. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **52**: 381–384.
- Pilsbry, H.A. 1900e (Nov.). New species of Japanese land Mollusca. *The Nautilus*, **14**: 79–82.

- Pilsbry, H.A. 1900–1901 (672–676: mailed on 29 Dec. 1900 and presented on 1 Jan. 1901; 677–683: mailed on 28 Jan. and presented on 29 Jan.). Additions to the Japanese land snail fauna. III. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **52** (for 1900): 672–683, pls 24–25.
- Pilsbry, H.A. 1901a (Jan.). Notices of some new Japanese land snails. *The Nautilus*, **14**: 107–108.
- Pilsbry, H.A. 1901b (Feb.). Notices of new Japanese land snails. *The Nautilus*, **14**: 115–117.
- Pilsbry, H.A. 1901c (193–208: mailed on 2 May; presented on 7 May; 209–210: mailed on 7 May; presented on 7 May). New Mollusca from Japan, the Loo Choo Islands, Formosa and the Philippines. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 193–210.
- Pilsbry, H.A. 1901e (May). New land shells from the Loo Choo Islands and Japan. *The Nautilus*, **15**: 18–24.
- Pilsbry, H.A. 1901f (mailed on 16 Aug.; presented on 20 Aug.). New Japanese marine, land and fresh-water Mollusca. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 385–408, pls 19–21.
- Pilsbry, H.A. 1901g (385–400: mailed on 16 Aug., presented on 20 Aug.; 401–408: mailed on 22 Aug., presented on 27 Aug.). New Japanese marine, land and fresh-water Mollusca. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 385–408, pls 19–21.
- Pilsbry, H.A. 1901h (Oct.). Land mollusks of the northeastern group of the Loo Choo islands. *The Nautilus*, **15**: 61–65.
- Pilsbry, H.A. 1901i (496: mailed on 16 Sept., presented on 24 Sept.; 497–502: mailed and presented on 29 Oct.). Notices of new land snails from the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 496–502.
- Pilsbry, H.A. 1902a (mailed on 23 Jan.; presented on 28 Jan.). New land mollusks of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 562–567.
- Pilsbry, H.A. 1902b (May). Notices of new land shells of the Japanese Empire. *The Nautilus*, **16**: 4–7.
- Pilsbry, H.A. 1902c (mailed and presented on 3 Jun.). Revision of Japanese Viviparidae, with notes on *Melania* and *Bithynia*. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **54**: 115–121, pl. 9.
- Pilsbry, H.A. 1902d (mailed on 23 Aug.; presented on 16 Sept.). Additions to the Japanese land snail fauna. —VI. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **54**: 360–382, pls 17–21.
- Pilsbry, H.A. 1902e (mailed on 20 Oct.; presented on 21 Oct.). Additions to the Japanese land snail fauna. —VII. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **54**: 517–533, pls 27–28.
- Pilsbry, H. A. 1902f (mailed on 23 Jan.; presented on 28 Jan.). New land mollusks of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 545–549.
- Pilsbry, H.A. 1902g (mailed on 23 Jan.; presented on 28 Jan.). New land mollusks of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 562–567.
- Pilsbry, H.A. 1903 (Oct.). New Japanese marine mollusks. *The Nautilus*, **17**: 69–71.
- Pilsbry, H.A. 1904a (3–32 on 10 Feb.; 33–37 on 18 Feb.). New Japanese marine Mollusca: Gastropoda. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **56**: 3–37, pls 1–6.
- Pilsbry, H.A. 1904b (550–560 on 11 Aug.; 561 on 20 Aug.). New Japanese marine Mollusca: Pelecypoda. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **56**: 550–561, pls 39–41.
- Pilsbry, H.A. 1905a (101–112 on 8 Apr.; 113–122 on 4 May). New Japanese marine Mollusca. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **57**: 101–122, pls 2–5.
- Pilsbry, H.A. 1905b (809–824 on 31 Jan.; 825–838 on 1 Feb.). New Clausiliidae of the Japanese Empire. —X. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **56** (for 1904): 809–838, pls 52–57.
- Pilsbry, H.A. 1907 (30 Dec.). On Japanese species of *Corbicula*. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, **6**: 153–160, pl. 7.
- Pilsbry, H.A. 1911 (Jul.). New Japanese Naticidae and Scalariidae. *The Nautilus*, **25**: 32–34.
- Pilsbry, H.A. 1917 (207–218 on 8 Aug.; 219–230 on 20 Aug.). Marine mollusks of Hawaii, I–III. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **69**: 207–230, pls 14–15.
- Pilsbry, H.A. 1918 (1 Feb.). Marine mollusks of Hawaii, IV–VII. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **69**: 309–333, pls 20–22.
- Pilsbry, H.A. 1928 (13 Jul.). Review of Japanese land mollusks — II. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **80**: 119–145, pls 14–20.
- Pilsbry, H.A. & Gulick, A. 1900 (Dec.). Descriptions of new Japanese land snails. *The Nautilus*, **14**: 88–91.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1903a (Feb.). New land shells of the Japanese Empire. *The Nautilus*, **16**: 114–117.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1903b (Mar.). New land shells of the Japanese Empire. *The Nautilus*, **16**: 128–130.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1903c (Apr.). Descriptions of new Japanese land shells. *The Nautilus*, **16**: 134–136.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1903d (Jul.). Descriptions of new Japanese land shells. *The Nautilus*, **17**: 31–32.
- Pilsbry, H. A. & Hirase, Y. 1903e (Sept.). Notices of new land shells of the Japanese Empire. *The Nautilus*, **17**: 52–55.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1904a (Jan.). Descriptions of new Japanese land shells. *The Nautilus*, **17**: 104–107.

軟体動物

- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1904b (May). Descriptions of new Japanese land shells. *The Nautilus*, **18**: 3–9.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1904c (Jul.). Descriptions of new Japanese land snails. *The Nautilus*, **18**: 32–34.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1904d (616–632: 19 Oct.; 633–638: 2 Nov.). Descriptions of new land snails of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **56**: 616–638.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1905 (8 Dec.). New land mollusks of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **57**: 705–719.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1908a (31–32 on 21 Apr.; 33–36 on 9 Jun.). New land and fresh-water Mollusca of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **60**: 31–36.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1908b (Aug.–Sept.). Land shells of the Oki Islands, Japan. *The Nautilus*, **22**: 41–45.
- Pilsbry, H.A. & Hirase, Y. 1909 (586–588 on 2 Feb.; 589–599 on 3 Mar.). New land Mollusca of the Japanese Empire. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **60**: 586–599.
- Ping, C. & Yen, T.-C. 1932. On five new species of non-marine gastropods of North China. *Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology*, **3**: 25–36.
- Ponder, W.F. 1983 (30 Dec.). Review of the genera of the Barleeidae [sic] (Mollusca: Gastropoda: Rissoacea). *Records of the Australian Museum*, **35**: 231–281.
- Ponder, W.F. 1984 (29 Mar.). A review of the genera of the Iravadiidae (Gastropoda: Rissoacea) with an assessment of the relationships of the family. *Malacologia*, **25**: 21–71.
- Ponder, W.F. 1987. The anatomy and relationships of the pyramidellacean limpet, *Amathina tricarinata* (Mollusca: Gastropoda). *Asian Marine Biology*, **4**: 1–34.
- Ponder, W.F. 1994a. The anatomy and relationships of *Finella* and *Scaliola* (Caenogastropoda: Cerithioidea: Scaliolidae). In Morton, B. (Ed.), *The malacofauna of Hong Kong and southern China III. Proceedings of the Third International Workshop on the Malacofauna of Hong Kong and Southern China, Hong Kong 13 April – 1 May 1992*, 215–241. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Ponder, W.F. 1994b. The anatomy and relationships of three species of vitrinelliform gastropods (Caenogastropoda: Rissooidea) from Hong Kong. In Morton, B. (Ed.), *The malacofauna of Hong Kong and southern China III. Proceedings of the Third International Workshop on the Malacofauna of Hong Kong and Southern China, Hong Kong 13 April – 1 May 1992*, 243–281. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Ponder, W.F. 2003. Narrow range endemism in the sea and its implications for conservation. In Hutchings, P. & Lunney, D. (Eds), *Conserving marine environments. Out of sight out of mind*, 89–102. Royal Zoological Society of New South Wales, Mosman.
- Ponder, W.F., Hutchings, P. & Chapman, R. 2002 (Jul.). *Overview of the conservation of Australian marine invertebrates. A report for environment Australia*. Australian Museum, Sydney. http://malsocaus.org/marine_invert/
- Ponder, W.F. & Vokes, E.H. 1988 (29 Apr.). A revision of the Indo-West Pacific fossil and Recent species of *Murex* s.s. and *Haustellum* (Mollusca: Gastropoda: Muricidae). *Records of the Australian Museum, Supplement*, **8**: 1–160.
- Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017. *Philippine marine mollusks, Volumes I–V*. ConchBooks, Hackenheim.
- Volume I* (Gastropoda – Part 1; Mar. 2008):
- Bouchet, P. & Strong, E. 2008. Scaliolidae & Pachychilidae (300–301, including pl. 95).
- Brown, L. 2008. Epitoniidae (694–713, including pls 292–301).
- Kreipl, K. 2008. Cassidae (574–593, including pls 232–241).
- Lozouet, P. 2008. Batillariidae & Potamididae (286–287, including pl. 88).
- Poppe, G.T. 2008a. Siliquariidae (302–303, including pl. 96); Cerithiopsidae (734–735, including pl. 312).
- Poppe, G.T. & Tagaro, S.P. 2008. Stomatiidae (184–189, including pls 37–39).
- Poppe, G.T., Tagaro, S.P. & Strong, E. 2008. Cerithiidae (288–297, including pls 89–93).
- Volume II* (Gastropoda – Part 2; Nov. 2008):
- Houart, R. 2008. Muricidae (132–221, including pls 361–405).
- Poppe, G.T. 2008b. Olivellidae (502–503, including pl. 546).
- Volume III* (Gastropoda Part 3 & Bivalvia Part 1; May 2010):
- Kleemann, K. 2010. Mytilidae – Lithophaginae (500–505, including pls 941–943).
- Poppe, G.T. 2010. Amathinidae (98–99, including pl. 740); Nuculidae & Manzanellidae (464–465, including pl. 923); Mytilidae (506–515, including pls 944–948).
- Poppe, G.T. & Tagaro, S.P. 2010. Pyramidellidae (74–99, including pls 728–740).
- Raines, B. 2010. Pectinidae (594–647, including pls 988–1014).
- Volume IV* (Bivalvia Part 2, Scaphopoda, Polyplacophora, Cephalopoda & Addenda; Jan. 2011):
- Poppe, G.T. 2011. Gastrochaenidae (178–179, including pl. 1084); Veneridae (258–310, including pls 1124–1150); Semelidae (364–365, including pl. 1177); Mactridae (376–384, including pls 1183–1187); Mesodesmatidae (386–387, including pl. 1188); Corbulidae (386–391, including pls 1188–1190).
- Poppe, G.T. & Tagaro, S.P. 2011. Lucinidae (136–157, including pls 1063–1073); Addendum 33. Neritidae, Olivellidae & Ovulidae (610–611, including pl. 1296).
- Poppe, G.T. & Langleit, A. 2011. Tellinidae (314–341, including pls 1152–1165).
- Willan, R.C. & Tagaro, S.P. 2011. Psammobiidae (344–363, including pls 1167–1176).
- Volume V* (New records, completing the volumes I to IV; Oct. 2017):
- Cecalupo, A. & Perugia, I. 2017. Cerithiopsidae (104–151, including pls 1352–1375).
- Poppe, G.T. 2017. Corbulidae (222–223, including pl. 1411); Epitoniidae (254–267, including pls 1427–1433); Galeommatidae, Gastrochaenidae & Glaucommatidae (316–317, including pl. 1458); Iravadiidae, Liotiidae & Litiopidae (324–325, including pl. 1462).
- Poppe, G.T. & Tagaro, S.P. 2017. Lucinidae (328–331, including pls 1464–1465).
- Tagaro, S.P. 2017. Acteonidae & Amathinidae (36–37, including pl. 1318); Newtoniellidae (100–101, including pl. 1350).
- Powell, A.W.B. 1964 (31 Mar.). The family Turridae in the Indo-Pacific. Part 1. The subfamily Turrinae. *Indo-Pacific Mollusca*, **1**(5): 227–346.
- Powell, A.W.B. 1966 (1 Nov.). The molluscan families Speightiidae and Turridae. An evaluation of the valid taxa, both Recent and fossil, with lists of characteristic species. *Bulletin of the Auckland Institute and Museum*, (5): 1–184, pls 1–23.
- Prabhakara Rao, K. 1965 (23 Oct.). Record of the bivalve gastropod *Berthelinia limax* (Kawaguti and Baba 1959) from the Indian Ocean. *Nature*, **208**(5008): 404–405.
- Prashad, B. 1932. *Les Lamellibranches de l'Expédition du Siboga. Systematic Part, II Pelecypoda (Exclusive of the Pectinidae). Siboga-Expeditie, 53c*. E.J. Brill, Leiden.
- Preston, H.B. 1905 (7 Apr.). Descriptions of new species of marine shells from Ceylon. *Journal of Malacology*, **12**: 1–8, pls 1–2.

- Preston, H.B. 1908 (Jul.). Descriptions of new species of land, marine and freshwater shells from the Andaman Islands. *Records of the Indian Museum*, **2**: 187–210, pls 14–17.
- Preston, H.B. 1916. Descriptions of new freshwater shells from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Eighth Series, **17**: 159–163, pl. 9.
- Prime, T. 1864. Notes on species of the family Corbiculadae [sic], with figures. *Annals of the Lyceum of Natural History of New York*, **8**: 57–92.
- Raven, H. & Vermeulen, J.J. 2007 (23 Feb.). Notes on molluscs from NW Borneo and Singapore. 2. A synopsis of the Ellobiidae (Gastropoda, Pulmonata). *Vita Malacologica*, **4**: 29–62.
- Qi, Z. (Ed.) 2004. *Seashells of China*. China Ocean Press, Beijing.
- [Anonymous]. Thyasiridae, Fimbriidae, Ungulinidae. 257–258, pl. 142.
- Dong, Z. Trochidae, Turbinidae, Cyclostrematidae, Stomatiidae, Angariidae. 15–29, pls 007–012.
- Li, F. Arcoidea; Solenidae; Corbulidae; Laternulidae. 213–224, pls 113–117; 274–277, pls 151–152; 317–319, pls 172–173; 327–328, pl. 177.
- Li, X. Ostreidae. 253–255, pls 140–141.
- Li, X. & Ma, X. Neogastropoda [excluding Conidae and Terebridae]; Heterogastropoda. 81–113, pls 050–067; 130–134, pls 078–079.
- Lin, G. Opisthobranchia. 134–196, pls 080–107.
- Lü, D. Haliotidae, Fissurellidae, Patellidae, Acmaeidae. 9–15, pls 003–007.
- Ma, X. Mesogastropoda. 31–81, pls 014–050.
- Qi, Z. Veneridae, Glauconomidae; Lucinidae; Tridacnidae, Mactridae, Mesodesmatidae. 297–315, pls 162–171; 256–257, pl. 142; 267–274, pls 146–150.
- Wang, Z. Mytiloidea, Pterioidea [excluding Ostreidae]; Tellinacea [Tellinidae, Donacidae, Psammobiidae, Semelidae, Solecurtidae]. 224–253, pls 118–140; 277–296, pls 152–161.
- Xu, F. Myidae; Galeommatidae, Carditidae, Cardiidae; Gastrochaenidae; Pholadomyoidea [excluding Laternulidae]. 316–317, pl. 172; 260–267, pls 143–146; 319–320, pl. 174; 326–327, 328–332, pls 177–178.
- Quoy, J.R.C. & Gaimard, P. 1832–1835. Voyage de la corvette de l’Astrolabe, exécuté par ordre du Roi, pendant les années 1826–1827–1828–1829, sous le commandement de M. J. Dumont d’Urville. Zoologie, Tome 2, Mollusques (1: pp. 1–320 in 1832; 2: pp. 321–686 in 1833; Atlas: pls 1–93 in 1833); Tome 3, Animaux Mollusques (1: pp. 1–366 in 1834; 2: pp. 367–954, pls 1–6 in 1835). J. Tastu, Paris.
- Radwin, G.E. & D’Attilio, A. 1976. *Murex shells of the world. An illustrated guide to the Muricidae*. Stanford University Press, Stanford.
- Raines, B. 2010 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Ray, H.C. 1968. Small marine shells obtained off Puri, India (with eight new species and one new variety). *Indian Museum Bulletin*, **3**: 14–32.
- Récluz, M.C. 1851. Description de quelques coquilles nouvelles. *Journal de Conchyliologie*, **2**: 194–216, pls 5–6.
- Reeve, L. 1841–1842. *Conchologia systematica, or Complete system of conchology: in which the lepadæ and conchiferous Mollusca are described and classified according to their natural organization and habits*. Vols 1 (1841), 2 (1842). Longman, Brown, Green and Longmans, London.
- Reeve, L.A. 1843a (Jan.). Monograph of the genus *Crassatella*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **1**: pls 1–3 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L. 1843b (Feb.). Descriptions of new species of shells figured in the ‘*Conchologia Systematica*’. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 10 (for 1842): 197–200.
- Reeve, L.A. 1843c (pls 1–2, Feb.; pls 3–4, Mar.; pls 5–6, Apr.; pl. 7, Jun.; pl. 8, Aug.; pl. 9, Dec.). Monograph of the genus *Pectunculus*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **1**: pls 1–9 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1843d (pl. 1, Aug.; pl. 2, Sept.)–1844a (pl. 3, Jan.; pl. 4, Apr.; pl. 5, May). Monograph of the genus *Corbula*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **2**: pls 1–5 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1843e (pls 1–2, Dec.)–1844b (pls 3–4, Jan.; pls 5–8, Feb.; pls 9–12, Mar.; pls 13–14, Apr.; pls 15–16, May; pl. 17, Jun.). Monograph of the genus *Arca*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **2**: pls 1–17 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1843 (pls 1–2, Jan.; pls 3–6, Feb.; pls 7–8, Mar.; pls 9–10, Apr.; pls 11–12, May; pls 13–14, Jun.; pl. 15, Jul.; pl. 16, Aug.; pl. 17, Nov.; pl. 18, Dec.), 1844 (pl. 19, Jan.), 1845 (pls 20–25, Oct.; pls 26–27, Nov.; pls 28–33, Dec.), 1846 (pls 34–38, Jan.; pls 39–40, Apr.). Monograph of the genus *Pleurotoma*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **1**: pls 1–40 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1844a (Apr.). Monograph of the genus *Glauconome*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **2**: pl. 1 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1844b (pls 1–7, Aug.; pls 8–15, Sept.; pls 16–19, Oct.; pls 20–23, Nov.; pls 24–27, Dec.)–1845 (pls 28–29, Jan.; pl. 30 imprinted “Mar. 1844”, presumably Mar. 1845; pls 31–39, Mar.). Monograph of the genus *Mitra*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **2**: pls 1–39 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1845 (pls 2–4, Apr.; pls 5–12, May; pls 13–22, Jun.; pls 23–32, Aug.; pls 33–34, Oct.), 1846 (pls 35–36, Apr.), 1849 (pl. 1, Jun.). Monograph of the genus *Murex*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **3**: pls 1–36, supplement pl. and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1846 (pls 1–12, Dec.)–1847 (pls 13–14, Feb.). Monograph of the genus *Buccinum*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **3**: pls 1–14 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1847 (pls 1–2, May; pls 3–4, Jun.; pls 5–9, Jul.). Monograph of the genus *Pyrula*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **4**: pls 1–9 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1848 (pls 1–6, Aug.; pls 7–12, Sept.). Monograph of the genus *Cassia*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **5**: pls 1–12 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1849a (Jun.). Monograph of the genus *Eburna*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **5**: pl. 1 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1849b (pls 1–6, Aug.; pls 7–8, Dec.), 1850 (pls 9–12, Jun.; pls 13–16, Aug.). Monograph of the genus *Fissurella*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **6**: pls 1–16 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.

軟体動物

- Reeve, L.A. 1850a (pls 2–4, Feb.; pls 5–9, Mar.; pls 1, 10, Apr.). Monograph of the genus *Artemis*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **6**: pls 1–10 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1850b (pls 2–5, May; pls 6–9, Jun.; pls 1, 10–11, Aug.). Monograph of the genus *Lucina*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **6**: pls 1–11 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1850c (pls 2–10, Aug.; pls 11–18, Sept.; pls 19–26, Oct.; pls 1, 27–30, Nov.). Monograph of the genus *Oliva*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **6**: pls 1–30 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1853a (pls 1–4, Oct.; pls 5–7, Nov.). Monograph of the genus *Amphidesma*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **8**: pls 1–7 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1853b (pls 1–5, Nov.; pls 6–25, Dec.)–1854 (pls 26–29, Mar.). Monograph of the genus *Nassa*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **8**: pls 1–29 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1854a (pls 2–5, Mar.; pls 1, 6–14, Apr.; pls 15–21, May). Monograph of the genus *Mactra*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **8**: pls 1–21 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1854b (pls 1–4, Aug.)–1855a (pl. 5, May). Monograph of the genus *Lutraria*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **8**: pls 1–5 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1855b (pls 1–16, Apr.; pls 17–20, May; pls 21–30, Jun.). Monograph of the genus *Natica*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **9**: pls 1–30 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1856a (pls 2–14, Nov.; 1, 15–18, Dec.). Monograph of the genus *Cancellaria*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **10**: pls 1–18 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1856b (pls 2–5, Dec. [pl. 3 as “1865”])–1857 (pls 6–7, Jan.; pls 1, 8, Jun.). Monograph of the genus *Psammobia*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **10**: pls 1–8 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1857a (Jan.). Monograph of the genus *Soletellina*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **10**: pls 1–4 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1857b (pls 2–4, Aug.; pls 5–8, Oct.; pl. 9, Dec.)–1858 (pls 1, 10–11, Jan.). Monograph of the genus *Modiola*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **10**: pls 1–11 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1859 (pls 2–9, Nov.; pls 10–17, Dec.)–1860 (pls 18–25, 28, Jan.; pls 26–27, 29–30, Feb.; pls 31–33, May; pls 34–45, Sept.; pls 46–47, Nov.; pls 48–49, Dec.), 1861 (pls 50–51, Mar.; pls 52–53, Apr.; pls 54–59, May; pl. 1, Jun.). Monograph of the genus *Melania*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **12**: pls 1–59 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. “1860” [possibly in error of 1862] (pl. 2, Dec.), 1863 (pls 1, 3–4, Feb.). Monograph of the genus *Anatina*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **14**: pls 1–4 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1862–1863 (pls 2–4, Jun. 1862; pls 5–8, Feb. 1863; pls 1, 9–11, Apr. 1863). Monograph of the genus *Paludina*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **14**: pls 1–11 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1863 (pls 2–11, Apr.; pls 12–23, Jun.)–1864 (pl. 1 in Feb.; pls 24–26 in Mar.). Monograph of the genus *Venus*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **14**: pls 1–26 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1864 (Mar.). Monograph of the genus *Meroë*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **14**: pls 1–3 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reeve, L.A. 1865 (Jun.). Monograph of the genus *Tornatella*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **15**: pls 1–4 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Reid, D.G. 1989 (28 Jul.). The comparative morphology, phylogeny and evolution of the gastropod family Littorinidae. *Philosophical Transactions of the Royal Society, Series B Biological Sciences*, **324**: 1–110.
- Reid, D.G. 2014 (12 Mar.). The genus *Cerithidea* Swainson, 1840 (Gastropoda: Potamididae) in the Indo-West Pacific region. *Zootaxa*, **3775**: 1–65.
- Reid, D.G. & Claremont, M. 2014 (13 Mar.). The genus *Cerithideopsis* Thiele, 1929 (Gastropoda: Potamididae) in the Indo-West Pacific region. *Zootaxa*, **3779**: 61–80.
- Reid, D.G., Claremont, M., Smith, L., Shamoto, M., Glaubrecht, M. & Ozawa, T. 2013 (Online: 16 Oct.; Printed: Nov.). Mosaics in the mangroves: allopatric diversification of tree-climbing mudwhelks (Gastropoda: Potamididae: *Cerithidea*) in the Indo-West Pacific. *Biological Journal of the Linnean Society*, **110**: 564–580.
- Reid, D.G., Dyal, P., Lozouet, P., Glaubrecht, M. & Williams, S.T. 2008 (Online: 13 Jan.; Printed: May). Mudwhelks and mangroves: the evolutionary history of an ecological association (Gastropoda: Potamididae). *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **47**: 680–699.
- Reid, D.G. & Ozawa, T. 2016 (5 Feb.). The genus *Pirenella* Gray, 1847 (= *Cerithideopsis* Thiele, 1929) (Gastropoda: Potamididae) in the Indo-West Pacific region and Mediterranean Sea. *Zootaxa*, **4076**: 1–91.
- Reinhardt, [O.] 1877a. Eine Anzahl japanischer Land- und Süßwassermollusken vor, die zumeist von Herrn Professor Dönitz in Jedo gesammelt waren, und charakterisirte folgende Arten als neu. *Sitzungsberichte der Gesellschaft Naturforschender Freunde zu Berlin*, for 1877: 67–71.
- Reinhardt, [O.] 1877b. Über japanische Hyalinen, unter Zugrundelegung der Sammlungen des Herrn Hilgendorf und anknüpfend an die Aufzählung der Arten dieser Gattung in dem Aufsatz von Arth. Adams: On the species of Helicidae found in Japan (Annals and Magaz. of Nat. Hist. 1868, p. 459 ff.). *Sitzungsberichte der Gesellschaft Naturforschender Freunde zu Berlin*, for 1877: 89–97.
- Reinhardt, O. 1877c. Diagnosen japanischer Landschnecken. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **4**: 320–325, pl. 11.
- Reinhardt, O. 1878. Über japanische *Corbicula*-Arten. *Jahrbücher der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **5**: 185–194, pl. 5.

- Robba, E., Di Geronimo, I., Chaimanee, N., Negri, M.P. & Sanfilippo, R. 2002 (10 Jul.). Holocene and Recent shallow soft-bottom mollusks from the northern Gulf of Thailand area: Bivalvia. *Bollettino Malacologico*, **38**: 49–132.
- Robba, E., Di Geronimo, I., Chaimanee, N., Pietro Negri, M. & Sanfilippo, R. 2007 (30 Oct.). Holocene and Recent shallow soft-bottom mollusks from the Western Gulf of Thailand: Pak Phanang Bay and additions to Phetchaburi fauna. *Bollettino Malacologico*, **42**(supplement 6): 1–98. [stated in error as “vol. 43” on page 1]
- Robertson, R. 1985 (12 Jul.). Archaeogastropod biology and the systematics of the genus *Tricolia* (Trochacea: Tricoliidae) in the Indo-West Pacific. *Monographs of Marine Mollusca*, (3): 1–103.
- Robson, G.C. 1915. Note on “*Katayama nosophora*”. In Leiper, R.T. & Atkinson, E.J., Observations on the spread of Asiatic schistosomiasis. *The British Medical Journal*, for 1915: 201–203, unpaginated plate.
- Rochebrune, A.-T. de 1882. Supplément aux documents sur la faune malacologique de la Cochinchine et du Cambodge. *Bulletin de la Société Philomathique de Paris*, Septième (7) Série, **6**: 99–118.
- Röding, P.F. 1798. *Museum Boltenianum sive catalogus cimeliorum e tribus regnis naturae quae olim collegerat Joa. Fried. Bolten. Pars secunda continens conchyliia sive testacea univalvia, bivalvia & multivalvia*. Typis Johan. Christi. Trappii, Hamburgi.
- Römer, E. 1841–1873. Die Familie der Tellmuscheln, Tellinidae. In Küster, H.C. (Ed.), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Zehnten (10) Bandes, Vierte (4) Abtheilung*, 1–291, pls 1–52. Bauer und Raspe, Nürnberg. (pls 1–3 in 1869?; pp. 1–32 and pls 4–6, 8, 10, 16 in 1870, pp. 33–176 and pls 7, 9, 11–15, 17–33 in 1871, pp. 177–256 and pls 34–38, 40–52 in 1872, pp. 257–291 and pl. 39 in 1873).
- Römer, E. 1860 (Dec.). Beschreibung neuer *Venus*-Arten. *Malakozoologische Blätter*, **7**: 148–165.
- Römer, E. 1862. *Monographie der Molluskengattung Dosinia, Scopoli, (Artemis, Poli). Novitates conchologicae, Supplement 1*. Theodor Fischer, Cassel.
- Römer, E. 1864–1872. *Monographie der Molluskengattung Venus, Linné. Novitates conchologicae, Supplement 3*. Band 1, 2. Theodor Fischer, Cassel. (Band 1: pp. 1–12 and pls 1–3 in 1864, pp. 13–32 and pls 4–9 in 1865, pp. 33–58 and pls 10–18 in 1866, pp. 59–126, pls 19–33 in 1867, pp. 127–172 and pls 34–46 in 1868, pp. 173–217, title page and pls 47–59 in 1869; Band 2: pl. 1 in 1869, pp. 1–64 and pls 2–21 in 1870, pp. 65–96 and pls 22–31 in 1871, pp. 97–128 and pls 32–40 in 1872).
- Romero, P.E., Pfenninger, M., Kano, Y. & Klussmann-Kolb, A. 2015 (online 24 Dec.; print Apr. 2016). Molecular phylogeny of the Ellobiidae (Gastropoda: Panpulmonata) supports independent terrestrial invasions. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **97**: 43–54.
- Rooij-Schuilings, L.A. de 1974 (23 Jan.). A preliminary report on systematics and distribution of the genus *Ervilia* Turton, 1822 (Mesodesmatidae, Bivalvia). *Malacologia*, **14**: 235–241.
- Rosenberg, G. 1992. *Encyclopedia of seashells*. Dorset Press, New York.
- Roth, B. 1978 (30 Nov.). On the identification of three Japanese species of *Nuttallia* (Mollusca: Bivalvia). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **37**: 223–229.
- Rowell, J. 1863 (Apr. to Dec.). Description of a new Californian mollusk, discovered by Rev. Joseph Rowell, at Marysville, in the waters of Feather River. *Proceedings of the California Academy of Sciences*, ser. 1, **3**: 21–22.
- Rumph, G.E. 1705. *D'Amboinsche rareitkamer, behelzende eene beschryvinge van allerhande zoo weeke als harde schaalvisschen, te weeten raare krabben, kreeften, en diergelyke Zeedieren, als mede allerhande hoorntjes en schulpen, die men in d'Amboinsche zee vindt: Daar beneven zommige mineraalen, gesteenten, en soorten van Aarde, die in d'Amboinsche, en zommige omleggende Eilanden gevonden worden. Verdeelt in drie Boeken, en met nodige printverbeeldingen, alle naar 'n leven getekent, voorzien*. Gedrukt by François Halma, Boekverkoper in Konstantijn den Grooten, T^e Amsterdam.
- 齋藤 寛 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).
- 齋藤 寛 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 齊藤 匠 2015 (Dec.). 東日本大震災後の宮城県で発見された絶滅危惧種ミズコハクガイの新産地 (腹足綱: ヒラマキガイ科). *Molluscan Diversity*, **4**: 50–53.
- 齊藤 匠 2016 (Mar.). ヒメヒラマキミズマイマイ. In 宮城県稀少野生動植物保護対策検討会 (編), *宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 Red data book Miyagi 2016*, 387. 宮城県環境生活部自然保護課, 仙台.
- 齊藤 匠 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- Saito, T., Chiba, S. & Fukuda, H. In press. Type materials of the species of the Planorbidae (Mollusca, Gastropoda, Hygrophila) described by Shuichi Mori. *Molluscan Research*.
- Saito, T., Do, V.T., Prozorova, L., Hirano, T., Fukuda, H. & Chiba, S. 2018a (online 12 May; printed Aug.). Endangered freshwater limpets in Japan are actually alien invasive species. *Conservation Genetics*, **19**: 947–958.
- 齊藤 匠・福田 宏 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- Saito, T., Hirano, T., Prozorova, L., Do, V.T., Sulikowska-Drozd, A., Sitnikova, T., Surenkhorloo, P., Yamazaki, D., Morii, Y., Kameda, Y., Fukuda, H. & Chiba, S. 2018b (6 Nov.). Phylogeography of freshwater planorbid snails reveals diversification patterns in Eurasian continental islands. *BMC Evolutionary Biology*, **18**: 164. <https://doi.org/10.1186/s12862-018-1273-3>
- 齊藤 匠・平野尚浩・内田翔太・山崎大志 2017 (Mar.). 石垣島および西表島におけるヒメヒラマキミズマイマイ (腹足綱: ヒラマキガイ科) の発見. *Molluscan Diversity*, **5**: 79–82.
- 坂口清一 1936. 香川県採集貝類. *香川県博物学会誌*, **1**: 31–39.
- 坂田宏志 1999 (31 Mar.). 日本産貝類 - 菊池コレクション - 目録. *兵庫県立人と自然の博物館収蔵資料目録*, (3): i-iv, 1–63, and unpaginated plates and index.
- Salisbury, A.E. 1934 (Jul.). On the nomenclature of Tellinidae, with descriptions of new species and some remarks on distribution. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **21**(2): 74–91, pls 9–14.
- Salvi, D. & Mariottini, P. 2017 (1 Feb.; nomenclatural availability: 4 Jul. 2016). Molecular taxonomy in 2D: a novel ITS2 rRNA sequence-structure approach guides the description

軟体動物

- of the oysters' subfamily Saccostreinae and the genus *Magallana* (Bivalvia: Ostreidae). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **179**: 263–276.
- Sano, I., Shirai, A., Kondo, T. & Miyazaki, J. 2017 (30 Apr.). Phylogenetic relationships of Japanese Unionoida (Mollusca: Bivalvia) based on mitochondrial 16S rDNA sequences. *Journal of Water Resource and Protection*, **9**: 493–509.
- 佐々木克之 2005. 内湾および干潟における物質循環と生物生産【38】有明海漁業 5. アゲマキとサルボウ. *海洋と生物*, **27**: 267–274.
- 佐々木猛智 2006 (10 Oct.). 神奈川県真鶴岬の潮間帯の貝類. *ちりぼたん*, **37**: 100–108.
- Sasaki, T. 2008 (25 Jul.). Micromolluscs in Japan: taxonomic composition, habitats, and future topics. *Zoosymposia*, **1**: 147–232.
- 佐々木猛智 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- Sasaki, T. & Okutani, T. 1993 (31 Mar.). New genus *Nipponacmea* (Gastropoda, Lottiidae): a revision of Japanese limpets hitherto allocated in *Notoacmea*. *Venus, Japanese Journal of Malacology*, **52**: 1–40.
- 佐々木猛智・上野正博 2005(30 Oct.). 京都府舞鶴周辺の海産貝類. *ちりぼたん*, **36**: 70–84.
- 佐藤勝義 1989 (28 Feb.). ミミズガイの蓋. *ちりぼたん*, **19**: 95–96.
- 佐藤勝義・岡本正豊 1978 (30 Jun.). ヒナミルクイの2型とワカミルガイについて. *ちりぼたん*, **10**: 27–31.
- 佐藤國康 1995. 岡山県児島湾にヘナタリガイ類を求めて. *Letter from Nature* [おかやまの自然を愛する会], **1**(2): 35–39.
- 佐藤國康 1999 (Mar.). 羅生門の動物 (昆虫以外). In 新見市教育委員会生涯学習課 (編), *羅生門自然環境保護・保全調査報告書*, 107–115. 岡山県新見市教育委員会, 新見.
- 佐藤國康・益田芳樹 1993 (Mar.). その他の無脊椎動物. In 岡山県環境保健部自然保護課 (編), *おかやまの自然 第2版*, 268–279. 岡山県環境保健部自然保護課, 岡山.
- 佐藤慎一 2000 (10 Dec.). 二枚貝類—特に諫早湾について. In 佐藤正典 (編), *有明海の生きものたち*, 150–183. 海遊舎, 東京.
- 佐藤慎一・多留聖典・福田 宏・多々良有紀 2010 (Mar.). 2009 年度軟体動物多様性学会夏季例会 (南三陸) 報告. *Molluscan Diversity*, **1**: 54–60.
- 佐藤大義・浅田 要・永井 僚 2019 (1 May). 南知多町内海海岸 (伊勢湾) の貝類相. *かきつばた*, (44): 20–30.
- Saurin, E. 1959. Pyramidellidae de Nha-trang (Viêt-Nam). *Annales de la Faculté des Sciences* (Université de Saigon), for 1959: 222–283, pls A, 1–9.
- Saurin, E. 1962 (4 Jun.). Pyramidellidae du Golfe de Thaïlande. *Annales de la Faculté des Sciences* (Saigon), for 1961: 231–266, pls 1–5.
- 斯卡拉脱 [= Scarlato], O.A. 1965 (Aug.). 中国海双壳类软体动物櫻蛤总科. *海洋科学集刊*, (8): 27–114, pls 1–13. (in Chinese with Russian summary)
- Скарлато [= Scarlato], O.A. 1981. Двустворчатые моллюски умеренных широт западной части Тихого океана. Наука, Ленинград. [*Bivalve molluscs of the temperate latitudes of the western part of the Pacific Ocean. Guide-books Fauna USSR, 126*. Nauka, Leningrad. (In Russian)] [Not seen; *vide* Kabanov & Lutaenko, 1996]
- Schenck, H.G. & Reinhart, P.W. 1938. Oligocene arcid pelecypods of the genus *Anadara*. *Mémoires du Musée Royal d'Histoire Naturelle de Belgique, Deuxième série*, **14**: 1–73.
- Schepman, M.M. 1911. Part IV. Rachiglossa. *The Prosobranchia of the Siboga Expedition. Siboga-Expeditie, 49d*, pp. 247–363, pls 18–24. E.J. Brill, Leyden.
- Schileyko, A.A. 2002 (Jan.). Treatise on Recent terrestrial pulmonate molluscs, part 8. *Ruthenica Supplement*, **2**: 1035–1166.
- Schmacker, B. & Boettger, O. 1890 (Jan.–Feb.; Jul.–Aug.). Neue Materialien zur Charakteristik und geographischen Verbreitung chinesischer und japanischer Binnenmollusken I. *Nachrichtenblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **22**: 1–30, 113–137, pl. 1.
- Schrenck, L. v. 1862a (5–17 Dec.). Vorläufige Diagnosen einiger neuer Gastropoden-Arten aus dem Nordjapanischen Meere. *Mélanges Biologiques Tirés du Bulletin de l'Académie Impériale des Sciences de St. Pétersbourg*, **4**: 252–258.
- Schrenck, L. v. 1862b, 1863. Vorläufige Diagnosen einiger neuer Molluskenarten aus der Meerenge der Tartarei und dem Nordjapanischen Meere. *Bulletin de l'Académie Impériale des Sciences de St-Petersbourg*, **4**: 408–413 (1862); **5**: 510–514 (1863).
- Schrenck, L. v. 1867. Mollusken. In Schrenck, L. v. (Ed.), *Reisen und Forschungen im Amur-Lande in den Jahren 1854–1856, Zweiter Band, Zoologie: Lepidopteren, Coleopteren, Mollusken*, 259–974, pls 12–30. Commissionäre der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, St. Petersburg.
- Schröter, J.S. 1783. *Einleitung in die Conchylien-Kenntnis nach Linné*, Band 1. Halle.
- Schumacher, C.F. 1817. *Essai d'un nouveau système des habitations des vers testacés*. De l'Imprimerie de Mr. le directeur Schultz, Copenhagen.
- Senckenberg Museum 2019. *Malakologie Sammlung*. [Accessed on 25 Sept. 2019] <https://search.senckenberg.de/aquila-public-search/search>
- 瀬尾友樹・Tananganon, J. 2014 (31 Mar.). 2009～2013 年における香川県沿岸の海産貝類相について. *近畿大学農学部紀要*, (47): 87–124.
- Seo, T., Yashima, Y. & Tananganon, J. 2018 (20 Sept.). DNA barcoding of the freshwater mussel, genus *Inversium* and *Pronodularia japonensis* (Bivalvia, Unionidae) and exploration for new diagnostic characters based on soft body morphology. *Biogeography*, **20**: 55–61.
- Seshaiya, R.V. 1940 (Jul.). A free larval stage in the life-history of a fluviatile gasteropod [sic]. *Current Science*, **9**: 331–332.
- Saverns, M. 2011. *Shells of the Hawaiian Islands - The sea shells*. ConchBooks, Hackenheim.
- 重田弘雄・波部忠重 1987 (31 Dec.). マンジミ奄美大島に分布する. *ちりぼたん*, **18**: 112.
- 鹿間時夫 1964 (25 May). *原色圖鑑 續世界の貝*. 北隆館, 東京.

- 鹿野康裕・福田 宏 1990 (18 Aug.). 柳井湾産トリデニナ科の2種について. *ユリヤガイ*, **1**: 13–17.
- 島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門 (隠岐臨海実験所) 2011 (Aug.). *隠岐臨海実験所周辺の動物リスト (2011年8月改訂)*. 島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門 (隠岐臨海実験所), 隠岐の島. <http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/fauna.html>
- 清水智彦・福田 宏 2003 (30 Jun.). 岡山県成羽町における陸淡水産貝類相. *Venus*, **62**: 89.
- 清水利厚 1976 (30 Aug.). ミクリガイとババガセの食性. *ちりばたん*, **9**: 50.
- 清水利厚 2001 (30 Mar.). 千葉県の軟体動物相. *千葉県水産試験場研究報告*, (57): 1–159.
- 清水泰子・杉野博之・植木範行 2009 (Nov.). イタバガキの種苗生産. *岡山県農林水産総合センター水産研究所研究報告*, (24): 44–48.
- 清水泰子・山野井英夫 2009 (Nov.). 瀬戸内市牛窓地先におけるイタバガキ繁殖試験. *岡山県農林水産総合センター水産研究所研究報告*, (24): 49–53.
- 塩田浩之 2004. カワネジガイ (p. 372, pl. 16), ミズコハクガイ (375). In 香川県希少野生生物保護対策検討会 (編) *香川県レッドデータブック 香川県の稀少野生生物*. 香川県環境森林部環境・水政策課, 高松. <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/shizen/rdb/pdf/rdb06.pdf>
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/shizen/rdb/pdf/rdb11.pdf>
- 白井亮久 2008 (15 Jul.). イケチョウガイの新産地報告—青森で見つかった琵琶湖固有種—. *ちりばたん*, **39**: 25–29.
- 白井亮久・福原修一・田部雅昭・近藤高貴・梶田 忠 2015 (15 Jan.). 日本列島に生息するドブガイ種群の分子系統解析. *Venus*, **73**: 104.
- Shirai, A., Kondo, T. & Kajita, T. 2010 (31 Mar.). Molecular markers reveal genetic contamination of endangered freshwater pearl mussels in pearl culture farms in Japan. *Venus*, **68**: 151–163.
- 自然環境研究センター 2002 (Mar.). *自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書 (陸産及び淡水産貝類) (上・下)*. 環境省自然環境局・生物多様性センター, 富士吉田.
- 自然環境研究センター 2010 (31 Mar.). *自然環境保全基礎調査 動物分布調査 日本の動物分布図集*. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田. <https://www.biodic.go.jp/kiso/atlas/>
- 庄司泰雅・大畑 聡・三田久徳・藤元香世・田辺 伸・清水利厚・石田 修 2003 (Mar.). パイの産卵とインボセックスについて. *千葉県水産研究センター研究報告*, (2): 7–13.
- Simpson, C.T. 1900 (74–80: mailed on 2 Apr. and presented on 3 Apr.; 81–86: mailed on 13 Apr. and presented on 17 Apr.). New and unfigured Unionidae. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **52**: 74–86, pls 1–5.
- Slavoshevskaya, L.V. 1976. Organization of *Ansola angustata* (Pilsbry) (Gastropoda, Prosobranchia) from the Sea of Japan. *Biologiya Morya*, **3**: 34–41. (In Russian with English title and summary)
- Sleurs, W.J. 1987 (22 Dec.). The marine microgastropods from the northern coast of Papua New Guinea (Mollusca: Gastropoda) III. Family Columbellidae (Subfamily Pyreninae), with description of two new species. *Indo-Malayan Zoology*, **4**: 33–68, pls A–D.
- Sluiter, C.P. 1890. Über die Bildung der kalkröhren von *Gastrochaena*. *Natuurkundig Tijdschrift voor Nederlandsch Indië*, **50**: 45–60, pl. 1.
- Smith, E.A. 1873. Remarks on a few species belonging to the family Terebridae, and descriptions of several new forms in the collection of the British Museum. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Fourth Series, **11**: 262–271.
- Smith, E.A. 1875. A list of the Gasteropoda collected in Japanese Seas by Commander H.C. St. John, R.N. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Fourth Series, **15**: 414–427; **16**: 103–115.
- Smith, E.A. 1879 (Aug.). On a collection of Mollusca from Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1879: 181–218, pls 19–20.
- Smith, E.A. 1884. Mollusca. In Department of Zoology, British Museum (Ed.), *Report on the zoological collections made in the Indo-Pacific Ocean during the voyage of H.M.S. 'Alert' 1881–2*, 34–116, 487–508, pls 4–7, 44. Printed by order of the Trustees, London.
- Smith, E.A. 1885. Report on the Lamellibranchiata collected by H.M.S. Challenger during the years 1873–76. In Murray, J. (Ed.), *Report on the scientific results of the voyage of H.M.S. Challenger during the years 1873–76 under the command of Captain George S. Nares, R.N., F.R.S. and the late Captain Frank Tourle Thomson, R.N., Zoology*, Vol. 13, 1–341, pls 1–25. Neill and Company, Edinburgh.
- Smith, E.A. 1903. Marine Mollusca. In Gardiner, J.S. (Ed.), *The fauna and geography of the Maldive and Laccadive Archipelagoes, being the account of the work carried on and of the collections made by an expedition during the years 1899 and 1900*, 589–630, pls 35–36. University Press, Cambridge.
- Smith, E.A. 1904 (11 Jul.). On a collection of marine shells from Port Alfred, Cape Colony. *Journal of Malacology*, **11**: 21–44, pls 2–3.
- Smith, E.A. 1910 (Dec.). On South African marine Mollusca, with descriptions of new species. *Annals of the Natal Museum*, **2**: 175–220, pls 7–8.
- Smith, E.A. 1916 (20 Mar.). On a collection of Pelecypoda from the Philippine Islands. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **12**: 12–19, pl. 1.
- Smithsonian National Museum of Natural History 2019. USNM 122429. *Corbicula leana* Prime, 1864 (Holotype). Department of Invertebrate Zoology Collections. [Accessed on 8 Oct. 2019] <http://n2t.net/ark:/65665/3383b5edc-fe6f-4bbd-8192-9ebdc7d878ea>
- snowmelt 2005 (26 Aug.). コシダカヒメモノアラガイ 青森県上北郡産と北海道川上郡産. *北のフィールドノート*. [Accessed on 31 Dec. 2019] <https://snowmelt.exblog.jp/663827/>
- Sorita, E. 1986a (31 Jul.). Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto District, Honshu, Japan — I. A new subspecies of *Nipponochloritis pumila* (Gude, 1902) and a new subspecies of *N. bracteatus* (Pilsbry, 1902). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **45**: 99–108.
- Sorita, E. 1986b (31 Oct.). Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto District, Honshu, Japan — II. Three new subspecies of *Nipponochloritis oscitans* (Martens, 1881) from Kanto and Tohoku districts. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **45**: 177–185.

軟体動物

- Sorita, E. 1986c (31 Oct.). Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto District, Honshu, Japan —III. On *N. oscitans kiyosumiensis* Azuma, 1982 and *N. kawanai* Sorita, 1980, with a conclusive remark. *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **45**: 186–193.
- 反田栄一・川名美佐男 1983 (30 Jun.). 関東地方産ベッコウマイマイ科の2新種. *貝類学雑誌*, **42**: 35–43.
- Souverbie [M.] 1877 (Jan.). Descriptions d'espèces nouvelles de l'Archipel Calédonien. *Journal de Conchyliologie*, **25**: 71–76, pl. 1.
- Souverbie [M.] & Montrouzier [B.P.] 1875 (Jan.). Descriptions d'espèces nouvelles de l'Archipel Calédonien. *Journal de Conchyliologie*, **23**: 33–44, pl. 4.
- Sowerby, G.B. I 1825. *A catalogue of the shells contained in the collection of the late Earl of Tankerville, arranged according to the Lamarckian conchological system; together with an appendix, containing descriptions of many new species*. Printed by E.J. Stirling for G.B. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. I 1835 (20 Mar.). Characters of new genera and species of Mollusca and Conchifera, collected by Mr. Cuming. *Proceedings of the Zoological Society of London*, Part 2 (for 1834): 123–128.
- Sowerby, G.B. I & II 1832–1841. *The conchological illustrations*, vols 1, 2. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. II 1842 (2 Nov.). Monograph of the genus *Pecten*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **1**(2): 45–78, pls 12–20. G.B. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. II 1844a (11 Apr.). Monograph of the genus *Scalaria*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **1**(4): 83^{bis}–108^{bis}, pls 32–135. G.B. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. II 1844b (Jul.). Descriptions of new species of *Scalaria*, collected by Mr. H. Cuming, to be figured in the fourth part of *Thesaurus Conchyliorum*. *Proceedings of the Zoological Society of London*, part 12 (for 1844): 10–14, 26–31.
- Sowerby, G.B. II 1851a. Monograph of the genus *Meroe*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **2**(12): 609–611, pl. 126. G.B. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. II 1851b. Monograph of the genus *Cytheraea* [sic]. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **2**(12): 611–648, pls 127–136.
- Sowerby, G.B. II 1853. Monograph of the genus *Venus*. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **2**(14): 703–742, pls 152–162. G.B. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. II 1855. Monograph of the genus *Cerithium*, Adanson. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **2**(16): 847–899, pls 176–186. G.B. Sowerby, London.
- Sowerby, G.B. II 1862. Monograph of the family Fissurellidae. In Sowerby, G.B. II (Ed.), *Thesaurus conchyliorum, or, monographs of genera of shells*, **3**(21): 183–206, 223–226, pls 236(1)–244(9). G.B. Sowerby, London.
- Sowerby G.B. II 1865 (pls 2–13, Oct.; pls 1, 14–20, Dec.). Monograph of the genus *Cerithium*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **15**: pls 1–20 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby II, G.B. 1866a (pl. 2, Mar.; pls 1, 3–4, May). Monograph of the genus *Cerithidea*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **15**: pls 1–4 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1866b (pls 2–9, Jul.; pl. 10, Aug.; pls 11–18, Nov.), 1867 (pls 19–26, Mar.; pls 27–34, Jun.; pls 35–42, Sept.), 1868 (pls 43–44, Mar.; pl. 45, Sept.; pls 46–54, Oct.), 1869 (pls 1, 55–58, Apr.). Monograph of the genus *Tellina*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **17**: pls 1–58 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1867 (pls 2–9, Apr.; pls 10–15, Jun.; pls 16–19, Sept.), 1868 (pl. 20, Jan.), 1869 (pls 21–24, Aug.), 1870 (pls 1, 25–37, Jun.). Monograph of the genus *Anodon*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **17**: pls 1–37 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1870 (pls 2–5, Oct.), 1871 (pls 6–13, Jan.; 14–16, Feb.; pls 17–27, Sept.), 1872 (pls 1, 28–33, Nov.). Monograph of the genus *Ostraea* [sic]. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **18**: pls 1–33 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1873a (pls 2–5, Apr.; pls 6–11, Aug.; pls 12–13, Oct.), 1874 (pls 1, 14–16, Jun.). Monograph of the genus *Scalaria*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **19**: pls 1–16 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1873b (Dec.). Monograph of the genus *Rimula*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **19**: pl. 1 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1874a (Apr.). Monograph of the genus *Adeorbis*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **19**: pls 1–2 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1874b (pls 2–5, Jun.; 1, 6–7, Aug.). Monograph of the genus *Cultellus*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **19**: pls 1–7 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1874c (pls 2–3, Jun.; 4–7, Aug.; 1, 8, Nov.). Monograph of the genus *Solecirtus*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **19**: pls 1–8 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1874d (Nov.). Monograph of the genus *Petricola*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **19**: pls 1–3. and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1876a. Monograph of the genus *Siliquaria*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **20**: pls 1–4 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1876b. Monograph of the genus *Fistulana*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **20**: pl. 1 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.
- Sowerby, G.B. II 1876c (pls 2–10)–1877 (pls 1, 11–19). Monograph of the genus *Cyrena*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **20**: pls 1–19 and

unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.

Sowerby, G.B. II 1878. Monograph of the genus *Rotella*. *Conchologia iconica: or, illustrations of the molluscous animals*, **20**: pls 1–4 and unpaginated texts. L. Reeve & Co., London.

Sowerby, G.B. III 1875 (Aug.). Descriptions of ten new species of shells. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1875: 125–129, pl. 24.

Sowerby, G.B. III 1889a (Apr.). Descriptions of fourteen new species of shells from China, Japan, and the Andaman Islands, chiefly collected by Deputy Surgeon-Gen. R. Hungerford. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1888: 565–570, pl. 28.

Sowerby, G.B. III 1889b (31 Dec.). Descriptions of fourteen new species of shells. *The Journal of the Linnean Society of London, Zoology*, **20**: 395–400, pl. 25.

Sowerby, G.B. III 1892. *Marine shells of South Africa. A catalogue of all the known species with references to figures in various works, descriptions of new species, and figures such as are new, little known, or hitherto unfigured*. Sowerby, London.

Sowerby, G.B. III 1894 (Oct.). Descriptions of new species of marine shells from the neighbourhood of Hong-Kong. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **1**: 153–159, pl. 12.

Sowerby, G.B. III 1897. *Appendix to marine shells of South Africa. A catalogue of all the known species with references to figures in various works, descriptions of new species, and figures of such as are new, little known, or hitherto unfigured*. Sowerby, London.

Sowerby, G.B. III 1903 (Nov.). Descriptions of fourteen new species of marine Mollusca from Japan. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Seventh Series, **12**: 496–501.

Sowerby, G.B. III 1914 (Jul.). Descriptions of fifteen new Japanese marine Mollusca. *The Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*, Eighth Series, **14**: 33–39, pl. 2.

Spengler, L. 1783. Beskrivelse over en nye Slægt af toskallede Muskeler, som kan kaldes *Gastrochæna*, i tre foranderlige Arter, hvoraf hver boer i et forskielligt Ormehuus. *Nye Samling af det Kongelige Danske Videnskabers Selskabs Skrifter*, **2**: 174–183, pl. “Pag. 147”.

Spengler, L. 1802. Beskrivelse over det toskallede Conchyliæ-Slægt *Maetra*. *Skrifter af Naturhistorie-Selskabet*, **5**(2): 92–128, pl. 3.

Springsteen, F.J. & Leobrera, F.M. 1986. *Shells of the Philippines*. Carfel Seashell Museum, Manila.

Sterba, G.H.W. 2005 (30 Dec.). Eine neue Art der Familie Olividae von Malaysia (Mollusca: Gastropoda). *Schriften zur Malakozooologie aus dem Haus der Natur-Cismar*, **22**: 75–78.

Steyn, D.G. & Lussi, M. 1998. *Marine shells of South Africa. An illustrated collector's guide to beached shells*. Ekogilde Publishers, Hartbeespoort.

Stoliczka, F. 1867–1868. *Cretaceous fauna of southern India, Vol. II. The Gastropoda. Palæontologia Indica, being figures and descriptions of the organic remains produced during the progress of the Geological Survey of India. Memoirs of the Geological Survey of India, ser. 6*. Geological Survey Office, Calcutta. [pp. 1–204, pls 1–16 on 1 Apr. 1867; pp. 205–244, pls 17–18 on 1 Apr. 1868; pp. 245–284, i–xxii, pls 19–20 on 1 Jul. 1868; pp. 285–498], i–xiii, pls 21–28 on 1 Oct. 1868; according to Coan & Kabat, 2018: 98]

Stoliczka, F. 1870–1871. *Cretaceous fauna of southern India, Vol. III. The Pelecypoda, with a review of all known genera of this class, fossil and recent [sic]. Palæontologia Indica, being figures and descriptions of the organic remains produced during the progress of the Geological Survey of India. Memoirs of the Geological Survey of India, ser. 6*. Geological Survey Office, Calcutta. [pp. 1–222, 8a–δ, pls 1–12 on 1 Sept. 1870; pp. 223–408, pls 13–28 on 1 Mar. 1871; pp. 409–538, i–xxii, pls 29–50 on 1 Aug. 1871; according to Coan & Kabat, 2018: 98]

Sturany, R. 1901. Expedition S.M. Schiff “Pola” in das Rothe Meer, nördliche und südliche Hälfte. 1895/96 und 1897/98. XIV. Zoologische Ergebnisse. Lamellibranchiaten des Rothen Meeres. *Denkschriften der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften. Mathematisch-Naturwissenschaftliche Classe*, **69**: 255–295, pls 1–7.

Sturany, R. 1904. Expeditionen S.M. Schiff “Pola” in das Rothe Meer, nördliche und südliche Hälfte 1895/96–1897/98. Zoologische Ergebnisse. XXIII. Gastropoden des Rothen Meeres. *Denkschriften der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, Mathematisch-Naturwissenschaftliche Classe*, **74**: 209–283, pls 1–7.

Sturany, R. 1905 (Jul.). Beiträge zur Kenntnis der Molluskenfauna des Roten Meeres und des Golfes von Aden. *Nachrichtsblatt der Deutschen Malakozologischen Gesellschaft*, **37**: 132–146.

Subba Rao, N.V. 2003 (Jan.). Indian seashells (Part-1): Polyplacophora and Gastropoda. *Records of the Zoological Survey of India, Occasional Paper*, (192): i–x, 1–416, pls 1–96.

杉原弘人 1954. 日本産マメタニシの分類学的研究. *京都府立医科大学雑誌*, **56**(3): 512–560.

杉原弘人 1979 (Jan.). 日本産マメタニシの研究 (1) —日本産マメタニシの外部形態—. *関西大学社会学部紀要*, **10**(1): 57–111.

杉村智幸・阿部弘和 2004 (20 Dec.). 油谷湾の貝類. *山口大学教育学部研究論叢 (第2部) 自然科学*, **54**: 91–106.

杉谷房雄 1927. *沖縄県産貝類目録*. 沖縄県教育委員会, [那覇].

Sullioti, G.R. 1889. Comunicazioni malacologiche, articolo secondo. *Bullettino della Società Malacologica Italiana*, **14**: 65–74.

Suzuki, K. 1937. Some fossil terrestrial gastropods from Tuizi, Kuzuu-mati, Totigi Prefecture. *Journal of the Geological Society of Japan*, **44**: 438(87)–443(92), pl. 18(7). [Reprinted in *Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan*, **7**: 438(87)–443(92), pl. 18(7).]

鈴木庄一郎 1979 (Oct.). *山形県海産無脊椎動物*. たまきび会, 山形.

鈴木孝男 2016 (Mar.). イボウミニナ. In 宮城県稀少野生動植物保護対策検討会 (編), *宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 Red data book Miyagi 2016*, 359. 宮城県環境生活部自然保護課, 仙台.

鈴木 武・宮井卓人・高田良二 2017. コウロマイマイの殻における色帯の地理的変異. *兵庫生物*, **15**: 141–146.

Swainson, W. 1821. *Exotic conchology; or figures and descriptions of rare, beautiful, or undescribed shells, drawn on stone from the most select specimens; the descriptions systematically arranged on the principles of MM. Cuvier and de Lamarck, with references to the Linnaean classification, volume 1 (parts 1 and 2)*. Printed for William Wood and

軟体動物

J. and A. Arch, London.

Swainson, W. 1825 (Jan.) ["1823"]. A monograph of the genus *Ancillaria*, with descriptions of several new species. *Quarterly Journal of Science, Literature, and the Arts*, **18**: 272–289.

Swainson, W.M. 1829–1833. *Zoological illustrations, or, original figures and descriptions of new, rare, or interesting animals, selected chiefly from the classes of ornithology, entomology, and conchology, and arranged according to their apparent affinities. Second series, vols 1, 2, 3.* Baldwin and Cradock, London.

Swennen, C., Moolenbeek, R.G., Ruttanadukul, N., Hobbelink, H., Dekker, H. & Hajisamae, S. 2001. The molluscs of the Southern Gulf of Thailand. *Thai Studies in Biodiversity*, **4**: 1–210.

Sykes, E.R. 1895 (Jul.). Descriptions of new *Clausiliae* from Japan and Yunnan. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **1**: 261–263.

多田 昭 2004 (Mar.). マヤサンマイマイ. In 香川県希少野生生物保護対策検討会 (編), *香川県レッドデータブック 香川県の希少野生生物*, 378. 香川県環境森林部環境・水政策課, 高松.

多田 昭 2006 (27 May). コシボソギセルとその類縁種. *まいご*, (14): 5–12.

多田 昭 2008. 京都市周辺部におけるゴマガイ類について. *かいなかま*, **42**(1): 14–16.

多田 昭 2018 (Oct.). モリヤギセル. In 高知県レッドデータブック (動物編) 改訂事業 改訂委員会 (編), *高知県レッドデータブック 2018 動物編*, 246. 高知県林業振興・環境部 環境共生課, 高知.

多田 昭・早瀬善正 2011 (31 Oct.). トサピロウドマイマイの岡山県での分布記録および類似種に関する考察. *ちりぼたん*, **41**: 120–126.

多田武一 1964 (Mar.). 見島産貝類目録. In 山口県教育委員会 (編), *見島総合学術報告書*, 135–172. 山口県教育委員会, 山口.

田嶋正憲 2009 (31 Mar.). 旧見島湾南岸の中近世のムラ (村) について (上)—鉄洋・中世貝塚・見島五流・慶長検地・灘崎地域を中心に—. *岡山市埋蔵文化財センター研究紀要*, (1): 64–83.

Tagaro, S.P. 2017 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.

高田良二 2014 (Mar.). 西宮市貝類館所蔵山本愛三氏寄贈標本目録 (2) 二枚貝綱・非海産腹足綱・多板綱・掘足綱・頭足綱. *西宮市貝類館収蔵標本目録*, (5): i–ix, 1–105, 1–15 (including pls 1–6), index 1–22.

高田良二・波部忠重 1991 (30 Apr.). *Euhadra sandai* (Kobelt, 1879) はニシキマイマイ. *ちりぼたん*, **21**: 85–86.

高田良二・波部哲也 2016 (Mar.). 西宮市貝類館所蔵堀越増興氏寄贈標本目録 (1) 多板綱・掘足綱・二枚貝綱・頭足綱. *西宮市貝類館収蔵標本目録*, (6): i–viii, 1–99, 1–10 (including pls 1–5), index 1–23.

高橋五郎・岡本正豊 1969 (23 Nov.). *福岡県産貝類目録*. 著者自刊, 福岡・東京.

高橋 脩 1956 (31 Mar.). 忽那七島付近の海岸動物相の研究. *愛媛理科教育*, **2**(1): 41–58.

高橋 茂 1978 (31 Mar.). ミズコハクガイ群馬県下にも産す. *ちりぼたん*, **10**: 9.

高橋 茂 1980 (30 Sept.). 東毛の淡水貝. *ちりぼたん*, **11**: 34–36.

Takano, T. & Kano, Y. 2014 (online 30 Jun.; print Oct.). Molecular phylogenetic investigations of the relationships of the echinoderm-parasite family Eulimidae within Hypsogastropoda (Mollusca). *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **79**: 258–269.

高岡生物研究会 1999 (11 Nov.). 中部日本海沿岸産後鰓類目録 1999. *Janolus*, **100**: 69–93.

高重 博 2019 (21 Jan.). *ネイチャーウオッチングガイドブック 温帯域・浅海で見られる種の生態写真+貝殻標本 日本の貝*. 誠文堂新光社, 東京.

高柳茉友子 2014. 矢作川上中流域に生息する淡水産貝類. *矢作川研究*, (18): 5–11.

竹林慶謹・和田年史 2010 (30 Mar.). 鳥取県東部の砂浜海岸の打ち上げ貝類と Web 図鑑の作成. *鳥取県立博物館研究報告*, (47): 7–25.

竹平志穂・富山清升・西 邦雄 2016 (Mar.). キセルガイモドキ. In 鹿児島県環境林務部自然保護課 (編), *改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編—鹿児島県レッドデータブック 2016—*, 254. 鹿児島県環境林務部自然保護課, 鹿児島.

Takenouchi, K. 1985. A boulder shore gastropod fauna in Hong Kong. In Morton, B. & Dudgeon, D. (Eds), *The Malacofauna of Hong Kong and Southern China, Volume 2. Proceedings of the Second International Workshop on the Malacofauna of Hong Kong and Southern China, Hong Kong, 6–24 April 1983*, 413–419. Hong Kong University Press, Hong Kong.

竹之内孝一 1986 → 奥谷喬司 (編) 1986 (1 Jul.).

竹之内孝一 2001 (31 Mar.). 吉良哲明氏蒐集による日本及びその周辺の海産貝類—腹足類—. *大阪市立自然史博物館収蔵資料目録*, (33): 1–110.

竹之内孝一 2007 (31 Mar.). 吉良哲明氏蒐集による日本及びその周辺の海産貝類—斧足類・掘足類—. *大阪市立自然史博物館収蔵資料目録*, (39): 1–41.

竹之内孝一・中村 宏 1986 → 奥谷喬司 (編) 1986 (1 Jul.).

瀧 庸 1929 (20 Nov.). キサゴ *Umbonium (Suchium) moniliferum costatum* (Kiener) の肉體に就て. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **1**: 175–179, 表紙.

瀧 庸 1938 (25 Dec.). 邦産カリバガサ科の分類. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, **8**: 136–147.

瀧 庸 1960 (31 Oct.). おかくちきさがい科, きせるもどき科, きせるがい科, なたねもどき科, みじんまいまい科, きばさなぎがい科, のみがい科, おかものあらがい科, いそあわもち科, けしがい科, おかみみがい科, ふたまいまい科, きくのはながい科, ものあらがい科, うすかわひだりまきがい科, ひらまきがい科, かわござら科. In 岡田 要・瀧 庸 (編), *原色動物大圖鑑 [第 III 巻] (棘皮・毛類・前肛・軟体動物)*, 104–108 (including pls 52–53). 北隆館, 東京.

瀧 庸 1960 (31 Oct.). 腹足綱 (補遺). とうがたがい科, くだまきがい科, ひたちおび科, まくらがい科, ふでがい科, てんぐにし科, おりいれようばい科, えぞ

- ばら科, たもとがい科, かぶらがい科. In 岡田 要・瀧 庸 (編), *原色動物大圖鑑 [第 III 卷] (棘皮・毛類・前肛・軟体動物)*, 193, pl. 88. 北隆館, 東京.
- Taki, Is. & Oyama, K. 1954 (1 Mar.). Matajira Yokoyama's Pliocene and later faunas from the Kwanto Region in Japan. *Palaeontological Society of Japan, Special Papers*, (2): 1–68, pls 1–49.
- 瀧 巖 1933 (28 Feb.). 有明海産スミノエガキ及びマガキ (方言シカメ) の種の異同に關する藤森三郎氏の報告書を読み、*貝類研究雑誌ヴェキナス*, 3: 365–377.
- 瀧 巖 1934 (7 Jul.). 表紙畫に就いて. *貝類研究雑誌ヴェキナス*, 4: 331–332.
- 瀧 巖 1938 (Jun.). *廣島縣産貝類目錄*. 廣島縣, 広島.
- Taki, Iw. 1943 (30 Dec.). The Mollusca of the Inland Sea of Japan (2). *The Japanese Journal of Malacology*, 13: 111–118.
- 瀧 巖・波部忠重 1945 (30 Oct.). 日本産ニホガヒ超科の分類. *貝類學雜誌 The Japanese Journal of Malacology*, 14: 108–117.
- Talavera, F. & Faustino, L.A. 1933 (6 Feb.). Edible mollusks of Manila. *The Philippine Journal of Science*, 50: 1–48, pls 1–18.
- Tamaki, A., Mahori, N., Ishibashi, T. & Fukuda, H. 2002 (10 Aug.). Invasion of two marine alien gastropods *Stenothyra* sp. and *Nassarius (Zeuxis) sinarus* (Caenogastropoda) into the Ariake Inland Sea, Kyūshū, Japan. *The Yuriyagai*, 8: 63–81.
- 田村一利・奥谷喬司 1989 (31 Aug.). 館山湾へ分布拡大の貝類—特にイゼキトゲニナ属 2 種目の新発見. *ちりぼたん*, 20: 20–23.
- Tan, K.S. & Chou, L.M. 2000. *A guide to common seashells of Singapore*. Singapore Science Centre, Singapore.
- Tan, S.K. & Low, M.E.Y. 2014 (11 Feb.). Singapore Mollusca: 4. The family Amathinidae (Gastropoda: Heterobranchia: Pyramidelloidea). *Nature in Singapore*, 7: 9–13.
- 田中彌太郎 1959 (Mar.). 有明海産重要二枚貝類の産卵期—IV.クマサルボウについて. *有明海研究報告*, (5): 1–4.
- 田中彌太郎 1979 (30 Apr.). 出雲砂浜域に発生したコタマガイとオキアサリの間形について. *貝類學雜誌*, 38: 61–65.
- Tapparone-Caneffi, C. 1874. *Zoologia del viaggio intorno al globo della regia fregata Magenta durante gli anni 1865–68. Malacologia (gasteropodi, acefali e brachiopodi)*. G.B. Paravia e comp., Torino.
- Tapparone-Caneffi, C. 1876. Contribuzioni per una fauna malacologica delle isole Papuane, Parte IV e V. *Annali del Museo Civico di Storia Naturale di Genova*, Series 1, 9: 278–300.
- 多留聖典・風呂田利夫 2014 (Mar.). 多摩川河口および周辺水域のベントスの詳細分析により得られた東京湾のベントス多様性研究の進展と課題. In 羽田周辺水域環境調査研究委員会 (編), *羽田周辺水域環境調査 最終成果報告書 ~研究成果の総括と今後の展望~*, 200–203. 東京湾環境情報センター, 東京.
- 多々良有紀・福田 宏 2008 (11 Nov.). 2006 年度大会観察会 (三浦半島) 報告. *山口貝類研究談話会ニュースレター*, (6–12): 29–32.
- 多々良有紀・福田 宏 2009 (Nov.). 東京湾小櫃川河口産オウギウロコガイ (二枚貝綱: マルスダレガイ目: ウロコガイ科). *Molluscan Diversity*, 1: 12–17.
- 多々良有紀・武田広子・福田 宏 2010 (Dec.). 兵庫県北部及び島根県新記録の稀少淡水棲貝類イナバママタニシ (新生腹足類: エゾママタニシ科). *Molluscan Diversity*, 2: 49–54.
- Tate, R. & May, W.L. 1901 (19 Dec.). A revised census of the marine Mollusca of Tasmania. *Proceedings of the Linnean Society of New South Wales*, 26: 344–472, pls 23–27.
- Taylor, J.D. 1994. Foregut anatomy of the larger species of Turrinae, Clavatulinae and Crassispirinae (Gastropoda: Conoidea) from Hong Kong. In Morton, B. (Ed.), *The malacofauna of Hong Kong and Southern China III, Proceedings of the Third International Workshop on the Malacofauna of Hong Kong and Southern China, Hong Kong, 13 April – 1 May 1992*, 185–213. Hong Kong: Hong Kong University Press.
- Taylor, J.D. & Glover, E.A. 2000 (Jan.). Functional anatomy, chemosymbiosis and evolution of the Lucinidae. *Geological Society London, Special Publications*, 177: 207–225.
- Taylor, J.D. & Glover, E.A. 2005 (2 Sept.). Cryptic diversity of chemosymbiotic bivalves: a systematic revision of worldwide *Anodontia* (Mollusca: Bivalvia: Lucinidae). *Systematics and Biodiversity*, 3: 281–338.
- Taylor, J.D. & Glover, E.A. 2006 (Nov.). Lucinidae — the most diverse group of chemosymbiotic molluscs. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 148: 421–438.
- Taylor, J.D., Glover, E.A., Smith, L., Dyal, P. & Williams, S.T. 2011 (Sept.). Molecular phylogeny and classification of the chemosymbiotic bivalve family Lucinidae (Mollusca: Bivalvia). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 163: 15–49.
- 天狗生 1950 (10 Jun.). 2 種の淡水帰化貝. *砂免蛤*, (51): (27)90–(28)91.
- Terry, Y. 2007. *A collectors guide to Recent Terebridae (Mollusca: Neogastropoda)*. ConchBooks & NaturalArt, Hackenheim.
- Thach, N.N. 2002. *A checklist of the Vietnamese shelled molluscs*. Of Sea and Shore Publications, Port Gamble.
- Thach, N.N. 2007. *Recently collected shells of Vietnam*. L'Informatore Piceno & N.N.T., Ancona.
- Thiele, J. 1925. Gastropoda der Deutschen Tiefsee-Expedition, 2. In Carl, C. (Ed.), *Wissenschaftliche Ergebnisse der Deutschen Tiefsee-Expedition auf dem Dampfer "Valdivia" 1898–1899*, 17(2): 37(3)–382(348), pls 13(1)–46(34). Gustav Fischer, Jena.
- Thiele, J. 1930. Gastropoda und Bivalvia. In Michaelson, W. & Hartmeyer, R. (Eds), *Die Fauna Südwestaustraliens*, 561–596. Gustav Fischer, Jena. [Not seen]
- Thiele, J. & Jaekel, S. 1931 (20 Mar.). Muscheln der Deutschen Tiefsee-Expedition. *Wissenschaftliche Ergebnisse der Deutschen Tiefsee-Expedition auf dem Dampfer "Valdivia" 1898–1899*, 21(1): 161–268, pls 6(1)–10(5). Gustav Fischer, Jena.
- Thunberg, C.P. 1815. Tellinae, tres novae species. *Nova Acta Regiae Societatis Scientiarum Upsaliensis*, 7: 146–149, pl. 5.
- Tillier, A. & Ponder, W.F. 1992 (May). New species of *Smeagol* from Australia and New Zealand, with a discussion of the affinities of the genus (Gastropoda: Pulmonata). *Journal of Molluscan Studies*, 58: 135–155.

軟体動物

戸羽親雄 2009 (2 Mar.). 岩手の海産貝類. 著者自刊, 陸前高田.

鳥羽源蔵 1915 (1 Aug.). 貝類雑話 (一). 介類雑誌, 4: 13–16.

鳥羽源蔵 1935 (31 May). 東北産貝類漫談 (6). 貝類研究雑誌ヴェキナス, 5: 117–120.

鳥羽源蔵・千葉蘭兒 1938 (25 Dec.). 採集籠 (1). 日本貝類學會機關雜誌ヴェキナス, 8: 168–171.

鳥羽水族館 2019. オチバガイ. 鳥羽水族館オンラインショップ. [2019年8月16日閲覧] <https://shop.aquarium.co.jp/product/37083/>
<https://shop.aquarium.co.jp/product/27042/>

戸田顕史 2014 (Mar.). ニセマツカサガイ. In しまねレッドデータブック改訂委員会 (編), 改訂 しまねレッドデータブック 2014 動物編 ~島根県の絶滅のおそれのある野生動物~, 255. 島根県環境生活部自然環境課, 松江. <http://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/rdb/rdb2/cnt/d255b.html>

Tokunaga, S. 1906 (13 Jul.). Fossils from the environs of Tōkyō. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tōkyō*, 21(Art. 2): 1–96, pls 1–6.

東京都環境局自然環境部 (編) 2010, 2011. 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) ~東京都レッドリスト~ 2010 年版; 東京都の保護上重要な野生生物種 (島しょ部) ~東京都レッドリスト~2011 年版. 東京都環境局自然環境部, 東京.
http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/animals_plants/red_data_book/redlist2010.html
http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/animals_plants/red_data_book/redlist2011.html

鳥越兼治 1988 (20 Oct.). 山口県岐波のサキグロタマツメガイ. ちりばたん, 19: 69–70.

Torigoe, K. 1989 (31 Mar.). *Radula of Lunatia fortunei* (Reeve, 1865 [sic]). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, 48: 46–49.

鳥越兼治・稲葉明彦 2011 (Mar.). 現生タマガイ科の分類検討. 西宮市貝類館研究報告, (7): i–viii, 1–133, pls 1–4, index 1–15.

Torii, H., Sato, S., Hamaguchi, M., Henmi, Y. & Yamashita, H. 2010 (25 Dec.). The comparison of shell morphology and genetic relationship between *Meretrix lusoria* and *M. petechialis* in Japan and Korea. *Plankton and Benthos Research*, 5(suppl.): 231–241.

遠山宣雄 1937 (Feb.). 小笠原群島近海生物に就て. 東京府小笠原支廳, 東京.

Tryon, G.W. Jr. 1869. Catalogue of the family Tellinidae. *American Journal of Conchology*, 4(Appendix): 71–126.

Tryon, G.W. 1880a (1–64, pls 2–4, 6–8 on 2 Jan.; 65–128, pls 1, 5, 9–29 on 31 Mar.; 129–192, pls 30–59 on 6 Jul.; 193–289, pls 60–70 on 25 Oct.). Muricinae, Purpurinae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 2: 1–289, pls 1–70.

Tryon, G.W. 1880–1881 (1–64, pls 1–24 on 31 Dec. 1880; 65–128, pls 26–52 on 28 Mar. 1881; 129–192, pls 53–79 on 6 Jun. 1881; 193–310, pls 80–87 on 3 Oct. 1881). Tritonidae, Fusidae, Buccinidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 3: 1–310, pls 1–87.

Tryon, G.W. 1882 (1–64, pls 1–18 on 3 Jan.; 65–128, pls 19–37 on 29 Mar.; 129–192, pls 38–56 on 3 Jul.; 193–276, pls 57–58 on 3 Oct.). Nassidae, Turbellinellidae, Volutidae, Mitridae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 4: 1–276, pls 1–58.

Tryon, G.W. 1882 (1–64, pls 2–14 on 21 Dec.)–1883 (65–128, pls 1, 15–48 on 26 Mar.; 129–192, pls 49–61 on 18 Jul.; 193–276, pls 62–63 on 18 Oct.). Marginellidae, Olividae [including Harpinae], Columbidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 5: 1–276, pls 42–63.

Tryon, G.W. 1884 (151–214 and pls 1–15 on 10 Jun.; 193–413 and pls 16–34 on 2 Oct.). Family Pleurotomidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 6: 151–413, pls 1–34.

Tryon, G.W. 1885a (12 Jan.). Terebridae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 7: 1–64, pls 1–12.

Tryon, G.W. 1885b (20 Apr.). Family Cancellariidae; Family Strombidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 7: 65–98, pls 1–7; 99–152, pls 1–12.

Tryon, G.W. 1886 (1–64 and pls 1–27 on 23 Jan.; 65–128 and pls 28–37 on 3 May; 129–192 and pls 38–58 on 28 Jul.; 193–461 and pls 59–79 on 24 Nov.). Naticidae, Calyptraeidae, Turbellinellidae, Vermetidae, Caecidae, Eulimidae, Turbellinellidae, Pyramidellidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 8: 1–461, pls 1–79.

Tryon, G.W. 1887 (1–64 and pls 1–13 on 7 Feb.; 65–128 and pls 14–21 on 8 Jun.; 129–224 and pls 22–39 on 2 Sept.; 225–488 and pls 40–71 on 10 Dec.). Solariidae, Ianthinidae, Trichotropidae, Sculariidae, Cerithiidae, Rissoidae, Littorinidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 9: 1–488, pls 1–71.

Tryon, G.W. 1888 (1–64, and pls 1–20 on 16 Mar. 1888; 65–144 and pls 21–36 on 1 Jul. 1888; 145–160 and pls 37–39 on 1 Oct. 1888). Monographs of the families Neritidae, Neritopsidae, Adeorbidae, Cyclostrematidae, and Liotiidae. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 1*, 10: 1–160, pls 1–39.

Tryon, G.W. & Pilsbry, H.A. 1888 (1–64 and pls 1–14 on 16 Mar. by Tryon; 65–120 and pls 15–16 on 1 Jul. by Tryon; 121–128 and pls 17–32 on 1 Jul. by Pilsbry; 129–192 and pls 33–44 on 1 Oct. by Pilsbry), 1889 (193–296 and pls 45–69 on 3 Jan. by Pilsbry). Family Helicidae, Vol. II. *Manual of conchology; structural and systematic, with illustrations of the species, Ser. 2*, 4: 1–296, pls 1–69.

齐钟彦・马绣同 1980 (May). 中国近海冠螺科的研究. *海洋科学集刊*, (16): 83–96, pls 1–3. [Tsi, C. & Ma, S. 1980. Étude sur les espèces des Cassidae de la Chine. *Studia Marina Sinica*, (16): 83–96, pls 1–3. (in Chinese with French résumé)]

土田英治 1990. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (1) 原始腹足目と中腹足目. *大槌臨海研究センター報告*, (16): 1–26.

土田英治 1991. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (2) 新腹足目. *大槌臨海研究センター報告*, (17): 1–27.

土田英治 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).

土田英治 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

土田英治・長谷川和範 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).

- 土田英治・堀 成夫 1992. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (3) 異腹足目, 後鰓亜綱と掘足綱. *大槌臨海研究センター報告*, (18): 1–23.
- 土田英治・堀 成夫・三時輝久 1991 (Mar.). 山口県産貝類の研究—4. 周防灘・伊予灘からドレッジで採集された貝類. *山口県立山口博物館研究報告*, (17): 41–58.
- 土田英治・久保弘文 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 土田英治・黒住耐二 1995. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (5) 二枚貝綱—2. *東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター研究報告*, (20): 13–42.
- 土田英治・黒住耐二 1996. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (6) 二枚貝綱—3. *東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター研究報告*, (21): 1–31.
- 土田英治・鹿野康裕・堀 成夫・三時輝久 1991 (Mar.). 山口県産貝類の研究—3. 河本コレクションにおける注目すべき貝類の再検討 (2) 腹足類・斧足類. *山口県立山口博物館研究報告*, (17): 1–40.
- 土屋光太郎 2000 → 奥谷喬司 (編) 2000 (20 Dec.).
- 土屋光太郎 2017 → 奥谷喬司 (編) 2017 (30 Jan.).
- 土屋光太郎・竹山佳奈 2011 (15 Feb.). サキグロタマツメタの解剖. In 大越健嗣・大越和加 (編), *海のブラックバス サキグロタマツメタ. 外来生物の生物学と水産学* 35–44. 恒星社厚生閣, 東京.
- 塚本義光 1932 (8 Dec.). イシワリ *Lithophaga curta* (Lischke) に就て. *貝類研究雑誌* ヴキナス, **3**: 260–264.
- Tudu, P.C., Yennawar, P., Ghorai, N., Tripathy, B. & Mohapatra, A. 2018 (Aug.). An updated checklist of marine and estuarine mollusc of Odisha coast. *Indian Journal of Geo Marine Sciences*, **47**: 1537–1560.
- Turton, W.H. 1932. *The marine shells of Port Alfred, S. Africa*. Humphrey Milford, London.
- 内野 透 2014 (15 Sept.). 岡山県水島灘におけるヒメエガイの再発見. *ちりぼたん*, **45**: 36–39.
- 内野 透・岸野 底 2012 (Dec.). 琵琶湖集水域におけるシジミ属の分布状況. *Molluscan Diversity*, **3**: 64–79.
- 内山柳太郎 1902 (27 Dec.). 日本産貝類圖説 NATICIDAE 玉貝族 [3]. *動物學雜誌*, **14**: 429–430, pl. 27.
- Ueshima, R. 1995 (31 Jul.). Taxonomic position of “*Trochochlamys*” *praealta* (Pilsbry, 1902) (Pulmonata: Helicarionidae). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **54**: 113–122.
- 上島 励 2014 → 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2014 (Sept.).
- 上島 励 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- Ueshima, R. & Asami, T. 2003 (16 Oct.). Single-gene speciation by left-right reversal. *Nature*, **425**: 679. <https://doi.org/10.1038/425679a>
- 上島 励・久保弘文 2017 → 沖縄県環境部自然保護課 (編) 2017 (Mar.).
- 氏家宗二・水谷英志 1994 (Oct.). 琵琶湖産と霞ヶ浦産イケチウマガイの形態と成長の比較. *滋賀県水産試験場事業報告*, 平成5年度: 34–35.
- Ujino, S. & Matsukuma, A. 2013 (31 Oct.). Taxonomic revision of *Serratina capsoides* (Lamarck, 1818) (Bivalvia: Tellinidae), an endangered species in Japan. *Venus*, **71**: 175–189.
- uni2 2019. 淡路島の生き物たち3 兵庫県淡路島の生物図鑑 [2019年8月21日閲覧]. <http://uni2008.web.fc2.com/htm/umikai.maki4.html>
<http://uni2008.web.fc2.com/htm/umikai.nimai2.html>
<http://uni2008.web.fc2.com/htm/umikai.nimai6.html>
- 宇野 明・谷岡 浩 2012 (30 Mar.). オオゴマガイ. In 鳥取県生物学会 (編), *レッドデータブックとっとり 改訂版 —鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物—*, 148. 鳥取県生活環境部公園自然課, 鳥取. <https://www.pref.tottori.lg.jp/192848.htm>
- 魚住賢司 1998 (31 Mar.). *福岡町史 自然編 II 福岡町の貝類*. 福岡町, 福岡.
- Valentich-Scott, P. 2003 (Jan.). A taxonomic, distributional and bibliographic checklist of Hong Kong bivalve molluscs and research published on them from 1971–2000. In Morton, B. (Ed.), *Perspectives on marine environment change in Hong Kong and southern China, 1977–2001. Proceedings of an International Workshop Reunion Conference, Hong Kong 21–26 October 2001*, 259–310. University of Hong Kong Press, Hong Kong.
- Valentich-Scott, P. & Tongkerd, P. 2008 (15 Aug.). Coral-boring bivalve molluscs of southeastern Thailand, with the description of a new species. *The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement*, (18): 191–216.
- Van Bocxlaer, B. & Strong, E.E. 2016 (15 Jun.). Anatomy, functional morphology, evolutionary ecology and systematics of the invasive gastropod *Cipangopaludina japonica* (Viviparidae: Bellamyinae). *Contributions to Zoology*, **85**: 235–263.
- van der Bijl, A.N. & Moolenbeek, R.G. 1993 (Nov.). Von Siebold en zijn malacologische eponiemen. *Correspondentieblad van de Nederlandse Malacologische Vereniging*, **275**: 156–161.
- Van Gemert, L. 2007 (Apr.). *Cucurbitula cymbium* (Spengler, 1783) (Bivalvia: Gastrochaenidae), soms een toevallige schelpenverzamelaar. *De Kreukel*, **43**: 41–45. [van Gemert, L. 2007. *Cucurbitula cymbium* (Spengler, 1783) (Bivalvia: Gastrochaenidae), sometimes an accidental shell-collector. *De Kreukel*, **43**: 41–45. (In Dutch with English abstract)]
- Vermeij, G.J. 2006 (Feb.). The *Cantharus* group of pisanine buccinid gastropods: review of the Oligocene to Recent genera and description of some new species of *Gemophos* and *Hesperisternia*. *Cainozoic Research*, **4**: 71–96.
- Vinarski, M.V. 2016 (7 Mar.). Eduard von Martens’s contribution to the knowledge of the Russian continental malacofauna (with examination of type materials of aquatic species accepted by Russian taxonomists). *Ruthenica*, **26**: 1–16.
- Vinarski, M.V. & Kantor, Y.I. 2016. *Analytical catalogue of fresh and brackish water molluscs of Russia and adjacent countries*. KNK Scientific Press, Moscow.

軟体動物

- Vos, C. 2007. *A conchological iconography. The family Tonnidae*. ConchBooks, Hackenheim.
- Vos, C. 2013 (13 Jan.). Overview of the Tonnidae (Mollusca: Gastropoda) in Chinese waters. *Gloria Maris*, **52**: 22–53.
- 和田太一 2013 (29 Mar.). 徳島県吉野川の干潟で記録された底生生物相と河口域の生物多様性の保全. *徳島県立博物館研究報告*, (23): 87–111.
- Wakiya, Y. 1929 (20 Aug.). Japanese food oysters. *Japanese Journal of Zoology; Transactions and Abstracts (Nihon Dôbutsugaku Shûhō)*, **2**: 359–367, pls 8–10.
- Walker, B. 1919 (17 Mar.). A new species of *Camptoceras*. *Occasional Papers of the Museum of Zoology, University of Michigan*, (64): 1–6, pl. 1.
- Wang, H., Guo, X., Zhang, G. & Zhang, F. 2004 (20 Dec.). Classification of jinjiang oysters *Crassostrea rivularis* (Gould, 1861) from China, based on morphology and phylogenetic analysis. *Aquaculture*, **242**: 137–155.
- 王海艳・张涛・马培振・蔡蕾・张振 2016 (Jun.). 中国北部湾潮间带现生贝类图鉴. 科学出版社, 北京. [Wang, H., Zhang, T., Ma, P., Cai, L. & Zhang, Z. 2016. *Mollusks of the intertidal zone of Beibu Gulf, China*. China Science Publishing & Media Ltd., Beijing. (in Chinese with English title)]
- 王祯瑞 (Wang, Z.) 1983 (Jun. “May”). 西沙群岛贻贝科的研究. *海洋科学集刊*, (20): 213–221, pl. 1. [Wang, Z. 1983. Studies on the Mytilidae of the Xisha Islands, Guangdong Province, China. *Studia Marina Sinica*, (20): 213–221, pl. 1. (in Chinese with English title and summary)]
- Wang, Z. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- 渡部 晟 2019 (Feb.). 男鹿半島船越海岸でフデガイ (腹足類・フデガイ科) を採集. *秋田自然史研究*, (75): 18–19.
- 渡辺富夫 1988 (Mar.). 海産貝類. In 渡辺富夫・成毛光之, 銚子現生貝類目録. 銚子・自然を楽しむ会会報, (4): 1–96, 107–136 (including pls 1–15).
- 渡邊 剛 2009. カワシシジュガイによる河川環境評価法を利用した100年間の環境変動要因の抽出. 平成22年度河川整備基金助成事業報告書. <http://public-report.kasen.or.jp/221215004.pdf>
- Watson, R.B. 1885–1886. Report on the Scaphopoda and Gasteropoda collected by H.M.S. Challenger during the years 1873–76. In Murray, J. (Ed.), *Report on the scientific results of the voyage of H.M.S. Challenger during the years 1873–76 under the command of Captain George S. Nares, R.N., F.R.S. and the late Captain Frank Tourle Thomson, R.N. Zoology*, vol. 15, i–viii, 1–608 (1885), 609–756 (1886), pls 1–50, i–iii. Neill, Edinburgh.
- Watters, G.T. 1997 (14 Apr.). A synthesis and review of the expanding range of the Asian freshwater mussel *Anodonta woodiana* (Lea, 1834) (Bivalvia: Unionidae). *The Veliger*, **40**: 152–156.
- Weinkauff, H.C. & Kobelt, W. 1875–1887. Die Familie Pleurotomidae. Erste Abtheilung. In Küster, H.C. & Kobelt, W. (Eds), *Systematisches Conchylien-Cabinet von Martini und Chemnitz, Vierten (4) Bandes, Dritte (3) Abtheilung*, 1–248, pls A, 1–42. Verlag von Bauer & Raspe, Nürnberg (pp. 1–48 and pls A, 1–11 in 1875, pp. 49–136 and pls 12–30 in 1876, pp. 137–184 and pls 31–36 in 1886, pp. 185–248 and pls 37–42 in 1887; Weinkauff in 1875–1876, Kobelt in 1886–1887; according to Coan & Kabat, 2015: 39).
- Westerlund, C.A. 1883. Von der Vega-Expedition in Asien gesammelte Binnenmollusken. *Nachrichtenblatt der Deutschen Malakozoologischen Gesellschaft*, **15**: 48–59.
- Westerlund, C.A. 1885. Land- och Sötvatten-Mollusker, insamlade under Vega-Expeditionen af O. Nordqvist och A. Stuxberg. In Nordenskiöld, Å.E. (Ed.), *Vega-Expeditionen vetenskapliga iakttagelser bearbetade af deltagare i resan och andra forskare*, Fjerde bandet (vol. 4), 141–220, pls 1–5. F. & G. Beijers förlag, Stockholm.
- White, T.R. & Dayrat, B. 2012 (5 Nov.). Checklist of genus- and species-group names of the false limpets *Siphonaria* (Mollusca: Gastropoda: Euthyneura). *Zootaxa*, **3538**: 54–78.
- Willan, R.C. 1993 (1 Oct.). Taxonomic revision of the family Psammobiidae (Bivalvia: Tellinoidea) in the Australian and New Zealand region. *Records of the Australian Museum, Supplement 18*: 1–132.
- Willan, R.C., Liu, L.-L. & Chiu, Y.-W. 2007 (Dec.). Review of Recent Psammobiidae (Bivalvia: Tellinoidea) from Taiwan. *Journal of the Fisheries Society of Taiwan*, **34**: 397–412.
- Willan, R.C. & Tagaro, S.P. 2011 → Poppe, G.T. (Ed.) 2008–2017.
- Williams, E.H. Jr. & Williams, L.B. 1986 (31 Oct.). The first association of an adult mollusk (Nudibranchia: Doridae [sic]) and a fish (Perciformes: Gobiidae). *Venus, the Japanese Journal of Malacology*, **45**: 210–211.
- Wilson, B. 1993. *Australian marine shells. Volume 1, prosobranch gastropods. Part 1*. Odyssey Publishing, Kallaroo.
- Wilson, B. 1994. *Australian marine shells. Prosobranch gastropods. Part 2 (Neogastropods)*. Odyssey Publishing, Kallaroo.
- WoRMS Editorial Board 2018, 2019, 2020. *World register of marine species*. <http://www.marinespecies.org>
- 徐凤山 1997 (Mar.). 中国海双壳类软体动物. 科学出版社, 北京. [Xu, F. 1997. *Bivalve Mollusca of China Seas*. Science Press, Beijing. (in Chinese with English title)]
- Xu, F. 2004 → Qi, Z. (Ed.) 2004.
- 徐凤山・张素萍 2008 (May). 中国海産双壳类图鉴. 科学出版社, 北京. [Xu, F. & Zhang, S. 2008. *An illustrated Bivalvia Mollusca fauna of China Seas*. China Science Publishing & Media Ltd., Beijing. (in Chinese with English title)]
- Yabe, H. & Nomura, S. 1925. Notes on the Recent and Tertiary species of *Thyasira* from Japan. *Science Reports of the Tohoku Imperial University, 2nd Series, Geology*, **7**: 83–95, pls 13–24.
- 矢倉和二郎 (浦田) 1922 (15 Dec.). 趣味研究 介類叢話. 舞子介類館, [垂水 (現・神戸市垂水区)].
- 矢倉和二郎 1932 (9 Aug.). 増訂改版 兵庫縣産貝類目録. 甲南貝類荘, 西宮.
- 山田浩二 2009 (30 Jan.). 泉州生きもの歳時記 二色の浜のウミウシ. *自然遊学館だより*, (50): 13–17.
- 山田浩二・和田太一 2018 (31 Dec.). 二色の浜のアマモ場の生物調査 (2015年). *貝塚の自然*, **19**: 35–38.

- Yamada, M., Ishibashi, R., Toyoda, K., Kawamura, K. & Komaru, A. 2014 (1 Mar.). Phylogeography of the brackish water clam *Corbicula japonica* Around the Japanese Archipelago inferred from mitochondrial COII gene sequences. *Zoological Science*, **31**: 168–179.
- 山口隆男・波部忠重・菊池泰二 1987. オランダ国立自然史博物館に保存されているシーボルト収集の軟体動物標本類の調査研究. In 山口隆男 (編), フォン・シーボルトと日本の自然史 (博物学) 研究 I. オランダに保存されている知られざるシーボルト収集動物標本類について, 43–78. 熊本大学, 熊本.
- Yamamoto, G. & Habe, T. 1959. Fauna of shell-bearing mollusks in Mutsu Bay. Lamellibranchia (2). *The Bulletin of the Marine Biological Station of Asamushi*, **9**: 85–122, pls 6–14.
- Yamamoto, G. & Habe, T. 1962. Fauna of shell-bearing mollusks in Mutsu Bay. Scaphopoda and Gastropoda (1). *The Bulletin of the Marine Biological Station of Asamushi*, **11**: 1–20, pls 1–3.
- 山下博由 1996 (Oct.). *Terebra pumilio* (E.A. Smith, 1873) スクナビコナトクサガイ (新称) の再発見 (新腹足目: タケノコガイ科). *The Yuriyagai*, **4**: 61–64.
- 山下博由 2003 (31 Mar.). 多摩川氾濫源の陸産貝類相. In 黒住耐二 (編), 多摩川水系の貝類からみた自然環境の現状把握と保全に関する研究 (財) とうきゅう環境浄化財団 研究助成・学術研究, **31**(226), 13–33. とうきゅう環境浄化財団, 東京.
- 山下博由 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- 山下博由・木村昭一 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- 山下博由・久保弘文 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- 山下博由・黒住耐二・岡本正豊・佐藤慎一 2014 (31 Mar.). 日本産サキグロタマツメタの記録 —有明海・瀬戸内海に在来個体群は存在したか?—. *Venus*, **72**: 150–151.
- 山下博由・栗原康裕 2012 → 日本ベントス学会 (編) 2012 (20 Jul.).
- Yamashita, H., Okamoto, M., Harato, M. & Fukuda, H. 1997 (24 Dec.). The present status and conservation values of endangered mollusks in tidal flats and estuaries of Japan — 1. *Tellina* (*Serratina*) *capsoides* (Bivalvia: Veneroidea: Tellinidae). *The Yuriyagai*, **5**: 101–115.
- 山下幸一・波部忠重 1994 (30 Jun.). カワコザラガイの学名命名者. *ちりぼたん*, **24**: 98–99.
- Yamazaki, D., Hirano, T., Uchida, S., Miura, O. & Chiba, S. 2018 (online 29 Nov.; print Feb. 2019). Relationship between contrasting morphotypes and the phylogeny of the marine gastropod genus *Tegula* (Vetigastropoda: Tegulidae) in East Asia. *Journal of Molluscan Studies*, **85**: 24–34.
- 杨文・蔡英亚・邝雪梅 2013 (Jan.). 中国南海经济贝类原色图谱. 中国农业出版社, 北京. [Yang, W., Cai, Y. & Kuang, X. 2013. *Color atlas of economic Mollusca from the South China Sea*. China Agriculture Press, Beijing. (in Chinese with English title)]
- 矢野重文 1979. 児島湾採集記. *いそごじき*, (35): 1–3.
- 矢野重文 1990 (30 Nov.). 香川県小豆島・豊島の陸産貝類目録 I. *南紀生物*, **32**: 81–88.
- 矢野重文 2001 (21 Jul.). 香川県産ヒラマキガイ属貝類の分類について. *まいご*, (9): 11–14.
- 矢野重文 2005 (18 Jun.). イソムラマイマイとマヤサンマイマイ. *まいご*, (13): 26–30.
- 矢野重文 2007. 香川県の陸産貝類. In 香川県高等学校生物・地学部会 (編), *香川の生物 (平成19年度 日本生物教育会第62回全国大会 香川大会記念誌)*, 163–178. 香川県高等学校生物・地学部会, 高松.
- 矢野重文 2011 (21 Mar.). ミヤマシオイガイについて. *まいご*, (18): 28–34.
- 矢野重文 2015 (18 Apr.). 種の考察, 分布図からのアプローチ. *まいご*, (22): 21–31.
- 矢野重文 2016 (8 May). 中国地方に生息する大型のゴマガイ類について. *まいご*, (23): 22–28.
- 矢野重文 2019a (Mar.). ツシマナガキビ (p. 473), オオウエゴマガイ (480), ダイオウゴマガイ (497), ヒメヒラマキミズマイマイ (500). In 山口県野生生物保全対策検討委員会 (編), *レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物*. 山口県環境生活部自然保護課, 山口. <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/5/b/7/5b71724c07d0a648ba395e013278b164.pdf>
- 矢野重文 2019b (21 Apr.). 広島県西部の中津谷川流域で採集した陸産貝類. *まいご*, (26): 13–17.
- 野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所 2018. 日本のレッドデータ検索システム. [2019年6月10日閲覧] <http://jpnrd.com/index.html>
- Yen, T.-C. 1939. Die chinesischen land- und süßwasser-gastropoden des Natur-Museums Senckenberg. *Abhandlungen der Senckenbergischen Naturforschenden Gesellschaft*, **444**: 1–234, pls 1–16.
- Yen, T.-C. 1942 (23 Jan.). A review of Chinese gastropods in the British Museum. *Proceedings of the Malacological Society of London*, **24**: 170–289, pls 11–28.
- Yen, T.-C. 1944. Notes on some unfigured type-specimens of Chinese mollusks from the North Pacific Expedition. *Proceedings of the California Academy of Sciences*, Fourth series, **23**: 561–586, pls 50–51.
- 横川浩治 1997a–b (31 Dec.). ヤミノニシキガイ 2型の特徴 — 1. 殻の形態; 2. 軟体部の形態とその季節変動. *貝類学雑誌*, **56**: 319–329; 331–339.
- 横川浩治 1998a–b (31 Mar.). ヤミノニシキガイ 2型の特徴 — 3. 年齢と成長; 4. 遺伝形質. *貝類学雑誌*, **57**: 49–56; 57–71.
- Yokogawa, K. & Nakao, K. 2007 (28 Feb.). Phylogeny of the genus *Volachlamys* (Bivalvia: Pectinidae) from Japan. *Venus*, **65**: 299–317.
- Yokoyama, M. 1920 (22 Mar.). Fossils from the Miura Peninsula and its immediate north. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tōkyō*, **39**(Art. 6): 1–193, pls 1–20.
- Yokoyama, M. 1922 (7 Jul.). Fossils from the Upper Musashino of Kazusa and Shimosa. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tōkyō*, **44**(Art. 1): 1–200, i–

軟体動物

viii, pls 1–17.

Yokoyama, M. 1924 (3 Oct.). Mollusca from the Coral=Bed of Awa. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tōkyō*, **45**(Art. 1): 1–62, i–iii, pls 1–54.

Yokoyama, M. 1926a (18 Sept.). Fossil shells from Sado. *Journal of the Faculty of Science, Imperial University of Tōkyō, Section II, Geology, Mineralogy, Geography, Seismology*, **1**(8): 249–312, pls 32–37.

Yokoyama, M. 1926b (24 Dec.). Fossil shells from the Atsumi Peninsula, Mikawa. *Journal of the Faculty of Science, Imperial University of Tōkyō, Section II, Geology, Mineralogy, Geography, Seismology*, **1**(9): 369–375, pl. 43.

Yokoyama, M. 1926c (24 Dec.). Fossil Mollusca from the oil-fields of Akita. *Journal of the Faculty of Science, Imperial University of Tōkyō, Section II, Geology, Mineralogy, Geography, Seismology*, **1**(9): 377–389, pls 44–45.

Yokoyama, M. 1927a (30 May). Mollusca from the Upper Musashino of Tokyo and its suburbs. *Journal of the Faculty of Science, Imperial University of Tōkyō, Section II, Geology, Mineralogy, Geography, Seismology*, **1**(10): 391–437, pls 46–50.

Yokoyama, M. 1927b (30 May). Mollusca from the Upper Musashino of western Shimoso and southern Musashi. *Journal of the Faculty of Science, Imperial University of Tokyo, Section II, Geology, Mineralogy, Geography, Seismology*, **1**(10): 439–457, pls 51–52.

Yokoyama, M. 1928a (Jul.). Mollusca from the oil-field of the island of Taiwan. *Imperial Geological Survey of Japan, Report*, (101): 1–112 (English), 1–12 (Japanese), pls 1–18.

Yokoyama, M. 1928b (Jul.). Semi-fossil shells from Noto. *Imperial Geological Survey of Japan, Report*, (101): 113–128 (English), 13–17 (Japanese), pls 19–21.

Yokoyama, M. 1929 (5 Dec.). Pliocene shells from Tōnohama, Tosa. *Imperial Geological Survey of Japan, Report*, (104): 9–17 (English), 3–6 (Japanese), pls 7–8.

横山又次郎 1931 (27 Mar.). *日本産介殻目録*. 東京地學協會, 東京.

吉田幸雄 1977 (5 Apr.). *図説人体寄生虫学*. 南山堂, 東京.

吉村永治 1930 (30 May). 能登産イトカケガヒ科 Eptoniidae に就きて. *貝類研究雑誌ヴェナス*, **2**: 13–17.

吉本宗央 1995 (Mar.). アゲマキガイ. In 水産庁 (編), *日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 II*, 60–65. 日本水産資源保護協会, 東京.

吉岡 寛 2000. 木古内の磯の動物 (II) (軟体動物・環形動物・節足動物・星口動物・触手動物・棘皮動物・原索動物). *生物教材* (北海道教育大学 生物教育 尻岸内臨海実験所), (35): 27–48.

吉原重康 1902 (15 Jun.). 日本産介類圖説 (辨鰓類二). *動物學雜誌*, **14**: 208–212, pls 3–4.

Yoshizaki, H., Fukuda, H. & Mitoki, T. 1997 (24 Dec.). A taxonomic revision of the genus *Japanonoba* Habe & Ando, 1987 (Caenogastropoda: Vanikoridae). *The Yuriyagai*, **5**: 43–52.

榎 影矩 1977 (30 Sept.). 比和町の陸貝 (予報). In 比和町立自然史博物館 (編), *比和の自然 比和を中心とした中国山地の総合学術調査報告*, 221–232. 比和町郷土史研究会, 比和.

Zatravkin, M.N. & Bogatov, V.V. 1987. *Large bivalve molluscs in fresh and brackish waters of the Far East of the USSR: An identification guide*. [in Russian]. Far Eastern Branch of the USSR Academy of Sciences, Vladivostok.

Zenetos, A. & Ovalis, P. 2014. Alien Mollusca in the Levantine Sea: an update. Occurrence of *Ervilia scaliola* Issel, 1869 along the Levantine coast of Turkey. *Cahiers de Biologie Marine*, **55**: 507–510.

Zhadin, V.F. 1938. Unionidae [in Russian]. *Faune de l'URSS, New Series*, **4**: 1–170. [Not seen]

張福綏 1965 (Aug.). 中国近海骨螺的研究 I. 骨螺属, 翼螺属及棘螺属. *海洋科学集刊*, (8): 11–24, pls 1–2. [Zhang, F.-S. 1965. Studies on the species of Muricidae off the China coasts I. *Murex*, *Pterynotus* and *Chicoreus*. *Studia Marina Sinica*, (8): 11–24, pls 1–2. (in Chinese with English title and abstract)]

Zhang, J.L., Xu, F.S. & Liu, R.Y. 2012 (10 Jul.). The Myidae (Mollusca, Bivalvia) from Chinese waters with description of a new species. *Zootaxa*, **3383**: 39–60.

Zhang, L.J., Chen, S.C., Yang, L.T., Jin, L. & Köhler, F. 2015 (online 21 Jul.; printed Aug.). Systematic revision of the freshwater snail *Margarya* Nevill, 1877 (Mollusca: Viviparidae) endemic to the ancient lakes of Yunnan, China, with description of new taxa. *Zoological Journal of the Linnean Society*, **174**: 760–800.

张素萍 2008 (Jun.). *中国海洋贝类图鉴*. 海洋出版社, 北京. [Zhang, Su. 2008. *Atlas of marine mollusks in China*. Ocean Press, Beijing. (in Chinese with English title)]

Zhang, Su. & Zhang, Sh. 2015. *Types of marine gastropods deposited in the Marine Biological Museum, Chinese Academy of Sciences*. 中国科学院海洋生物标本馆藏海产腹足纲模式标本. 中国科学院海洋生物标本馆, 青岛. https://www.researchgate.net/publication/303724174_Types_of_marine_gastropods_deposited_in_the_Marine_Biological_Museum_Chinese_Academy_of_Sciences

张永善·周化斌·龙仲杰 2012 (Jun.). *浙江洞头海产贝类图志*. 海洋出版社, 北京. [Zhang, Y., Zhou, H. & You, Z. 2012. *Zhejiang dongtou haichan beilei tuzhi* [Atlas of marine molluscs of Dongtou District, Zhejiang Province]. Ocean Press, Beijing. (in Chinese)]

郑小东·曲学存·曾晓起·李琪 2013 (Jul.). *中国水生贝类图谱*. 青岛出版社, 青岛. [Zheng, X., Qu, X., Zeng, X. & Li, Q. 2013. *Atlas of aquatic molluscs in China*. Qingdao Publishing House, Qingdao. (in Chinese with English title)]

庄启谦 1983 (Jan.). 双壳类蛤蜊科两新种. *海洋与湖沼*, **14**: 88–91. [Zhuang, Q. 1983. Two new species of Mactridae (Mollusca Bivalvia) off the Chinese coast. *Oceanologia et Limnologia Sinica*, **14**: 88–91. (in Chinese with English title and abstract)]

庄启谦 2001 (Feb.). *中国动物志 软体动物·门双壳纲·帘蛤科*. 科学出版社, 北京.

Zieritz, A., Bogan, A.E., Froufe, E., Klisshko, O., Kondo, T., Kovitvadhi, U., Kovitvadhi, S., Lee, J.H., Lopes-Lima, M., Pfeiffer, J.M., Sousa, R., Do, V.T., Vikhrev, I., Zanatta, D.T. 2018 (online 6 Feb.; printed Mar.). Diversity, biogeography and conservation of freshwater mussels (Bivalvia: Unionida) in East and Southeast Asia. *Hydrobiologia*, **810**: 29–44.

Zilch, A. 1954 (15 Apr.). Die Typen und Typoide des Natur-Museums Senckenberg, 12: Mollusca, Clausiliidae (1), Phaedusinae, Neniinae. *Archiv für Molluskenkunde*, **83**: 1–63,

pls 1-4.

Zorina, I.P. 1978. New species of bivalve molluscs (Bivalvia) of the Gulf of Tonkin (South China Sea). *Trudy-Zoologicheskogo Instituta Akademiyi Nauk SSSR*, **61**: 193-203. (in Russian)